五代竹花遺跡
五代木福Ⅰ遺跡
五代伊勢宮Ⅰ遺跡

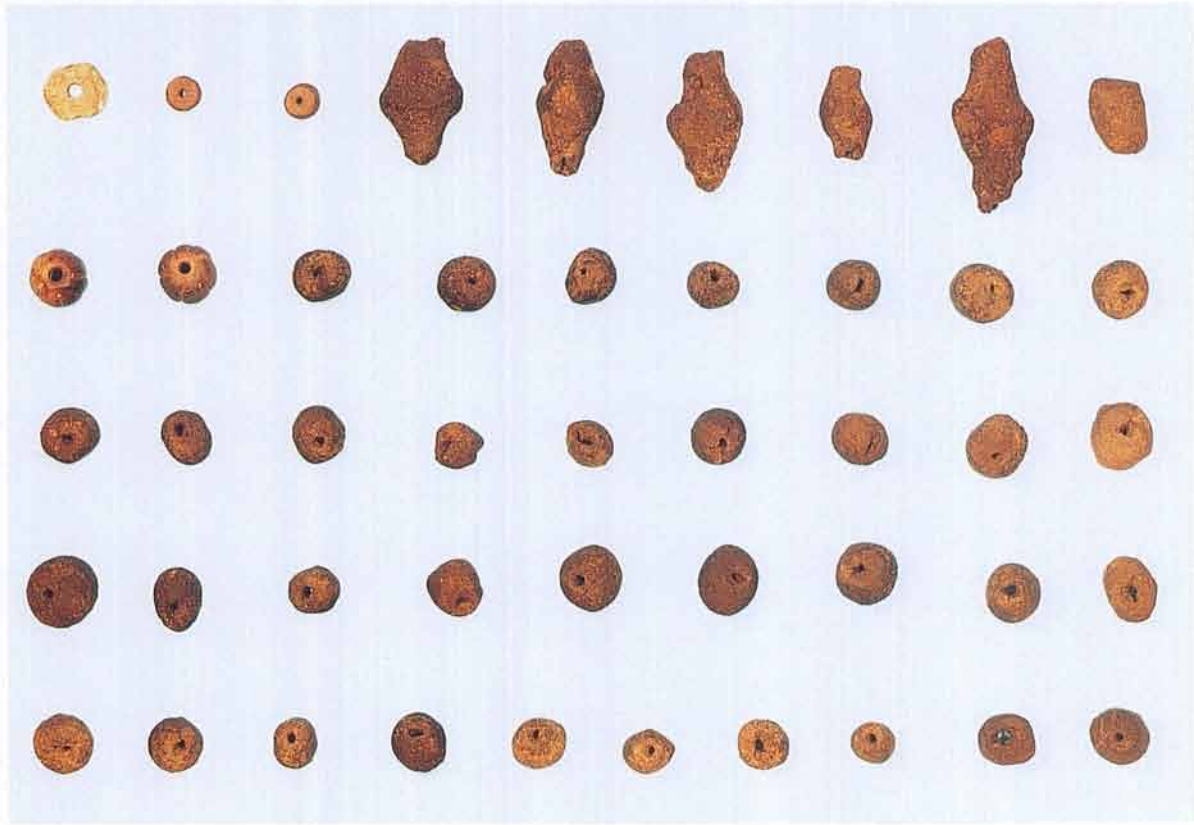
五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

巻頭写真

五代竹花遺跡Ｊ－１号住居跡出土縄文土器



五代竹花遺跡Ｈ－８号住居跡出土玉類

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋市は古代より豊かな文化あふれる地であり、東日本でも優れた内容を示しています。今から２万８千年前の旧石器を始めとして、８基を数える国史跡の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの、近代化遺産など多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代の人々が生活した跡が市内ほぼ全域に残されています。古代の人々が暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具や、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

五代南部工業団地及び住宅団地が建設されようとしている五代町周辺は赤城山南麓の自然に恵まれた地であり、周辺では縄文時代からの人々の生活の跡が残されています。北に接して芳賀東部団地遺跡があり、大規模な集落が形成されている地区にあたります。

本年度調査の五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡では、事業実施に先立ち地区全域の試掘調査を行い、その後発掘調査を実施いたしました。

発掘調査により縄文時代及び古墳時代から平安時代の住居跡、中世の地下式坑など多くの遺構と遺物を検出し、地区の歴史解明に重要な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力いただきました市工業課、前橋工業団地造成組合、地元関係者、厳冬の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成13年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　阿　部　明　雄

例　　言

1．本書は、五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　阿部明雄）が主体となって実施し、調査実務は委託を受けた山武考古学研究所が行った。調査担当者は同研究所員・長井正欣、半澤利枝である。

3．発掘調査及び整理・報告書作成は、平成12年９月１日～平成13年３月16日の期間で実施した。

4．遺跡は群馬県前橋市五代町内に所在し、各遺跡の遺跡コード・面積は下記の通りである。

五代竹花遺跡……遺跡コード：12C22　面積：4,880㎡

五代木福Ⅰ遺跡……遺跡コード：12C23　面積：11,785㎡

五代伊勢宮Ⅰ遺跡……遺跡コード：12C26　面積：3,800㎡

5．本書の編集実務は山武考古学研究所が行い、同研究所員・長井正欣が担当した。執筆は、序章Ⅰを齊木一敏（前橋市教育委員会）、付章を（株）古環境研究所、その他を長井が行った。

6．調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。

7．発掘調査・整理作業に携わった方々は下記の通りである。

天野晴治　石田貴弘　磯洋子　糸井重信　今成勝子　宇田有紀　宇津木明子　梅山淳　大久保喜義　大島徳重　荻原末松　落合忠雄　小野沢絹子　金子正男　樺沢美枝　神山祐吉　木下雅文　久家輝夫　小出拓磨　後藤加津枝　後藤貞良　小林恭子　小林光子　小屋千代子　近藤和子　斉藤賢一　白石彰　新保梅男　高田進弘　竹生正明　都丸主女作　根岸栄子　真下もと子　松村タカ子　宮下哲之　茂木美雪　森村修一　渡辺永造　綿貫晃　綿貫瑛一　和南城康夫

凡　　例

1．本書で使用した地形図の発行者・縮尺は各図キャプション脇に示した。

2．遺構挿図の縮尺は、竪穴住居跡・土坑の平面図及び土層図・エレベーション図を1/60縮尺、炉跡・カマド等を1/30縮尺を基本として掲載し、各挿図にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、国家座標値（第Ⅸ系）は各遺跡全体図中に示してある。

3．遺構の規模は基本的に中軸線上で計測し、竪穴住居跡は壁面下端で、土坑は上端での数値である。床面積は原図をもとにデジタルプラニメーターを用いた３回計測平均値である。長(主)軸方位は座標北を基準とした振れを示し、複数のカマドが検出された竪穴住居跡については最も古いと想定されたカマド方向を主軸とした。また、土層図・エレベーション図の基準線数値は標高を示す。

4．古墳時代及び奈良・平安時代等の遺構埋没土中で確認された白色軽石については、現地調査時には榛名山二ツ岳伊香保テフラ（Hr－FP，６世紀中葉降下)と判断していたが、火山灰分析（付章）の結果、同軽石は榛名山二ツ岳渋川テフラ（Hr－FA，以下FAと略，６世紀初頭降下）の可能性が指摘されたことから、本報告書ではFAとして記述することにした。

5．遺物挿図の縮尺は、1/1～1/5の範囲で掲載し、挿図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物挿図とほぼ同縮尺である。遺物観察表計測値で、（　）内数値は推定値、「残」のあるものは残存値である。

6．挿図中に使用したスクリーントーン及びドットは次のような意味を示し、その他必要に応じて挿図中に注釈を提示した。

粘土　　焼土　　灰・黒色処理・施釉

●……土器・土製品　　▲……石器類　　■……鉄製品・金属製品

目　　次

巻頭写真

序

例　　言

凡　　例

序　章

Ⅰ　調査に至る経緯 ……1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 ……3

Ⅲ　基本層序 ……3

Ⅳ　調査の方法と経過 ……4

第１章　五代竹花遺跡

Ⅰ　遺跡の概要 ……5

Ⅱ　竪穴住居跡 ……7

Ⅲ　土坑・井戸・ピット ……13

Ⅳ　溝 ……15

Ⅴ　遺構外出土遺物 ……16

遺物観察表 ……50

第２章　五代木福Ⅰ遺跡

Ⅰ　遺跡の概要 ……57

Ⅱ　竪穴住居跡 ……61

Ⅲ　土坑・井戸・ピット ……79

Ⅳ　溝 ……85

Ⅴ　遺構外出土遺物 ……89

遺物観察表 ……166

第３章　五代伊勢宮Ⅰ遺跡

Ⅰ　遺跡の概要 ……181

Ⅱ　竪穴住居跡 ……183

Ⅲ　土坑・井戸・ピット ……185

Ⅳ　溝 ……186

Ⅴ　遺構外出土遺物 ……187

遺物観察表 ……201

第４章　調査のまとめ ……204

付　章　自然科学分析

五代木福Ⅰ遺跡・五代竹花遺跡の火山灰分析 ……209

写真図版

調査資料の取り扱いについて

抄　　録

挿図目次

序章

Fig. 1　遺跡の位置……1
2　周辺の遺跡……2
3　基本土層図……3

第１章　五代竹花遺跡

Fig. 4　調査区位置図……5
5　五代竹花遺跡全体図……6
6　Ｊ－１号住居跡・Ｊ－２号住居跡 ……17
7　Ｈ－１号住居跡 ……18
8　Ｈ－２号住居跡 ……19
9　Ｈ－３号住居跡① ……20
10　Ｈ－３号住居跡② ……21
11　Ｈ－４号住居跡 ……22
12　Ｈ－５号住居跡 ……23
13　Ｈ－６号住居跡① ……24
14　Ｈ－６号住居跡② ……25
15　Ｈ－７号住居跡 ……26
16　Ｈ－８号住居跡 ……27
17　Ｈ－９号住居跡・Ｈ－10号住居跡 ……28
18　Ｈ－11号住居跡・２号土坑 ……29
19　Ｈ－12号住居跡 ……30
20　Ｈ－13号住居跡・Ｈ－14号住居跡 ……31
21　Ｈ－15号住居跡・Ｈ－16号住居跡 ……32
22　土坑 ……33
23　ピット位置図 ……34
24　溝土層図・エレベーション図 ……35
25　Ｊ－１号・Ｊ－２号住居跡出土遺物 ……36
26　Ｊ－２号住居跡出土遺物 ……37
27　Ｈ－１号・Ｈ－２号住居跡出土遺物 ……38
28　Ｈ－２号・Ｈ－３号住居跡出土遺物 ……39
29　Ｈ－３号・Ｈ－４号住居跡出土遺物 ……40
30　Ｈ－５号・Ｈ－６号住居跡出土遺物 ……41
31　Ｈ－７号・Ｈ－８号住居跡出土遺物 ……42
32　Ｈ－８号住居跡出土遺物 ……43
33　Ｈ－９号・Ｈ－10号住居跡出土遺物 ……44
34　Ｈ－11号・Ｈ－12号住居跡出土遺物 ……45
Fig.35　Ｈ－13号・Ｈ－14号・Ｈ－15号・Ｈ－16号住居跡出土遺物 ……46
36　２号・３号土坑、１号溝出土遺物 ……47
37　遺構外出土遺物① ……48
38　遺構外出土遺物② ……49

第２章　五代木福Ｉ遺跡

Fig.39　調査区位置図 ……57
40　五代木福Ｉ遺跡Ａ区・Ｂ区全体図 ……58
41　五代木福Ｉ遺跡Ｃ区・Ｄ区全体図 ……59
42　Ｊ－１号住居跡 ……90
43　Ｈ－１号住居跡・Ｈ－２号・４号・５号住居跡・10号土坑 ……91
44　Ｈ－３号住居跡・Ｈ－８号住居跡 ……92
45　Ｈ－６号住居跡① ……93
46　Ｈ－６号住居跡②・Ｈ－11号住居跡 ……94
47　Ｈ－７号住居跡・12号土坑 ……95
48　Ｈ－９号住居跡① ……96
49　Ｈ－９号住居跡② ……97
50　Ｈ－10号住居跡 ……98
51　Ｈ－12号住居跡・Ｈ－13号住居跡 ……99
52　Ｈ－14号住居跡……100
53　Ｈ－15号・32号住居跡①……101
54　Ｈ－15号・32号住居跡②・Ｈ－18号住居跡……102
55　Ｈ－16号住居跡……103
56　Ｈ－17号住居跡①……104
57　Ｈ－17号住居跡②……105
58　Ｈ－19号住居跡①……106
59　Ｈ－19号住居跡②・Ｈ－20号住居跡……107
60　Ｈ－21号住居跡……108
61　Ｈ－22号住居跡①……109
62　Ｈ－22号住居跡②・Ｈ－23号住居跡……110
63　Ｈ－24号住居跡①……111
64　Ｈ－24号住居跡②・Ｈ－26号住居跡……112
65　Ｈ－25号住居跡……113
66　Ｈ－27号住居跡……114

Fig.67 H－28号住居跡・H－33号住居跡……115
68 H－29号住居跡……116
69 H－30号住居跡……117
70 H－31号住居跡……118
71 H－34号住居跡・H－35号住居跡……119
72 H－36号住居跡・3号砂鉄ピット……120
73 H－37号住居跡……121
74 H－38号住居跡・15号土坑……122
75 H－39号住居跡……123
76 H－40号住居跡・H－41号住居跡・
H－42号住居跡……124
77 H－43号住居跡……125
78 H－44号住居跡……126
79 H－45号住居跡・18号土坑……127
80 H－46号・47号住居跡①……128
81 H－46号・47号住居跡②……129
82 H－48号住居跡……130
83 H－49号住居跡・H－51号住居跡・
H－54号住居跡……131
84 H－50号住居跡・21号土坑……132
85 H－52号・53号住居跡……133
86 土坑①……134
87 土坑②……135
88 土坑③……136
89 土坑④……137
90 土坑⑤……138
91 土坑⑥・1号・2号砂鉄ピット……139
92 A区・B区ピット位置図……140
93 C区・D区ピット位置図……141
94 溝土層図・エレベーション図①……142
95 溝土層図・エレベーション図②……143
96 J－1号住居跡出土遺物①……144
97 J－1号住居跡出土遺物②……145
98 H－1号・H－2号・H－3号・H－
4号・H－6号・H－7号・H－8号
住居跡出土遺物……146
99 H－9号・H－10号住居跡出土遺物……147
100 H－11号・H－12号・H－13号・H－
14号・H－15号住居跡出土遺物……148
Fig. 101 H－15号・H－16号・H－17号・H－
19号・H－20号住居跡出土遺物……149
102 H－21号・H－22号・H－23号住居跡
出土遺物……150
103 H－24号・H－25号住居跡出土遺物…151
104 H－25号・H－26号・H－27号住居跡
出土遺物……152
105 H－27号・H－28号・H－29号住居跡
出土遺物……153
106 H－29号・H－30号住居跡出土遺物…154
107 H－31号・H－32号・H－33号・H－
34号・H－36号・H－37号・H－39号
住居跡出土遺物……155
108 H－41号・H－42号・H－43号・H－
44号・H－45号住居跡出土遺物……156
109 H－46号・H－47号・H－48号住居跡
出土遺物……157
110 H－48号・H－49号住居跡出土遺物…158
111 H－50号・H－52号・H－53号住居跡
出土遺物……159
112 2号・3号・7号土坑出土遺物……160
113 10号・13号・17号・19号土坑出土遺
物……161
114 19号土坑出土遺物……162
115 19号・22号・23号土坑、6号・10号
・20号溝出土遺物……163
116 遺構外出土遺物①……164
117 遺構外出土遺物②……165

第3章　五代伊勢宮Ⅰ遺跡

Fig. 118 調査区位置図……181
119 五代伊勢宮Ⅰ遺跡全体図、1号溝土
層図・エレベーション図……182
120 H－1号住居跡①……188
121 H－1号住居跡②・H－6号住居跡…189
122 H－2号住居跡①……190
123 H－2号住居跡②・H－4号住居跡…191
124 H－3号住居跡……192

Fig. 125 H－5号住居跡……193
126 土坑……194
127 ピット位置図……195
128 H－1号住居跡出土遺物……196
129 H－1号・H－2号・H－3号住居跡
出土遺物……197
Fig. 130 H－4号・H－5号住居跡出土遺物…198
131 遺構外出土遺物①……199
132 遺構外出土遺物②……200
第4章 調査のまとめ
Fig. 133 調査区位置図……205
134 藤ノ木古墳出土銀製鍍金梔子形空玉…208

表目次

第1章 五代竹花遺跡
Tab. 1 ピット一覧表①……14
2 ピット一覧表②……15
第2章 五代木福Ⅰ遺跡
Tab. 3 ピット一覧表①……84
4 ピット一覧表②……85
第3章 五代伊勢宮Ⅰ遺跡
Tab. 5 ピット一覧表……186
第4章 調査のまとめ
Tab. 6 古墳時代住居跡一覧表……206
7 奈良・平安時代住居跡一覧表……207

写真図版目次

ＰＬ．1 遺跡の位置と周辺の地形
五代竹花遺跡
ＰＬ．2 遺跡遠景 遺跡全景
3 Ｊ－1号住居跡全景
Ｊ－1号住居跡埋設土器
Ｊ－2号住居跡遺物出土状態
Ｊ－2号住居跡炉跡
Ｊ－2号住居跡全景
4 H－1号住居跡全景
H－1号住居跡カマド内遺物出土状態
H－2号住居跡全景
H－2号住居跡掘り方全景
H－2号住居跡カマド
H－2号住居跡カマド袖断ち割り状態
H－3号住居跡遺物出土状態
H－3号住居跡全景
5 H－4号住居跡遺物出土状態近景
H－4号住居跡全景
H－5号住居跡全景
H－5号住居跡棚状施設
H－6号住居跡全景
H－7号住居跡全景
H－8号住居跡土玉出土状態
H－8号住居跡全景
6 H－9号住居跡全景
H－10号住居跡全景
H－11号住居跡全景
H－12号住居跡全景
H－13号住居跡土層
H－13号住居跡全景
H－14号住居跡全景
H－15号住居跡全景
7 H－16号住居跡全景 1号土坑
3号土坑土層 3号土坑
5号土坑 1号溝土層
調査状況 調査状況
8 Ｊ－1号住居跡出土遺物
Ｊ－2号住居跡出土遺物①
9 Ｊ－2号住居跡出土遺物②
10 H－1号住居跡出土遺物

Ｈ－２号住居跡出土遺物①
11 Ｈ－２号住居跡出土遺物②
Ｈ－３号住居跡出土遺物①
12 Ｈ－３号住居跡出土遺物②
13 Ｈ－４号住居跡出土遺物
Ｈ－５号住居跡出土遺物
14 Ｈ－６号住居跡出土遺物
Ｈ－７号住居跡出土遺物
Ｈ－８号住居跡出土遺物①
15 Ｈ－８号住居跡出土遺物②
16 Ｈ－８号住居跡出土遺物③
Ｈ－９号住居跡出土遺物
Ｈ－10号住居跡出土遺物
Ｈ－11号住居跡出土遺物
17 Ｈ－12号住居跡出土遺物
Ｈ－13号住居跡出土遺物
Ｈ－14号住居跡出土遺物
Ｈ－15号・Ｈ－16号住居跡出土遺物
18 ２号土坑出土遺物
３号土坑出土遺物
１号溝出土遺物
遺構外出土遺物①
19 遺構外出土遺物②

五代木福Ｉ遺跡

ＰＬ．20 遺跡遠景　　Ａ区全景
21 Ｂ・Ｃ・Ｄ区全景
22 Ｊ－１号住居跡調査状況
Ｊ－１号住居跡埋設土器①
Ｊ－１号住居跡埋設土器②　　13号土坑
Ｊ－１号住居跡全景
23 Ｈ－１号住居跡全景
Ｈ－２号・５号・４号住居跡全景
Ｈ－３号住居跡全景
Ｈ－３号住居跡カマド
Ｈ－６号住居跡全景
Ｈ－６号住居跡掘り方全景
Ｈ－６号住居跡カマド
Ｈ－６号住居跡カマド左袖部
24 Ｈ－７号住居跡全景
Ｈ－７号住居跡掘り方全景
Ｈ－７号住居跡北側カマド掘り方
Ｈ－８号住居跡全景
Ｈ－９号住居跡全景
25 Ｈ－９号住居跡遺物出土状態近景
Ｈ－９号住居跡カマド
Ｈ－９号住居跡床下土坑遺物出土状態
Ｈ－９号住居跡掘り方全景
Ｈ－10号住居跡全景
Ｈ－10号住居跡カマド
Ｈ－11号住居跡全景
Ｈ－12号住居跡全景
26 Ｈ－13号住居跡全景
Ｈ－14号住居跡全景
Ｈ－15号住居跡全景
Ｈ－15号住居跡掘り方全景
Ｈ－16号住居跡全景
Ｈ－16号住居跡カマド
Ｈ－17号住居跡全景
Ｈ－17号住居跡北側カマド煙道部
27 Ｈ－18号住居跡全景
Ｈ－19号住居跡全景
Ｈ－20号住居跡全景
Ｈ－20号住居跡貼り床
Ｈ－21号住居跡全景
Ｈ－21号住居跡カマド土層
Ｈ－21号住居跡カマド
Ｈ－21号住居跡カマド袖断ち割り状態
28 Ｈ－22号住居跡全景
Ｈ－22号住居跡カマド
Ｈ－23号住居跡全景
Ｈ－23号住居跡カマド
Ｈ－24号住居跡全景
Ｈ－24号住居跡カマド
Ｈ－25号住居跡全景
Ｈ－26号住居跡全景
29 Ｈ－27号住居跡全景

H－28号住居跡全景
H－29号住居跡遺物出土状態近景
H－29号住居跡全景
H－30号住居跡全景
H－30号住居跡カマド
H－31号住居跡炭化材・焼土検出状態
H－31号住居跡全景
30 H－32号住居跡全景
H－33号住居跡全景
H－34号住居跡全景
H－35号住居跡全景
H－36号住居跡全景
H－36号住居跡貯蔵穴粘土塊出土状態
H－36号住居跡カマド
H－36号住居跡カマド袖断ち割り状態
31 H－37号住居跡全景
H－38号住居跡・15号土坑土層
H－38号住居跡全景　15号土坑
H－39号住居跡全景
H－39号住居跡カマド
H－39号住居跡内施設検出状態
H－39号住居跡内施設
32 H－40号住居跡全景
H－41号住居跡全景
H－42号住居跡全景
H－43号住居跡全景
H－43号住居跡出入り口部
H－43号住居跡カマド
H－44号住居跡全景
H－44号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
33 H－45号住居跡炭化材検出状態
H－45号住居跡全景
H－46号住居跡全景
H－47号住居跡全景
H－48号住居跡全景
H－48号住居跡銅鈴出土状態
H－48号・49号住居跡重複状態
H－49号住居跡全景
34 H－50号住居跡柱状粘土出土状態
H－50号住居跡全景
H－51号住居跡カマド端部
H－52号・53号住居跡
H－52号住居跡遺物出土状態近景①
H－52号住居跡遺物出土状態近景②
H－52号住居跡掘り方全景
H－54号住居跡全景
35 1号土坑　9号土坑
10号土坑　11号土坑
12号土坑　16号土坑
18号土坑　21号土坑
36 2号土坑遺物出土状態　2号土坑
3号土坑土層　3号土坑
5号土坑　6号土坑土層
6号土坑　6号土坑
37 7号土坑遺物出土状態　7号土坑
8号土坑　14号土坑
17号土坑　22号土坑古銭出土状態
22号土坑人骨出土状態
23号土坑人骨出土状態
38 19号土坑　19号土坑遺物出土状態近景
19号土坑出入り口部
20号土坑土層　20号土坑
39 1号・2号砂鉄ピット検出状態
1号・2号砂鉄ピット断面
2号溝　4号溝　20号溝
C区基本土層　調査状況　調査状況
40 J－1号住居跡出土遺物①
41 J－1号住居跡出土遺物②
13号土坑出土遺物
42 H－1号・2号・3号・4号住居跡出土遺物
H－6号住居跡出土遺物
H－7号・8号住居跡出土遺物
43 H－9号住居跡出土遺物
44 H－10号住居跡出土遺物
H－11号住居跡出土遺物
H－12号住居跡出土遺物

H－13号住居跡出土遺物
45 H－14号住居跡出土遺物
H－15号住居跡出土遺物
46 H－16号住居跡出土遺物
H－17号住居跡出土遺物
H－19号住居跡出土遺物①
47 H－19号住居跡出土遺物②
H－20号住居跡出土遺物
H－21号住居跡出土遺物
48 H－22号住居跡出土遺物
49 H－23号住居跡出土遺物
H－24号住居跡出土遺物
50 H－25号住居跡出土遺物
51 H－26号住居跡出土遺物
H－27号住居跡出土遺物
52 H－28号住居跡出土遺物
H－29号住居跡出土遺物①
53 H－29号住居跡出土遺物②
H－30号住居跡出土遺物
54 H－31号住居跡出土遺物
H－32号・33号・34号住居跡出土遺物
H－36号住居跡出土遺物
H－37号住居跡出土遺物
55 H－39号住居跡出土遺物
H－41号・42号住居跡出土遺物
H－43号住居跡出土遺物
56 H－44号住居跡出土遺物
H－45号住居跡出土遺物
H－46号住居跡出土遺物
H－47号住居跡出土遺物
57 H－48号住居跡出土遺物
58 H－49号住居跡出土遺物
H－50号住居跡出土遺物
H－52号住居跡出土遺物
H－53号住居跡出土遺物
59 2号土坑出土遺物
3号・7号・10号・17号土坑出土遺物
60 19号土坑出土遺物①
61 19号土坑出土遺物②
19号・22号・23号土坑、6号溝出土遺物
62 10号溝出土遺物
20号溝出土遺物
遺構外出土遺物①
63 遺構外出土遺物②

五代伊勢宮Ⅰ遺跡

PL．64 遺跡遠景　遺跡全景
65 H－1号住居跡全景
H－1号住居跡カマド遺物出土状態
H－1号住居跡遺物出土状態近景
H－1号住居跡カマド
H－1号住居跡カマド袖構築状態
66 H－2号住居跡全景
H－2号住居跡遺物出土状態近景
H－3号住居跡全景
H－3号住居跡カマド
H－4号住居跡遺物出土状態全景
H－4号住居跡全景
H－4号住居跡カマド
H－4号住居跡カマド袖断ち割り状態
67 H－5号住居跡遺物出土状態近景
H－5号住居跡全景
H－5号住居跡カマド
H－6号住居跡全景
1号土坑土層　1号土坑
2号土坑　1号溝北側
68 H－1号住居跡出土遺物
69 H－2号住居跡出土遺物
H－3号住居跡出土遺物
H－4号住居跡出土遺物①
70 H－4号住居跡出土遺物②
H－5号住居跡出土遺物①
71 H－5号住居跡出土遺物②
遺構外出土遺物①
72 遺構外出土遺物②

序　　章

Ⅰ　調査に至る経緯

平成12年４月11日、前橋工業団地造成組合（管理者　萩原弥惣治）より、五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受け同教育委員会で検討した結果、面積が広大であるため、まず試掘調査を実施し、その結果を得て本調査の必要な地域を確定し、年次計画を作成し、本調査を実施するという方針になった。４月12日、前橋市教育長より前橋工業団地造成組合に調査実施の回答がなされた。また、同日、前橋市教育長より前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団に調査を実施するように通知された。これに基づき、前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団が協議を行った。４月27日、両者の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結され、５月11日に現地での試掘調査を開始するに至った。試掘調査の結果、試掘調査対象面積427,600㎡のうち約137,500㎡の本調査が必要であることが分かり、今年度はそのうちの60,000㎡の本調査を実施することが決定し、８月23日、変更契約（委託契約料金の増額）を締結し、本調査を実施するに至った。なお、遺跡名称「五代竹花遺跡」（遺跡コード12Ｃ22）の「竹花」、「五代木福Ⅰ遺跡」（遺跡コード12Ｃ23）の「木福」、「五代伊勢宮Ⅰ遺跡」（遺跡コード12Ｃ26）の「伊勢宮」は旧地籍の小字名を採用した。また、五代竹花遺跡は平成12年度調査分のうちの4,880㎡、五代木福Ⅰ遺跡は同11,785㎡、五代伊勢宮Ⅰ遺跡は同3,800㎡である。

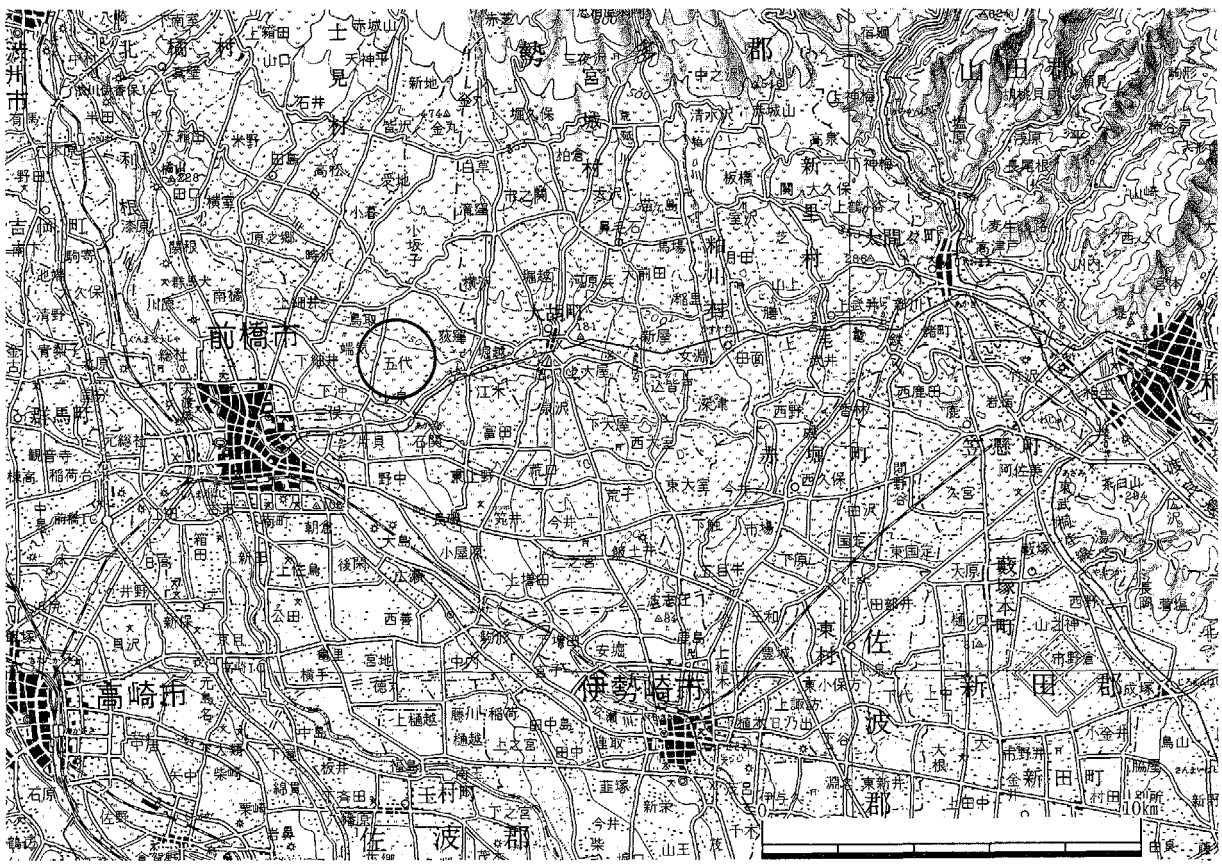


Fig. 1　遺跡の位置（国土地理院20万分の１「宇都宮」）

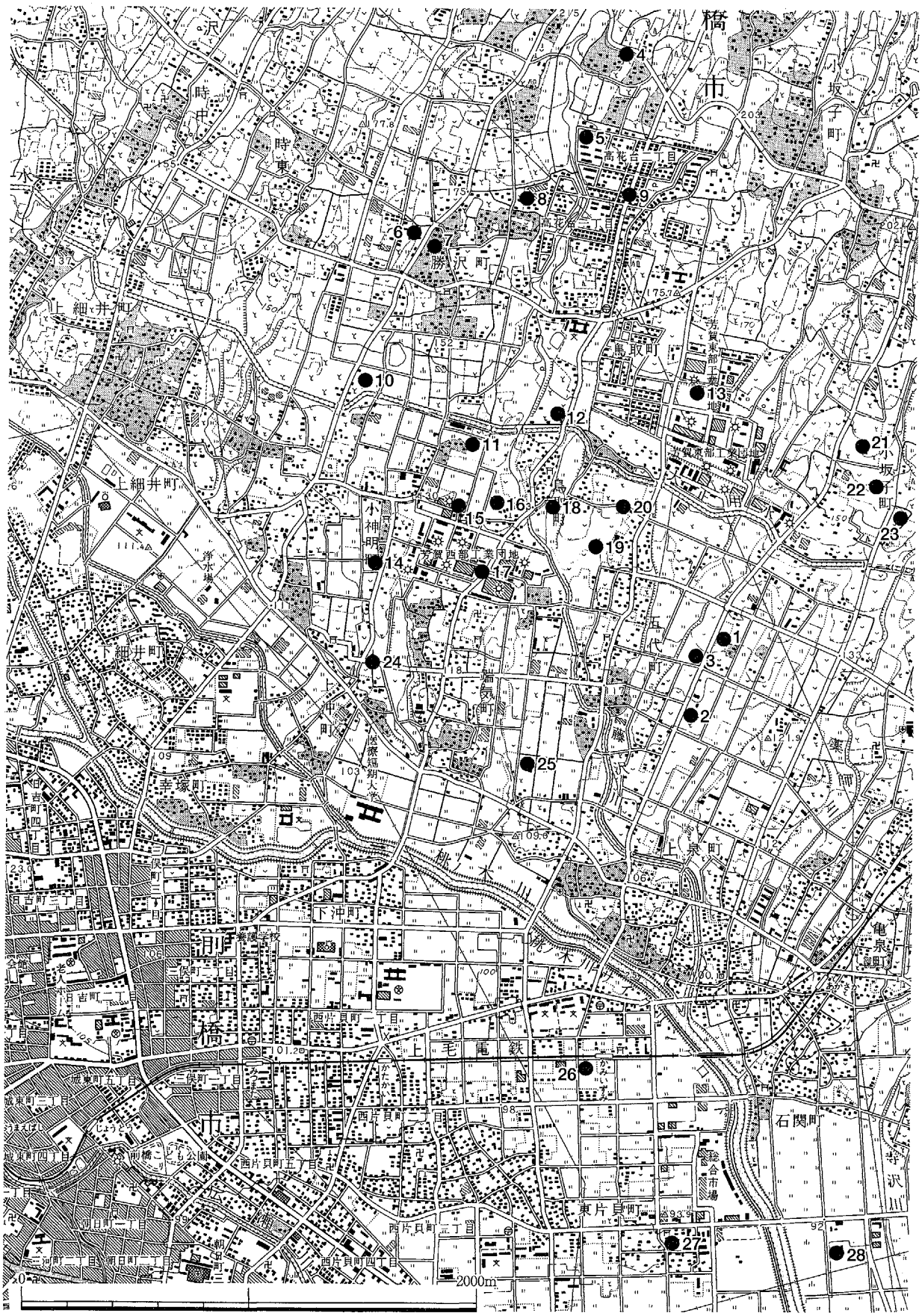


Fig. 2　周辺の遺跡（国土地理院２万５千分の１「渋川」「前橋」）

Ⅱ　遺跡の位置と環境

五代竹花遺跡（1）・五代木福Ⅰ遺跡（2）・五代伊勢宮Ⅰ遺跡（3）の各遺跡（以下総称として本遺跡）は、上毛電鉄上泉駅の北方 1.8㎞前後に位置する。遺跡地は赤城山火山斜面と呼称される赤城山の裾野に属する緩傾斜台地で、標高は127～115mである。周辺には赤城山麓を源とする中小河川が南流し、本遺跡西方には藤沢川、東方には薬師川があり、南方で桃ノ木川に合流している。これらの河川により台地上には部分的に開析谷が形成されており、本遺跡の西側と東側も谷状地形となっている。遺跡地からの眺望は良く、北方の赤城山はもとより西方には榛名山や浅間山などを望むことができる。

本遺跡周辺では縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中・近世の各時代にわたる遺跡が調査されており、桃ノ木川左岸の石関西簗瀬遺跡（28）などを除き台地上に立地する遺跡が多い。なお、石関西簗瀬遺跡は広瀬川低地帯に立地する遺跡で古墳時代中期集落跡等が調査されている。

本遺跡の北方では芳賀団地遺跡群の調査が昭和48年から昭和55年にかけて実施されており、約40万㎡が調査されている。芳賀北部団地遺跡（9）では、奈良・平安時代の住居跡231軒のほか、縄文時代前期・中期の住居跡、中期末葉の敷石住居跡や中世の勝沢城跡の一部などが検出されている。芳賀東部団地遺跡（13）では、奈良・平安時代の住居跡420軒・掘立柱建物跡194棟、縄文時代前期の住居跡39軒、後期の敷石住居跡6軒等が検出されている。芳賀西部団地遺跡（17）では、縄文時代前期の住居跡のほか、上毛古墳綜覧記載漏れの古墳31基が検出されている。

また、鳥取福蔵寺遺跡（19）では、縄文時代前期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡41軒が調査され、鉄鏃・鎌・紡錘車などの鉄製品が豊富に出土している。檜峯遺跡（22）からは奈良三彩小壺が出土している。

【周辺の遺跡】

1：五代竹花遺跡　2：五代木福Ⅰ遺跡　3：五代伊勢宮Ⅰ遺跡　4：東公田古墳　5：桂正田稲塚古墳　6：オブ塚西古墳　7：オブ塚古墳　8：芳賀北曲輪遺跡　9：芳賀北部団地遺跡　10：小神明遺跡群Ⅰ　11：九料遺跡　12：芳賀北原遺跡　13：芳賀東部団地遺跡　14：大明神遺跡　15：倉本遺跡　16：西田遺跡　17：芳賀西部団地遺跡　18：鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡　19：鳥取福蔵寺遺跡　20：鳥取東原遺跡　21：五代檜峯遺跡　22：檜峯遺跡　23：檜峯古墳　24：端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ　25：大日塚古墳　26：茶木田遺跡　27：桂萱大塚古墳　28：石関西簗瀬遺跡

Ⅲ　基本層序

今回調査した五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡とも概ね類似した層序が認められた。

右図（Fig.3）は五代木福Ⅰ遺跡A区の20号土坑西側壁面で観察・記録したものである。なお、同地点のテフラについては自然科学分析を実施している。

表土下はロームで、次のような層序であった。Ⅰ：黄褐色（10YR5/8）ローム。Ⅱ：褐色（10YR4/6）ローム。Ⅲ：にぶい黄褐色（10YR5/4）ローム。Ⅳ：にぶい黄褐色（10YR5/4）。Ⅴ：にぶい黄褐色（10YR5/4）ローム。Ⅵ：浅黄橙（10YR8/3）軽石。Ⅶ：浅黄橙（10YR8/3）軽石。Ⅷ：褐色（10YR4/6）ローム。

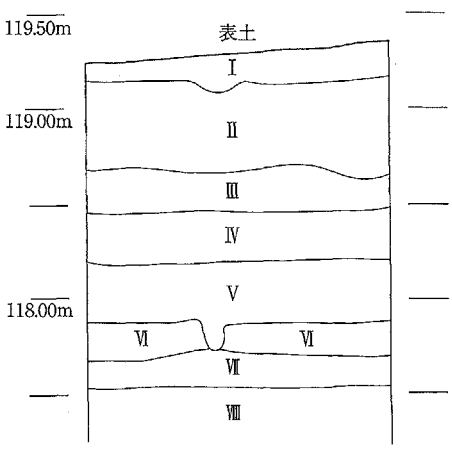


Fig.3　基本土層図

Ⅳ　調査の方法と経過

調査の方法

前橋市教育委員会による試掘調査の成果により、五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡の3遺跡からは、ローム層もしくはその漸移層において古墳時代及び奈良・平安時代の遺構が確認できるものと予測された。

調査は五代木福Ⅰ遺跡から開始し、次いで五代竹花遺跡、五代伊勢宮Ⅰ遺跡の順に進めたが、調査工程上、一部は並行して調査を実施している。また、五代木福Ⅰ遺跡は、調査区が4か所に分かれるため、北側からA～D区の地区名を付けた。

調査は、遺構確認面までの土層を重機で除去した後に、精査及び遺構の掘り下げを行った。

住居跡の調査は、埋没状態・遺物出土状態・構築状態を観察・記録し、掘り方のある遺構は掘り方調査を実施した。カマドの調査では、掛け口・焚き口・燃焼部・煙道部などの状態把握に努め、灰・焼土・粘土等の分布・堆積状態に留意した。

また、各遺跡・各調査区内に縄文土器の分布がみられ、当該期遺構の存在が想定されたが、埋没土が地山のロームと類似し、平面プランを明確に把握できない状態であった。そのため、やや地山の色調が異なる地点や縄文時代の遺物がやや多くみられる箇所を対象にトレンチ調査を行って縄文時代の遺構確認を行った。

図面記録は、公共座標を基準とした4ｍ×4ｍのグリッドを設定して行った。グリッド名は北西角を基点とし、西～東へX・数字、北から南へY・数字を付し、「X73Y179グリッド」のように表記した。各遺構図の縮尺は、住居跡・土坑・ピットを縮尺1/20、炉跡・カマドを縮尺1/10、溝を縮尺1/40・1/50を基本に平面図を作成し、各遺構の土層図・エレベーション図を縮尺1/20で作成した。全体図は個別遺構図をもとに作成した。写真撮影は調査の各段階で随時行い、白黒35㎜・カラーリバーサル35㎜の各フイルムほかデジタルカメラにも記録した。デジタルカメラの写真は、表計算ソフトで作成した写真台帳から検索・閲覧できるように整理してある。各遺跡の全景写真撮影はラジコンヘリコプターを用いた空撮で行った。

なお、整理調査時の資料の取り扱いについては巻末「調査資料の取り扱いについて」にまとめてある。

調査の経過

平成12年9月1日より発掘調査を開始した。

重機進入・残土置き場等の都合で、五代木福Ⅰ遺跡B区から調査に着手し、同C区・D区・A区、五代竹花遺跡、五代伊勢宮Ⅰ遺跡の順に調査を進めた。調査では、縄文時代、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世の遺構・遺物が検出された。古墳時代後期の住居跡は残存状態が良好であり、カマドを東側から西側（北側）に付け替えている状況を把握することができた。

12月5日、トレンチ調査の結果、縄文時代前期の住居跡（五代木福ⅠJ－1号住居跡）を検出する。18日：ラジコンヘリコプターによる空撮を実施する。平成13年1月12日、中世の地下式坑である五代木福Ⅰ19号土坑から釜形土器や石臼等が出土した。同23日、五代木福ⅠH－48号住居跡から銅鈴が出土した。

遺構図面・写真等の整理及び遺物の水洗い・注記作業、接合・復元作業は発掘調査に並行して随時進めた。平成13年1月より報告書作成に取り組み、遺物写真撮影・遺物実測やトレース及び原稿執筆を漸次進め、3月16日までに全ての調査工程を完了させる運びとなった。

第１章　五代竹花遺跡

Ⅰ　遺跡の概要

検出された遺構は、住居跡18軒（縄文時代２、古墳時代後期７、奈良・平安時代９）、土坑６基、溝４条、ピット254基である。

縄文時代の住居跡２軒はいずれも中期後半の遺構で、調査区北西部において検出された。Ｊ－１号住居跡からは埋設土器が、Ｊ－２号住居跡からは石と深鉢を用いた炉跡が検出されている。

古墳時代後期のＨ－８号住居跡は大半を攪乱されていたが、残存部分から土製小玉43点が集中して出土している。土玉の内２点には、梔子玉を模したと思われる切れ込みが施されている。

平安時代のＨ－５号住居跡とＨ－13号住居跡からは、棚状施設が検出されている。また、Ｈ－７号住居跡は南側にカマドを付設する今回の調査では唯一の例である。

１号溝は中世以降の道路跡と想定される。

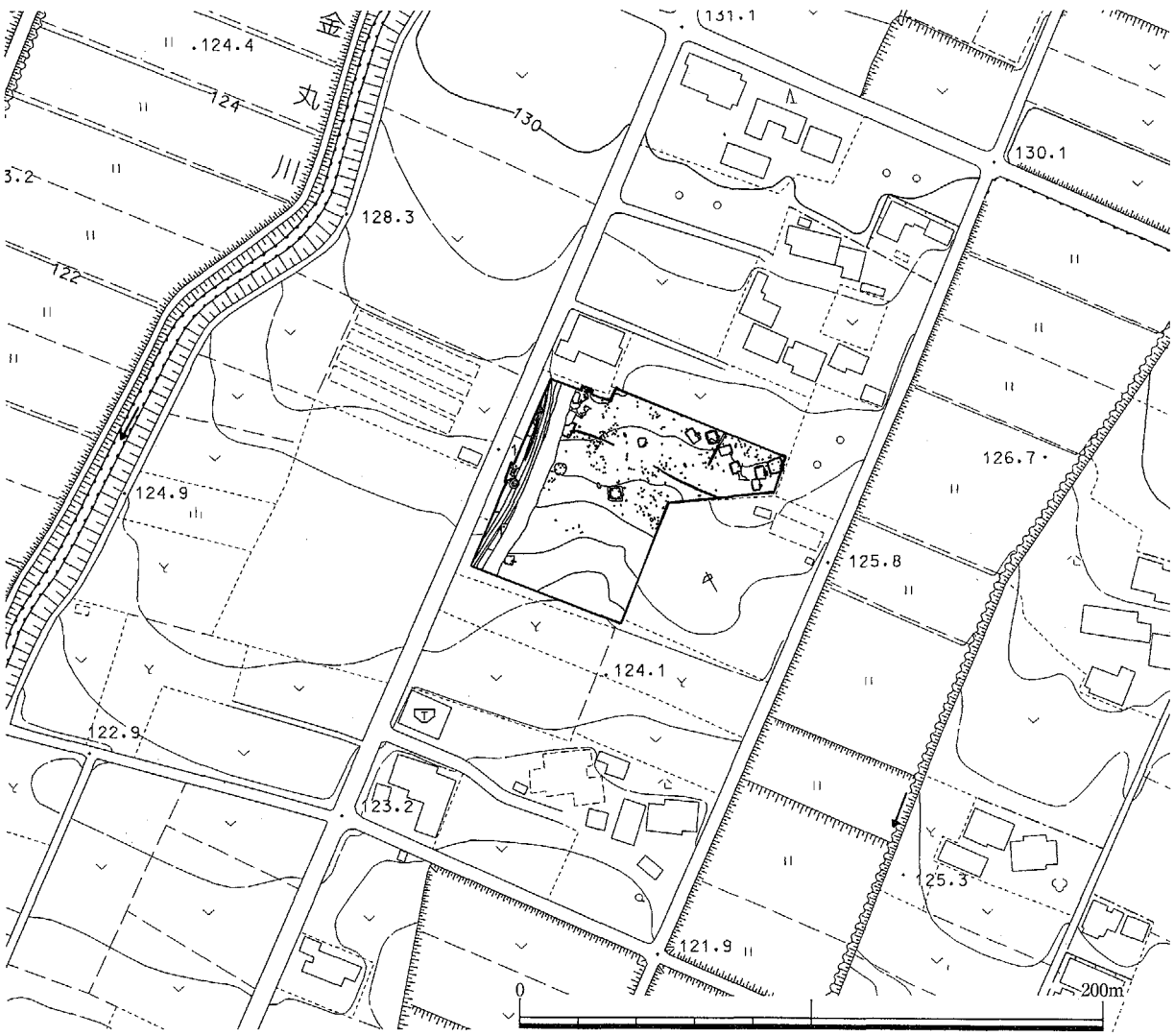


Fig. 4　調査区位置図（前橋市現況図28）

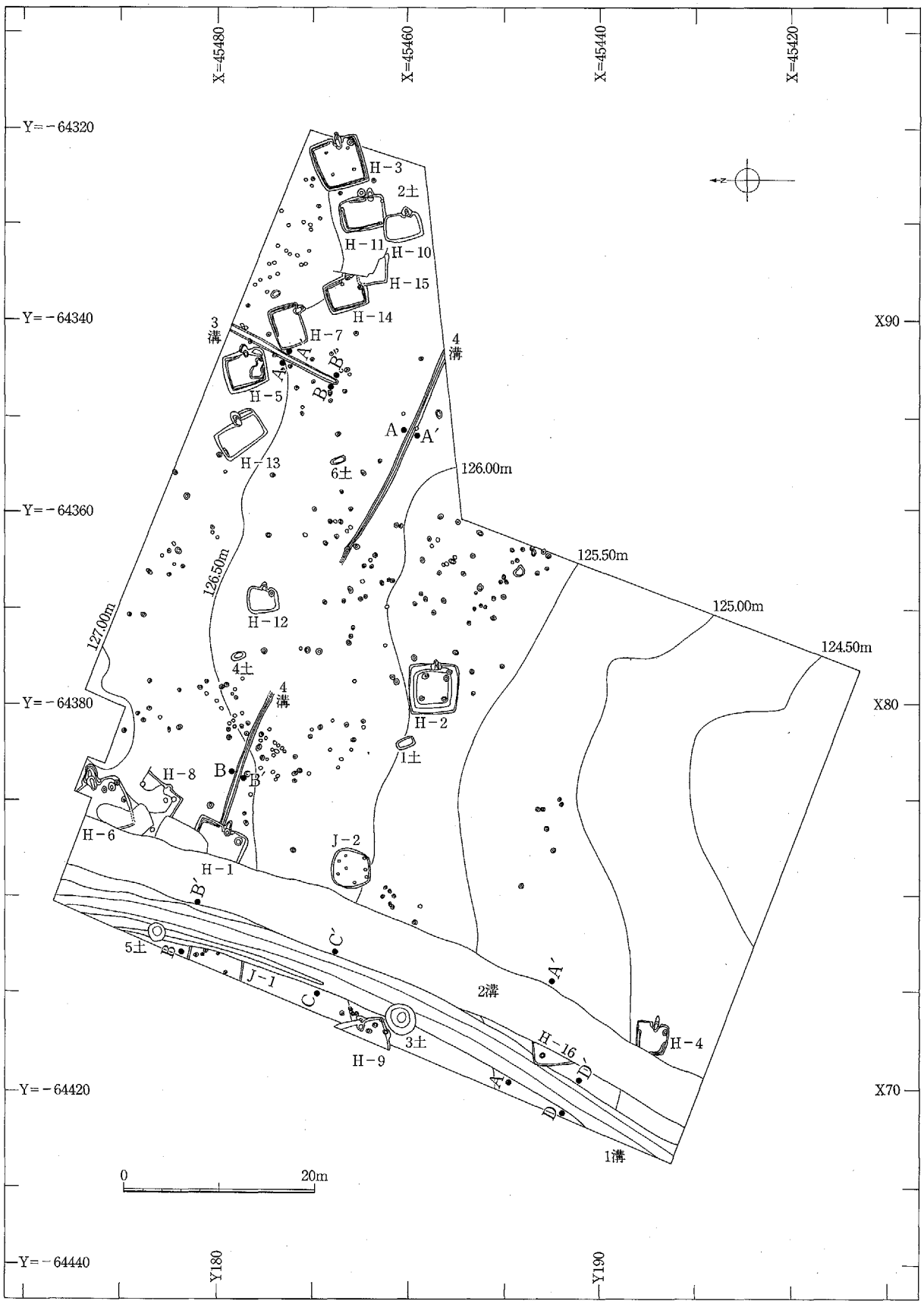


Fig. 5　五代竹花遺跡全体図

Ⅱ　竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（遺構：Fig.6、PL.3／遺物：Fig.25、PL.8）

位置：X73Y179グリッド。西側は調査区外。**検出状態**：表土下に炉埋設土器口縁部が露呈していたため、遺構の存在を想定した。埋没土と地山との判別が非常に困難であり、サブトレンチ調査により、かろうじて遺構範囲を確認できた。東側は１号溝に切られている。**平面形態**：不明。**規模**：不明。検出範囲の南北方向は5.65m。**床面積**：不明。**長軸方位**：不明。**残存深度**：残存状態良好な部分で約20cm。**床面の状態**：本来は２層上面が床面であったと思われる。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：５基のピットを確認しているが、主柱穴は不明。**炉跡**：検出範囲の中央西寄りに位置。径68cm・深さ35cmの円形坑内に深鉢の上半部（1）を埋設し、にぶい黄褐色土を外側に充填している。土器内からは焼土・灰・炭化物は検出されていないが、位置的に出入り口付近の埋設土器とは想定しがたく、断定はできないものの炉跡の可能性を考えておきたい。**遺構埋没状態**：自然埋没と思われる。埋没土は先述したように地山のロームと類似した色調であった。**遺物出土状態**：埋設土器のほかは散在的に出土している程度であった。**時期**：縄文時代中期加曽利Ｅ３式期。

遺物：深鉢１点、土器片２点、石器類８点（石皿２、打製石斧１、調整のある剥片１、剥片１、礫３）を確認している。掲載遺物、土器１点、石器類３点。

Ｊ－２号住居跡（遺構：Fig.6、PL.3／遺物：Fig.25・26、PL.8・9）

位置：X75Y183グリッド。**検出状態**：上面に土器片が分布し、地山よりもやや色調の暗い範囲として確認することができた。**平面形態**：不整円形。**規模**：4.20m×4.05m。**床面積**：12.4㎡。**残存深度**：23cm。**床面の状態**：やや凹凸・起伏がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：９基のピットを確認している。いずれも小規模であるが、ほぼ壁面に沿うように配列されている。**炉跡**：ほぼ中央部に位置。55cm×50cm・深さ20cmの楕円形坑内に深鉢（1）を逆位に置き、その周りに礫２点をＬ字状に配している。礫は２点とも輝石安山岩で、上側には顕著な被熱痕が認められた。炉跡埋没土からは焼土・灰・炭化物等は確認できなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と思われる。**遺物出土状態**：全体的に南側～東側にかけての出土が多かった。**時期**：縄文時代中期加曽利Ｅ３式期。

遺物：深鉢４点、土器片146点、石器類43点（磨石・凹石２、打製石斧２、石鏃１、残核１、調整のある剥片３、剥片32、礫２）を確認している。掲載遺物、土器８点、石器類６点。

Ｈ－１号住居跡（遺構：Fig.7、PL.4／遺物：Fig.27、PL.10）

位置：X76Y179グリッド。**検出状態**：西半部を２号溝に切られ、北西側は攪乱を受けている。**平面形態**：全容は不明であるが、方形基調と想定される。**規模**：－×5.35m。**床面積**：不明。**主軸方位**：Ｎ－116°－Ｅ。**残存深度**：59cm。**床面の状態**：多少の起伏がみられるものの全体的に平坦である。顕著な硬化面は確認されなかった。**壁周溝**：東～北側にかけて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央やや南寄りに位置。粘土及び粘質土で構築。煙道部は壁外に73cmほど突出する。焚き口幅は40cm前後と想定される。４・６・13・16層は粘土で、壁及び天井部が崩落したものと思われる。８層には灰の堆積が顕著であり、９～10層は掘り方後の充填土と想定される。カマド手前付近から土師器甕（1）が出土しているが、これは袖材もしくは懸架材として用いられたものと思われる。また、粘土層である６層から出土している土師器坏２

点（4・5）はカマド構築時に何らかの目的で粘土内に混ぜられていた可能性がある。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に位置。平面は不整楕円形で、規模は86cm×70cm・深さ70cm。断面は底面に向かってすぼまる形状にある。**遺構埋没状態**：埋没土中に大きめのロームブロックが混じっていることなどから人為埋没の可能性が考えられる。**遺物出土状態**：先述のカマド内から、ほかに土師器坏（2）が出土している。全体的に遺構南側に偏在する状態であった。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。
遺物：土師器甕3点以上・坏10点以上、須恵器甕片、鉄鏃1点を確認している。掲載遺物、9点。

H－2号住居跡（遺構：Fig.8、PL.4／遺物：Fig.27・28、PL.10・11）
位置：X80Y185グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：方形。**規模**：4.75m×4.65m。**床面積**：21.4㎡。主軸**方位**：N－94°－E。**残存深度**：63cm。**床面の状態**：多少の凹凸・起伏がみられた。比較的中央部が硬い状態にあった。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：主柱穴4基が検出されている。各柱穴の規模は、pit－1が径44cm・深さ39cm、pit－2が径45cm・深さ40cm、pit－3が65cm×55cm・深さ30cm、pit－4が53cm×48cm・深さ50cmである。**カマド**：東壁中央部付近に位置。粘土及び粘質土で構築。煙道部は壁外に40cmほど突出し、掘り方平面形状は凸字状。焚き口幅は40cm前後と想定される。土師器長胴甕2個体（1・2）を連結させて懸架材としていたと思われる。また、左袖付近からも土師器長胴甕（3）が出土しており、袖部に用いられていた可能性がある。カマド内に灰の堆積は確認できなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に平面楕円形、規模77cm×52cm・深さ75cmの坑がある。**掘り方**：周辺部が10cm～20cm前後ほど深く掘り込まれていた。**遺構埋没状態**：ＦＡ混じりの土が自然埋没していた。**遺物出土状態**：先述のカマド構築材と思われる土師器長胴甕のほか、縁辺部などからも散在的に遺物が出土している。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。
遺物：土師器甕5点以上・高坏2点・坏5点以上、須恵器甕片・瓶片・坏1点以上。土師器高坏（5）と土師器坏（7）は内面黒色処理が施されている。（9～11）は紛れ込み遺物と判断した。掲載遺物、11点。

H－3号住居跡（遺構：Fig.9・10、PL.4／遺物：Fig.28・29、PL.11・12）
位置：X93Y183グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：ほぼ方形。**規模**：4.80m×4.78m。**床面積**：21.6㎡。**主軸方位**：N－76°－E。**残存深度**：73cm。**床面の状態**：ほぼ平坦で、顕著な硬化面は確認されなかった。北東部に粘土の分布がみられた。**壁周溝**：カマド部分を除き全周する。**柱穴**：主柱穴4基が検出されている。各柱穴の規模は、pit－1が25cm×20cm・深さ32cm、pit－2が径25cm・深さ22cm、pit－3が25cm×19cm・深さ30cm、pit－4が27cm×19cm・深さ35cmで、小規模であった。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに位置。ローム等の粘質土を主体に構築。煙道部は壁外に63cmほど突出する。焚き口幅は48cm前後。7層から多量の灰が検出されている。11・12層は掘り方後の充填土と想定される。右袖部には土師器甕（5）が逆位に据えられ、その上に甕片（1·3·4）が重ねられていた。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に平面楕円形、規模68cm×59cm・深さ103cmの坑がある。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：全体的に縁辺部からの出土が多い。南壁際中央部付近には薦編石が集中していた。**時期**：古墳時代後期（6世紀末葉～7世紀初頭）。
遺物：土師器甕8点以上・鍋形土器1点・鉢1点・坏3点、薦編石8点を確認している。掲載遺物、18点。

H－4号住居跡（遺構：Fig.11、PL.5／遺物：Fig.29、PL.13）
位置：X71Y191グリッド。**検出状態**：北西隅を2号溝に切られる。**平面形態**：ほぼ方形。**規模**：（3.05m）×3.03m。**床面積**：不明。**主軸方位**：N－102°－E。**残存深度**：37cm。**床面の状態**：全体的にほぼ平坦

で、顕著な硬化面は確認されなかった。**壁周溝**：北壁西半部～南壁西半部にかけて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに位置。両袖部は地山のロームを掘り残している。煙道部は壁外に約80cm突出する。焚き口幅は35cm前後。灰層は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に平面楕円形、規模70cm×48cm・深さ68cmの坑がある。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド左袖部の手前側から土師器甕（1･2）と甑（3）が出土している。また、南西隅部から角閃石安山岩を直方体状に加工した遺物（4）が出土している。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。

遺物：土師器甕4点以上・甑1点・坏片、須恵器小片、角閃石安山岩切石1点を確認している。角閃石安山岩切石（4）には工具痕が認められた。掲載遺物、4点。

H－5号住居跡（遺構：Fig.12、PL.5／遺物：Fig.30、PL.13）

位置：X88Y180グリッド。**検出状態**：良好。南東隅部に棚状施設がある。**平面形態**：横長の長方形。**規模**：3.40m×3.95m。**床面積**：棚状施設を除き11.7㎡。**主軸方位**：N－79°－E。**残存深度**：床面まで55cm。棚状施設は12cm前後。**床面の状態**：5層上面が床面と想定される。顕著な硬化面は確認されなかった。**壁周溝**：カマド部分及び棚状施設の下側部分を除いて検出されている。**柱穴**：棚状施設の西側に深さ約55cmのピット1基があるが、主柱穴は検出されなかった。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに位置。あまり良好な残存状態ではなく、構築状態は不明である。右側面に礫（輝石安山岩）が1石のみ残存していた。煙道部は壁外に約60cm突出する。**貯蔵穴**：検出されなかった。**棚状施設**：カマド向かって右側の南東隅に地山を掘り残した棚状施設がある。床面からの高さは40cm前後、幅1.3m、最大奥行60cm。土師器片が出土している。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：全体的に散在的な出土状態であった。**時期**：9世紀中葉～後半。

遺物：土師器甕4点以上・坏7点以上、須恵器甕片・蓋1点以上・坏4点以上を確認している。小破片が多かった。土師器甕（1）は「コ」の字状口縁である。掲載遺物、4点。

H－6号住居跡（遺構：Fig.13・14、PL.5／遺物：Fig.30、PL.14）

位置：X77Y177グリッド。北側は調査区外。**検出状態**：西側は2号溝に切られ、南西部は攪乱を受ける。南側に位置するH－8号住居跡を切っている。**平面形態**：方形基調と推定される。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：N－67°－E。**残存深度**：40cm前後。**床面の状態**：やや凹凸・起伏がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：pit－1が主柱穴の1基と思われる。南側壁面に性格不明の小ピット2基がある。**カマド**：東壁に位置。大規模なカマドで粘土及び粘質土を主体に構築されていたと想定される。焚き口幅は90cm前後、掘り方西端～煙道部端までは約2m30cmである。10層に灰層がある。**貯蔵穴**：南東隅に平面楕円形、規模86cm×58cm・深さ105cmの坑がある。**遺構埋没状態**：FA等を含む黒褐色・暗褐色基調の土が埋没していたが、残存状態の影響もあり明確に把握できなかった。**遺物出土状態**：検出範囲南半部からの出土が多かった。**時期**：8世紀後半。

遺物：土師器甕5点以上・坏10点以上・台付甕脚台部1点、須恵器甕片・瓶片・椀1点・蓋1点・坏20点以上、鉄製品3点、鉄滓約15点、果実の種1点を確認している。掲載遺物、16点。

H－7号住居跡（遺構：Fig.15、PL.5／遺物：Fig.31、PL.14）

位置：X82Y181グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：横長の長方形。**規模**：2.72m×4.04m。**床面積**：10.8㎡。**主軸方位**：S－16°－E。**残存深度**：30cm。**床面の状態**：やや凹凸･起伏がみられた。カマド手前付

近がやや硬化していた。**壁周溝**：東壁から北壁東半部にかけて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：南壁の東端に位置。ローム等の粘質土を主体に構築されていたと想定される。煙道部は壁外に約60㎝突出。焚き口幅は37㎝前後。４層に灰がやや多く認められた。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：出土遺物は少なく、疎らな分布状態であった。**時期**：９世紀中葉。

遺物：土師器甕１点以上・坏片、須恵器壺片・坏片を確認している。掲載遺物、１点。

Ｈ－８号住居跡（遺構：Fig.16、PL.５／遺物：Fig.31・32、PL.14～16）

位置：X77Y178グリッド。**検出状態**：遺構の大部分に攪乱を受けており、残存状態は不良である。また、西側は２号溝に、北側はＨ－６号住居跡に切られている。**平面形態**：方形基調と思われるが全容は不明。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：Ｎ－125°－Ｅ前後と想定される。**残存深度**：39㎝。**床面の状態**：先述したように大部分が壊されていた。残存部分においては平坦であった。また、炭化材の分布がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：pit－1～３の３基が検出されている。本来は主柱穴４基と考えられる。**カマド**：東壁の南寄りに位置。かろうじてカマドの存在を把握できた程度で、詳細は不明である。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に平面楕円形、規模70㎝×50㎝・深さ約80㎝の坑がある。**遺構埋没状態**：著しい攪乱のため明確に把握できなかった。**遺物出土状態**：カマド向かって左側の東壁付近から土玉が集中して出土している。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕１点以上・坏５点以上、須恵器甕片、臼玉３点、土玉43点、砥石２点、鉄鏃１点、礫３点を確認している。臼玉の内２点（6･7）は土製品である。土玉は大半が球形状の丸玉であるが、管状で中央部が膨らむ土錘状のもの（8～12）があり、これは水晶製切子玉を模した可能性がある。また、側面に切り込みを入れている丸玉（14･15）は、銀製鍍金等の梔子形空玉を模したものと想定される。掲載遺物、52点。

Ｈ－９号住居跡（遺構：Fig.17、PL.６／遺物：Fig.33、PL.16）

位置：X71Y183グリッド。西側大半は調査区外。**検出状態**：出土遺物に時期差があり、また、埋没土層の状態からも新旧２軒の住居跡が重複している可能性が高い。ただ、不明な点が多いため、本報告書では１軒の住居跡として扱っておく。４層・５層が新住居跡のカマド部分とも考えられる。ただ、調査範囲の関係もあり、新しい住居跡の範囲等については明確に把握することができなかった。なお、南側には幅１ｍ弱、長さ約60㎝の突出部分があり、出入り口部の可能性がある。遺構内及び遺構周辺には新しい時期の小ピットが多数みられ、旧住居跡のカマドはpit－253に切られている。**平面形態**：旧住居跡は方形基調と推定されるが、全容は不明である。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：旧住居跡はＮ－72°－Ｅ前後と想定される。**残存深度**：旧住居跡は75㎝。**床面の状態**：旧住居跡は多少の凹凸がみられた。新住居跡は７層下面が床面と思われるが、遺構掘り下げ時には把握できなかった。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：pit－１が旧住居跡主柱穴中の１基と想定される。深さ26㎝。**カマド**：旧住居跡のカマドは東壁に位置。粘質土で構築されていたと思われるが、残存状態が悪く、詳細は不明。**貯蔵穴**：旧住居跡カマド向かって右側に平面楕円形、規模58㎝×50㎝・深さ約80㎝の坑がある。**遺構埋没状態**：新旧住居跡とも自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中から比較的多量の遺物が出土している。**時期**：６世紀後半・８世紀前半。

遺物：土師器甕７点以上・甑１点・坏５点以上・盤１点、須恵器甕片・椀２点以上・坏３点以上、礫３点を確認している。掲載遺物、11点。

Ｈ－１０号住居跡（遺構：Fig.17、PL.６／遺物：Fig.33、PL.16）

位置：X92Y184グリッド。**検出状態**：良好。北東にＨ－11号住居跡が近接。**平面形態**：横長の長方形。西壁はやや丸みを持って膨らむ。**規模**：2.50m×3.65m。**床面積**：8.2㎡。**主軸方位**：Ｎ－88°－Ｅ。**残存深度**：45cm。**床面の状態**：やや凹凸・起伏がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁南寄りに位置。粘土及び粘質土を主体に構築されていたと想定される。煙道部は壁外に68cmほど突出。焚き口幅は26cm前後。左側の燃焼部は被熱のため地山が赤色化している。また、その奥側には深さ11cm弱の小ピットが左側に偏在しており、支脚の装着痕の可能性がある。右袖内側にも深さ８cmの小ピットがある。７層上面に灰がラミナ状に堆積していた。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：出土遺物は少なく、疎らな分布状態であった。**時期**：８世紀後半。

遺物：土師器甕片・坏１点、須恵器甕片・蓋片・坏２点以上、砥石１点を確認している。掲載遺物、３点。

Ｈ－１１号住居跡（遺構：Fig.18、PL.６／遺物：Fig.34、PL.16）

位置：X92Y183グリッド。**検出状態**：試掘トレンチに上面を壊されているが、比較的良好な状態で検出されている。西側一部に攪乱を受ける。南西側にＨ－10号住居跡、東壁中央部に２号土坑が近接。**平面形態**：横長の長方形。**規模**：3.10m×4.25m。**床面積**：12.8㎡。**主軸方位**：Ｎ－82°－Ｅ。**残存深度**：42cm。**床面の状態**：多少の凹凸・起伏がみられた。６・７層は貼り床の可能性がある。**壁周溝**：南壁及び東壁南北端付近を除いて検出されている。**柱穴**：南壁面の東側に内側に傾斜するピット１基があるが、主柱穴は検出されなかった。**カマド**：東壁の南寄りに位置。右袖付近に礫（砂岩）１点が残存するが、粘質土を主体に構築されていたものと想定される。煙道部は壁外に約75cm突出する。灰層は確認されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：小破片が多く、カマド手前付近の埋没土中から多く出土している。**時期**：９世紀後半。

遺物：土師器甕４点以上・坏片、須恵器坏１点以上・椀１点以上、灰釉陶器瓶１点、鉄滓２点を確認している。掲載遺物、５点。

Ｈ－１２号住居跡（遺構：Fig.19、PL.６／遺物：Fig.34、PL.17）

位置：X82Y181グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：横長の長方形。**規模**：2.26m×2.72m。**床面積**：5.7㎡。**主軸方位**：Ｎ－90°－Ｅ。**残存深度**：54cm。**床面の状態**：やや凹凸・起伏がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央部南寄りに位置。部分的に石を使用しつつも粘土及び粘質土を主体に構築されていたものと想定される。カマド左袖部には柱状粘土が据えられており、右袖部には礫が残存している。また、カマド手前側から柱状粘土塊が出土しているが、これもカマドの袖あるいは懸架材として使用されていたものと推定される。燃焼部は壁外に位置し、左側には礫、右側には脚台部の欠損した土師器台付甕（2）を逆位に配して支脚としているようであり、掛け口は２か所と想定される。なお、灰の堆積は認められなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に平面楕円形、規模74cm×51cm・深さ29cmの坑がある。**遺構埋没状態**：人為埋没の可能性がある。**遺物出土状態**：カマド内及びカマド周辺から土師器・須恵器が出土しているほか、中央部の粘土塊周辺からは鉄製品が出土している。**時期**：９世紀中葉。

遺物：土師器甕２点以上・台付甕１点・坏４点以上、須恵器甕破片・蓋１点以上・椀２点・坏１点、鷹編石１点、鉄製品３点（鉄鏃１、刀子１、釘１）を確認している。掲載遺物、10点。

Ｈ－１３号住居跡（遺構：Fig.20、PL.6／遺物：Fig.35、PL.17）

位置：X86Y180グリッド。**検出状態**：良好。南東隅部に棚状施設がある。**平面形態**：横長の長方形。**規模**：2.50m×4.55m。**床面積**：棚状施設を除き11.2㎡。**主軸方位**：N－58°－E。**残存深度**：62cm。**床面の状態**：やや凹凸・起伏がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに位置。カマド内から須恵器蓋（3）が出土している。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**棚状施設**：カマド向かって右側の南東隅に地山を掘り残した棚状施設がある。床面からの高さは30cm前後、幅1.4m、最大奥行58cm。**遺構埋没状態**：２層に最大径10cmのロームブロックを含む黄褐色土が埋没しており、人為埋没の可能性がある。**遺物出土状態**：東半部からの出土が多かった。**時期**：９世紀前半。**遺物**：土師器甕３点以上・坏３点以上、須恵器甕片・蓋１点・蓋片・坏片、石製紡錘車１点、鉄滓１点を確認している。土師器坏（2）の外底部には「田」の墨書がある。掲載遺物、４点。

Ｈ－１４号住居跡（遺構：Fig.20、PL.6／遺物：Fig.35、PL.17）

位置：X90Y183グリッド。**検出状態**：南東隅をＨ－15号住居跡に切られ、カマド東端は攪乱を受けている。**平面形態**：横長の長方形。**規模**：2.80m×3.90m。**床面積**：不明。**主軸方位**：N－75°－E。**残存深度**：50cm。**床面の状態**：多少の凹凸・起伏がみられた。**壁周溝**：カマド部分を除いて全周するようである。**柱穴**：２基の小ピットがある。pit－１は規模33cm×29cm・深さ17cm、pit－２は規模27cm×23cm・深さ20cmである。**カマド**：東壁南寄りに位置。（黒色）粘質土を主体に構築されていたものと思われる。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド向かって右側から土師器甕（1）が、同じく左側から土師器坏（3）が出土している。**時期**：８世紀後半。

遺物：土師器甕４点以上・坏２点以上、須恵器瓶片・坏２点以上、砥石１点を確認している。土師器坏（3）の内底部には螺旋状暗文がある。掲載遺物、５点。

Ｈ－１５号住居跡（遺構：Fig.21、PL.6／遺物：Fig.35、PL.17）

位置：X91Y184グリッド。**検出状態**：住居跡の大半に攪乱を受けており、不明な部分が多い。北西隅部はＨ－14号住居跡を切っている。**平面形態**：（長）方形基調と想定される。**規模**：－×推定2.70m。**床面積**：不明。**主軸方位**：推定N－97°－E。**残存深度**：41cm。**床面の状態**：残存部分においては比較的平坦な状態であった。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：不明。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：全容は不明。**遺物出土状態**：疎らな分布状態であった。**時期**：９世紀中葉。

遺物：土師器甕破片・坏片、須恵器瓶小片・坏片・椀片を確認している。土師器甕は小片のため図化していないが「コ」の字状口縁である。掲載遺物、２点。

Ｈ－１６号住居跡（遺構：Fig.21、PL.7／遺物：Fig.35、ＰＬ17）

位置：X70Y188グリッド。**検出状態**：大半を２号溝に切られており、遺構北西隅部のみを検出。北西隅部も１号溝に切られるが、同部分の遺構形状は把握できた。**平面形態**：（長）方形基調と推定される。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：不明。**残存深度**：36cm。**床面の状態**：やや凹凸がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：１基を検出している。**カマド**：不明。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：ロームブロック混じりの暗褐色土が埋没。**遺物出土状態**：疎らな分布状態であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕片・坏１点、須恵器坏片を確認している。掲載遺物、１点。

Ⅲ　土坑・井戸・ピット

1号土坑（遺構：Fig.22、ＰＬ７）

位置：Ｘ80Ｙ184グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：長方形。**規模**：1.74m×0.92m。**長軸方位**：Ｎ－30°－Ｗ。**残存深度**：19cm。**遺構埋没状態**：埋没土中に微量の炭化粒が確認されている。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の破片が出土しているのみである。**時期**：不明であるが古墳時代後期の可能性が想定される。

遺物：土師器甕片、須恵器小片を確認している。掲載遺物、０点。

2号土坑（遺構：Fig.18／遺物：Fig.36、ＰＬ18）

位置：Ｘ93Ｙ184グリッド。**検出状態**：Ｈ－11号住居跡の東壁中央部に接して位置する。同住居跡との関連性も考えられる。**平面形態**：不整円形。**規模**：0.75m×0.55m。**残存深度**：28cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中から須恵器坏（1）が出土している。**時期**：９世紀後半。

遺物：出土遺物は須恵器坏１点のみである。掲載遺物、１点。

3号土坑（遺構：Fig.22、PL.７／遺物：Fig.36、PL.18）

位置：Ｘ71Ｙ184グリッド。**検出状態**：東半部を１号溝に切られ、遺構上側を壊されている。２段に掘り込まれており、中央部が１段目底面より39cmほど低い。また、西側に深さ約10cmの小ピットがある。**平面形態**：円形。**規模**：3.20m×2.90m。**残存深度**：上段150cm、下段189cm。**遺構埋没状態**：人為埋没の可能性がある。**遺物出土状態**：埋没土中から土師器・須恵器がややまとまって出土している。**時期**：８世紀後半。

遺物：土師器甕片・坏３点以上・椀１点、須恵器甕片・瓶片・蓋１点・椀２点以上・坏４点以上を確認している。土師器椀（1）は、外面口縁部に１条の沈線がめぐり、内面はミガキと黒色処理が施されている。掲載遺物、８点。

4号土坑（遺構：Fig.22）

位置：Ｘ81Ｙ180グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：長方形。**規模**：1.42m×0.67m。**長軸方位**：Ｎ－21°－Ｗ。**残存深度**：41cm。**遺構埋没状態**：FA混じりの黒褐色土が埋没していた。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**時期**：不明。

5号土坑（遺構：Fig.22、PL.７）

位置：Ｘ73Ｙ178グリッド。**検出状態**：１号溝に近接するが新旧関係は明確に把握できなかった。遺構形態から井戸の可能性が考えられるが、調査時には湧水はなかった。**平面形態**：円形。**規模**：1.75m×1.65m。**残存深度**：247cm。**遺構埋没状態**：十分な観察ができなかった。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の破片が出土している程度であった。**時期**：不明。

遺物：土師器甕片、須恵器甕片・瓶片・坏片を確認している。掲載遺物、０点。

6号土坑（遺構：Fig.22）

位置：Ｘ86Ｙ183グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：長方形。**規模**：1.65m×0.63m。**長軸方位**：Ｎ－20

°－W。**残存深度**：15cm。**遺構埋没状態**：FA･炭化粒を微量含む黒褐色土が埋没していた。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**時期**：不明。

ピット（Fig.23、Tab.1・2）

ピットは254基が検出されている。遺跡北半部に多い傾向にあるが、南半部は削平されている可能性もある。大半が小規模なものであり、また、各ピットの配置は掘立柱建物跡を構成するような状況ではなかった。埋没土は概ねFAを含む黒色土であり、古墳時代後期～平安時代と推定されるが、明確な時期は不明である。

Tab. 1　ピット一覧表①

番号	グリッド	規模(cm)	深さ(cm)
1	X93Y182	26×26	14
2	X93Y182	33×31	22
3	X93Y182	24×21	34
4	X92Y182	30×22	26
5	X92Y181	30×28	50
6	X92Y182	26×21	37
7	X92Y182	31×31	41
8	X92Y182	28×25	42
9	X92Y182	23×23	23
10	X92Y182	47×45	22
11	X91Y182	30×30	47
12	X91Y181	23×20	33
13	X91Y182	20×19	32
14	X91Y182	28×25	20
15	X91Y182	40×28	24
16	X91Y182	40×38	20
17	X91Y182	42×40	36
18	X91Y181	23×22	35
19	X91Y181	25×22	22
20	X91Y181	23×21	28
21	X91Y181	25×25	29
22	X91Y181	20×20	31
23	X90Y181	29×26	21
24	X90Y181	25×23	17
25	X90Y181	105×65	20
26	X90Y181	17×16	16
27	X93Y184	42×34	31
28	X93Y183	41×33	28
29	X89Y181	52×42	31
30	X89Y180	33×31	25
31	X89Y180	32×29	17
32	X89Y181	56×35	21
33	X89Y181	56×39	20
34	X88Y181	46×37	49
35	X88Y182	36×30	37
36	X88Y182	37×37	25
37	X89Y183	46×45	23
38	X89Y183	33×27	19
39	X89Y183	39×31	23
40	X89Y182	26×26	19
41	X88Y183	33×31	15
42	X88Y183	55×30	23
43	X88Y183	22×18	8
44	X88Y183	35×35	14
45	X88Y183	55×32	18
46	X88Y182	32×26	12
47	X87Y183	32×28	16
48	X87Y182	39×35	45
49	X87Y182	44×40	25
50	X87Y183	50×41	51
51	X88Y185	50×41	32
52	X87Y185	41×38	38
53	X87Y185	27×26	22
54	X87Y185	91×46	42
55	X86Y184	32×30	26
56	X79Y177	38×37	29
57	X79Y178	30×30	33
58	X79Y178	47×37	43
59	X79Y178	37×34	25
60	X79Y178	37×31	37
61	X79Y178	－×－	25
62	X79Y179	－×－	19
63	X80Y178	36×31	16
64	X80Y179	35×30	24
65	X80Y179	43×32	49
66	X80Y179	44×39	34
67	X80Y179	35×32	44
68	X80Y180	37×33	38
69	X79Y180	38×33	30
70	X80Y180	62×30	35
71	X80Y180	58×33	42
72	X80Y180	33×25	20
73	X80Y180	22×22	16
74	X80Y180	25×21	14
75	X80Y180	32×23	19
76	X79Y180	35×31	25
77	X79Y180	34×29	19
78	X79Y180	34×26	28
79	X79Y180	－×－	35
80	X79Y180	25×24	32
81	X79Y180	28×25	28
82	X79Y180	30×29	45
83	X79Y180	42×28	29
84	X79Y181	28×22	32
85	X79Y181	53×45	51
86	X79Y181	34×33	54
87	X79Y181	37×25	24
88	X78Y181	59×38	61
89	X79Y180	42×36	47
90	X79Y180	34×27	40
91	X78Y181	25×23	16
92	X78Y181	40×37	37
93	X78Y181	44×44	61
94	X78Y181	30×25	不明
95	X78Y181	22×21	15
96	X78Y181	42×42	36
97	X78Y181	34×25	22
98	X78Y181	62×44	51
99	X78Y181	25×25	32
100	X78Y181	26×26	76
101	X78Y181	30×25	14
102	X78Y181	37×37	33
103	X78Y181	29×29	19
104	X78Y181	72×50	19
105	X77Y180	32×30	30
106	X78Y182	26×25	14
107	X78Y182	49×38	46
108	X77Y182	28×26	14
109	X77Y180	38×34	28
110	X76Y180	40×25	21
111	X77Y179	70×60	25
112	X82Y177	30×26	32
113	X82Y178	35×35	25
114	X83Y178	65×34	20
115	X83Y178	25×23	18
116	X83Y179	21×20	12
117	X83Y179	39×35	23
118	X83Y178	25×18	22
119	X83Y178	36×35	13
120	X83Y179	75×55	13
121	X84Y179	35×30	15
122	X84Y180	25×24	10
123	X84Y180	27×25	16
124	X84Y180	38×31	30
125	X85Y179	70×60	25
126	X85Y179	25×23	13
127	X86Y180	30×30	19
128	X86Y180	45×39	31
129	X86Y181	45×41	26
130	X84Y180	40×40	21
131	X84Y182	28×25	29
132	X84Y182	46×37	66

Tab.2　ピット一覧表②

番号	グリッド	規模(cm)	深さ(cm)
133	X84Y183	66×42	21
134	X85Y182	27×25	37
135	X84Y183	33×31	78
136	X84Y183	30×26	21
137	X84Y183	30×27	18
138	X84Y183	29×26	35
139	X84Y183	39×31	37
140	X84Y183	35×34	34
141	X85Y183	33×32	33
142	X85Y183	26×26	18
143	X86Y183	55×33	30
144	X84Y183	71×43	31
145	X82Y182	31×30	32
146	X82Y183	33×29	23
147	X82Y183	65×50	24
148	X82Y183	35×33	50
149	X82Y184	33×30	39
150	X83Y183	30×26	25
151	X83Y183	37×37	26
152	X83Y184	35×30	22
153	X83Y184	35×33	27
154	X83Y184	37×33	24
155	X83Y184	31×25	19
156	X83Y184	30×27	15
157	X83Y184	32×27	21
158	X82Y184	32×29	28
159	X78Y182	27×22	23
160	X79Y180	39×31	22
161	X79Y182	25×20	8
162	X79Y182	52×40	10
163	X79Y183	26×25	16
164	X79Y183	25×23	18
165	X80Y183	28×26	24
166	X79Y183	25×20	17
167	X79Y183	23×23	20
168	X79Y183	50×23	16
169	X78Y183	23×22	15
170	X78Y183	29×23	20
171	X78Y183	25×21	28
172	X78Y182	27×25	22
173	X78Y182	31×26	21
174	X81Y181	62×50	56
175	X81Y182	27×24	17
176	X81Y182	61×53	12
177	X81Y182	60×54	19
178	X80Y184	57×40	21
179	X80Y184	33×28	16
180	X81Y185	35×27	18
181	X81Y184	27×23	12
182	X81Y183	45×44	20
183	X81Y183	29×26	30
184	X81Y183	34×27	33
185	X82Y185	27×27	14
186	X82Y185	29×27	10
187	X82Y185	36×30	8
188	X82Y185	－×－	13
189	X82Y185	39×35	16
190	X83Y185	－×－	24
191	X83Y186	－×－	56
192	X82Y186	68×50	67
193	X82Y186	22×20	21
194	X82Y186	25×22	22
195	X82Y186	29×24	不明
196	X82Y186	28×25	29
197	X84Y184	31×30	36
198	X84Y184	30×25	37
199	X83Y185	54×47	30
200	X84Y185	33×25	13
201	X84Y185	35×34	27
202	X84Y185	38×35	28
203	X83Y185	35×33	26
204	X83Y186	30×30	18
205	X83Y186	75×48	25
206	X83Y186	31×27	17
207	X83Y186	42×36	68
208	X84Y186	62×55	53
209	X84Y186	50×41	24
210	X84Y185	59×30	53
211	X80Y186	25×25	48
212	X80Y186	35×23	22
213	X80Y187	34×29	30
214	X81Y186	50×50	45
215	X82Y186	33×28	14
216	X82Y187	36×24	14
217	X82Y187	49×44	54
218	X82Y187	43×38	50
219	X83Y187	25×22	19
220	X83Y187	25×22	42
221	X83Y187	32×29	29
222	X83Y187	125×97	22
223	X83Y187	30×27	56
224	X83Y187	42×27	34
225	X83Y187	27×28	34
226	X84Y188	28×24	49
227	X84Y188	35×33	27
228	X83Y188	90×62	67
229	X83Y188	47×43	49
230	X83Y188	52×30	34
231	X83Y188	40×29	29
232	X83Y188	49×34	45
233	X75Y187	35×32	13
234	X76Y188	36×30	50
235	X76Y188	42×37	22
236	X77Y188	44×42	24
237	X77Y188	41×37	48
238	X77Y188	29×27	30
239	X77Y188	25×25	24
240	X74Y185	36×29	53
241	X74Y185	18×17	8
242	X74Y184	35×22	13
243	X74Y184	21×20	11
244	X74Y184	23×21	21
245	X75Y184	26×26	27
246	X75Y184	23×22	19
247	X74Y184	25×24	14
248	X76Y181	33×29	34
249	X71Y183	46×38	30
250	X72Y183	33×31	20
251	X71Y183	37×26	17
252	X71Y183	38×30	44
253	X71Y183	37×32	14
254	X71Y184	49×36	50

Ⅳ　溝

1号溝（遺構：Fig.5・24、PL.2・7／遺物：Fig.36、PL.18）

位置：X74Y176グリッド～X69Y191グリッド。**検出状態**：良好。**走向方向**：北北東～南南西。やや東側に張る弧状で、2号溝とほぼ平行する。底面の標高は、北北東端部126.04m、中央付近124.97m、南南西端部124.15m。両端部の比高は1m89cmである。**断面形態**：底面が平坦な逆台形。**規模**：上端幅は2m90cm～4m10cm、下端幅は1m30cm前後。**残存深度**：90cm前後。**遺構埋没状態**：砂粒の含有が認められた。**遺物出土状態**：埋没土中から、軟質陶器、縄文土器・土師器・須恵器・緑釉陶器等が少量出土している。**所見**：本溝

の底面は非常に硬くしまっていた。先述したように埋没土には砂の堆積がみられたが、機能的には切り通し状に造られた道路としての性格が考えられる。本溝は、走行方向や遺構形態・埋没土の状態などから五代木福Ⅰ遺跡Ａ区22号溝・Ｂ区２号溝・Ｃ区４号溝に繋がる可能性が高い。**時期**：中世～近世を想定しておきたい。テフラ分析（付章）からは、浅間Ｂ軽石より層位的には上位であるとの分析結果を得ている。

遺物：縄文土器片、石器類、土師器甕・坏片、須恵器甕・瓶・椀・坏片、緑釉陶器片１点、軟質陶器片、近世陶器片を確認している。縄文土器・石器類は便宜上、遺構外出土遺物として扱う。掲載遺物、３点。

２号溝（遺構：Fig.５・24、PL.２）

位置：Ｘ75Ｙ176グリッド～Ｘ70Ｙ192グリッド。**検出状態**：本溝は地元古老の話等により、昭和中頃まで使用されていた切り通し道路であることが判明しており、一部断面観察・記録を行い、基本的には上端の範囲記録に留めた。底面には砂利が敷設されていた。**走向方向**：北北東～南南西。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅約５～７ｍ、下端幅３ｍ80㎝前後。**残存深度**：75㎝前後。**遺構埋没状態**：大塊のロームブロックを含む土を人為埋没。**所見**：昭和中頃まで使用されていた道路跡であり、五代木福Ⅰ遺跡Ａ区10号溝・Ｂ区３号溝・Ｃ区７号溝・Ｄ区18号溝に繋がるものと想定される。

３号溝（遺構：Fig.５・24、PL.２）

位置：Ｘ89Ｙ180グリッド～Ｘ88Ｙ183グリッド。**走向方向**：北東～南西。底面の標高は、北東端部126.27m、南西端部125.94m。**断面形態**：箱状～逆台形。**規模**：上端幅58㎝～70㎝、下端幅36㎝～42㎝。**残存深度**：60㎝前後。**遺構埋没状態**：ローム粒・ブロック等を含む褐色土が人為埋没。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の破片が出土している程度であった。**時期**：不明。

遺物：土師器甕片、須恵器甕片・坏片等を確認している。掲載遺物、０点。

４号溝（遺構：Fig.５・24、PL.２）

位置：Ｘ76Ｙ180グリッド～Ｘ89Ｙ186グリッド。**走向方向**：北西～南東。底面の標高は、北西端部126.49m、南東端部125.79m。中途で削平のため確認できない部分がある。**断面形態**：不整形で、やや凹凸がみられる**規模**：上端幅38㎝～70㎝、下端幅22㎝～48㎝。**残存深度**：10㎝～30㎝。**遺構埋没状態**：砂粒等を含む暗褐色土が埋没。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**時期**：不明。

Ⅴ　遺構外出土遺物　(Fig.37・38、PL.18・19)

ここでは、遺構外及び古墳時代以降の遺構から出土した縄文土器・石器類を概括する。

土器片は、前期黒浜式32点・諸磯ａ式11点・諸磯ｂ式２点・諸磯ｃ式３点、中期阿玉台式17点・加曽利Ｅ式208点、後・晩期４点、土製円板１点、不明122点、総計400点を確認している。石器類は、磨石８点（石英安山岩３・輝石安山岩１・安山岩２・砂質頁岩１・ヒン岩１）、打製石斧18点（頁岩17･砂質頁岩1)、スクレイパー４点（頁岩３・砂質頁岩１)、石匙１点（頁岩１)、尖頭器１点（頁岩１)、石鏃２点（頁岩１･黒曜石１)、残核２点（チャート１・石英安山岩１)、調整のある剥片68点（頁岩61・黒色安山岩6・砂岩1)、剥片146点、礫38点、総計288点を確認している。掲載遺物、土器類21点、石器類15点。

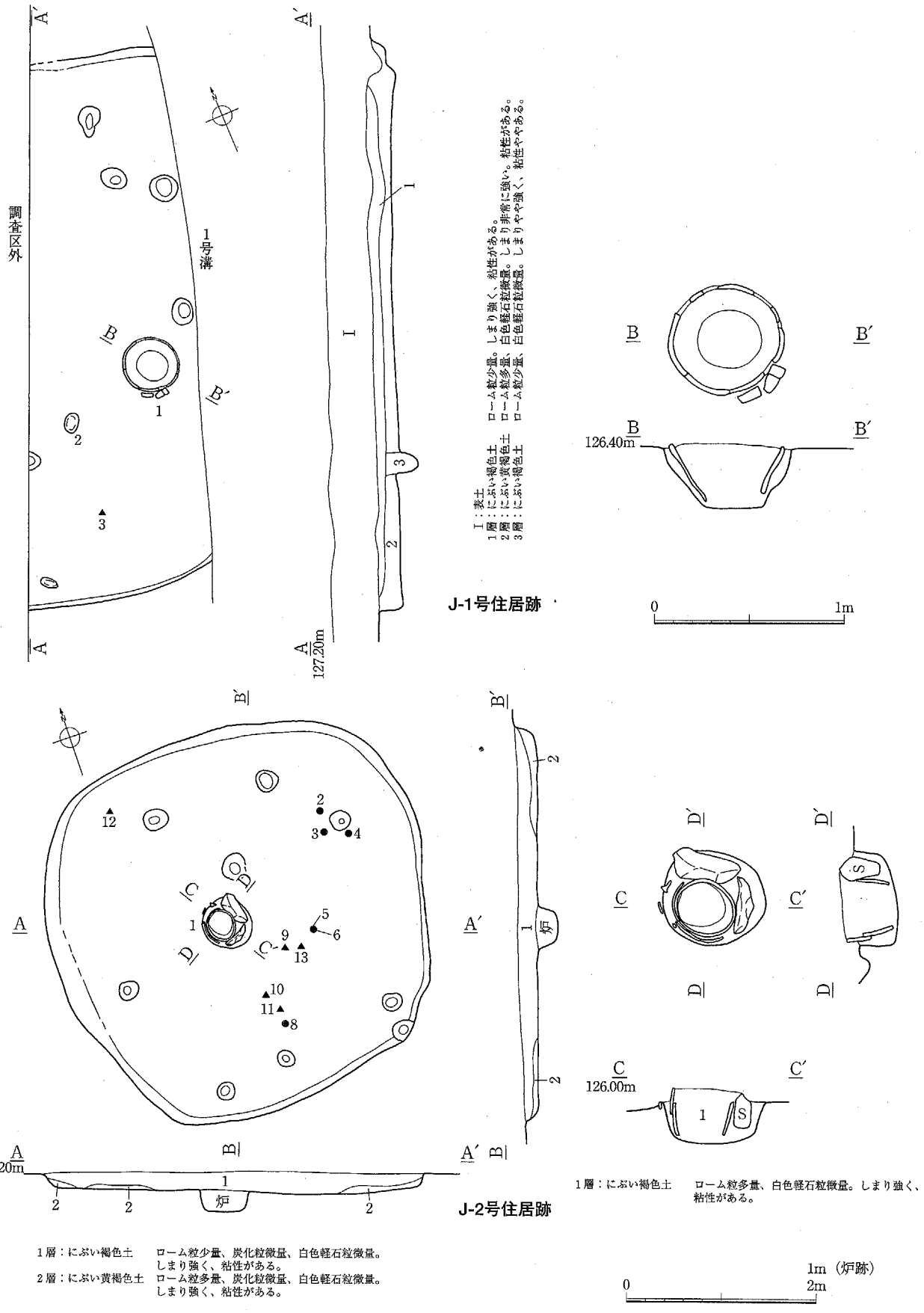
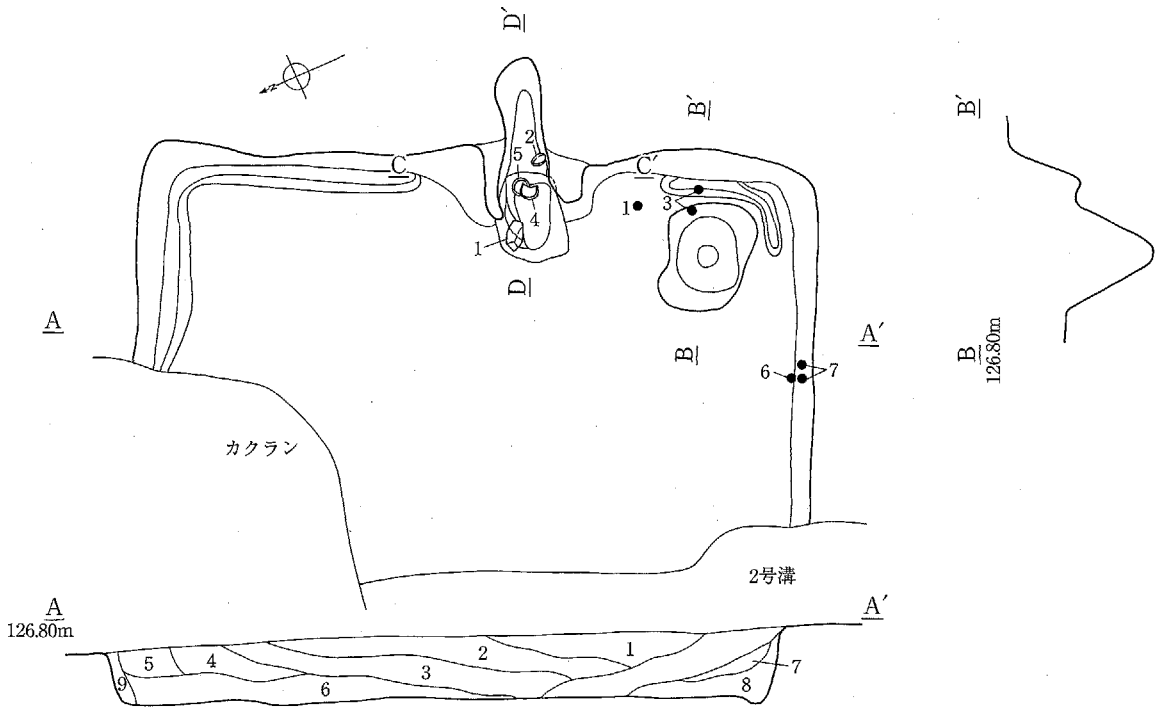
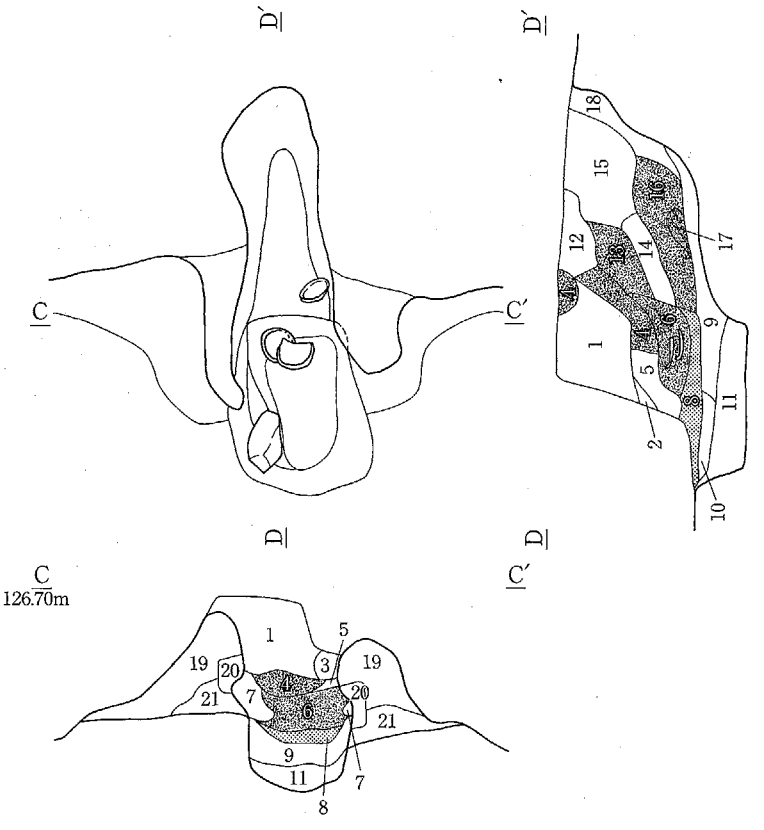


Fig. 6　J－1号住居跡・J－2号住居跡



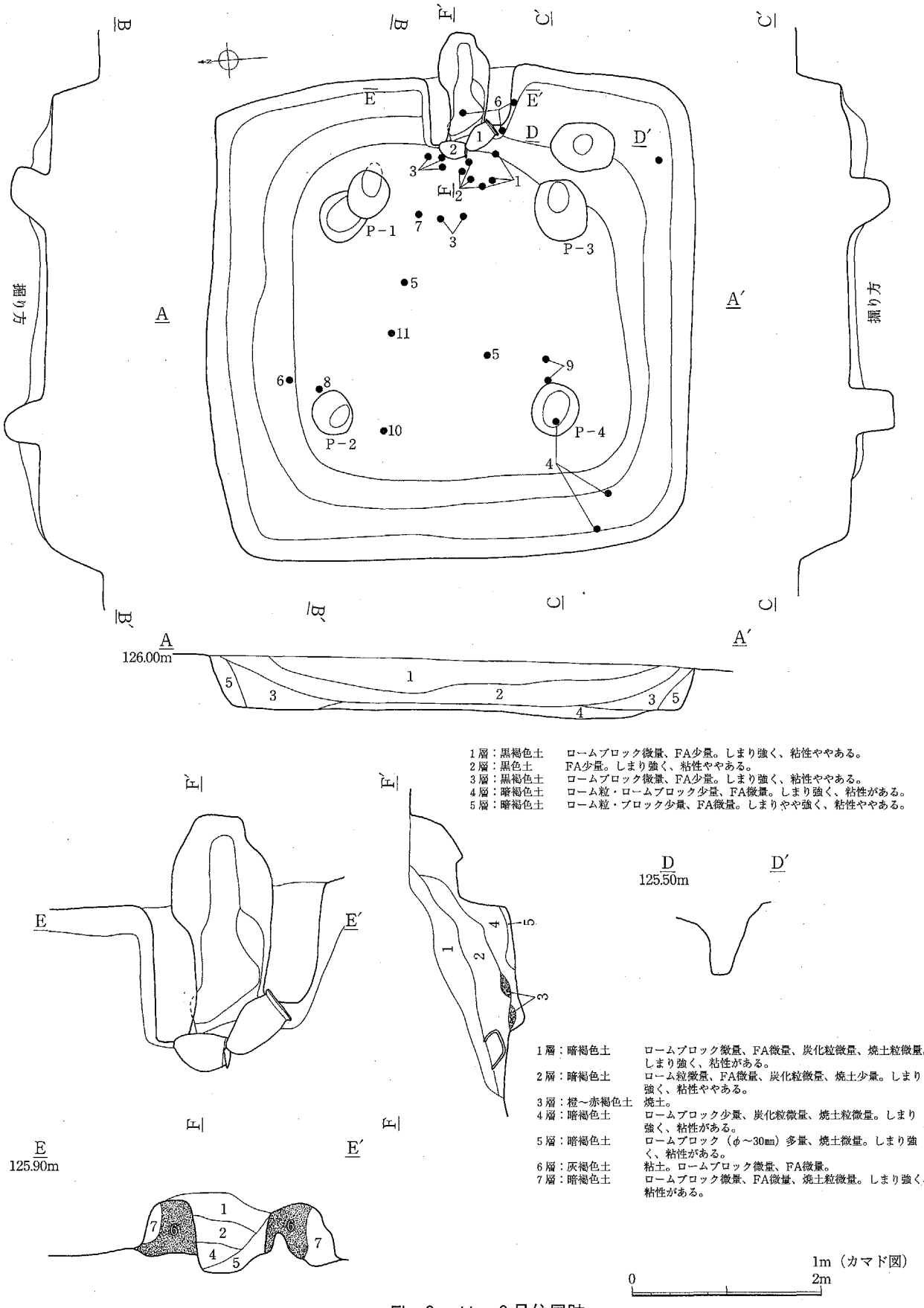
1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層；暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
4層：明黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～100㎜）多量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
5層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～110㎜）少量、FA 少量。しまり強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
8層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
9層：黄褐色土　ローム。壁面の崩落と思われる。しまりやや強い。



1層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA微量、焼土粒微量、粘土ブロック微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
3層：明黄褐色土　ローム。しまり強く、粘性がある。
4層：褐灰色土　粘土。ロームブロック（φ～15㎜）微量。
5層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
6層：褐灰色土　粘土。ロームブロック（φ～15㎜）微量、焼土粒微量。しまり強い。
7層：赤褐色土　ローム粒微量、焼土多量、粘土多量。しまり強い。
8層：灰褐色土　ロームブロック微量、焼土少量、粘土少量、灰多量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
9層：暗褐色土　ロームブロック微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。
10層：灰褐色土　ローム粒微量、焼土やや多量、粘土少量、灰やや多量。しまりやや強く、粘性ややある。
11層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～50㎜）少量、FA微量、焼土微量。しまりやや強く、粘性ややある。
12層：明黄褐色土　ローム。FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
13層：褐灰色土。　粘土。ロームブロック（φ～15㎜）微量、焼土粒微量。しまり強い。
14層：暗褐色土　焼土多量、粘土少量。しまりやや弱い。
15層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
16層：褐灰色土　粘土。ロームブロック微量、焼土少量。
17層：赤褐色土　焼土。粘土微量。しまり強い。
18層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
19層：褐灰色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量。粘質土で、しまり非常に強い。
20層：黄褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量、焼土やや多量。しまり強く、粘性ややある。
21層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土微量。粘質土。しまり強い。

1m（カマド図）
0　2m

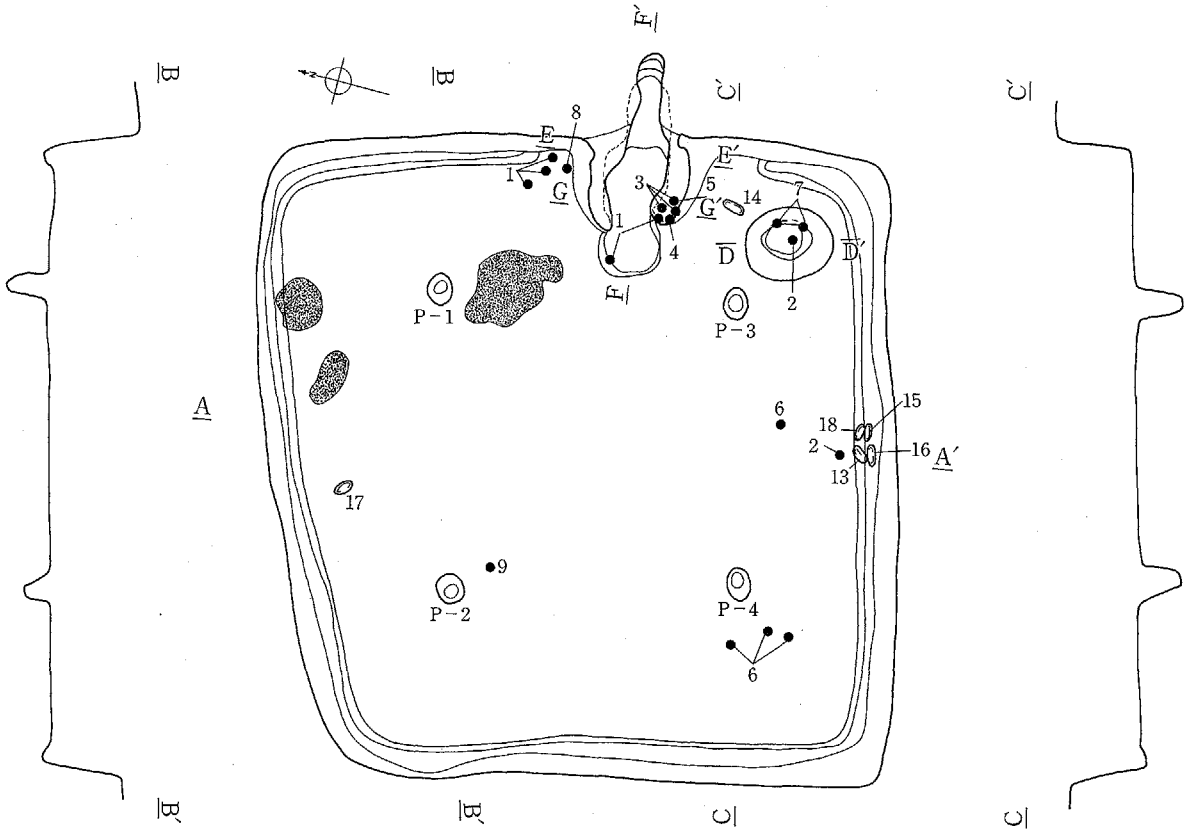
Fig. 7　H－1号住居跡

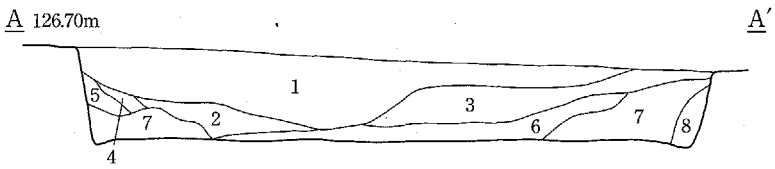


1層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：黒色土　FA少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。

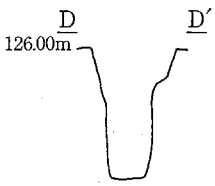
1層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：橙～赤褐色土　焼土。
4層：暗褐色土　ロームブロック少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ロームブロック（φ～30㎜）多量、焼土微量。しまり強く、粘性がある。
6層：灰褐色土　粘土。ロームブロック微量、FA微量。
7層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

Fig. 8　H－2号住居跡





1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～50㎜）やや多量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～50㎜）多量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
7層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。



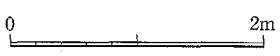
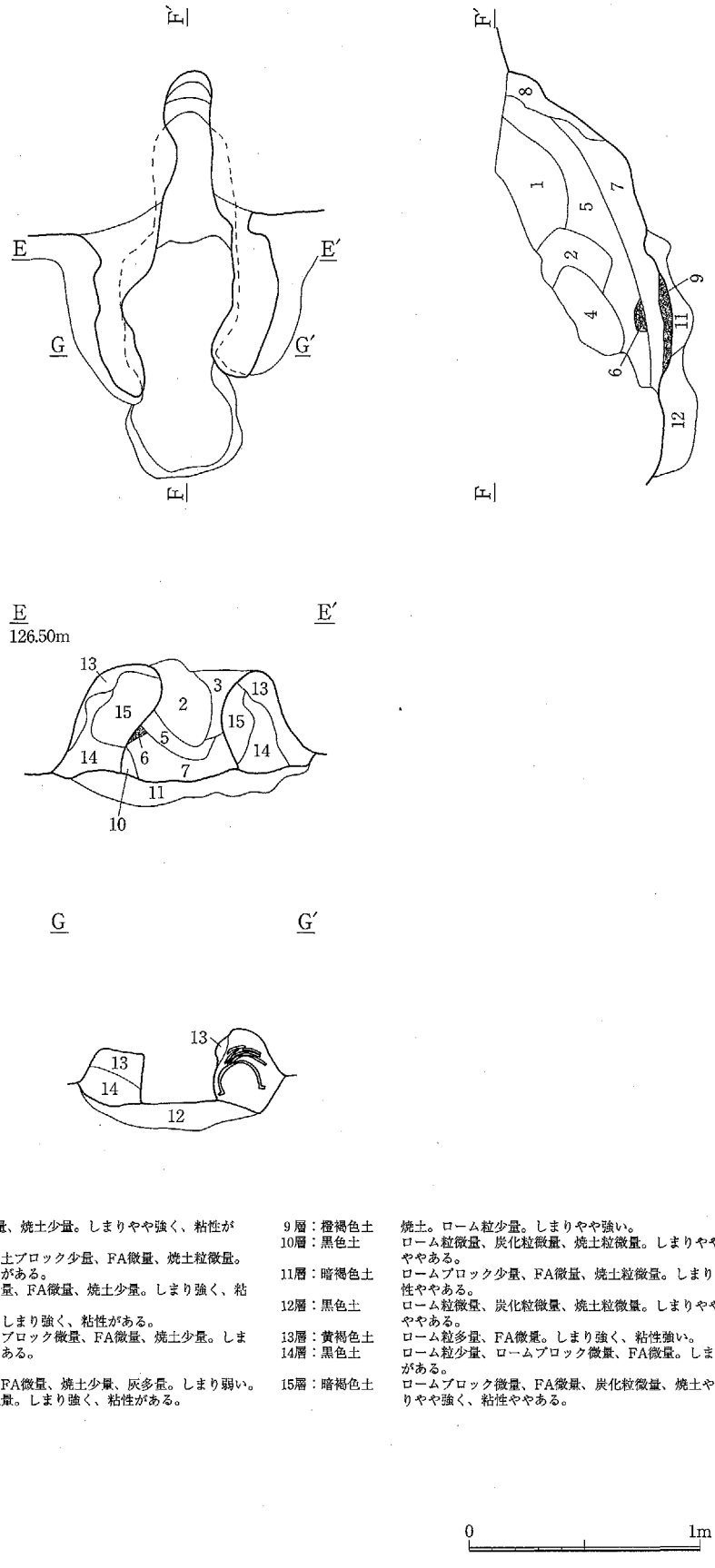


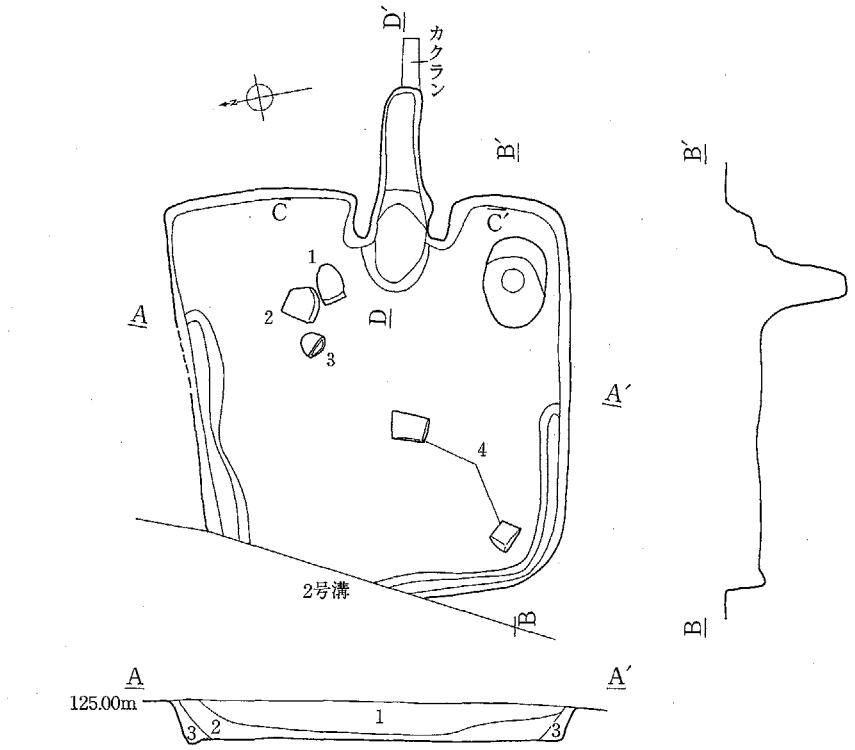
Fig. 9　H－3号住居跡①



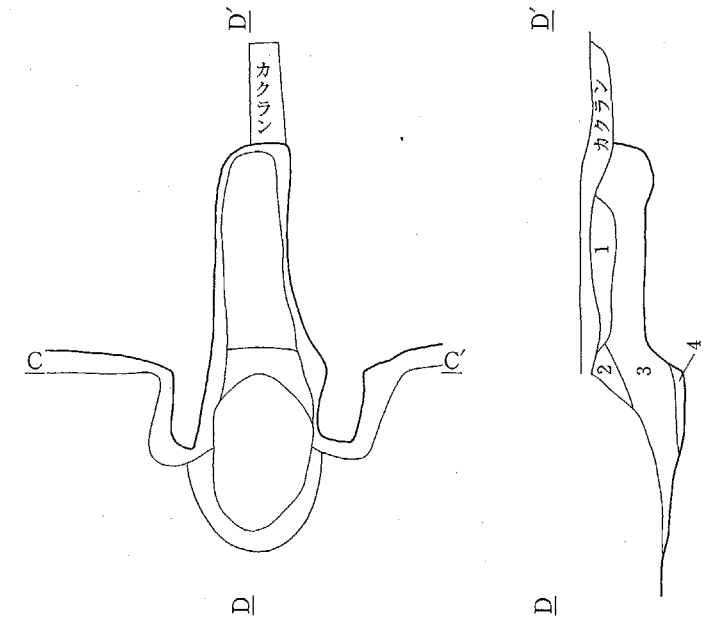
1層：暗赤褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。
2層：黄褐色土　ローム粒多量、暗褐色土ブロック少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
4層：明黄褐色土　ローム。焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：赤褐色土　焼土。しまり強い。
7層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土少量、灰多量。しまり弱い。
8層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量。しまり強く、粘性がある。
9層：橙褐色土　焼土。ローム粒少量。しまりやや強い。
10層：黒色土　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
11層：暗褐色土　ロームブロック少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
12層：黒色土　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
13層：黄褐色土　ローム粒多量、FA微量。しまり強く、粘性強い。
14層：黒色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
15層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土やや多量。しまりやや強く、粘性ややある。

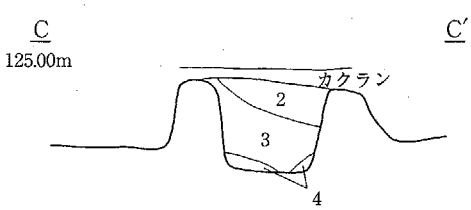
0　1m

Fig.10　H－3号住居跡②



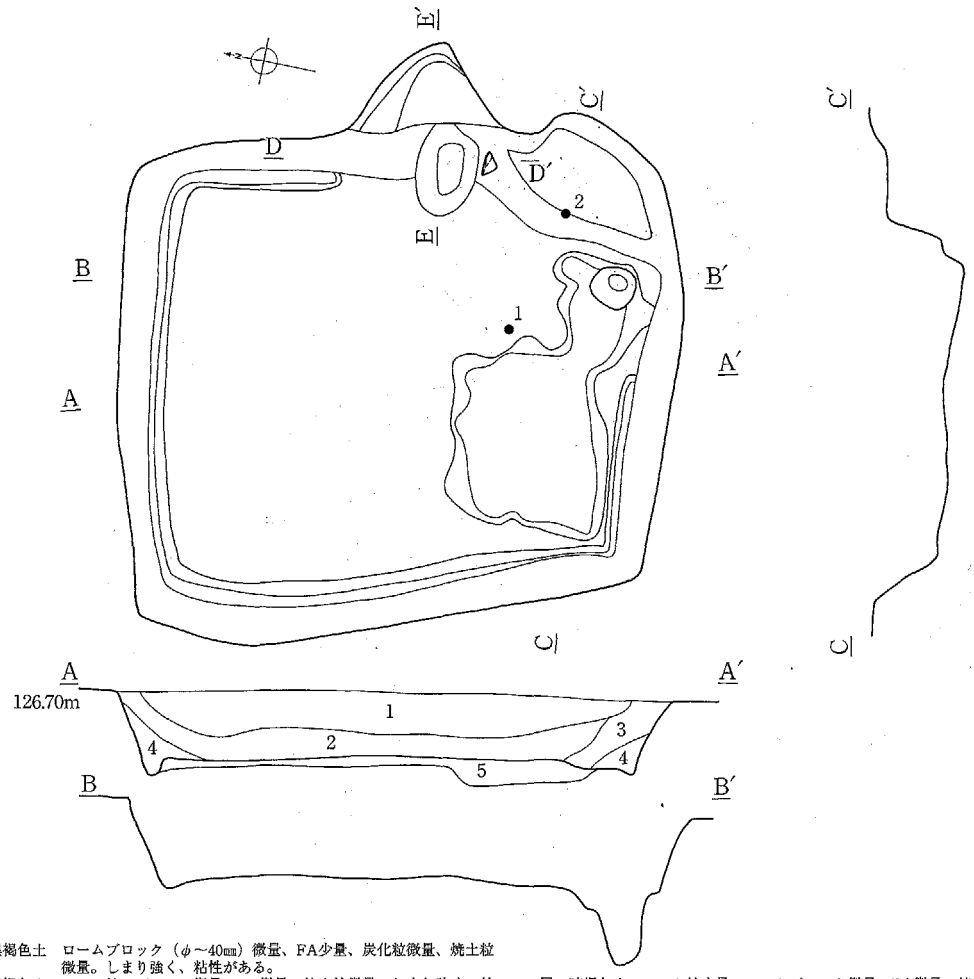
1層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。



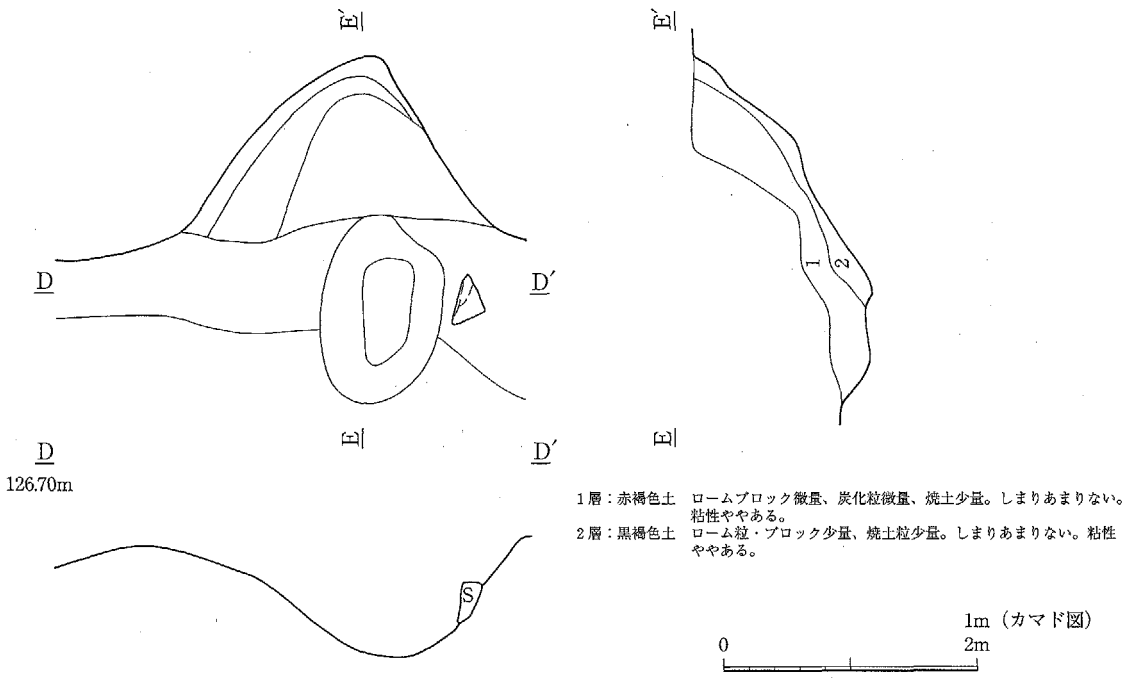


1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～70㎜）やや多量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土ブロック微量、しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロックやや多量。しまりやや弱く、粘性あまりない。

Fig.11　H－4号住居跡



1層：黒褐色土　ロームブロック（φ～40㎜）微量、FA少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、焼土粒少量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。掘り方。



1層：赤褐色土　ロームブロック微量、炭化粒微量、焼土少量。しまりあまりない。粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック少量、焼土粒少量。しまりあまりない。粘性ややある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.12　H－5号住居跡

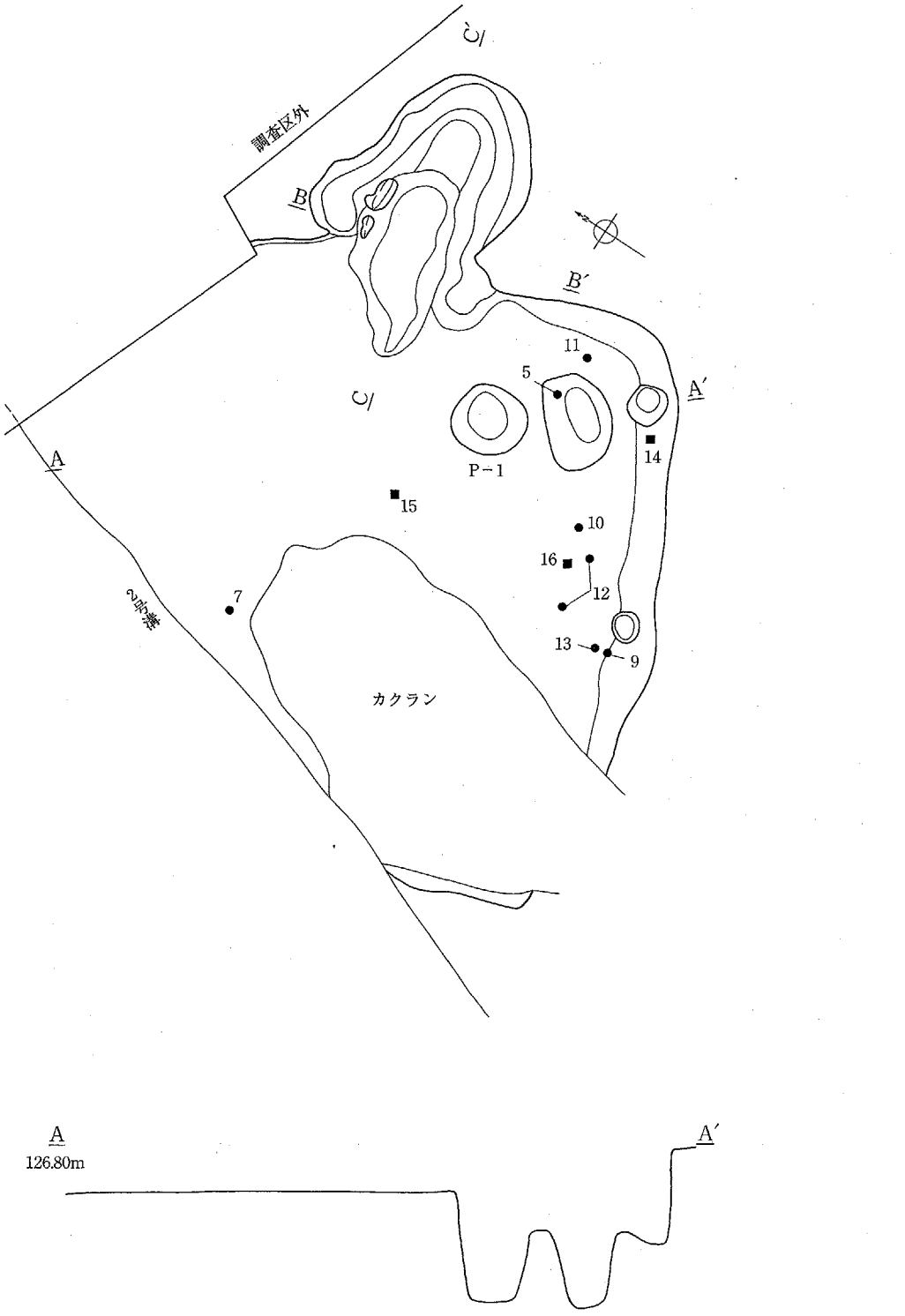
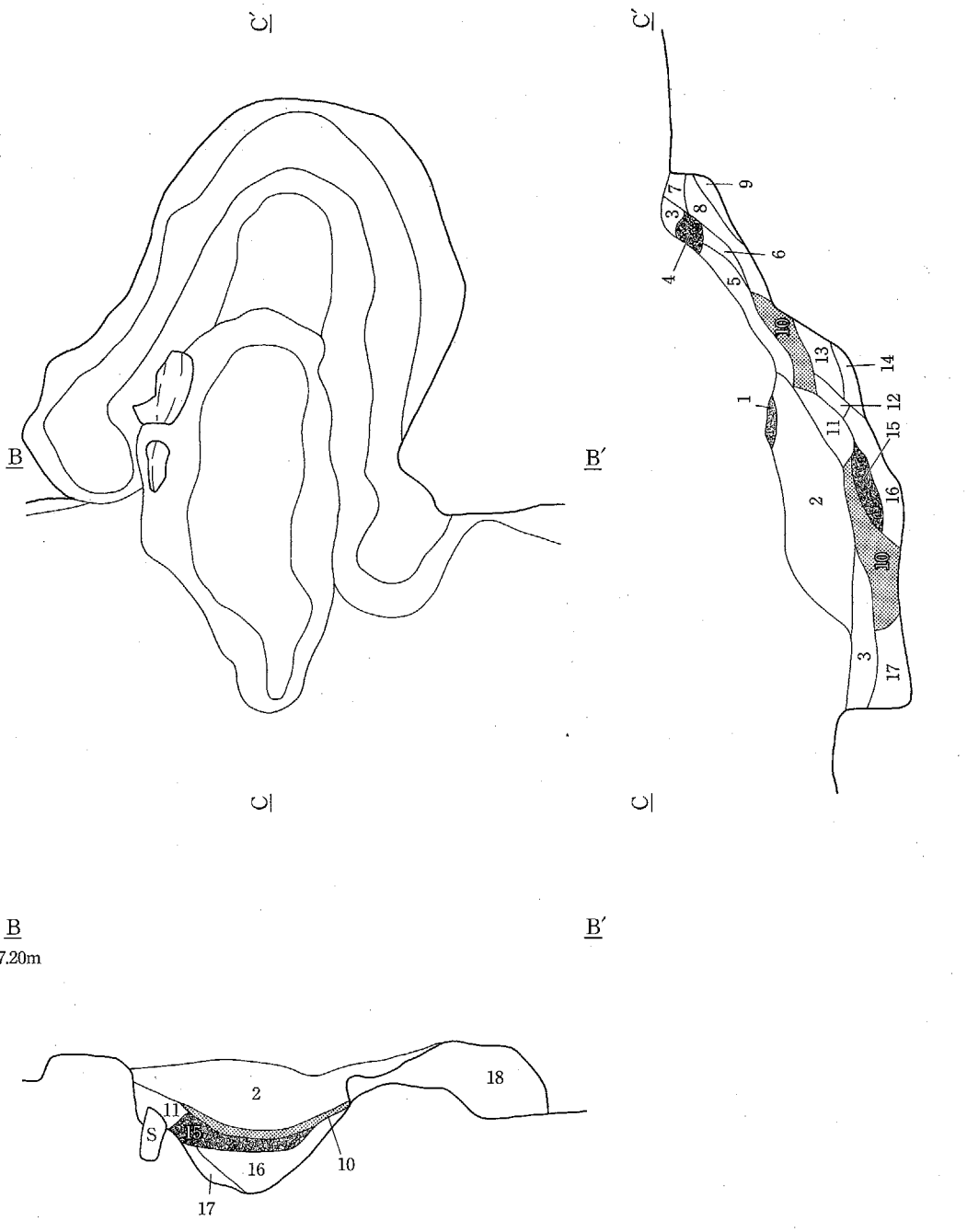


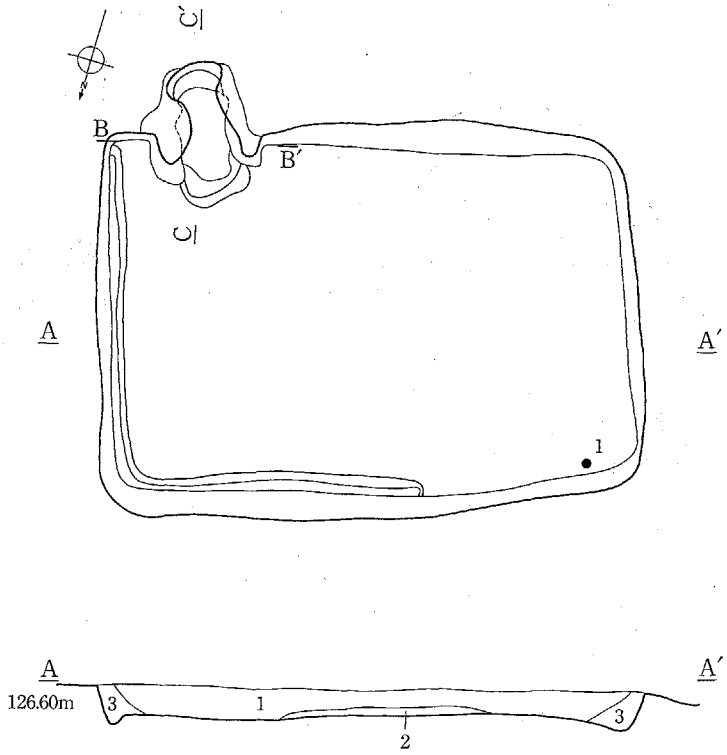
Fig.13　H－6号住居跡①



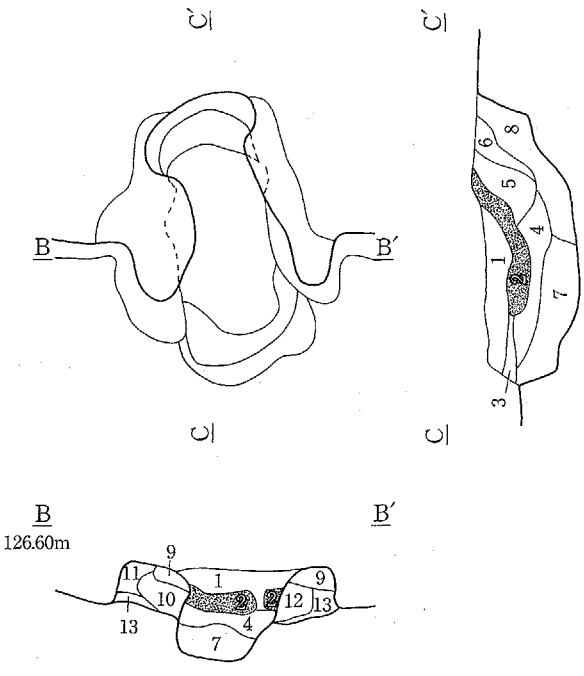
1：灰褐色土　粘土。焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。
2：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり非常に強く硬い。
3：暗褐色土　ローム粒微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
4：灰褐色土　焼土。FA微量、焼土少量。しまり強い。
5：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
6：暗褐色土　FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
7：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。
8：灰褐色土　焼土粒微量、灰少量。
9：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
10：灰褐色土　灰層。炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや弱い。
11：暗褐色土　焼土少量、粘土少量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
12：赤褐色土　ロームブロック微量、焼土やや多量。しまり強く、粘性がある。
13：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。
14：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～25㎜）少量。しまり強く、粘性がある。
15：赤褐色土　焼土。灰微量。しまり強い。
16：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
17：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～25㎜）少量。しまり強く、粘性がある。
18：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ50㎜）やや多量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

0　1m

Fig.14　H－6号住居跡②



1層：黒色土　　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒やや多量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。



1層：暗褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：明黄褐色土　ローム、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：黒色土　　ロームブロック少量、炭化粒微量、焼土少量。灰やや多量。しまりやや弱い。
5層：暗赤褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量、焼土やや多量。しまり強い。
6層：黄褐色土　　ローム粒多量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　　ローム粒・ブロックやや多量、FA微量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
8層：黒色土　　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
9層：暗褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
10層：黒褐色土　　ロームブロック微量、FA微量、焼土やや多量。しまり強く、粘性がある。
11層：黒褐色土　　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
12層：黒褐色土　　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
13層：黄褐色土　　ローム粒やや多量、FA微量。しまり強く、粘性がある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.15　H－7号住居跡

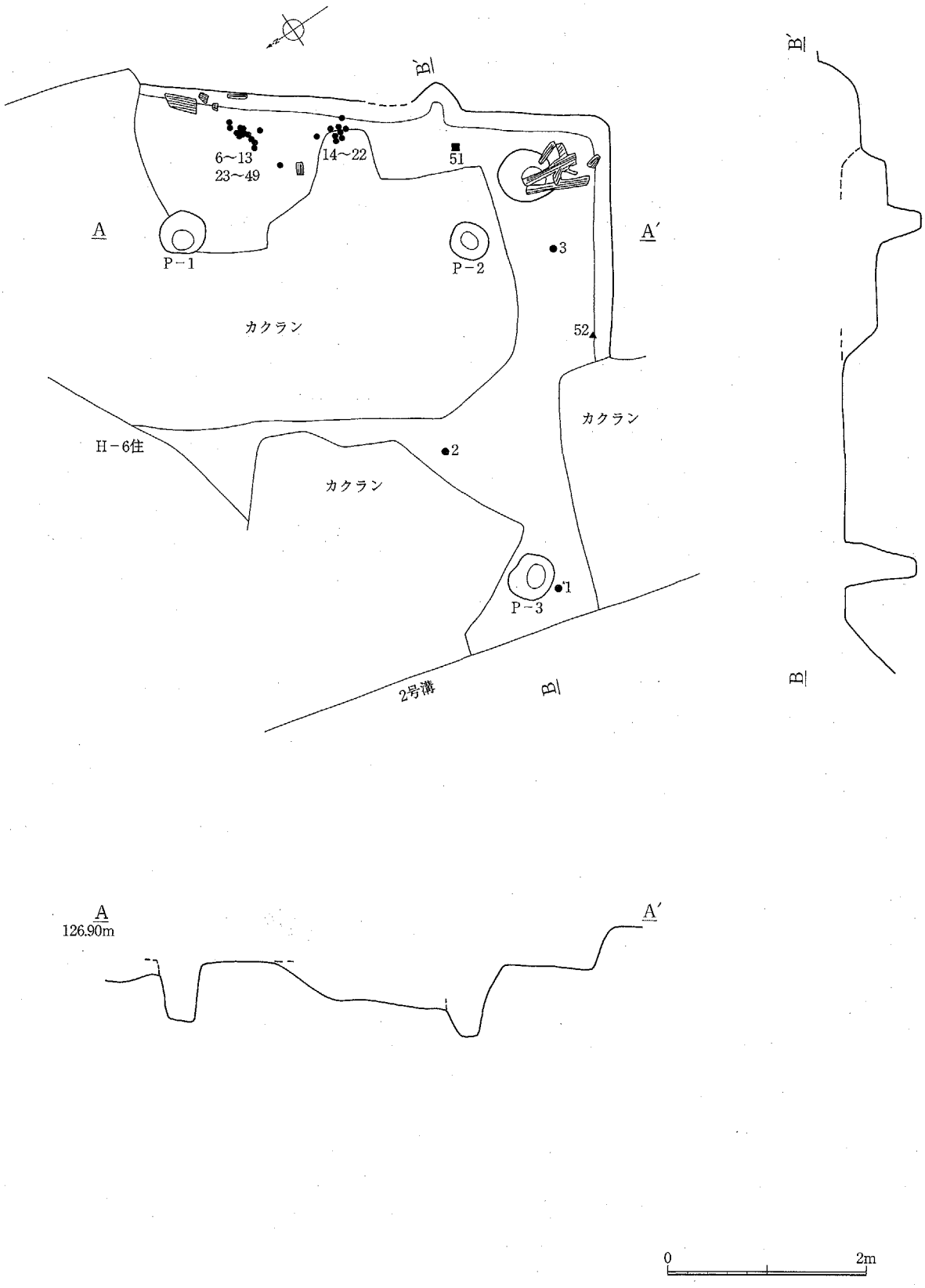
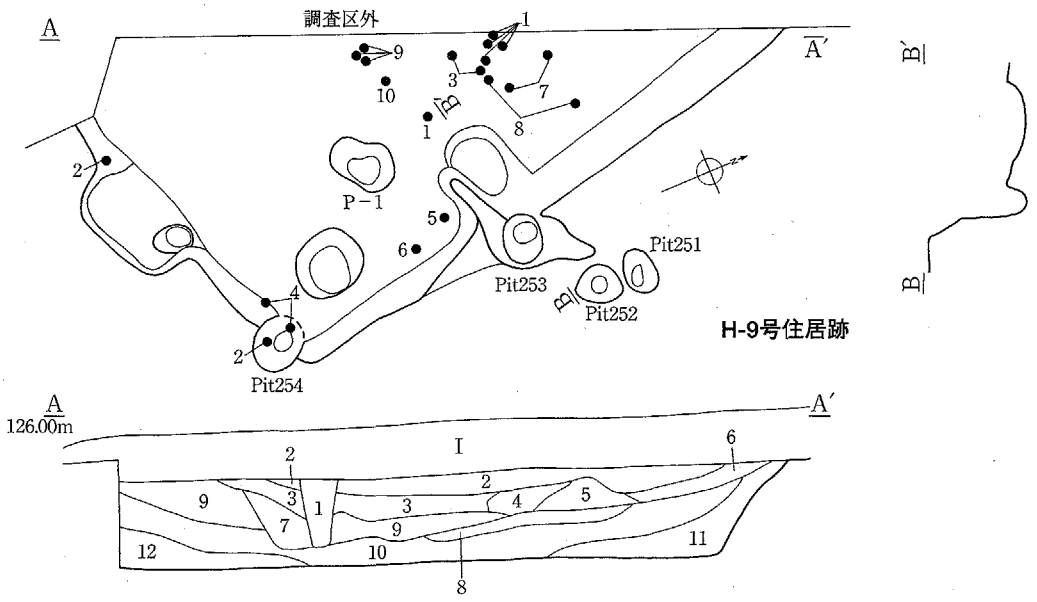
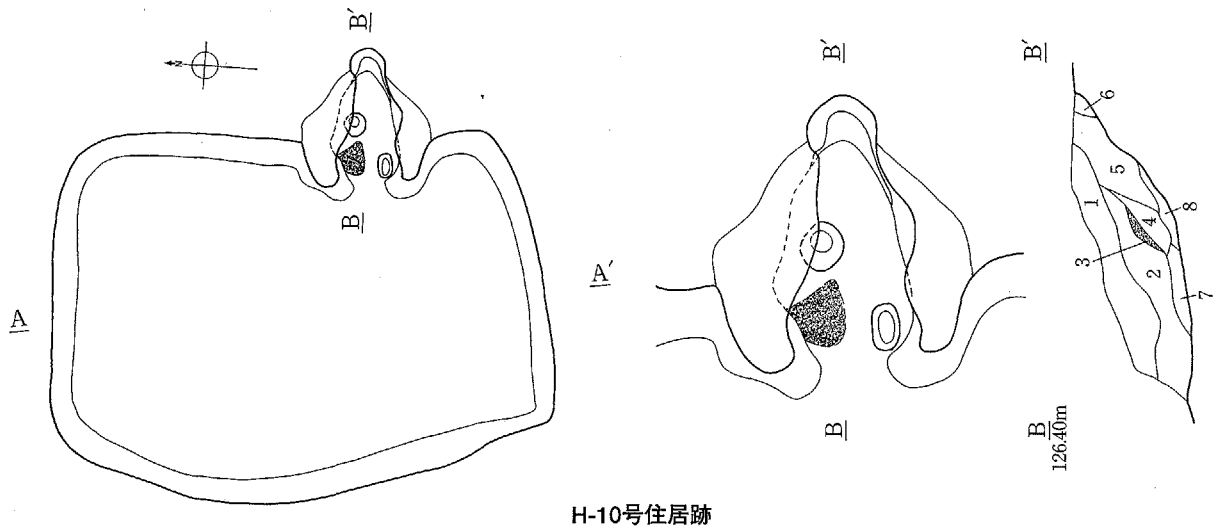


Fig.16　H－8号住居跡



I：表土
1層：黒色土　ロームブロック微量、FA少量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒色土　ローム粒微量、FA少量、炭化粒微量、焼土ブロック少量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA（φ～10㎜）少量、炭化粒微量、焼土ブロック少量、粘土ブロック微量。しまり強く、粘性がある。
4層：灰褐色土　FA微量、炭化粒微量、焼土ブロック少量、粘土やや多量。粘質土。しまり強い。
5層：灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土ブロック少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
6層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA少量、焼土ブロック少量。しまりやや強く、粘性がある。
8層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA（φ～40㎜）少量。しまりやや強く、粘性がある。
9層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）やや多量、FA（φ～40㎜）少量。しまりやや強く、粘性ややある。
10層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
11層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
12層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA（φ～40㎜）微量。しまりやや強く、粘性がある。



H-10号住居跡

1層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒色土　ロームブロック微量、FA少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。

1層：黒色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。粘質土。しまり強い。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒少量。しまり強く、粘性がある。
3層：黄灰色土　粘土。
4層：赤褐色土　ローム粒微量、焼土やや多量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
6層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
7層：褐灰色土　ロームブロック微量、焼土粒少量、上面に灰がラミナ状に堆積。しまりやや強く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量。しまりやや強く、粘性がある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.17　H－9号住居跡・H－10号住居跡

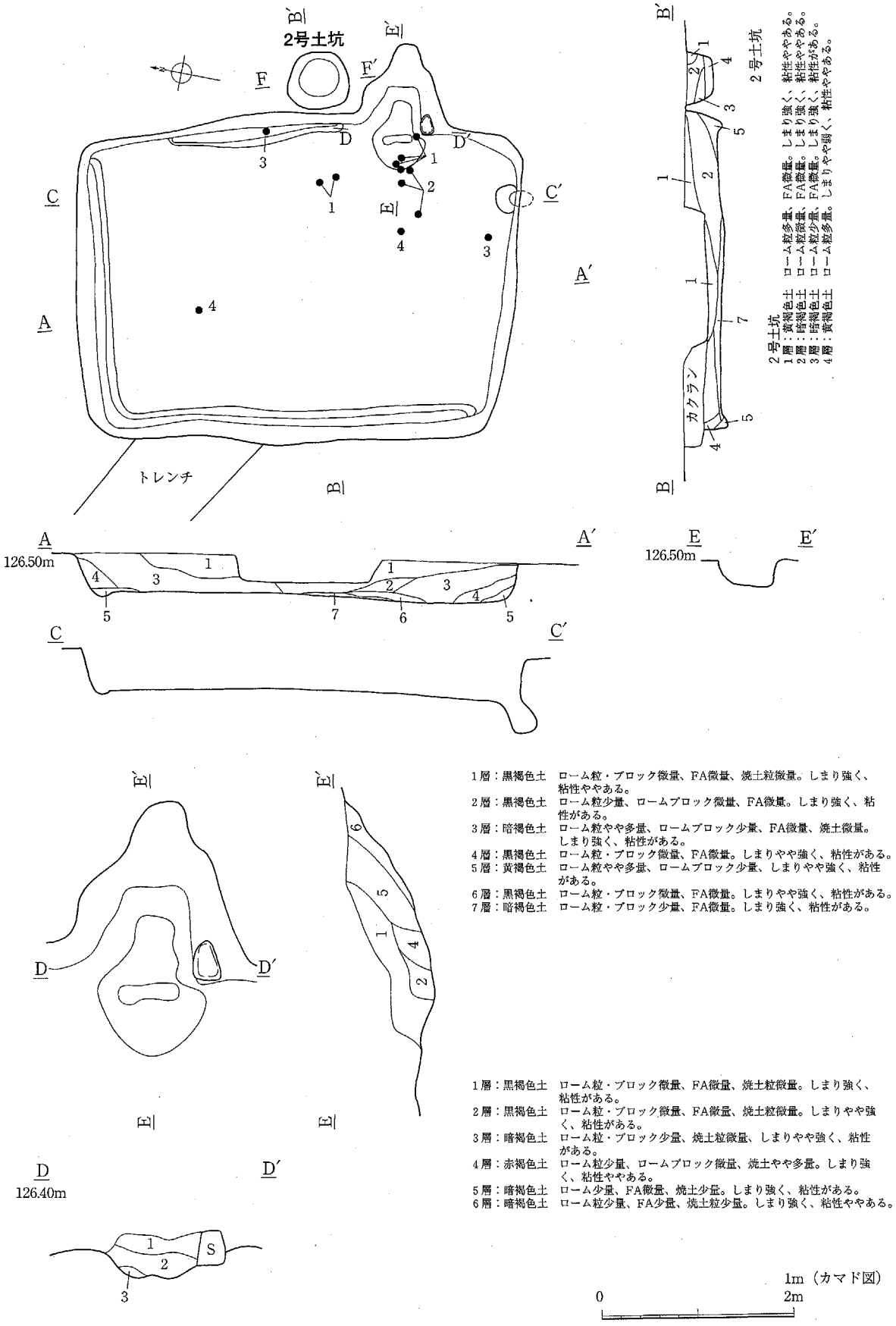
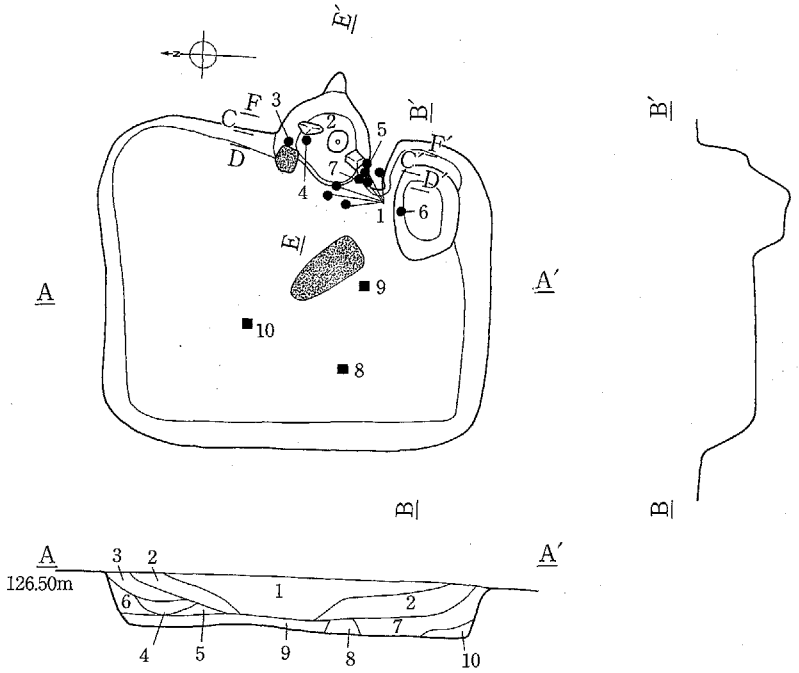
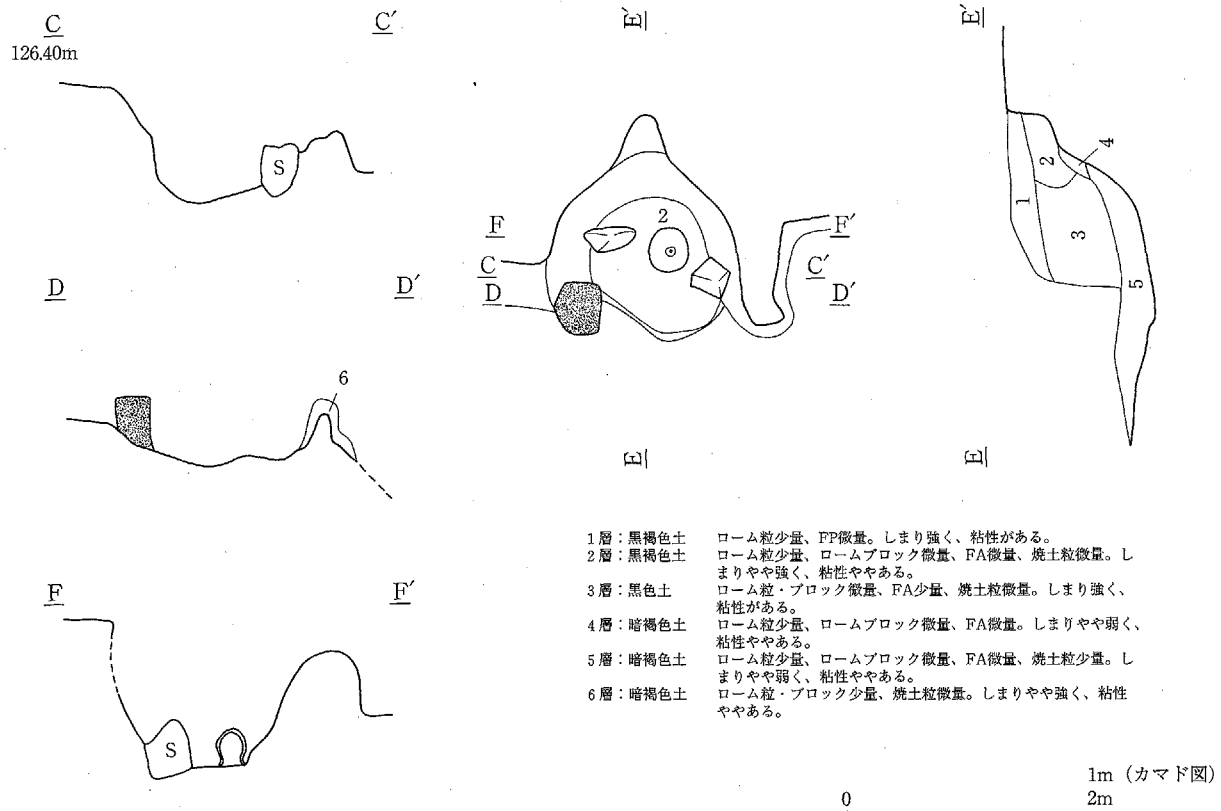


Fig.18　H－11号住居跡・２号土坑



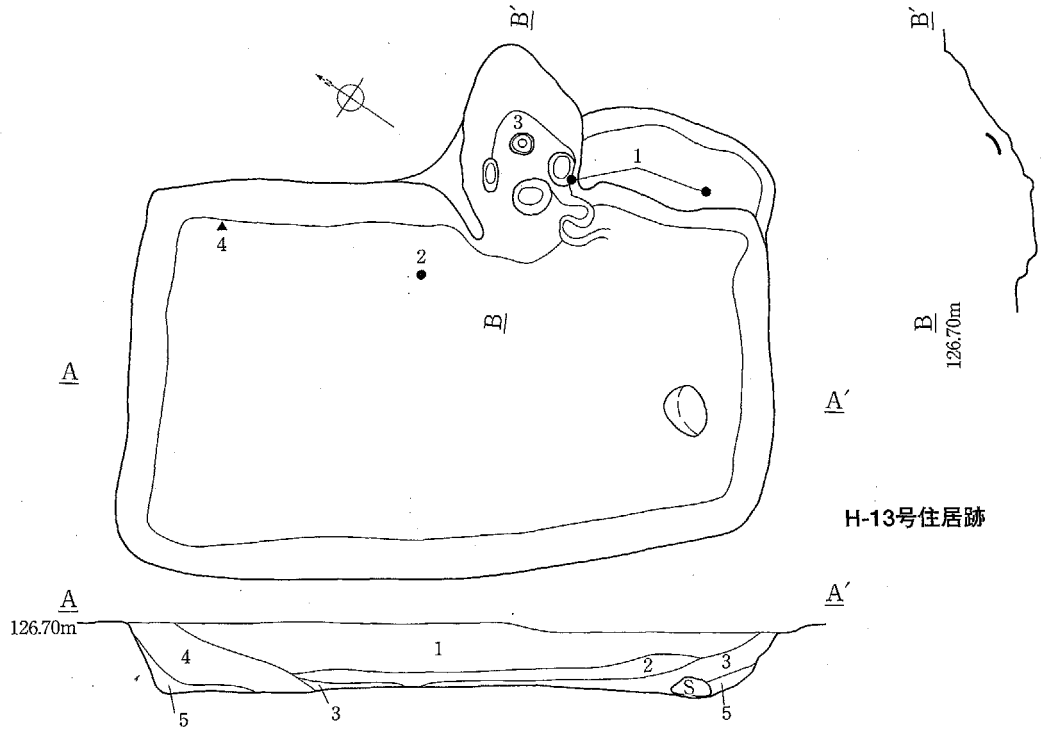
1層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：黄褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量・ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
4層：黄褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～30㎜）、FA微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
7層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
8層：明黄褐色土　ローム。しまり強い。
9層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。しまり強く、粘性がある。
10層：暗褐色土　ローム少量。しまりやや弱く、粘性ややある。



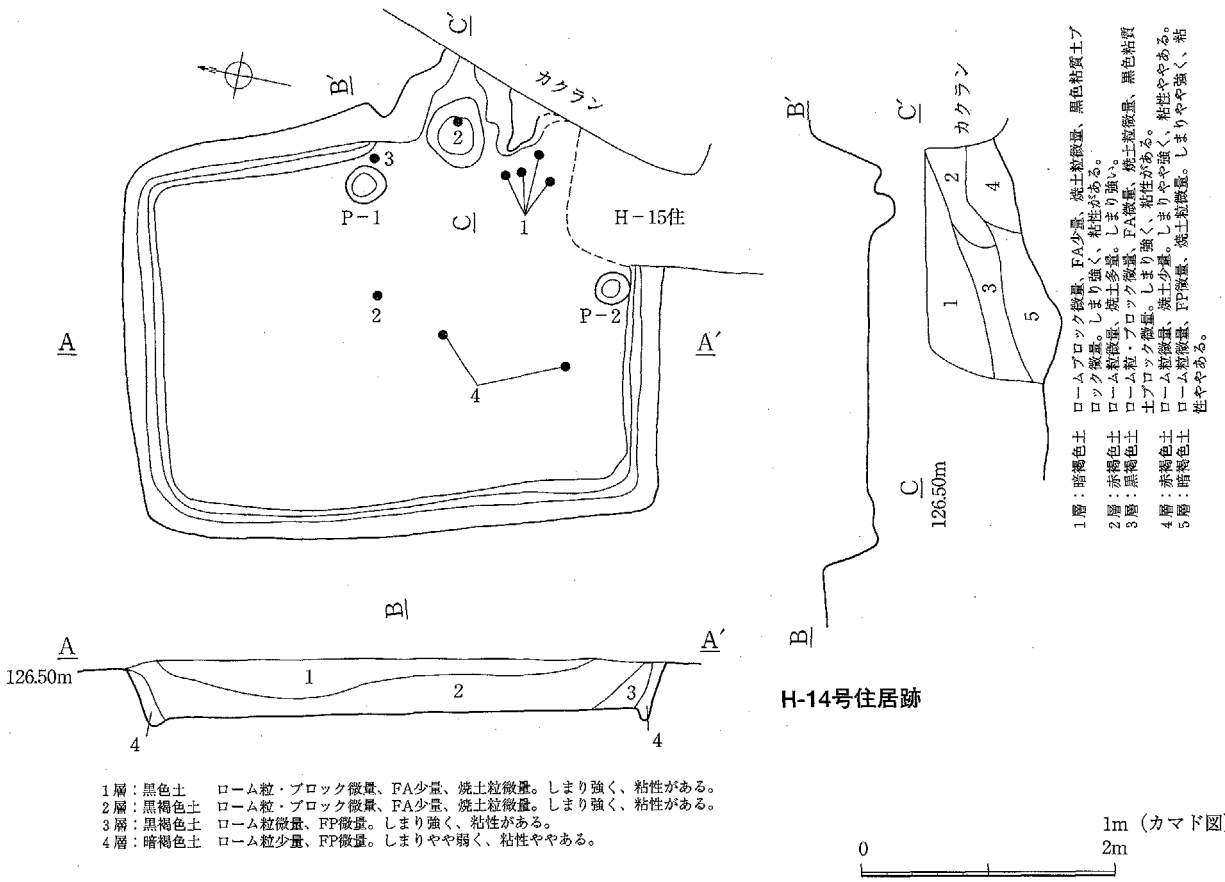
1層：黒褐色土　ローム粒少量、FP微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.19　H－12号住居跡



1層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
2層：黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～100㎜）やや多量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ローム粒少量、ローム粒微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～50㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量。しまりやや強く、粘性ややある。

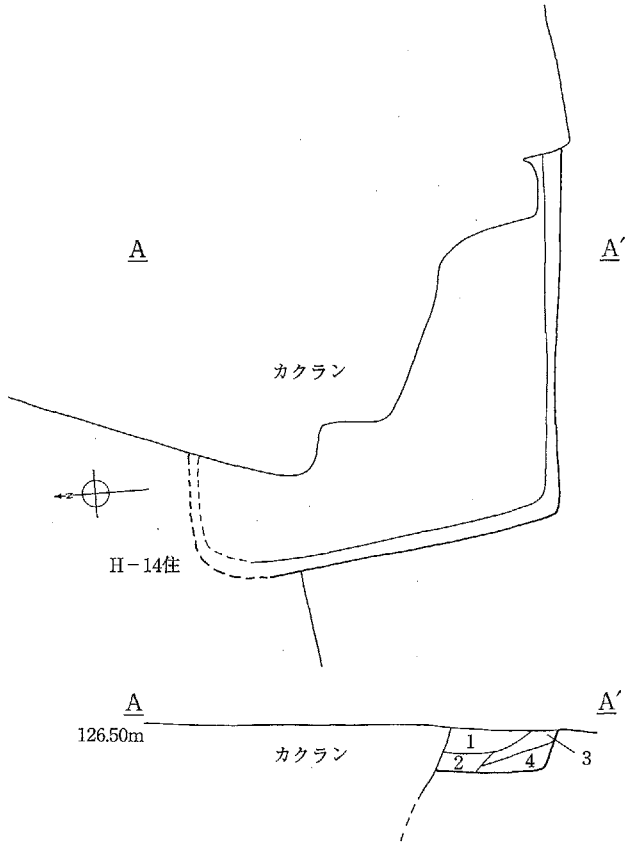


1層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ローム粒微量、FP微量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、FP微量。しまりやや弱く、粘性ややある。

1層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA少量、焼土粒微量、黒色粘質土ブロック微量。しまり強く、粘性がある。
2層：赤褐色土　ローム粒微量、焼土多量。しまり強い。
3層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量、黒色粘質土ブロック微量。しまり強く、粘性がある。
4層：赤褐色土　ローム粒微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒微量、FP微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.20　H－13号住居跡・H－14号住居跡



1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
4層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。

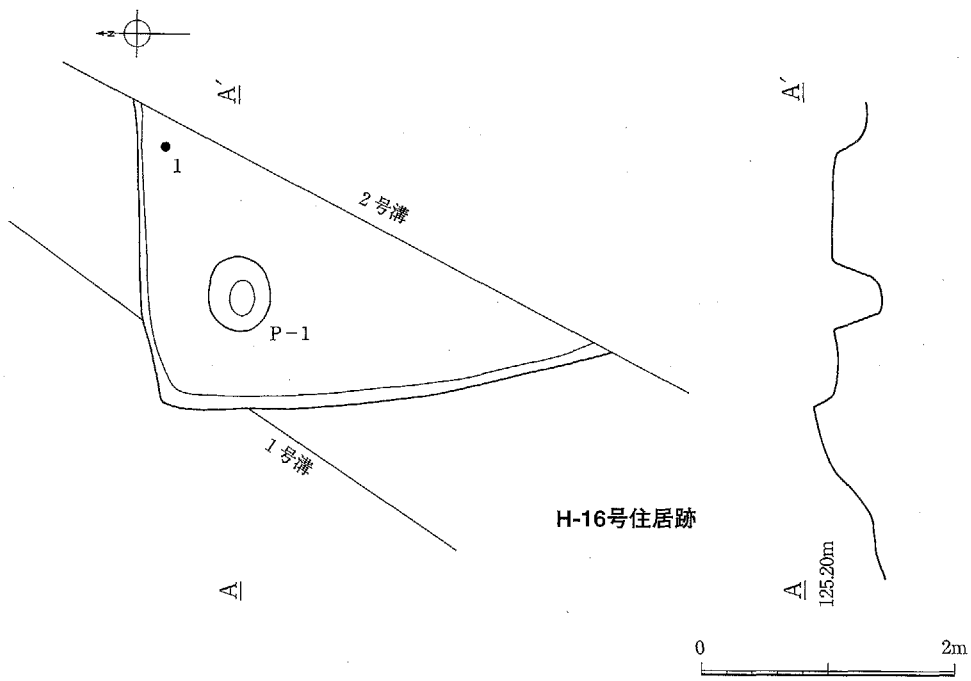
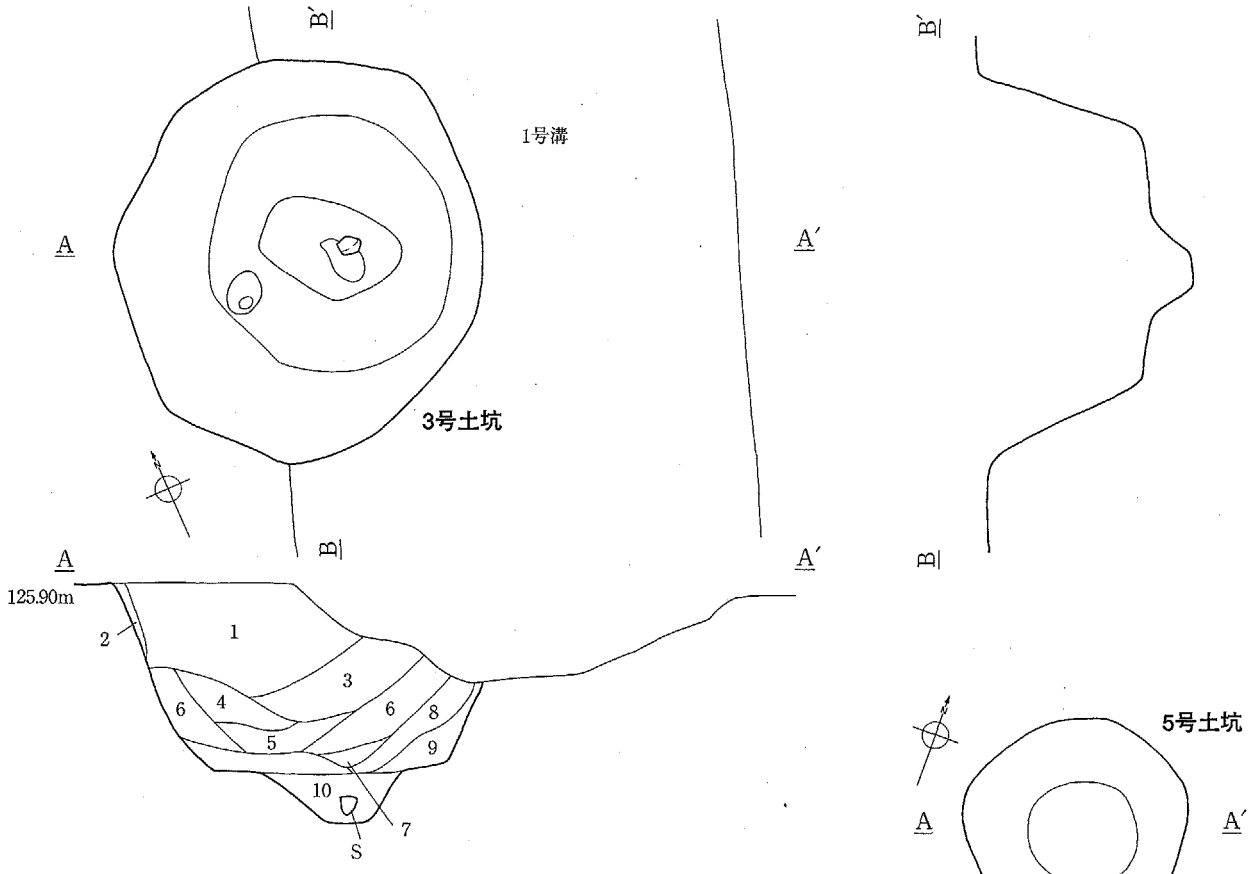
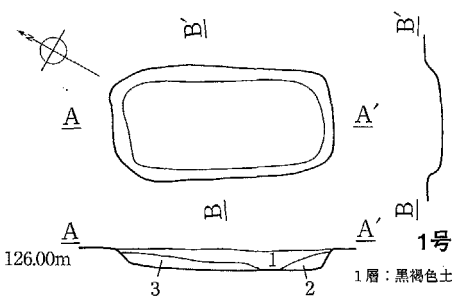


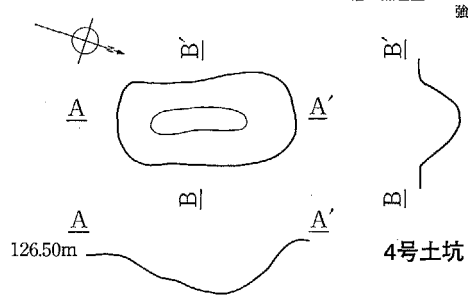
Fig.21　H－15号住居跡・H－16号住居跡

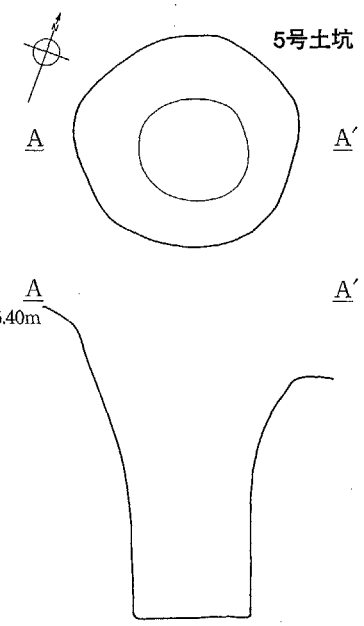


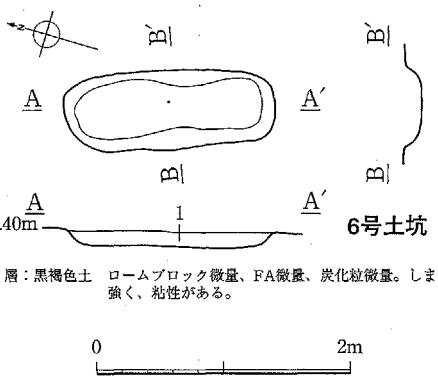
1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA少量、焼土粒少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、しまりやや弱く、粘性ややある。
3層：黒色土　ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
5層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
6層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、FP微量。しまり強く、粘性がある。
7層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
9層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
10層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。



1層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある







1層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。

0　2m

Fig.22　土坑

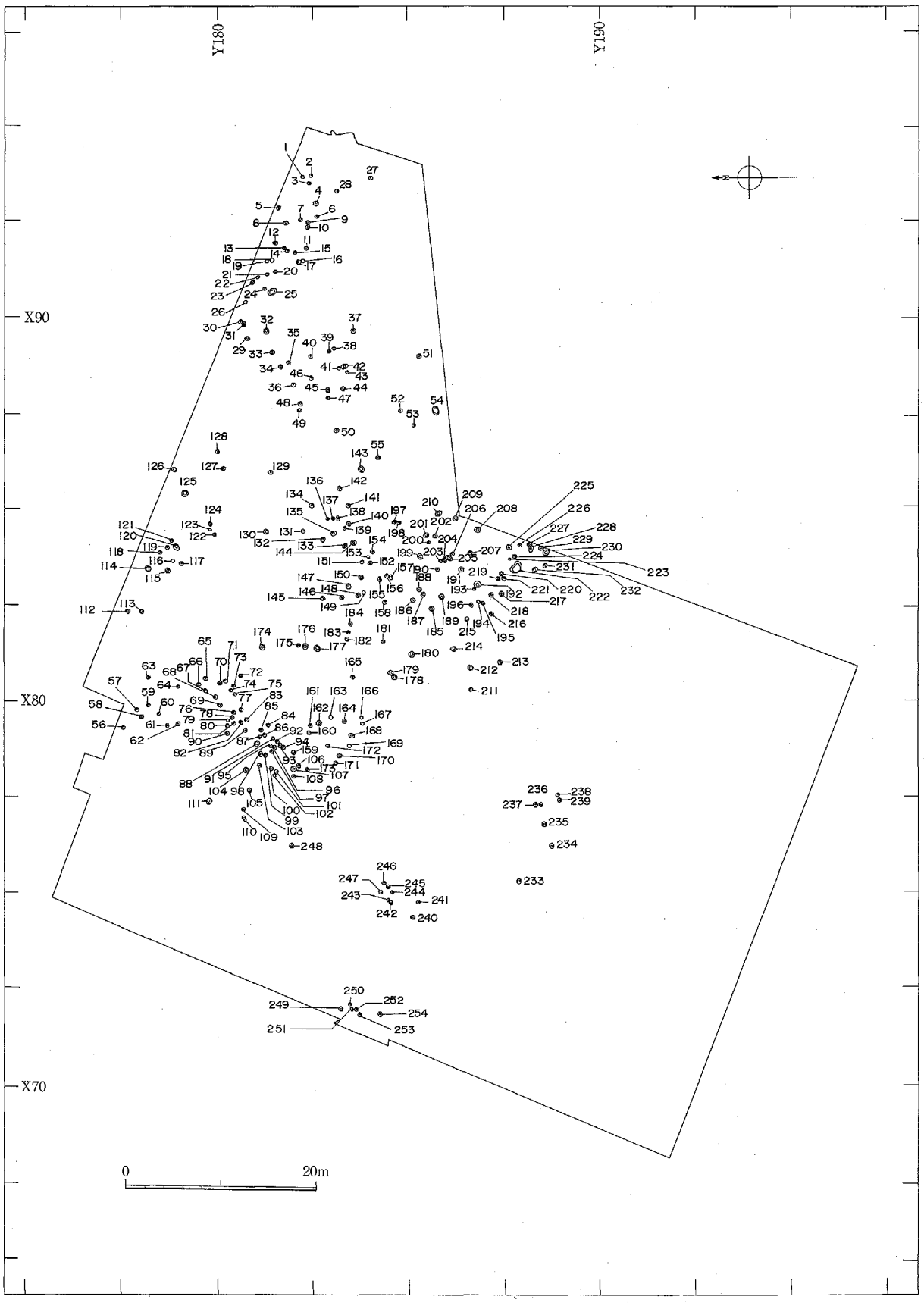
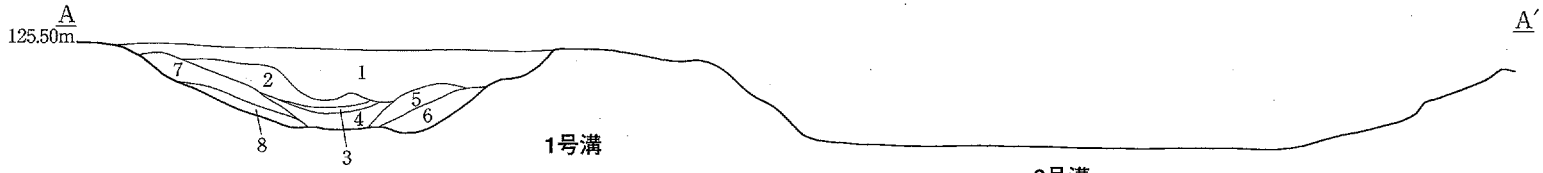


Fig.23　ピット位置図



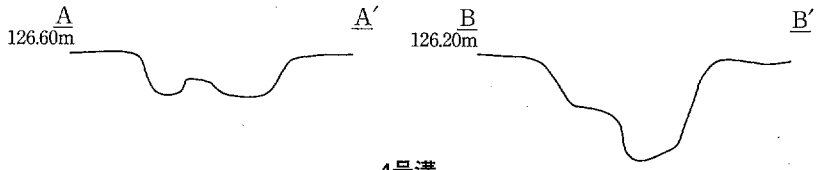
1号溝

2号溝

1層：黒褐色土　ロームブロック（φ～15㎜）微量、砂粒多量。しまりやや強く、粘性はない。
2層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量。砂粒少量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
3層：黒褐色土　ロームブロック微量、砂粒やや多量。しまり強く硬い。鉄分沈着。
4層：暗褐色土　ロームブロック微量、砂粒やや多量。しまり強く硬い。下位は非常に硬い。鉄分沈着。
5層：暗褐色土　浅間B軽石少量、FA微量、砂粒少量。しまり強く、粘性あまりない。
6層：黒褐色土　ローム粒少量、浅間B軽石少量、砂粒少量。しまり強く、粘性あまりない。
7層：暗褐色土　ローム粒微量、浅間B軽石微量、砂粒微量。しまり強く、粘性がある。
8層：黄褐色土　ローム粒やや多量。しまり強く、粘性がある。

3号溝

1号溝



4号溝

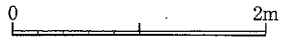


Fig.24　溝土層図・エレベーション図

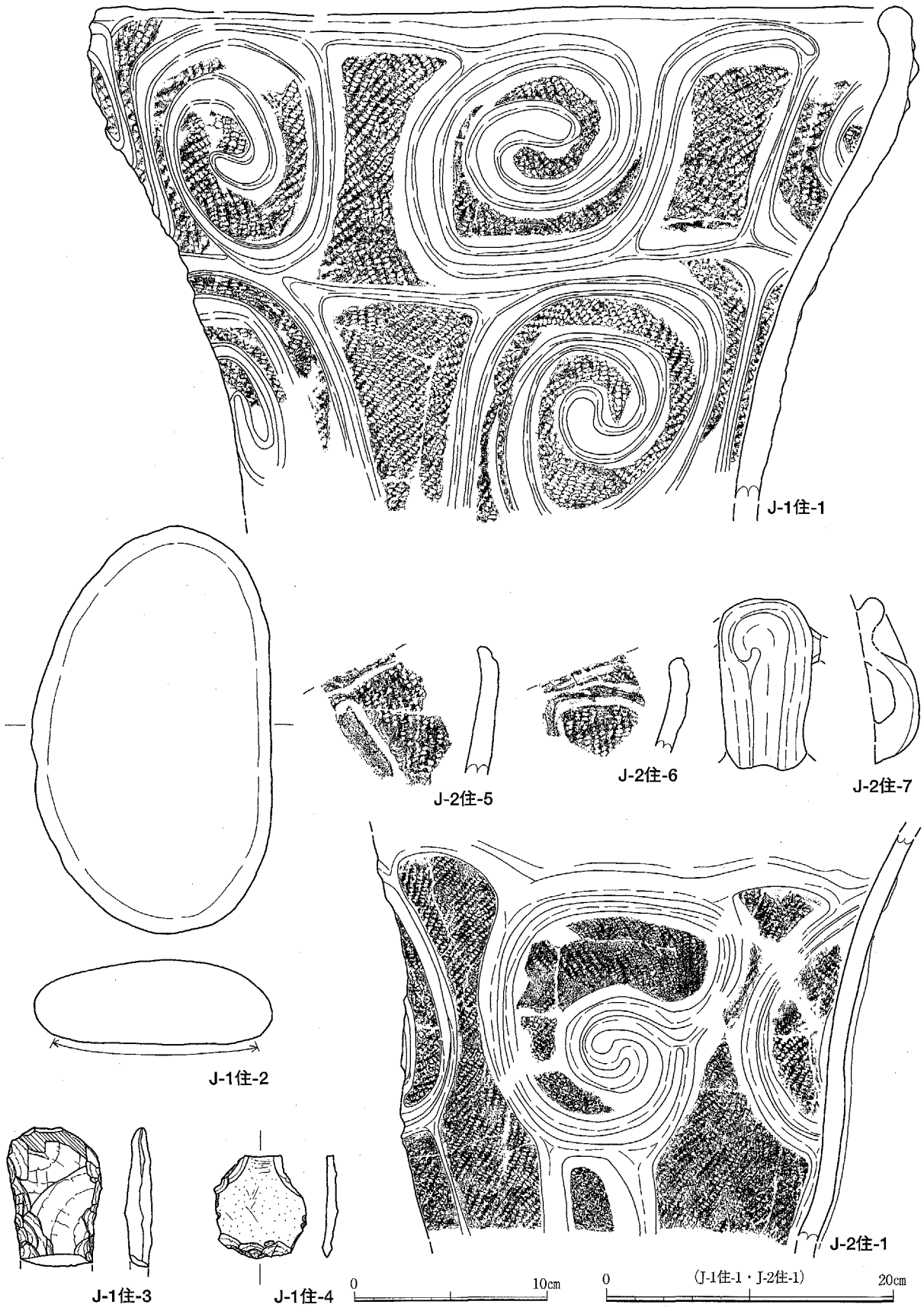


Fig.25　Ｊ－１号・Ｊ－２号住居跡出土遺物

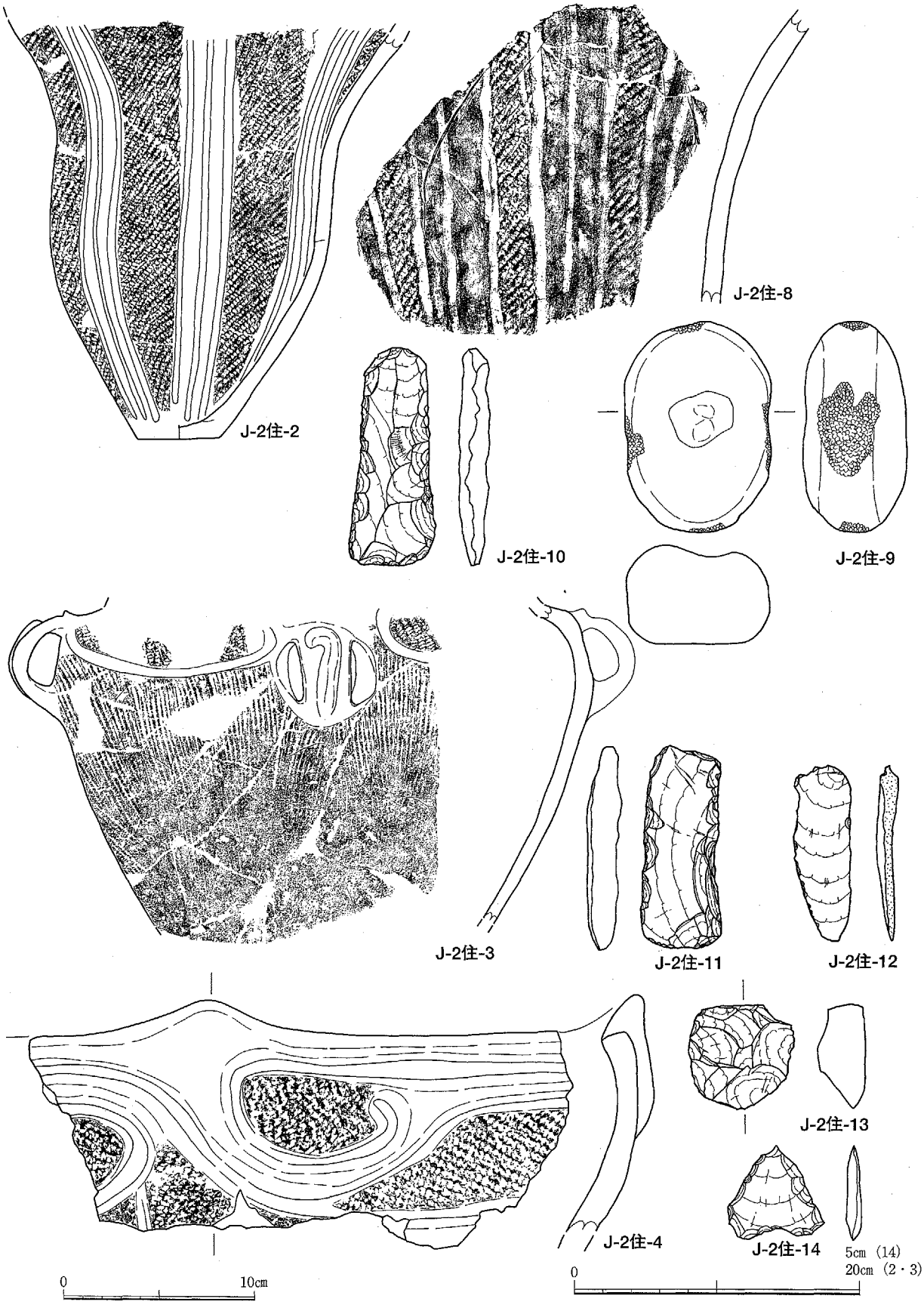


Fig.26　J－2号住居跡出土遺物

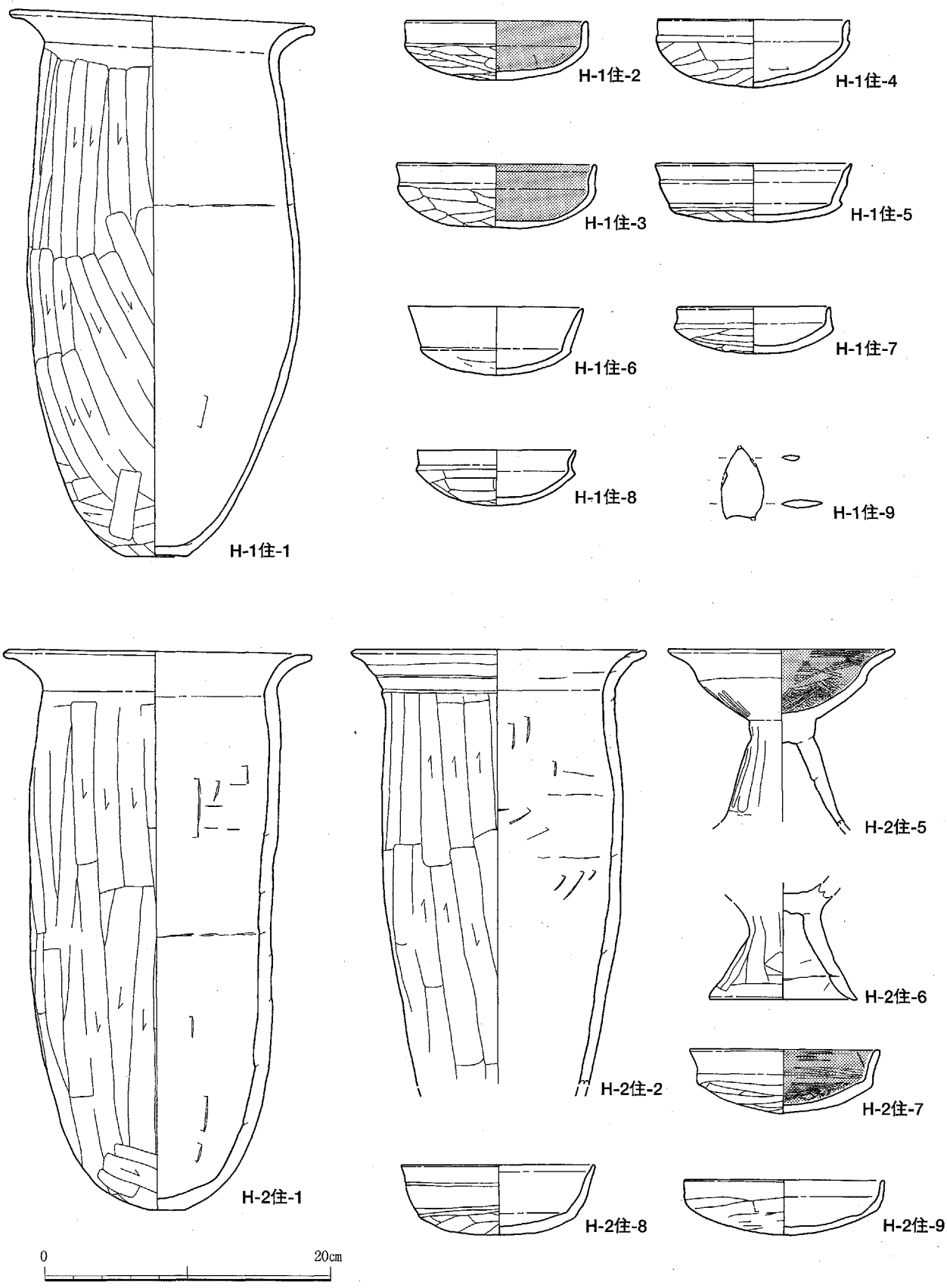


Fig.27　H－1号・H－2号住居跡出土遺物

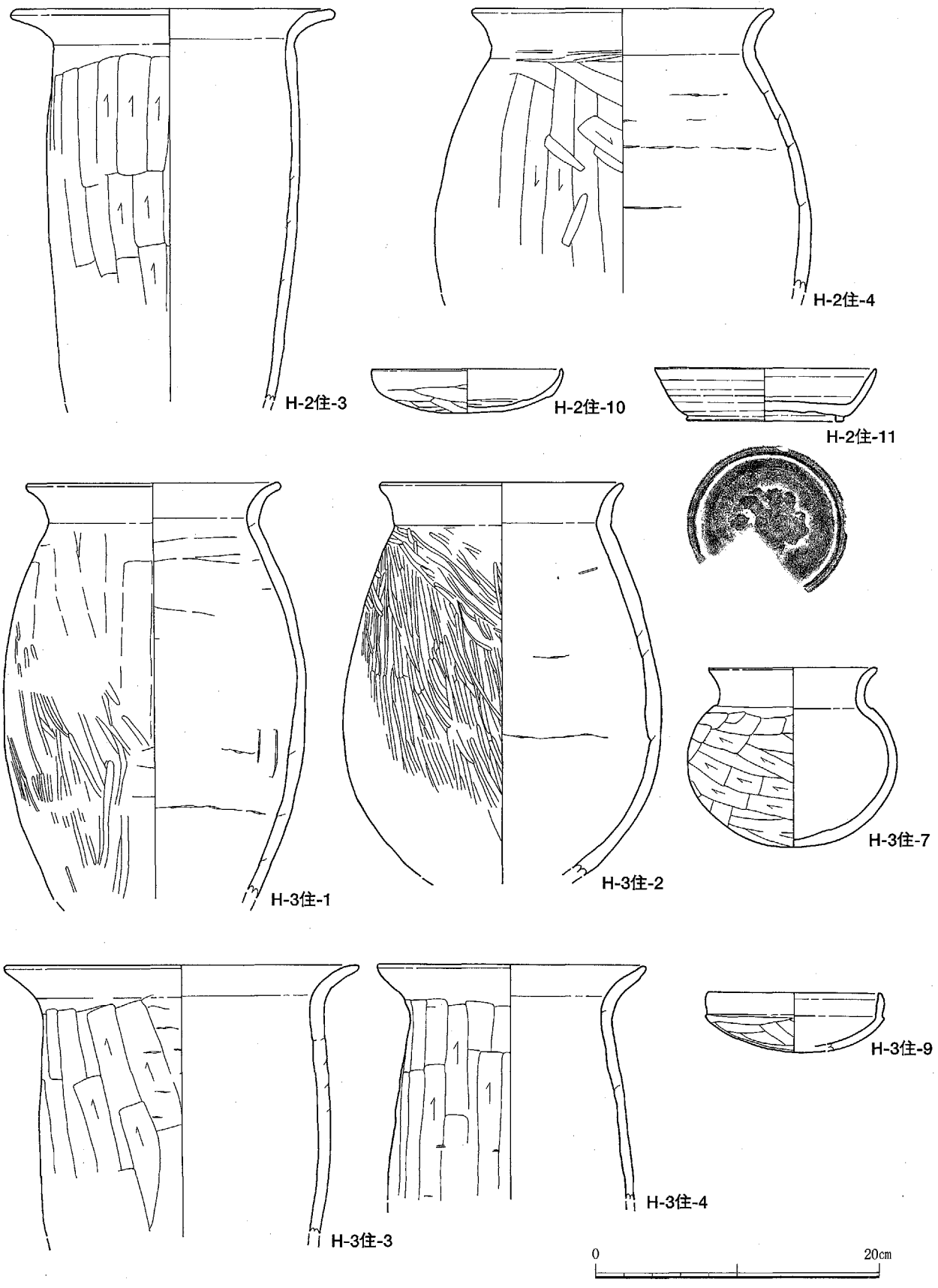


Fig.28　H－2号・H－3号住居跡出土遺物

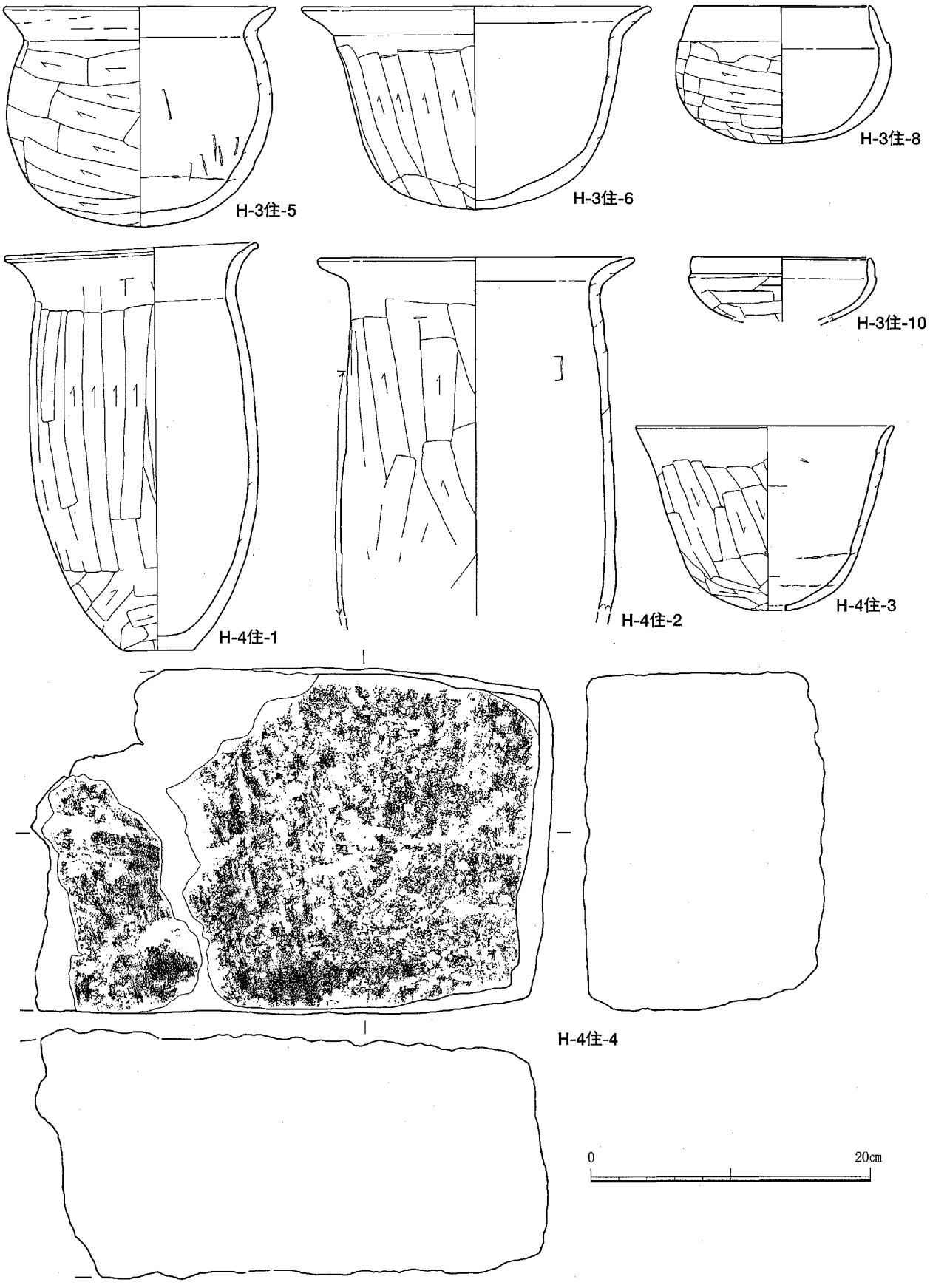


Fig.29　H－3号・H－4号住居跡出土遺物

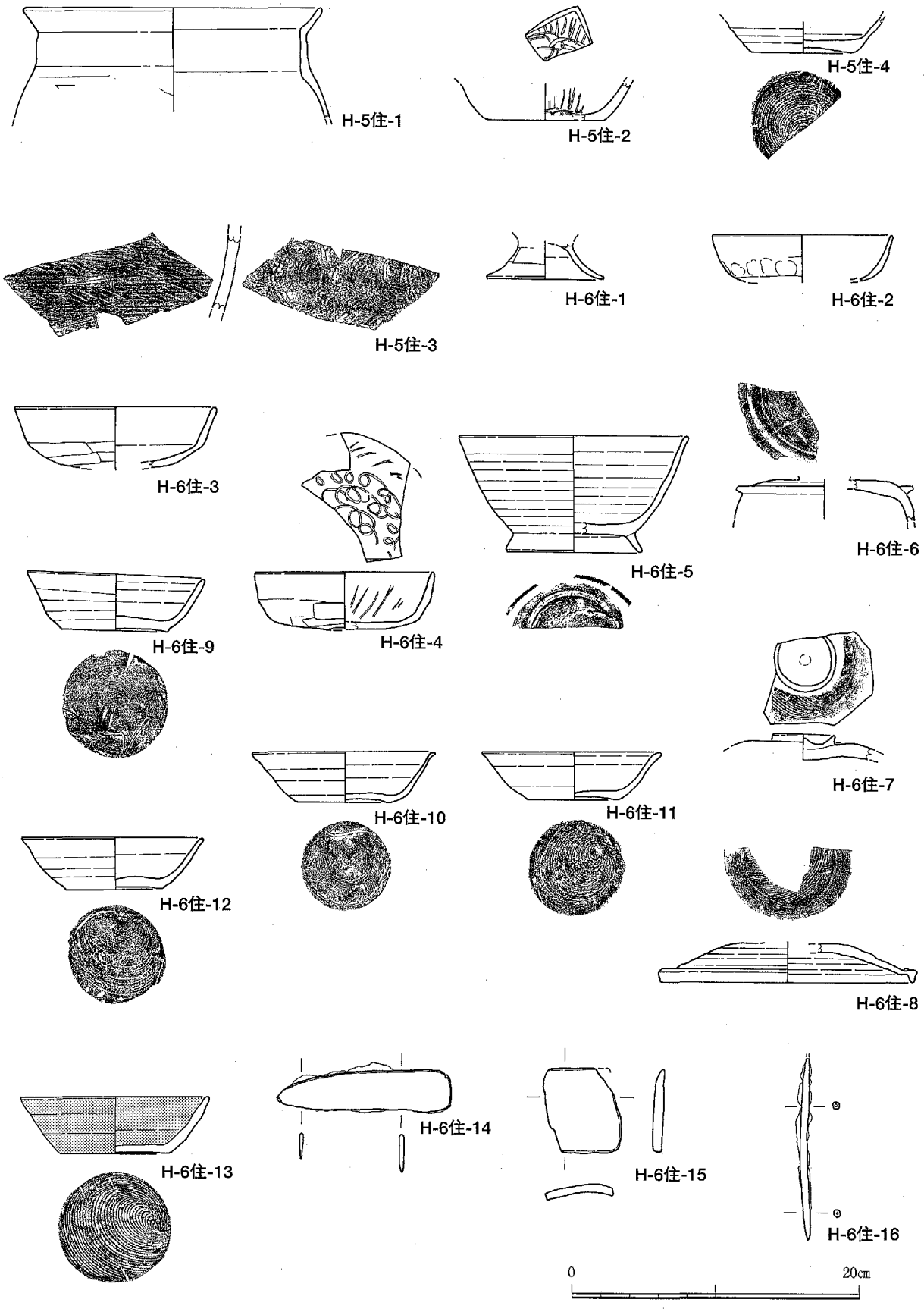


Fig.30　H－5号・H－6号住居跡出土遺物

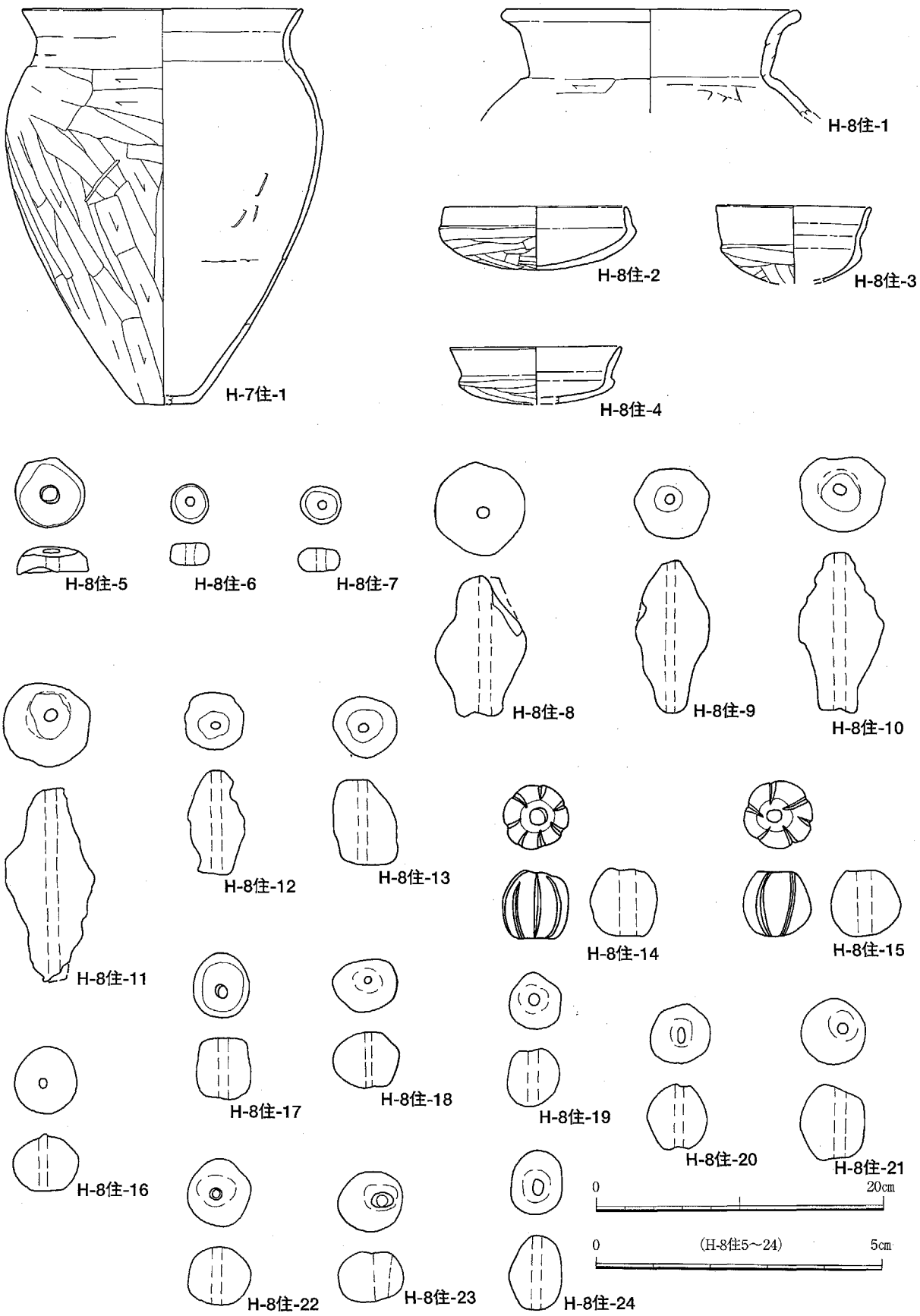


Fig.31　H－7号・H－8号住居跡出土遺物

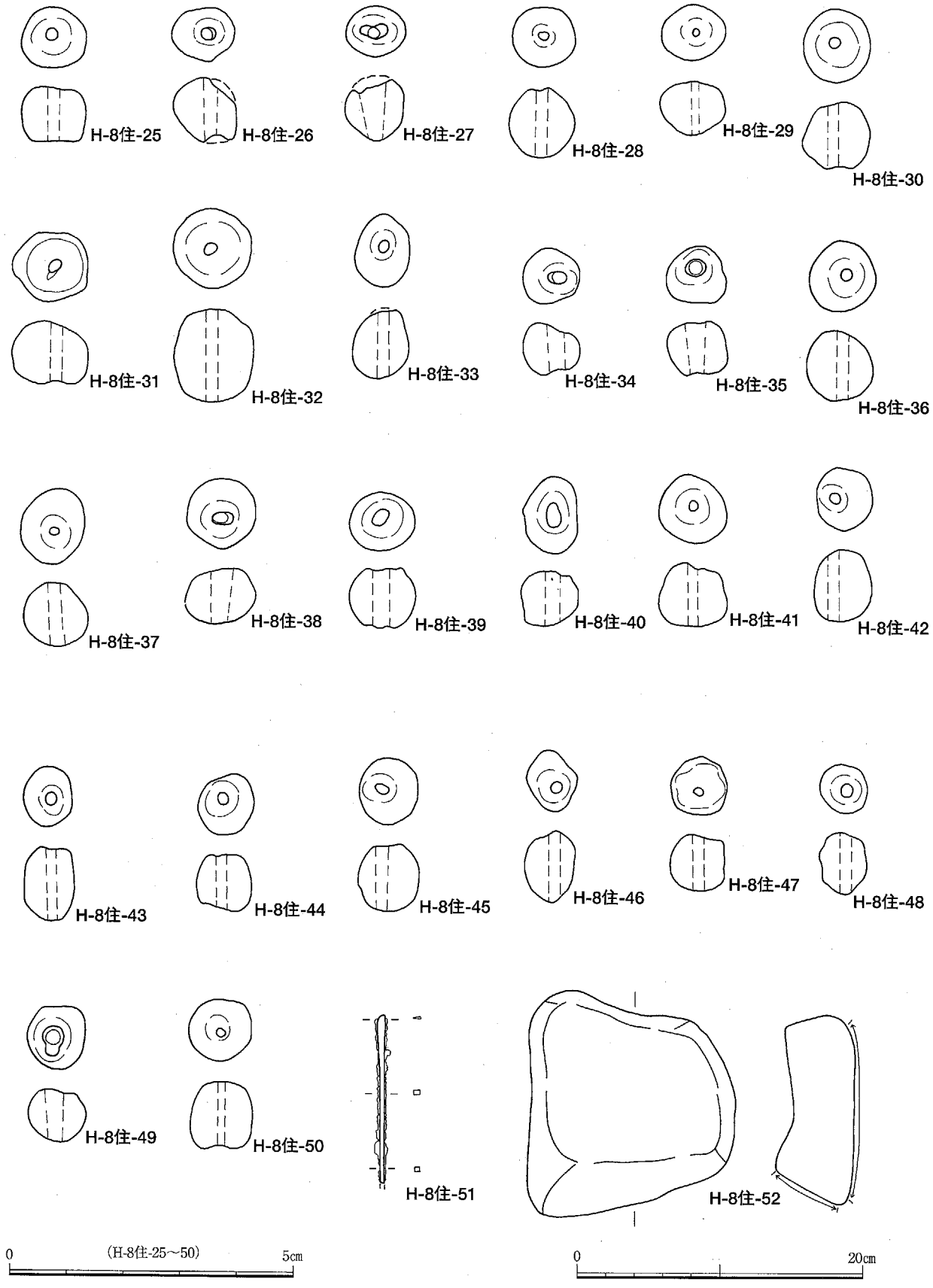


Fig.32　H－8号住居跡出土遺物

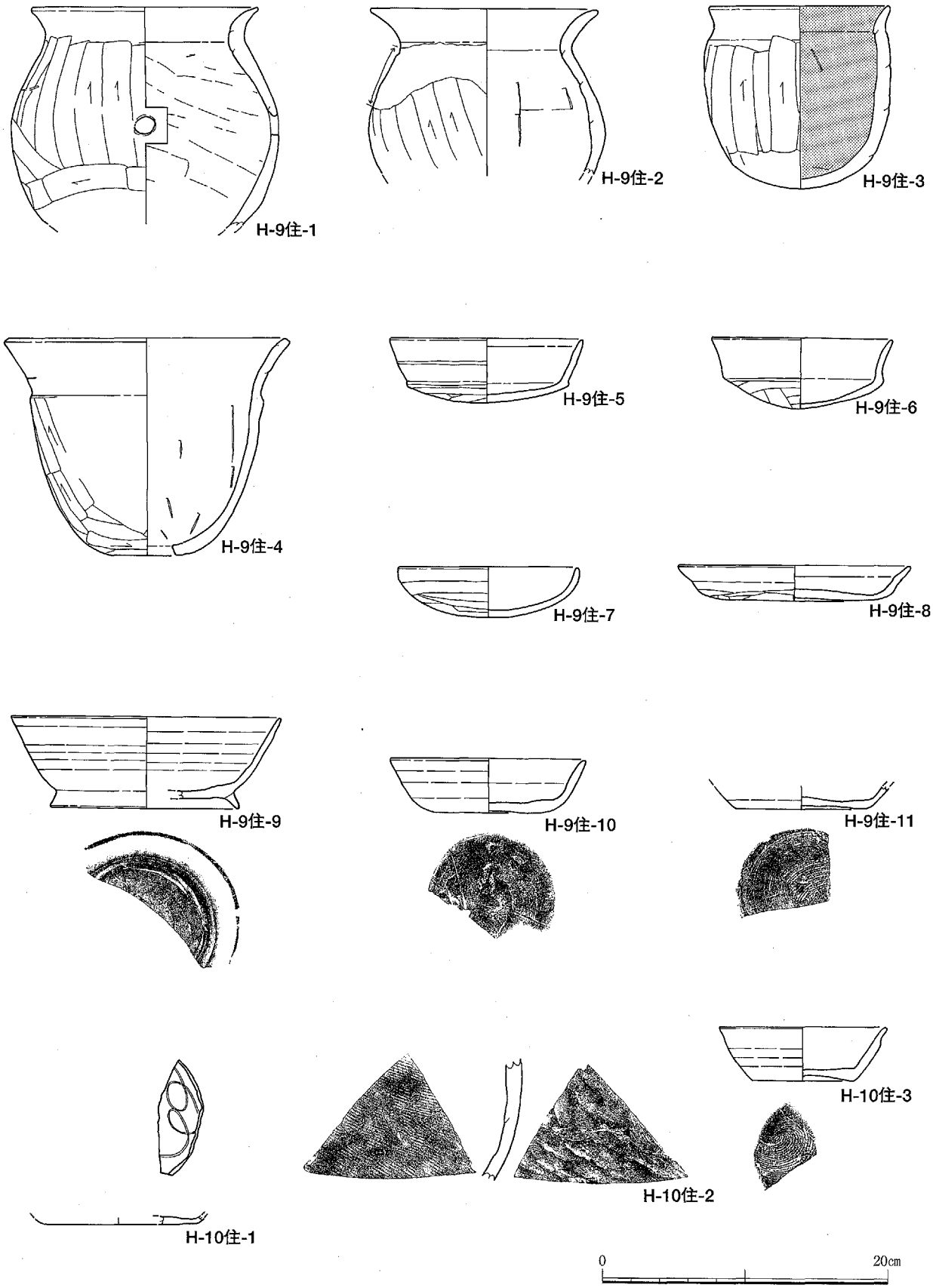


Fig.33　H－9号・H－10号住居跡出土遺物

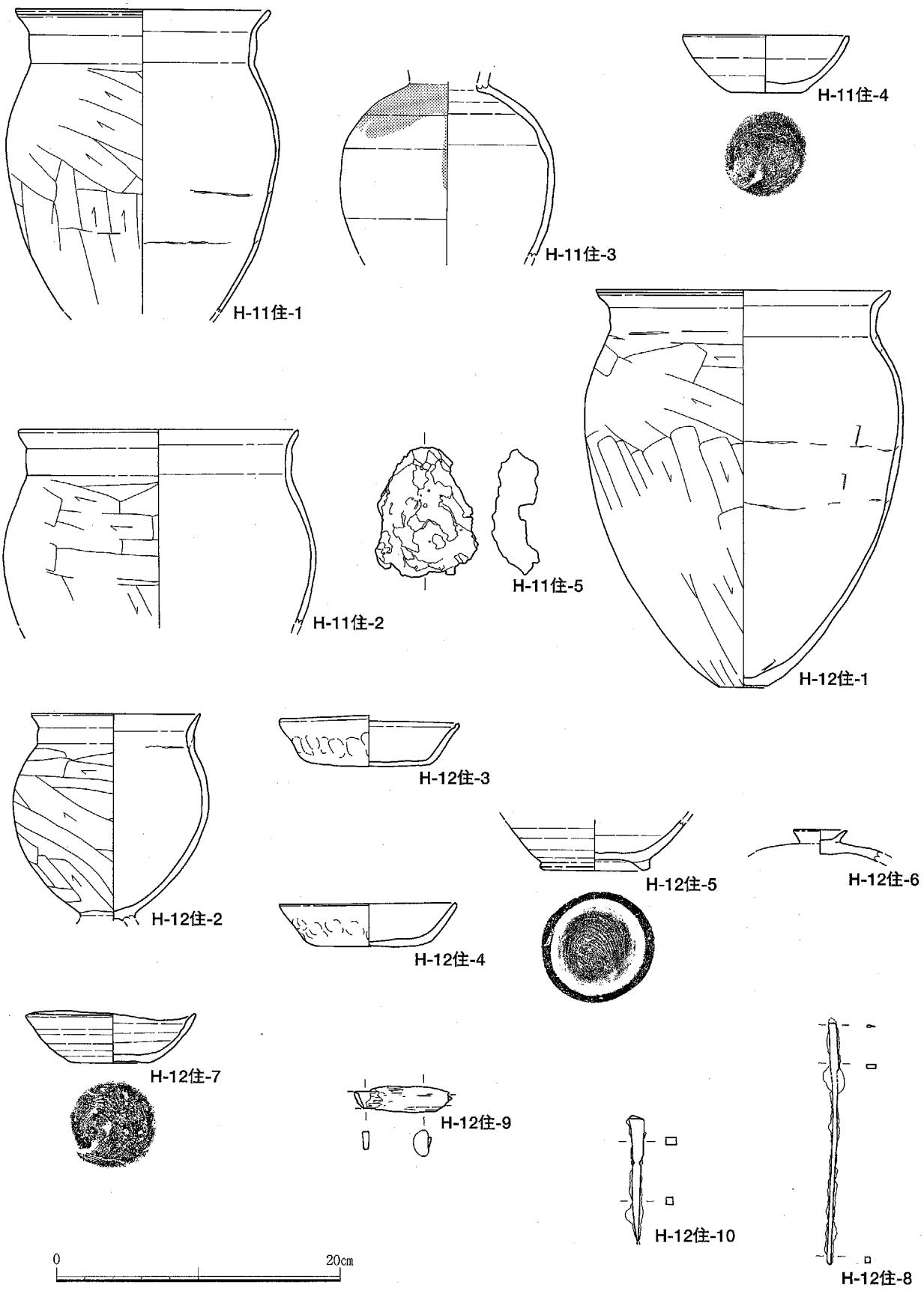


Fig.34　H－11号・H－12号住居跡出土遺物

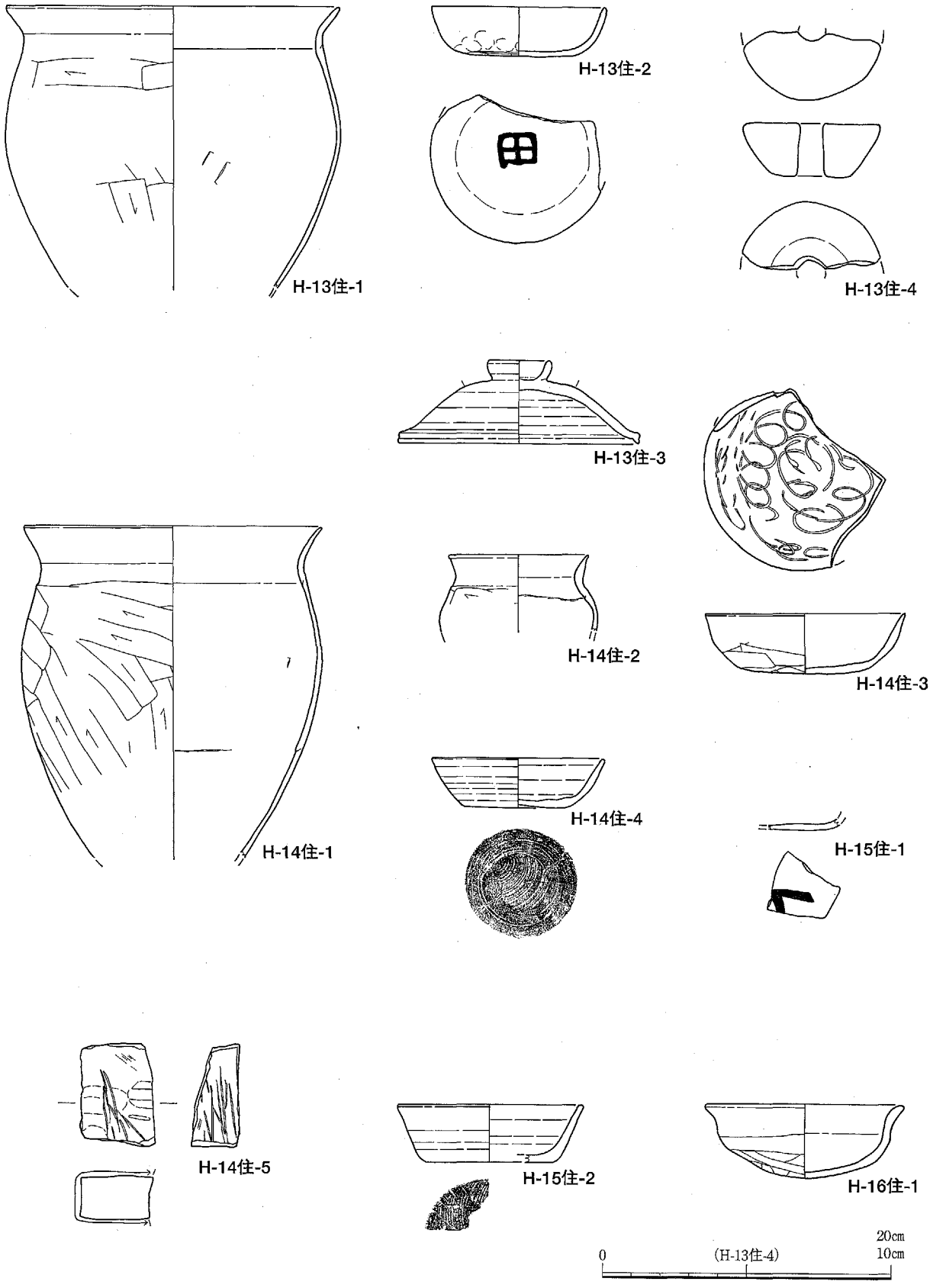


Fig.35　H－13号・H－14号・H－15号・H－16号住居跡出土遺物

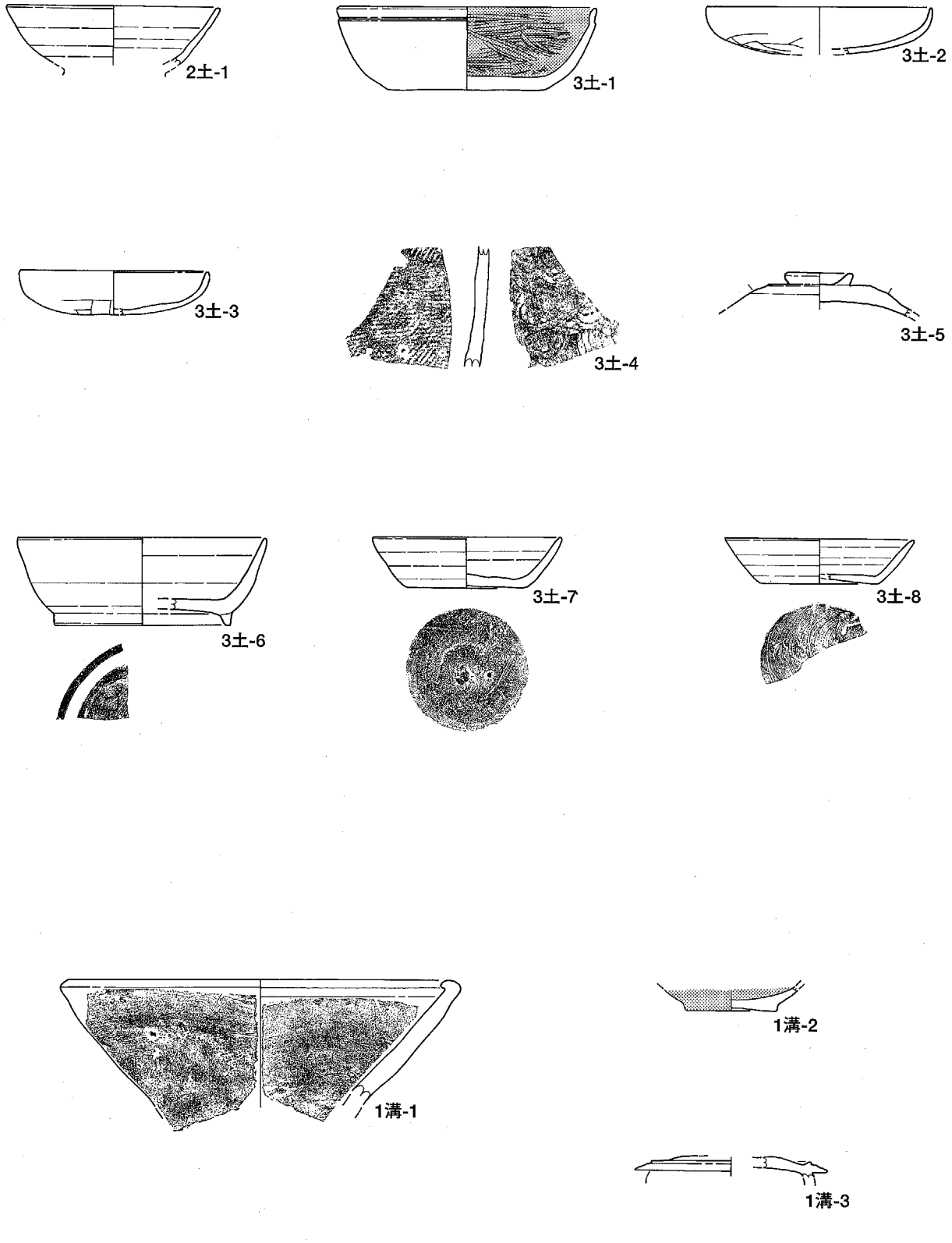


Fig.36　2号・3号土坑、1号溝出土遺物

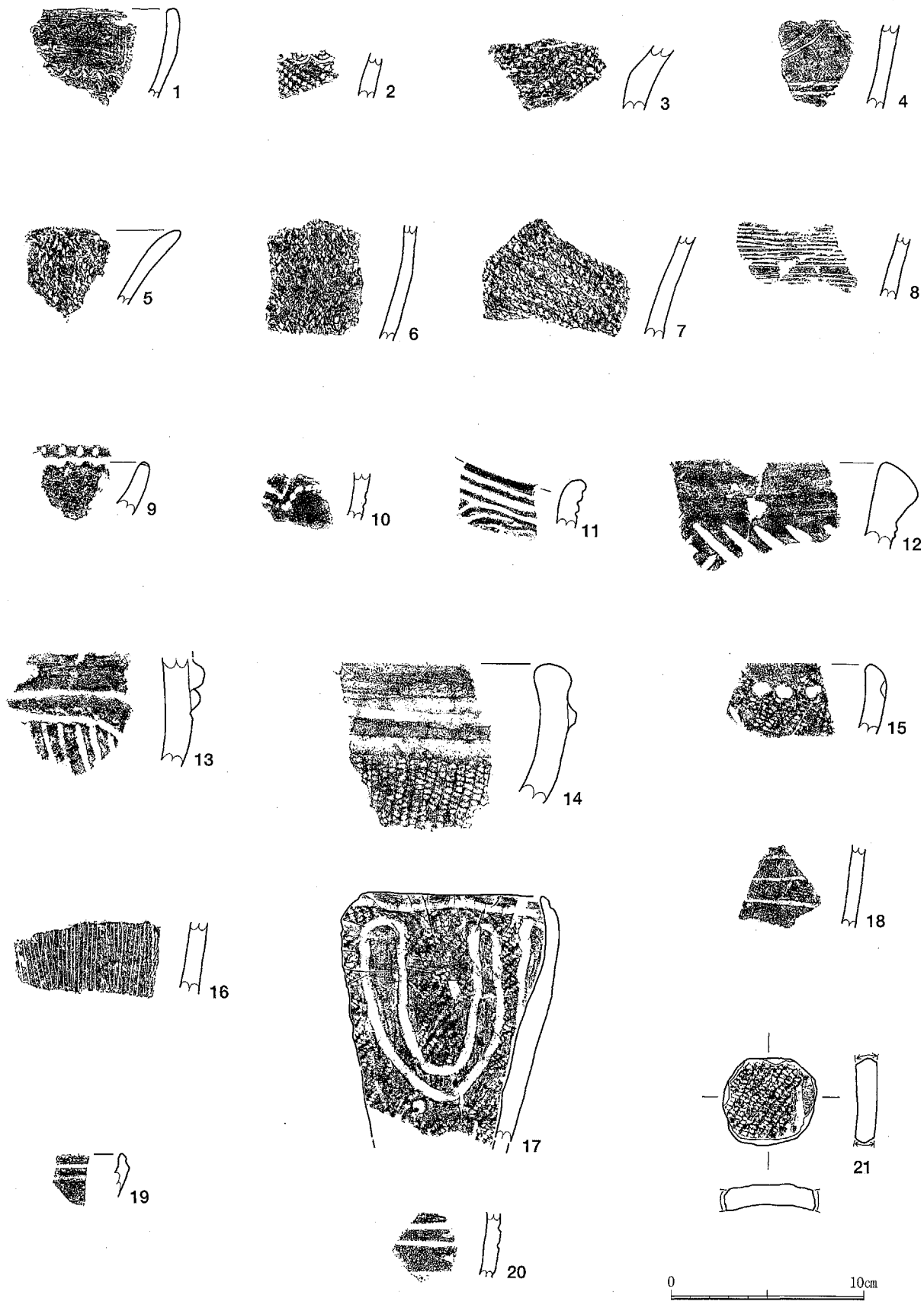


Fig.37　遺構外出土遺物①

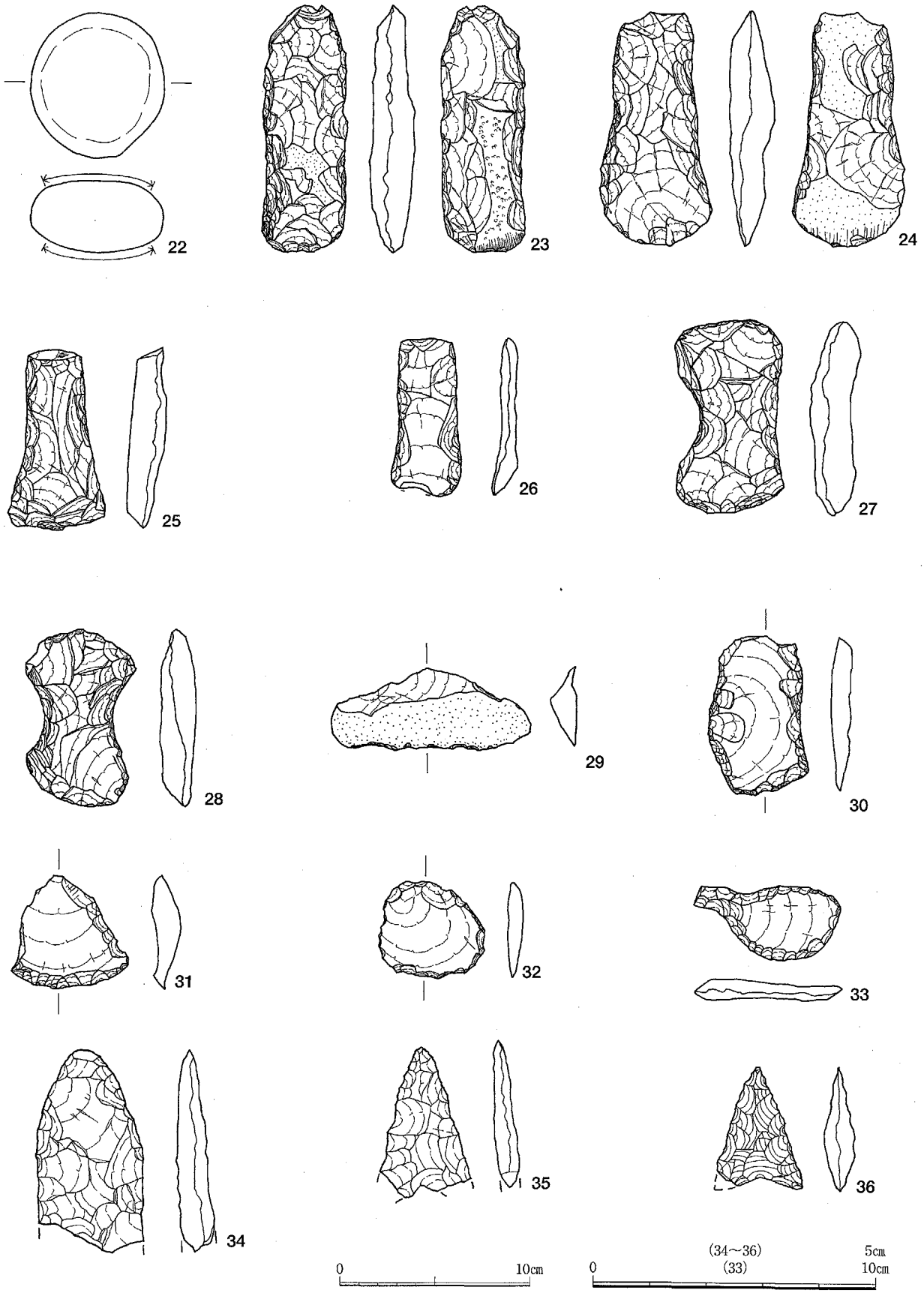


Fig.38　遺構外出土遺物②

五代竹花遺跡遺物観察表

J－１号住居跡（Fig.25、PL.8）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	深　鉢	口径：56.6／上半部	２条の隆起線を基本に渦巻き状の文様を描出した後に単節縄文を施文し、隆起線に沿ってナデを加える。	にぶい黄橙 10YR7/2	角閃石・白色粒	1・6
2	（石　皿）	長さ：21.1cm・幅：12.4cm・厚さ：4.3cm、重さ：1,648.5ｇ。石材：石英安山岩。／図裏面が平滑であり、石皿と判断しておく。				5
3	打製石斧	残長：7.2cm・幅：4.9cm・厚さ：1.4cm、残重：53.6ｇ。石材：黒色安山岩。／下半部欠損。部分的に磨かれている。				4
4	R　F	長さ：5.4cm・幅：4.8cm・厚さ：0.8cm、重さ：18.2ｇ。石材：頁岩。／調整のある剥片。自然面に擦痕あり。				－

J－２号住居跡（Fig.25・26、PL.8・9　）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	深　鉢	／胴部	２条の隆起線を基本に渦巻き状の文様を描出した後に単節縄文を施文し、隆起線に沿ってナデを加える。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石・石英・白色粒	26
2	深　鉢	底径：5.7／口縁部欠損	ＬＲ縄文後、３条単位の太い沈線懸垂文を８単位。沈線間の縄文を磨り消す。／外面上半部に煤付着。	黄橙 10YR8/6	黒色鉱物・石英・白色粒	1・2
3	浅　鉢	／胴部片	口縁部付近に橋状把手２単位が付くと想定される。胴部は縦位条線、口縁部は沈線区画内に縄文施文。	浅黄 2.5Y8/4	角閃石・石英・白色粒	1・2
4	深　鉢	口径：(44.4)／口縁部片	緩やかな波状口縁。口縁部、隆線区画内に縄文。	にぶい黄褐 10YR5/3	黒色鉱物・石英・白色粒	2
5	深　鉢	／口縁部片	波状口縁と思われる。単節縄文施文後、沈線区画し、縄文を磨り消す。	にぶい黄橙 10YR7/3	黒色鉱物・石英・白色粒	6
6	深　鉢	／口縁部片	波状口縁と思われる。単節縄文施文後、沈線区画。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石・石英・白色粒	6
7	浅　鉢	／把手	浅鉢の橋状把手。中央部に縦位凹線。	にぶい赤褐 5YR5/4	黒色鉱物・石英・白色粒	－
8	深　鉢	／胴部片	ＬＲ縄文後、３条単位の太い沈線懸垂文を８単位。沈線間の縄文を磨り消す。	浅黄 2.5Y7/4色	角閃石・石英・白色粒	20
9	凹　石	長さ：11.0cm・幅：7.6cm・厚さ：5.4cm、重さ：652.4ｇ。石材：輝石安山岩。／上下端部及び両側面中央部に敲打痕。				13
10	打製石斧	長さ：11.4cm・幅：4.6cm・厚さ：1.6cm、重さ：98.1ｇ。石材：頁岩。				17
11	打製石斧	長さ：10.6cm・幅：4.2cm・厚さ：1.8cm、重さ：94.1ｇ。石材：砂質頁岩。				19
12	R　F	長さ：9.2cm・幅：3.0cm・厚さ：1.1cm、重さ：24.4ｇ。石材：頁岩。／縦長剥片を素材とした調整のある剥片。				23
13	残　核	長さ：5.4cm・幅：5.5cm・厚さ：2.5cm、重さ：82.4ｇ。石材：黒色安山岩。／図裏面は自然面。				9
14	石　鏃	長さ：1.7cm・幅：1.7cm・厚さ：0.3cm、重さ：0.76ｇ。石材：黒色安山岩。				－

H－１号住居跡（Fig.27、PL.10）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：38.1・口径：21.2・底径：4.2／1/2	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	16･21
2	土師器 坏	器高：4.4・口径：12.7／完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、体部・底部ヘラナデ。内面、黒色処理。	橙 5YR6/6	石英・白色粒・黒色鉱物	24
3	土師器 坏	器高：4.5・口径：13.9／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。内面、黒色処理。	橙 7.5YR6/6	石英・チャート・白色粒	22
4	土師器 坏	器高：4.7・口径：13.5／4/5	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	3･11
5	土師器 坏	器高：4.1・口径：13.7／ほぼ完形	丸底気味。有段口縁。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	明赤褐 2.5YR5/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	23
6	土師器 坏	器高：4.7・口径：12.2／1/2	丸底。口縁部と体部との境に稜。口縁部、外傾して開く。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／摩滅著しい。	橙 5YR6/6	角閃石・チャート・白色粒	17
7	土師器 坏	器高：3.2・口径：10.9／4/5	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい褐 7.5YR5/3	チャート・白色粒・黒色鉱物	9･18
8	土師器 坏	器高：3.9・口径：11.2／4/5	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5TR6/6	石英・白色粒・黒色鉱物	－
9	鉄　鏃	残長：5.0cm・幅：3.0cm・厚さ：0.5cm、残重：15.6ｇ。／無茎鏃。				－

H－２号住居跡　(Fig.27・28、PL.10・11)

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	器高：39.0・口径：(21.6)・底径：2.5／4/5	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい赤褐 5YR5/3	角閃石・石英・チャート・白色粒	3・51他
2	土師器甕	口径：20.7／2/3	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	6・50他
3	土師器甕	口径：(22.8)／1/2	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	23・31他
4	土師器甕	口径：(21.1)／上半部片	胴部中位付近に最大径推定26.8cm。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	20・29他
5	土師器高坏	口径：(15.9)／2/3	坏部、口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部粗雑なミガキ、脚部ヘラ削り。内面、坏部ミガキ、脚部ナデ。内面黒色処理。	明黄褐 10YR7/6	角閃石・石英・チャート・白色粒.	12・28
6	土師器高坏	底径：10.4／脚部	脚裾部わずかに外反。外面、脚部ヘラ削り、脚裾部をナデ。内面、脚部粗雑なナデ。	明黄褐 10YR7/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	25・45
7	土師器坏	器高：4.4・口径：13.4／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、粗雑なミガキ。内面、黒色処理。	にぶい褐 7.5YR5/4	石英・白色粒・黒色鉱物	34
8	土師器坏	器高：4.9・口径：13.6／3/4	丸底。口縁部わずかに段を有す。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄褐 10YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	24
9	土師器坏	器高：3.8・口径：(14.1)／1/2	丸底。口縁部と底部との境に弱い稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／紛れ込み遺物。	にぶい赤褐 5YR5/4	石英・白色粒・黒色鉱物	18・19
10	土師器坏	器高：3.1・口径：(13.5)／1/3	丸底。口縁部と底部との境に弱い稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／紛れ込み遺物。	にぶい赤褐 5YR5/4	石英・白色粒・黒色鉱物	17
11	須恵器坏	器高：3.7・口径15.6・底径：11.0／2/3	ロクロ成・整形。底部、ヘラ起こし後に断面方形の高台貼り付け。／紛れ込み遺物	灰 N5/	白色粒・黒色鉱物	16

H－３号住居跡 (Fig.28・29、PL.11・12)

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	口径：(18.0)／1/3	胴部中位に最大径推定21.2cm。外面、口縁部ナデ、胴部上半縦位基調ナデ、胴下半粗雑なミガキ。内面、胴部ヘラナデ。	黄橙 7.5YR7/8	石英・白色粒・黒色鉱物	25・43他
2	土師器甕	口径：(17.2)／1/3	胴部中位下側に最大径推定22.4cm。外面、口縁部ナデ、胴部粗雑なミガキ。内面、ナデ。	橙 7.5YR7/6	石英・白色粒・黒色鉱物	11・31
3	土師器甕	口径：25.0／1/4	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	44
4	土師器甕	口径：(19.0)／上半部片	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	41・42・45
5	土師器甕	器高：15.7・口径：19.4／完形	丸底、球胴の小形甕。外面、口縁部ナデ、胴部・底部横位基調ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄褐 10YR5/3	角閃石安山岩粒・石英	45
6	土師器鍋形土器	器高：14.5・口径：25.1／3/4	丸底。胴部外傾し、口縁部外反して開く。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、ナデ。／内面煮沸痕。	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石安山岩粒・石英	1・3・4・9
7	土師器甕	器高：12.5・口径：11.9／ほぼ完形	丸底・球胴の小形甕。口縁部は外反して開く。外面、口縁部ナデ、胴部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 7.5YR7/6	石英・チャート・黒色鉱物	30・48他
8	土師器鉢	器高：9.8・口径：12.6／ほぼ完形	丸底。口縁部は内傾する。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・黒色鉱物	24
9	土師器坏	器高：(4.2)・口径：12.0／1/2	丸底。口縁端部内湾する。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 7.5YR7/6	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	5
10	土師器坏	口径：(12.7)／1/4	外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	明黄褐 10YR7/6	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	貯

11	薦編石	長さ：14.0cm・幅：6.9cm、重さ：584.8ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	－
12	薦編石	長さ：16.2cm・幅：5.8cm、重さ：762.2ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	－
13	薦編石	長さ：13.5cm・幅：6.7cm、重さ：575.9ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	14
14	薦編石	長さ：15.5cm・幅：6.5cm、重さ：741.6ｇ。石材：砂岩。／写真のみ掲載。	15
15	薦編石	長さ：13.8cm・幅：6.6cm、重さ：584.8ｇ。石材：砂岩。／写真のみ掲載。	12
16	薦編石	長さ：14.0cm・幅：6.6cm、重さ：644.5ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	13
17	薦編石	長さ：13.0cm・幅：5.5cm、重さ：510.2ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	7
18	薦編石	長さ：11.6cm・幅：5.6cm、重さ：549.6ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	10

H－4号住居跡（Fig.29、PL.13）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：29.0・口径：18.2・ 底径：5.0／ほぼ完形	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り、底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい褐 7.5YR5/4	石英・白色粒・黒色鉱物	12
2	土師器 甕	口径：22.6／1/2	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位基調ヘラ削り。内面、胴部ヘラナデ。／外面胴部に粘土付着（図矢印範囲）。	明黄褐 10YR7/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	13
3	土師器 甑	器高：13.2・口径： 18.5／完形	丸底。頸部の括れ弱い。孔径2.3cm。外面、口縁部ナデ、胴部・底部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	明黄褐 2.5YR5/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	14
4	礫	長さ：24.8cm・残幅：37.2cm・厚さ：17.8cm、残重：17.2kg。石材：角閃石安山岩。／直方体に加工された礫。工具痕あり。				2・3

H－5号住居跡（Fig.30、PL.13）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	No.
1	土師器 甕	口径：(20.8)／ 口縁部1/2	「コ」の字状口縁。外面、口縁部ナデ、胴部上位は横位ヘラ削り。内面、口縁部ナデ。	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石・石英・チャート	4
2	土師器 坏	底径：(8.2)／小破片	内面、体部に放射状、底部に螺旋状の暗文。	にぶい赤褐 5YR5/4	石英・黒色鉱物	9
3	須恵器 甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、同心円状当て具痕。	灰黄褐 10YR5/2	チャート・赤褐色粒	－
4	須恵器 坏	底径：(7.2)／底部片	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。	灰 N6/	石英・チャート・黒色鉱物	－

H－6号住居跡（Fig.30、PL.14）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 台付甕	底径：8.2／脚台部	脚台裾部外反して開く。外面、上側は横位ヘラ削り、裾部ナデ。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR6/4	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	－
2	土師器 坏	口径：12.5／底部欠損	外面、口縁部ナデ、体部指頭圧痕。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	ホ
3	土師器 坏	口径：(14.1)／1/4	体部と底部との境に稜。外面、口縁部・体部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／H－8号住居跡の遺物か。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・白色粒	ホ
4	土師器 坏	器高：(4.0)・口径： (12.5)・底径：(10.3)／1/4	外面、口縁部ナデ、体部横位ヘラ削り、底部ヘラ削り。内面、ナデ。内面、体部に放射状、底部に螺旋状暗文。	にぶい橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	－
5	須恵器 椀	器高：8.1・口径： (16.0)・底径：(9.5)／1/2	ロクロ成・整形。腰部はやや丸みを持つ。底部、ヘラ起こし後に高台貼り付け。	灰白 7.5Y7/	石英・白色粒・黒色鉱物	27
6	須恵器 蓋	／1/5	短頸壺の蓋と思われる。上側に凸帯が巡る。ロクロ成・整形。天井部回転ヘラ削り。	灰白 5Y7/	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	－
7	須恵器 蓋	／天井部片	天井部、回転糸切り後に環状摘み貼り付け。糸切り痕残る。摘み中心部には小突起あり。摘み径4.4cm。	灰 5Y5/1	石英・白色粒・黒色鉱物	9
8	須恵器 蓋	口径：(17.6)／1/3	ロクロ成・整形。口縁端部は短く下方に折れる。天井部に回転糸切り痕残る。	灰 5Y6/1	石英・白色粒・黒色鉱物	－
9	須恵器 坏	器高：4.0・口径：12.5・ 底径：7.5／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。	灰白 N7/	チャート・黒色鉱物	18
10	須恵器 坏	器高：3.5・口径：12.8・ 底径：6.6／3/4	ロクロ成・整形。全体的に薄手の造り。口縁端部外反する。底部、回転糸切り無調整。	黄灰 2.5Y6/1	粗砂粒・チャート・黒色鉱物	24・ホ
11	須恵器 坏	器高：3.3・口径：12.6・ 底径：6.6／ほぼ完形	ロクロ成・整形。口縁端部外反する。底部、回転糸切り後、周縁部をナデ。	灰 5Y5/1	粗砂粒・チャート・黒色鉱物	22・ホ
12	須恵器 坏	器高：3.8・口径：12.7・ 底径：7.0／3/4	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、周縁部をわずかにナデ。／還元不完全。	黄灰 2.5Y6/1	粗砂粒・チャート・赤褐色粒	13・16
13	須恵器 坏	器高：3.9・口径：13.2・ 底径：7.8／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部回転糸切り無調整。燻し焼成で、内外面とも黒（暗灰）色。	暗灰 N3/	石英・チャート・白色粒	21
14	鉄製品	長さ：12.2cm・最大幅：3.1cm・厚さ：0.3cm、残重：47.1ｇ。／刃部が造出される。着柄部の屈曲ないが鎌か。				1
15	鉄製品	長さ：5.9cm・幅：5.5cm・厚さ：0.8cm、残重：91.0ｇ。／図横断面が緩やかな弧状の板状鉄製品。				6
16	鉄製品	残長：12.7cm・厚さ：0.5cm、残重：11.6ｇ。／断面は方形と想定されるが、中空。図下端は尖る。錆化著しい。				19

H－7号住居跡（Fig.31、PL.14）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：27.4・口径： (19.5)・底径：(4.4)／2/3	「コ」の字状口縁。胴部上位に最大径22.1cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	橙 5YR6/6	石英・白色粒・黒色鉱物	7

H－8号住居跡（Fig.31・32、PL.14～16）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：(20.8)／口縁部片	口縁端部外反する。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	64
2	土師器 坏	器高：4.5・ 口径：12.6／完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。口縁部内傾する。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石・石英・チャート・白色粒	2
3	土師器 坏	口径：10.8／4/5	丸底。口縁部長めで、体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/6	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	21
4	土師器 坏	口径：(11.9)／1/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。口縁部外傾する。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/8	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	－
5	臼　玉	径：1.2cm×1.2cm・厚さ：0.46cm・孔径：0.28cm、重さ：0.89ｇ。石材：滑石。				－
6	臼　玉	径：0.68cm×0.69cm・厚さ：0.37cm・孔径：0.16cm、重さ：0.19ｇ。／土製品。色調：灰黄褐10YR5/2。				47
7	臼　玉	径：0.73cm×0.68cm・厚さ：0.41cm・孔径：0.15cm、重さ：0.21ｇ。／土製品。色調：褐灰10YR4/1。				55
8	土　玉	長さ：2.46cm・最大径：1.65cm×1.62cm・孔径：0.25cm、残重：3.93ｇ。／形状は土錘状。色調：黒褐10YR3/1。				12
9	土　玉	長さ：2.69cm・最大径：1.34cm×1.22cm・孔径：0.19cm、残重：2.87ｇ。／形状は土錘状。色調：黒褐10YR3/1。				45
10	土　玉	長さ：2.85cm・最大径：1.51cm×1.26cm・孔径：0.22cm、重さ：3.40ｇ。／形状は土錘状。色調：黒褐2.5Y3/1。				26
11	土　玉	長さ：3.39cm・最大径：1.62cm×1.41cm・孔径：0.20cm、残重：4.96ｇ。／形状は土錘状。色調：黒褐10YR3/1。				25
12	土　玉	長さ：1.84cm・最大径：0.99cm×0.98cm・孔径：0.18cm、重さ：1.57ｇ。／形状は土錘状。色調：黒褐2.5Y3/1。				32
13	土　玉	長さ：1.51cm・最大径：1.12cm×1.07cm・孔径：0.19cm、重さ：1.80ｇ。／形状は円筒状。色調：オリーブ黒5Y3/1。				42
14	土　玉	長さ：1.21cm・最大径：1.18cm×1.10cm・孔径：0.29cm、重さ：1.67ｇ。／側面に切れ込み7。色調：にぶい黄褐10YR4/3。				8
15	土　玉	長さ：1.14cm・最大径：1.19cm×1.13cm・孔径：0.29cm、重さ：1.50ｇ。／側面に切れ込み6。色調：褐灰7.5YR4/1。				10
16	土　玉	長さ：1.07cm・最大径：1.19cm×1.14cm・孔径：0.13cm、重さ：1.20ｇ。／色調：黒10YR2/1。				1
17	土　玉	長さ：1.05cm・最大径：1.16cm×0.96cm・孔径：0.18cm、重さ：1.24ｇ。／形状は短円筒状。色調：黒褐10YR3/1。				3
18	土　玉	長さ：1.06cm・最大径：1.16cm×0.94cm・孔径：0.15cm、重さ：0.97ｇ。／色調：黒2.5Y2/1。				4
19	土　玉	長さ：1.01cm・最大径：0.98cm×0.94cm・孔径：0.18cm、重さ：0.90ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/1。				6
20	土　玉	長さ：1.09cm・最大径：1.06cm×1.00cm・孔径：0.12cm、重さ：1.17ｇ。／色調：オリーブ黒7.5Y3/1。				7
21	土　玉	長さ：1.30cm・最大径：1.14cm×1.12cm・孔径：0.20cm、重さ：1.70ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/1。				9
22	土　玉	長さ：0.99cm・最大径：1.15cm×1.11cm・孔径：0.19cm、重さ：1.23ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/1。				11
23	土　玉	長さ：0.92cm・最大径：1.16cm×1.04cm・孔径：0.39cm、重さ：1.22ｇ。／色調：黒褐10YR3/1。				23
24	土　玉	長さ：1.25cm・最大径：1.12cm×0.93cm・孔径：0.17cm、重さ：1.19ｇ。／色調：黒褐10YR3/1。				24
25	土　玉	長さ：0.96cm・最大径：1.12cm×1.07cm・孔径：0.19cm、重さ：0.93ｇ。／色調：黒褐10YR3/1。				27
26	土　玉	長さ：1.12cm・最大径：1.16cm×0.95cm・孔径：0.26cm、残重：0.87ｇ。／色調：黒褐2.5Y3/1。				28
27	土　玉	長さ：1.12cm・最大径：1.03cm×0.90cm・孔径：0.46cm、残重：0.82ｇ。／色調：黒褐2.5Y3/1。				29
28	土　玉	長さ：1.21cm・最大径：1.13cm×1.06cm・孔径：0.20cm、重さ：1.35ｇ。／色調：黒10YR2/1。				30
29	土　玉	長さ：0.94cm・最大径：1.15cm×1.01cm・孔径：0.11cm、重さ：1.03ｇ。／色調：黒褐2.5Y3/1。				31
30	土　玉	長さ：1.15cm・最大径：1.30cm×1.16cm・孔径：0.19cm、重さ：1.64ｇ。／色調：黒褐2.5Y3/1。				33
31	土　玉	長さ：1.08cm・最大径：1.34cm×1.17cm・孔径：0.20cm、重さ：1.65ｇ。／色調：暗オリーブ褐2.5Y3/3。				34
32	土　玉	長さ：1.55cm・最大径：1.40cm×1.35cm・孔径：0.19cm、重さ：2.84ｇ。／色調：黒10YR2/1。				35
33	土　玉	長さ：1.24cm・最大径：1.29cm×0.92cm・孔径：0.17cm、残重：1.18ｇ。／色調：黒10YR2/1。				36
34	土　玉	長さ：0.89cm・最大径：1.03cm×0.99cm・孔径：0.33cm、重さ：0.73ｇ。／色調：黒褐10YR3/1。				37
35	土　玉	長さ：0.92cm・最大径：1.04cm×0.98cm・孔径：0.36cm、重さ：0.96ｇ。／色調：黒褐10YR3/1。				38
36	土　玉	長さ：1.22cm・最大径：1.20cm×1.18cm・孔径：0.21cm、重さ：1.74ｇ。／色調：黒褐10YR3/1。				39
37	土　玉	長さ：1.08cm・最大径：1.32cm×1.17cm・孔径：0.14cm、重さ：1.59ｇ。／色調：黒10YR2/1。				40
38	土　玉	長さ：0.97cm・最大径：1.25cm×1.23cm・孔径：0.34cm、重さ：1.39ｇ。／色調：黒2.5Y2/1。				41
39	土　玉	長さ：1.05cm・最大径：1.16cm×1.03cm・孔径：0.31cm、重さ：1.23ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/1。				43
40	土　玉	長さ：0.91cm・最大径：1.36cm×1.04cm・孔径：0.27cm、重さ：1.09ｇ。／色調：黒褐2.5Y3/2。				44
41	土　玉	長さ：1.11cm・最大径：1.21cm×1.20cm・孔径：0.17cm、重さ：1.50ｇ。／色調：黒褐2.5Y3/2。				46
42	土　玉	長さ：1.24cm・最大径：1.08cm×1.04cm・孔径：0.21cm、重さ：1.17ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/2。				48
43	土　玉	長さ：1.25cm・最大径：1.08cm×0.86cm・孔径：0.20cm、重さ：1.08ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/1。				49
44	土　玉	長さ：0.96cm・最大径：1.07cm×0.97cm・孔径：0.18cm、重さ：1.34ｇ。／色調：黒7.5Y2/1。				50
45	土　玉	長さ：1.18cm・最大径：1.15cm×1.07cm・孔径：0.22cm、重さ：1.07ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/2。				51
46	土　玉	長さ：1.25cm・最大径：1.10cm×0.84cm・孔径：0.23cm、重さ：0.90ｇ。／色調：オリーブ黒7.5Y3/1。				52
47	土　玉	長さ：0.99cm・最大径：1.03cm×0.98cm・孔径：0.17cm、重さ：0.93ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/1。				53
48	土　玉	長さ：1.12cm・最大径：0.85cm×0.83cm・孔径：0.19cm、重さ：0.70ｇ。／色調：黒褐2.5Y3/1。				54
49	土　玉	長さ：0.85cm・最大径：1.10cm×1.03cm・孔径：0.37cm、重さ：0.91ｇ。／色調：黒2.5Y2/1。				62
50	土　玉	長さ：1.13cm・最大径：1.10cm×1.10cm・孔径：0.15cm、重さ：1.57ｇ。／色調：黒2.5Y2/1。				－
51	鉄　鏃	残長：11.7cm・刃部幅：0.6cm・刃部厚：0.15cm、残重：9.1ｇ。／長頸片刃鏃。端刃造り。頸部は断面長方形。関は不明。				63
52	礫	長さ：15.9cm・幅：14.5cm・厚さ：5.6cm、重さ：2,060.6ｇ。石材：頁岩。／用途不明だが各面平滑。				14

H－9号住居跡（Fig.33、PL.16）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：15.8／1/3	胴部中位に最大径18.6cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。胴部に焼成後穿孔。	にぶい赤褐 5YR5/3	石英・白色粒・黒色鉱物	19·60他
2	土師器 甕	口径：16.0／上半部	外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。外面、胴部上位（図矢印範囲）の器面荒れる。	にぶい黄橙 10YR6/3	石英・白色粒・黒色鉱物	12·16
3	土師器 甕	器高：12.8・ 口径：12.8／ほぼ完形	丸底の小形甕。外面、口縁部ナデ、胴部縦位ヘラ削り、底部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。内面、黒色処理。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石安山岩粒・石英	45·52
4	土師器 甑	器高：15.2・ 口径：(20.0)／1/4	口縁部と胴部の境に弱い段。孔径3.4cm。外面、口縁部ナデ、胴部・底部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石安山岩粒・粗砂粒・石英	9·10
5	土師器 坏	器高：4.5・ 口径：13.6／2/3	丸底。口縁部長く、底部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒・黒色鉱物・赤褐色粒	20
6	土師器 坏	器高：4.9・ 口径：12.7／ほぼ完形	丸底。口縁部長く外反し、底部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	18
7	土師器 坏	器高：3.5・ 口径：12.8／3/4	丸底。口縁部と体部との境にわずかな稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	石英・白色粒・黒色鉱物	21·47
8	土師器 盤	器高：2.5・口径：(16.3)・ 底径：9.6／2/3	口縁部・体部の境でわずかに屈曲。外面、口縁部・体部上半ナデ、体部下半・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・白色粒	15·23
9	須恵器 椀	器高：6.4・口径： (18.8)・底径：(13.2)／1/3	ロクロ成・整形。底部、ヘラ起こし後、高台貼り付け。	灰 5Y5/1	チャート・黒色鉱物・白色粒	30·36·38
10	須恵器 坏	器高：3.8・口径：(13.8)・ 底径：7.4／1/2	ロクロ成・整形。底部、ヘラ起こし後、手持ちヘラ削り。	灰 5Y6/1	チャート・黒色鉱物・白色粒	29
11	須恵器 坏	底径：(9.2)／底部片	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。	灰 N5/	白色粒・黒色粒	－

H－10号住居跡（Fig.33、PL.16）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	底径：(10.6)／底部片	外面、底部ヘラ削り。内面、底部に螺旋状の暗文。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・白色粒	－
2	須恵器 甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、無文の当て具痕。	灰 5Y5/1	海綿骨針・チャート	－
3	須恵器 坏	器高：3.7・口径： (11.8)・底径：(7.4)／1/4	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。	黄灰 2.5Y6/1	角閃石・チャート・白色	－

H－11号住居跡（Fig.34、PL.16）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：(18.0)／1/2	「コ」の字状口縁。胴部中位上側に最大径19.2cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/8	角閃石・石英・チャート・白色粒	2·17他
2	土師器 甕	口径：(19.8)／1/6	「コ」の字状口縁。胴部最大径推定22.0cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 2.5YR6/8	角閃石・石英・チャート・白色粒	3·14他
3	灰釉陶器 瓶	／胴部上半	肩部丸みを持つ。外面、肩部付近を中心に灰釉（釉調：オリーブ灰10YR5/2）。	灰褐 7.5YR4/2	微砂粒・石英	13·19
4	須恵器 坏	器高：4.1・口径： (11.8)・底径：5.1／2/3	ロクロ成・整形。体部、内湾気味に立ち上がる。底部、回転糸切り無調整。／還元不完全。	灰白 5Y7/1	角閃石・石英・白色粒	16·20
5	鉄　滓	長さ：9.2cm・幅：7.2cm・厚さ：3.4cm、重さ：201.2ｇ。				－

H－12号住居跡①（Fig.34、PL.17）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：28.1・口径： (20.8)・底径：3.4／1/3	「コ」の字状口縁。胴部中位上側に最大径22.4cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	明赤褐 2.5YR5/6	チャート・白色粒・黒色鉱物	3·17·カ他
2	土師器 台付甕	口径：11.9／脚台部欠損	胴部中位付近に最大径13.8cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい赤褐 5YR5/4	チャート・白色粒・黒色鉱物	9
3	土師器 坏	器高：3.5・口径： 12.6・底径：7.8／4/5	外面、口縁部ナデ、体部に指頭圧痕、底部ナデ・指頭圧痕。内面、ナデ。	明赤褐 5YR5/6	微砂粒・黒色鉱物	13
4	土師器 坏	器高：3.1・口径： 12.5・底径：7.0／4/5	外面、口縁部ナデ、体部に指頭圧痕、底部ヘラ削り後ナデ。内面、ナデ。	橙 7.5YR6/6	石英・チャート・黒色鉱物・白色粒	21
5	須恵器 椀	底径：7.8／下半部	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、断面台形の高台貼り付け。／未還元（酸化）焔焼成。	橙 7.5YR6/6	片岩・チャート・黒色鉱物	16
6	須恵器 蓋	／摘み部	ロクロ成・整形。外反する環状摘み貼り付け。摘み部径3.8cm。	灰 N5/	チャート・白色粒・黒色鉱物	23

H－12号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
7	須恵器 坏	器高：3.7・口径： 12.1・底径：5.4／4/5	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。器形歪む。／未還元焔焼成。	にぶい黄橙 10YR6/4	片岩・角閃石・チャート	18･カ

8	鉄　鏃	残長：17.1cm・刃部幅：0.6cm・刃部厚：0.15cm、残重：12.7ｇ。／錆のため不明瞭だが長頸片刃鏃と思われる。		6
9	刀　子	残長：6.9cm・刃部幅：0.7cm・刃部厚：0.2cm、残重：15.2ｇ。／木芯残存。刀身が木製の鞘に納まった状態にある。		7
10	鉄　釘	残長：8.6cm・頂部幅：1.2cm、残重：11.8ｇ。／断面は方形。		8

H－13号住居跡（Fig.35、PL.17）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：(23.0) ／上半部1/3	胴部中位上側に最大径推定23.2cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	石英・白色粒・黒色鉱物	1･26
2	土師器 坏	器高：3.4・口径： (12.0)・底径：7.0／2/3	外面、口縁部・体部ナデ、体部下側に指頭圧痕、底部ヘラ削り。内面、ナデ。外面底部の墨書「田」。	橙 5YR6/8	微砂粒・石英・黒色鉱物	12
3	須恵器 蓋	器高：5.7・ 口径：16.7／完形	体部・天井部丸みを持つ。環状摘み貼り付け。摘み部径4.4cm。口縁部、短く下方に折れる。天井部、回転ヘラ削り。	灰白 5Y7/1	石英・白色粒・黒色粒	23

4	紡錘車	上面径：(5.0cm)・下面径：(3.0cm)・高さ：1.8cm・孔径：(0.8cm)、残重：21.2ｇ。石材：流紋岩。／1/2残存。		13

H－14号住居跡（Fig.35、PL.17）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：20.6／2/3	口縁部、「く」の字状。胴部最大径20.9cm。外面、口縁部なで、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	暗赤褐 2.5YR5/6	角閃石・チャート・白色粒	13･18･カ他
2	土師器 甕	口径：9.8／1/4	小形甕。胴部最大径推定11.0cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい赤褐 5YR5/4	石英・白色粒・黒色鉱物	9･21
3	土師器 坏	器高：4.1・口径： (13.9)・底径：9.1／2/3	外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、体部・底部に螺旋状の暗文。	にぶい黄褐 10YR5/3	角閃石・白色粒	11
4	須恵器 坏	器高：3.4・口径：12.0・ 底径：7.4／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、周縁部を回転ヘラ削り。	灰 5Y5/1	粗砂粒・チャート・黒色鉱物	2･5

5	砥　石	長さ：7.1cm・幅：5.2cm・厚さ：3.3cm、重さ：178.6ｇ。石材：流紋岩。／両広面と片側面を使用。他の面に鋸目。		－

H－15号住居跡（Fig.35、PL.17）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	／底部片	外面、底部ヘラ削り。外面底部に墨書。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート	－
2	須恵器 坏	器高：4.0・口径： (12.9)・底径：(8.8)／1/5	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。	灰白 7.5Y7/1	角閃石・石英・チャート	－

H－16号住居跡（Fig.35、PL.17）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	器高：5.1・口径： 13.9／ほぼ完形	丸底。口縁部は外反。外面、口縁部ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	1

2号土坑（Fig.36、PL.18）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器 (椀)	口径：14.5／底部欠損	ロクロ成・整形。高台が貼り付けられると思われるが不明。	灰 5Y6/1	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	1･2

3号土坑①（Fig.36、PL.18）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 椀	器高：5.6・口径： 17.6・底径：10.5／4/5	口縁部に1条の沈線。外面、口縁部・体部ミガキあるが、不鮮明。内面、見込み部を除きミガキ。内面、黒色処理。	橙 7.5YR7/6	石英・チャート・赤褐色粒	1
2	土師器 坏	器高：3.2・ 口径：(15.2)／1/4	丸底。口縁部やや内湾。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外面に黒色物付着。	明赤褐 5YR5/6	石英・白色粒・黒色鉱物	－
3	土師器 坏	器高：3.0・ 口径：(12.9)／1/4	丸底。口縁部やや内湾。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／型造り。	にぶい褐 7.5YR5/4	チャート・白色粒・黒色鉱物	－
4	須恵器 甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、同心円状当て具痕。	灰 N5/	石英・チャート・黒色鉱物	－
5	須恵器 蓋	／口縁部欠損	ロクロ成・整形。環状摘み貼り付け。摘み部径4.6cm。天井部、回転ヘラ削り。	黄灰 2.5Y6/1	石英・白色粒・黒色鉱物	－

3号土坑②

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
6	須恵器 椀	器高：5.9・口径：(17.0)・ 底径：(12.0)／1/5	ロクロ成・整形。底部、糸切り後に断面台形の高台貼り付け。 内部（断面）色調は赤褐10YR5/3。	灰 N4/	長石・赤褐色粒	－
7	須恵器 坏	器高：3.4・口径：(12.8)・ 底径：8.2／3/4	ロクロ成・整形。底部、ヘラ起こし後、回転ヘラ削り。	灰 5Y5/1	微砂粒・石英	－
8	須恵器 坏	器高：3.0・口径：(12.8)・ 底径：(8.2)／1/2	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。	黄灰 2.5Y6/1	石英・白色粒・黒色鉱物	－

1号溝（Fig.36、PL.18）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	軟質陶器 鉢	口径：(27.1)／破片	口唇部、内側に突出する。内外面とも粗雑なナデ。	にぶい黄褐 10YR5/3	粗砂粒・チャート・赤褐色粒	－
2	緑釉陶器	底径：6.2cm／底部片	内外面に緑釉。外底部にも施釉する。	淡黄 2.5Y8/3	石英・黒色鉱物	－
3	須恵器 蓋	／破片	短頸壺の蓋と思われる。上側に凸帯が巡る。凸帯部の径は推定13.0cm。天井部回転ヘラ削り。	灰白 7.5Y7/1	黒色粒・白色粒	－

遺構外（Fig.37・38、PL.18・19）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色　調	胎土／注記
1	深　鉢	／口縁部片	平行沈線・コンパス文。	にぶい黄	繊維・白色粒／X68Y168G
2	深　鉢	／胴部片	ＲＬ縄文・コンパス文。	にぶい赤褐	繊維・石英／X74Y180G
3	深　鉢	／胴部片	不鮮明だが縄文が施文されている。	にぶい黄橙	繊維・角閃石／X76Y176G
4	深　鉢	／胴部片	半截竹管状工具による平行沈線。地文はない。	にぶい赤褐	繊維・角閃石／X76Y182G
5	深　鉢	／口縁部片	撚りのしっかりしないＲＬ縄文。	にぶい赤褐	片岩・ﾁｬｰﾄ／－
6	深　鉢	／胴部片	撚りのしっかりしないＲＬ縄文。	にぶい褐	片岩・ﾁｬｰﾄ／X82Y188G
7	深　鉢	／胴部片	撚りのしっかりしないＲＬ縄文。	にぶい赤褐	片岩・ﾁｬｰﾄ／X74Y178G
8	深　鉢	／胴部片	横位集合沈線。	にぶい褐	片岩・石英／H14
9	深　鉢	／口縁部片	破片内無文。口唇部に棒状工具腹部による押圧。	にぶい褐	雲母・石英／H12
10	深　鉢	／胴部片	角押文。	にぶい赤褐	石英・ﾁｬｰﾄ／－
11	深　鉢	／口縁部片	波状口縁か。深い平行沈線。	にぶい赤褐	石英・白色粒／X76Y180
12	深　鉢	／口縁部片	太い斜位沈線。	にぶい黄橙	石英・角閃石／Ｗ1
13	深　鉢	／口縁部付近片	隆線区画内に太めの沈線。	にぶい黄橙	角閃石・ﾁｬｰﾄ／－
14	深　鉢	／口縁部片	隆帯下に単節縄文。	赤褐	石英・白色粒／H6
15	深　鉢	／口縁部片	口縁部に刺突文、その下に単節縄文。	にぶい黄	白色粒／X76Y180G
16	深　鉢	／胴部片	縦位条線。	にぶい橙	石英・角閃石／X74Y176G
17	深　鉢	口径：8.9／底部欠損	口縁部に沈線巡る。単節縄文後、沈線でＵ字状区画し、区画内の縄文を磨り消す。	浅黄	角閃石・白色粒 ／X82Y181G
18	深　鉢	／胴部片	細縄文、横位沈線、縄文磨り消し。	にぶい橙	角閃石／X74Y180G
19	－	／口縁部片	口縁部に沈線巡る。	にぶい橙	石英・白色粒／H1
20	深　鉢	／胴部片	破片内に横位沈線３条。	にぶい黄橙	石英・ﾁｬｰﾄ／H6
21	土製円板	径4.8×4.4	ＬＲ縄文。／加曽利Ｅ式土器再利用。	黄灰	角閃石／P178

22	磨　石	長さ：7.6cm・幅：7.0cm・厚さ：3.8cm、重さ：321.2ｇ。石材：安山岩。	／D6
23	打製石斧	長さ：13.0cm・幅：4.4cm・厚さ：2.4cm、重さ：170.0ｇ。石材：頁岩。	／－
24	打製石斧	長さ：12.3cm・幅：5.9cm・厚さ：2.4cm、重さ：164.7ｇ。石材：頁岩。	／X80Y184G
25	打製石斧	長さ：9.5cm・幅：5.1cm・厚さ：2.2cm、重さ：95.1ｇ。石材：頁岩。	／－
26	打製石斧	長さ：8.3cm・幅：3.7cm・厚さ：1.4cm、残重：32.6ｇ。石材：頁岩。	／－
27	打製石斧	長さ：10.2cm・幅：5.8cm・厚さ：2.6cm、重さ：166.9ｇ。石材：砂質頁岩。	／H6
28	打製石斧	長さ：9.3cm・幅：5.9cm・厚さ：2.0cm、残重：100.3ｇ。石材：頁岩。	／H2
29	Ｒ　Ｆ	長さ：4.4cm・幅：10.5cm・厚さ：1.4cm、重さ：57.7ｇ。石材：砂岩。／調整のある剥片。	／－
30	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	長さ：8.1cm・幅：5.3cm・厚さ：1.1cm、重さ：59.4ｇ。石材：頁岩。	／X74Y180G
31	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	長さ：6.0cm・幅：6.1cm・厚さ：1.5cm、重さ：44.8ｇ。石材：頁岩。	／－
32	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	長さ：5.1cm・幅：5.6cm・厚さ：0.8cm、重さ：26.2ｇ。石材：頁岩。	／－
33	石　匙	長さ：2.6cm・幅：5.2cm・厚さ：0.8cm、重さ：10.2ｇ。石材：頁岩。	／X74Y190G
34	尖頭器	残長：3.6cm・幅：1.9cm・厚さ：0.7cm、残重：4.43ｇ。石材：頁岩。	／H2
35	石　鏃	残長：2.6cm・残幅：1.6cm・厚さ：0.4cm、残重：1.48ｇ。石材：頁岩。	／－
36	石　鏃	長さ：2.2cm・残幅：1.5cm・厚さ：0.6cm、残重：1.14ｇ。石材：黒曜石。	／X78Y184G

第２章　五代木福Ｉ遺跡

Ⅰ　遺跡の概要

検出された遺構は、住居跡55軒（縄文時代前期１軒、古墳時代後期31軒、奈良・平安時代23軒）、土坑23基、溝22条、ピット220基、砂鉄ピット３基である。

縄文時代前期のＪ－１号住居跡は埋没土と地山との判別が困難であったが、平面形態は長方形に近い形状と想定される。埋設土器は周囲にわずかではあるが焼土の分布が確認されていることから、炉に使用された可能性が高い。

古墳時代後期の住居跡は、比較的規模の大きいものは掘り方後に10㎝前後の貼り床を施すものが多い。カマドは概ね粘土もしくは粘質土で構築されていたが、Ｈ－21号住居跡のように袖部は地山を掘り残しているものも確認されている。また、カマドを造り替えているものも散見され、その場合、付設位置は東→西もしくは東→北の順になるようである。埋没土には白色軽石粒（角閃石安山岩）の含有が認められた。時期的には出土遺物から６世紀中葉～７世紀前半代と考えられる。

奈良時代のＨ－48号住居跡からは土玉・臼玉のほか、銅鈴１点が出土している。

中世では地下式坑４基（３号・６号・19号・20号土坑）を調査している。この内、19号土坑は出入り口部からの天井部が残存していた。同土坑からは釜形土器（茶釜）や石臼、古銭などの遺物がみられた。また、22号・23号土坑は土葬墓で北頭位の人骨と渡来銭が出土している。

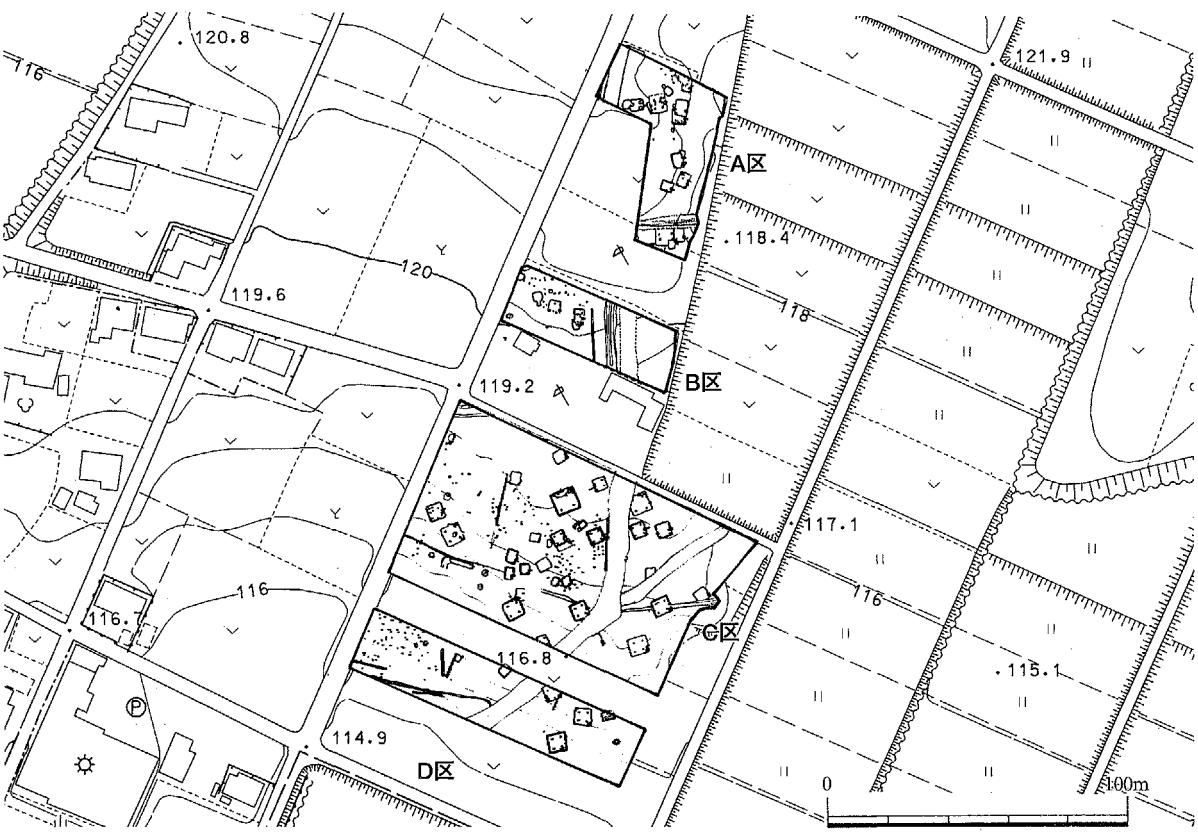


Fig.39　調査区位置図（前橋市現況図28）

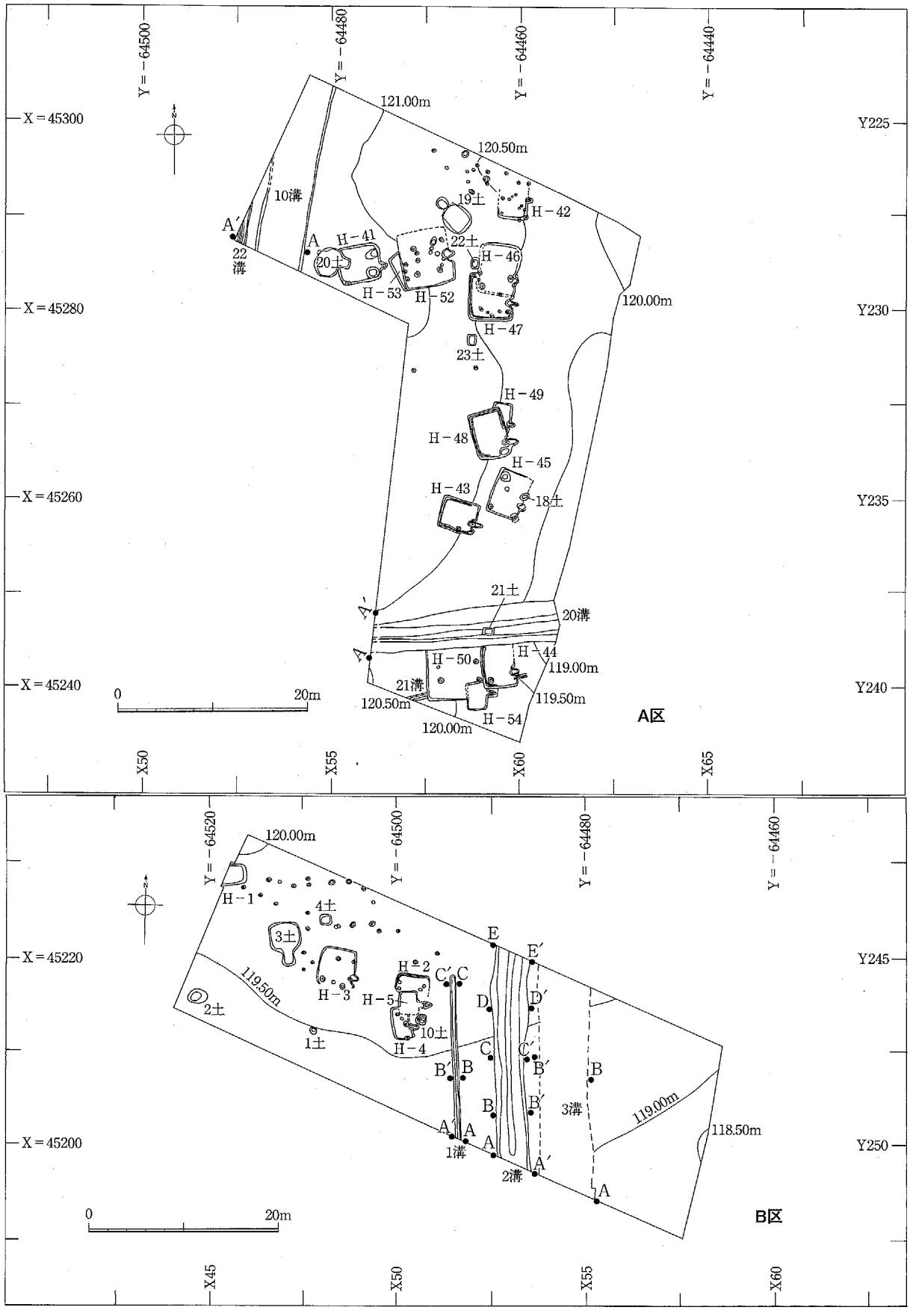


Fig.40　五代木福Ⅰ遺跡Ａ区・Ｂ区全体図

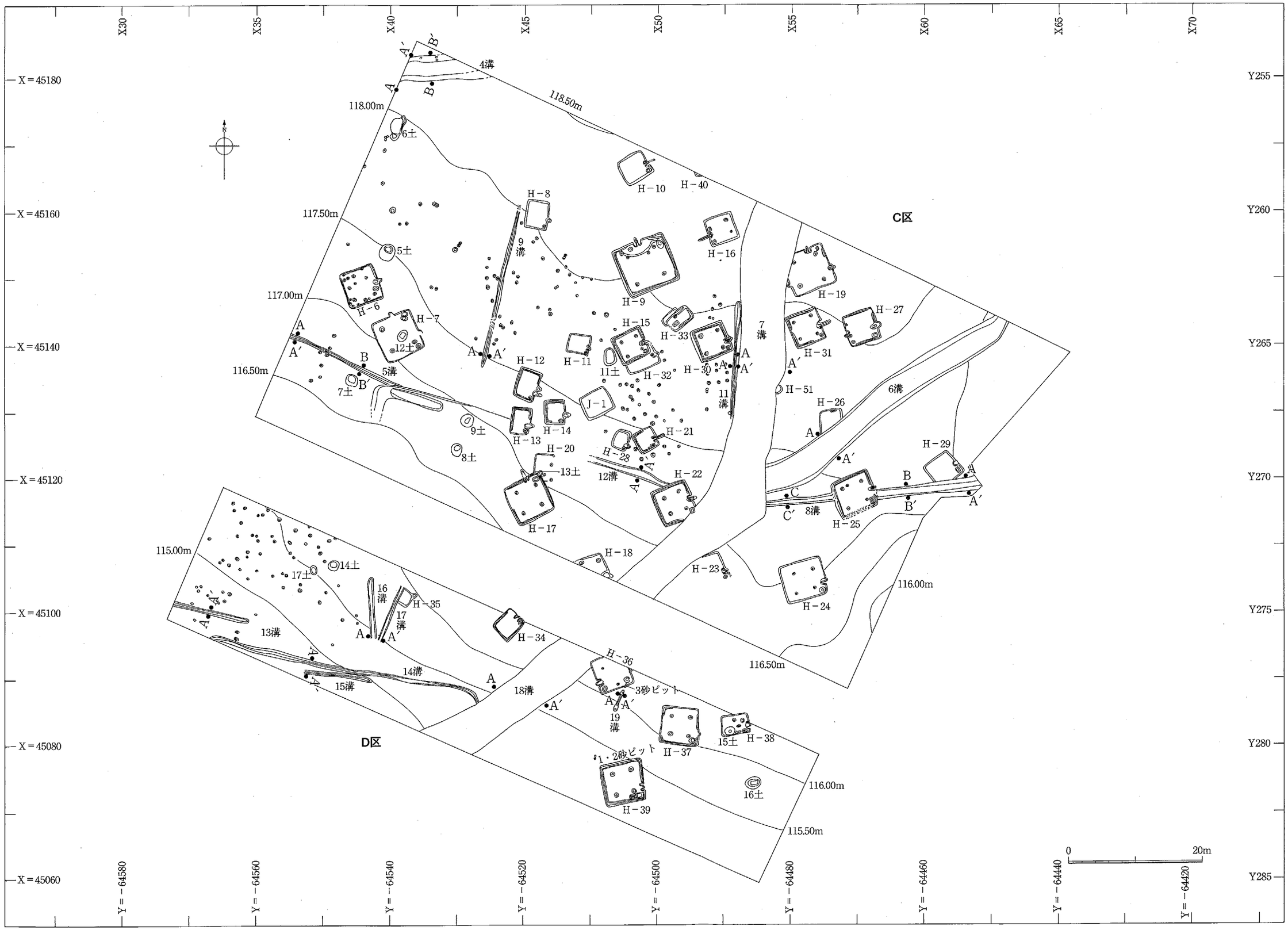


Fig.41　五代木福Ⅰ遺跡C区・D区全体図

Ⅱ　竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（遺構：Fig.42、PL.22／遺物：Fig.96・97、PL.40・41）

位置：Ｃ区。Ｘ47Ｙ267グリッド。**検出状態**：ピット調査時に縄文土器が出土したことからサブトレンチを設定して遺構範囲を確認したが、埋没土と地山との判別が困難な状態であった。**平面形態**：長方形と想定される。**規模**：4.15m×3.40m。**床面積**：13.6㎡。**長軸方位**：Ｎ－30°－Ｗ。**残存深度**：43cm。**床面の状態**：多少の起伏がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：３基のピットを確認している。南寄りのピットは深さ45cmで、他の２基はいずれも15cm前後と浅い。**炉跡**：中央北寄りに埋設土器（11）があり、周囲に焼土及び地山の被熱痕がわずかに確認されたことから土器使用の炉跡と判断した。**遺構埋没状態**：ローム質の土が自然埋没していた。しまりが強く、先述したように地山との判別が困難であったが、埋没土には微量の炭化粒や焼土の含有が認められるなどの差異が認められた。**遺物出土状態**：先述の埋設土器のほか、埋没土中から比較的まとまった量の土器片・石器類が出土している。**時期**：縄文時代前期黒浜～諸磯ａ式期。

遺物：土器（片）547点、石器類283点（磨石１、磨製石斧１、打製石斧１、石鏃１、調整のある剥片４、剥片95、小礫180）を確認している。土器は、胎土に繊維を含む黒浜（有尾）式313点、諸磯ａ式234点が出土しているが、出土状態に顕著な差は認められなかった。小礫としたものはすべて被熱痕のある輝石安山岩で、径３cm前後のものが多かった。掲載遺物、土器14点、石器類３点。

Ｈ－１号住居跡（遺構：Fig.43、PL.23／遺物：Fig.98、PL.42）

位置：Ｂ区。Ｘ45Ｙ242グリッド。西側は調査区外。**検出状態**：小規模な竪穴住居跡と判断したが、調査範囲においてカマドが検出されておらず、遺構の性格にはやや問題が残る。**平面形態**：長方形。**規模**：1.70m×－。**床面積**：不明。**主軸方位**：不明。**残存深度**：24cm。**床面の状態**：掘り方後、明褐色土（３層）を充填して床面を構築している。やや凹凸や起伏がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：暗褐色基調の土が自然埋没していた。**遺物出土状態**：出土遺物は少なく、疎らな分布状態であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕片・坏３点以上を確認している。掲載遺物、１点。

Ｈ－２号住居跡（遺構：Fig.43、PL.23／遺物：Fig.98、PL.42）

位置：Ｂ区。Ｘ50Ｙ245グリッド。**検出状態**：南側をＨ－５号住居跡に切られている。残存深度が浅いこともあり、遺構の全容を明確にすることができなかった。**平面形態**：（長）方形基調と想定される。**規模**：3.40m×－。**床面積**：不明。**主軸方位**：不明であるが、東側にカマド付設と想定した場合はＮ－93°－Ｅ。**残存深度**：12cm。床面の状態：やや凹凸がある。**壁周溝**：北側において検出されている。**柱穴**：４基のピットを確認している。pit－１・２は深さ30cm前後で主柱穴の可能性があり、Ｈ－４号住居跡内のpit-１がこれに対応する可能性もあるが、明確に判断できなかった。**カマド**：検出されなかったが、Ｈ－５号住居跡のカマドと判断した部分が本住居跡に帰属する可能性がある。**貯蔵穴**：検出されなかったが、10号土坑が本住居跡のカマド脇の坑の可能性がある。**遺構埋没状態**：暗褐色基調の土が埋没していた。**遺物出土状態**：疎らな分布状態であった。**時期**：８世紀末葉～９世紀前半。

遺物：土師器片、須恵器蓋２点・坏片、鉄製品２点（刀子１、不明１）を確認している。掲載遺物、２点。

Ｈ－３号住居跡（遺構：Fig.44、PL.23／遺物：Fig.98、PL.42）

位置：Ｂ区。Ｘ48Ｙ245グリッド。**検出状態**：南側を中心に攪乱を受けていた。**平面形態**：横長長方形。**規模**：3.75m×（4.05m）。**床面積**：推定14.4㎡。**主軸方位**：Ｎ－100°－Ｅ。**残存深度**：19㎝。**床面の状態**：やや凹凸・起伏がみられた。**壁周溝**：攪乱のため不明瞭な南側を除き全周する。**柱穴**：数基の小ピットがあるが、主柱穴は検出されなかった。**カマド**：東壁中央やや南寄りに位置。残存状態が悪く詳細不明。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に浅い坑がある。**遺構埋没状態**：暗褐色基調の土が埋没していた。**遺物出土状態**：疎らな分布状態であった。**時期**：出土遺物から10世紀前半と判断したが、遺構形態からは遺物時期よりも古相の可能性がある。

遺物：土師器坏２点、須恵器椀１点以上、不明鉄製品２点、鉄滓４点を確認している。掲載遺物、４点。

Ｈ－４号住居跡（遺構：Fig.43、PL.23／遺物：Fig.98、PL.42）

位置：Ｂ区。Ｘ50Ｙ246グリッド。**検出状態**：Ｈ－５号住居跡に切られている。残存深度が浅く不明な点が多かった。**平面形態**：横長長方形。**規模**：－×2.95m。**床面積**：不明。**主軸方位**：Ｎ－84°－Ｅ。**残存深度**：５㎝。**床面の状態**：やや凹凸がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：南壁に位置するピットは本住居跡よりも古いもので、また、pit－１はＨ－２号住居跡に帰属する可能性がある。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。残存状態が悪く詳細は不明である。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：暗褐色土及び黒褐色土が埋没していた。**遺物出土状態**：疎らな分布状態であった**時期**：９世紀後半。

遺物：土師器甕片・坏片、須恵器坏２点以上を確認している。掲載遺物、１点。

Ｈ－５号住居跡（遺構：Fig.43、PL.23）

位置：Ｂ区。Ｘ50Ｙ246グリッド。**検出状態**：Ｈ－２号・４号住居跡を切っている。残存深度が浅く不明な点が多かった。**平面形態**：横長長方形と推定される。**規模**：1.80m×－。**床面積**：不明。**主軸方位**：Ｎ－90°－Ｅ。**残存深度**：12㎝。**床面の状態**：凹凸が著しい。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央南寄りに位置するようであるが、同部分はＨ－２号住居跡のカマド掘り方の可能性もある。わずかに焼土の分布が確認されたが、残存状態が悪く詳細は不明である。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：暗褐色土・黒褐色土が埋没していた。**遺物出土状態**：微量の小片が出土している程度であった。**時期**：重複関係から９世紀後半以降と想定されるが、詳細は不明。

遺物：土師器甕小片・坏小片、須恵器坏小片を確認している。掲載遺物、０点。

Ｈ－６号住居跡（遺構：Fig.45・46、PL.23／遺物：Fig.98、PL.42）

位置：Ｃ区。Ｘ38Ｙ262グリッド。**検出状態**：東壁を中心に攪乱を受けていた。**平面形態**：方形。**規模**：5.20m×5.40m。**床面積**：27.6㎡。**主軸方位**：Ｎ－71°－Ｅ。**残存深度**：37㎝。**床面の状態**：周辺部が深めの掘り方後、ロームブロックを多量に含む暗褐色土（８層）を充填して床面を構築しており、全体的に多少の凹凸がみられた。**壁周溝**：途切れる部分もあるが、各壁面沿いに検出されている。**柱穴**：数基の小ピットもあるが、pit－１～４を主柱穴と判断した。配置は不整である。主柱穴の規模は、pit－１が径40㎝・深さ16㎝、pit－２が径50㎝・深さ38㎝、pit－３が径52㎝・深さ47㎝、pit－４が径55㎝・深さ24㎝である。**カマド**：東壁中央部に位置。掘り方平面形は凸字状。左袖に土師器長胴甕（1）を、右袖には板状の礫を配置し、粘土もしくは粘質土を主体に構築されていたものと想定される。焚き口幅は29㎝前後。カマド左脇から器高42.6

cmの土師器長胴甕（2）が出土しており、外面に粘土の付着が認められることから、カマド内に掛けられていたか、あるいは懸架材として使用されていたと考えられる。9層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に近接。平面形態は長方形で、規模79cm×58cm・深さ93cm。**遺構埋没状態**：黒色土・暗褐色土が自然埋没しているものと思われる。**遺物出土状態**：カマド構築材及びカマド周辺からの出土のみで、そのほかはごく疎らに小片が出土している程度であった。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半)。

遺物：土師器甕3点以上・高坏片・坏片を確認している。掲載遺物、3点。

H－7号住居跡（遺構：Fig.47、PL.24／遺物：Fig.98、PL.42）

位置：C区。X40Y264グリッド。**検出状態**：東側カマドから北側カマドにかけての部分が攪乱を受けていた。また、掘り方調査時に本住居跡より古い12号土坑を検出している。**平面形態**：方形。**規模**：6.20m×5.95m。**床面積**：36.8㎡。**主軸方位**：N－68°－E。**残存深度**：57cm。**床面の状態**：掘り方後、ロームブロック等を含む暗褐色土（7層）を充填して床面を構築している。多少の凹凸がみられた。**壁周溝**：北側東半～東側～南側にかけて検出されているが、南側は残存状態が良好ではない。**柱穴**：主柱穴はpit－1～4の4基。規模は、pit－1が径90cm・深さ58cm、pit－2が径79cm・深さ55cm、pit－3が径85cm・深さ52cm、pit－4が径74cm・深さ48cmである。**カマド**：東側中央部と北側中央部に位置。両カマドとも攪乱のため詳細は不明である。東側カマドの向かって右側に位置する貯蔵穴が掘り方調査時に検出されていることや、東側カマド部分に壁周溝が巡ると推定されることなどから、カマドは東側から北側に造り替えられたものと考えられる。北側カマドの掘り方は凸字状。**貯蔵穴**：東カマド向かって右側の南東隅部（旧貯蔵穴）と北側カマド向かって右側の北東隅部（新貯蔵穴）に位置。旧貯蔵穴は、平面形態長方形で、規模83cm×49cm・深さ101cm。新貯蔵穴は、平面形態楕円形で、規模102cm×80cm・深さ83cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：散在的な出土状態であった。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半)。

遺物：土師器甕片・椀片・坏5点以上、須恵器瓶片・坏小片、薦編石2点を確認している。掲載遺物、3点。

H－8号住居跡（遺構：Fig.44、PL.24／遺物：Fig.98、PL.42）

位置：C区。X45Y260グリッド。**検出状態**：西壁面を攪乱で壊されている。**平面形態**：横長長方形。**規模**：3.20m×3.85m。**床面積**：12.0㎡。**主軸方位**：N－96°－E。**残存深度**：36cm。**床面の状態**：多少の凹凸がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。構築状態は不明であるが、粘土もしくは粘質土で構築されていたものと思われる。煙道部は壁外に40cmほど突出。下層（6層）に灰の堆積を確認している。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模49cm×32cm・深さ41cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：散在的な出土状態であった。**時期**：9世紀後半。

遺物：土師器甕3点以上・台付甕脚台部片、須恵器甕片・椀1点・坏2点以上、薦編石3点を確認している。須恵器坏（3）は内面黒色処理が施されている。掲載遺物、4点。

H－9号住居跡（遺構：Fig.48・49、PL.24・25／遺物：Fig.99、PL.43）

位置：C区。X49Y262グリッド。**検出状態**：北側一部に攪乱を受けるものの、良好な残存状態であった。**平面形態**：方形。**規模**：7.50m×7.85m。今回の調査で最大規模の住居跡である。**床面積**：59.0㎡。**主軸方位**：N－23°－W。**残存深度**：43cm。**床面の状態**：周辺部が深めの掘り方後、ロームブロック等を含む暗褐色土

（8層）を充填して床面を構築している。カマド周辺は扇状に若干高い状態にある。**壁周溝**：先述の扇状部分を除き全周する。**柱穴**：主柱穴はpit－1～4の4基。規模は、pit－1が径58cm・深さ55cm、pit－2が径60cm・深さ53cm、pit－3が径72cm・深さ50cm、pit－4が径68cm・深さ52cmである。また、カマド左脇にpit－5・6があり、いずれも深く掘られているが、性格は不明である。**カマド**：北壁中央部に位置。粘土もしくは粘質土で構築。焚き口幅は42cm前後。**貯蔵穴**：扇状部分の下側に位置するpit－8が貯蔵穴と思われる。平面形態は楕円形で、規模130cm×90cm・深さ65cm。なお、掘り方調査時にカマド右袖付近からpit－9を検出している。平面形態は楕円形で深い逆台形状に掘られている。規模は115cm×72cm・深さ110cm。4層に粘土を充填しており、これはカマド構築もしくは修復に関連するものと考えられる。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：比較的南半部からの出土が多かった。南壁付近からは鷹編石がややまとまって出土している。**時期**：古墳時代後期（6世紀中葉～後半）。

遺物：土師器甕6点以上・甑1点・鉢1点以上・高坏2点以上・坏10点以上、手捏土器1点、須恵器甕片・蓋片、鷹編石14点を確認。土師器坏（8･9）と手捏土器（10）は内面黒色処理が施される。掲載遺物、19点。

H－10号住居跡（遺構：Fig.50、PL.25／遺物：Fig.99、PL.44）

位置：C区。X48Y258グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：縦長長方形。**規模**：3.95m×3.60m。**床面積**：14.0㎡。**主軸方位**：N－60°－E。**残存深度**：58cm。**床面の状態**：多少の起伏がみられた。**壁周溝**：南側西端付近から北側にかけて検出されている。北側は一部途切れる。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央付近に位置。粘質土を主体に構築されている。焚き口幅は35cm前後。煙道部は水平方向に長く延び、壁外95cmほどの地点で立ち上がる。8層上面に灰がラミナ状に堆積していた。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に位置。平面形態は楕円形で、規模73cm×58cm・深さ62cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：散在的な出土状態であった。**時期**：古墳時代後期（7世紀前半）。

遺物：土師器甕3点以上・坏3点、礫1点、鷹編石2点を確認している。掲載遺物、5点。

H－11号住居跡（遺構：Fig.46、PL.25／遺物：Fig.100、PL.44）

位置：C区。X47Y265グリッド。**検出状態**：北西隅付近に攪乱を受けていた。**平面形態**：縦長長方形。**規模**：3.10m×2.80m。**床面積**：推定8.5㎡。**主軸方位**：N－101°－E。**残存深度**：25cm。**床面の状態**：やや中央部が高い状態にある。**壁周溝**：北壁西半部で検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央やや南寄りに位置。粘土及び粘質土で構築されている。3層に灰の厚い堆積がみられた。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に、平面形態円形、径25cm・深さ約20cmの小ピットがあるが、貯蔵穴とは想定しがたい。**遺構埋没状態**：埋没土には径40㎜のロームブロックが認められることなどから人為埋没の可能性がある。**遺物出土状態**：須恵器坏が5点以上出土しているものの、全体的に散在的な状態であった。**時期**：9世紀後半。

遺物：土師器甕片、須恵器椀1点・坏5点以上、砥石1点を確認している。須恵器坏（2）の外面体部には、台形状の囲いと、その中に「上」の墨書がある。掲載遺物、4点。

H－12号住居跡（遺構：Fig.51、PL.25／遺物：Fig.100、PL.44）

位置：C区。X45Y266グリッド。**検出状態**：西側に南北方向の攪乱溝がある。**平面形態**：横長長方形。**規模**：3.00×4.25m。**床面積**：12.4㎡。**主軸方位**：N－112°－E。**残存深度**：42cm。**床面の状態**：多少の凹凸がみられた。**壁周溝**：カマド周辺部分を除き全周する。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央南寄りに

位置。造り替えが行われたようであり、向かって左側に旧カマドの痕跡がみられる。煙道部は壁外に85cmほど突出する。構築状態は明確ではないが、埋没土の状態から粘土及び粘質土で構築されていたものと想定される。5層に灰がやや多く認められた。カマド内の小ピットは支脚装着痕の可能性がある。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に平面形態楕円形の坑がある。規模は、52cm×46cm・深さ42cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド右袖部付近から刀子2点が出土している。全体的には散在的な出土状態であった。**時期**：9世紀後半。

遺物：土師器甕5点以上・台付甕片、須恵器椀3点以上・坏2点以上、鉄製品2点（刀子2）を確認している。掲載遺物、4点。

H－13号住居跡（遺構：Fig.51、PL.26／遺物：Fig.100、PL.44）

位置：C区。X44Y268グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：横長長方形。**規模**：2.75m×3.75m。**床面積**：9.7㎡。**主軸方位**：N－94°－E。**残存深度**：43cm。**床面の状態**：やや凹凸がみられた。**壁周溝**：西側から東側北半部にかけて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。構築状態は明確ではないが、埋没土の状態から粘土及び粘質土で構築されていたものと想定される。煙道部は壁外に70cm前後突出する。6層に灰がやや多く認められた。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に平面楕円形の坑がある。規模は、57cm×48cm・深さ52cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：床面付近に散乱するような状態であった。**時期**：9世紀後半。

遺物：土師器甕1点以上・坏小破片、須恵器甕片・瓶片・坏4点以上・皿1点、鉄製品2点（刀子2）を確認している。掲載遺物、7点。

H－14号住居跡（遺構：Fig.52、PL.26／遺物：Fig.100、PL.45）

位置：C区。X74Y267グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：横長長方形。**規模**：3.35m×2.80m。**床面積**：8.9㎡。**主軸方位**：N－92°－E。**残存深度**：33cm。**床面の状態**：概ね平坦な状態であった。**壁周溝**：南側西半部～北側にかけて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに位置。粘土を主体に構築されていた。カマドを覆う粘土（2層）上面に粘土のみられない径19cm前後の円形部分が2か所あり、掛け口と判断した。また、カマド手前側には被熱により硬化した粘土塊（7層）が検出されている。煙道部は壁外に80cmほど突出する。灰は11層中にわずかに確認された程度であった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に平面楕円形の坑がある。規模は、55cm×44cm・深さ31cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド及びその周辺から土師器甕（1）と須恵器坏（2）が出土しているほか、疎らな分布状態であった。**時期**：9世紀後半。

遺物：土師器甕3点以上、須恵器坏2点以上、鷹編石1点を確認している。掲載遺物、2点。

H－15号住居跡（遺構：Fig.53・54、PL.26／遺物：Fig.100・101、PL.45）

位置：C区。X48Y265グリッド。**検出状態**：H-32号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。**平面形態**：方形。**規模**：4.25m×4.20m。**床面積**：17.7㎡。**主軸方位**：N－66°－E。**残存深度**：57cm。**床面の状態**：掘り方後、ロームブロック等を含む暗褐色土（10層）を充填して床面を構築している。全体的にほぼ平坦な状態であった。また、部分的にではあるが焼土や炭化材の分布がみられ、火災を受けた可能性がある。**壁周溝**：カマド部分と南東隅周辺を除いて検出されている。**柱穴**：主柱穴はpit－1～4の4基。規模は、pit－1が径57cm・

深さ48cm、pit－2が径43cm・深さ47cm、pit－3が径45cm・深さ61cm、pit－4が径38cm・深さ61cmで、南側の2基（pit－3・4）が深く掘られている。なお、pit－3の埋没土中から炭化材が検出されている。**カマド**：東壁中央部付近に位置。掘り方平面形は凸字状。粘土及び粘質土で構築されていたものと想定される。6層に灰の堆積が認められた。**貯蔵穴**：南東隅部に位置。平面形態は長方形に近く、断面は逆台形状。規模は、60cm×41cm・深さ78cm。**遺構埋没状態**：焼失後、自然埋没したものと想定される。**遺物出土状態**：カマド周辺から土師器甕2点（1･2）が出土している。南西隅部の床面には薦編石10点が集中していた。**時期**：6世紀末葉～7世紀初頭。

遺物：土師器甕4点以上・坏約10点、薦編石11点を確認している。掲載遺物、15点。

H－16号住居跡（遺構：Fig.55、PL.26／遺物：Fig.101、PL.46）

位置：C区。X52Y260グリッド。**検出状態**：良好。上面に試掘トレンチ。カマド煙道部と東壁面の一部に攪乱を受ける。**平面形態**：方形。**規模**：4.05m×4.05m。**床面積**：16.0㎡。**主軸方位**：N－112°－W。**残存深度**：36cm。**床面の状態**：多少の凹凸はあるが、全体的にほぼ平坦。**壁周溝**：東側で一部途切れるが、カマド部分を除きほぼ全周する。**柱穴**：東側に深さ7～14cmの浅い小ピットがある程度で柱穴は検出されなかった。**カマド**：西壁中央南寄りに位置。右袖部に土師器甕を配し、粘土を主体に構築。焚き口幅は30cm前後。煙道部は水平方向に長く延び、壁外145cmほどの位置で立ち上がる。2層に灰の堆積を確認している。**貯蔵穴**：カマド向かって左側の南西隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模73cm×61cm・深さ73cm。また、カマド向かって右脇にも、平面形態不整円形（底面は長方形）、規模65cm×65cm・深さ29cmの坑がある。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：小破片が多く、散在的な分布状態であった。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。

遺物：土師器甕2点以上・坏6点以上、鉄製品1点、薦編石5点を確認している。鉄製品は折れ曲がっているが鉄鏃の可能性がある。掲載遺物、7点。

H－17号住居跡（遺構：Fig.56・57、PL.26／遺物：Fig.101、PL.46）

位置：C区。X44Y270グリッド。**検出状態**：北東隅部に本住居跡よりも新しいH－20号住居跡が重複するが、同住居跡の掘り込みが浅く本住居跡を壊すまでには至っていない。北東隅部には縄文時代と想定される13号土坑が位置する。南側は広範に攪乱を受けている。また、東側にも攪乱溝がある。**平面形態**：方形。**規模**：5.85m×6.00m。**床面積**：推定35.2㎡。**主軸方位**：N－67°－E。**残存深度**：51cm。**床面の状態**：攪乱を受けていない部分は概ね平坦な状態であった。**壁周溝**：不鮮明な箇所もあるが、カマド部分を除き全周していたもの想定される。**柱穴**：主柱穴はpit－1～4の4基。規模は、pit－1が径58cm・深さ74cm、pit－2が径68cm・深さ75cm、pit－3が径64cm・深さ71cm、pit－4が径46cm・深さ76cmである。**カマド**：東側から北側へとカマドの造り替えが行われている。東側カマドは煙道部を残すのみで、水平方向に長く延び、壁外145cm程度の位置で立ち上がる。北側カマドは粘土及び粘質土を主体に構築されていた。焚き口幅は30cm前後。煙道部は水平方向に長く延び、壁外140cmほどの位置で立ち上がる。2層にやや多量の灰が確認されている。**貯蔵穴**：北側カマド向かって右側の北東隅部に位置。平面形態は長方形で、規模106cm×68cm・深さ91cm。底面付近から炭化材と土師器坏（5）が出土している。また、南東隅部にも東側カマドに対応する貯蔵穴の痕跡（Fig.56の破線部分）と思われる部分が認められたが、攪乱の影響もあり、明確に把握できなかった。**遺構埋没状態**：残存部分から判断する限りでは自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：北側カマド周辺からの

出土が多かった。**時期**：古墳時代後期（6世紀中葉）。

遺物：土師器甕3点以上・鍋状の鉢2点・坏12点以上、須恵器甕片、鷹編石1点、鉄製品1点（刀子1）を確認している。土師器坏には内面黒色処理を施すものが4点（4･6･7･8）みられた。なお、H－20号住居跡出土遺物とした石製装飾品は本住居跡に帰属する可能性がある。掲載遺物、12点。

H－18号住居跡（遺構：Fig.54、PL.27）

位置：C区。X47Y273グリッド。南側は調査区外。**検出状態**：削平を受けており、かろうじて遺構の範囲を把握できた程度の残存状態であった。**平面形態**：方形基調と想定されるが不明。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：推定N－71°－E。**残存深度**：11cm。**床面の状態**：床面の大半にまで削平が及んでいた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：調査範囲内において2基のピットが検出されている。規模は、pit－1が径68cm・深さ32cm、pit－2が径75cm・深さ40cmである。**カマド**：東壁に位置するが、残存状態が悪く詳細は不明である。**貯蔵穴**：調査範囲において検出されなかった。**遺構埋没状態**：不明。**遺物出土状態**：土師器片がわずかに出土している程度であった。**時期**：古墳時代後期と思われるが詳細不明。

遺物：土師器甕片・坏片を確認している。いずれも小破片である。掲載遺物、0点。

H－19号住居跡（遺構：Fig.58・59、PL.27／遺物：Fig.101、PL.46・47）

位置：C区。X55Y262グリッド。**検出状態**：北西部を7号溝に切られている。**平面形態**：方形。**規模**：6.30m×6.05m。**床面積**：不明であるが38㎡前後と推定される。**主軸方位**：N－68°－E。**残存深度**：25cm。**床面の状態**：掘り方後、ロームブロック等を含む暗褐色土（3層）を充填して床面を構築。多少の起伏はみられるが概ね平坦な状態であった。**壁周溝**：北側及び東側の一部で確認できた程度。**柱穴**：主柱穴はpit－1～4の4基。規模は、pit－1が径88cm・深さ62cm、pit－2が径53cm・深さ74cm、pit－3が径56cm・深さ64cm、pit－4が径70cm・深さ67cmである。**カマド**：東側～西側、さらに北側へと造り替えが行われているものと想定される。東側カマドは中央やや南寄りに位置し、掘り方平面形は凸字状。西側カマドは南寄りに位置し、わずかに壁外に突出する部分と、周辺に粘土や焼土を確認できた程度であった。北側カマドは中央東寄りに位置。粘質土及び粘土で構築されていた。焚き口幅は40cm前後。灰の堆積は確認できなかった。**貯蔵穴**：北側カマドの向かって右脇に位置。平面形態は楕円形で、規模62cm×55cm・深さ62cm。東側・西側カマドに対応する貯蔵穴は確認できなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：床面全体に散乱するような状態であった。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。

遺物：土師器甕2点以上・椀2点・坏6点以上、鷹編石10点を確認している。掲載遺物、12点。

H－20号住居跡（遺構：Fig.59、PL.27／遺物：Fig.101、PL.47）

位置：C区。X45Y269グリッド。**検出状態**：H－17号住居跡の北東隅部に一部重複し、重複部分には厚くロームを貼っている（PL.27）。3条の攪乱溝のため不明な点が多い。**平面形態**：横長長方形。**規模**：－×3.85m。**床面積**：不明。**主軸方位**：N－93°－E。**残存深度**：37cm。**床面の状態**：先述したようにH－17号住居跡との重複部分に貼り床を施す。残存部分においては概ね平坦な状態であった。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：小ピット数基があるが、いずれも浅く柱穴とは想定しがたい。**カマド**：東側南寄りに浅い凹みがあり、焼土が確認されたことから、カマドの痕跡と判断した。詳細は不明である。**貯蔵穴**：南東隅付近に深さ34cmの坑があるが、攪乱溝によって壊されている。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：少量

の遺物が散在するような状態であった。**時期**：9世紀後半。

遺物：土師器甕2点、須恵器甕片・坏片、灰釉陶器片、台石1点、石製装飾品1点を確認している。石製装飾品（3）はH－17号住居跡に帰属する可能性が高い。掲載遺物、3点。

H－21号住居跡（遺構：Fig.60、PL.27／遺物：Fig.102、PL.47）

位置：C区。X49Y268グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：方形。**規模**：3.00m×3.00m。**床面積**：9.1㎡。**主軸方位**：N－58°－E。**残存深度**：56cm。**床面の状態**：ほぼ平坦。**壁周溝**：西半部において検出されている。**柱穴**：南壁際に3基のピットがあり、pit－1は貯蔵穴と判断した。pit－2は径57cm・深さ16cm、pit－3は径21cm・深さ13cmで、出入り口ピットの可能性はあるが、柱穴とは想定しがたい。**カマド**：東壁中央部南寄りに位置。袖部は地山のロームを掘り残して構築されており、両袖部の内外とも直線的でほぼ垂直に立ち上がる状態にある。天井部は、埋没土の状態から粘土及び粘質土で構築されていたものと想定される。焚き口幅は35cm前後。煙道部は水平方向に長く延び、壁外120cmほどの位置でほぼ垂直に立ち上がっている。3層に灰の堆積を確認している。燃焼部中央に浅い凹みがあり、支脚が装着されていた可能性がある。**貯蔵穴**：先述したようにカマド向かって右側のpit－1を貯蔵穴と判断した。平面形態は不整円形で、規模45cm×41cm・深さ39cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：西壁際中央部から土師器坏（7）が出土しているほかは、カマド内及びカマド周辺からの出土が多かった。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。**遺物**：土師器甕4点・高坏3点・坏2点以上を確認している。高坏（4･5）は坏底部が非常に厚く造られている。また、土師器坏（7）も他の遺構出土遺物と比較して厚手である。掲載遺物、7点。

H－22号住居跡（遺構：Fig.61・62、PL.28／遺物：Fig.102、PL.48）

位置：C区。X50Y271グリッド。**検出状態**：南東隅部を7号溝に切られているが、全体的には良好な残存状態であった。**平面形態**：方形。**規模**：5.20m×5.40m。**床面積**：不明であるが27㎡前後と推定される。**主軸方位**：N－67°－E。**残存深度**：57cm。**床面の状態**：やや凹凸がみられた。**壁周溝**：カマド部分を除き全周する。**柱穴**：主柱穴はpit－1～4の4基。規模は、pit－1が径54cm・深さ56cm、pit－2が径54cm・深さ65cm、pit－3が径40cm・深さ54cm、pit－4が径60cm・深さ55cm。**カマド**：東壁中央部付近に位置。粘質土及び粘土で構築されていたものと想定される。焚き口幅は40cm前後。煙道部は壁外に60cmほど突出する。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は長方形で、残存規模85cm×60cm・床面からの深さ60cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：薦編石が多量に散乱するような状態で出土している。出土層位は大半が2層上面である。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。**遺物**：土師器甕5点以上・高坏1点・坏10点以上、須恵器甕片・高坏脚部片・坏片、薦編石21点を確認している。須恵器高坏（8）は小片であるが長方形透かし三方と推定される。掲載遺物、27点。

H－23号住居跡（遺構：Fig.62、PL.28／遺物：Fig.102、PL.49）

位置：C区。X52Y273グリッド。**検出状態**：北西部が7号溝に切られるほか、遺構の大半を攪乱・削平されており、カマドと北側床面の一部がかろうじて残存していた。**平面形態**：方形基調と思われるが不明。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：推定N－70°－E。**残存深度**：18cm。**床面の状態**：不明。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：不明。**カマド**：東壁に位置。粘土及び粘質土で構築。掘り方平面形は凸字状。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：不明。**遺物出土状態**：残存部分から土師器片等が

わずかに出土している。**時期**：古墳時代後期と想定されるが詳細は不明。
遺物：土師器甕片・坏片、臼玉１点を確認している。掲載遺物、１点。

Ｈ－２４号住居跡（遺構：Fig.63・64、PL.28／遺物：Fig.103、PL.49）
位置：Ｃ区。X55Y273グリッド。**検出状態**：遺構内に南北方向の攪乱溝13本。この攪乱溝は本住居跡部分のみに掘削されている。**平面形態**：やや縦長の方形。**規模**：6.15m×5.70m。**床面積**：34.0㎡。**主軸方位**：Ｎ－77°－Ｅ。**残存深度**：42cm。**床面の状態**：攪乱溝が一部床面にまで達していたが、全体的にほぼ平坦で硬くしまっていた。部分的に貼り床（７層）を施している。**壁周溝**：北西隅付近及び南側の一部で確認された程度であった。**柱穴**：主柱穴はpit－１～４の４基。規模は、pit－１が径43cm・深さ54cm、pit－２が径33cm・深さ40cm、pit－３が径35cm・深さ50cm、pit－４が径35cm・深さ55cmである。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。両袖部に石を配し、粘土及び粘質土で構築。両袖石はやや北側に倒れかかっている。カマド手前に長さ47cmの石（被熱のある輝石安山岩）が検出されており（PL.28）、懸架材と考えられる。焚き口幅は35cm前後。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右脇の南東隅部に位置。平面形態は不整円形で、規模100cm×90cm・深さ93cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド及びカマド周辺からの出土が多かった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。
遺物：土師器甕７点以上・甑１点・高坏片・坏15点以上、須恵器小形短頸壺１点、鉄製品３点（釘1、不明2）、砥石１点を確認している。掲載遺物、13点。

Ｈ－２５号住居跡（遺構：Fig.65、PL.28／遺物：Fig.103・104、PL.50）
位置：Ｃ区。X57Y270グリッド。**検出状態**：南側は攪乱を受けている。また、上面は８号溝に切られている。**平面形態**：方形。**規模**：5.85m×5.50m。**床面積**：推定31.5㎡。**主軸方位**：Ｎ－65°－Ｅ。**残存深度**：37cm。**床面の状態**：南側は貼り床（３層）を施している。**壁周溝**：カマド部分を除き全周するものと想定される。**柱穴**：主柱穴はpit－１～４の４基。規模は、pit－１が径42cm・深さ75cm、pit－２が径60cm・深さ62cm、pit－３が径40cm・深さ70cm、pit－４が径58cm・深さ73cmである。pit－５は深さ6cmの浅い凹みである。**カマド**：東壁中央部に位置。掘り方平面形は凸字状。粘土・粘質土及びローム土で構築。３層は天井部崩落と思われる焼土層である。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は長方形で、規模82cm×45cm・深さ63cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：東半部からの出土が多かった。北東隅部には薦編石が集中していた。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。
遺物：土師器甕７点以上・坏５点以上、台石１点、薦編石13点を確認している。掲載遺物、18点。

Ｈ－２６号住居跡（遺構：Fig.64、PL.28／遺物：Fig.104、PL.51）
位置：Ｃ区。X56Y268グリッド。**検出状態**：南側大半を６号溝に切られている。**平面形態**：長方形基調と想定されるが不明。**規模**：3.10m×－。**床面積**：不明。**主軸方位**：東側にカマド付設と想定した場合Ｎ－85°－Ｅ前後。**残存深度**：24cm。**床面の状態**：やや凹凸がみられた。**壁周溝**：北側に深さ12cmの溝状の掘り込みがあるが、壁周溝は検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁に付設されていたものと推定されるが不明。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：下層にローム粒をやや多く含む明褐色土（３層）が堆積する。**遺物出土状態**：検出範囲中央部から土師器甕片（1）・坏片（2）が出土している。**時期**：９世紀後半。
遺物：土師器甕１点・坏１点、須恵器甕片を確認している。土師器坏（2）はいわゆる模倣坏であるが、土

師器甕（1）は「コ」の字状口縁であり、坏は紛れ込みと判断した。掲載遺物、２点。

Ｈ－２７号住居跡（遺構：Fig.66、PL.29／遺物：Fig.104・105、PL.51）

位置：Ｃ区。X57Y264グリッド。**検出状態**：北壁の一部及び北西隅部に攪乱を受ける。**平面形態**：方形。**規模**：4.40m×4.65m。**床面積**：20.2㎡。**主軸方位**：Ｎ－70°－Ｅ。**残存深度**：26cm。**床面の状態**：多少の起伏がみられたが、全体的にほぼ平坦。**壁周溝**：北側・南側及び東側の北半部において検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東側から西側へと造り替えが行われている。東側カマドは中央やや南寄りに位置し、煙道部は壁外に50cmほど突出。西側カマドは中央南寄りに位置。粘土を主体に構築されており、カマド周辺にも粘土の分布が認められた。焚き口幅は30cm前後。煙道部は水平方向に延び、壁外35cmほどの位置で立ち上がるがやや北側に屈曲する状態にある。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：各カマドに対応するように新旧２基検出されている。旧貯蔵穴は、東側カマドの向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は長方形で、規模75cm×64cm・深さ100cm。新貯蔵穴は、西側カマドの向かって左側の南西隅部に位置。平面形態は円形で、径45cm・深さ71cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：床面付近で潰れているような状態で出土している。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕６点以上・甑１点・鉢１点・坏４点以上、鷹編石２点を確認している。掲載遺物、９点。

Ｈ－２８号住居跡（遺構：Fig.67、PL.29／遺物：Fig.105、PL.52）

位置：Ｃ区。X48Y268グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：横長長方形。**規模**：1.80m×2.70m。**床面積**：4.7㎡。**主軸方位**：Ｎ－115°－Ｅ。**残存深度**：40cm。**床面の状態**：多少の起伏はあるが、全体的にほぼ平坦である。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁南寄りに位置。埋没土の状態から粘土及び粘質土で構築されていたものと想定される。煙道部は壁外に60cmほど突出する。３層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：カマド向かって右脇に浅い坑がある。平面形態は円形で、径43cm・深さ19cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド内と貯蔵穴から出土している程度であった。**時期**：９世紀後半。

遺物：土師器甕３点以上、須恵器甕片・椀４点以上、土錘１点、礫１点を確認している。礫（4）は上面が平滑で、わずかにではあるが擦痕が認められることから砥石の可能性がある。掲載遺物、４点。

Ｈ－２９号住居跡（遺構：Fig.68、PL.29／遺物：Fig.105・106、PL.52・53）

位置：Ｃ区。X60Y269グリッド。**検出状態**：南側を８号溝に切られる。また、カマド煙道部は攪乱を受けていた。**平面形態**：方形。**規模**：4.15m×4.15m。**床面積**：不明であるが17㎡前後と推定される。**主軸方位**：Ｎ－50°－Ｅ。**残存深度**：27cm。**床面の状態**：ほぼ平坦。**壁周溝**：カマド向かって左脇から南西側にかけて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：北東壁中央付近に位置。左袖部は残存していなかった。また、先述したように煙道部は攪乱を受けていた。右袖部は土師器長胴甕（4）を配し、粘土を主体に構築されていた。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の東隅部に位置。平面形態は長方形で、規模66cm×50cm・深さ68cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：中央北寄りの床上10cmの位置から耳環（8）が、同じく南西寄りの床面から石製紡錘車（9）が出土している。土師器長胴甕（1～3）は中央北西寄りの床面に破砕された状態にあった。**時期**：古墳時代後期（６世紀末葉～７世紀初頭）。

遺物：土師器甕６点以上・甑２点・坏片、耳環１点・石製紡錘車１点を確認している。掲載遺物、９点。

Ｈ－３０号住居跡（遺構：Fig.69、PL.29／遺物：Fig.106、PL.53）

位置：Ｃ区。X51Y265グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：方形。**規模**：4.95m×4.70m。**床面積**：22.9㎡。**主軸方位**：Ｎ－70°－Ｅ。**残存深度**：45cm。**床面の状態**：ほぼ平坦。顕著な硬化面は認められなかったが、全体的によくしまっていた。**壁周溝**：東壁の南側及びカマド部分を除き全周する。**柱穴**：主柱穴はpit－１～４の４基。規模は、pit－１が径43cm・深さ70cm、pit－２が径48cm・深さ90cm、pit－３が径60cm・深さ77cm、pit－４が径52cm・深さ72cmである。**カマド**：東壁中央やや南寄りに位置。焚き口幅は40cm弱。煙道部は壁外に35cmほど突出。粘質土を主体に構築されていた。４層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：カマド向かって右脇の南東隅部に位置。平面形態は円形で、径45cm・深さ75cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：床面に薦編石13点が散乱するような状態で出土している。土師器の甕・坏等も散在的な出土状態であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕４点以上・鉢１点・高坏片・坏６点以上、須恵器高坏片、薦編石13点を確認している。須恵器高坏（7）は脚部小片であるが、長方形透かし三方と推定される。掲載遺物、20点。

Ｈ－３１号住居跡（遺構：Fig.70、PL.29／遺物：Fig.107、PL.54）

位置：Ｃ区。X55Y264グリッド。**検出状態**：上面は広範に攪乱を受けていた。また、カマド煙道部・右袖部にも細い攪乱溝がある。**平面形態**：方形。**規模**：4.65m×4.70m。**床面積**：21.7㎡。**主軸方位**：Ｎ－71°－Ｅ。**残存深度**：31cm。**床面の状態**：床面上に炭化材もしくは焼土が広範囲に分布しており（PL.29）、焼失住居跡と想定される。床面は部分的にロームブロック等を含む暗褐色土で貼り床を施していた。全体的にやや凹凸がみられた。**壁周溝**：南側西半部から北側にかけて検出されているが、西側中央部付近は途切れていた。**柱穴**：主柱穴はpit－１～４の４基。規模は、pit－１が径46cm・深さ49cm、pit－２が径44cm・深さ60cm、pit－３が径51cm・深さ70cm、pit－４が径34cm・深さ70cmである。**カマド**：東壁中央部付近に位置。粘土及び粘質土を主体に構築されていたものと想定される。煙道部は水平方向に長く延び、壁外140cmほどの位置で立ち上がる。３層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模は60cm×53cm・深さ75cm。**遺構埋没状態**：火災後、人為的に埋没された可能性がある。**遺物出土状態**：縁辺部に薦編石が散在するほか、全体的に疎らな分布状態であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕片・高坏１点・坏２点以上、須恵器甕片、砥石１点、薦編石８点、鉄滓１点を確認している。掲載遺物、11点。

Ｈ－３２号住居跡（遺構：Fig.53・54、PL.30／遺物：Fig.107、PL.54）

位置：Ｃ区。X48Y265グリッド。**検出状態**：Ｈ－15号住居跡に北半部を切られている。**平面形態**：縦長長方形と推定される。**規模**：4.55m×－。**床面積**：不明。**主軸方位**：Ｎ－65°－Ｅ。**残存深度**：44cm。**床面の状態**：残存部分は概ね平坦な状態であった。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央やや南寄りに位置。左袖部は明確に確認できなかった。粘土及び粘質土で構築。掘り方平面形は凸字状。５層に灰の堆積を確認している。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：残存部分からは自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド手前付近から少量の遺物が出土している程度であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕片・坏２点以上、鉄製品１点を確認している。掲載遺物、２点。

Ｈ－３３号住居跡（遺構：Fig.67、PL.30／遺物：Fig.107、PL.54）

位置：Ｃ区。X50Y264グリッド。**検出状態**：南西部は攪乱を受けている。「住居跡」としたがカマドは付設されていなかったものと思われ、遺構の性格については問題が残る。**平面形態**：長方形。北西部に床面より約30cm高い張り出し状の施設がある。**規模**：3.45m×1.95m（張り出し部を含めると2.65m）。**床面積**：長方形部分は推定6.1㎡。**長軸方位**：Ｎ－52°－Ｅ。**残存深度**：40cm。**床面の状態**：掘り方後、ロームブロック等を含む暗褐色土（９層）を充填して床面を構築したと思われる。長方形部分の北側に床面より15cmほど高いテラス状部分がある。**壁周溝**：南側から東側にかけて検出されている。**柱穴**：小ピット１基があるが柱穴は検出されなかった。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：貯蔵穴とは想定しがたいが、南西寄りに平面形態長方形の坑がある。規模は91cm×53cm・深さ23cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と思われるが、２層下位には炭化材がラミナ状に堆積していた。**遺物出土状態**：特に遺物が集中する箇所はみられず、散在的な出土状態であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。

遺物：土師器甕２点以上・高坏５点・坏７点以上を確認している。掲載遺物、４点。

Ｈ－３４号住居跡（遺構：Fig.71、PL.30／遺物：Fig.107、PL.54）

位置：Ｄ区。X55Y264グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：縦長長方形。**規模**：3.75m×3.15m。**床面積**：11.3㎡。**主軸方位**：Ｎ－43°－Ｅ。**残存深度**：19cm。**床面の状態**：やや凹凸がみられた。**壁周溝**：カマド部分及びカマド向かって左側～北隅部を除いて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：北東壁中央やや南東寄りに位置。粘土及び粘質土を主体に構築。焚き口幅は30cm前後。煙道部は壁外水平方向に長く延びていた可能性が高いが、削平のため明確に確認できなかった。４層に少量の灰を確認している。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模48cm×45cm・深さ80cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド内から土師器甕（1）が出土している。そのほか、カマド周辺から少量の遺物が出土している程度であった。**時期**：古墳時代後期。

遺物：土師器甕２点以上・坏小片を確認している。土師器坏はいわゆる模倣坏である。掲載遺物、１点。

Ｈ－３５号住居跡（遺構：Fig.71、PL.30）

位置：Ｄ区。X40Y274グリッド。**検出状態**：西側を17号溝に切られている。小規模であることやカマドが付設されていないことから竪穴住居跡ではない可能性がある。**平面形態**：西辺の長い台形。東隅部は95cmほど突出する。**規模**：2.00m×1.75m。**床面積**：推定3.0㎡。**長軸方位**：Ｎ－39°－Ｅ。**残存深度**：26cm。**床面の状態**：やや凹凸がある。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：焼土や炭化粒を含む黒褐色土が埋没していた。**遺物出土状態**：出土遺物はごくわずかであった。**時期**：古墳時代後期。

遺物：土師器甕片・坏片、須恵器甕片、薦編石１点を確認している。土師器坏はいわゆる模倣坏である。いずれも小破片であるため図化しなかった。掲載遺物、０点。

Ｈ－３６号住居跡（遺構：Fig.72、PL.30／遺物：Fig.107、PL.54）

位置：Ｄ区。X48Y277グリッド。北東側は調査区外。**検出状態**：３号砂鉄ピットに南側を一部切られる。また、北西隅から南東隅にかけて試掘時のトレンチがある。**平面形態**：方形。**規模**：5.00m×5.05m。**床面積**：不明であるが25㎡前後と推定される。**主軸方位**：Ｎ－72°－Ｅ。**残存深度**：30cm。**床面の状態**：顕著な硬

化面は認められないが、全体的に平坦でよくしまっていた。**壁周溝**：部分的に浅い溝がみられたが、明確に把握できなかった。**柱穴**：調査範囲において2基のピットが検出されている。規模は、pit－1が径28cm・深さ40cm、pit－2が径40cm・深さ47cmである。**カマド**：東側から西側へと造り替えが行われている。東側カマドは中央南寄りに位置するが、わずかに壁外に20cmほど突出する煙道部が残存する程度であった。西側カマドは中央南寄りに位置。ローム土・粘質土及び粘土で構築されていたものと想定される。焚き口幅は40cm前後。煙道部は壁外に15cmほど突出。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：各カマドに対応するように新旧2基検出されている。旧貯蔵穴は、東側カマドの向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模83cm×70cm・深さ63cm。新貯蔵穴は、西側カマドの向かって左側の南西隅部に位置。平面形態は不整円形で、規模81cm×76cm・深さ70cm。底面付近から角柱状の粘土塊が出土している。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：南側中央部の壁面付近から手捏土器（3）が出土している。比較的、西側カマド向かって左側手前からの出土が多かった。**時期**：古墳時代後期（6世紀後半）。

遺物：土師器甕片・椀2点以上・坏6点以上、須恵器小片、土製品1点、不明鉄製品1点を確認している。土製品（5）は円板状の破片であるが、性格については不明である。掲載遺物、6点。

H－37号住居跡（遺構：Fig.73、PL.31／遺物：Fig.107、PL.54）

位置：D区。X50Y279グリッド。**検出状態**：西側の一部とpit－4の北側に攪乱を受ける。**平面形態**：方形。**規模**：5.60m×5.50m。**床面積**：29.9㎡。**主軸方位**：N－94°－E。**残存深度**：29cm。**床面の状態**：多少の凹凸はあるが、全体的に平坦で硬くしまっていた。**壁周溝**：西側中央部及び北側で確認できない部分があった。**柱穴**：主柱穴はpit－1～4の4基。規模は、pit－1が径54cm・深さ69cm、pit－2が径52cm・深さ65cm、pit－3が径55cm・深さ77cm、pit－4が径69cm・深さ72cmである。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。壁外に30cmほど突出する煙道部が残存するのみで、既に壊されていたようである。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模87cm×80cm・深さ91cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：出土遺物は少なく、床面付近から土師器片・鉄製品1点・薦編石4点が出土している程度であった。**時期**：古墳時代後期（6世紀中葉）。

遺物：土師器甕片・坏8点以上、須恵器甕片・坏片、薦編石4点、不明鉄製品1点を確認している。須恵器坏（2）は小片であるが、口縁端部が面をなしている。掲載遺物、7点。

H－38号住居跡（遺構：Fig.74、PL.31）

位置：D区。X52Y279グリッド。**検出状態**：良好。南西部に本住居跡より古い15号土坑が重複する。同土坑は時期を示す出土遺物はないが、埋没土に白色軽石粒（FA）が認められることから古墳時代後期と想定される。**平面形態**：縦長長方形。**規模**：4.15m×2.90m。**床面積**：11.2㎡。**主軸方位**：N－85°－E。**残存深度**：35cm。**床面の状態**：ローム面を床面とするが、15号土坑上面はロームを多量含む明黄褐色土（4層）で貼り床を施している。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：5基のピットが検出されているが、主柱穴とは断定できない。規模は、pit－1が径60cm・深さ18cm、pit－2が径48cm・深さ34cm、pit－3が径33cm・深さ23cm、pit－4が径33cm・深さ33cm、pit－5が長軸58cm・深さ15cmである。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに位置。袖部は地山のロームを掘り残して構築されている。焚き口幅は50cm前後。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模86cm×52cm・深さ80cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド埋没土上層から土師器甕片が出土しているのみで、出

土遺物は皆無に近い状態であった。**時期**：古墳時代後期と思われるが、出土遺物が少なく明確な時期は不明。**遺物**：土師器甕片１点のみである。掲載遺物、０点。

Ｈ－３９号住居跡（遺構：Fig.75、PL.31／遺物：Fig.107、PL.55）

位置：Ｄ区。X48Y281グリッド。**検出状態**：残存深度浅く、部分的に削平・攪乱を受けている。**平面形態**：方形。**規模**：6.00m×6.10m。**床面積**：36.2㎡。**主軸方位**：Ｎ－80°－Ｅ。**残存深度**：17cm。**床面の状態**：やや凹凸があるが、全体的に硬くしまっていた。**壁周溝**：北側で一部途切れるが、カマド部分を除きほぼ全周する。**柱穴**：主柱穴はpit－１～４の４基。規模は、pit－１が径69cm・深さ53cm、pit－２が径68cm・深さ74cm、pit－３が径75cm・深さ77cm、pit－４が径76cm・深さ80cm。**カマド**：東壁の南寄りに位置。左袖部はローム土及び粘質土で構築されていたが、右袖部は地山のロームを掘り残していた。焚き口幅は40cm前後。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は長方形で断面は逆台形状。規模は107cm×82cm・深さ70cm。底面付近から薦編石と加工礫（2）が出土している。**施設**：貯蔵穴の西側に接して、底面が波板状の施設を検出。平面形態は長方形で、規模82cm×53cm。内部には深さ8cm前後の溝４条がある。同施設の性格については不明。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：貯蔵穴内に薦編石が多くみられるほかは、散在的な出土状態であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。**遺物**：土師器甕片・鉢１点・坏２点以上、須恵器坏片、加工礫１点、薦編石９点を確認。加工礫（2）は角閃石安山岩で、用途不明であるが、隅の丸いＬ字状に削られている。掲載遺物、11点。

Ｈ－４０号住居跡（遺構：Fig.76、PL.32）

位置：Ｃ区。X51Y258グリッド。北側は調査区外。**検出状態**：調査区内において南側の隅部を検出したのみである。**平面形態**：不明。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：不明。**残存深度**：17cm。**床面の状態**：不明。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：不明。**カマド**：不明。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：わずかに土師器片が出土している。**時期**：古墳時代後期と想定されるが、不明。**遺物**：土師器小片７点を確認している。掲載遺物、０点。

Ｈ－４１号住居跡（遺構：Fig.76、PL.32／遺物：Fig.108、PL.55）

位置：Ａ区。X55Y228グリッド。**検出状態**：西側を20号土坑（地下式坑）に切られている。**平面形態**：縦長長方形。**規模**：3.95m×3.65m。**床面積**：不明であるが14.6㎡前後と推定される。**主軸方位**：Ｎ－83°－Ｅ。**残存深度**：25cm。**床面の状態**：多少の凹凸がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：南西隅に浅いピットがあるが、本住居跡には伴わないものと考えられる。**カマド**：構築状態は明確ではないが、埋没土の状態から粘土及び粘質土で構築されていたものと想定される。煙道部は壁外に75cmほど突出。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：カマド向かって右脇に平面形態長方形、規模120cm×118cm・深さ23cmの坑があるが、貯蔵穴とは想定しがたい。また、カマド向かって左側にも平面形態長方形、規模130cm×95cm・深さ6cmほどの浅い凹みがある。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：中央部付近の床面に散乱するような状態であった。**時期**：７世紀後半。

遺物：土師器甕３点以上、須恵器鉢片・坏４点以上、砥石１点、礫１点を確認している。礫（4）は安山岩であるが、広面が平滑であり、砥石の可能性もある。掲載遺物、４点。

Ｈ－４２号住居跡（遺構：Fig.76、PL.32／遺物：Fig.108、PL.55）

位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ227グリッド。**検出状態**：残存状態が悪く、北側は削平されている。**平面形態**：横長長方形の可能性があるが、不明。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：Ｎ－100°－Ｅ前後と推定される。**残存深度**：26cm。**床面の状態**：凹凸がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：多数の小ピットがみられるが、いずれも本住居跡よりは新しい遺構と思われる。**カマド**：東壁に位置するが、わずかにその存在が把握できる程度の残存状態であった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：明確に判断できない状態にある。**遺物出土状態**：遺構範囲内から少量の遺物が出土している程度であった。**時期**：８世紀後半。

遺物：土師器甕破片、須恵器椀１点・坏片、石製紡錘車１点を確認している。掲載遺物、２点。

Ｈ－４３号住居跡（遺構：Fig.77、PL.32／遺物：Fig.108、PL.55）

位置：Ａ区。Ｘ58Ｙ235グリッド。**検出状態**：カマド煙道部に攪乱を受けるものの、概ね良好な残存状態であった。**平面形態**：縦長長方形。南側に突出部があり、出入り口部と判断した。**規模**：3.70m×3.05m。**床面積**：11.6㎡。**主軸方位**：Ｎ－105°－Ｅ。**残存深度**：53cm。**床面の状態**：全体的にほぼ平坦であった。**壁周溝**：カマド部分及び東側北半部付近を除いて検出されている。**柱穴**：主柱穴は検出されなかった。出入り口部のピットは、径33cm・深さ18cm。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。粘土及び粘質土で構築されていた。煙道部は壁外に75cmほど突出。３層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：北西隅部から土師器坏（2）が出土しているほか、比較的カマド周辺からの出土が多かった。**時期**：８世紀前半。

遺物：土師器甕片・坏６点以上、須恵器甕片・蓋１点、鉄製品１点を確認している。掲載遺物、５点。

Ｈ－４４号住居跡（遺構：Fig.78、PL.32／遺物：Fig.108、PL.56）

位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ239グリッド。**検出状態**：北側に20号溝があり、壁面を壊されている。カマド向かって左側の東側壁面も削平されていた。上面に21号溝が重複する。Ｈ－50号・54号住居跡を切る。**平面形態**：横長長方形。**規模**：3.35m×推定4.20m。**床面積**：推定14.4㎡。**主軸方位**：Ｎ－83°－Ｅ。**残存深度**：35cm。**床面の状態**：ロームブロック等を含む暗褐色土（３層）で部分的に貼り床を施している。概ね平坦な状態であった。**壁周溝**：南側西半部から北西隅部にかけて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。粘土及び粘質土で構築。煙道部は壁外に45cmほど突出。２層及び５層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：南西隅部に位置。平面形態は方形で、規模62cm×62cm・深さ82cm。底面付近から土師器長胴甕の上半部（1）が出土している。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：西壁際中央部から土師器坏（3）が、カマド内から砥石（5）が出土している。**時期**：８世紀前半。

遺物：土師器甕３点以上・高坏１点・坏５点以上、須恵器甕片・小形平瓶片・椀１点・坏１点、砥石２点、鉄製品１点（火打金１）を確認している。掲載遺物、７点。

Ｈ－４５号住居跡（遺構：Fig.79、PL.33／遺物：Fig.108、PL.56）

位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ234グリッド。**検出状態**：北東部は削平されている。東側に攪乱溝があり、カマド煙道部が壊されている。また、カマド向かって左側に18号土坑が重複するが、本住居跡との新旧関係は明確にできなかった。**平面形態**：横長長方形。**規模**：3.15m×4.65m。**床面積**：推定14.8㎡。**主軸方位**：Ｎ－113°－Ｅ。**残存深度**：42cm。**床面の状態**：やや凹凸がみられた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：３基のピットが検

出されているが、主柱穴とは想定しがたい。pit－２は南東隅部に位置し、斜めに掘り込まれている。規模は、pit－１が径32㎝・深さ14㎝、pit－２が径57㎝・深さ55㎝、pit－３が径51㎝・深さ23㎝である。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。先述したように、攪乱により煙道部は壊されている。カマド内に被熱のある礫（輝石安山岩）が多くみられ、これらの礫と粘土で構築されていたものと想定される。４層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：検出されなかった。pit－２は貯蔵穴とは想定しがたい。北西隅部に、平面不整形、規模107㎝×83㎝・深さ24㎝の凹みがあるが、これについても貯蔵穴とは判断しがたい。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定されるが、床面に炭化材が多く分布していることから火災を受けている可能性がある。**遺物出土状態**：カマド内から須恵器椀（2･3）が、pit－３の北側から須恵器椀（1）が出土しているほかは、疎らな分布状態であった。また、pit－２の西側から長さ47㎝・厚さ17㎝の粘土塊が出土している。**時期**：10世紀前半。
遺物：土師器甕片・坏片、須恵器甕片・椀５点以上・坏片、薦編石２点を確認している。掲載遺物、３点。

Ｈ－４６号住居跡（遺構：Fig.80・81、PL.33／遺物：Fig.109、PL.56）
位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ228グリッド。**検出状態**：南側にＨ－47号住居跡が重複し本住居跡が新しいが、南側の壁面を明確に把握できなかった。また、西側は22号土坑（土葬墓）が近接するほか、攪乱があり、やはり壁面を明確に把握できなかった。**平面形態**：不整な横長長方形。**規模**：推定3.75m×5.05m。**床面積**：推定18.5㎡。**主軸方位**：Ｎ－98°－Ｅ。**残存深度**：31㎝。**床面の状態**：床面を２度構築したものと想定される。まず、掘り方後にロームブロック等を含む明黄褐色土（11層）及び暗褐色土（12層）を充填して床面を構築している。10層は旧床面における壁周溝の痕跡と想定される。その後、遺構規模を50㎝前後拡張し、ロームブロック等を含む明黄褐色土（８層）を貼って新しい床面を構築したようである。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：南西側にピット３基があるが、本住居跡との関連性を把握できなかった。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。粘土及び粘質土で構築。焚き口幅は40㎝前後。煙道部は壁外に35㎝ほど突出する。６層と11層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：人為埋没の可能性が高い。**遺物出土状態**：８層上面（新しい床面）付近からの出土が多かった。カマドの手前から土師器甕（1）が破砕された状態で出土している。**時期**：９世紀後半。
遺物：土師器甕８点以上・坏約５点、須恵器甕片・坏６点、鉄製品１点、鉄滓１点を確認している。鉄製品（6）は火打金の可能性がある。掲載遺物、７点。

Ｈ－４７号住居跡（遺構：Fig.80・81、PL.33／遺物：Fig.109、PL.56）
位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ229グリッド。**検出状態**：北側はＨ－46号住居跡に切られている。**平面形態**：横長長方形。**規模**：推定4.35m×4.90m。**床面積**：不明であるが21㎡前後と推定される。**主軸方位**：Ｎ－90°－Ｅ。**残存深度**：50㎝。**床面の状態**：やや凹凸があるが、全体的に硬くしまっていた。**壁周溝**：残存部分ではカマド部分を除き全周する。**柱穴**：数基の小ピットがあるが、浅いものが多い。**カマド**：東壁中央やや南寄りに位置。粘土及び粘質土で構築。煙道部は壁外に40㎝ほど突出している。６層に少量の灰が確認されているほか、７層にはラミナ状の灰層がみられた。**貯蔵穴**：カマド向かって右脇に平面形態不整円形の坑がある。規模は、52㎝×47㎝・深さ20㎝前後。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：出土遺物は比較的多かった。南壁際からは土師器坏３点（6･7･8）が出土している。**時期**：７世紀前半。
遺物：土師器甕６点以上･坏16点以上、須恵器甕片、鉄製品１点、薦編石５点を確認している。鉄製品（9）は鎌の可能性がある。掲載遺物、13点。

Ｈ－４８号住居跡（遺構：Fig.82、PL.33／遺物：Fig.109・110、PL.57）

位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ233グリッド。**検出状態**：北東側上面に本住居跡より新しいＨ－49号住居跡が重複する。**平面形態**：横長長方形。**規模**：3.25m×4.40m。**床面積**：15.7㎡。**主軸方位**：Ｎ－77°－Ｅ。**残存深度**：85cm。**床面の状態**：多少の起伏がみられるが、全体的に硬くしまっていた。**壁周溝**：南東隅周辺を除いて検出されている。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁南寄りに位置。粘土・ローム土・粘質土で構築。燃焼部幅は70cm前後。煙道部は壁外に80cmほど突出。８層と10層に灰の厚い堆積が確認されている。**貯蔵穴**：カマド向かって右脇の南東隅部に浅い坑がある。平面形態は長方形で、規模110cm×75cm・深さ25cm。土師器甕(1)・小形壺（3）・坏（4･6･7）が出土している。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：北東側床面付近に臼玉が散在していた。北西隅の床面からは銅鈴（19）が出土している。銅鈴に近接して土玉（13）もみられる。また、南西隅部床面には鷹編石が集中していた。**時期**：８世紀前半。

遺物：土師器甕４点以上・小形壺１点・坏12点以上、須恵器甕片・坏片、土玉１点、臼玉５点、銅鈴１点、鉄製品１点、鷹編石10点を確認している。土師器坏には内面底部に墨書がみられるものが多く、(6）は「大井」と判読でき、(8･9）も「大井」の可能性がある。(7･10･11）は断片的な残存状態のため不明である。なお、土玉は五代竹花遺跡Ｈ－８号住居跡から大量に出土している。掲載遺物、30点。

Ｈ－４９号住居跡（遺構：Fig.83、PL.33／遺物：Fig.110、PL.58）

位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ232グリッド。**検出状態**：南西側はＨ－48号住居跡に重複し、同住居跡の上面を切っている。**平面形態**：横長長方形。**規模**：推定1.85m×2.55m。**床面積**：推定4.5㎡。**主軸方位**：Ｎ－98°－Ｅ。**残存深度**：40cm。**床面の状態**：Ｈ－48号住居跡との重複部分には貼り床（４層）を施している。非常に硬くしまっていた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁南寄りに位置。ローム土及び粘質土で構築されていたものと想定される。煙道部は壁外に25cmほど突出。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：カマド内から須恵器椀（2）が、また、床面に破砕され散在する状態で土師器甕（1）が出土している。**時期**：９世紀後半。

遺物：土師器甕１点・台付甕１点・坏片、須恵器甕片・椀３点以上・坏２点以上を確認。掲載遺物、２点。

Ｈ－５０号住居跡（遺構：Fig.84、PL.34／遺物：Fig.111、PL.58）

位置：Ａ区。Ｘ58Ｙ239グリッド。**検出状態**：北側は20号溝に壊されている。また、東側及び南東側はＨ－44号・54号住居跡に切られている。**平面形態**：全容不明であるが方形基調と推定される。**規模**：7.15m×－。Ｈ－９号住居跡に次ぐ規模と想定される。**床面積**：不明。**主軸方位**：Ｎ－87°－Ｅ。**残存深度**：32cm。**床面の状態**：多少の起伏がみられた。**壁周溝**：西側において検出されている。**柱穴**：pit－１・２が規模及び位置関係から主柱穴と想定される。pit－３・４は前者に比べ小規模である。主柱穴は４基の可能性が高いが、北側の２基は20号溝に壊されているものと推定される。規模は、pit－１が径52cm・深さ80cm、pit－２が径54cm・深さ60cm、pit－３が径41cm・深さ26cm、pit－４が径20cm・深さ14cmである。**カマド**：重複により残存していなかったが、後述する貯蔵穴の状態から東側と北側に付設され、前後関係は不明なものの造り替えが行われたものと考えられる。**貯蔵穴**：南東隅部の坑が東側カマドに対応する貯蔵穴と想定される。平面形態は長方形、規模91cm×55cm・深さ119cm。埋没土中位から土師器坏（2）が出土している。また、20号溝底面付近で検出された21号土坑を、南東隅部貯蔵穴と形態の類似性及び底面の標高が同程度であることなどから北側カマドに対応する貯蔵穴と判断した。平面形態は長方形、確認面における規模80cm×55cm・深さ60cm。

遺構埋没状態：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：全体的に出土遺物は少なく、散在的な分布状態であった。pit－２の南西側から長さ57cm・幅19cmの柱状粘土塊が出土しているほか、pit－３の北側からも粘土が出土している。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）。
遺物：土師器甕片・坏５点以上、須恵器甕片、砥石１点を確認している。掲載遺物、３点。

Ｈ－５１号住居跡（遺構：Fig.83、PL.34）
位置：Ｃ区。X54Y267グリッド。**検出状態**：西側大半を７号溝に切られており、カマド東端部のみが検出されたのみで詳細は不明である。**平面形態**：不明。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：不明。**残存深度**：不明。**床面の状態**：不明。**壁周溝**：不明。**柱穴**：不明。**カマド**：東壁に付設されていたものと思われる。少量の焼土を確認している。検出部分の深さ30cm。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：不明。**遺物出土状態**：カマド残存部分から土師器小片19点が出土している。**時期**：古墳時代後期と思われるが不明。
遺物：土師器小片19点を確認している。掲載遺物、０点。

Ｈ－５２号住居跡（遺構：Fig.85、PL.34／遺物：Fig.111、PL.58）
位置：Ａ区。X57Y228グリッド。**検出状態**：Ｈ－53号住居跡を切る。北西部及び北側は削平されている。また、随所に攪乱を受けている。**平面形態**：やや横長の長方形。**規模**：推定5.15m×5.75m。**床面積**：推定29.6㎡。**主軸方位**：Ｎ－79°－Ｅ。**残存深度**：31cm。**床面の状態**：掘り方後、ロームブロックをやや多量に含む明黄褐色土（３層）及び黒褐色土（４層）を充填して床面を構築している。３層上面は非常に硬くしまっていた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：主柱穴はpit１～４の４基。規模は、pit－１が98cm×67cm・深さ106cm、pit－２が径57cm・深さ93cm、pit－３が径55cm・深さ82cm、pit－４が径59cm・深さ83cm。そのほか、多数の小ピットがあるが、本住居跡よりも新しいピットや重複するＨ－53号住居跡に帰属するものもあると想定され、本住居跡との関連性は明確ではない。西壁際の小ピット列は本住居跡に関連する可能性がある。**カマド**：東壁中央部に位置。左側の袖部は残存していなかった。右袖部は粘土及び粘質土で構築されている。３層及び４層に灰の含有を確認している。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：遺存状態が比較的良好な南壁付近からの出土が多かった。**時期**：８世紀後半。
遺物：土師器甕４点以上・坏10点以上、須恵器甕片・蓋２点以上・坏４点以上、土錘１点を確認している。土師器坏の中には型起こし成形と思われるもの（1･4･5）がみられた。掲載遺物、10点。

Ｈ－５３号住居跡（遺構：Fig.85、PL.34／遺物：Fig.111、PL.58）
位置：Ａ区。X56Y228グリッド。**検出状態**：東側大半をＨ－52号住居跡に切られている。**平面形態**：不明。**規模**：不明。**床面積**：不明。**主軸方位**：不明。**残存深度**：20cm。**床面の状態**：残存部分は平坦であった。**壁周溝**：北側に溝がある。**柱穴**：不明。**カマド**：不明。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：不明。**遺物出土状態**：少量の遺物が出土している。**時期**：不明（８世紀前半代か）。
遺物：土師器甕片・坏１点以上、須恵器甕片・坏片を確認している。掲載遺物、１点。

Ｈ－５４号住居跡（遺構：Fig.83、PL.34）
位置：Ａ区。X58Y240グリッド。**検出状態**：Ｈ－50号住居跡調査時に本住居跡の存在を確認したが、本来は本住居跡の方が新しい。北東隅部はＨ－44号住居跡に切られる。**平面形態**：台形に近い横長長方形。**規模**：

推定1.75m×2.75m。**床面積**：推定5.1㎡。**主軸方位**：N－84°－E。**残存深度**：34cm。**床面の状態**：H－50号住居跡と重複する北側は明確に把握できなかったが、南側は硬くしまっていた。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁中央北寄りに位置。あまり良好な残存状態ではなく、詳細は不明である。煙道部は壁外に80cmほど突出する。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：明確に把握できなかった。**遺物出土状態**：疎らな分布状態であった。**時期**：平安時代と思われるが不明。
遺物：土師器甕片・坏片を確認している。いずれも小片のため図化しなかった。掲載遺物、０点。

Ⅲ　土坑・井戸・ピット

１号土坑（遺構：Fig.88、PL.35）

位置：B区。X47Y246グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：不整円形。**規模**：87cm×55cm。**残存深度**：13cm。**遺構埋没状態**：２層中に多量の焼土が認められており、カマド等の痕跡である可能性も考えられる。**遺物出土状態**：少量の土師器片・須恵器片が出土している。**時期**：平安時代と思われるが不明。
遺物：土師器甕片、須恵器椀片を確認している。掲載遺物、０点。

２号土坑（遺構：Fig.88、PL.36／遺物：Fig.112、PL.59）

位置：B区。X44Y246グリッド。**検出状態**：良好。埋没後、新しい土坑（埋没土１～３層）が掘り込まれている。**平面形態**：円形（上面は楕円形）。**規模**：上面は2.00m×1.40m。中位の径1.15m。**残存深度**：175cm以上。湧水と安全対策上から底面まで完掘できなかった。**遺構埋没状態**：ロームブロック等を含む明褐色土・暗褐色土が埋没。**遺物出土状態**：紛れ込みと考えられるが、埋没土中位から瓦塔が出土している。大小の礫も出土しているが、石組みの存在は不明である。礫は被熱痕のあるものが多かった。**備考**：本土坑は素掘りの井戸と想定される。**時期**：中世。
遺物：土師器片、須恵器片、瓦塔屋蓋部片１点、軟質陶器片、青磁碗片を確認している。掲載遺物、５点。

３号土坑（遺構：Fig.86、PL.36／遺物：Fig.112、PL.59）

位置：B区。X47Y244グリッド。**検出状態**：良好。東側に別土坑が重複するようである。**平面形態**：南側に張り出し部（出入り口部）を有する凸字状。方形部は東西にやや長い長方形。**規模**：方形部は2.75m×3.10m。張り出し部を含めた長さ4.45m。いずれも下端での計測値である。なお、構築時の内部高は100cm前後と推定される。**主軸方位**：S－13°－E。**残存深度**：127cm。**遺構埋没状態**：９層に天井部崩落のロームがみられるが、出入り口付近は構築時に近い位置を保っているものと想定される。**遺物出土状態**：埋没土下層から軟質陶器片が出土している。**備考**：本土坑は地下式坑と想定される。**時期**：中世。
遺物：土師器甕片、須恵器甕片・坏片、軟質陶器片、砥石１点を確認している。掲載遺物、１点。

４号土坑（遺構：Fig.89）

位置：B区。X48Y243グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：長方形。**規模**：1.25m×1.05m。**長軸方位**：N－86°－E。**残存深度**：22cm。**遺構埋没状態**：浅間B軽石等を含む暗褐色土が埋没。**遺物出土状態**：わずかに土師器片・須恵器が出土している程度であった。**時期**：不明。

遺物：土師器片、須恵器片を確認している。掲載遺物、０点。

５号土坑（遺構：Fig.89、PL.36）

位置：Ｃ区。Ｘ39Ｙ261グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：円形。**規模**：上面径2.40m。中位径1.10m。**残存深度**：180㎝以上。湧水及び安全対策上から底面まで完掘できなかった。**遺構埋没状態**：ロームブロックや浅間Ｂ軽石等を含む暗褐色基調の土が埋没。**遺物出土状態**：土師器片・須恵器片・軟質陶器片がわずかに出土している。**備考**：本土坑は素掘りの井戸と想定される。**時期**：中世。

遺物：土師器片、須恵器片、軟質陶器片を確認している。掲載遺物、０点。

６号土坑（遺構：Fig.86、PL.36）

位置：Ｃ区。Ｘ40Ｙ257グリッド。**検出状態**：良好。周縁は天井部が一部残存していた。各隅部は直角に近い状態にあり、壁面も垂直に近い状態であった。**平面形態**：南側に張り出し部（出入り口部）を有する。方形部は南北に長い長方形。**規模**：2.20m×1.50m。張り出し部を含めた長さ2.95m。いずれも下端での計測値である。構築時の内部高は80㎝前後と推定される。**主軸方位**：Ｓ－14°－Ｗ。**残存深度**：119㎝。**遺構埋没状態**：３層及び７層に天井部崩落のロームがある。**遺物出土状態**：西側の底面やや上側に礫がみられたほか、埋没土中から軟質陶器片が出土している。**備考**：本土坑は地下式坑と想定される。**時期**：中世。

遺物：土師器片、須恵器片、軟質陶器片を確認している。掲載遺物、０点。

７号土坑（遺構：Fig.89、PL.37／遺物：Fig.112、PL.59）

位置：Ｃ区。Ｘ36Ｙ265グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：円形。**規模**：上面2.00×1.80m。中位径0.95m。**残存深度**：215㎝以上。湧水及び安全対策上から底面まで完掘できなかった。**遺構埋没状態**：ロームブロックや浅間Ｂ軽石等を含む暗褐色土・明褐色土が埋没。**遺物出土状態**：中央部、４層から五輪塔の地輪が、その上面から被熱痕のある礫が出土している。**備考**：本土坑は素掘りの井戸と想定される。**時期**：中世か。

遺物：土師器片、灰釉陶器片、五輪塔地輪部１点を確認している。掲載遺物、２点。

８号土坑（遺構：Fig.90、PL.37）

位置：Ｃ区。Ｘ42Ｙ268グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：円形。**規模**：上面径1.35m、中位径0.70m。**残存深度**：170㎝以上。湧水及び安全対策上から底面まで完掘できなかった。**遺構埋没状態**：ロームブロック等を含む明褐色・黒褐色土等が埋没。１層に浅間Ｂ軽石の含有を確認している。**遺物出土状態**：土師器片がわずかに出土している程度であった。**備考**：本土坑は素掘りの井戸と想定される。**時期**：中世か。

遺物：土師器片を確認している。掲載遺物、０点。

９号土坑（遺構：Fig.90、PL.35）

位置：Ｃ区。Ｘ42Ｙ268グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：長方形。**規模**：上端は1.45m×1.35m、下端は0.75m×0.45m。**長軸方位**：Ｎ－65°－Ｅ。**残存深度**：189㎝。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：土師器片がわずかに出土している程度。**備考**：本土坑の性格は不明である。**時期**：不明。

遺物：土師器片を確認している。掲載遺物、０点。

１０号土坑（遺構：Fig.43、PL.35／遺物：Fig.113、PL.59）

位置：Ｂ区。X50Y246グリッド。**検出状態**：Ｈ－２号・４号・５号住居跡に近接。これらの住居跡に関連する可能性がある。**平面形態**：不整形で、ピットが重複するような状態である。**規模**：1.05m×1.00m。**残存深度**：59cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかったが、焼土の分布がみられた。**遺物出土状態**：少量の土師器片・須恵器片が出土している。**時期**：平安時代と思われるが、不明。

遺物：土師器甕片、須恵器甕片・坏片を確認している。掲載遺物、１点。

１１号土坑（遺構：Fig.90、PL.35）

位置：Ｃ区。X48Y265グリッド。**検出状態**：良好。Ｈ－15号住居跡の西側に近接して位置。**平面形態**：楕円形。**規模**：2.35m×1.70m。**長軸方位**：Ｎ－18°－Ｗ。**残存深度**：68cm。**遺構埋没状態**：ロームブロック等を含む暗褐色土・黒褐色土が埋没。人為埋没の可能性がある。**遺物出土状態**：土師器片がわずかに出土している程度である。**時期**：古墳時代後期と思われるが、不明。

遺物：土師器片を確認している。掲載遺物、０点。

１２号土坑（遺構：Fig.47、PL.35）

位置：Ｃ区。X42Y264グリッド。**検出状態**：Ｈ－７号住居跡の掘り方底面で検出。同住居跡より古いと考えられる。**平面形態**：上面は楕円形、底面は長方形。**規模**：確認面上端は1.60m×1.22m、下端は1.01m×0.67m。**長軸方位**：Ｎ－60°－Ｅ。**残存深度**：167cm。**遺構埋没状態**：ローム粒を大量に含む明褐色土が埋没。人為的に埋め戻された可能性がある。**備考**：形態は16号土坑に類似する。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**時期**：不明。

１３号土坑（遺構：Fig.90、PL.22／遺物：Fig.113、PL.41）

位置：Ｃ区。X45Y270グリッド。**検出状態**：Ｈ－17号住居跡の北東隅に位置。上面にはＨ－20号住居跡が位置する。**平面形態**：楕円形。**規模**：1.39m×1.07m。**長軸方位**：Ｎ－18°－Ｅ。**残存深度**：155cm。**遺構埋没状態**：埋没土は黄褐色基調で、ローム粒を多量含んでいた。白色軽石粒（FA）は確認されていない。**遺物出土状態**：埋没土中から縄文土器片等が出土している。**時期**：縄文時代前期。

遺物：縄文土器片２点、石器類１点（調整のある剥片１）を確認している。掲載遺物、２点。

１４号土坑（遺構：Fig.90、PL.37）

位置：Ｄ区。X37Y263グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：円形。**規模**：上面1.58m×1.43m、中位1.01m×0.86m。**残存深度**：200cm以上。湧水及び安全対策上から底面まで完掘できなかった。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**備考**：本土坑は素掘りの井戸と想定される。**時期**：不明。近世か。

１５号土坑（遺構：Fig.74、PL.31）

位置：Ｄ区。X52Y279グリッド。**検出状態**：Ｈ－38号住居跡の南西隅に位置し、上面には同住居跡の貼り床が施されている。**平面形態**：楕円形。**規模**：1.59m×1.23m。**長軸方位**：Ｎ－76°－Ｅ。**残存深度**：152cm。**遺構埋没状態**：埋没土には白色軽石粒（FA）の含有が確認されている。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。

備考：本土坑の性格は不明。**時期**：古墳時代後期と思われるが不明。

１６号土坑（遺構：Fig.91、PL.35）

位置：D区。X53Y281グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：上面は楕円形、底面は長方形。**規模**：上端は2.17m×1.65m、下端は1.12m×0.54m。**長軸方位**：N－84°－E。**残存深度**：186cm。**遺構埋没状態**：上層に白色軽石（FA）を含む黒褐色土が埋没していた。**遺物出土状態**：礫１点が出土しているのみである。**備考**：形態は12号土坑に類似する。**時期**：古墳時代後期と思われるが不明。

遺物：礫（被熱痕のある輝石安山岩）１点を確認している。掲載遺物、０点。

１７号土坑（遺構：Fig.90、PL.37／遺物：Fig.113、PL.59）

位置：D区。X37Y273グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：楕円形。**規模**：1.29m×0.90m。**長軸方位**：N－0°。**残存深度**：61cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：上面から板碑（1）が出土している。**時期**：不明。

遺物：板碑１点を確認。蓮座・凡字（キリークか）が刻まれているが摩滅している。掲載遺物、１点。

１８号土坑（遺構：Fig.79、PL.35）

位置：A区。X60Y234グリッド。**検出状態**：H－45号住居跡のカマド向かって左側に位置。**平面形態**：楕円形。**規模**：0.81m×0.71m。**長軸方位**：N－90°－E。**残存深度**：41cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：埋没土中から少量出土している程度であった。**時期**：平安時代と思われるが不明。

遺物：土師器片、須恵器片、炭化材を確認している。掲載遺物、０点。

１９号土坑（遺構：Fig.87、PL.38／遺物：Fig.113～115、PL.60・61）

位置：A区。X58Y227グリッド。**検出状態**：良好。出入り口部と方形部との境は、壁面・天井部が残存していた。また、方形部周縁も一部天井部が残存していた。各隅部は直角に近い状態で、壁面も平坦に構築されていた。**平面形態**：長方形部分の北西側に出入り口部を有する。**規模**：2.50m×2.05m。出入り口部を含めた長さ3.75m。いずれも下端での計測値である。出入り口部と方形部との境の天井部までの高さは約50cmである。なお、残存する天井部から、構築時の内部高は130cm未満と推定される。**主軸方位**：N－43°－W。**残存深度**：192cm。**遺構埋没状態**：天井部のロームが中央部に向かって崩落した状態にあった。**遺物出土状態**：６層・８層及び床面付近を中心にややまとまった遺物がみられた。方形部北西側からは釜形土器（1）が出土している。**備考**：本土坑は地下式坑と想定される。**時期**：中世（14世紀後半以降）。

遺物：土師器片、須恵器片、釜形土器（茶釜）１点、軟質陶器片２点、焼締陶器片１点、石臼片８点、石鉢１点、砥石１点、不明鉄製品１点、古銭１点、礫等を確認している。釜形土器（1）は1/2ほどが残存し、ほぼ全体の器形を把握することができた。掲載遺物、12点。

２０号土坑（遺構：Fig.88、PL.38）

位置：A区。X54Y228グリッド。**検出状態**：東側でH－41号住居跡を切っている。一部で天井部が残存していた。**平面形態**：東側に張り出し部（出入り口部）を有する凸字状であるが、方形部の北側壁は均整さに欠ける。**規模**：2.30m×2.55m～2.85m。張り出し部を含めた長さ3.95m。いずれも下端での計測値である。**主**

軸方位：N－83°－E。**残存深度**：160cm。**遺構埋没状態**：６層・８層・９層・11層～13層に天井部が崩落したと思われるロームが認められた。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の土師器片と須恵器片が出土しているが、これは重複するＨ－41号住居跡の遺物と思われる。**備考**：本土坑は地下式坑と想定される。**時期**：時期を判断する出土遺物はないが、他の地下式坑（３号・６号・19号土坑）と同様に中世と想定される。
遺物：土師器片、須恵器片を確認している。掲載遺物、０点。

２１号土坑（遺構：Fig.84、PL.35）
位置：Ａ区。Ｘ59Ｙ238グリッド。**検出状態**：20号溝の底面付近で検出。形態や位置関係からＨ－50号住居跡の貯蔵穴である可能性が高い。**平面形態**：長方形。**規模**：0.81ｍ×0.57ｍ。**長軸方位**：Ｎ－90°－Ｅ。**残存深度**：60cm。**遺構埋没状態**：白色軽石（ＦＡ）等を含む黒褐色土・暗褐色土が埋没。**遺物出土状態**：土師器片がわずかに出土している程度であった。**時期**：古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。
遺物：土師器坏片。掲載遺物、０点。

２２号土坑（遺構：Fig.91、PL.37／遺物：Fig.115、PL.61）
位置：Ａ区。Ｘ58Ｙ228グリッド。**検出状態**：Ｈ－46号住居跡の西側に近接。**平面形態**：長方形。**規模**：上端は0.99ｍ×0.70ｍ、下端は0.90ｍ×0.62ｍ。**長軸方位**：Ｎ－６°－Ｗ。**残存深度**：29cm。**遺構埋没状態**：ロームブロック等を含む暗褐色基調の土が埋没。**遺物出土状態**：人骨の東西両側から古銭が出土。**備考**：本土坑は土葬墓である。北頭位。膝を曲げ西を向いた横臥姿勢で埋葬されている。**時期**：中世。
遺物：人骨、古銭９点を確認している。古銭３点（7～9）は23号との帰属が曖昧である。掲載遺物、９点。

２３号土坑（遺構：Fig.91、PL.37／遺物：Fig.115、PL.61）
位置：Ａ区。Ｘ58Ｙ230グリッド。**検出状態**：当初は攪乱と判断していた。**平面形態**：長方形。**規模**：上端は1.13ｍ×0.80ｍ、下端は1.01ｍ×0.68ｍ。**長軸方位**：Ｎ－２°－Ｗ。**残存深度**：15cm。**遺構埋没状態**：ロームブロック等を含む暗褐色基調の土が埋没。**遺物出土状態**：人骨の胸部付近から古銭が出土。**備考**：本土坑は土葬墓である。北頭位。膝を曲げ西を向いた横臥姿勢で埋葬されている。**時期**：中世。
遺物：古銭６点を確認している。掲載遺物、６点。

１号砂鉄ピット（遺構：Fig.91、PL.39）
位置：Ｄ区。Ｘ47Ｙ280グリッド。**検出状態**：円形ピット内に砂鉄が溜められているピット２基が並んで検出された。**平面形態**：楕円形（上面は円形）。**規模**：41cm×16cm。**残存深度**：15cm。**遺構埋没状態**：上層・下層に砂鉄が堆積し、中位に暗褐色土がある。**遺物出土状態**：出土遺物はない。**時期**：不明。

２号砂鉄ピット（遺構：Fig.91、PL.39）
位置：Ｄ区。Ｘ47Ｙ280グリッド。**検出状態**：１号砂鉄ピットの北側に近接。北側延長方向には溝底面に砂鉄溜まりのある19号溝が位置。**平面形態**：円形。**規模**：径18cm。**残存深度**：4cm。**遺構埋没状態**：浅いピット内が砂鉄で充填されているような状態であった。**遺物出土状態**：出土遺物はない。**時期**：不明。

3号砂鉄ピット（遺構：Fig.72）

位置：D区。X49Y277グリッド。**検出状態**：H－36号住居跡と重複し、本遺構が新しい。19号溝の北東延長状に位置し、同溝の砂鉄溜まりの可能性がある。**平面形態**：長楕円形。**規模**：推定45cm×15cm。**残存深度**：7cm。**遺構埋没状態**：底面に砂鉄が多量に堆積していた。**遺物出土状態**：出土遺物はない。**時期**：不明。

ピット（Fig.92・93、Tab.3・4）

ピットはA～D区の総計 220基が検出されている。ピットの分布は、A区は北端部周辺、B区は北西部、C区は7号溝以西、D区は西端部周辺に位置する状態にあり、各地区とも偏在性が認められた。大半が小規模なもので、配置は掘立柱建物跡を構築するような状況ではなかった。埋没土は概ねFAを含む黒～黒褐色土で、時期的には古墳時代後期～平安時代と推定されるが、明確な時期は不明である。

Tab.3　ピット一覧表①

番号	グリッド	規模(cm)	深さ(cm)
1	X46Y243	42×40	10
2	X46Y243	40×30	48
3	X46Y242	49×39	39
4	X46Y243	38×35	21
5	X46Y242	39×33	15
6	X47Y243	36×28	14
7	X47Y242	45×33	24
8	X37Y243	38×33	25
9	X47Y243	35×33	34
10	X47Y244	44×39	40
11	X47Y244	35×31	19
12	X47Y245	32×29	21
13	X47Y245	35×29	29
14	X48Y243	70×53	26
15	X48Y243	50×46	20
16	X48Y244	44×40	29
17	X48Y244	(43)×35	20
18	X48Y244	72×50	18
19	X49Y243	52×50	25
20	X49Y243	48×46	30
21	X49Y244	55×54	40
22	X49Y244	34×31	32
23	X50Y244	36×33	18
24	X50Y245	55×43	21
25	X51Y244	30×25	21
26	X36Y267	32×26	15
27	X36Y266	45×40	16
28	X36Y266	27×23	16
29	X37Y265	32×31	38
30	X37Y265	26×23	12
31	X37Y265	59×40	22
32	X37Y265	23×18	9
33	X37Y265	27×27	12
34	X37Y264	30×23	31
35	X41Y263	29×27	24
36	X41Y263	32×29	14
37	X42Y261	64×60	17
38	X42Y261	29×25	13
39	X42Y261	46×39	18
40	X38Y261	27×25	10
41	X39Y259	40×38	23
42	X38Y258	37×37	32
43	X39Y257	54×47	36
44	X39Y257	30×25	13
45	X39Y257	30×30	30
46	X39Y257	30×26	16
47	X39Y260	83×80	39
48	X40Y260	57×41	33
49	X40Y260	35×26	19
50	X40Y259	42×29	18
51	X41Y259	104×70	34
52	X44Y260	36×33	19
53	X45Y261	29×26	16
54	X45Y261	30×27	20
55	X43Y261	32×30	11
56	X43Y262	32×30	49
57	X43Y262	37×31	40
58	X43Y263	46×33	46
59	X43Y262	35×29	38
60	X43Y262	39×38	40
61	X43Y263	34×33	19
62	X43Y264	35×34	20
63	X43Y264	35×33	45
64	X44Y262	40×39	23
65	X44Y262	33×31	45
66	X44Y262	36×34	24
67	X50Y265	46×33	26
68	X50Y265	37×36	26
69	X43Y264	30×26	20
70	X43Y265	30×26	11
71	X43Y264	25×25	17
72	X44Y264	32×30	27
73	X44Y264	28×28	29
74	X44Y264	28×26	22
75	X45Y263	40×38	55
76	X45Y262	40×37	28
77	X45Y263	32×30	51
78	X45Y264	32×30	58
79	X46Y263	25×24	31
80	X46Y263	23×20	23
81	X46Y262	32×31	44
82	X46Y261	30×27	14
83	X46Y261	32×31	17
84	X46Y262	28×26	15
85	X46Y262	31×25	33
86	X46Y262	23×22	47
87	X46Y263	32×29	31
88	X47Y262	23×21	35
89	X47Y262	29×24	20
90	X47Y264	45×29	34
91	X47Y264	60×54	34
92	X48Y264	35×35	20
93	X47Y265	30×27	28
94	X49Y269	45×32	23
95	X49Y269	35×33	44
96	X49Y269	46×39	22
97	X50Y269	32×27	40
98	X50Y269	25×22	17
99	X50Y269	37×30	17
100	X51Y267	33×33	11
101	X51Y267	35×34	21
102	X51Y266	33×30	12
103	X51Y266	38×36	30
104	X51Y266	34×32	35
105	X51Y266	35×26	40
106	X52Y266	38×37	22
107	X52Y266	30×30	15
108	X52Y266	29×29	48
109	X52Y267	45×39	40
110	X52Y266	28×27	38
111	X52Y266	30×28	35
112	X52Y266	32×28	37
113	X50Y268	37×32	34
114	X50Y268	25×24	18
115	X49Y268	45×35	29
116	X50Y267	30×25	14
117	X49Y267	32×32	23
118	X49Y267	28×25	31
119	X49Y267	52×36	36
120	X49Y267	38×35	17

Tab.4　ピット一覧表②

番号	グリッド	規模(cm)	深さ(cm)
121	X49Y266	35×30	38
122	X47Y266	40×36	39
123	X48Y266	30×27	23
124	X48Y266	55×40	84
125	X49Y266	33×30	28
126	X48Y266	39×37	36
127	X49Y267	32×30	25
128	X48Y267	35×34	17
129	X48Y267	35×31	11
130	X48Y267	50×41	70
131	X48Y267	32×31	53
132	X49Y267	29×29	18
133	X47Y268	34×30	18
134	X49Y268	45×45	26
135	X52Y263	38×35	29
136	X52Y263	34×33	21
137	X51Y263	35×35	21
138	X51Y264	20×18	26
139	X51Y264	21×21	43
140	X50Y266	20×20	20
141	X34Y273	24×23	10
142	X34Y273	23×21	11
143	X34Y272	28×25	34
144	X34Y272	29×28	25
145	X34Y272	29×28	32
146	X34Y272	32×31	45
147	X34Y271	32×32	23
148	X35Y271	32×31	31
149	X35Y271	30×23	33
150	X34Y271	30×22	20
151	X34Y271	34×28	43
152	X34Y271	33×29	38
153	X34Y271	23×22	20
154	X33Y272	32×32	18
155	X33Y273	28×23	45
156	X33Y273	33×30	17
157	X33Y273	40×38	24
158	X34Y273	62×42	24
159	X34Y272	41×38	23
160	X34Y273	22×21	27
161	X35Y273	42×36	44
162	X35Y273	26×24	23
163	X35Y272	30×28	34
164	X35Y272	25×23	21
165	X36Y273	31×30	32
166	X36Y273	24×22	32
167	X36Y272	37×28	53
168	X35Y271	57×55	40
169	X36Y272	47×47	66
170	X36Y272	21×20	53
171	X36Y272	47×43	63
172	X36Y272	25×22	19
173	X35Y274	27×25	23
174	X35Y273	29×28	20
175	X35Y273	30×30	27
176	X36Y274	52×50	33
177	X37Y272	33×29	26
178	X37Y272	42×38	27
179	X37Y273	44×38	66
180	X37Y272	30×24	39
181	X34Y275	36×33	20
182	X33Y274	32×25	14
183	X33Y274	37×36	50
184	X33Y274	35×31	38
185	X33Y274	25×25	14
186	X34Y275	67×43	39
187	X34Y276	65×50	23
188	X37Y273	30×21	11
189	X37Y274	21×18	35
190	X37Y274	30×24	19
191	X37Y274	31×27	34
192	X38Y275	30×26	27
193	X37Y276	25×24	25
194	X38Y275	32×30	25
195	X38Y275	25×24	20
196	X32Y274	23×21	13
197	X32Y274	21×20	37
198	X32Y274	28×26	23
199	X33Y274	30×29	34
200	X32Y274	24×19	19
201	X33Y274	29×26	11
202	X32Y275	37×33	26
203	X36Y274	24×21	12
204	X34Y273	21×20	10
205	X57Y225	36×33	9
206	X58Y226	27×25	23
207	X58Y225	80×63	43
208	X60Y226	31×25	23
209	X59Y226	29×21	34
210	X59Y226	45×34	26
211	X59Y226	35×28	14
212	X59Y226	57×50	17
213	X59Y226	32×30	24
214	X58Y226	51×38	41
215	X58Y226	29×27	21
216	X58Y226	29×25	50
217	X58Y226	43×31	43
218	X58Y226	26×24	13
219	X57Y231	34×32	49
220	X58Y231	28×26	21

Ⅳ　溝

1号溝　（遺構：Fig.40・94、PL.21）

位置：B区。X51Y245グリッド～X51Y249グリッド。**検出状態**：良好。**走向方向**：南～北。2号溝の西側にほぼ平行。底面の標高は、南端部119.48m、北端部119.23m。**断面形態**：逆台形～皿状。**規模**：上端幅39cm～64cm、下端幅26～48cm。**残存深度**：27cm。**遺構埋没状態**：ローム粒を微量含む黒褐色土が埋没。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の土師器片・須恵器片が出土している程度。**時期**：不明。

遺物：土師器片、須恵器片を確認している。掲載遺物、0点。

2号溝　（遺構：Fig.40・94、PL.39）

位置：B区。X52Y244グリッド～X52Y250グリッド。**検出状態**：良好。**走向方向**：北～南。1号溝の東側にほぼ平行。東側には3号溝がやはり平行して位置。底面の標高は、北端部119.50m、南端部118.78m。**断面形態**：逆台形～皿状。**規模**：上端幅3.00m～3.96m、下端最大幅2.98m。**残存深度**：70cm。**遺構埋没状態**：

砂粒を多量に含む暗褐色基調の土が埋没。底面（３層）は非常に硬くしまる。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の遺物が出土している程度。**所見**：道路遺構の可能性がある。**時期**：中世。
遺物：土師器片、須恵器片、灰釉陶器椀片２点、軟質陶器片１点を確認している。掲載遺物、０点。

３号溝　（遺構：Fig.40・94、PL.21）
位置：Ｂ区。X53Y245グリッド～X53Y250グリッド。**検出状態**：本溝は地元古老の話等により、昭和中頃の道路であることが判明しており、一部断面観察・記録を行い、基本的には上端の範囲記録に留めた。底面には砂利が敷設されていた。**走向方向**：北～南。**断面形態**：逆台形で、東側はさらに１段下がり側溝と思われる。**規模**：上端幅は4.85m～5.60m。**残存深度**：103cm。**遺構埋没状態**：２層には玉砂利を多量に含み、上面が道路面と想定される。１層はローム主体の土で人為的に埋め戻されている。**所見**：昭和中頃まで使用されていた切り通しの道路跡であり、北方向はＡ区10号溝及び五代竹花遺跡の２号溝、南方向はＣ区７号溝・Ｄ区18号溝に繋がるものと想定される。
遺物：土師器甕片・坏片、須恵器坏片、近世～現代陶磁器片。掲載遺物、０点。

４号溝　（遺構：Fig.41・94、PL.39）
位置：Ｃ区。X40Y254グリッド～X43Y255グリッド。**検出状態**：良好。**走向方向**：東～西。底面の標高は、東端部117.84m、西端部117.78m。**断面形態**：台形～皿状。**規模**：上端幅3.55m～3.80m、下端幅2.14m～2.18m。**残存深度**：40cm。**遺構埋没状態**：暗褐色基調の土が埋没。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**所見**：規模・形状がＡ区２号溝に類似しており、同溝に繋がる道路遺構の可能性がある。ただ、本溝では顕著な硬化面は確認されていない。**時期**：不明。

５号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）
位置：Ｃ区。X36Y264グリッド～X46Y268グリッド。**検出状態**：東側で途切れる。**走向方向**：西北西～東南東。底面の標高は、西北西端部116.57m、東南東端部116.40m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅60cm前後、下端幅30cm前後。**残存深度**：32cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：埋没土中から近世陶磁器片が出土している。**所見**：地境溝か。**時期**：近世か。
遺物：土師器片、須恵器片、砥石１点、近世陶磁器片を確認している。掲載遺物、０点。

６号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21／遺物：Fig.115、PL.61）
位置：Ｃ区。X54Y270グリッド～X62Y264グリッド。**検出状態**：北東側で不明瞭になる。**走向方向**：南西～北東。底面の標高は、７号溝合流点付近の西端部117.07m、北東端部117.05m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅3.90m前後、下端幅3.60m前後。**残存深度**：47cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**所見**：近・現代の道路跡と想定され、７号溝に繋がるか、あるいは同溝に切られている可能性がある。
遺物：土師器片、須恵器片、古銭１点、近世～現代陶磁器片を確認している。掲載遺物、１点。

７号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）
位置：Ｃ区。X53Y260グリッド～X49Y274グリッド。**検出状態**：３号溝に同じ。**走向方向**：北～南。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅5.40m～7.00m。**残存深度**：140cm。**遺構埋没状態**：人為埋没。**遺物出土状態**：

遺物は出土していない。**所見**：昭和中頃まで使用されていた道路跡。

8号溝　(遺構：Fig.41・95、PL.21)

位置：C区。X54Y271グリッド～X61Y270グリッド。**検出状態**：H－25号・29号住居跡を切り、西側は7号溝に切られている。本来は12号溝に繋がっていた可能性がある。**走向方向**：東～西。底面の標高は、東端部117.06m、西端部117.04mで顕著な高低差は認められない。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅0.90m～1.65m、下端幅0.75m前後。**残存深度**：27cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と思われるが、明確に把握できなかった。**時期**：不明。

遺物：土師器片、須恵器甕片・蓋片を確認している。なお、石鏃も出土しているが、遺構外出土遺物に掲載した。掲載遺物、0点。

9号溝　(遺構：Fig.41・95、PL.21)

位置：C区。X44Y260グリッド～X43Y265グリッド。**検出状態**：南北両端部は切れる。**走向方向**：北～南。底面の標高は、北端部117.86m、南端部117.29m。**断面形態**：逆台形～皿状。**規模**：上端幅55cm前後、下端幅30cm前後。**残存深度**：27cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**所見**：地境溝か。**時期**：近世か。

遺物：土師器片、近世陶磁器片を確認している。掲載遺物、0点。

10号溝　(遺構：Fig.40・95、PL.20／遺物：Fig.115、PL.62)

位置：A区。X54Y264グリッド～X52Y228グリッド。**検出状態**：3号溝に同じ。**走向方向**：北～南。底面の標高は、北端部120.71m、南端部120.10m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅4.90m～5.05m、下端幅4.43m～4.50m。**残存深度**：59cm。**遺構埋没状態**：人為埋没。**所見**：昭和中頃まで使用されていた道路跡。

遺物：土師器甕片・羽釜片1点・坏1点、須恵器片、灰釉陶器片、現代陶磁器片等を確認している。掲載遺物、2点。

11号溝　(遺構：Fig.41・95、PL.21)

位置：C区。X52Y263グリッド～X52Y268グリッド。**検出状態**：7号溝西側に平行し、部分的に同溝に切られている。**走向方向**：北～南。**断面形態**：浅い逆台形。**規模**：上端幅35cm～55cm、下端幅24～40cm。**残存深度**：6cm。**遺構埋没状態**：不明。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**所見**：地境溝か。**時期**：不明。

12号溝　(遺構：Fig.41・95、PL.21)

位置：C区。X47Y269グリッド～X49Y270グリッド。**検出状態**：西側は途切れる。H－22号住居跡を切り、7号溝に切られる。8号溝に繋がっていた可能性がある。**走向方向**：東～西。**断面形態**：逆台形～皿状。**規模**：上端幅0.70m～1.10m、下端幅0.58m～0.95m。**残存深度**：15cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**時期**：不明。

遺物：土師器片、須恵器片を確認している。掲載遺物、0点。

13号溝　(遺構：Fig.41・95、PL.21)

位置：D区。X31Y274グリッド～X34Y275グリッド。**検出状態**：良好。**走向方向**：東～西。底面の標高は、

東端部114.57m、西端部114.25m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅55cm～65cm、下端幅36cm～50cm。**残存深度**：30cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**時期**：不明。

１４号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）

位置：D区。X33Y276グリッド～X42Y278グリッド。**検出状態**：東側は18号溝に切られる。南側に15号溝が近接する。**走向方向**：東～西。底面の標高は、東端部115.12m、西端部114.36m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅50cm前後、下端幅20cm前後。**残存深度**：22cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：埋没土中から近世陶器片が出土している。**所見**：地境溝か。**時期**：近世の可能性がある。

遺物：土師器片、須恵器片、近世陶器片、砥石１点を確認している。掲載遺物、０点。

１５号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）

位置：D区。X36Y277グリッド～X39Y277グリッド。**検出状態**：14号溝に近接。西側は不明瞭になる。**走向方向**：東～西。底面の標高は、東端部114.97m、西端部114.67m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅45cm前後、下端幅25cm前後。**残存深度**：15cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**時期**：不明。

１６号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）

位置：D区。X39Y274グリッド～X39Y276グリッド。**検出状態**：南側は不明瞭。**走向方向**：北～南。底面の標高は、北端部115.68m、南端部115.30m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅77cm前後、下端幅60cm前後。**残存深度**：15cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**時期**：不明。

遺物：土師器片を確認している。掲載遺物、０点。

１７号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）

位置：D区。X40Y274グリッド～X39Y276グリッド。**検出状態**：南側は不明瞭。H－35号住居跡を切る。**走向方向**：北～南。底面の標高は、北端部115.82m、南端部115.40m。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端幅45cm前後、下端幅35cm前後。**残存深度**：8cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**時期**：不明。

遺物：土師器片、須恵器片を確認している。掲載遺物、０点。

１８号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）

位置：D区。X46Y276グリッド。**検出状態**：３号溝に同じ。**走向方向**：北東～南西。**断面形態**：底面にやや起伏がみられる。**規模**：上端幅5.60m～6.30m。**残存深度**：65cm。**遺構埋没状態**：人為埋没。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**所見**：昭和中頃まで使用されていた道路跡。

１９号溝　（遺構：Fig.41・95、PL.21）

位置：D区。X48Y278グリッド～X48Y279グリッド。**検出状態**：３号砂鉄ピットの南側に位置し、同ピットは本溝の延長部分である可能性がある。**走向方向**：北東～南西。底面の標高は、北東端部115.95m、南西端部115.77m。**断面形態**：逆台形～皿状。**規模**：上端幅35cm～40cm、下端幅10～15cm。**残存深度**：20cm。**遺構埋没状態**：部分的に砂鉄溜まりが認められた。**遺物出土状態**：遺物は出土していない。**時期**：不明。

２０号溝　(遺構：Fig.40・95、PL.39／遺物：Fig.115、PL.62)

位置：A区。X56Y238グリッド～X60Y237グリッド。**検出状態**：東側の谷地形部分へと急激に下っている。**走向方向**：西～東。底面の標高は、西端部119.70m、東端部118.30m。**断面形態**：底部が極端に細くなる。**規模**：上端幅3.00m～4.25m、下端幅22cm前後。**残存深度**：138cm。**遺構埋没状態**：砂粒を含む暗褐色基調の土が埋没。**遺物出土状態**：少量の遺物が埋没土中から出土している。**時期**：近世か。

遺物：土師器片、須恵器甕片・椀片・坏片、灰釉陶器片、軟質陶器片、陶器片、鉄滓１点を確認している。須恵器甕の内面には放射状の当て具痕がある。掲載遺物、７点。

２１号溝　(遺構：Fig.40、PL.20)

位置：A区。X57Y240グリッド～X60Y239グリッド。**検出状態**：本来は、H－50号・44号住居跡の上面を切る。東側で不明瞭になる。**走向方向**：西～東。底面の標高は、西端部119.98m、東端部119.25m。**断面形態**：浅い逆台形。**規模**：上端幅35cm～52cm、下端幅24cm～27cm。**残存深度**：18cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**時期**：不明。

遺物：土師器片、須恵器片を確認している。掲載遺物、０点。

２２号溝　(遺構：Fig.40、PL.20)

位置：A区。X52Y227グリッド。**検出状態**：10号溝西側の調査区西端で一部を検出したのみである。**走向方向**：北～南。**断面形態**：逆台形。**規模**：上端最大幅64cm、下端最大幅45cm。**残存深度**：18cm。**遺構埋没状態**：明確に確認できなかった。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の遺物が出土している。**時期**：中世か。

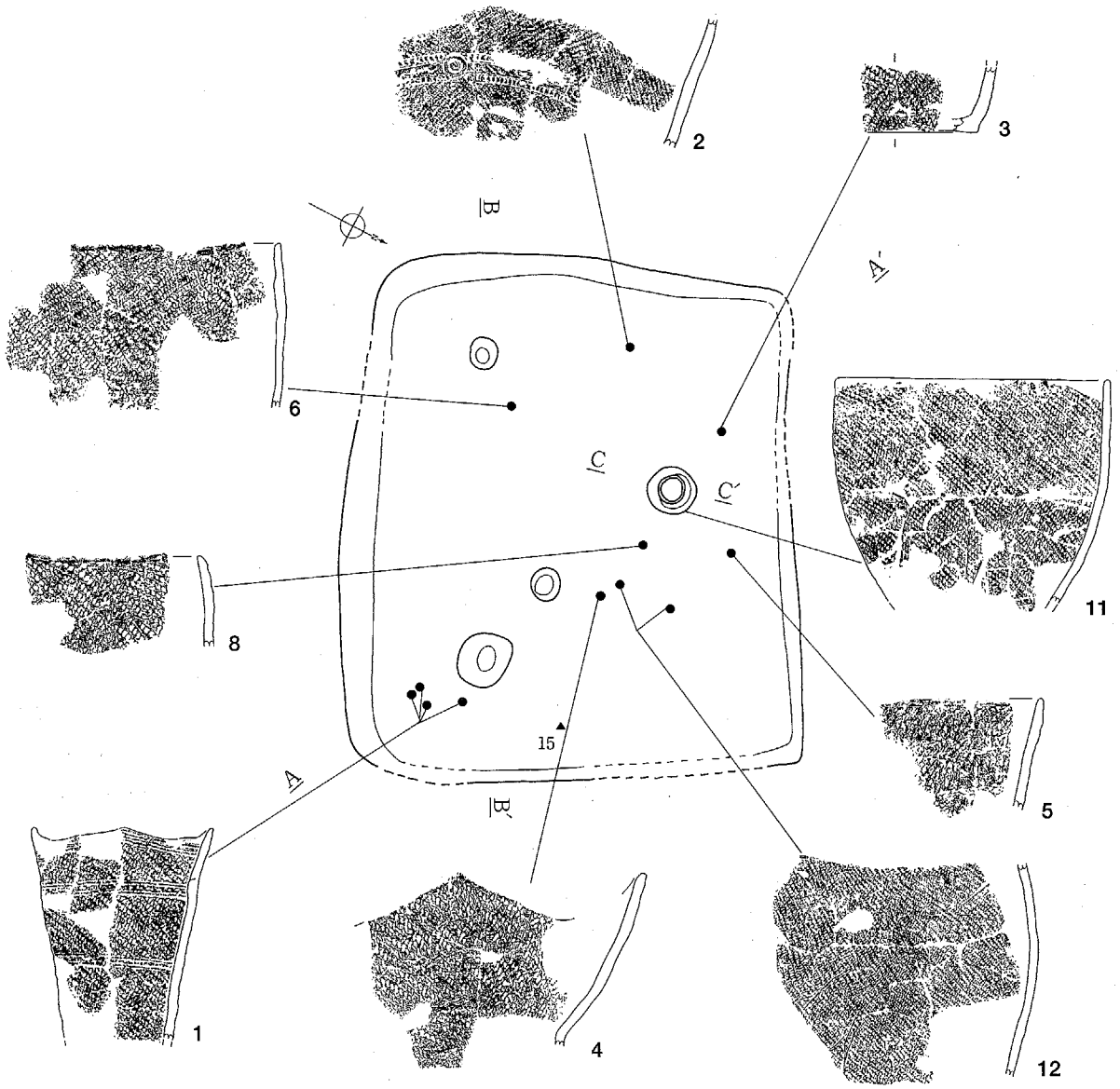
遺物：土師器片、須恵器片、焼締陶器片、軟質陶器片を確認している。掲載遺物、０点。

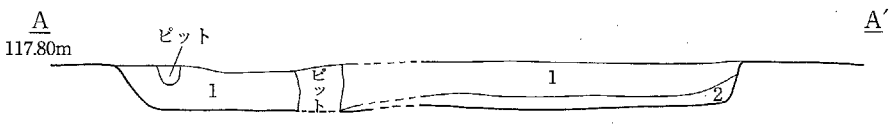
Ⅴ　遺構外出土遺物　(Fig.116・117、PL.62・63)

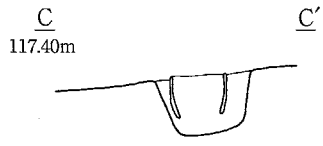
ここでは、遺構外及び古墳時代以降の遺構から出土した縄文土器・石器類、遺構外から出土した古墳時代以降の遺物を概括する。

縄文土器片は、前期前半１点・黒浜式226点・諸磯ａ式252点・諸磯ｂ式18点・諸磯ｃ式80点・十三菩提式２点・浮島式３点・興津式１点、中期前半（五領ヶ台式・阿玉台式）６点・中期中葉３点・加曽利Ｅ式７点、後期（称名寺式・堀之内式）13点、不明45点を確認している。石器類は石皿１点（輝石安山岩１）、磨石５点（安山岩５）、凹石３点（石英安山岩１・輝石安山岩２）、打製石斧７点（頁岩５・砂質頁岩１・輝石安山岩１）、スクレイパー１点（砂質頁岩１）、残核１点（頁岩１）、石鏃５点（チャート１・鉄石英１・頁岩１・珪質頁岩１・黒曜石１）、砥石と思われる石器１点（緑泥片岩１）、調整のある剥片30点（頁岩23・輝石安山岩１・チャート２・玉髄１・黒色安山岩１・粘板岩１・ヒン岩１）、剥片145点（頁岩100・砂質頁岩10・黒色安山岩８・輝石安山岩７・チャート５・緑泥片岩４・ヒン岩５・黒曜石３・安山岩２・粘板岩１）、礫125点（内98点は被熱痕のある輝石安山岩）を確認している。掲載遺物、縄文土器24点、石器類12点。

また、遺構外から土師器・須恵器や石製品、中・近世陶磁器、古銭等の遺物が出土している。紡錘車（39）は表採遺物で、欠損面を丁寧に研磨している。掲載遺物、10点。







1層：にぶい黄褐色土　ローム粒多量、炭化粒微量、焼土粒微量、黄白色粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：明黄褐色土　ローム粒多量、黄白色粒微量、橙色パミス微量。しまり強く、粘性がある。

J－1号住居跡埋設土器
1層：暗黄褐色土　ローム粒大量、黄白色粒微量、しまり強く、粘性がある。

1m（埋設土器）
0　2m

Fig.42　J－1号住居跡

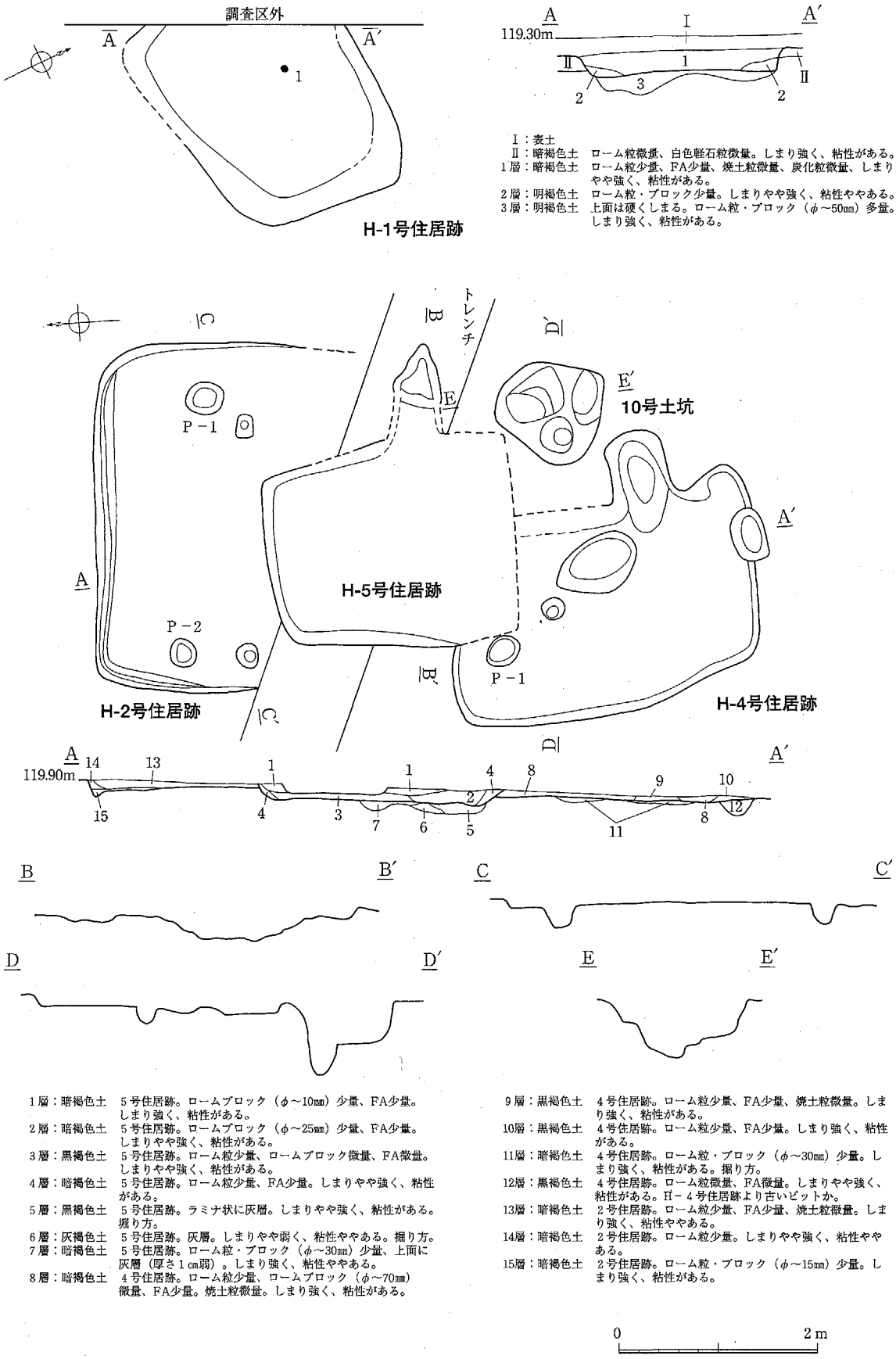
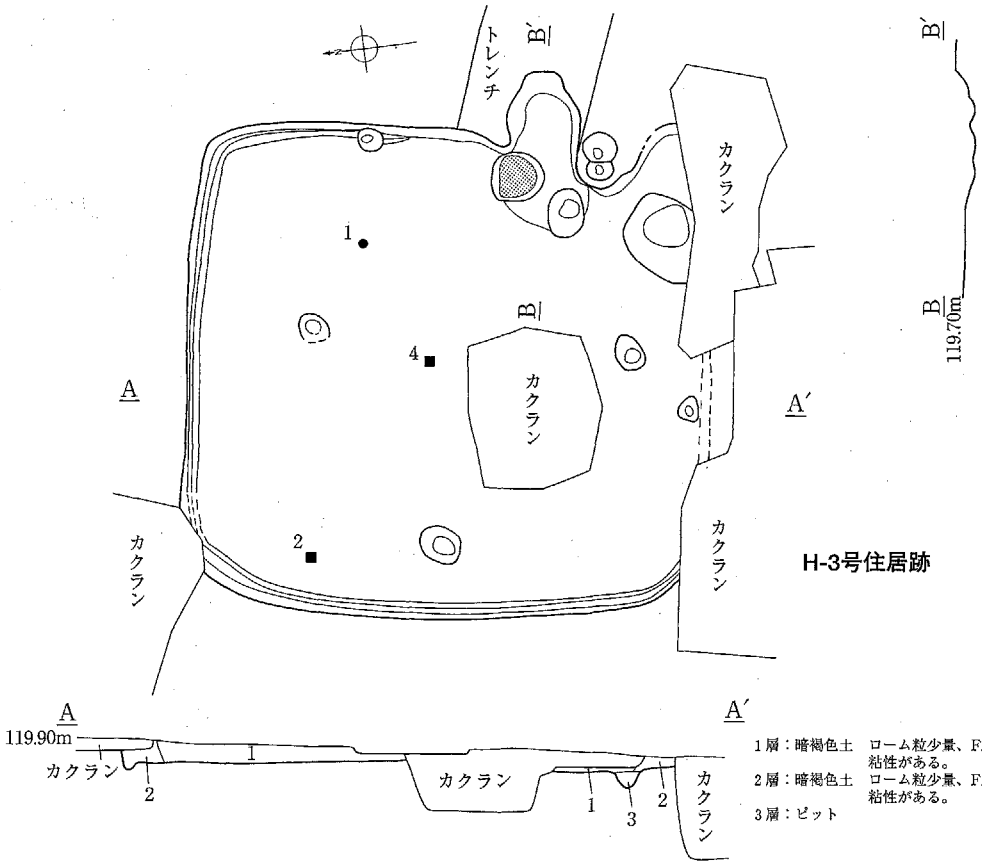


Fig.43　H－1号住居跡・H－2号・4号・5号住居跡・10号土坑



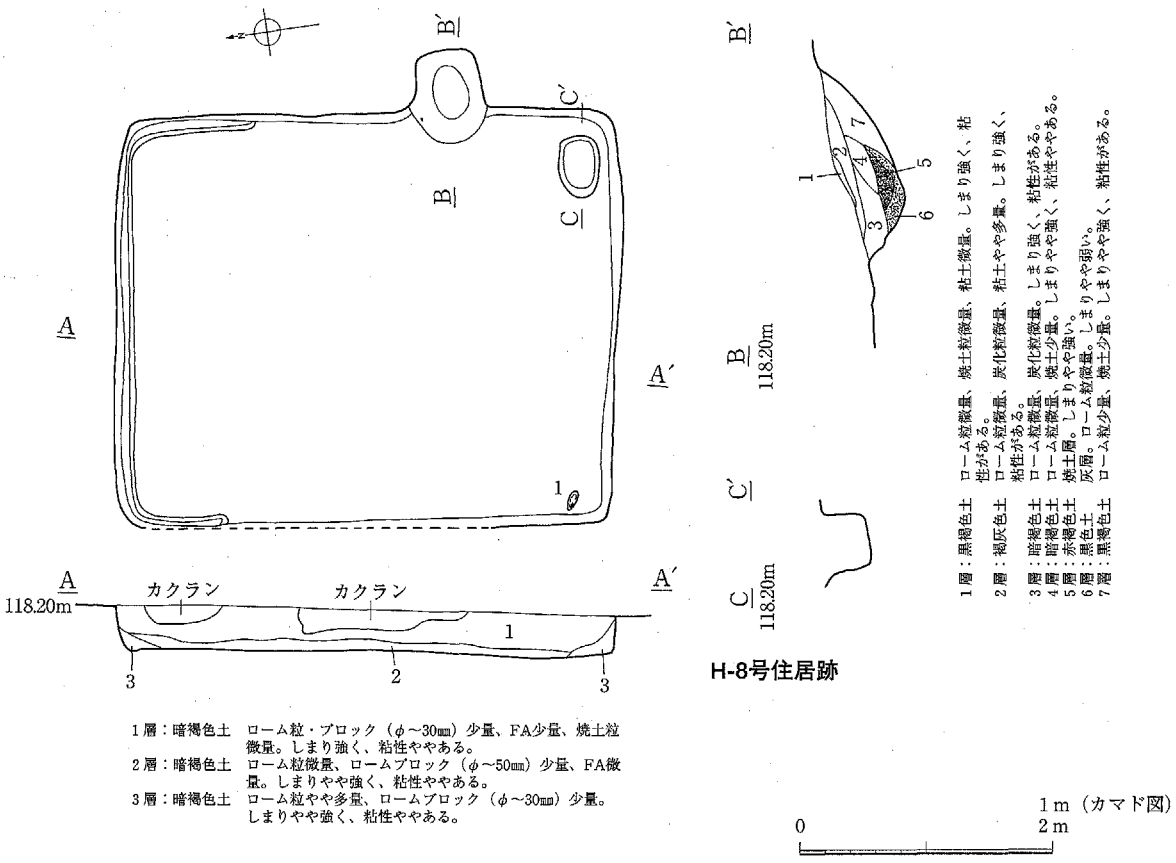
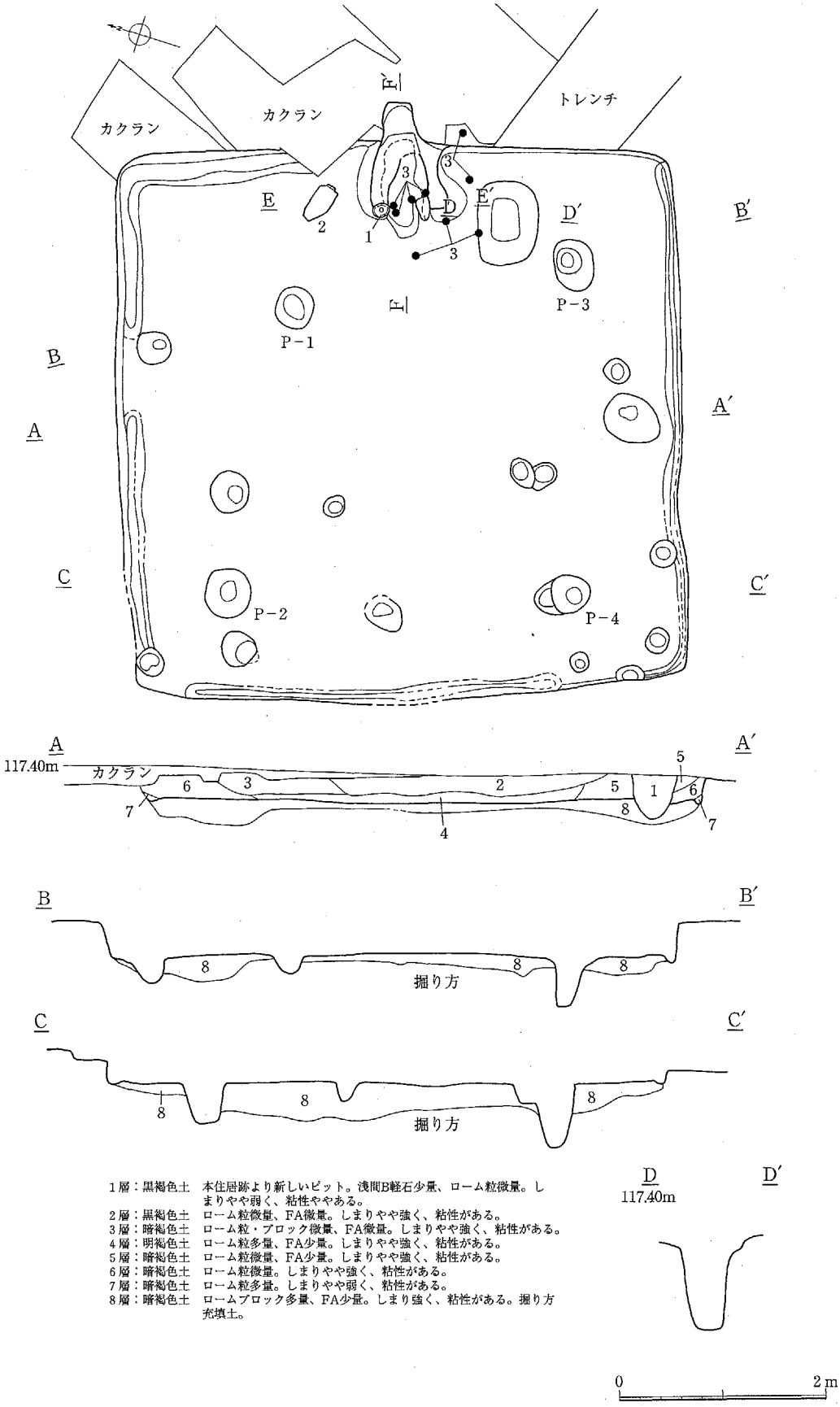


Fig.44　H－3号住居跡・H－8号住居跡



1層：黒褐色土　本住居跡より新しいピット。浅間B軽石少量、ローム粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：明褐色土　ローム粒多量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒微量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
6層：暗褐色土　ローム粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　ローム粒多量。しまりやや弱く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ロームブロック多量、FA少量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。

Fig.45　H－6号住居跡①

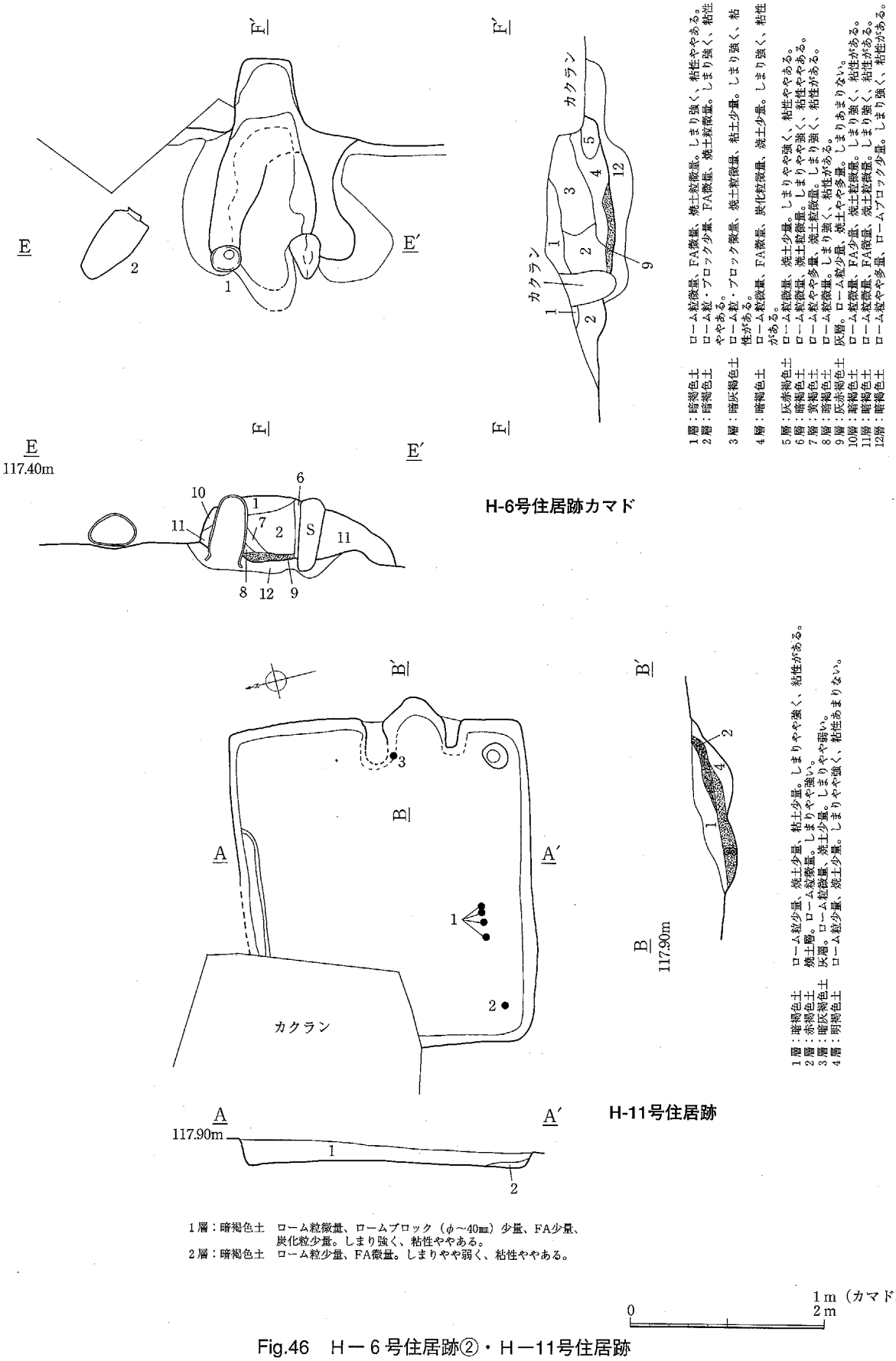
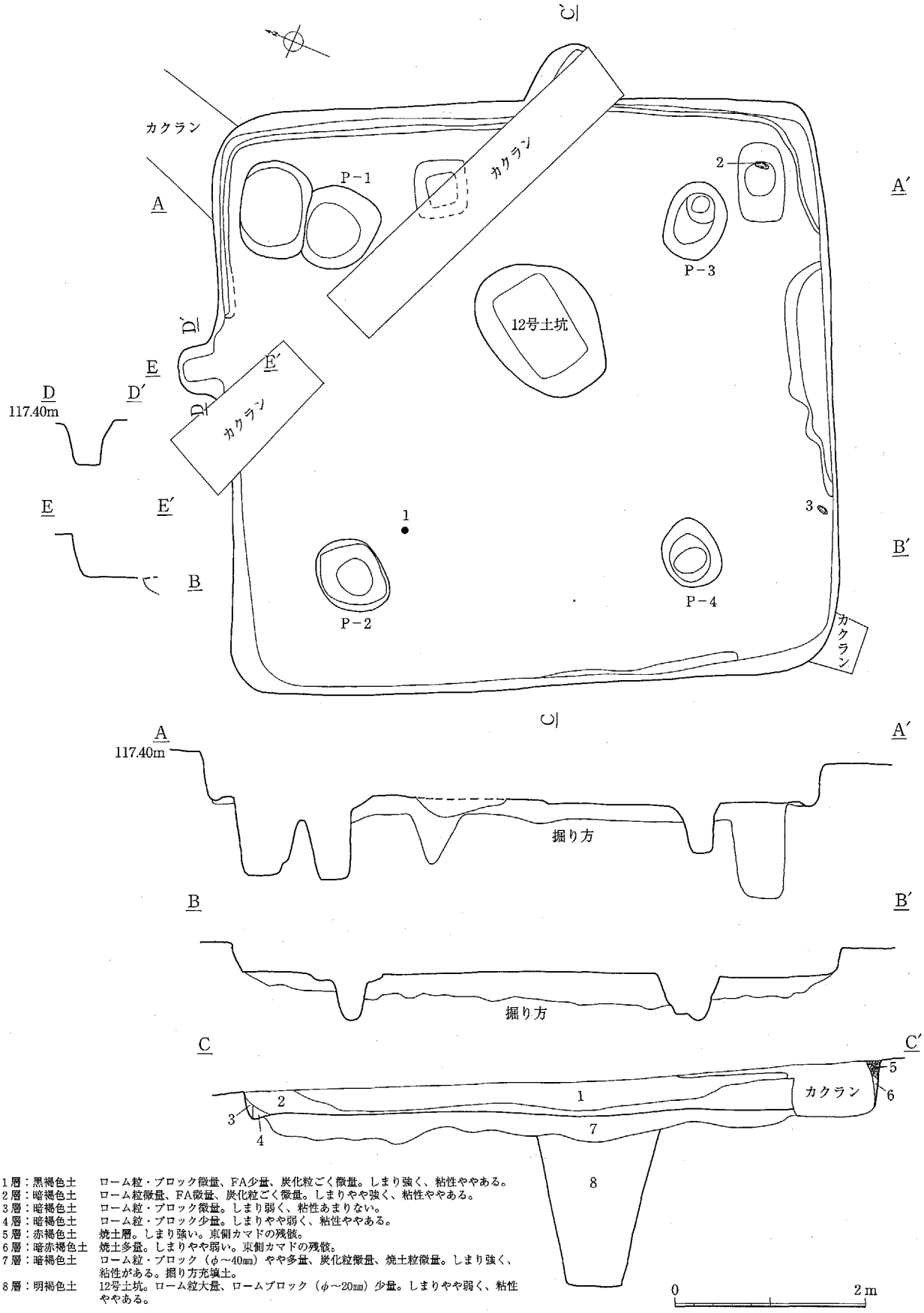
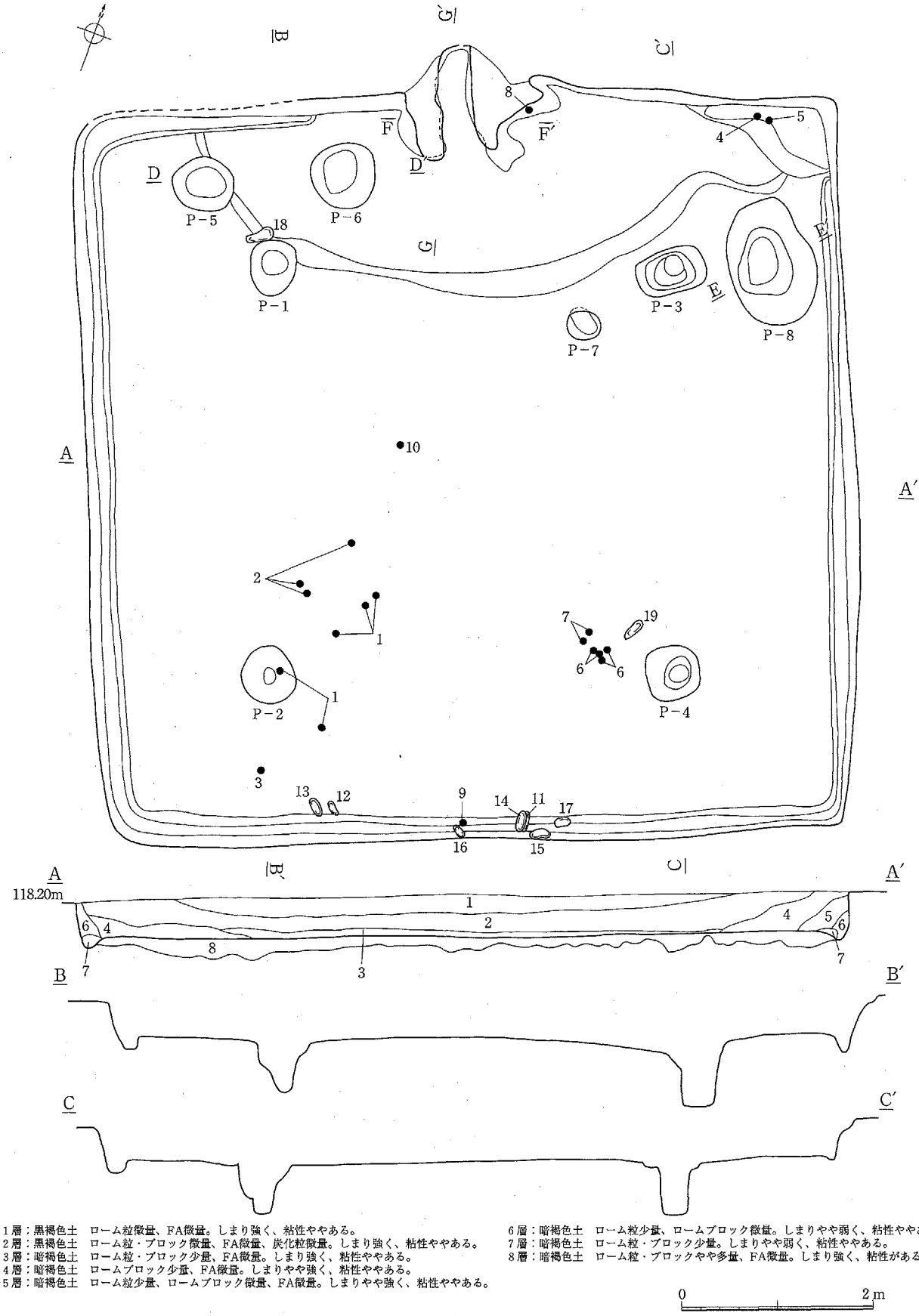


Fig.46　H－6号住居跡②・H－11号住居跡



1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、炭化粒ごく微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒ごく微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量。しまり弱く、粘性あまりない。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：赤褐色土　焼土層。しまり強い。東側カマドの残骸。
6層：暗赤褐色土　焼土多量。しまりやや弱い。東側カマドの残骸。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）やや多量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。
8層：明褐色土　12号土坑。ローム粒大量、ロームブロック（φ～20㎜）少量。しまりやや弱く、粘性ややある。

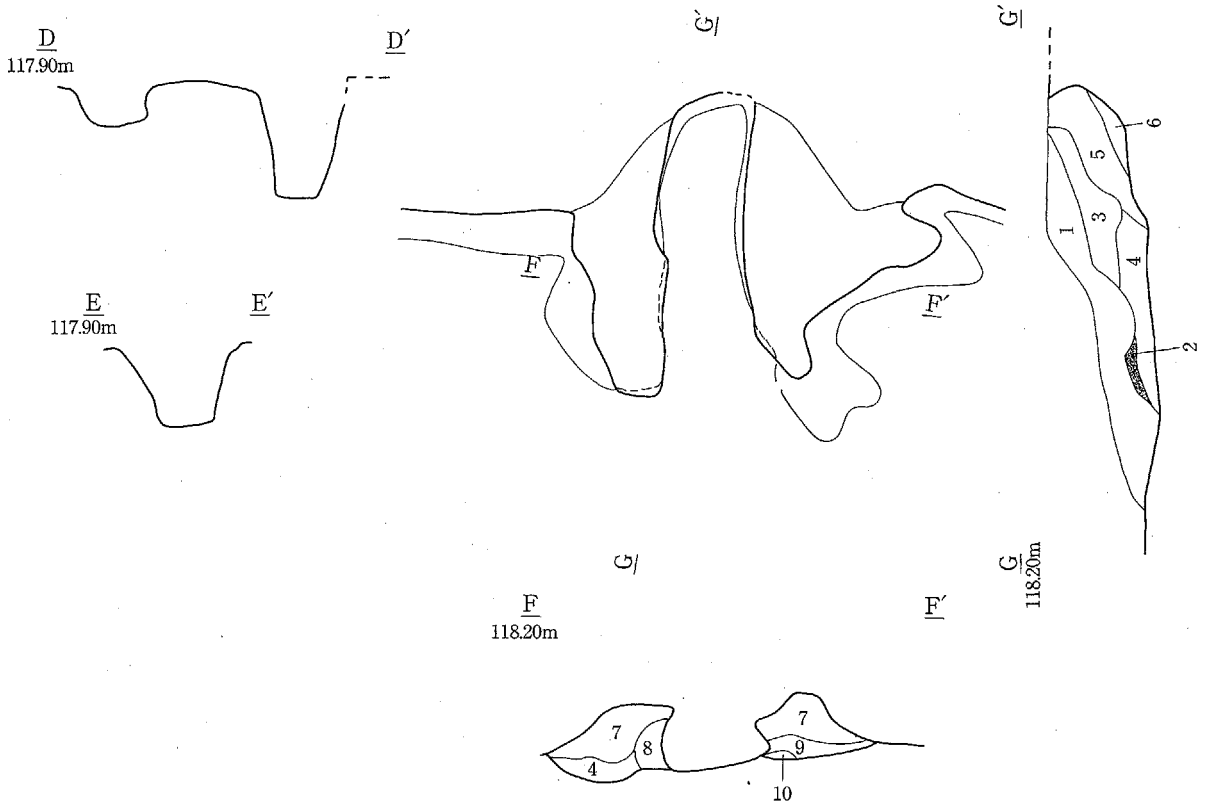
Fig.47　H－7号住居跡・12号土坑



1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまり強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ロームブロック少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
8層：暗褐色土　ローム粒・ブロックやや多量、FA微量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。

0　2m

Fig.48　H－9号住居跡①



1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：赤褐色土　焼土層。しまり強い。
3層：橙褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、炭化粒微量、焼土やや多量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土やや多量。しまり弱く、粘性あまりない。
6層：黒褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
7層：黄褐色土　ローム。FA微量、焼土粒微量。粘質土。しまり強い。
8層：暗褐色土　ロームやや多量、FA微量、焼土少量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
9層：暗褐色土　ローム粒少量、焼土少量、灰少量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
10層：黒褐色土　ローム粒微量、灰やや多量。しまりやや強く。粘性ややある。

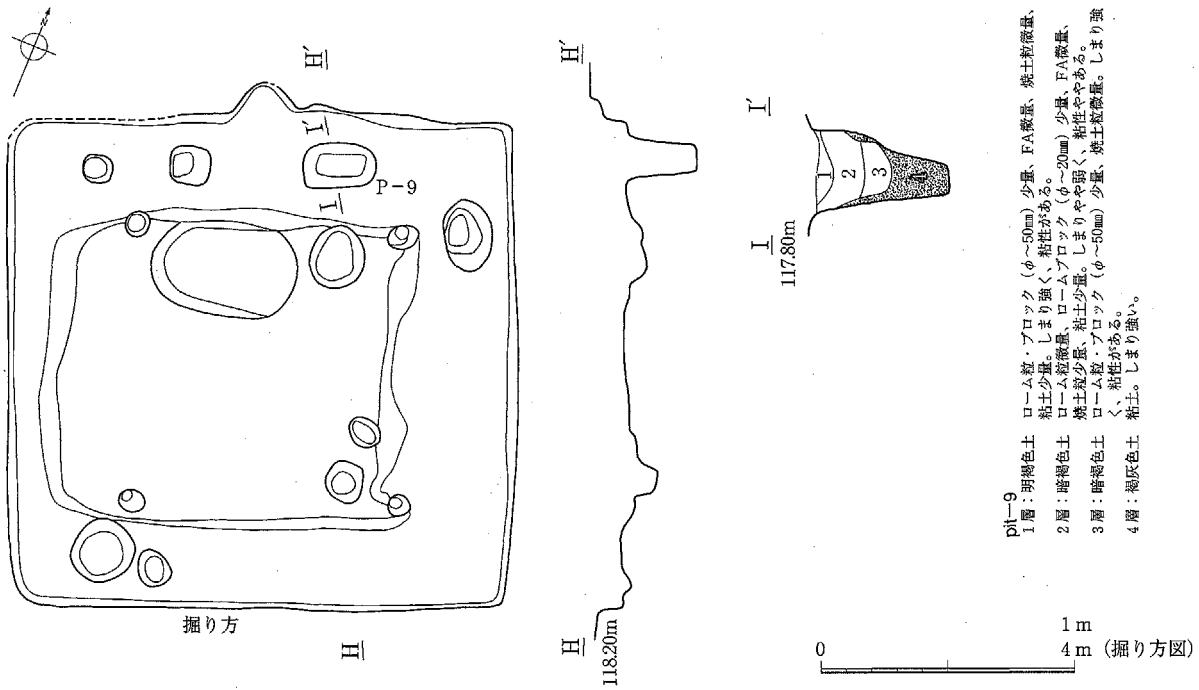


Fig.49　H－9号住居跡②

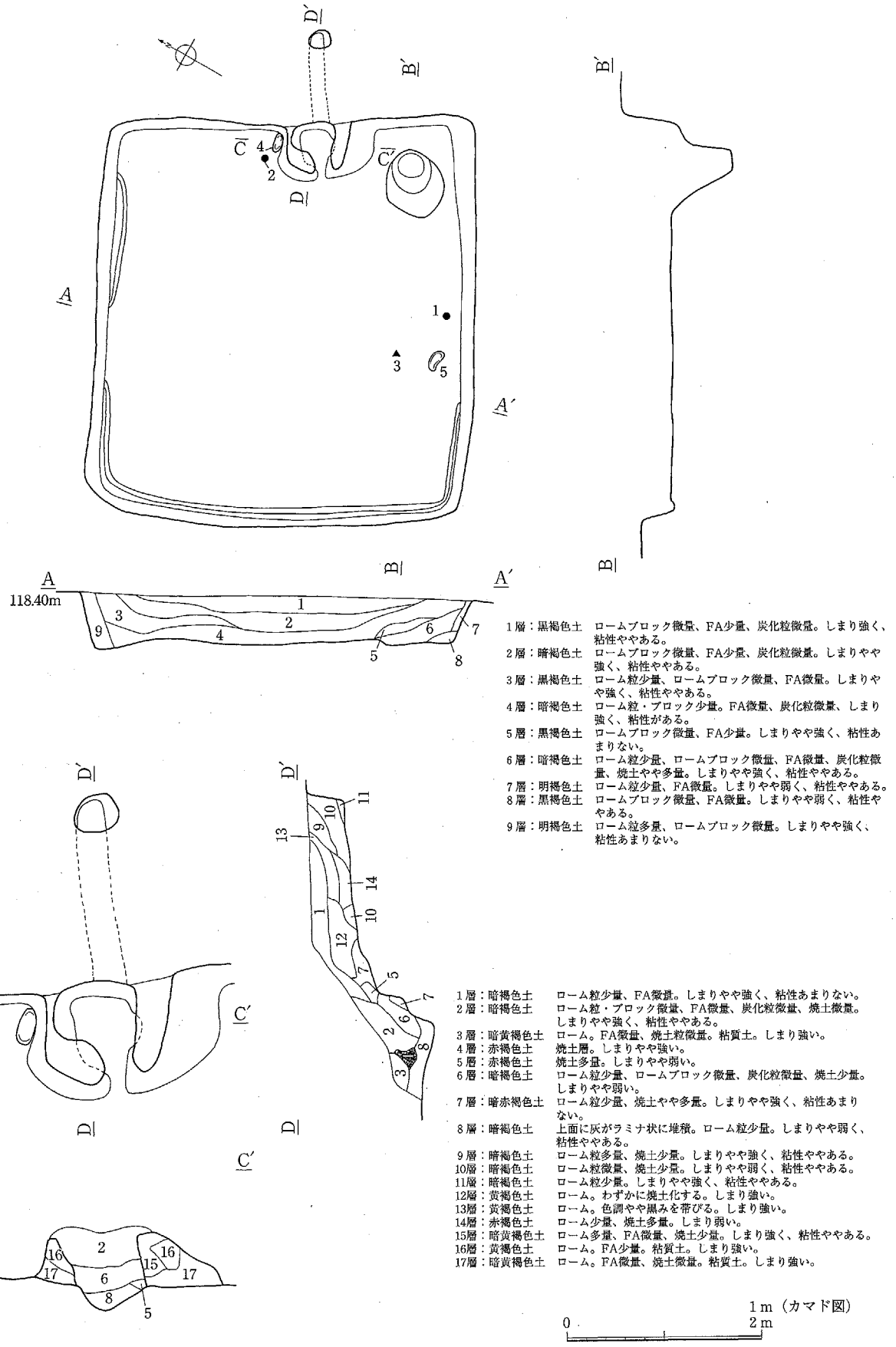


Fig.50　H－10号住居跡

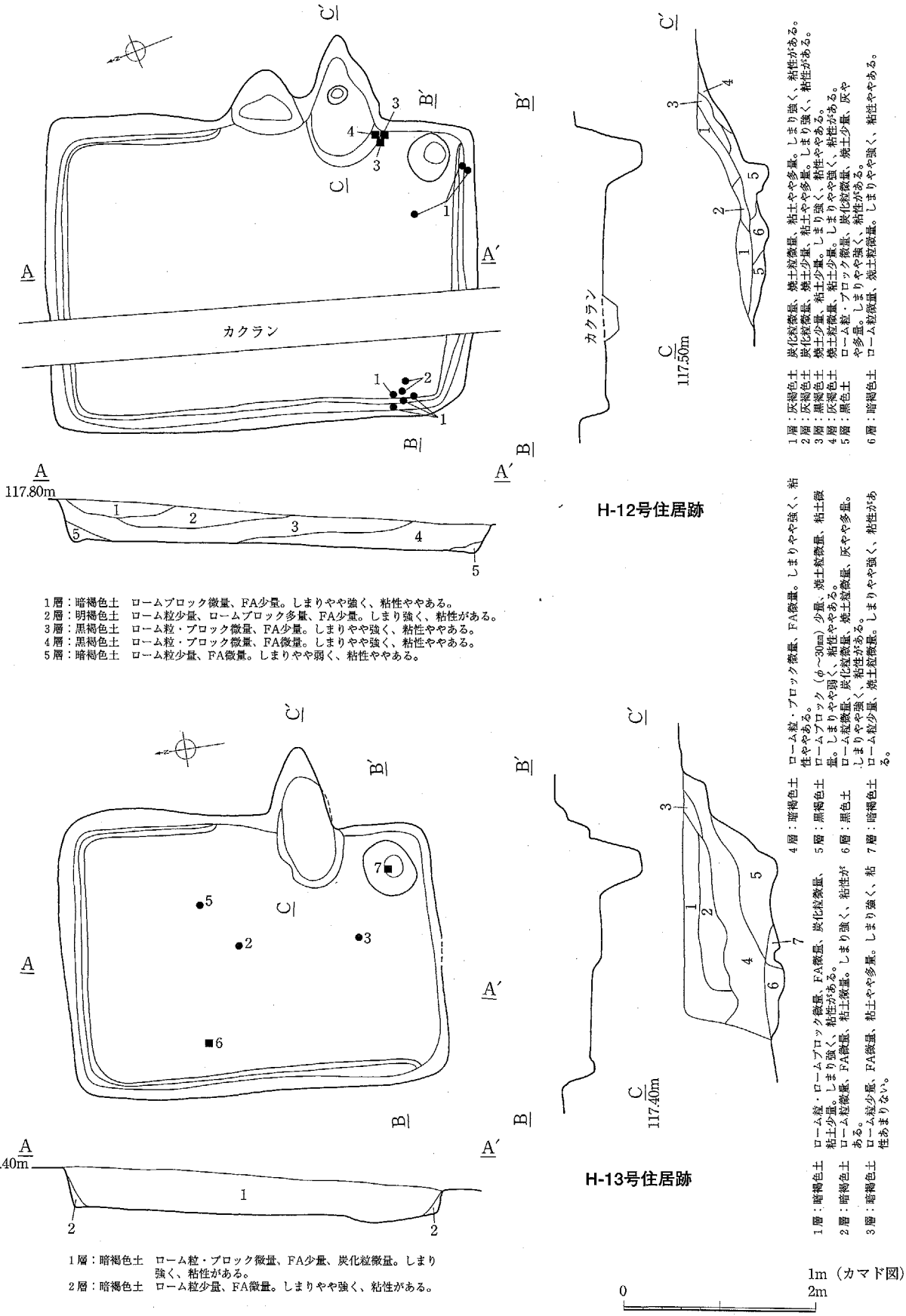
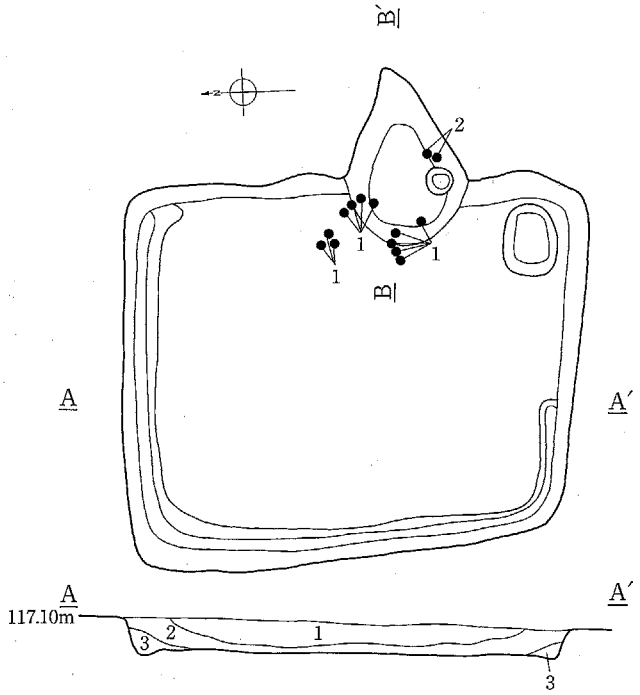
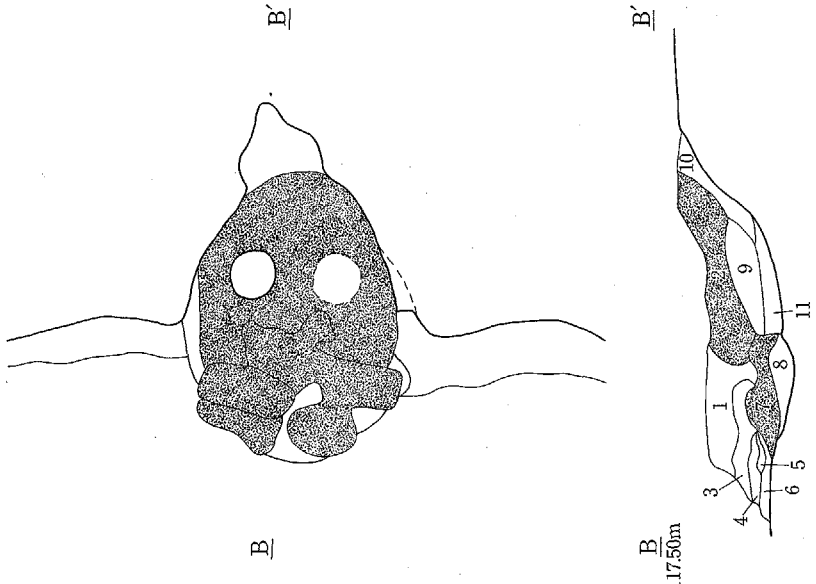


Fig.51　H－12号住居跡・H－13号住居跡



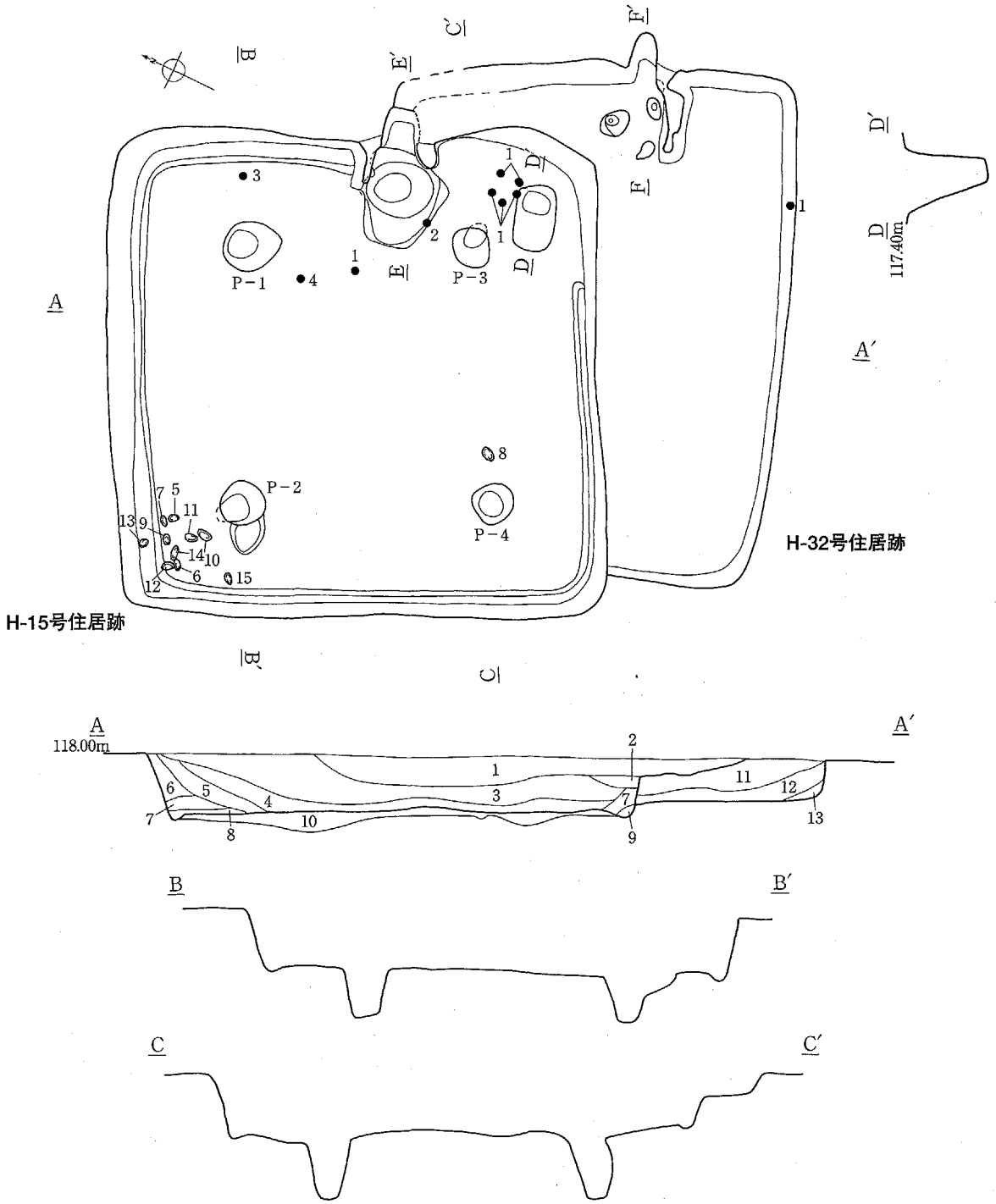
1層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒微量、FA少量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック微量。しまりやや弱く、粘性ややある。



1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土微量。しまり強く、粘性がある。
2層：褐灰色土　粘土層。しまり強く硬い。
3層：褐灰色土　FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
5層：橙褐色土　焼土多量。しまり強い。
6層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
7層：灰色土　被熱のある粘土塊。色調は灰色～橙褐色。
8層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
9層：褐灰色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまりやや強く、粘性がある。
10層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
11層：褐灰色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量、灰微量。しまりやや弱く、粘性ややある。

1m（カマド図）
0　2m

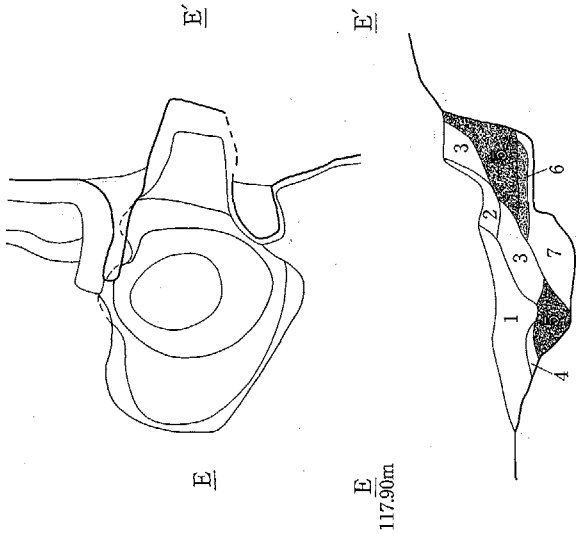
Fig.52　H－14号住居跡



1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：黄褐色土　ローム粒多量、ロームブロック（φ～70㎜）やや多量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
5層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
6層：明褐色土　ローム粒多量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量。しまり強く、粘性がある。
9層：暗灰褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
10層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。
11層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック少量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
12層：黒褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
13層：黒褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。

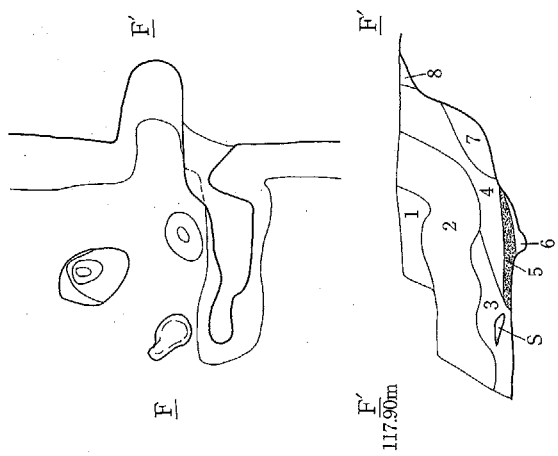
0　2m

Fig.53　H－15号・32号住居跡①



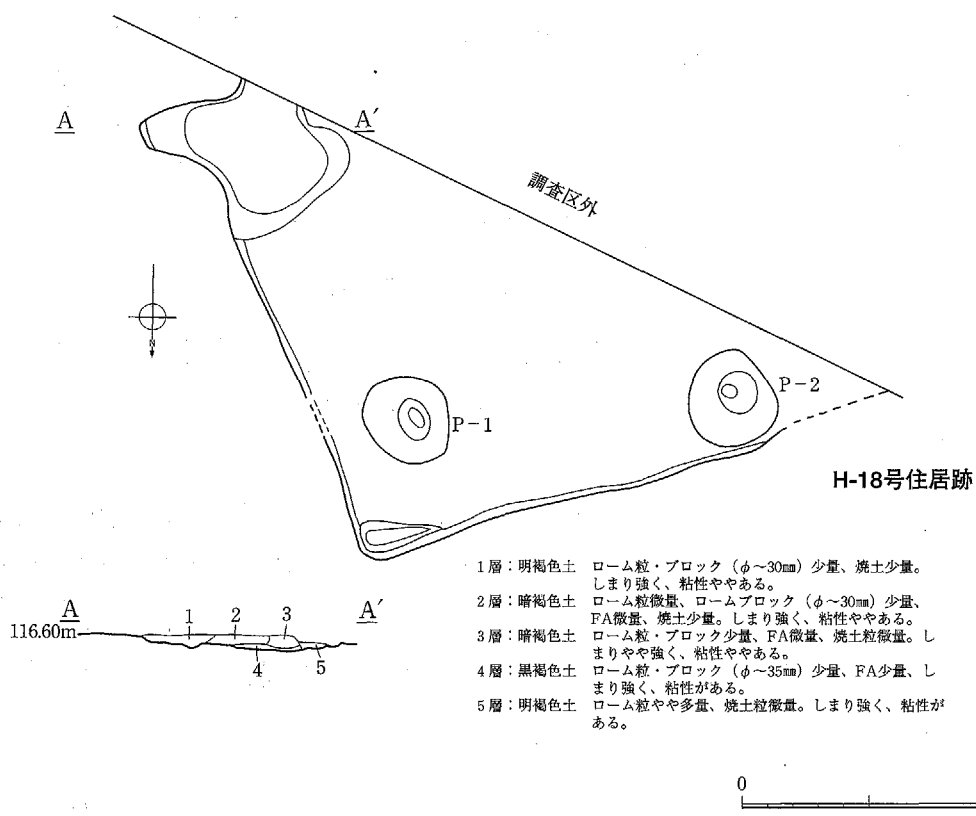
1層：明褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量、FA少量、焼土粒微量。粘質土。しまり非常に強く硬い。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
3層：黄褐色土　ローム粒やや多量、焼土やや多量。しまり強い。
4層：明褐色土　ローム粒やや多量、FA微量、焼土少量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
5層：赤褐色土　焼土層。FA微量、粘土微量。しまりやや強い。
6層：暗灰褐色土　灰層。焼土粒微量。しまりやや弱い。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、炭化粒微量、焼土少量、粘土微量。しまりやや強く、粘性ややある。

H-15号住居跡カマド



1層：灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
3層：灰褐色土　FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土少量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：灰褐色土　炭化粒微量、焼土ブロック少量、粘土微量。しまり強く、粘性ややある。
5層：灰色土　灰層。焼土粒微量。しまりやや弱い。
6層：暗褐色土　ロームブロック微量。しまり強く、粘性がある。
7層：灰褐色土　ローム粒微量、FA微量、粘土やや多量。しまり強く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。

H-32号住居跡カマド



H-18号住居跡

1層：明褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～35㎜）少量、FA少量、しまり強く、粘性がある。
5層：明褐色土　ローム粒やや多量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

Fig.54　H－15号・32号住居跡②・H－18号住居跡

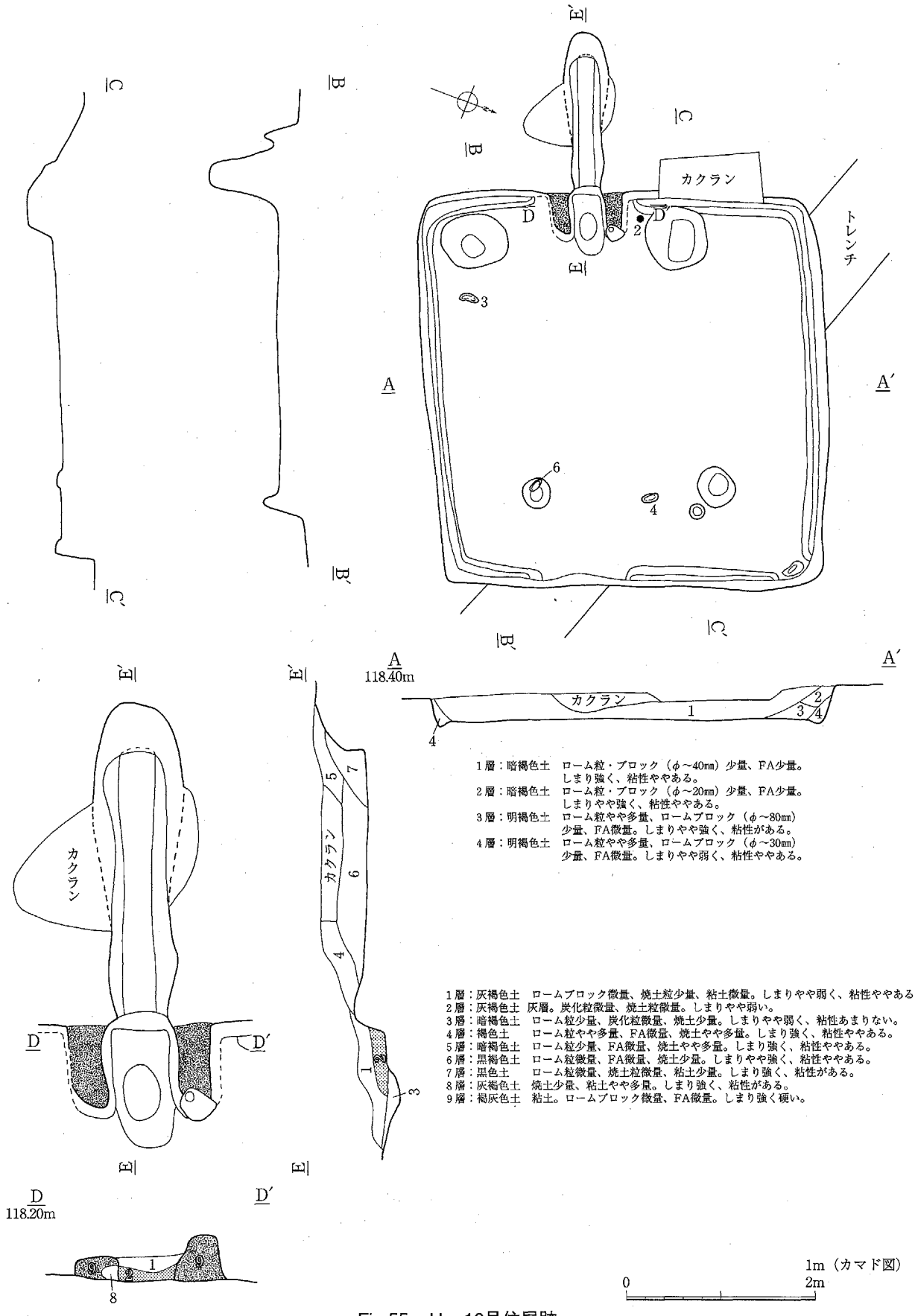
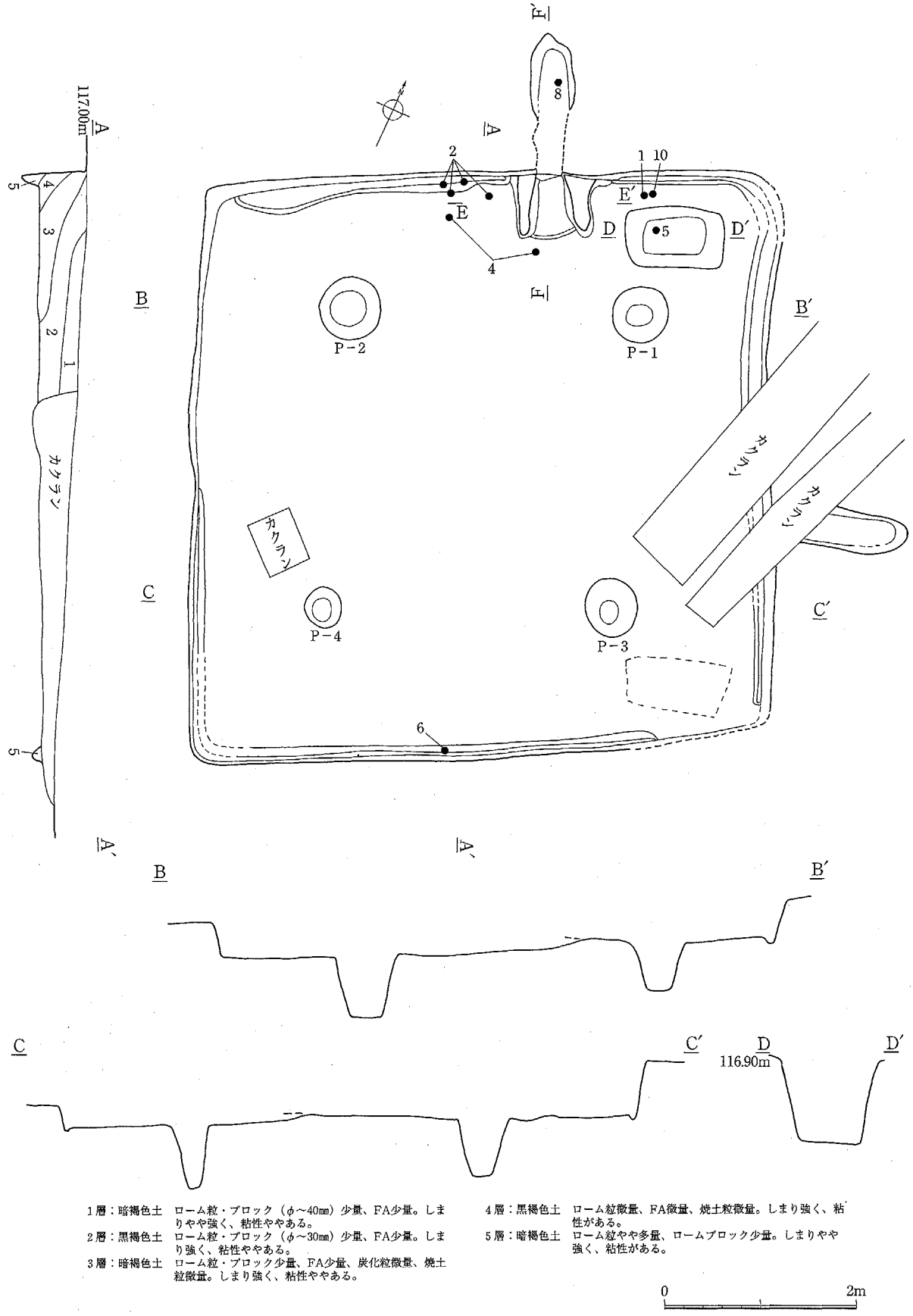
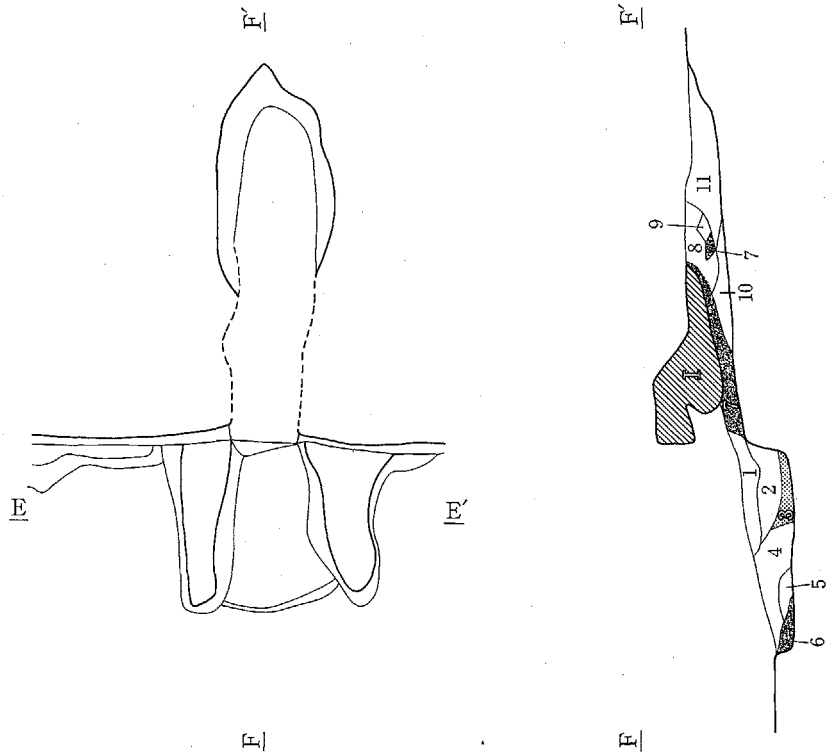


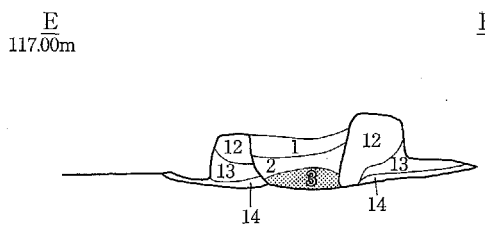
Fig.55　H－16号住居跡



1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）少量、FA少量。しまりやや強く、粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
4層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック少量。しまりやや強く、粘性がある。

Fig.56　H－17号住居跡①

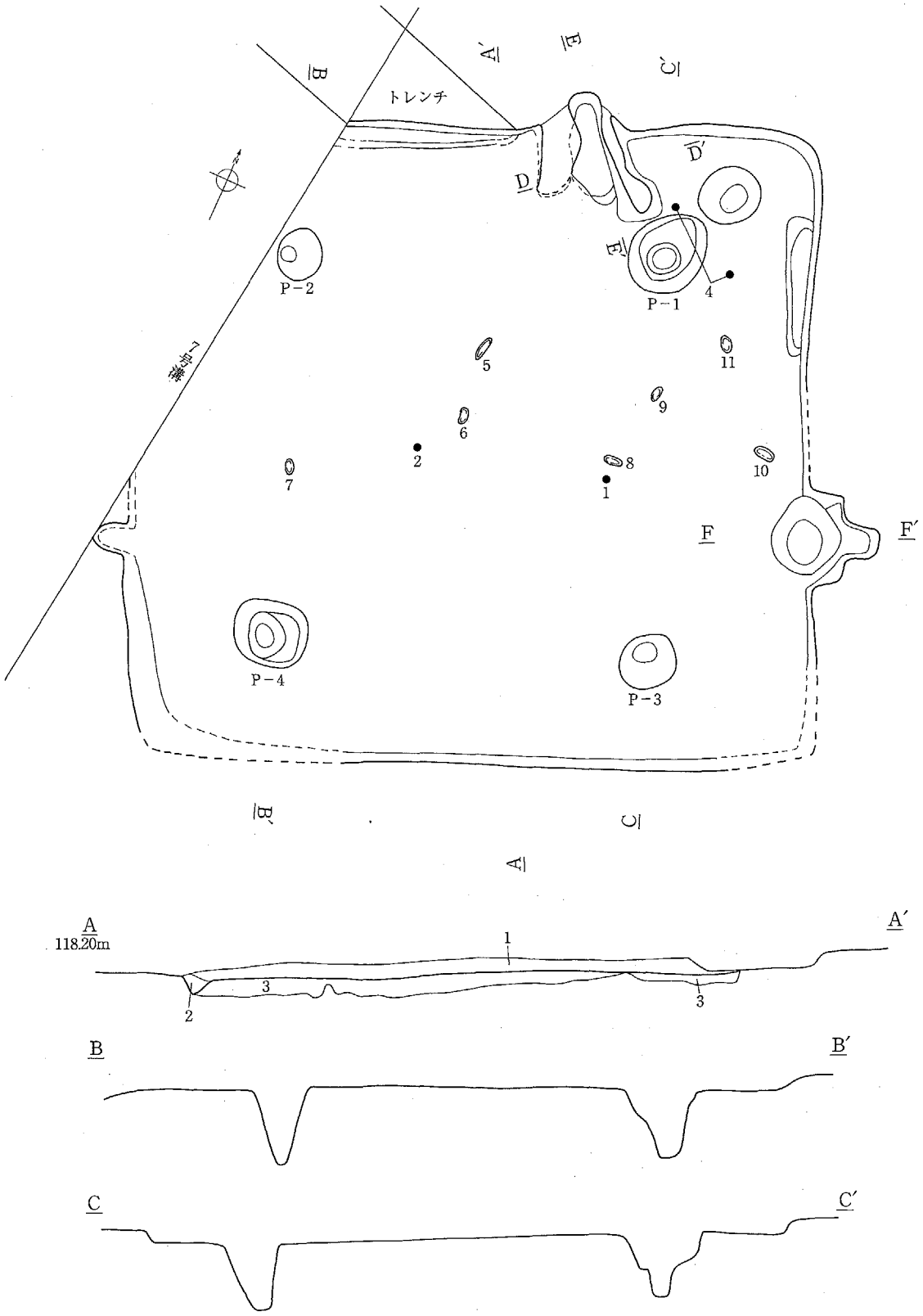




Ⅰ：黄褐色ローム層。地山。
1層：灰褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土少量、粘土やや多量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗灰褐色土　ローム粒微量、焼土やや多量、灰やや多量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
3層：暗灰褐色土　灰層。ローム粒微量、焼土少量。しまり弱い。
4層：明褐色土　ローム粒やや多量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性強い。
5層：暗灰褐色土　ローム粒少量、焼土少量、灰少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：赤褐色土　焼土層。しまり強い。
7層：赤褐色土　焼土層。ローム粒少量。しまりやや強い。
8層：褐色土　ローム粒やや多量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、やや粘性がある。
9層：黄褐色土　ローム大量、焼土微量。煙道天井部の崩落土。
10層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
11層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
12層：褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、粘土少量。粘質土。しまり強い。
13層：褐色土　ローム粒・ブロック微量。粘質土。しまり強い。
14層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。しまり強く、粘性がある。

0　1m

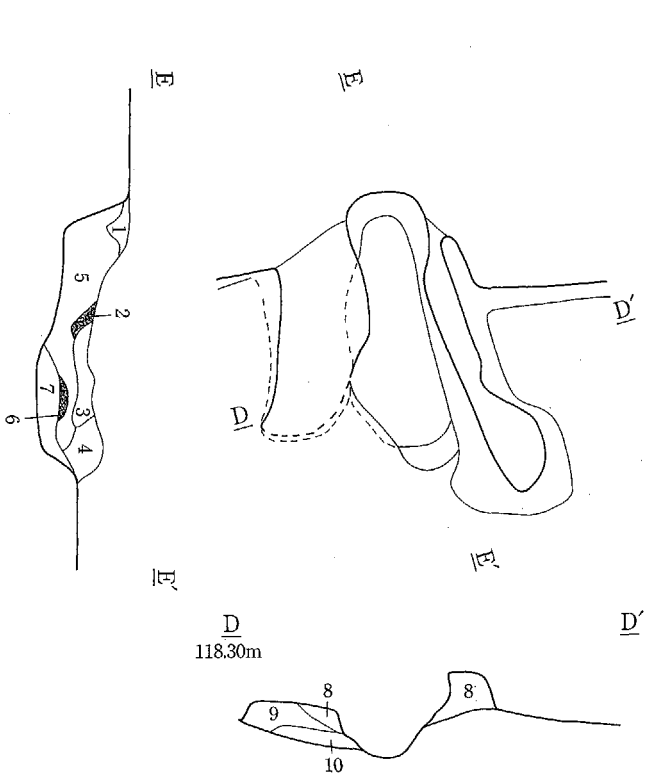
Fig.57　H－17号住居跡②

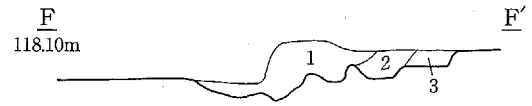


1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロックやや多量。しまり強く、粘性ややある。掘り方充填土。

1　2m

Fig.58　H−19号住居跡①





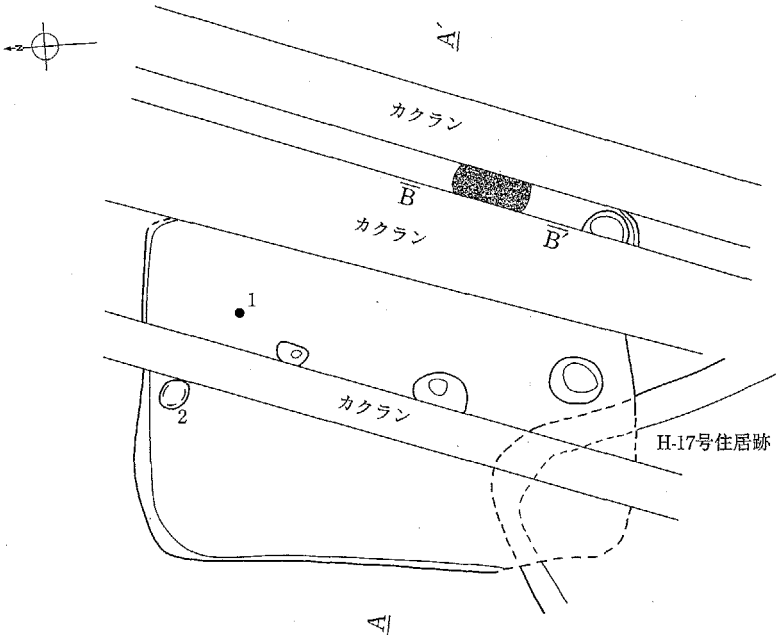
東カマド

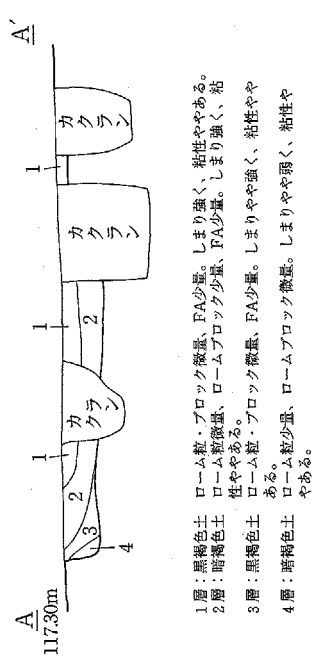
1層：灰褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～70㎜）少量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土少量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土やや多量。しまり強く、粘性強い。

北カマド

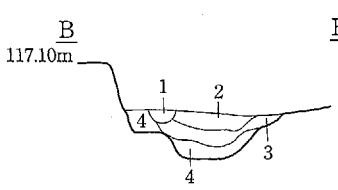
1層：明黄褐色土　ローム粒少量、焼土少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：赤褐色土　焼土層。粘土微量。しまり強い。
3層：明黄褐色土　ローム粒少量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土やや多量。粘質土。しまり強い。
4層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
6層：赤褐色土　焼土層。しまり強い。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
8層：明黄褐色土　ローム大量、FA微量、炭化粒微量。粘質土。しまり非常に強く硬い。
9層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量、焼土少量、粘土少量。しまり非常に強く硬い。粘性がある。
10層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～50㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

H-19号住居跡カマド





1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。しまりやや弱く、粘性ややある。



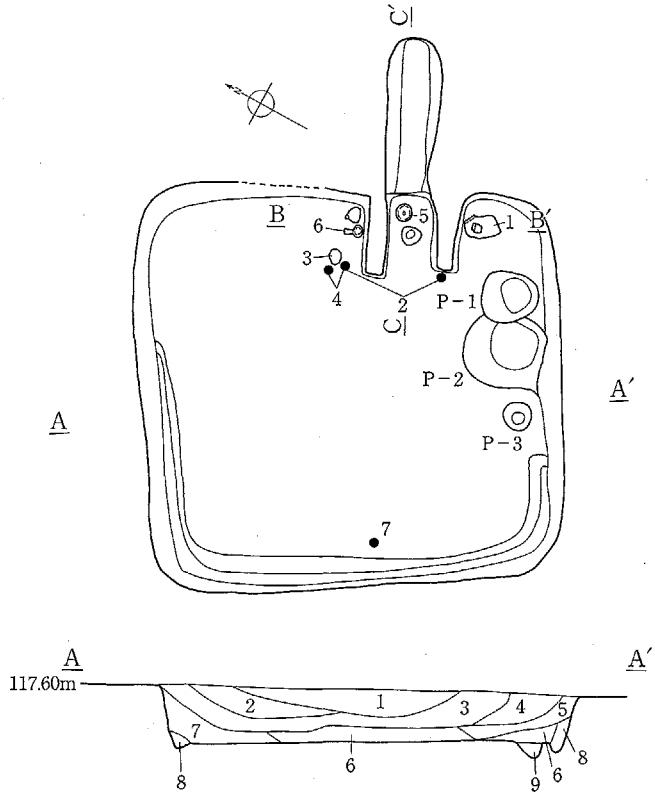
1層：黄褐色土　ローム粒多量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、焼土少量、灰やや多量。しまりやや弱く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、焼土粒微量、灰微量。しまりやや弱く、粘性ややある。

H-20号住居跡

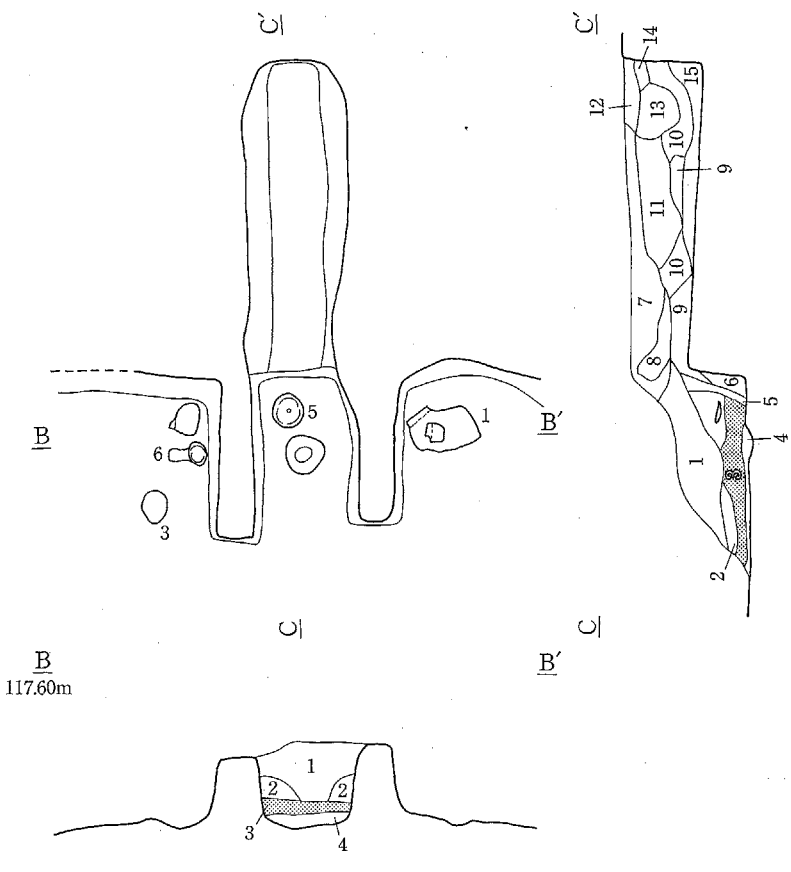
1m（カマド図）

0　2m

Fig.59　H－19号住居跡②・H－20号住居跡



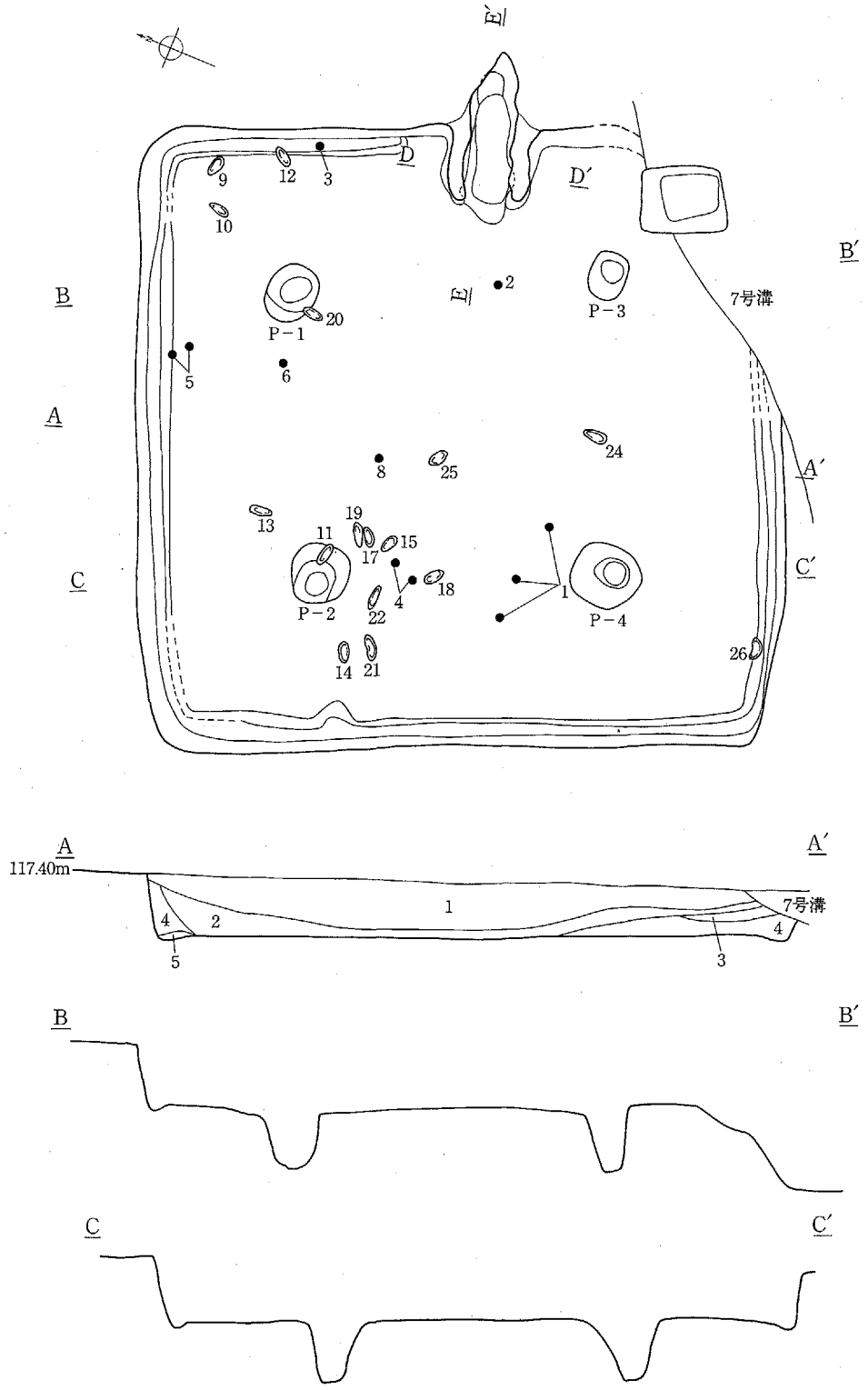
1層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量。FP微量、炭化粒微量、しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量、炭化粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
8層：暗褐色土　ローム粒少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
9層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。



1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～15㎜）少量、FA少量、焼土粒微量、粘土微量。しまりやや強く、粘性ややある。
2層：褐色土　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土やや多量。しまりやや強く、粘性あまりない。
3層：暗灰褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量、粘土微量。しまりやや弱い。
4層：暗褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量、粘土微量、炭微量。しまりやや強く、粘性ややある。
6層：黄褐色土　ロームブロック。しまりやや強い。
7層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）微量、FA少量。しまりやや強く、粘性ややある。
8層：明褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
9層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、炭化粒微量、焼土ブロックやや多量。しまりやや強く、粘性ややある。
10層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、炭化粒微量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。
11層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
12層：明褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
13層：暗褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
14層：明褐色土　ローム粒やや多量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
15層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量。しまりやや弱く、粘性ややある。

1m（カマド図）
0　2m

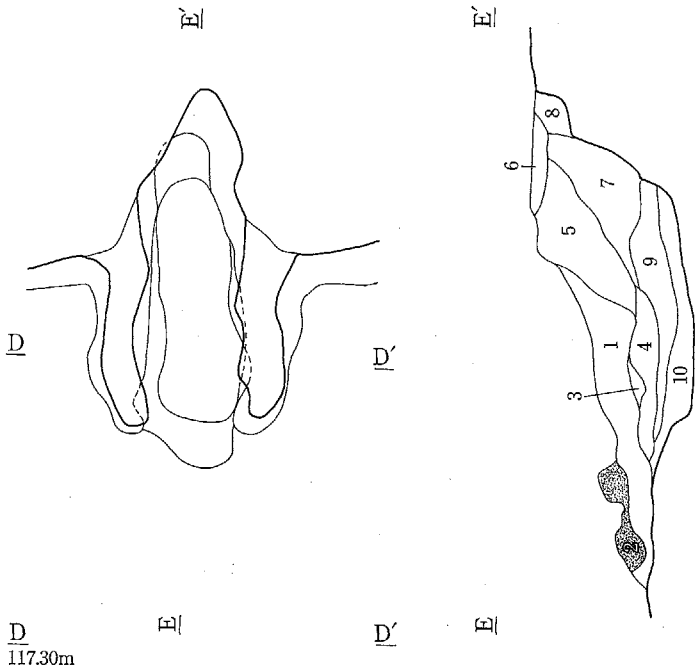
Fig.60　H－21号住居跡



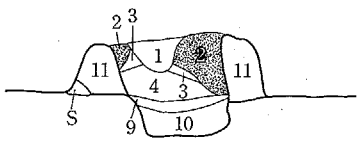
1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）微量、FAやや多量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～30㎜）微量。FA少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：黄褐色土　ローム。壁の崩落土と思われる。しまり強い。

0　2m

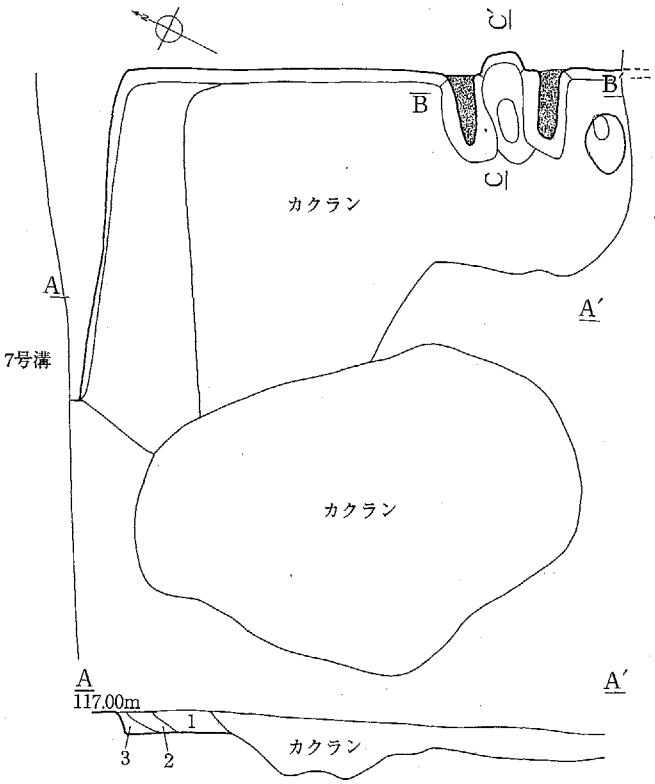
Fig.61　H－22号住居跡①

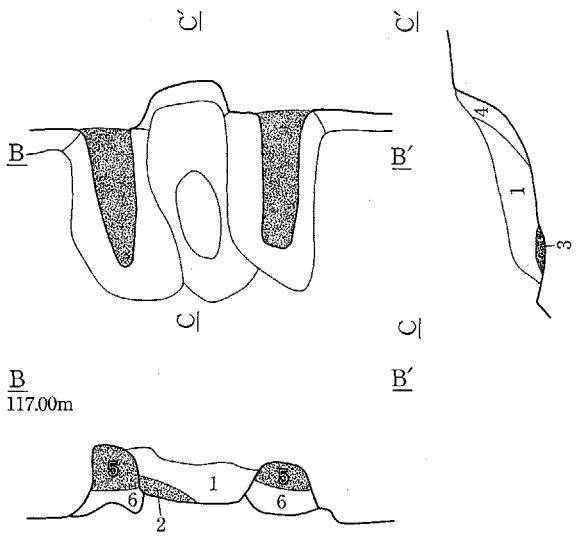


1層：褐灰色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：褐灰色土　粘土層。ロームブロック微量。しまり強い。
3層：橙褐色土　焼土多量。しまり強い。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、焼土少量。しまり弱く、粘性あまりない。
5層：灰褐色土　焼土少量、粘土少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：黄褐色土　ローム粒・ブロックやや多量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
7層：灰褐色土　ロームブロック少量、焼土少量、粘土微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
8層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。
9層：暗褐色土　炭化粒微量、焼土やや多量。しまり強く、粘性あまりない。
10層：褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～40㎜）やや多量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
11層：灰褐色土　ロームブロック（φ～20㎜）少量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。



H-22号住居跡カマド





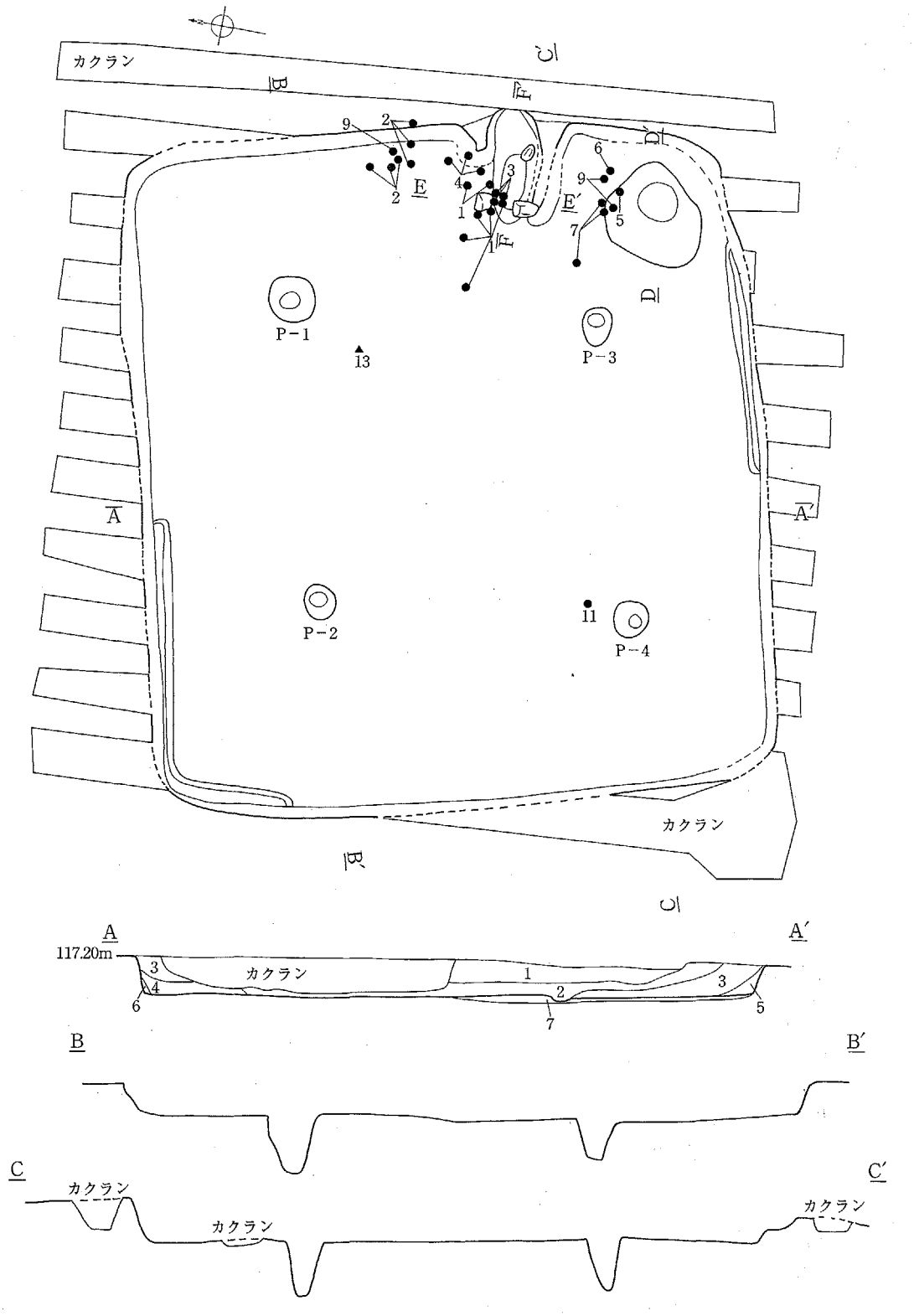
1層：灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土少量、粘土少量、灰微量。しまり強く、粘性がある。
2層：灰褐色土　粘土層。焼土粒微量。しまり強い。
3層：赤褐色土　焼土層。ローム粒微量。しまり強い。
4層：明黄褐色土　ローム粒多量、焼土粒微量。しまり強く、粘性強い。
5層：褐灰色土　粘土層。ロームブロック微量、焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり非常に強く硬い。

H-23号住居跡

1層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、炭化材やや多量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。

1m（カマド図）
0　2m

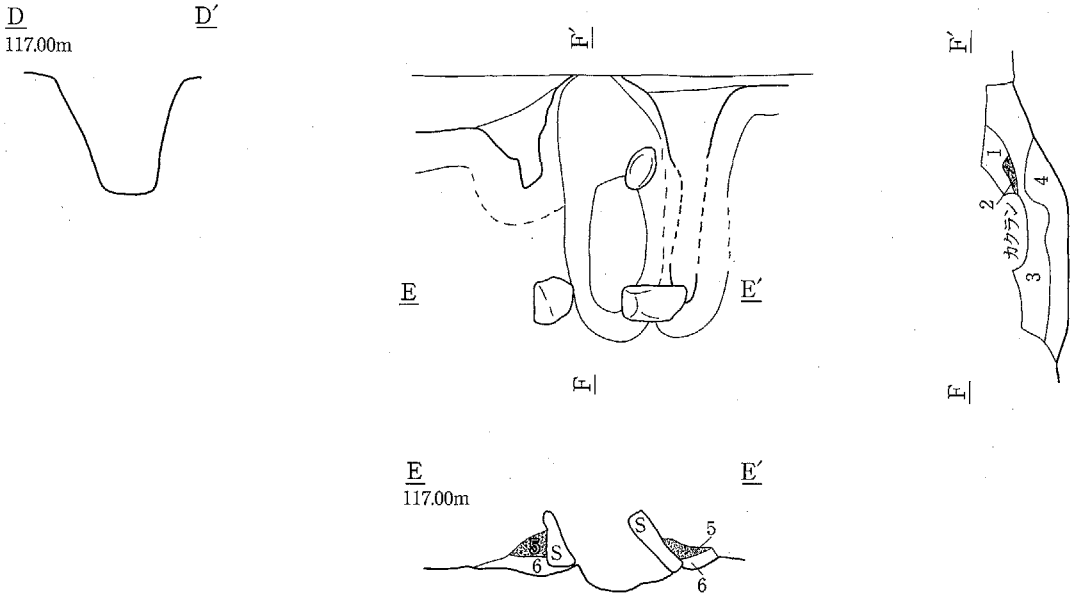
Fig.62　H－22号住居跡②・H－23号住居跡



1層：暗褐色土　ローム粒微量、FAやや多量、黒褐色土ブロック微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗灰褐色土　ローム粒やや多量、FA微量、炭化粒微量、黒褐色土ブロック少量。しまり強く、粘性がある。
4層：明褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
6層：黄褐色土　ローム。壁の崩落土。しまりあまりない。
7層：黄褐色土　貼り床。ローム粒多量、FA微量。しまり強く硬い。粘性がある。

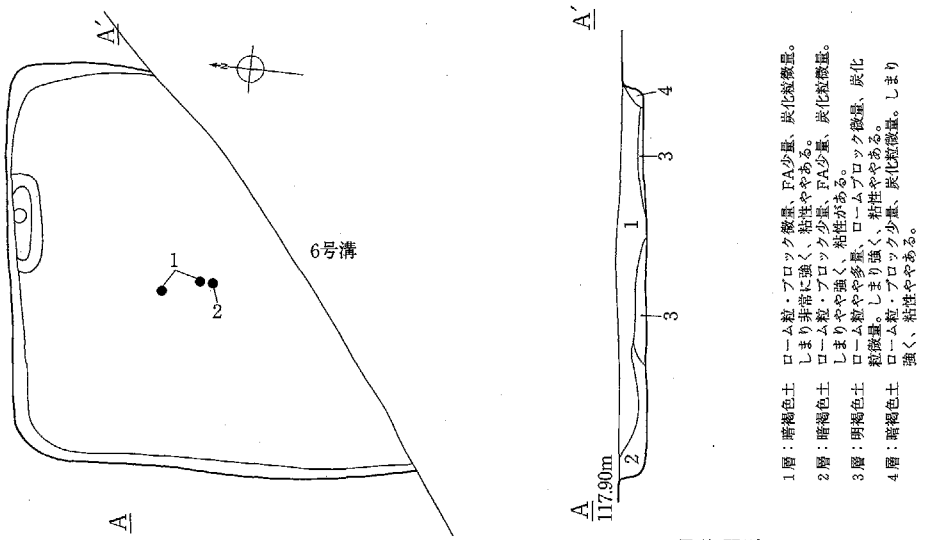
0　2m

Fig.63　H－24号住居跡①



1層：赤褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土やや多量。しまり強い。
2層：赤褐色土　焼土層。しまり強い。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～25㎜）微量、炭化粒微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：灰褐色土　粘土層。FA微量、焼土粒微量。しまり強く硬い。
6層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～20㎜）微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

H-24号住居跡カマド

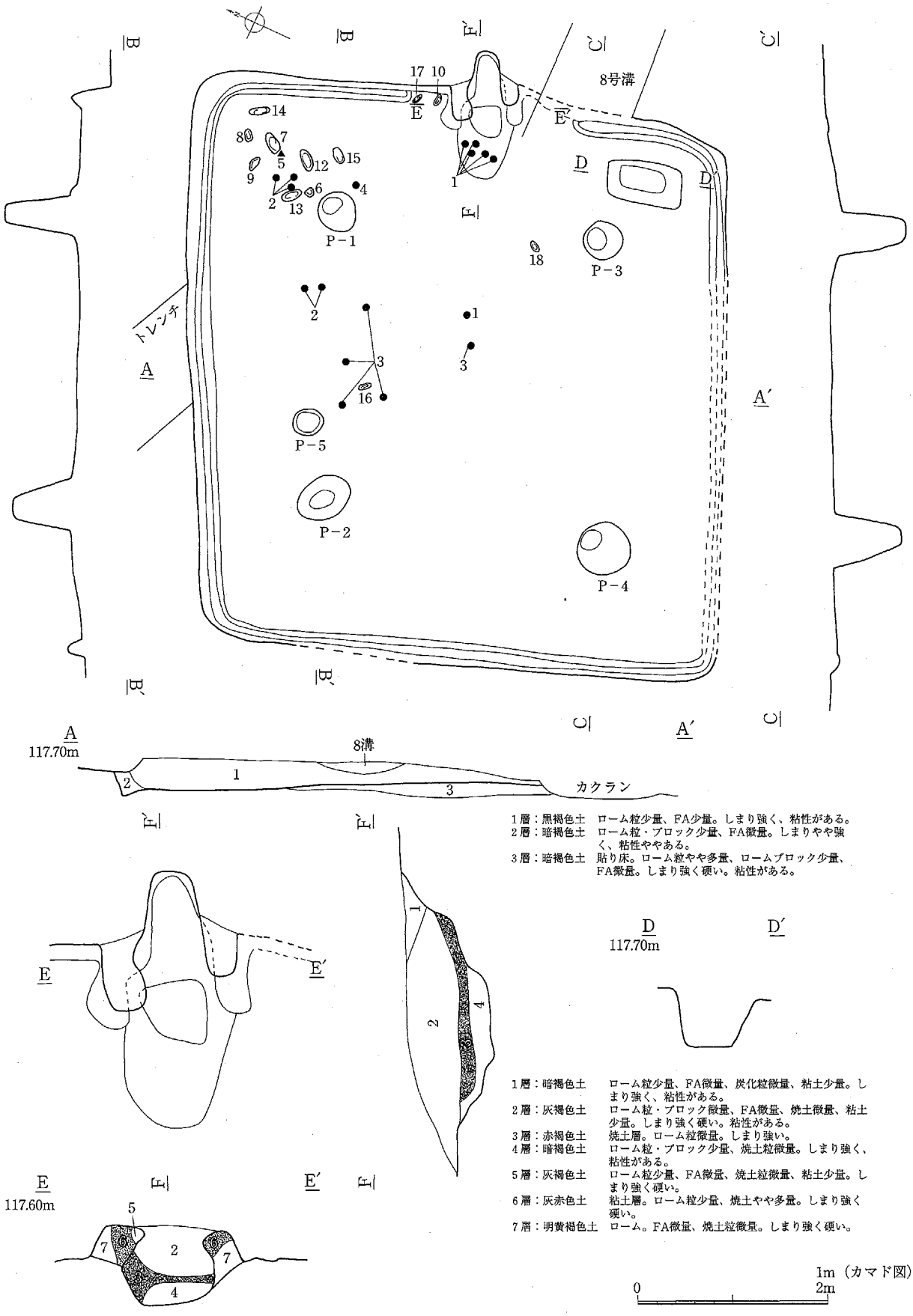


1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、炭化粒微量。しまり非常に強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA少量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
3層：明褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。

H-26号住居跡

1m（カマド図）
0
2m

Fig.64　H－24号住居跡②・H－26号住居跡



1層：黒褐色土　ローム粒少量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　貼り床。ローム粒やや多量、ロームブロック少量、FA微量。しまり強く硬い。粘性がある。

1層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、炭化粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：灰褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土微量、粘土少量。しまり強く硬い。粘性がある。
3層：赤褐色土　焼土層。ローム粒微量。しまり強い。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
5層：灰褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く硬い。
6層：灰赤色土　粘土層。ローム粒少量、焼土やや多量。しまり強く硬い。
7層：明黄褐色土　ローム。FA微量、焼土粒微量。しまり強く硬い。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.65　H－25号住居跡

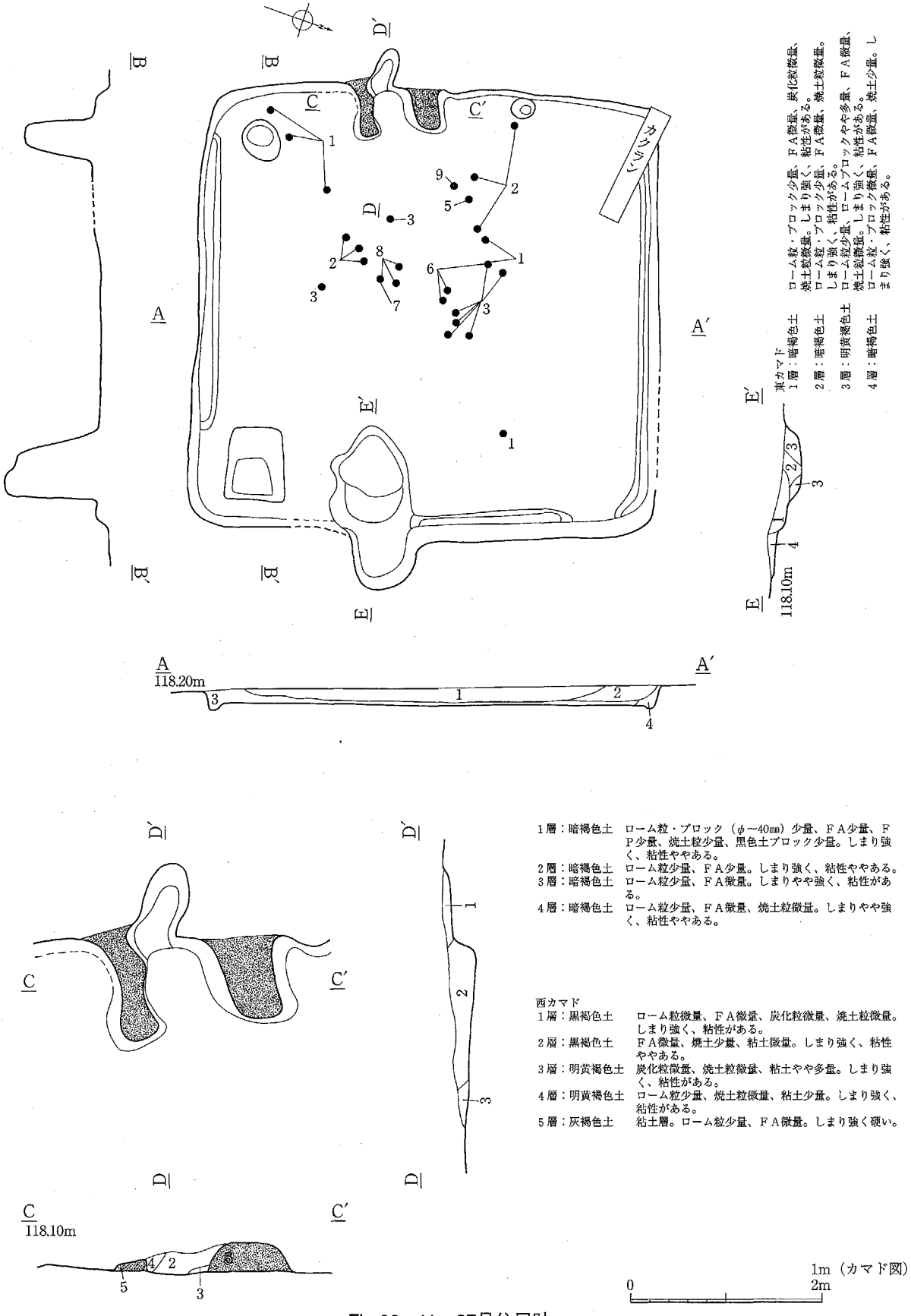
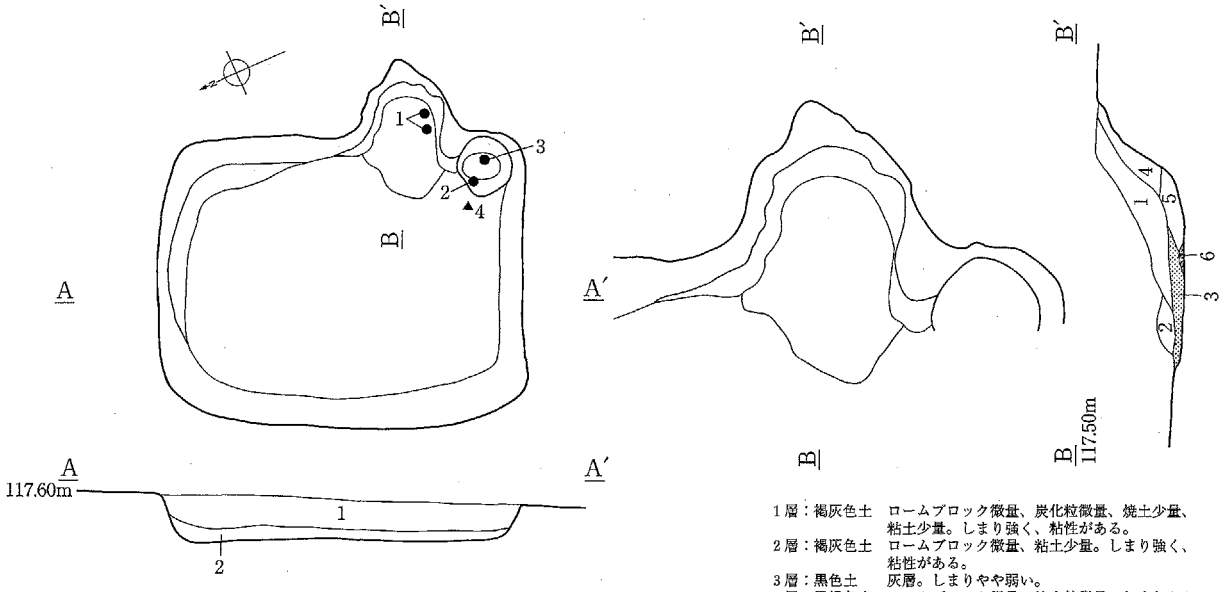


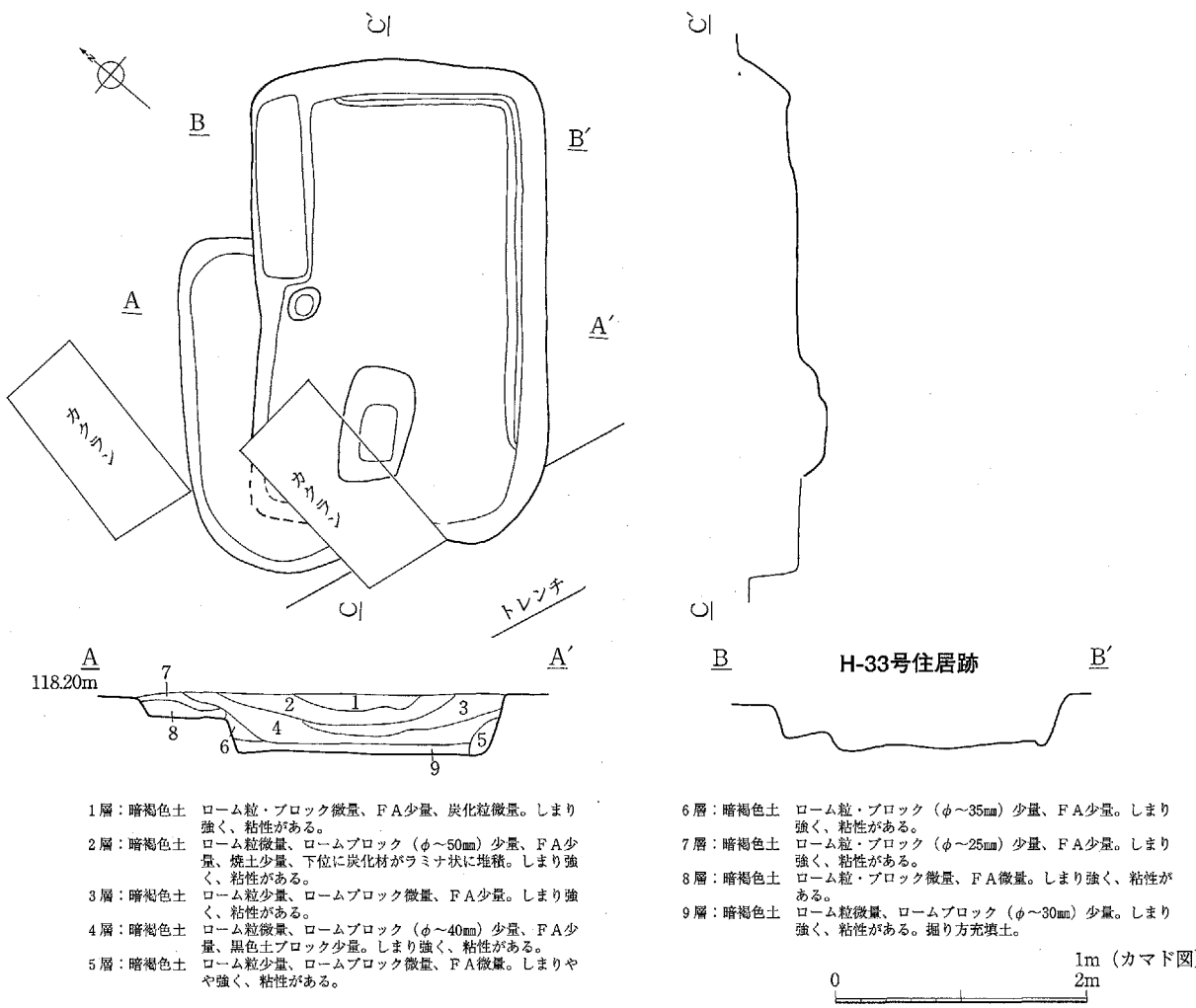
Fig.66　Ｈ－27号住居跡



1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、ＦＡ微量。しまりやや強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒少量、ＦＡ微量。しまり強く、粘性がある。

1層：褐灰色土　ロームブロック微量、炭化粒微量、焼土少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：褐灰色土　ロームブロック微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒色土　灰層。しまりやや弱い。
4層：黒褐色土　ロームブロック微量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：橙褐色土　焼土層。しまり強い。

H-28号住居跡

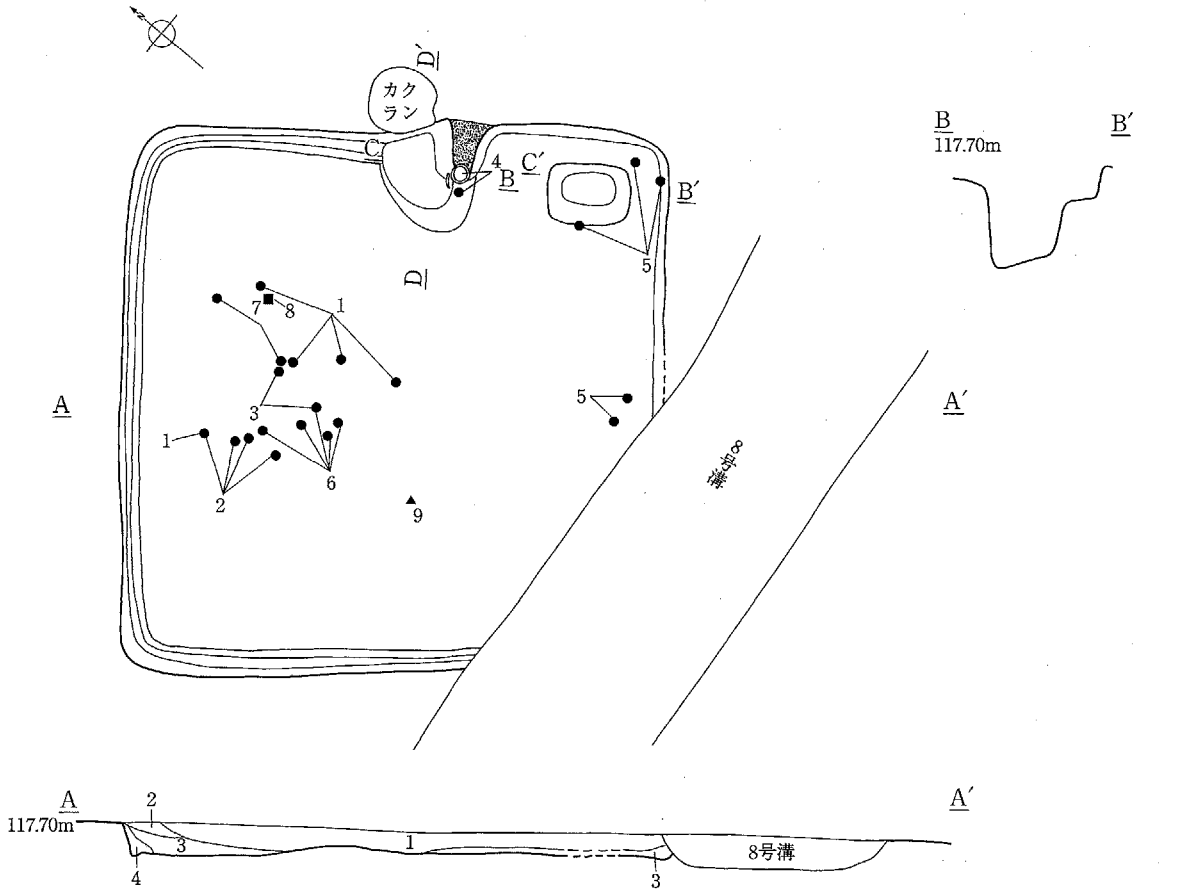


1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、ＦＡ少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～50㎜）少量、ＦＡ少量、焼土少量、下位に炭化材がラミナ状に堆積。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、ＦＡ少量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～40㎜）少量、ＦＡ少量、黒色土ブロック少量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、ＦＡ微量。しまりやや強く、粘性がある。

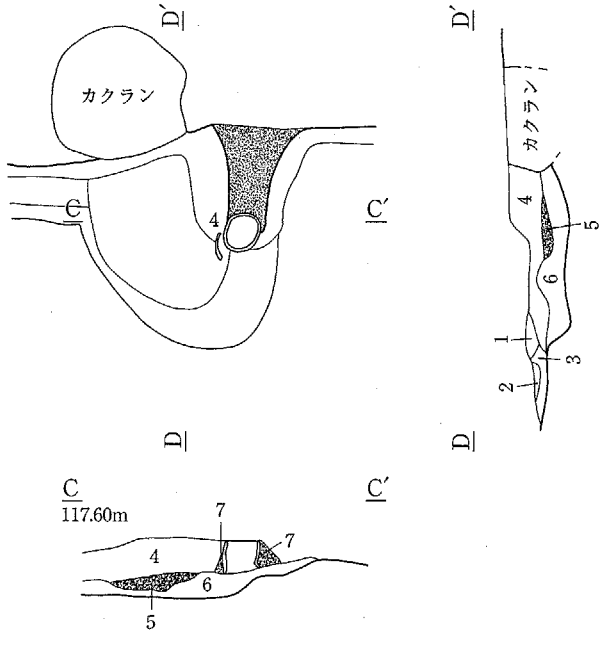
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～35㎜）少量、ＦＡ少量。しまり強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～25㎜）少量、ＦＡ少量。しまり強く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、ＦＡ微量。しまり強く、粘性がある。
9層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～30㎜）少量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.67　Ｈ－28号住居跡・Ｈ－33号住居跡



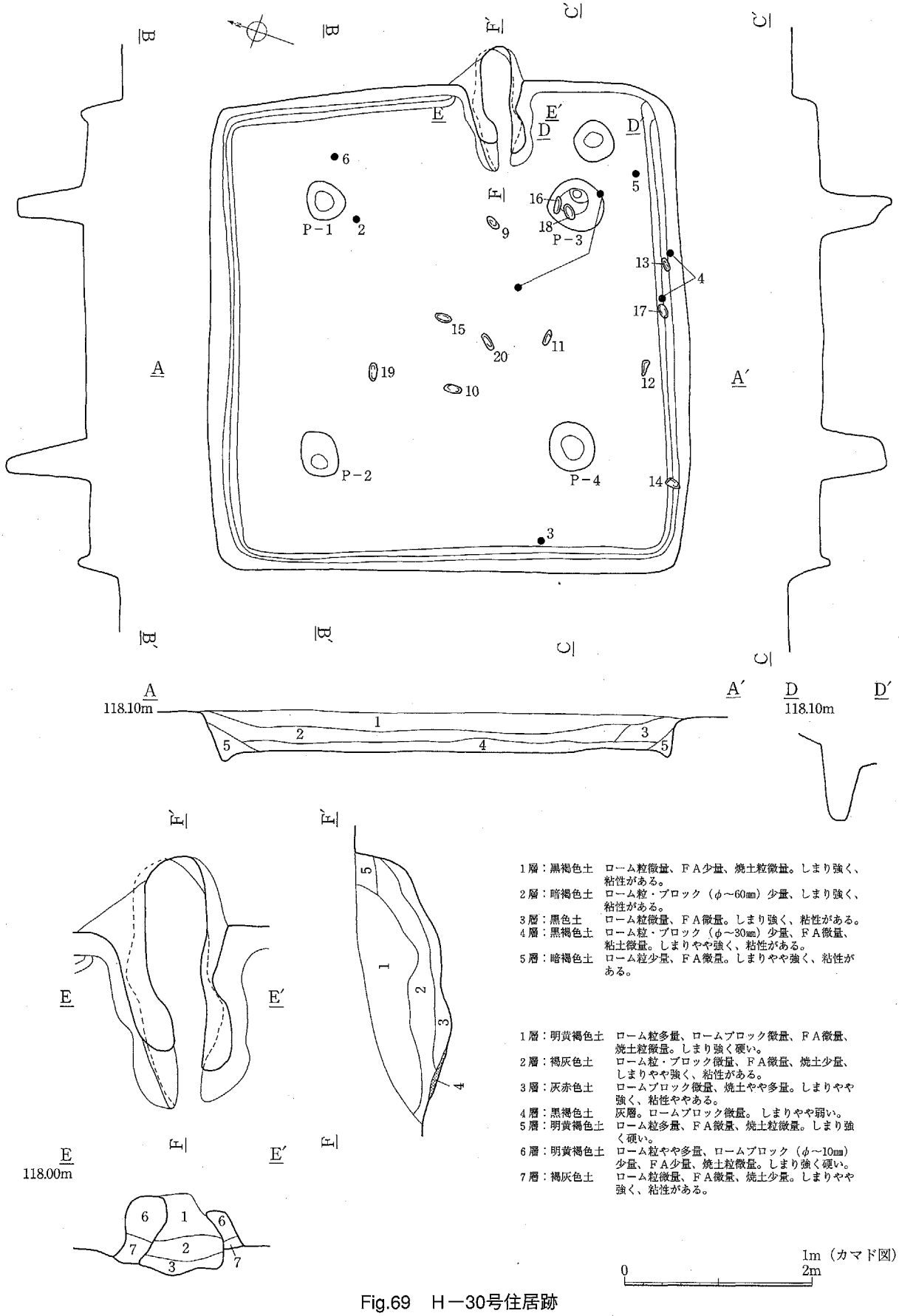
1層：黒褐色土　ローム粒微量、ＦＡ少量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ＦＡ少量。しまりやや強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～50㎜）少量、ＦＡ微量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：褐色土　ローム粒少量、ＦＡ微量。しまりやや強く、粘性がある。



1層：明黄褐色土　ローム。しまり強く硬い。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、ＦＡ微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性あまりない。
3層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ロームブロック微量、ＦＡ微量、炭化粒微量、焼土少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
5層：赤褐色土　焼土層。しまりやや弱い。
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、ＦＡ微量、黒色土ブロック少量。しまりやや強く、粘性ややある。
7層：褐灰色土　粘土層。ロームブロック微量、ＦＡ微量、焼土粒微量。しまり強く硬い。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.68　Ｈ－29号住居跡

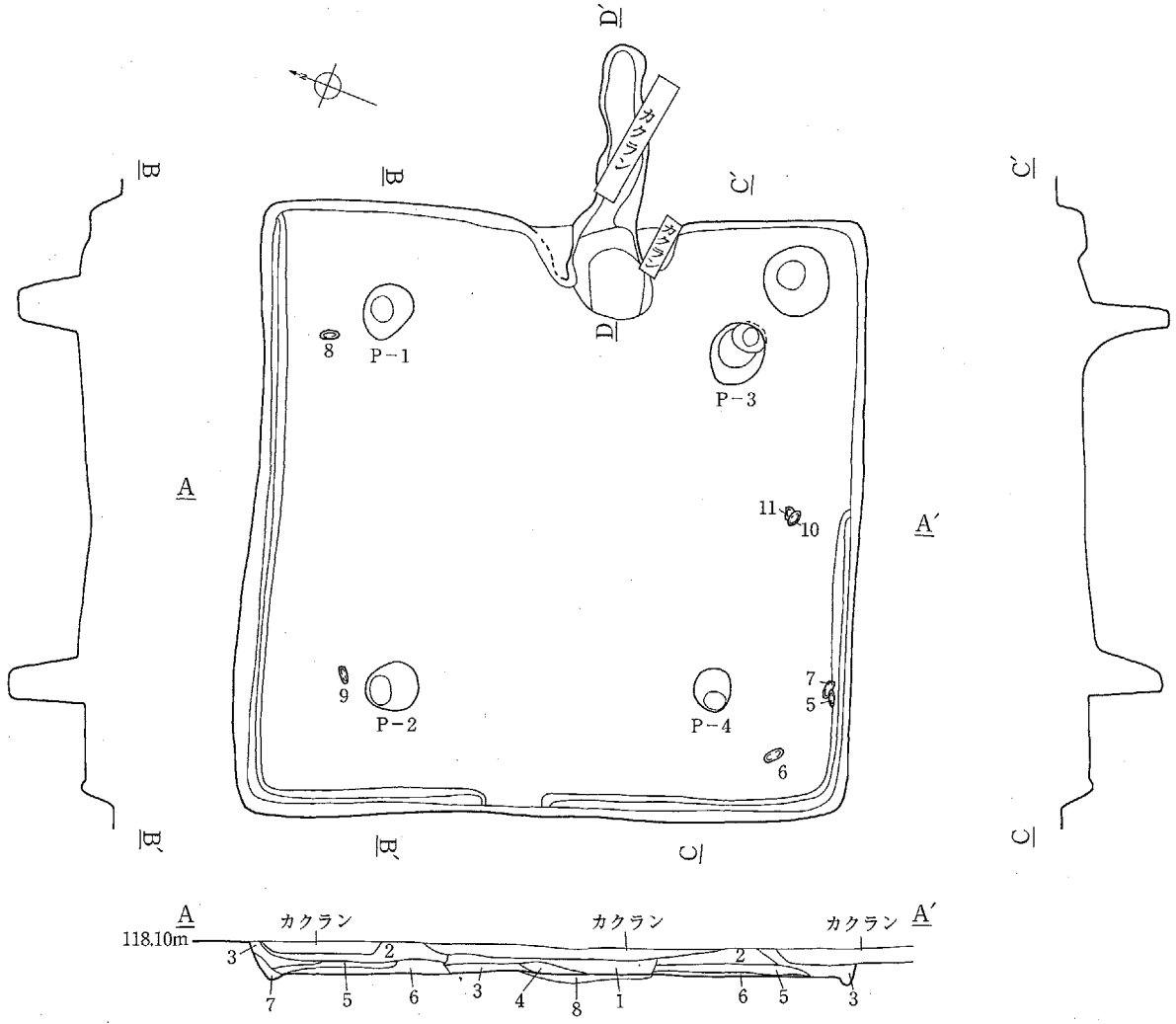


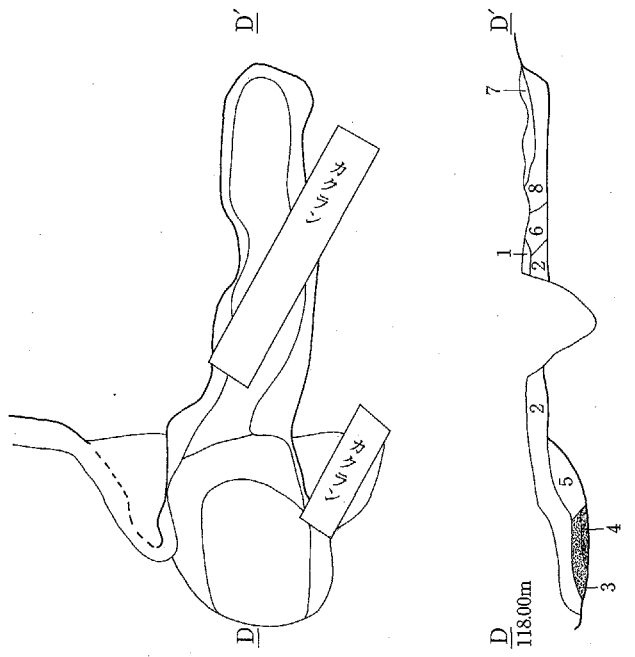
1層：黒褐色土　ローム粒微量、ＦＡ少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～60㎜）少量、しまり強く、粘性がある。
3層：黒色土　ローム粒微量、ＦＡ微量。しまり強く、粘性がある。
4層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、ＦＡ微量、粘土微量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ＦＡ微量。しまりやや強く、粘性がある。

1層：明黄褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量、ＦＡ微量、焼土粒微量。しまり強く硬い。
2層：褐灰色土　ローム粒・ブロック微量、ＦＡ微量、焼土少量、しまりやや強く、粘性がある。
3層：灰赤色土　ロームブロック微量、焼土やや多量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：黒褐色土　灰層。ロームブロック微量。しまりやや弱い。
5層：明黄褐色土　ローム粒多量、ＦＡ微量、焼土粒微量。しまり強く硬い。
6層：明黄褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～10㎜）少量、ＦＡ少量、焼土粒微量。しまり強く硬い。
7層：褐灰色土　ローム粒微量、ＦＡ微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.69　Ｈ－30号住居跡



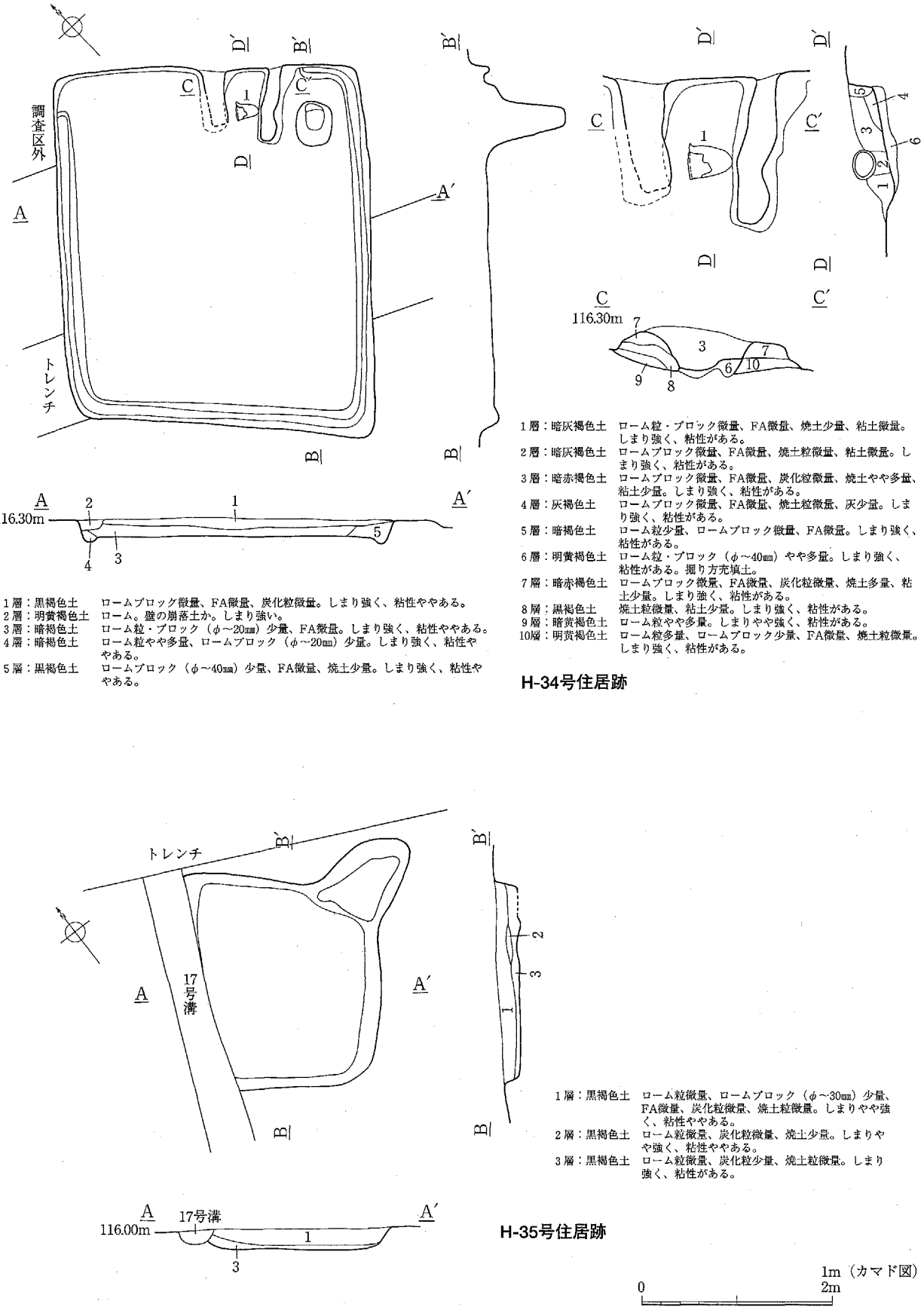


1層：褐灰色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、ＦＡ微量、炭化粒微量、焼土ブロック微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～70㎜）少量、ＦＡ少量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒微量、ＦＡ微量、炭化材・粒やや多量。しまり強く、粘性ややある。
4層：褐灰色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、ＦＡ微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、ＦＡ微量。しまり強く、粘性ややある。
6層：黒褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、ＦＡ少量。しまり強く、粘性ややある。
7層：暗褐色土　ローム粒少量、ＦＡ微量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
8層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロックやや多量、ＦＡ微量。しまり強く、粘性ややある。

1層：明黄褐色土　ローム粒やや多量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、ＦＡ微量、焼土粒微量、粘土微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：褐灰色土　灰層。焼土少量。しまりやや弱い。
4層：赤褐色土　焼土層。しまりやや弱い。
5層：黒褐色土　ローム粒微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ＦＡ微量、焼土多量。しまり強い。
7層：暗褐色土　ローム粒微量、ＦＡ微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
8層：暗褐色土　ローム粒微量、ＦＡ微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.70　Ｈ－31号住居跡



1層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：明黄褐色土　ローム。壁の崩落土か。しまり強い。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量。しまり強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～20㎜）少量。しまり強く、粘性ややある。
5層：黒褐色土　ロームブロック（φ～40㎜）少量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。

1層：暗灰褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土少量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗赤褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土やや多量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
4層：灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量、灰少量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
6層：明黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）やや多量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。
7層：暗赤褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土多量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
8層：黒褐色土　焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
9層：暗黄褐色土　ローム粒やや多量。しまりやや強く、粘性がある。
10層：明黄褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

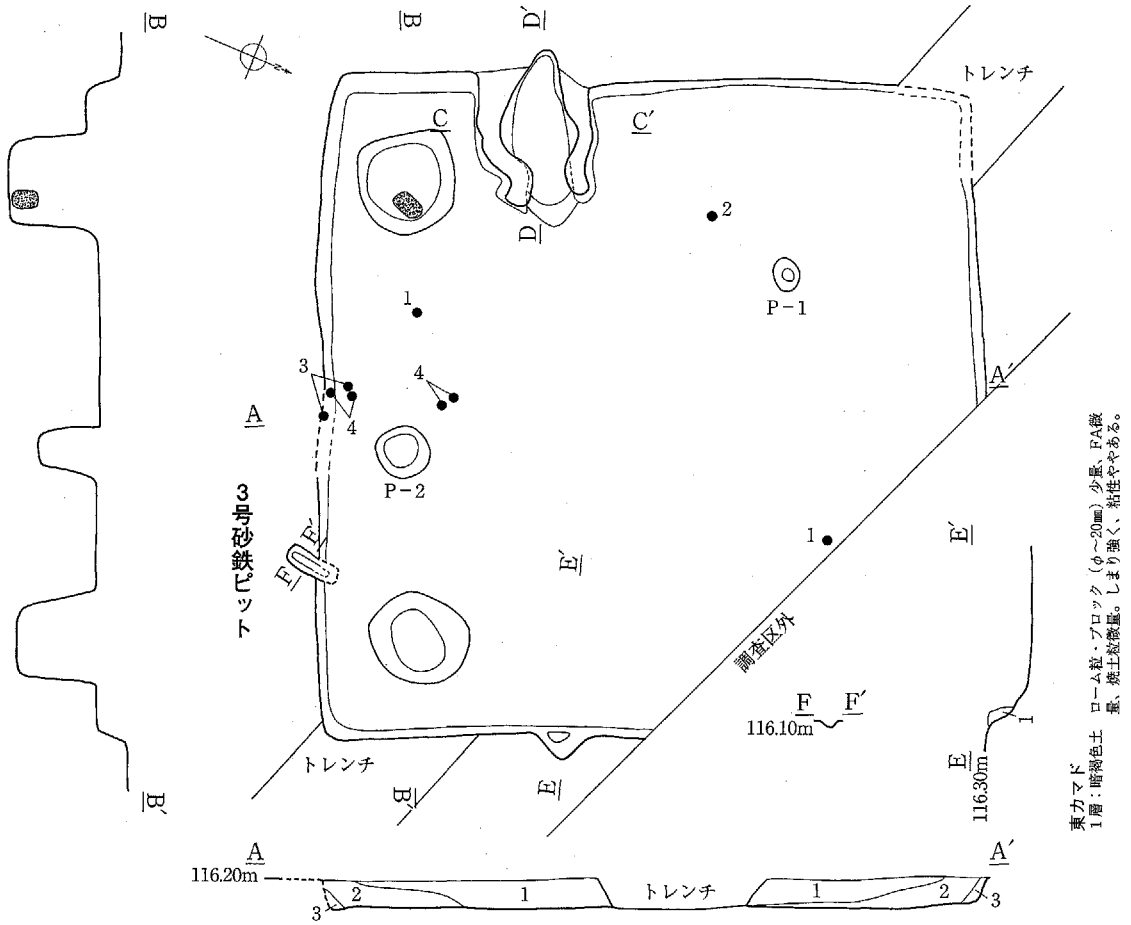
H-34号住居跡

1層：黒褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒微量、炭化粒微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ローム粒微量、炭化粒少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

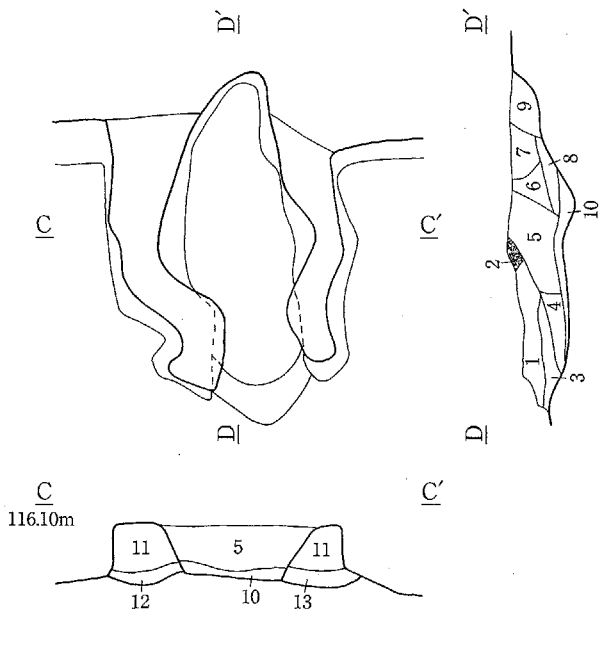
H-35号住居跡

1m（カマド図）
0　2m

Fig.71　H－34号住居跡・H－35号住居跡



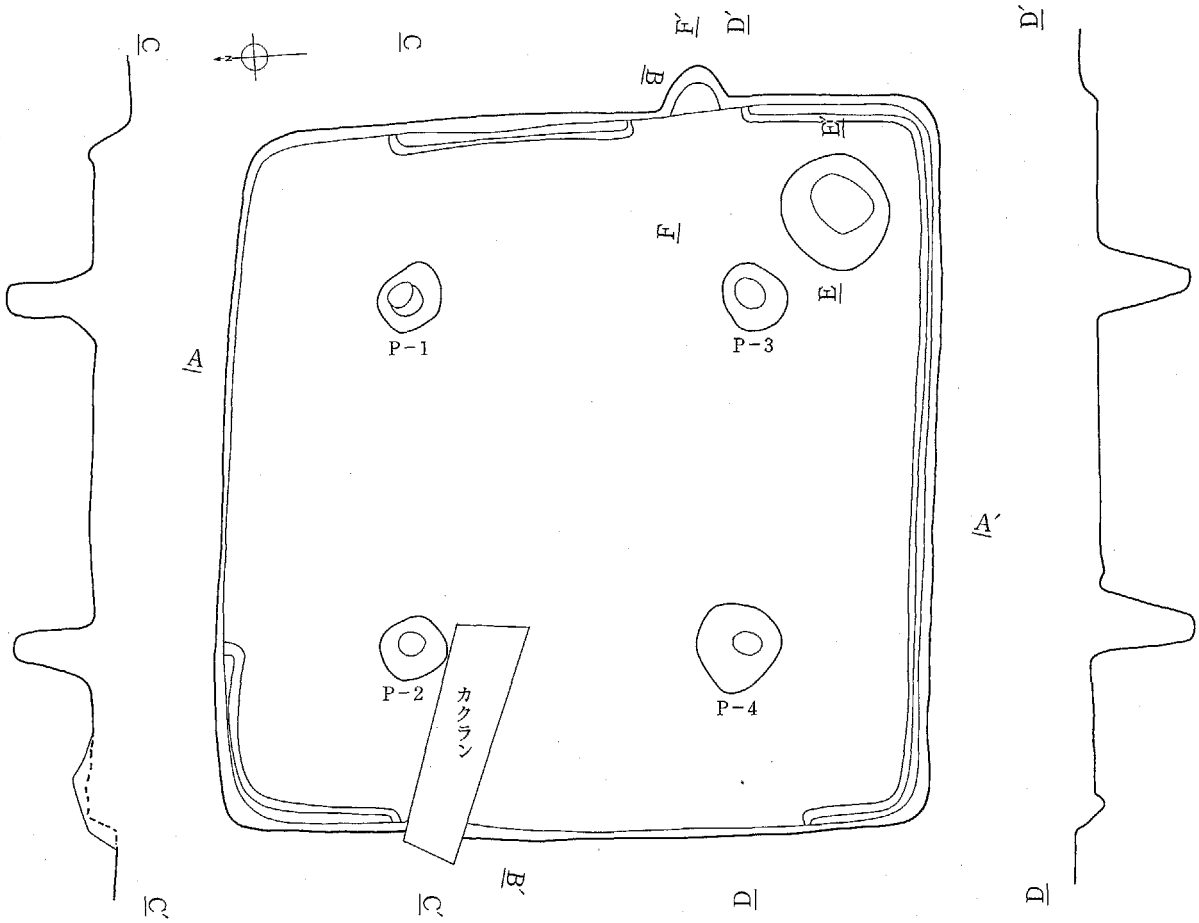
1層：褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ローム ブロック微量、FA微量、焼土少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。

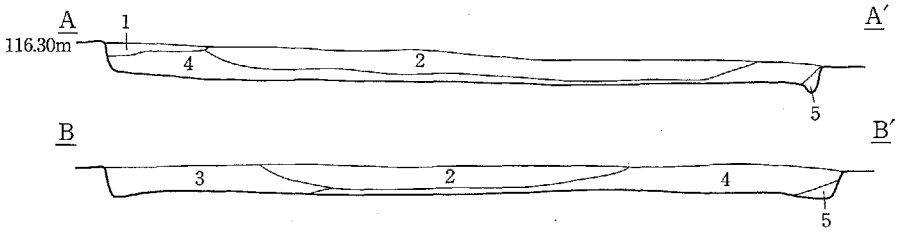


西カマド
1層：暗赤灰色土　ローム粒微量、FA微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
2層：橙色土　焼土層。しまりやや強い。
3層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　FA微量、焼土やや多量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
7層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
8層：黒褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
9層：暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
10層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
11層：明黄褐色土　ローム。しまり非常に強く硬い。
12層：黒色土　ローム粒少量、FA微量。しまり非常に強く硬い。
13層：褐色土　ローム粒少量、FA微量。しまり非常に強く硬い。

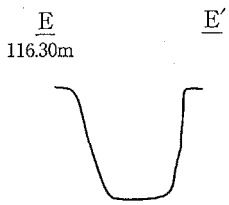
1m（カマド図）
0　2m

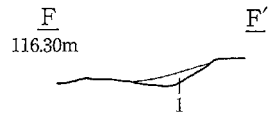
Fig.72　H－36号住居跡・3号砂鉄ピット





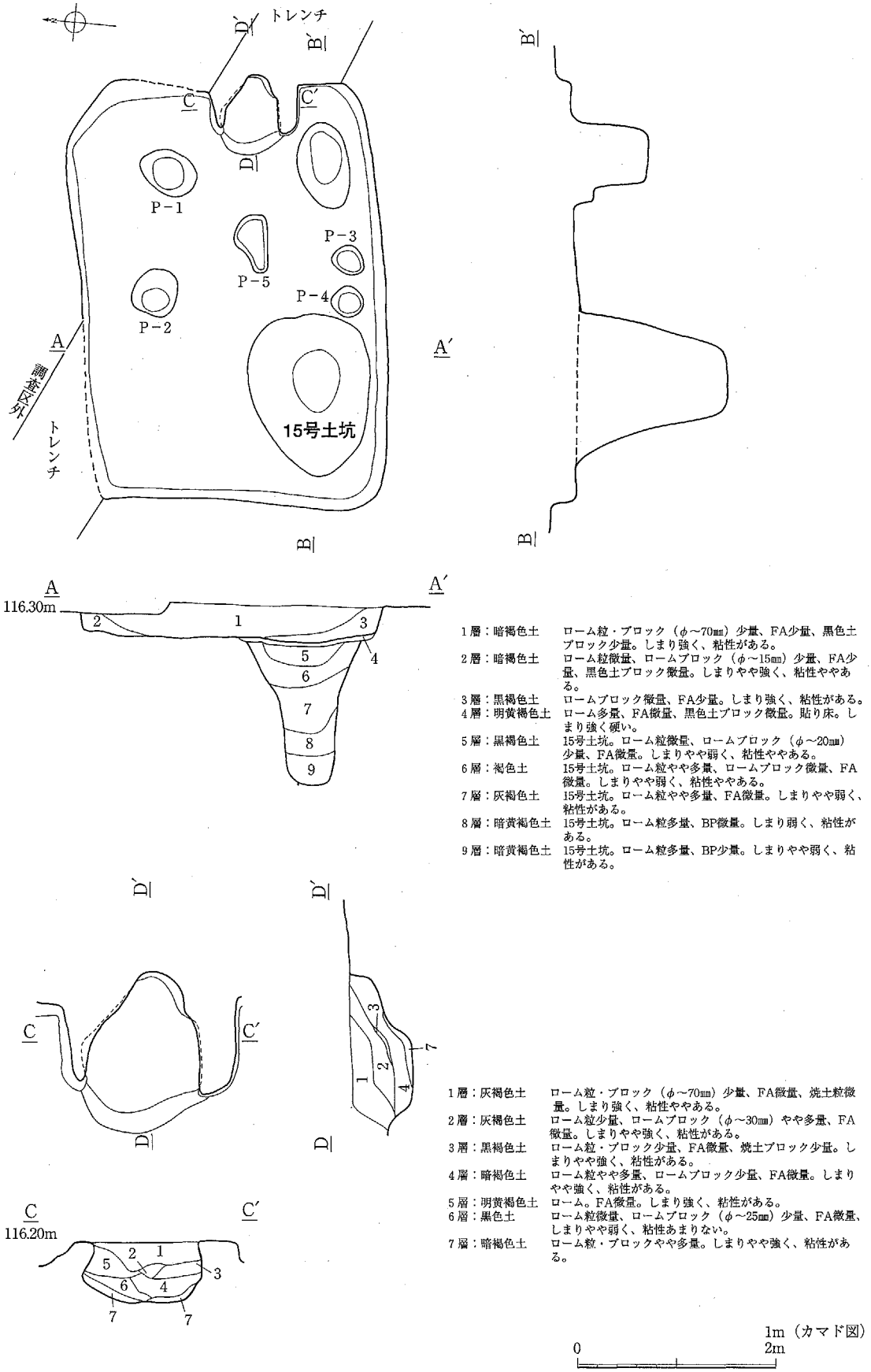
1層：明黄褐色土　ローム。FA微量。壁の崩落。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA少量、焼土ブロック微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：暗褐色土





1層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、炭化粒微量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。

Fig.73　H－37号住居跡



1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～70㎜）少量、FA少量、黒色土ブロック少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～15㎜）少量、FA少量、黒色土ブロック微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
4層：明黄褐色土　ローム多量、FA微量、黒色土ブロック微量。貼り床。しまり強く硬い。
5層：黒褐色土　15号土坑。ローム粒微量、ロームブロック（φ～20㎜）少量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：褐色土　15号土坑。ローム粒やや多量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
7層：灰褐色土　15号土坑。ローム粒やや多量、FA微量。しまりやや弱く、粘性がある。
8層：暗黄褐色土　15号土坑。ローム粒多量、BP微量。しまり弱く、粘性がある。
9層：暗黄褐色土　15号土坑。ローム粒多量、BP少量。しまりやや弱く、粘性がある。

1層：灰褐色土　ローム粒・ブロック（φ～70㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：灰褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～30㎜）やや多量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量、焼土ブロック少量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック少量、FA微量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：明黄褐色土　ローム。FA微量。しまり強く、粘性がある。
6層：黒色土　ローム粒微量、ロームブロック（φ～25㎜）少量、FA微量、しまりやや弱く、粘性あまりない。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロックやや多量。しまりやや強く、粘性がある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.74　H－38号住居跡・15号土坑

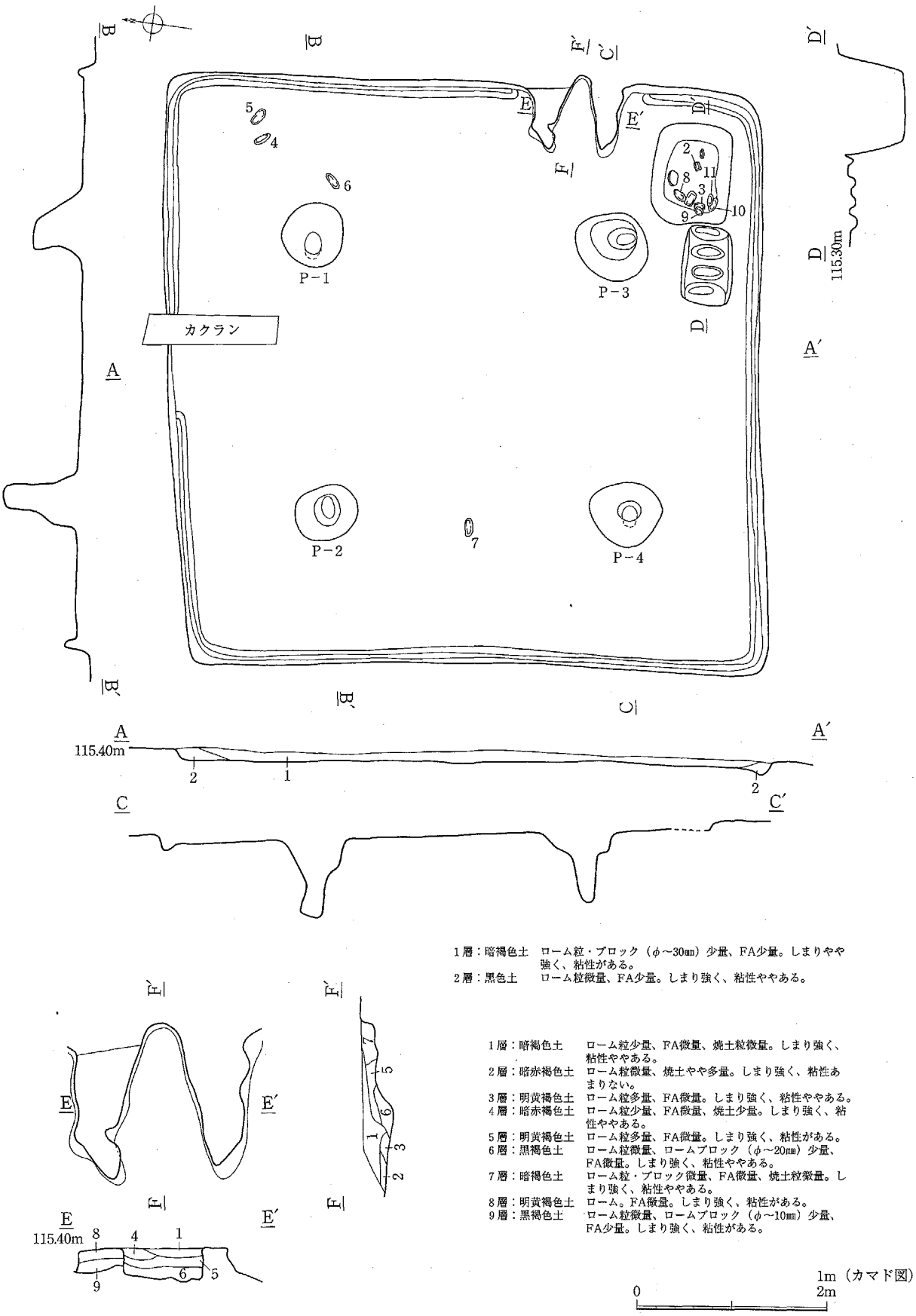
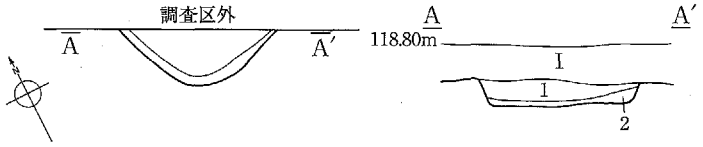
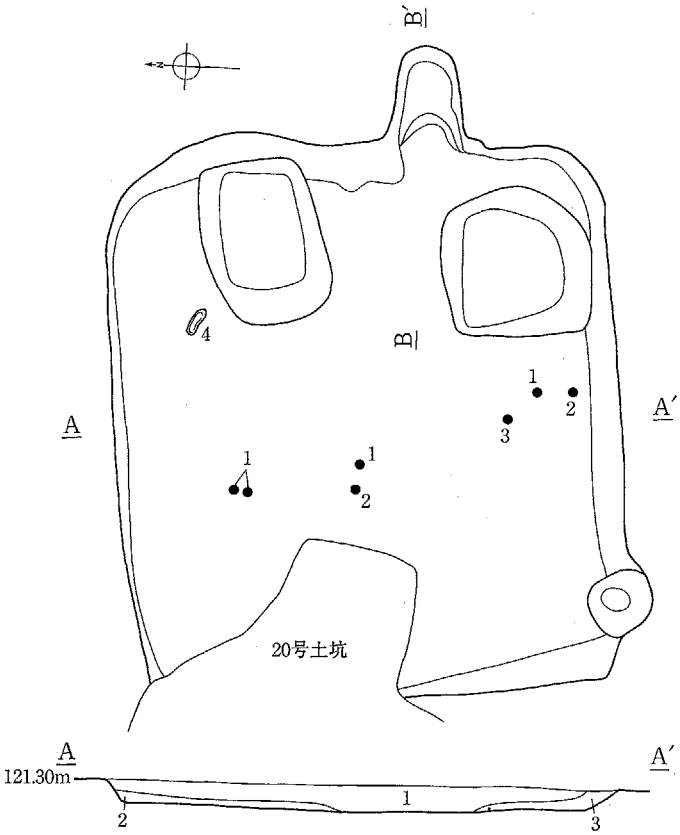


Fig.75　H－39号住居跡



I：表土
1層：暗褐色土　ローム粒少量、FA少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性ややある。

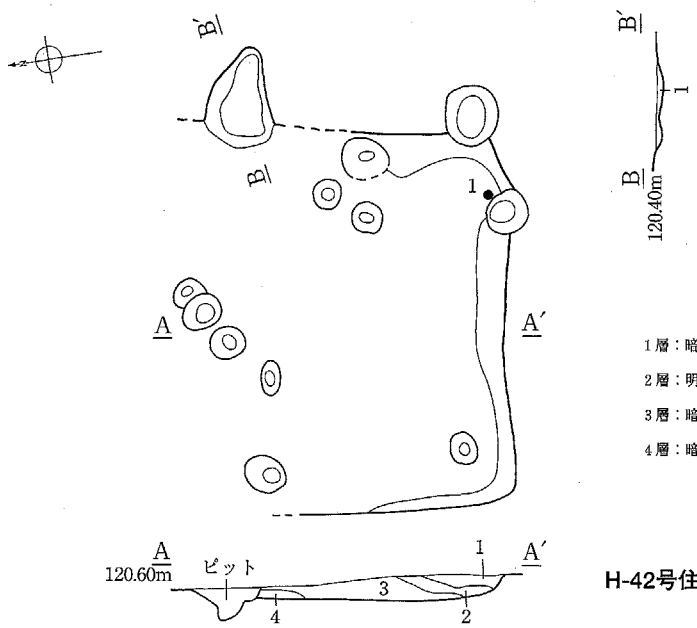
H-40号住居跡



1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：明黄褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性強い。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
4層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土微量。
5層：明黄褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

1層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、焼土少量。しまり強く、粘性ややある。

H-41号住居跡



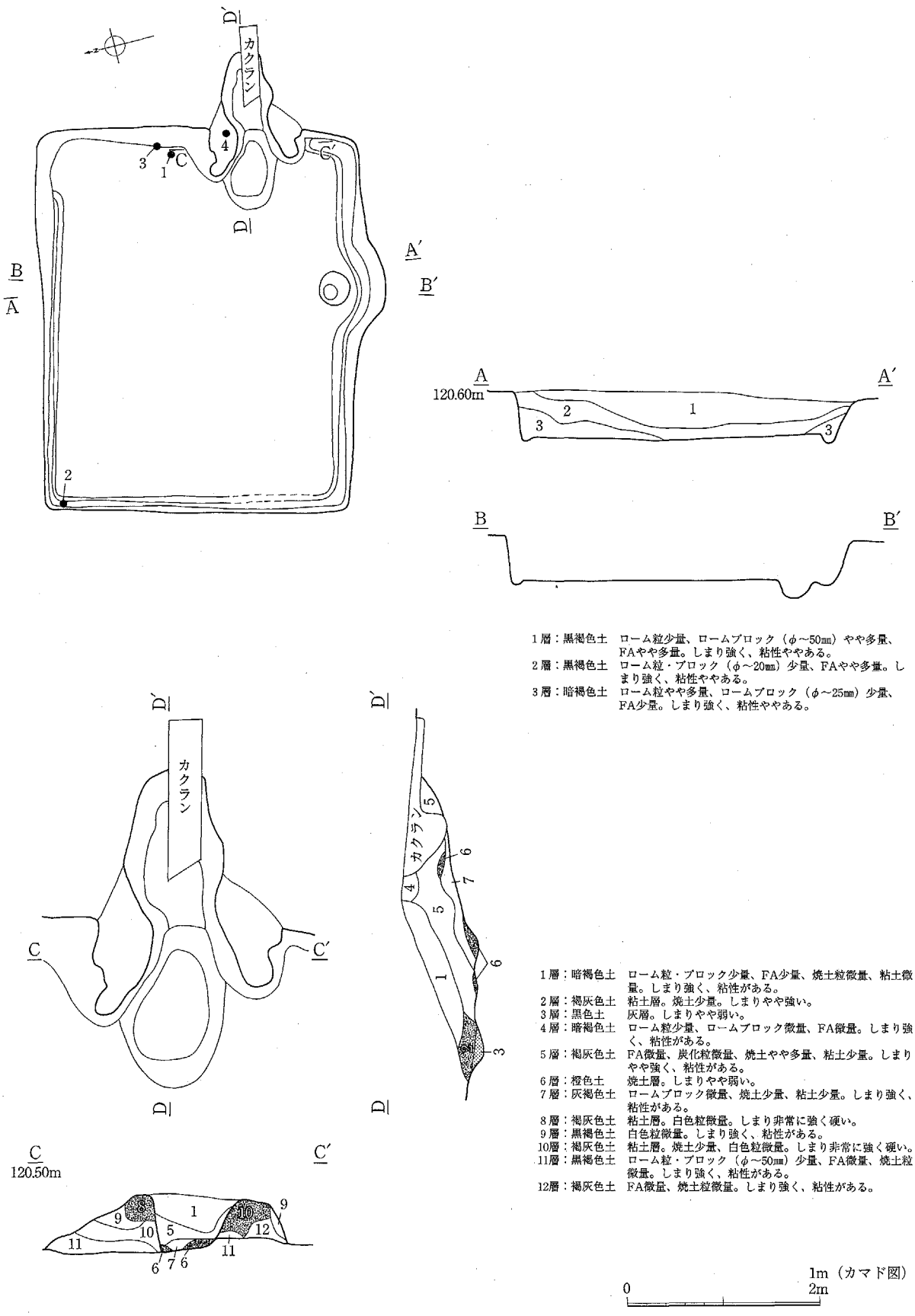
1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～10㎜）少量、炭化粒微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性ややある。

1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：明黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～50㎜）やや多量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）少量。FA微量。しまり強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～50㎜）やや多量、FA微量。しまり強く、粘性がある。

H-42号住居跡

0　2m

Fig.76　H－40号住居跡・H－41号住居跡・H－42号住居跡

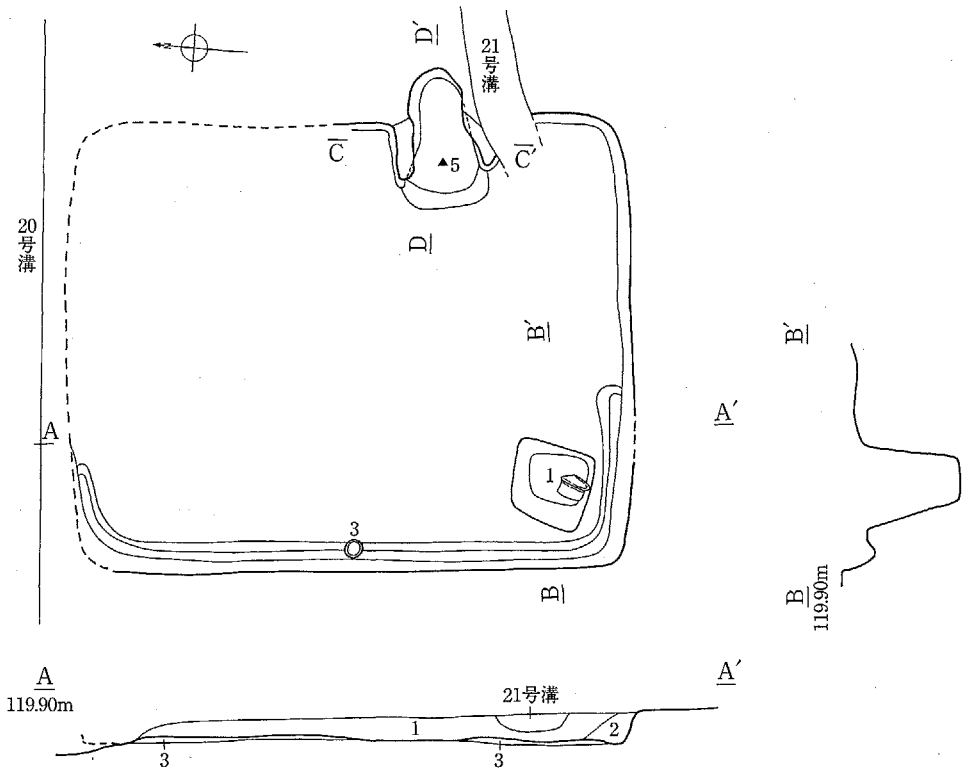


1層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～50㎜）やや多量、FAやや多量。しまり強く、粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FAやや多量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～25㎜）少量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。

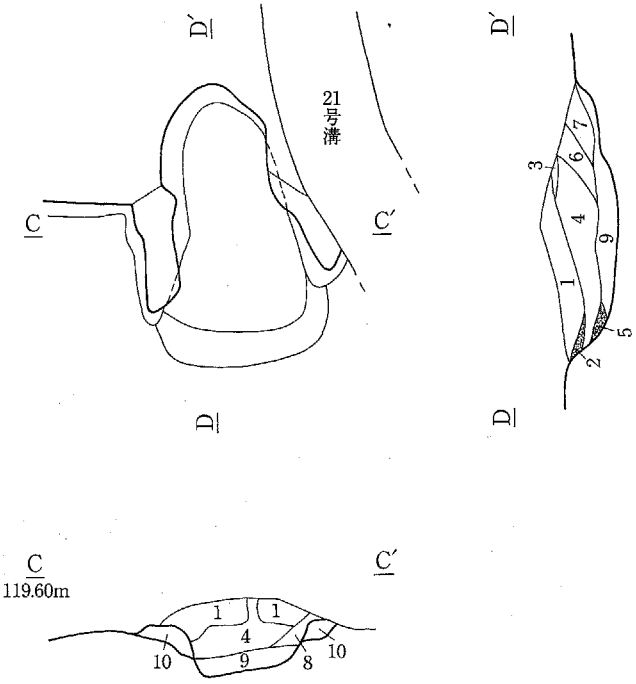
1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA少量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
2層：褐灰色土　粘土層。焼土少量。しまりやや強い。
3層：黒色土　灰層。しまりやや弱い。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
5層：褐灰色土　FA微量、炭化粒微量、焼土やや多量、粘土少量。しまりやや強く、粘性がある。
6層：橙色土　焼土層。しまりやや弱い。
7層：灰褐色土　ロームブロック微量、焼土少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
8層：褐灰色土　粘土層。白色粒微量。しまり非常に強く硬い。
9層：黒褐色土　白色粒微量。しまり強く、粘性がある。
10層：褐灰色土　粘土層。焼土少量、白色粒微量。しまり非常に強く硬い。
11層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～50㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
12層：褐灰色土　FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.77　H－43号住居跡



1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロックやや多量、焼土微量。しまり強く硬い。貼り床。



1層：灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土やや多量。しまり強い。
2層：黒色土　灰層。しまりやや弱い。
3層：灰褐色土　焼土少量、粘土やや多量。しまり強い。
4層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
5層：黒色土　灰層。焼土粒微量。しまりやや弱い。
6層：暗褐色土　FA微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
7層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
8層：明黄褐色土　ローム粒多量。しまりやや強く、粘性がある。
9層：黒褐色土　ロームブロックやや多量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
10層：灰褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土やや多量。しまり強い。

Fig.78　H－44号住居跡

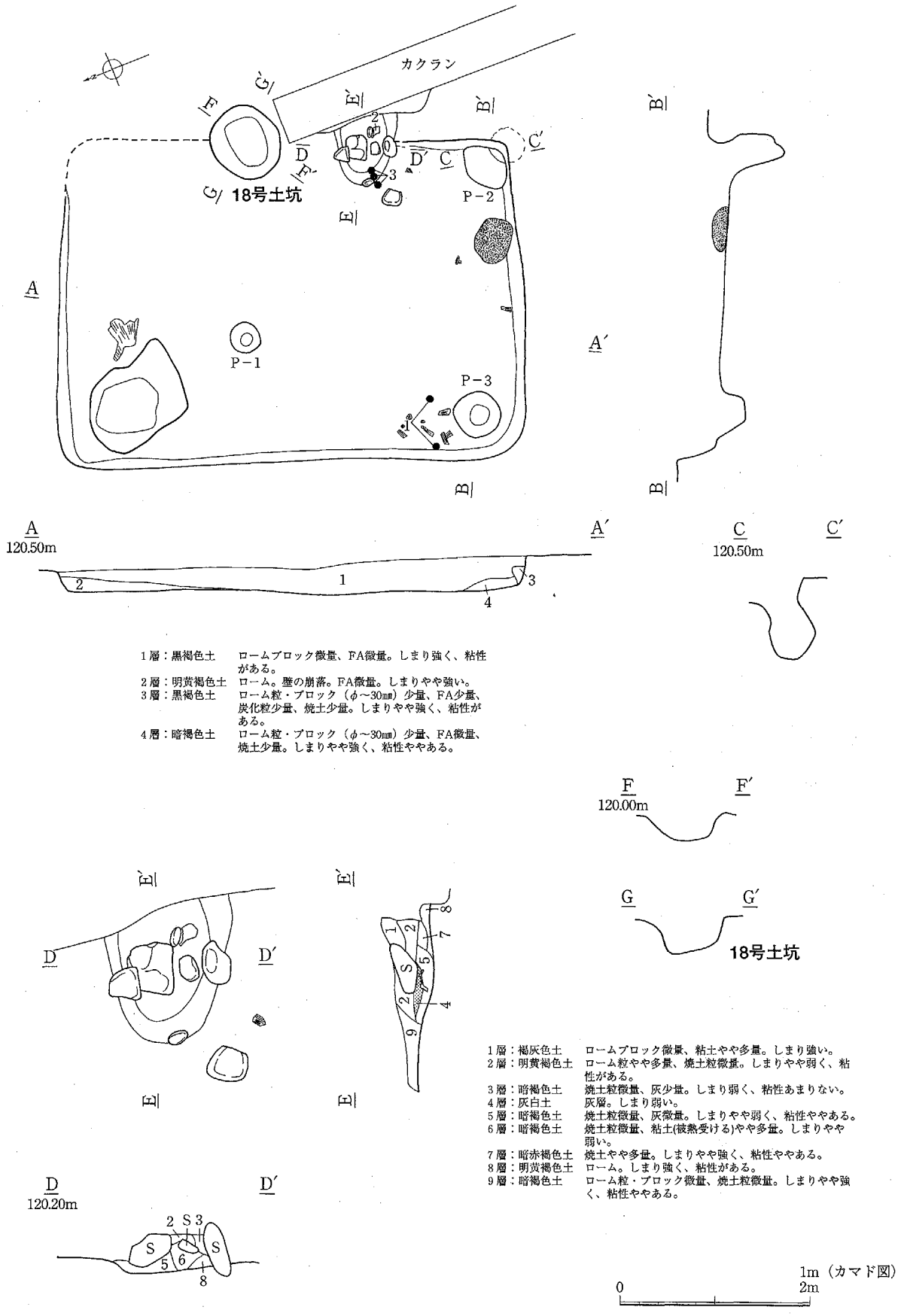
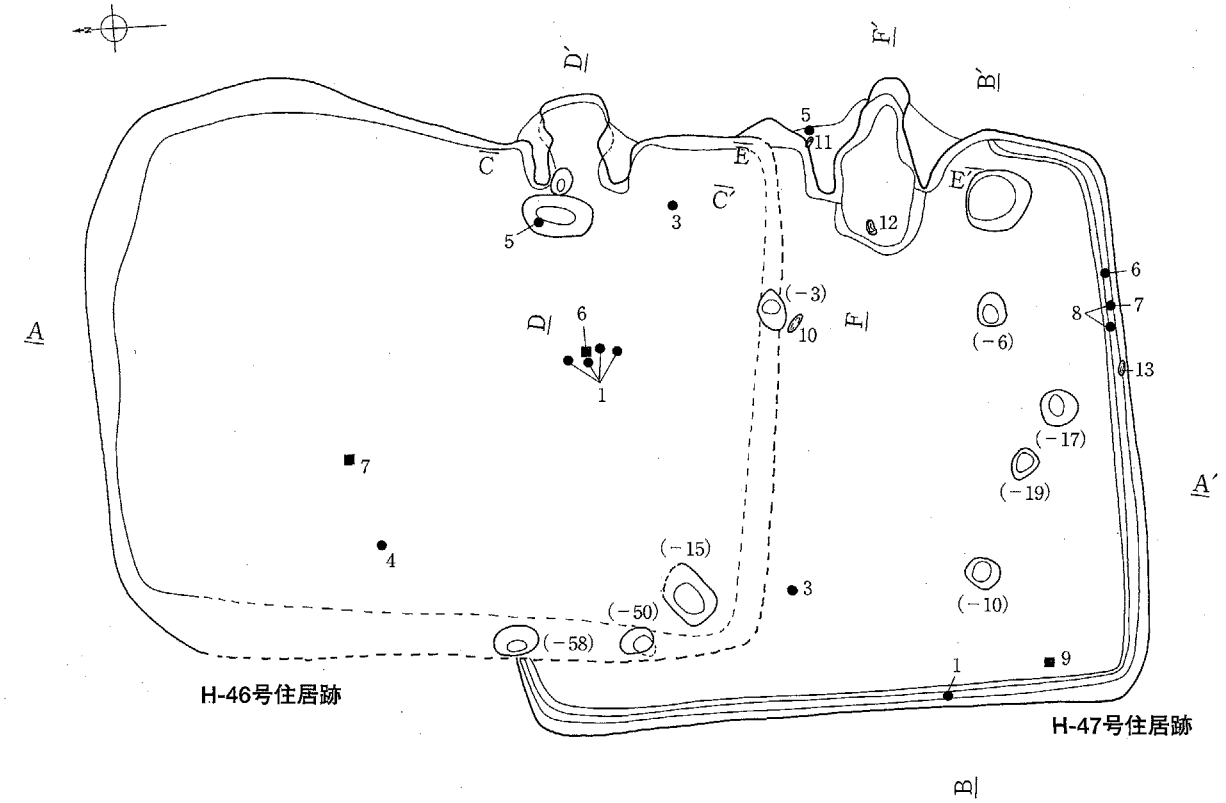
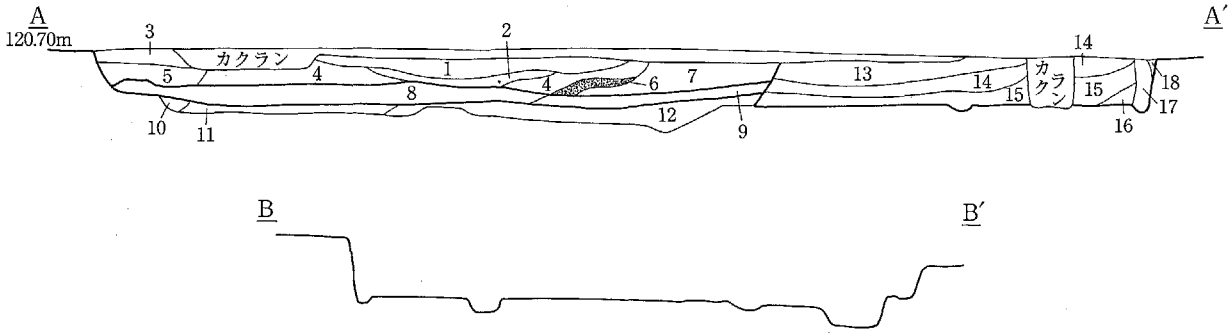


Fig.79　H－45号住居跡・18号土坑

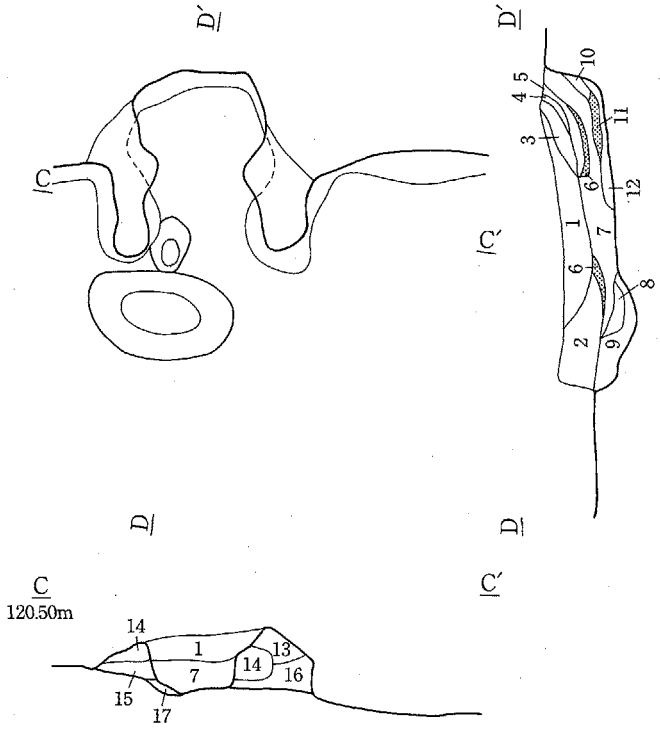




1層：灰褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
4層：黄褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
6層：褐灰色土　粘土層。FA微量。しまり強い。
7層：黒褐色土　ローム粒微量、FA少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
8層：明黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～100㎜）多量、FA微量。しまり非常に強く硬い。貼り床。
9層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～100㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。貼り床。
10層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量。しまり強く、粘性ややある。
11層：明黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）多量、FA微量。しまり非常に強く硬い。旧貼り床。
12層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～30㎜）少量、FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。旧貼り床。
13層：黒褐色土　ローム粒微量、FA少量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
14層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロックやや多量、FA微量、炭化粒微量、焼土微量。しまり強く、粘性がある。
15層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～80㎜）やや多量、FA微量、焼土粒微量、黒色土ブロック少量。しまり強く、粘性がある。
16層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
17層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック（φ～80㎜）やや多量。しまりやや強く、粘性がある。
18層：明黄褐色土　ローム。壁の崩落。しまり強い。

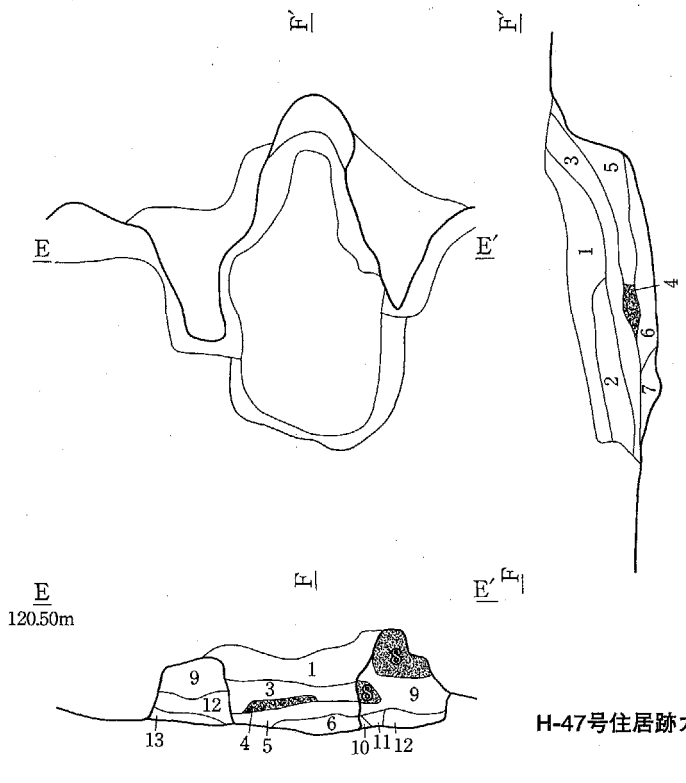
0　2m

Fig.80　H－46号・47号住居跡①



1層：灰褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：灰褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土やや多量。しまり強い。
3層：灰褐色土　FA微量、焼土ブロック少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
4層：明黄褐色土　ローム。焼土粒微量。しまり強い。
5層：赤褐色土　焼土多量。粘土微量。しまり強い。
6層：灰色土　灰層。焼土少量。しまりやや弱い。
7層：灰褐色土　ローム粒少量、炭化粒微量、焼土粒微量、灰微量。しまりやや強く、粘性がある。
8層：灰褐色土　焼土少量、灰ラミナ状に少量。しまりやや弱い。
9層：褐色土　ローム粒・ブロック微量、焼土粒微量、灰やや多量。しまりやや強く、粘性がある。
10層：褐色土　焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。
11層：褐灰色土　灰層。しまりやや弱い。
12層：暗褐色土　ロームブロック少量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
13層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
14層：灰褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量、粘土多量。しまり強い。
15層：灰褐色土　ロームブロック微量、焼土少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
16層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
17層：赤褐色土　焼土多量。粘土微量。しまり強い。

H-46号住居跡カマド



1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土ブロック少量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
4層：橙色土　焼土層。しまりやや強い。
5層：黒色土　炭化粒微量、焼土粒微量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
6層：黒褐色土　FA微量、炭化粒微量、焼土少量、灰少量、粘土少量。しまりやや強く、粘性がある。
7層：黒褐色土　ロームブロック微量、焼土粒微量、灰ラミナ状に少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
8層：褐灰色土。　粘土層。しまり強い。
9層：黒色土　焼土粒微量、粘土少量。粘質土。しまり強い。
10層：明黄褐色土　ローム。しまり強い。
11層：黒色土　焼土粒微量、粘土微量。粘質土。しまり強い。
12層：暗褐色土　ロームブロック微量、焼土少量、粘土微量、灰少量。しまり強く、粘性ややある。
13層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

H-47号住居跡カマド

0　1m

Fig.81　H－46号・47号住居跡②

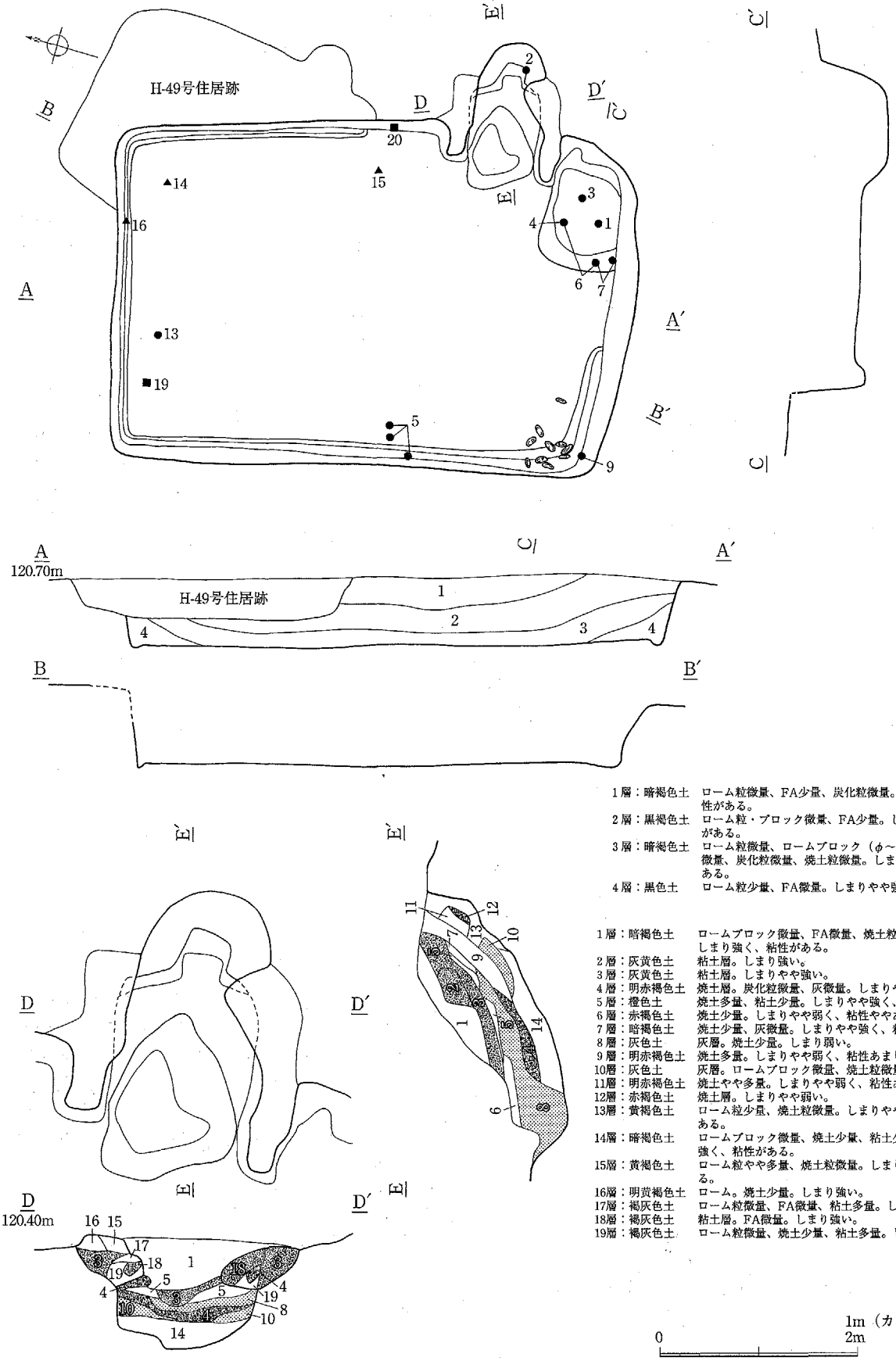
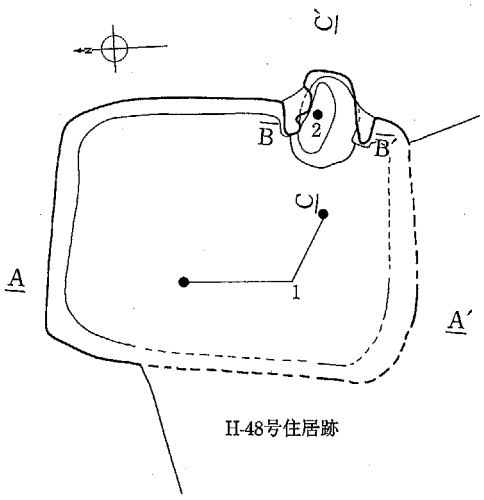
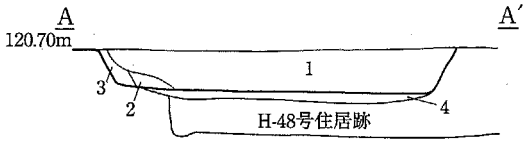


Fig.82　H－48号住居跡

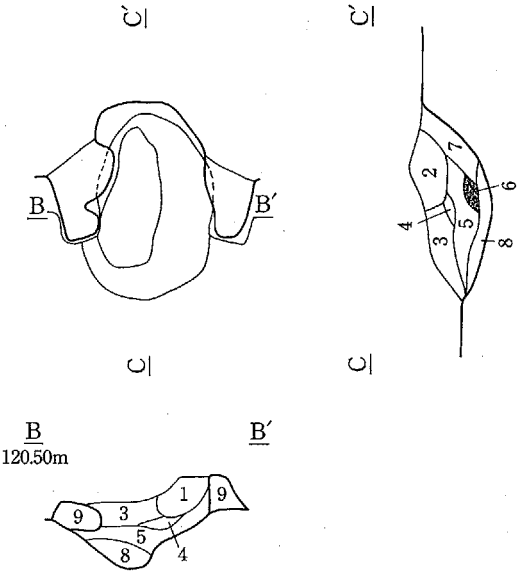


H-48号住居跡



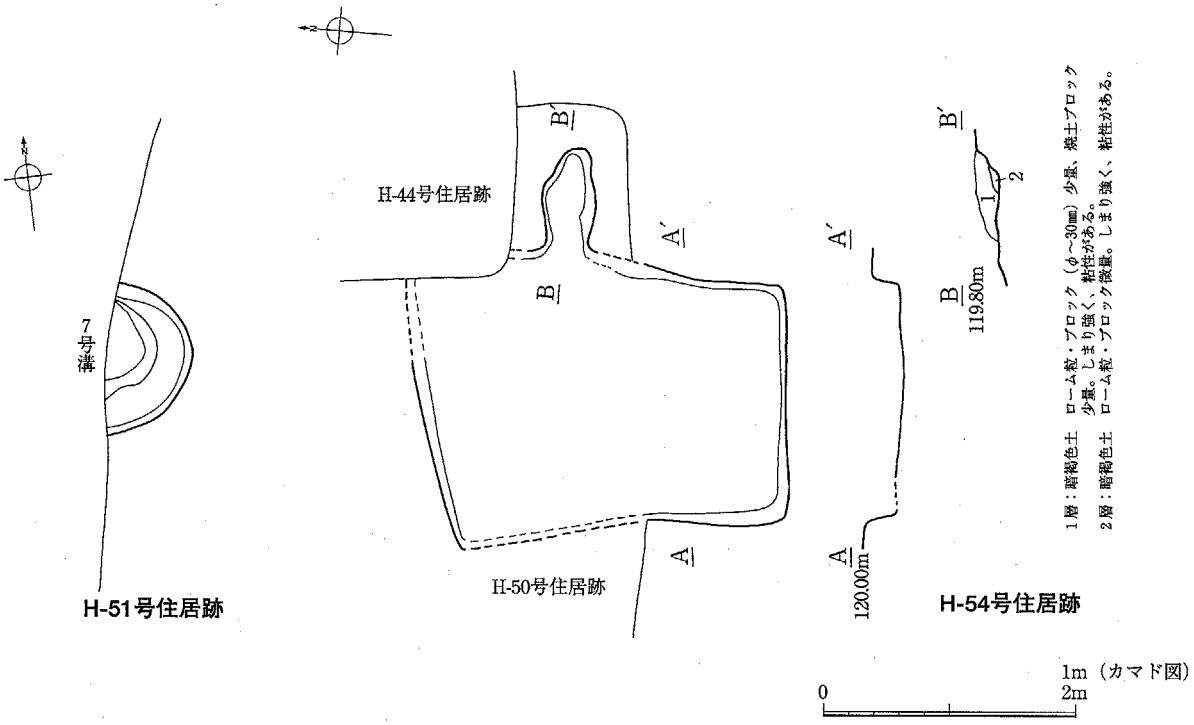
H-48号住居跡

1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～15㎜）少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒多量、FA微量。しまり非常に強く硬い。貼り床。



1層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：明黄褐色土　ローム。ロームブロック微量、FA微量、焼土少量。しまり強い。
3層：暗褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：黒褐色土　FA微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：黒褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性ややある。
6層：橙褐色土　焼土層。しまりやや強い。
7層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
8層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロックやや多量。しまり強く、粘性ややある。
9層：明黄褐色土　ローム。FA微量、焼土少量。しまり強い。

H-49号住居跡



H-51号住居跡

H-54号住居跡

Fig.83　H－49号住居跡・H－51号住居跡・H－54号住居跡

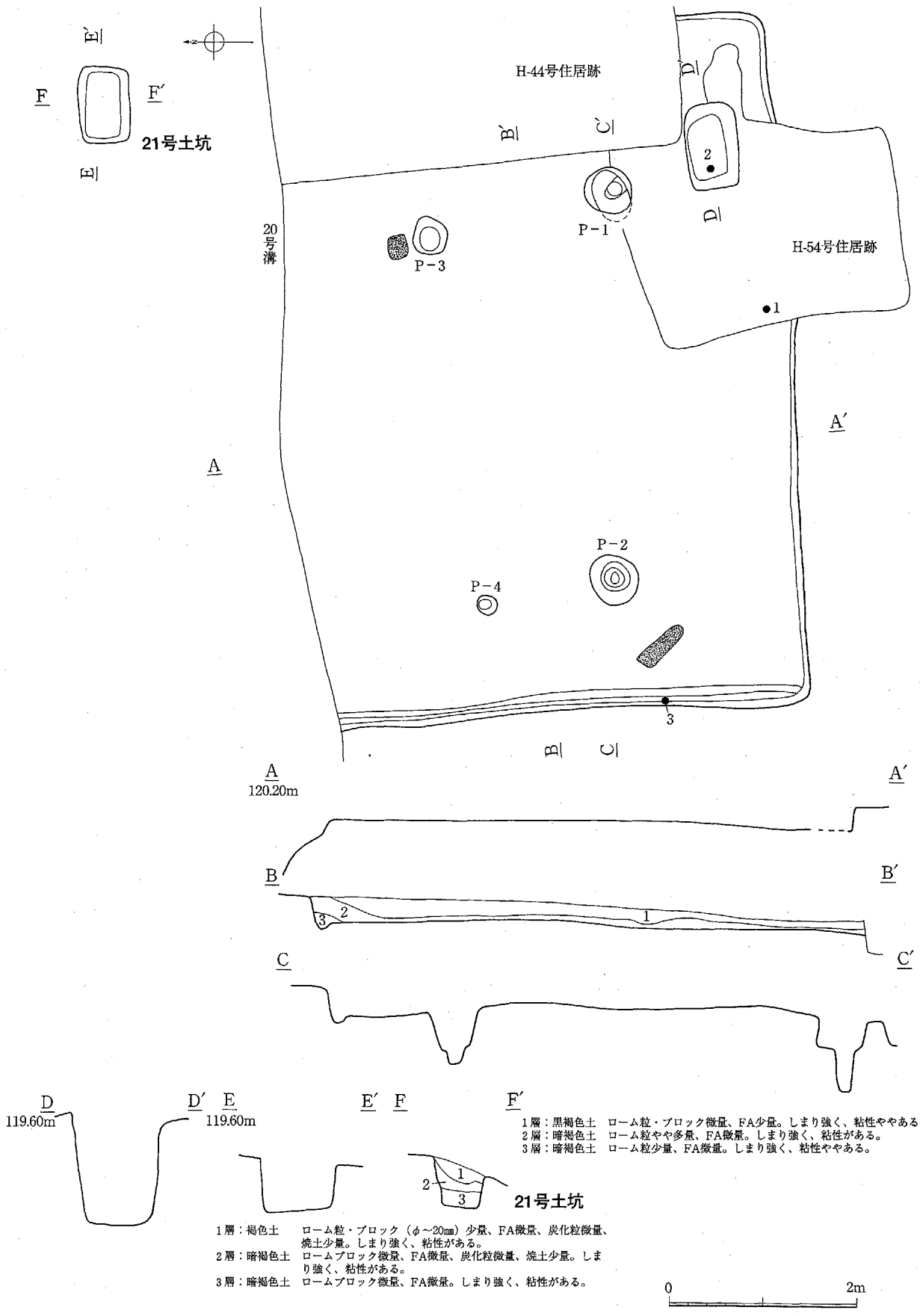


Fig.84　H－50号住居跡・21号土坑

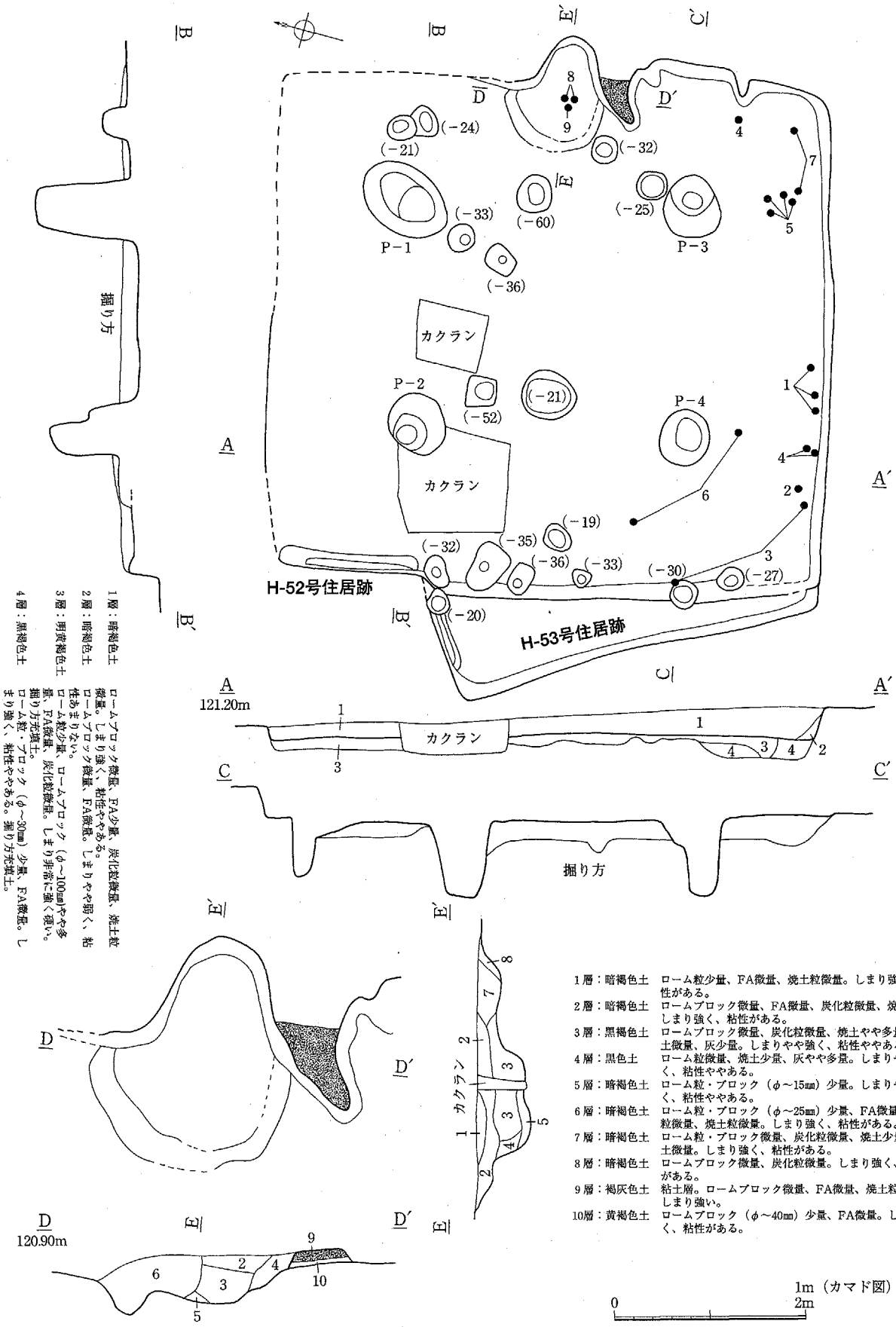
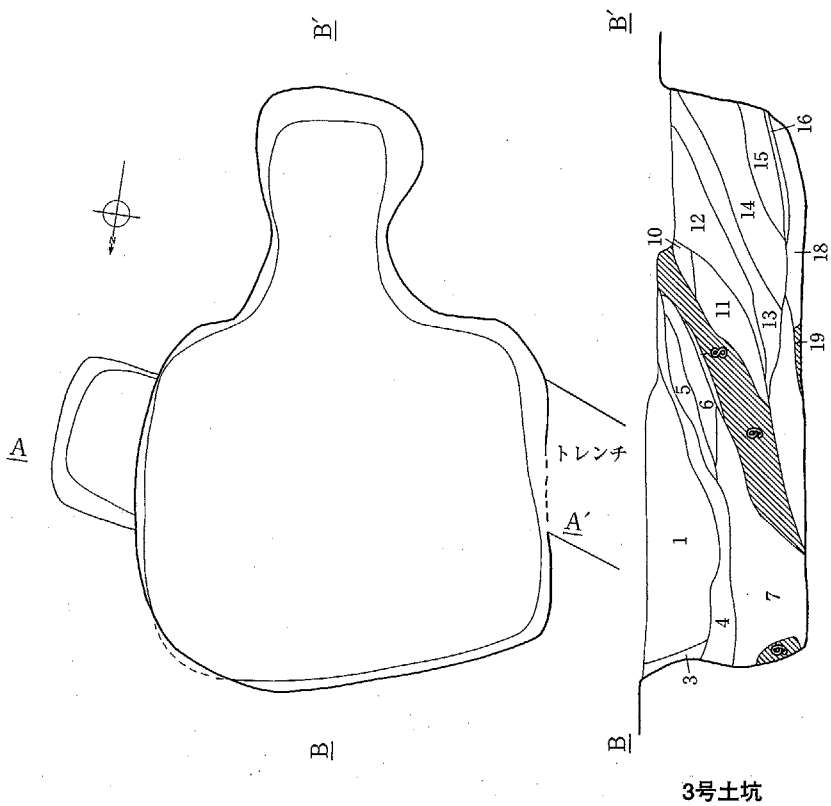


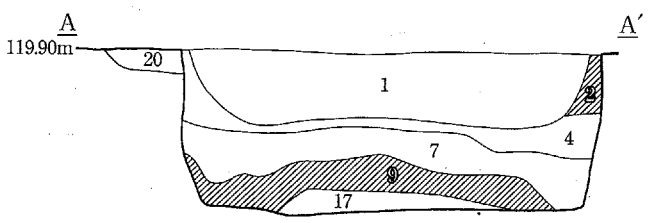
Fig.85　H－52号・53号住居跡

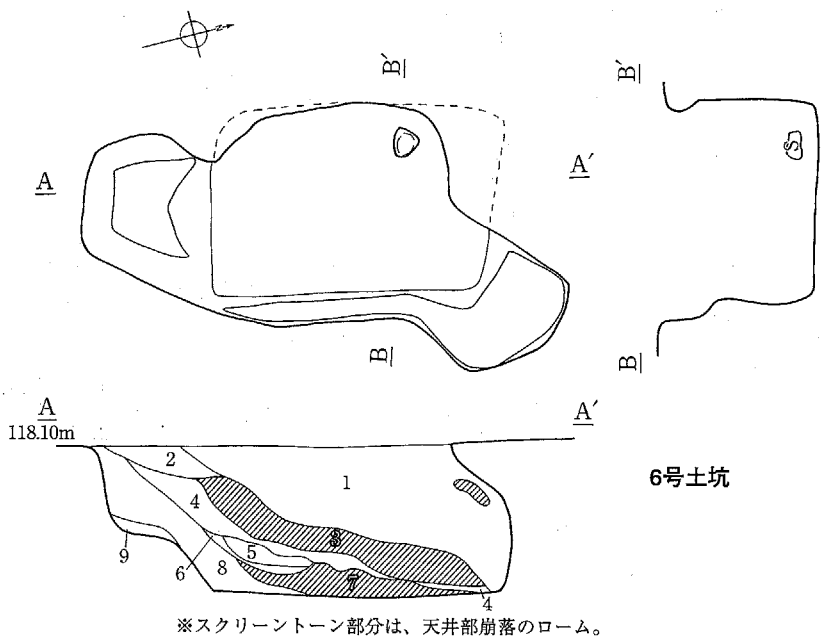


3号土坑

1層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、浅間B軽石少量、炭化粒微量。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
2層：黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、浅間B軽石少量。しまりやや弱く、粘性やややある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、FA少量、浅間B軽石少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：暗褐色土　浅間B軽石少量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒微量、浅間B軽石少量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　ローム粒少量、浅間B軽石少量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
8層：明褐色土　ローム粒多量。しまり強く、粘性がある。
9層：黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
10層：暗褐色土　ローム粒多量、浅間B軽石少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
11層：黒褐色土　ローム粒微量、浅間B軽石少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
12層：明褐色土　ローム粒・ブロック（φ～120㎜）多量、B.P微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
13層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）やや多量。しまりやや弱く、粘性ややある。
14層：明褐色土　ローム粒・ブロック（φ～80㎜）多量。黒～暗褐色土が少量混じる。しまり弱く、粘性ややある。
15層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、浅間B軽石微量、炭化粒・材微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
16層：明褐色土　ローム粒・ブロック（φ～15㎜）多量。しまりやや弱く、粘性がある。
17層：暗褐色土　浅間B軽石微量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
18層：暗褐色土　ローム粒をラミナ状に少量。しまり弱く、粘性ややある。
19層：黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
20層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～25㎜）少量、浅間B軽石少量。しまり強く、粘性がある。3号土坑に切られた土坑の埋没土か。

※スクリーントーン部分は、天井部崩落のローム。





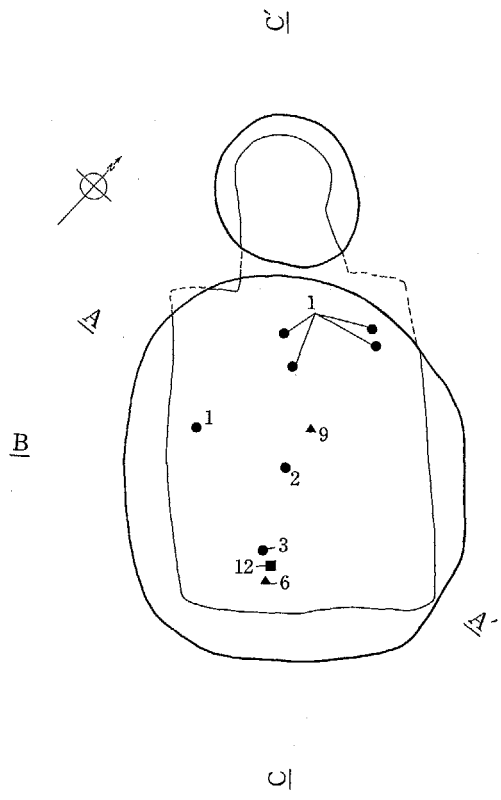
6号土坑

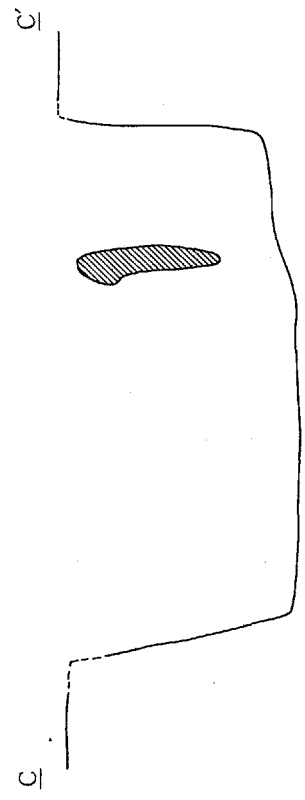
1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、浅間B軽石少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　浅間B軽石少量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
3層：黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、浅間B軽石少量。しまりやや弱く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒・ブロックをやや多量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
7層：黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
8層：明褐色土　ローム粒・ブロック少量。しまりやや弱く、粘性がある。
9層：暗褐色土　ローム粒少量。しまりやや弱く、粘性がある。

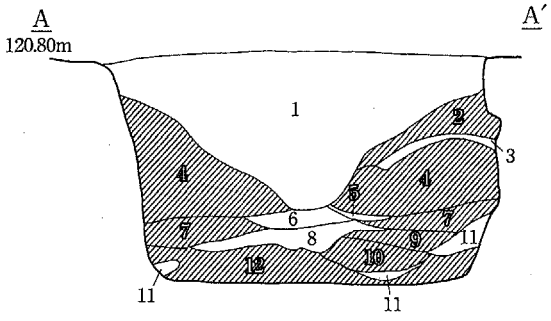
※スクリーントーン部分は、天井部崩落のローム。

0　2m

Fig.86　土坑①

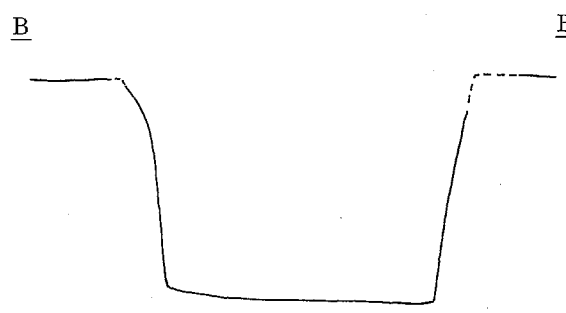






※スクリーントーン部分は、天井部崩落のローム。

1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～150㎜）少量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：明黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、炭化粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
4層：明黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
5層：暗褐色土　ローム粒少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ロームブロック（φ～50㎜）少量、炭化粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
7層：明黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
8層：暗褐色土　ローム粒少量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
9層：明黄褐色土　ローム。B.P微量。しまりやや強い。
10層：明黄褐色土　ローム。B.P少量。しまり非常に強く硬い。
11層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量。しまりやや強く、粘性がある。
12層：明黄褐色土　ローム。B.P微量。しまり非常に強く硬い。



19号土坑

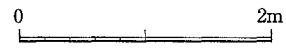
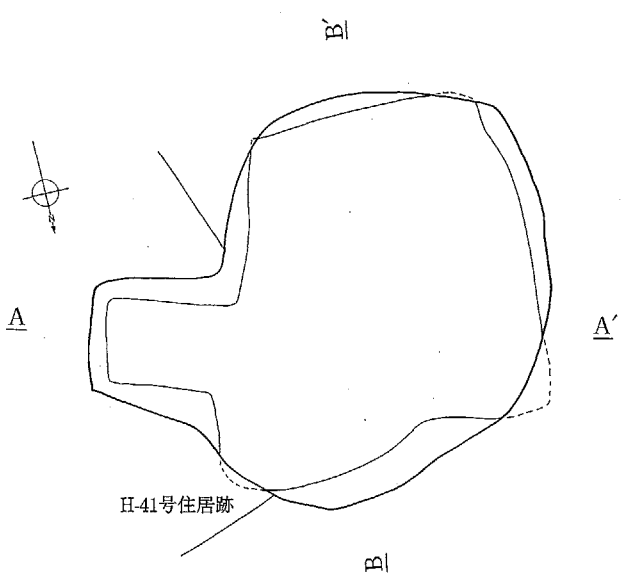
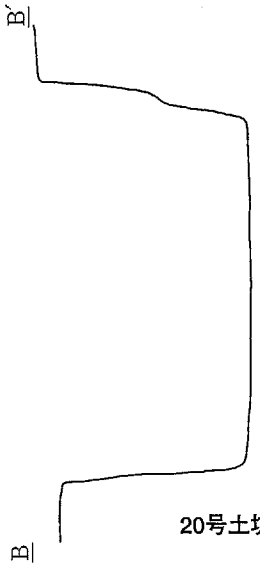


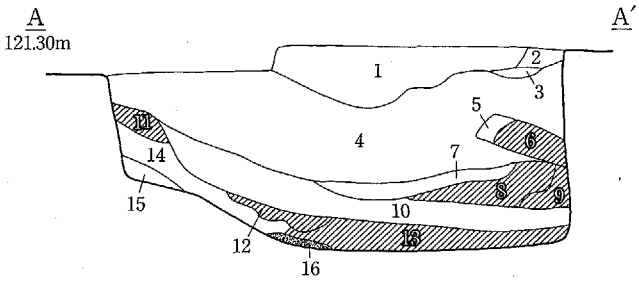
Fig.87　土坑②



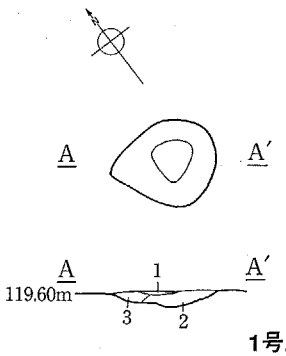


20号土坑

1層：灰褐色土　ロームブロック（φ～20㎜）やや多量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ロームブロック微量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：明黄褐色土　ロームブロック（φ～20㎜）やや多量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ロームブロック（φ～150㎜）少量、浅間B軽石微量、炭化粒微量、焼土粒微量、黒色土ブロック少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：明黄褐色土　ロームブロックやや多量、焼土少量、B.P微量。しまりやや強く、粘性がある。
6層：明黄褐色土　ローム。しまり強い。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）少量、炭化粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
8層：明黄褐色土　ローム。B.P微量。しまりやや弱い。
9層：黄褐色土　ローム。しまり強い。
10層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、浅間B軽石微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
11層：明黄褐色土　ローム。しまり強い。
12層：黄褐色土　ローム。しまり強い。
13層：明黄褐色土　ローム。B.P微量。しまり強い。
14層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
15層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
16層：褐色土　粘土層。しまり強い。

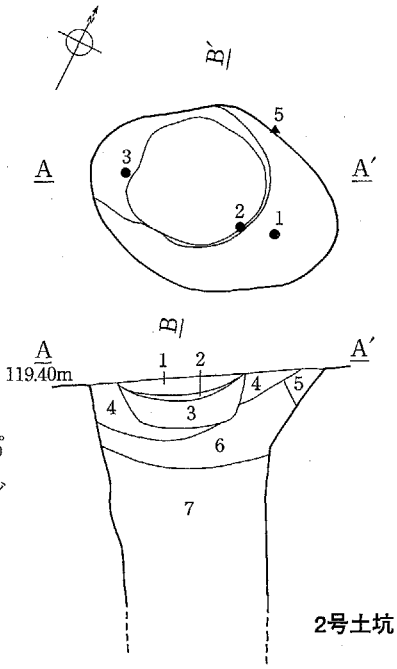


※スクリーントーン部は、天井部崩落のローム。

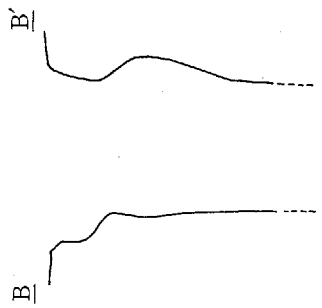


1号土坑

1層：暗褐色土　ローム粒少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：赤褐色土　ローム粒少量、FA少量、焼土多量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。



2号土坑



1層：暗褐色土　砂礫（φ5㎜前後）・砂粒少量。しまりやや強く、粘性あまりない。
2層：明褐色土　砂礫・砂粒微量、ローム粒少量。しまりやや強く、粘性あまりない。
3層：暗褐色土　砂礫微量、ローム粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：黄褐色土　ロームブロック。しまりやや強い。
6層：明褐色土　ローム粒・ブロック少量、FA微量。しまり弱く、粘性ややある。
7層：明褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）多量、暗褐色土ブロック少量。しまり弱く、粘性ややある。

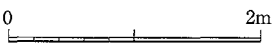
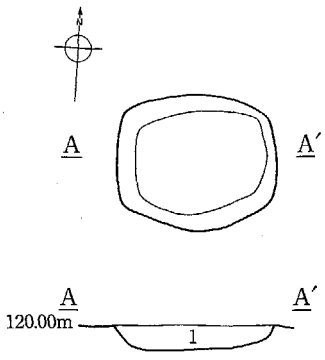
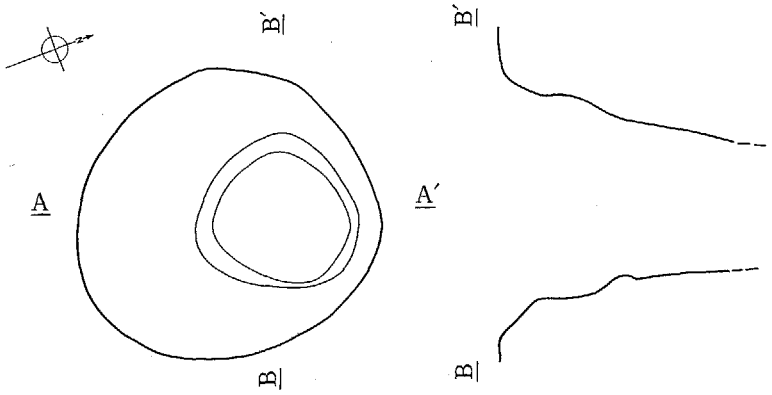


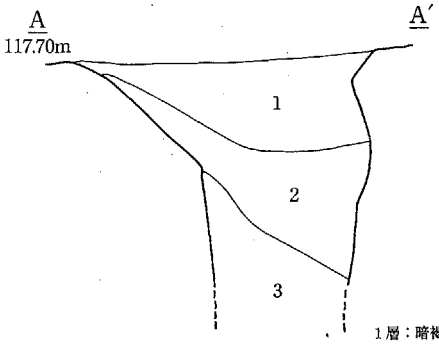
Fig.88　土坑③



1層：暗褐色土　ローム粒少量、FA少量、浅間B軽石少量。しまり強く、粘性あまりない。

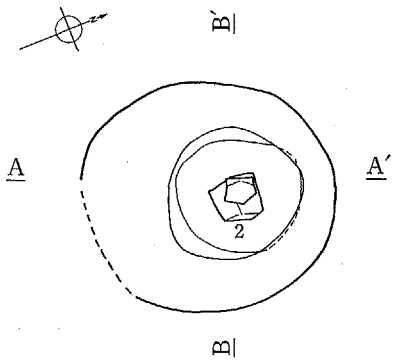
4号土坑

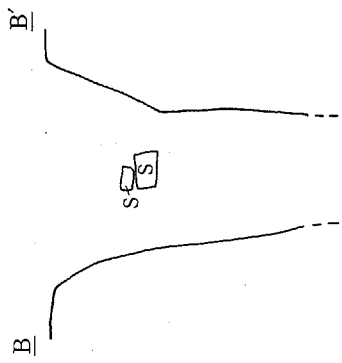


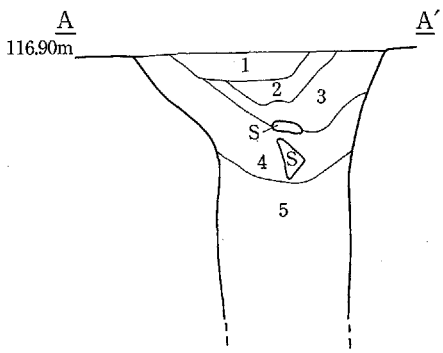


1層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、浅間B軽石微量、炭化粒微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～250㎜）をやや多量、浅間B軽石微量。しまり弱く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、浅間B軽石微量。しまり弱く、粘性がある。

5号土坑







1層：暗褐色土　ローム粒微量、FA少量、浅間B軽石少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性ややある。
2層：明褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量、FA微量、浅間B軽石微量。しまりやや強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～15㎜）微量、浅間B軽石を微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
4層：明褐色土　ローム粒・ブロック少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：明褐色土　ローム粒やや多量。しまり弱く、粘性ややある。

7号土坑

Fig.89　土坑④

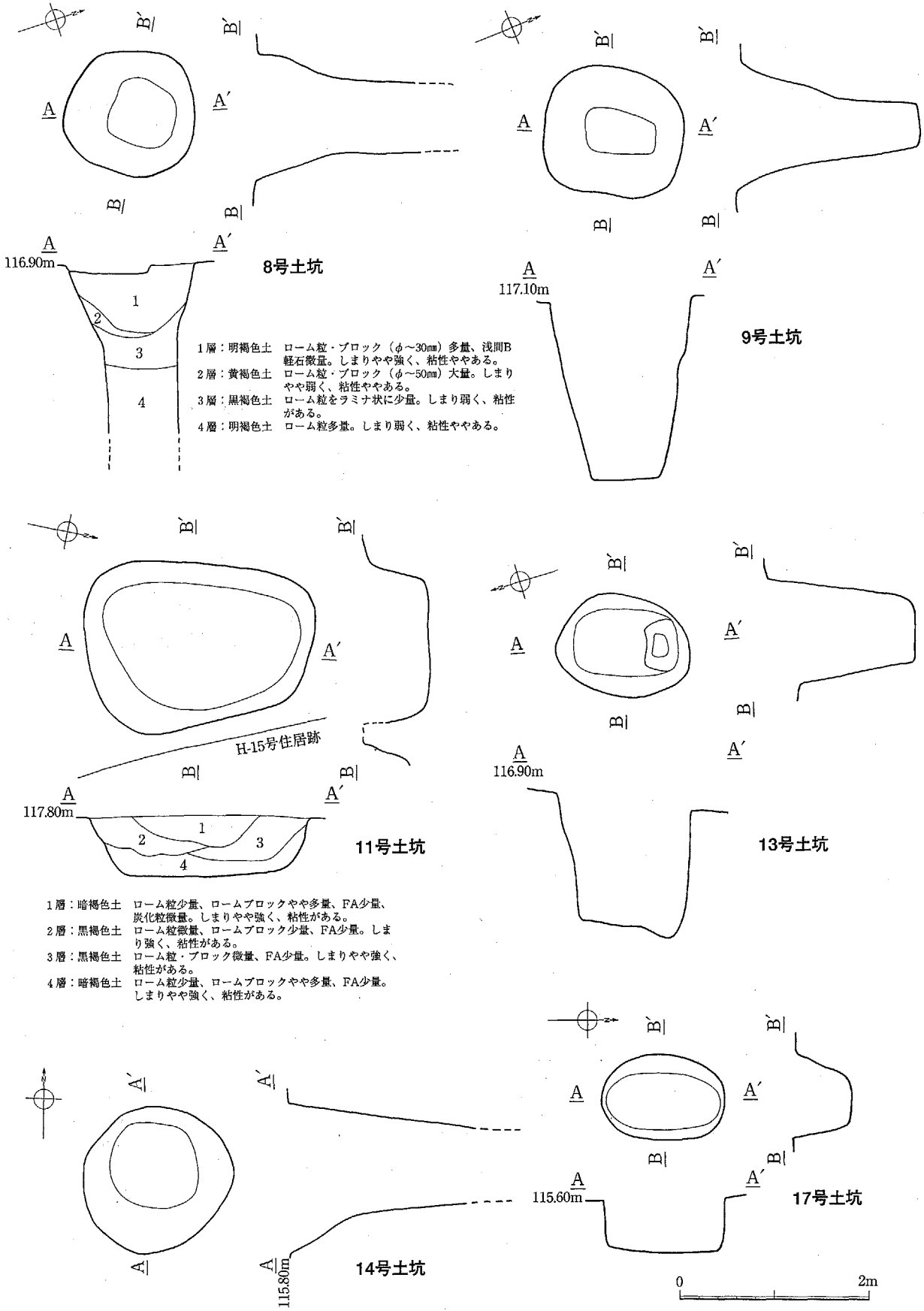

8号土坑
116.90m
1層：明褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）多量、浅間B軽石微量。しまりやや強く、粘性ややある。
2層：黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～50㎜）大量。しまりやや弱く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ローム粒をラミナ状に少量。しまり弱く、粘性がある。
4層：明褐色土　ローム粒多量。しまり弱く、粘性ややある。
9号土坑
117.10m
11号土坑
117.80m
H-15号住居跡
1層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロックやや多量、FA少量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ローム粒微量、ロームブロック少量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロックやや多量、FA少量。しまりやや強く、粘性がある。
13号土坑
116.90m
14号土坑
115.80m
17号土坑
115.60m
0
2m

Fig.90　土坑⑤

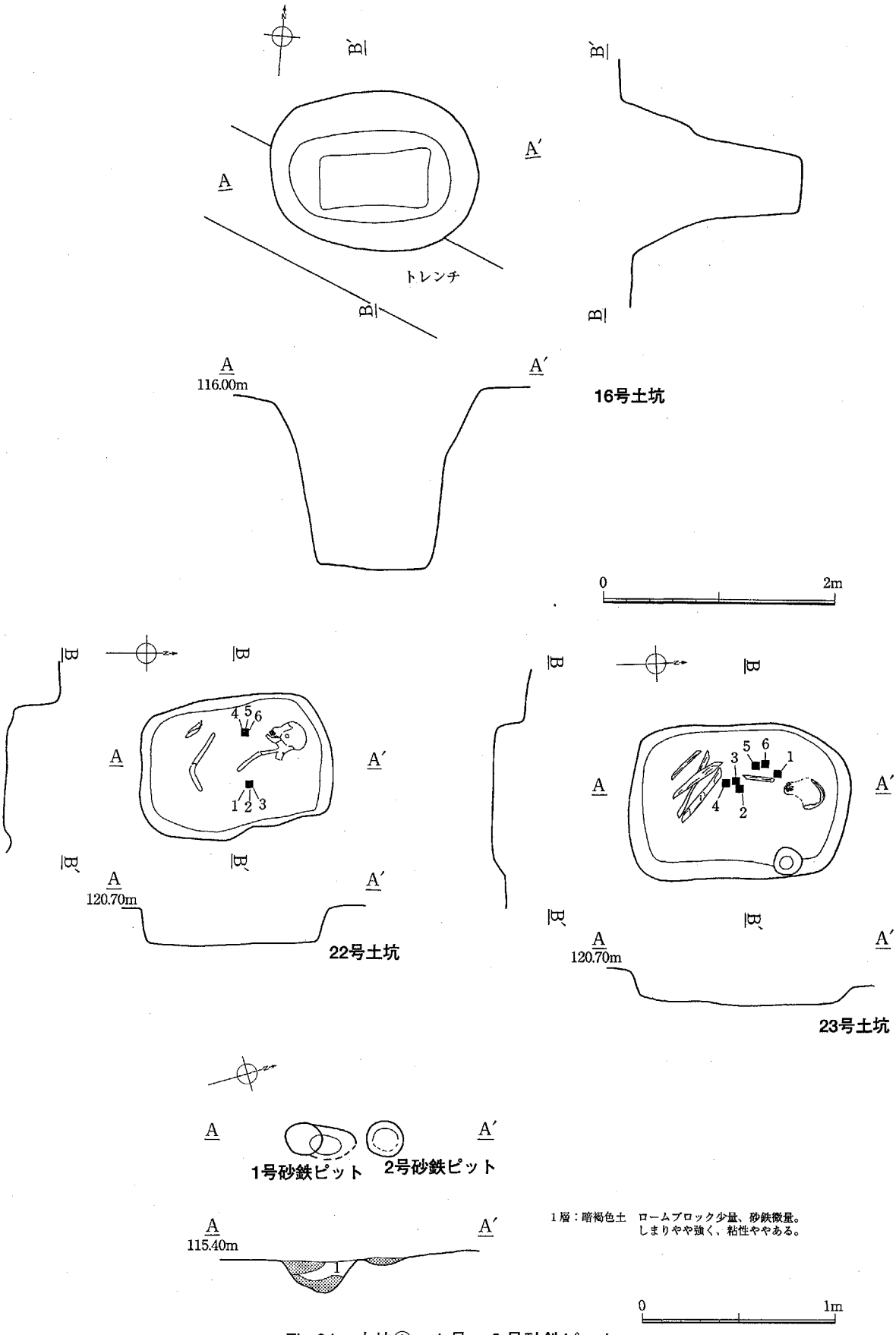


Fig.91　土坑⑥・1号・2号砂鉄ピット

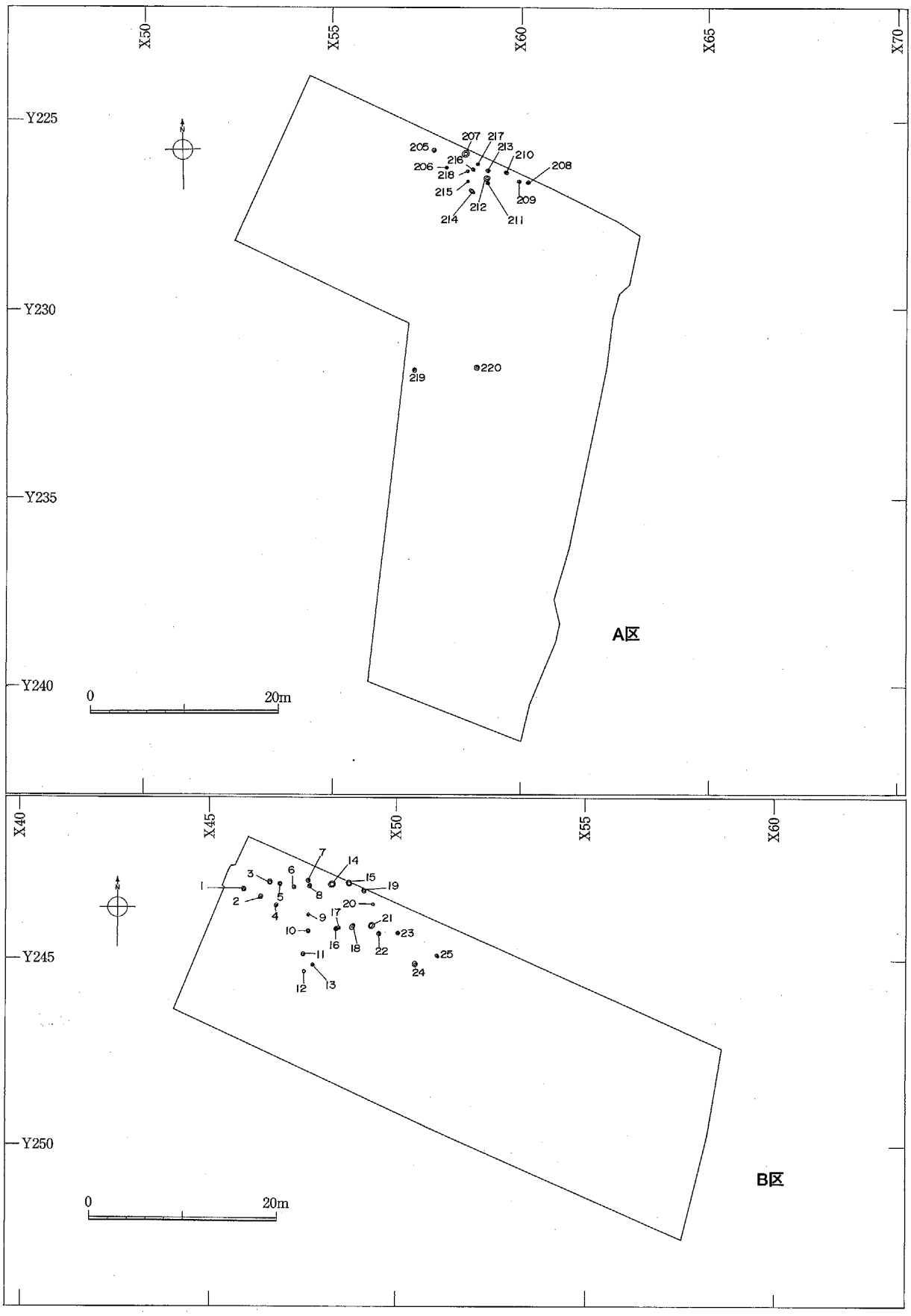


Fig.92　A区・B区ピット位置図

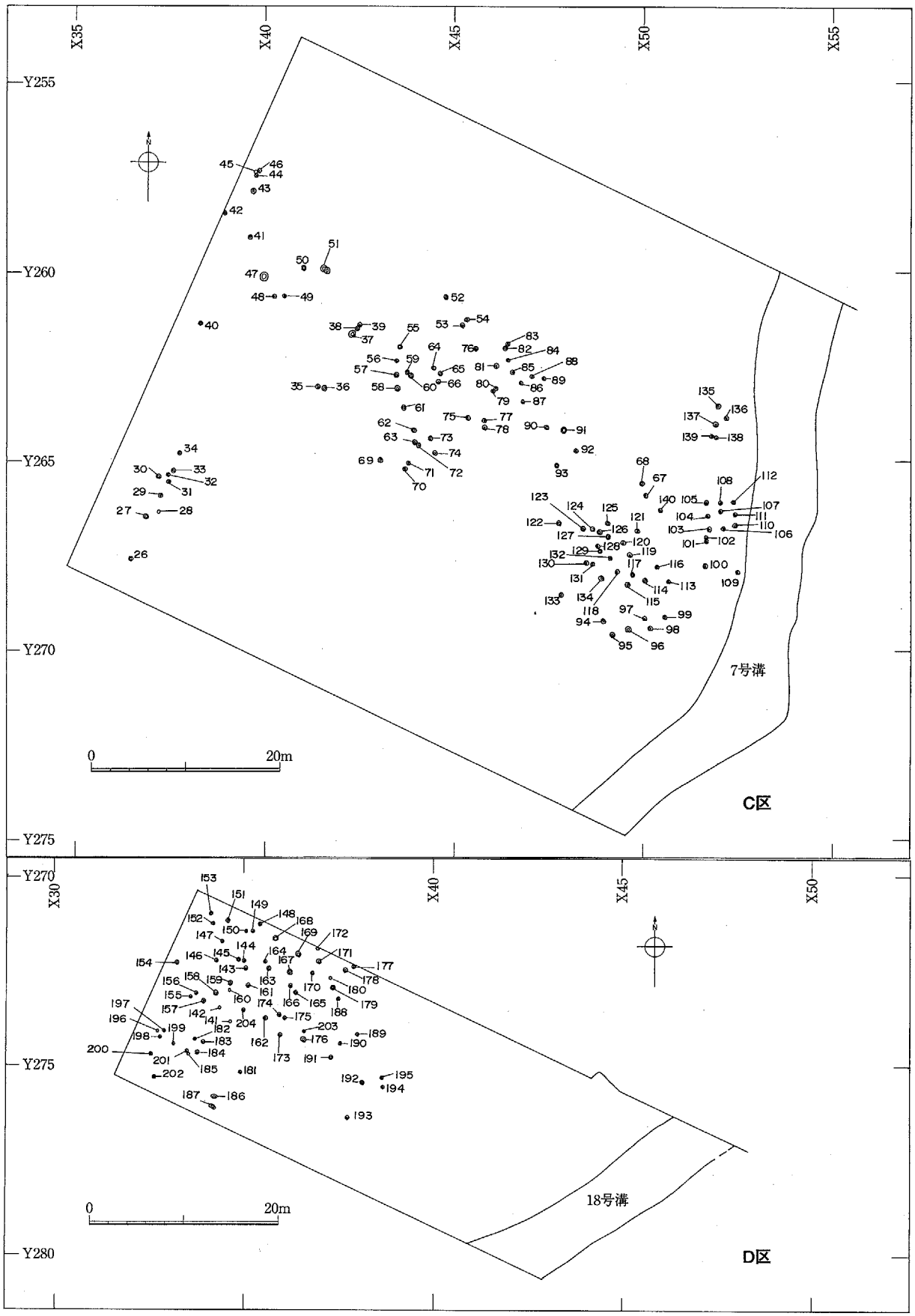
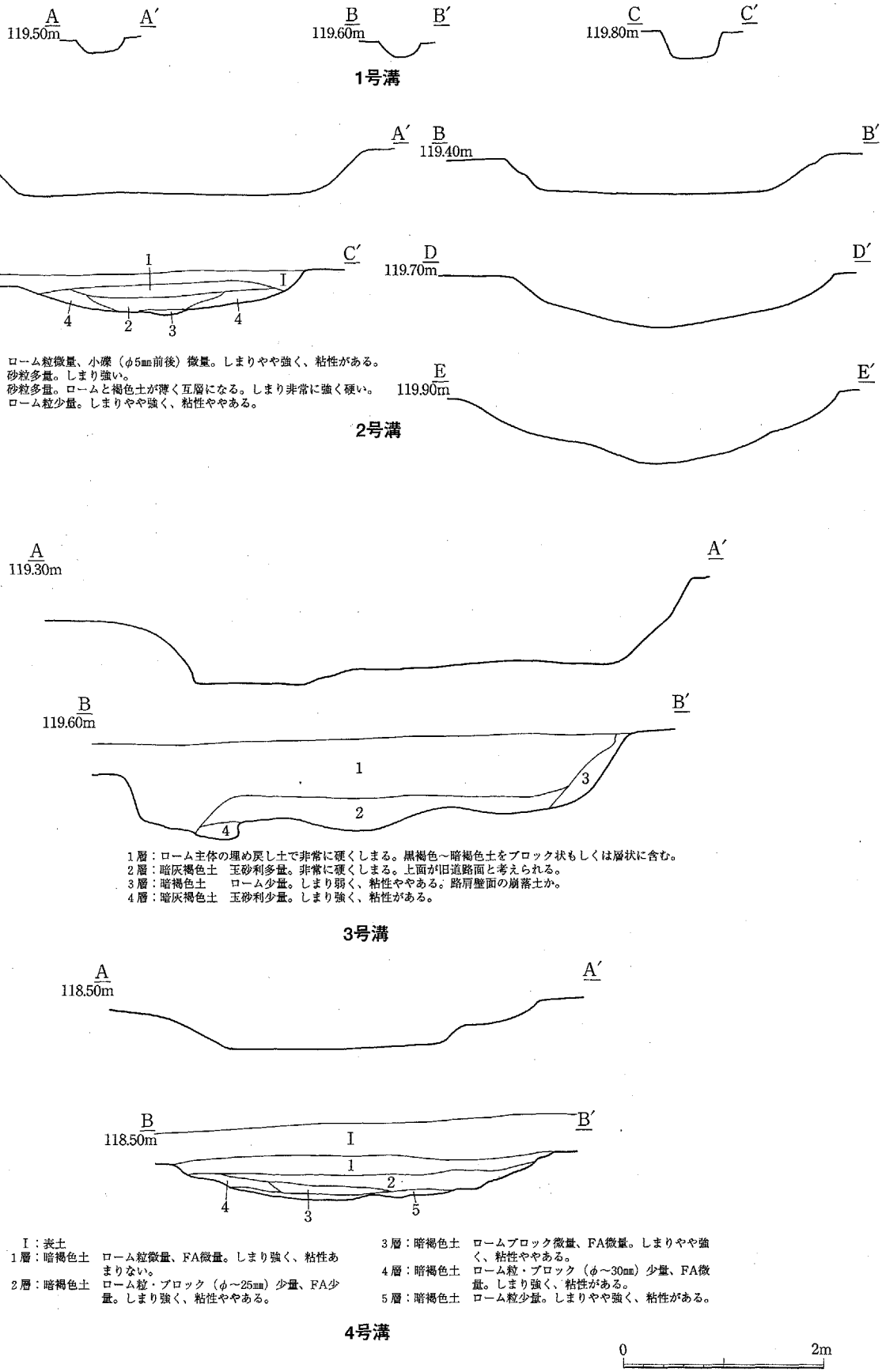


Fig.93　C区・D区ピット位置図



Ⅰ：表土
1層：暗褐色土　ローム粒微量、小礫（φ5㎜前後）微量。しまりやや強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　砂粒多量。しまり強い。
3層：暗褐色土　砂粒多量。ロームと褐色土が薄く互層になる。しまり非常に強く硬い。
4層：暗褐色土　ローム粒少量。しまりやや強く、粘性ややある。

1層：ローム主体の埋め戻し土で非常に硬くしまる。黒褐色～暗褐色土をブロック状もしくは層状に含む。
2層：暗灰褐色土　玉砂利多量。非常に硬くしまる。上面が旧道路面と考えられる。
3層：暗褐色土　ローム少量。しまり弱く、粘性ややある。路肩壁面の崩落土か。
4層：暗灰褐色土　玉砂利少量。しまり強く、粘性がある。

Ⅰ：表土
1層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量。しまり強く、粘性あまりない。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～25㎜）少量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
3層：暗褐色土　ロームブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒少量。しまりやや強く、粘性がある。

Fig.94　溝土層図・エレベーション図①

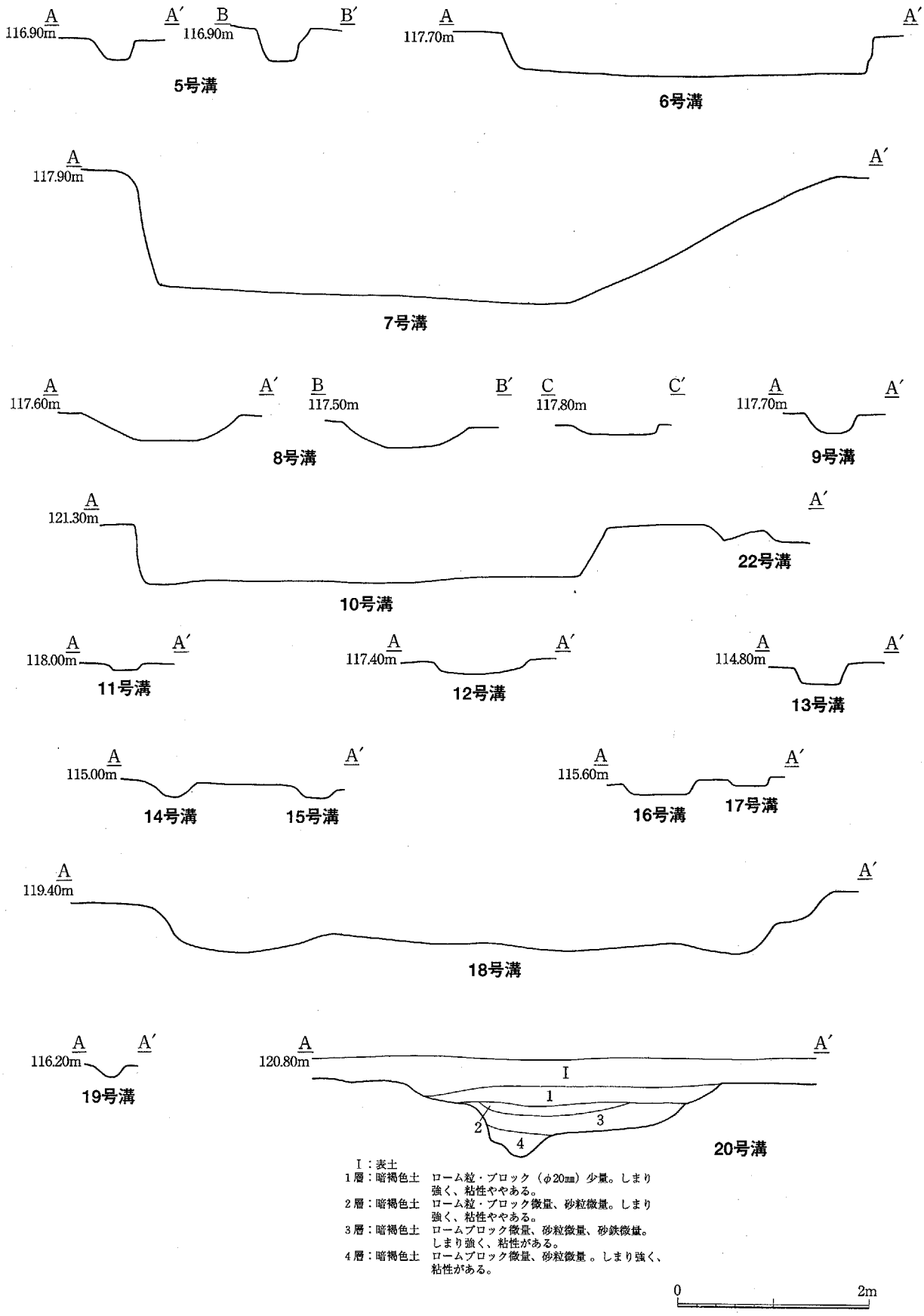


Fig.95　溝土層図・エレベーション図②

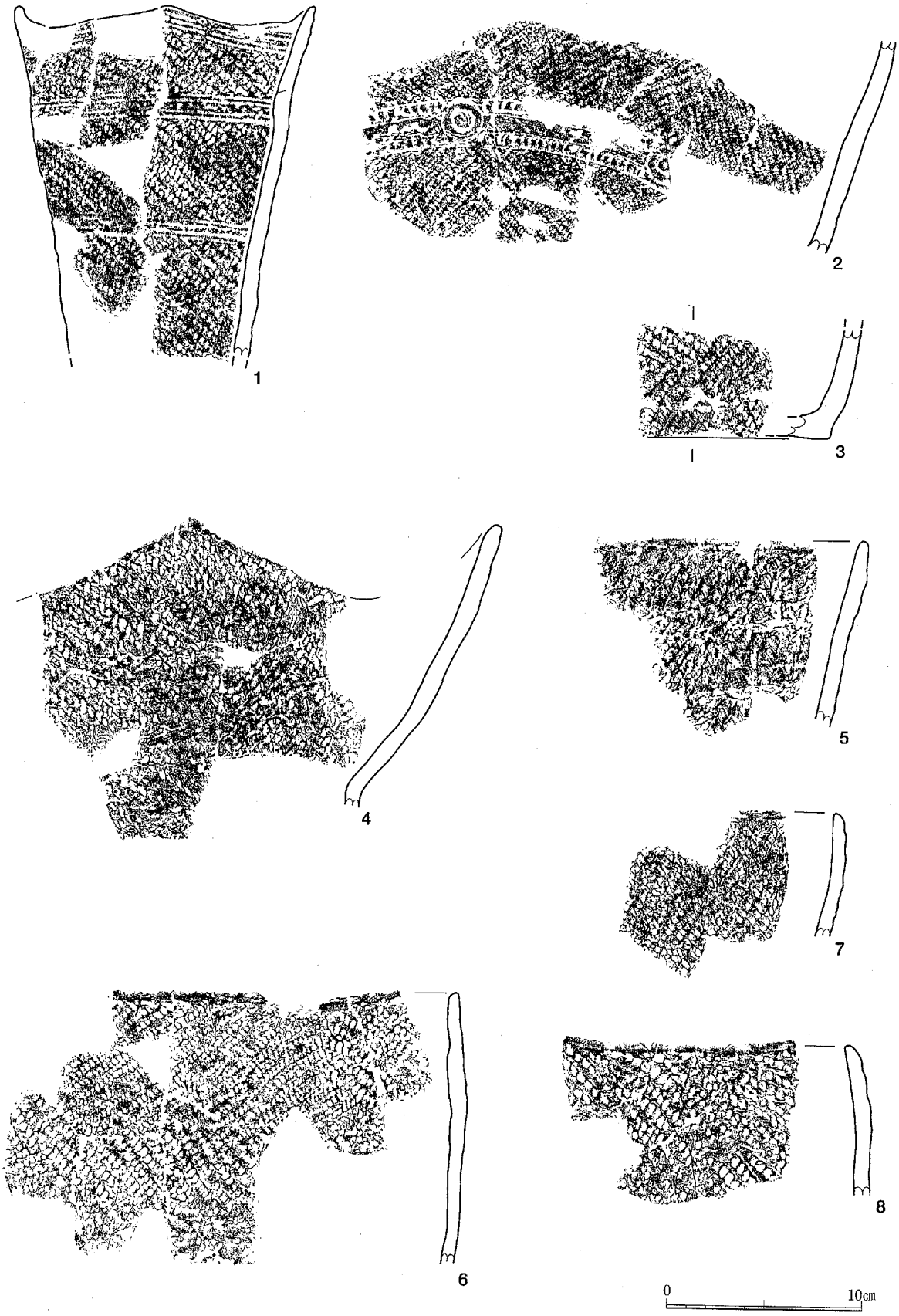


Fig.96　J－1号住居跡出土遺物①

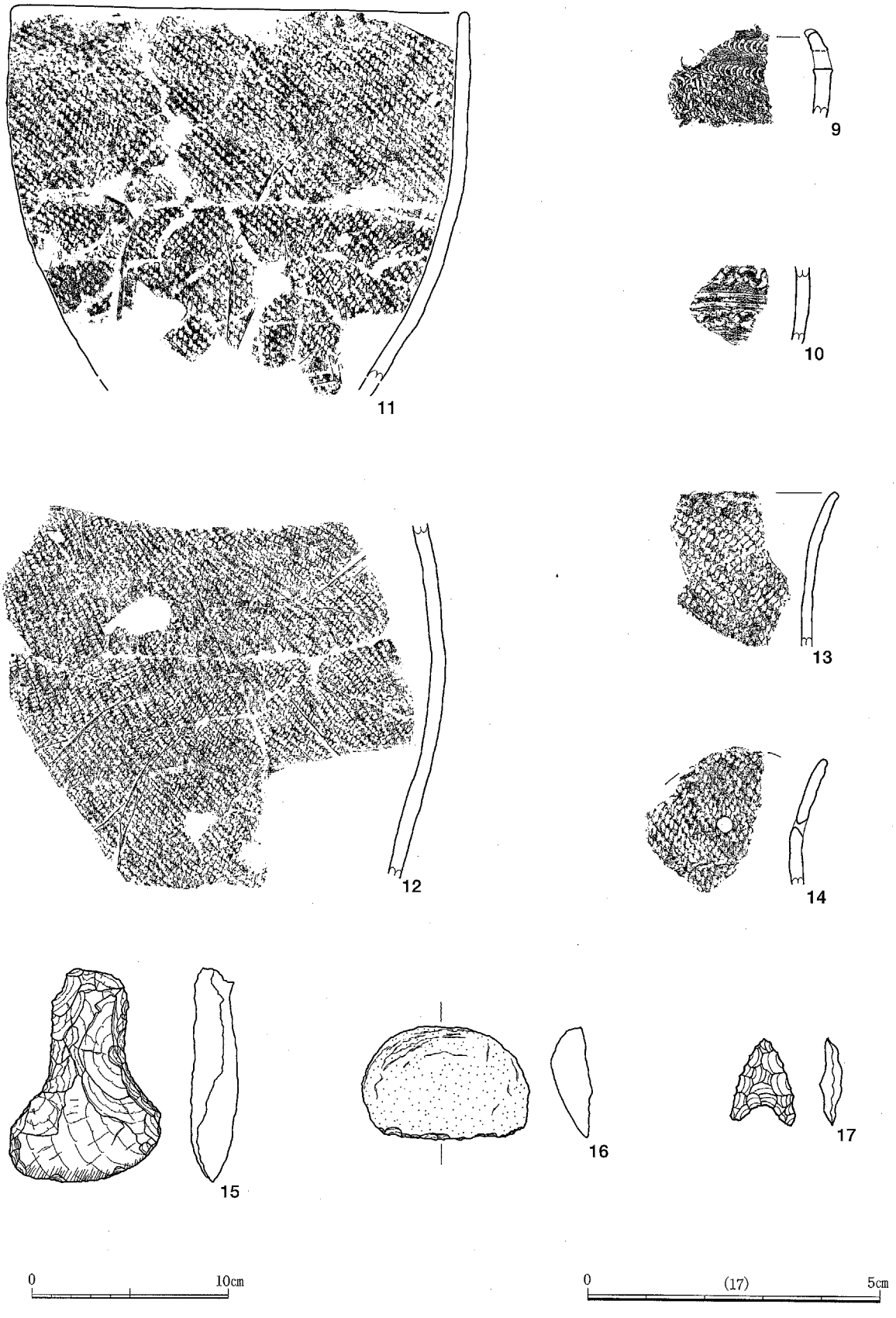


Fig.97　J－1号住居跡出土遺物②

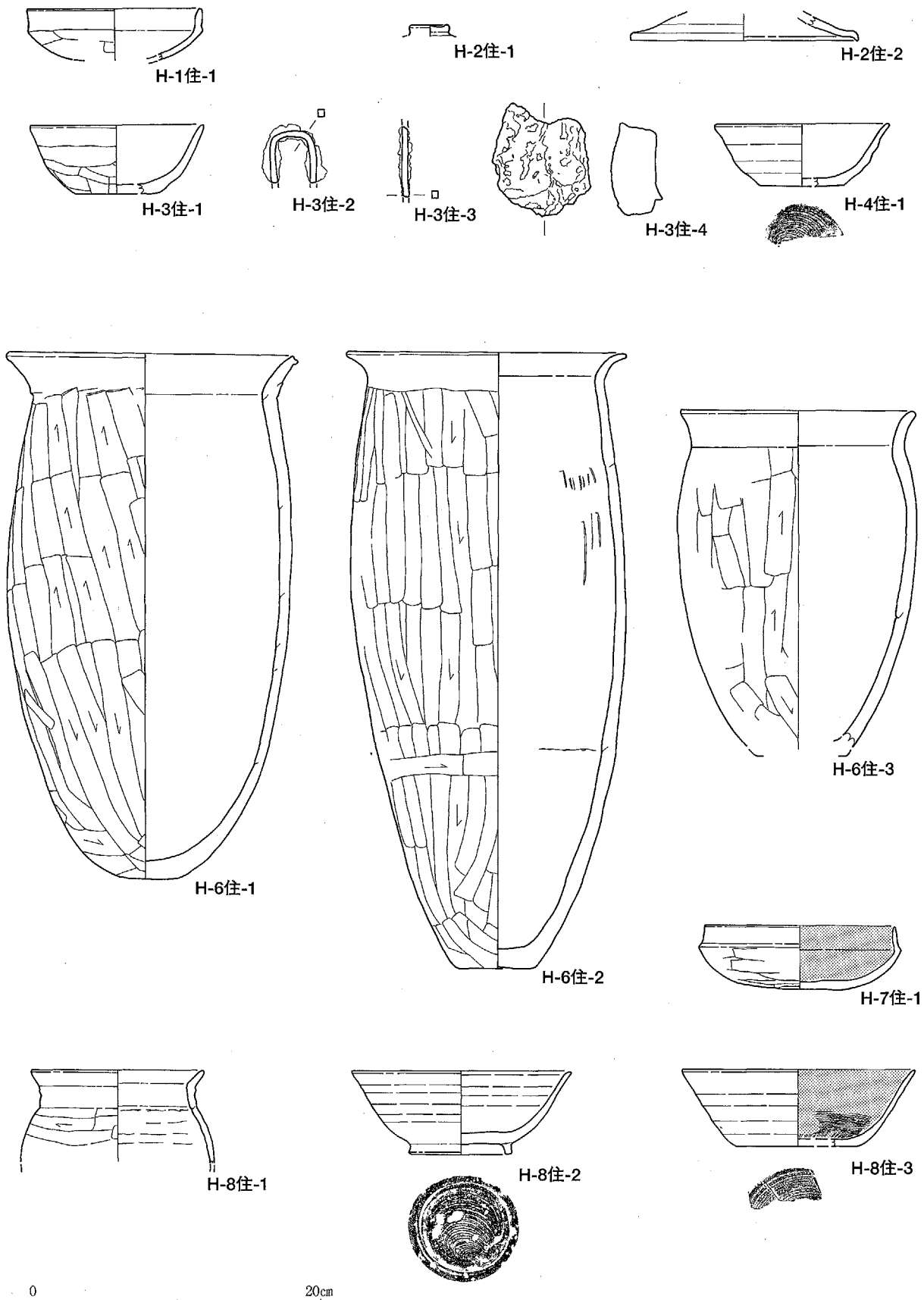
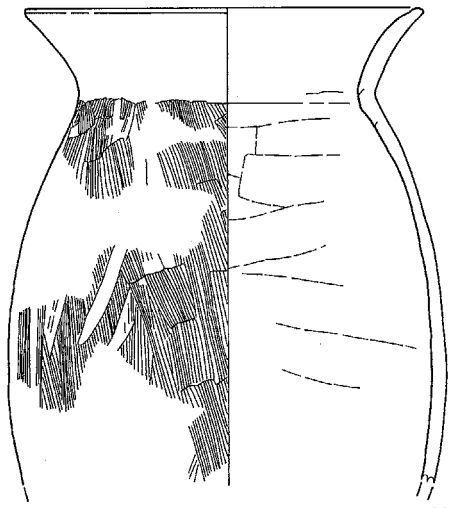
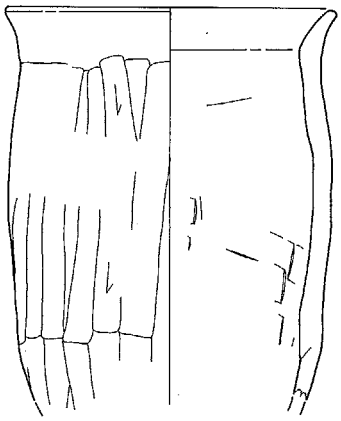


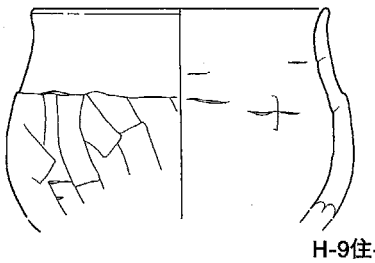
Fig.98　H－1号・H－2号・H－3号・H－4号・H－6号・H－7号・H－8号住居跡出土遺物



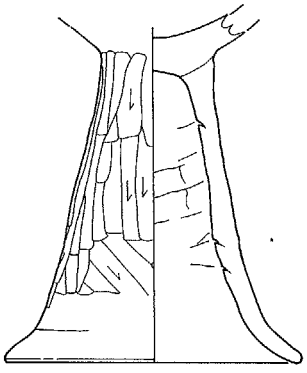
H-9住-1



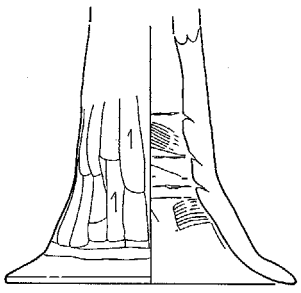
H-9住-2



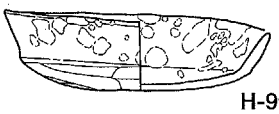
H-9住-3



H-9住-4

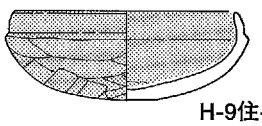


H-9住-5

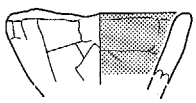


H-9住-6

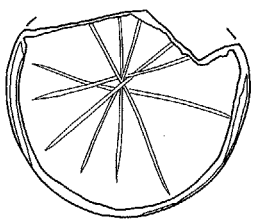
H-9住-7



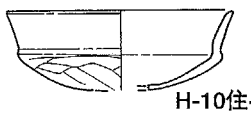
H-9住-9



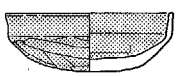
H-9住-10



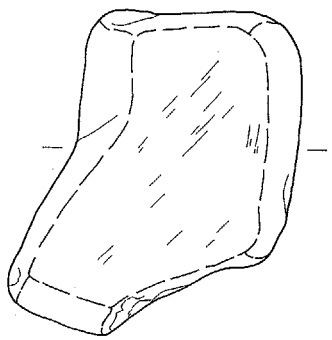
H-9住-8

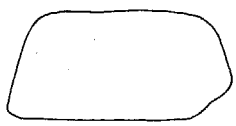


H-10住-1



H-10住-2





H-10住-3

Fig.99　H－9号・H－10号住居跡出土遺物

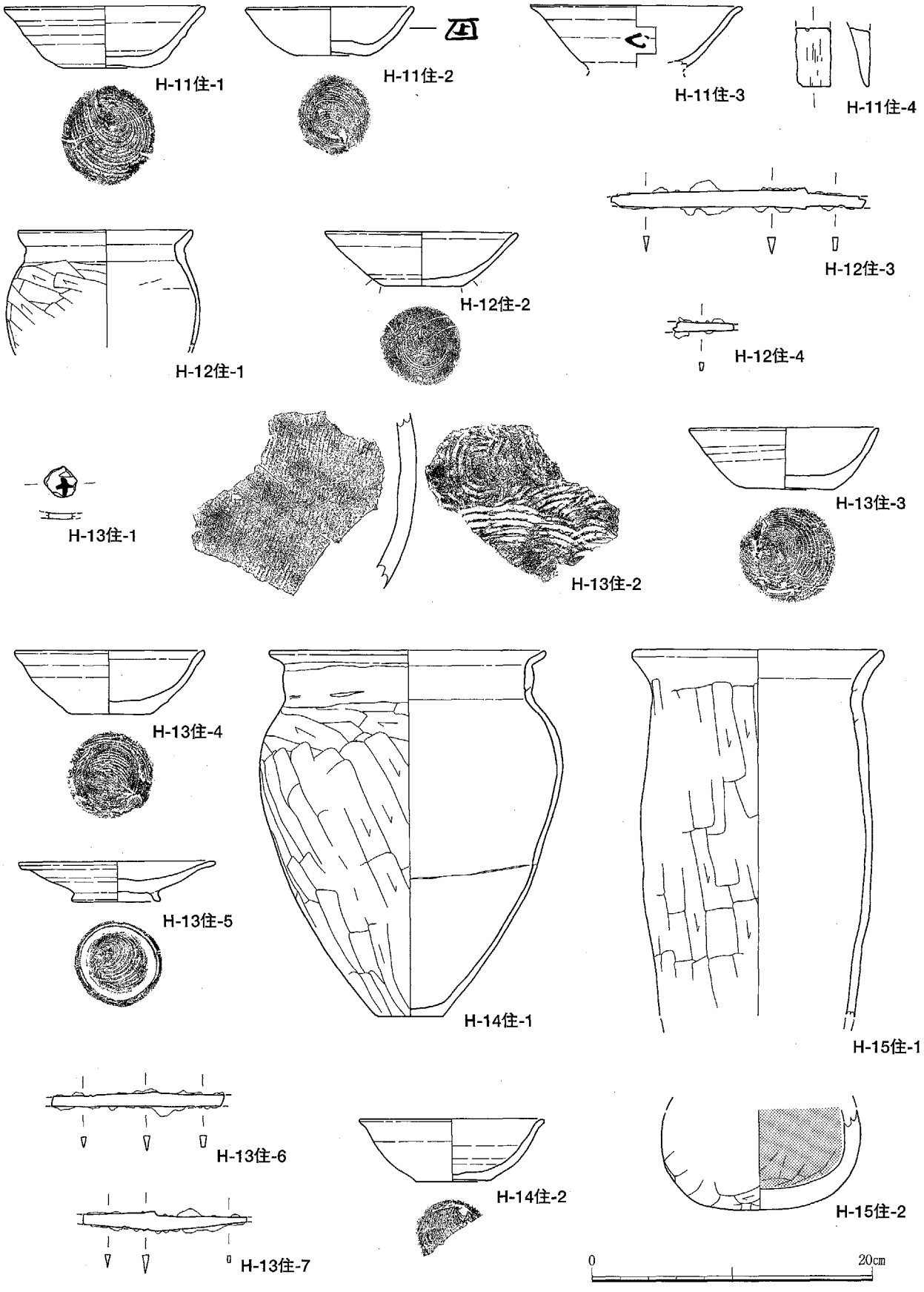


Fig.100　H－11号・H－12号・H－13号・H－14号・H－15号住居跡出土遺物

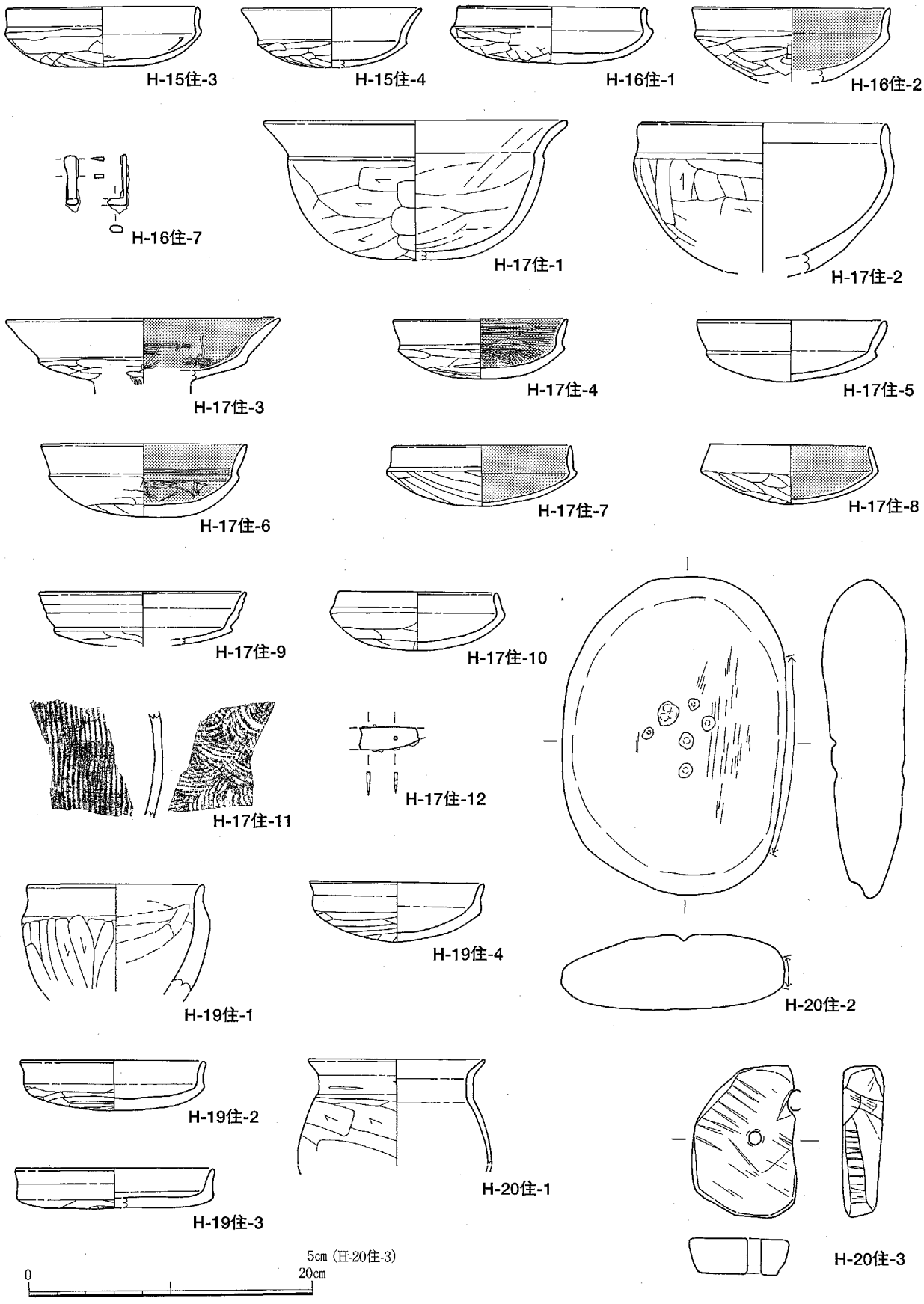


Fig.101　H－15号・H－16号・H－17号・H－19号・H－20号住居跡出土遺物

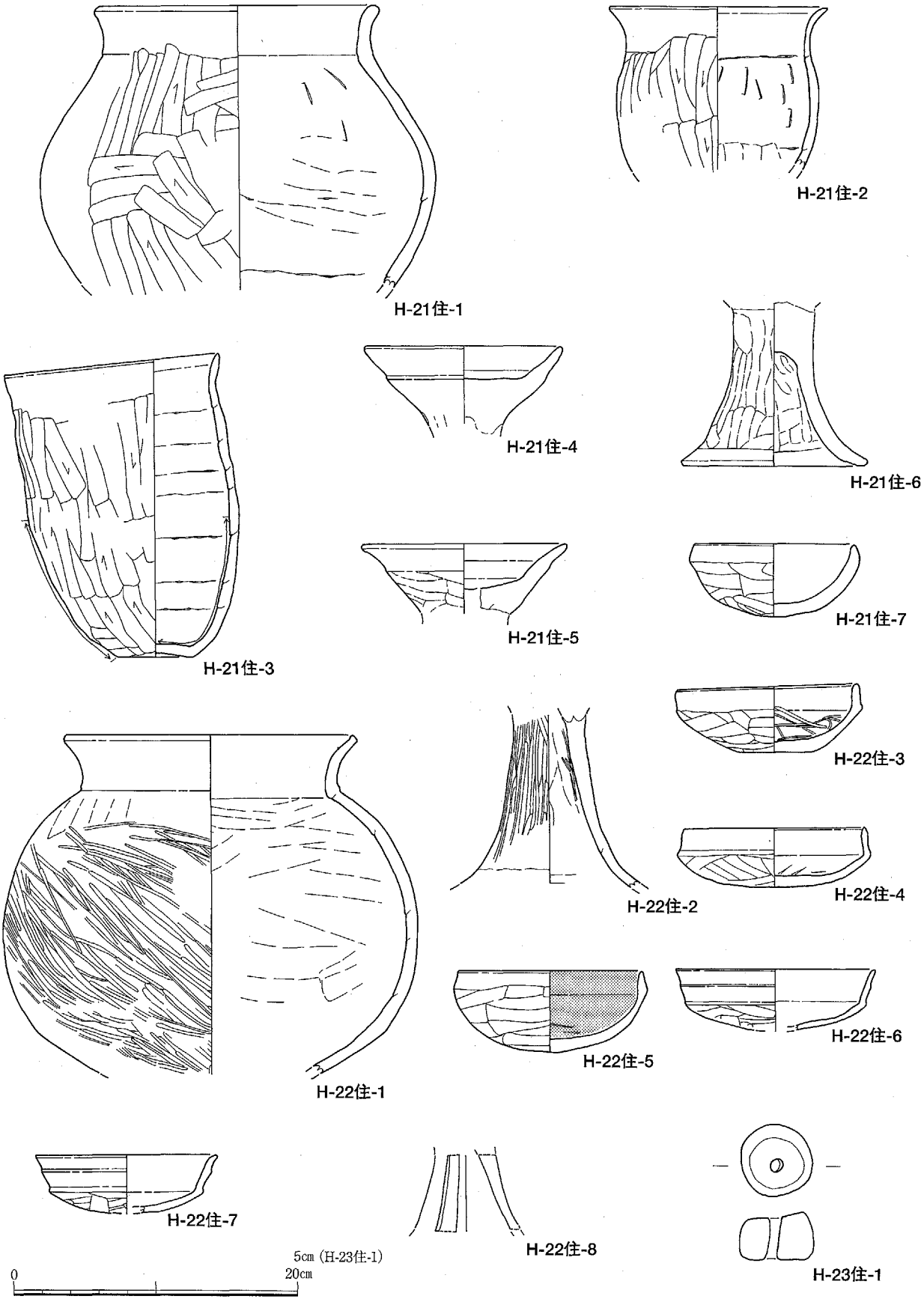


Fig.102　H－21号・H－22号・H－23号住居跡出土遺物

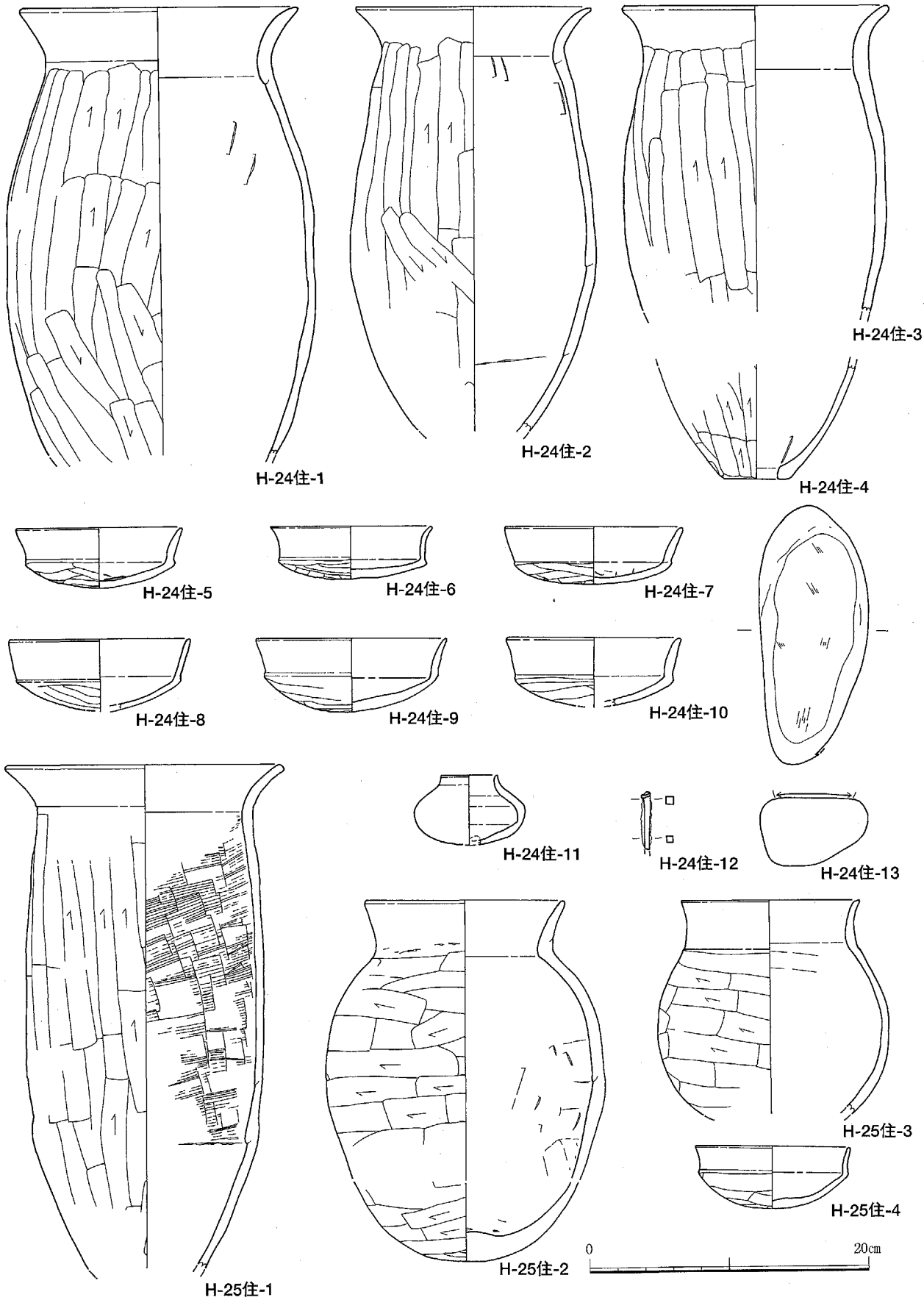
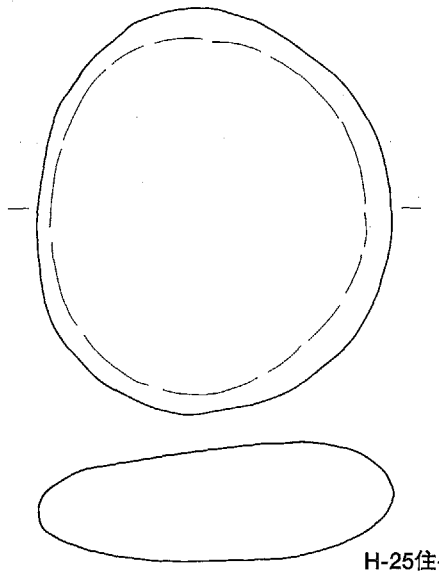
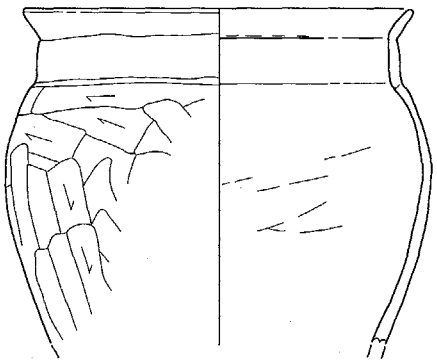


Fig.103　H－24号・H－25号住居跡出土遺物

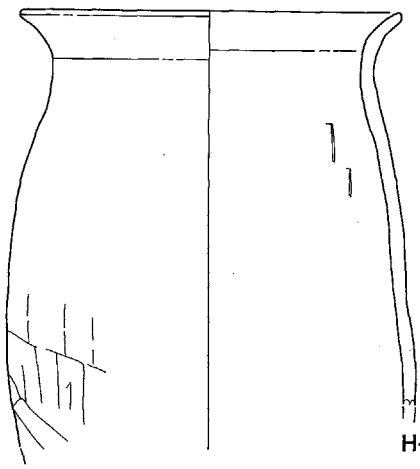


H-25住-5

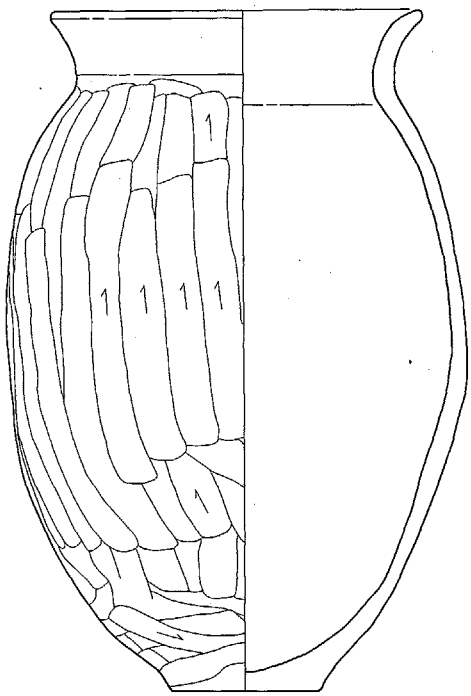


H-26住-1

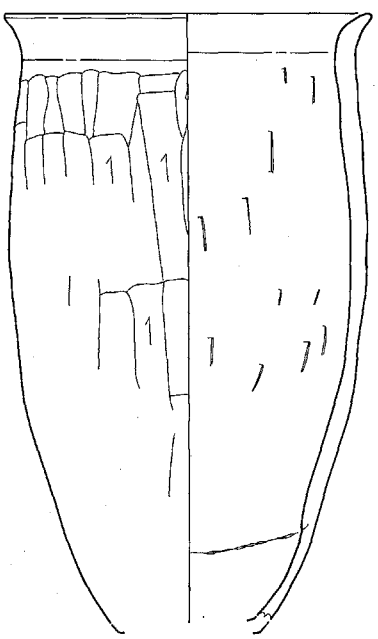
H-26住-2



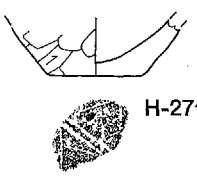
H-27住-2



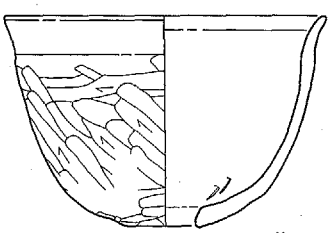
H-27住-1



H-27住-3



H-27住-4



H-27住-5

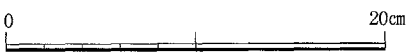
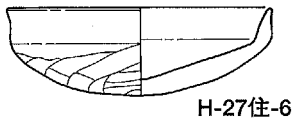
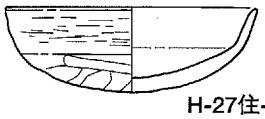


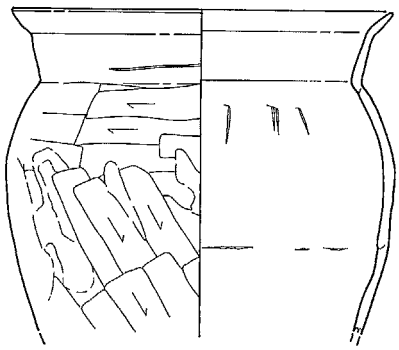
Fig.104　H－25号・H－26号・H－27号住居跡出土遺物



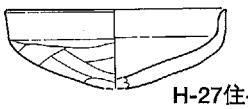
H-27住-6



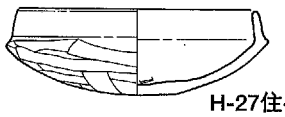
H-27住-7



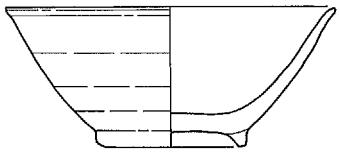
H-28住-1



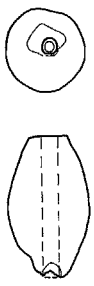
H-27住-8



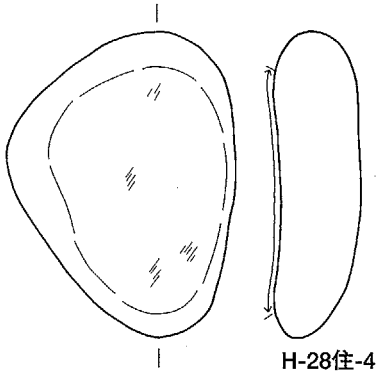
H-27住-9



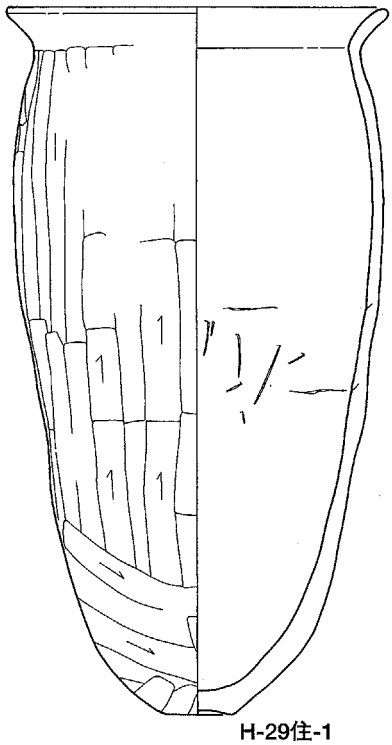
H-28住-2



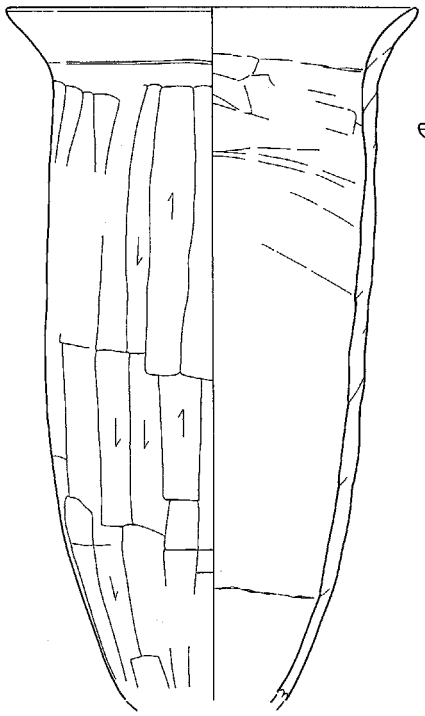
H-28住-3



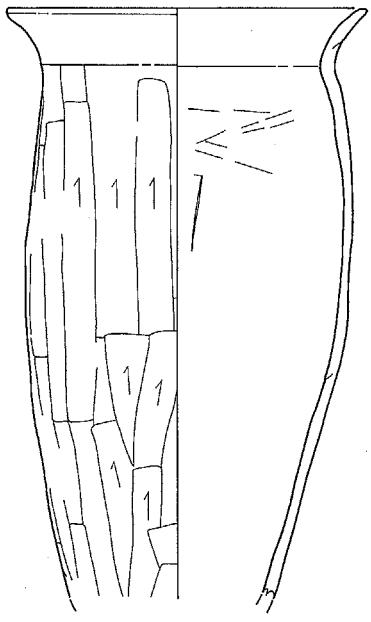
H-28住-4



H-29住-1



H-29住-2



H-29住-3

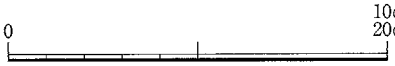
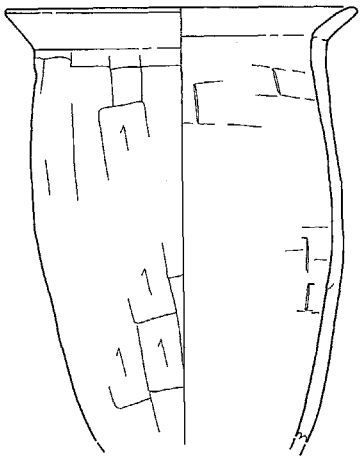
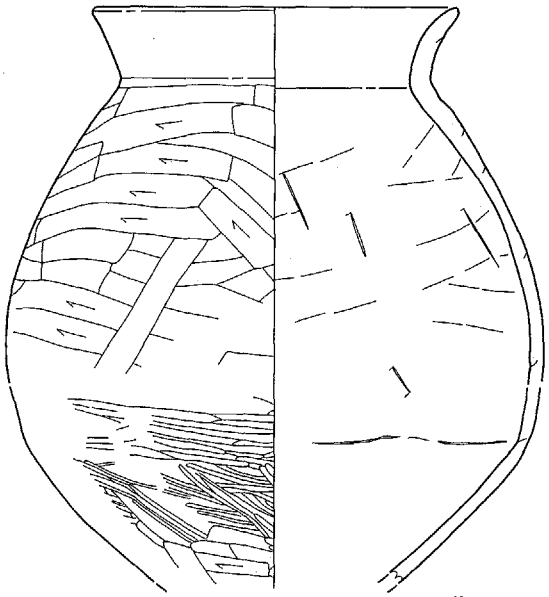
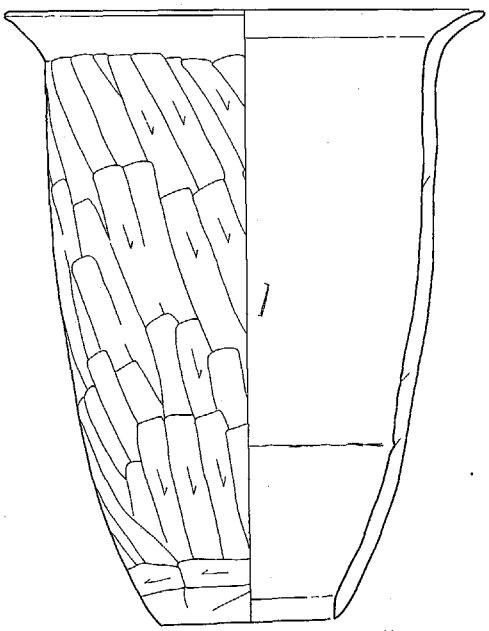
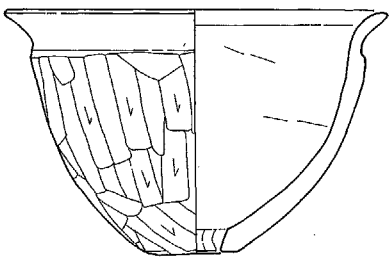


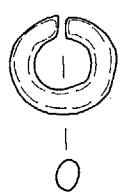
Fig.105　H－27号・H－28号・H－29号住居跡出土遺物

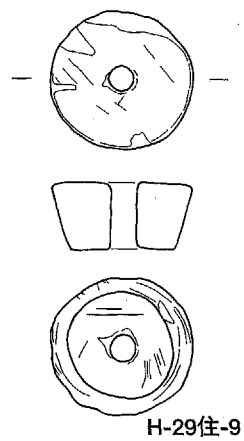

H-29住-4

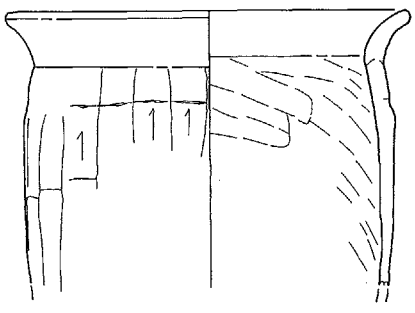

H-29住-5

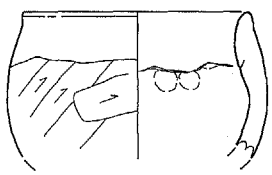

H-29住-6

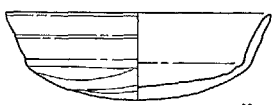

H-29住-7

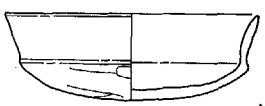

H-29住-8

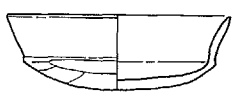

H-29住-9

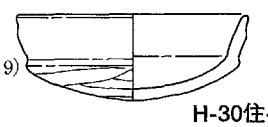

H-30住-1

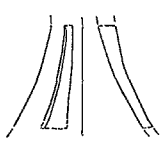

H-30住-2


H-30住-3


H-30住-4


H-30住-5


H-30住-6


H-30住-7

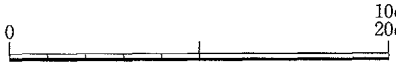


Fig.106　H－29号・H－30号住居跡出土遺物

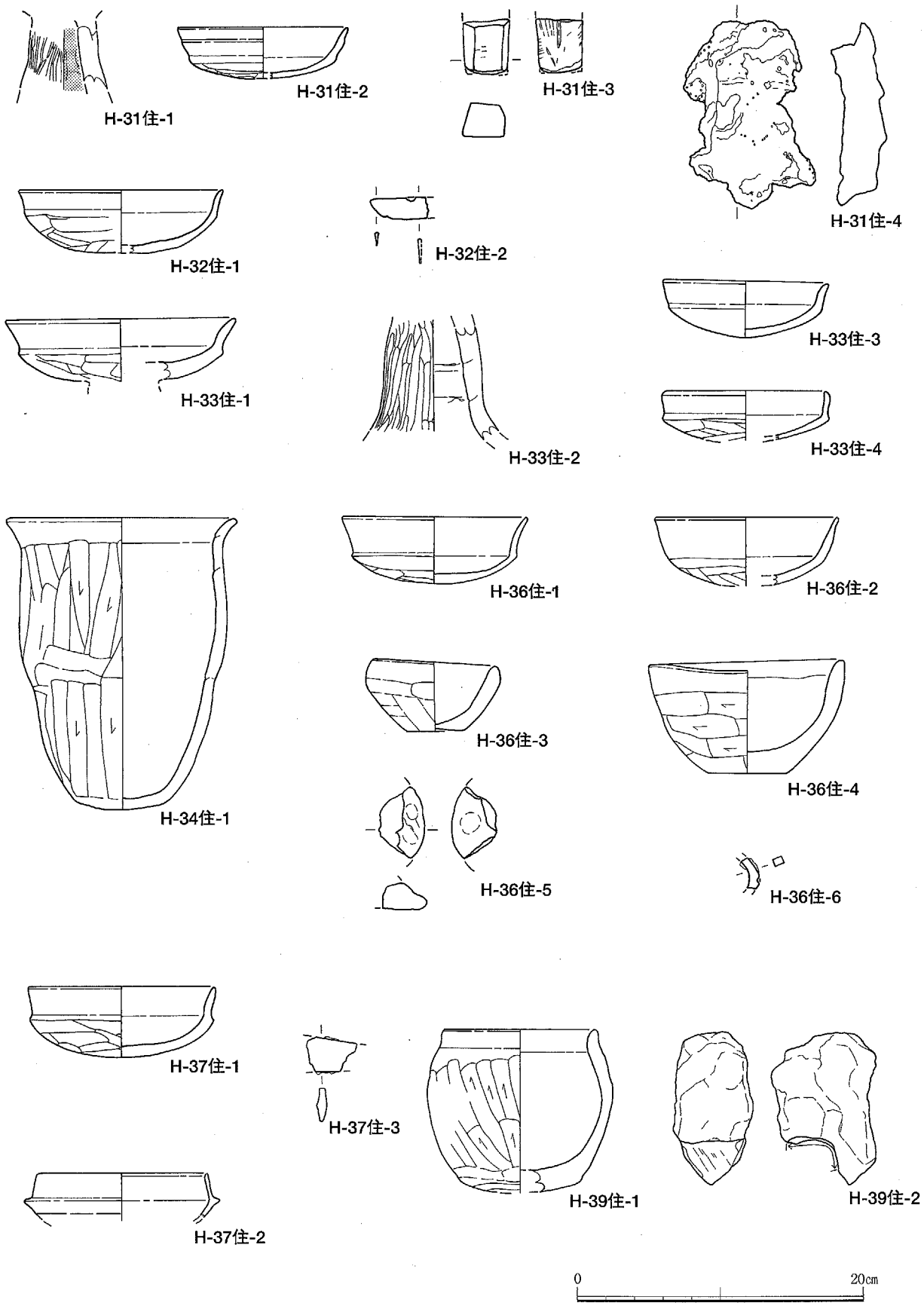


Fig.107　H－31号・H－32号・H－33号・H－34号・H－36号・H－37号・H－39号住居跡出土遺物

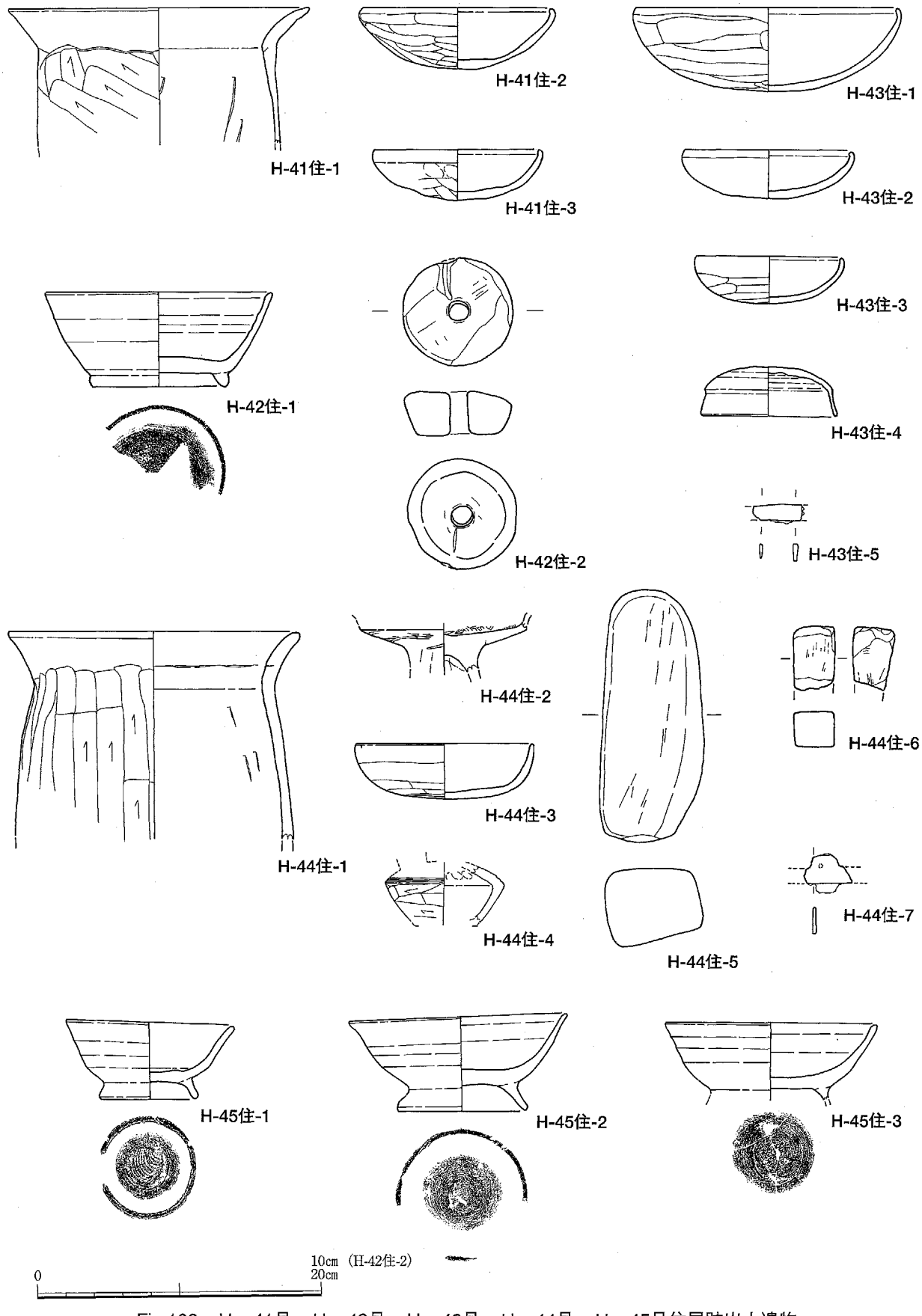


Fig.108　H－41号・H－42号・H－43号・H－44号・H－45号住居跡出土遺物

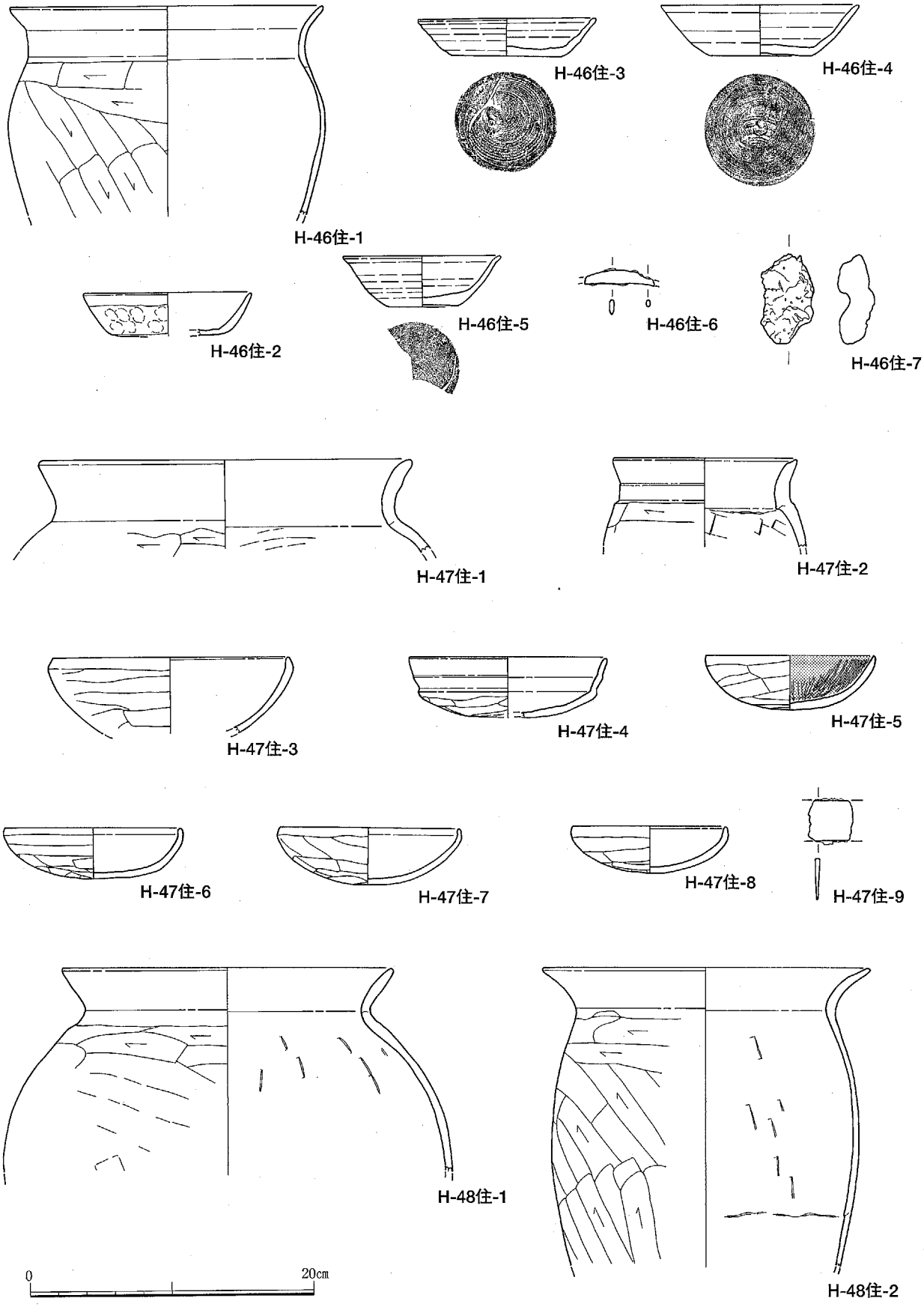


Fig.109　H－46号・H－47号・H－48号住居跡出土遺物

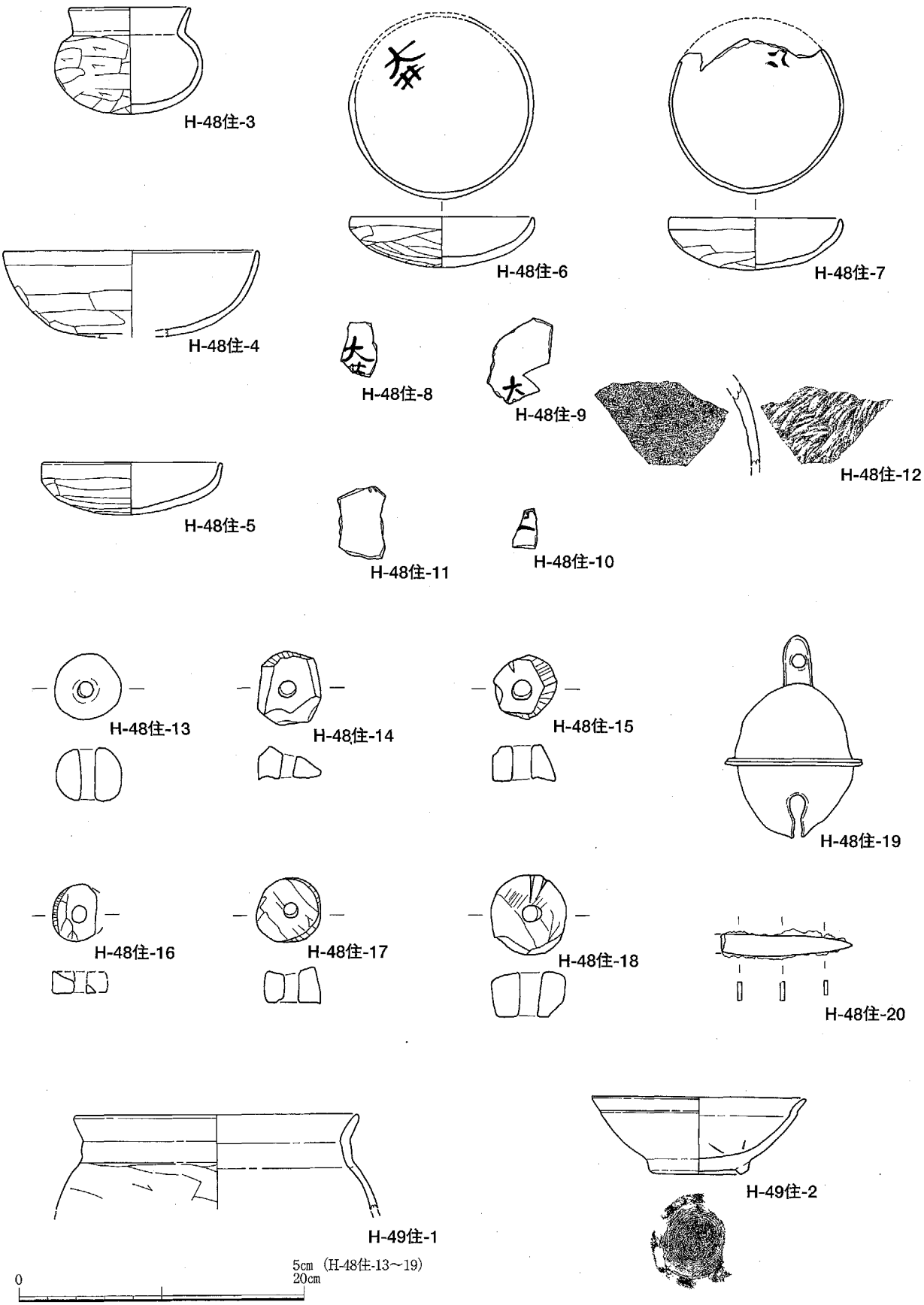


Fig.110　H－48号・H－49号住居跡出土遺物

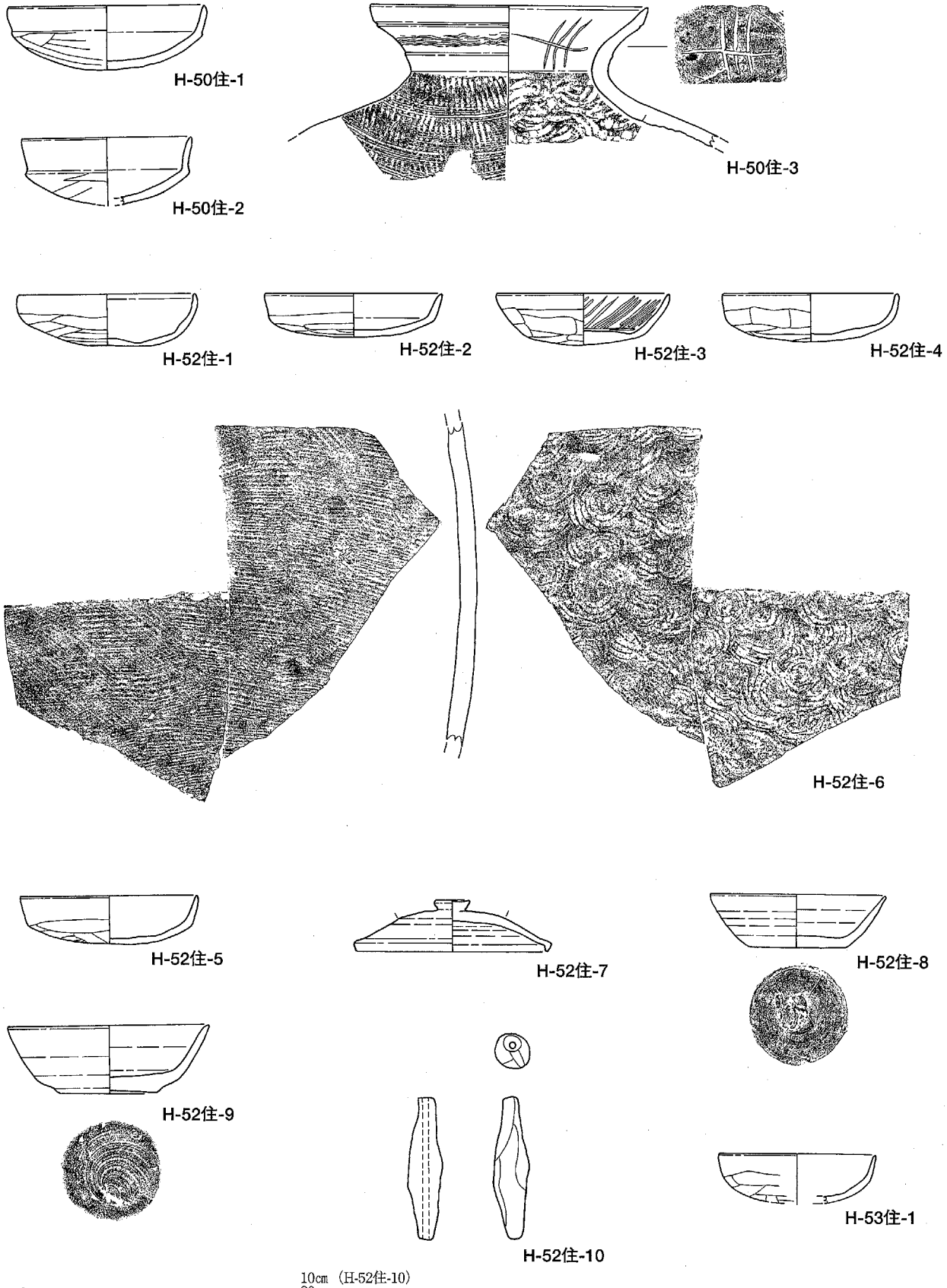
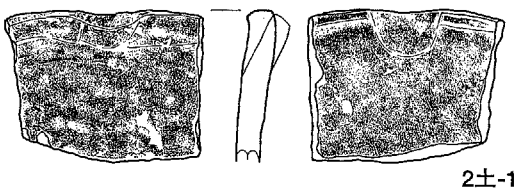
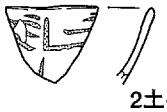


Fig.111　H－50号・H－52号・H－53号住居跡出土遺物

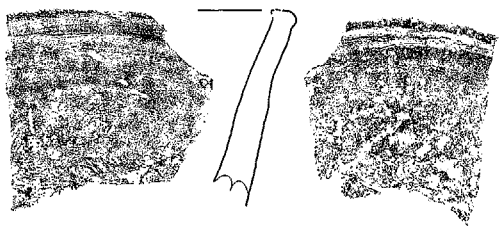


2土-1

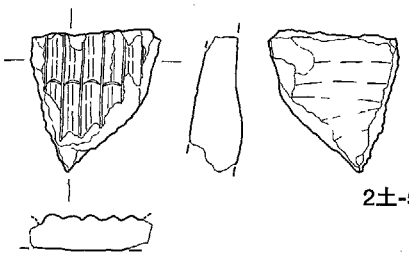
2土-2



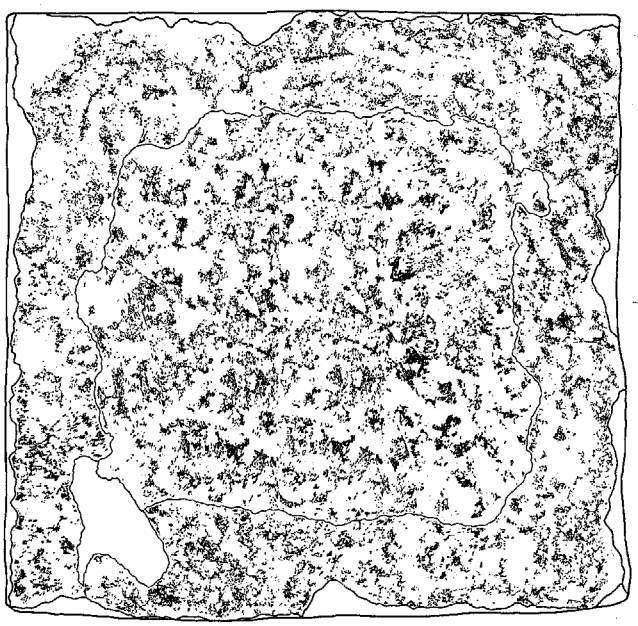
2土-4

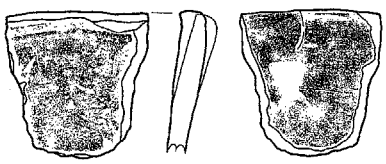


2土-3



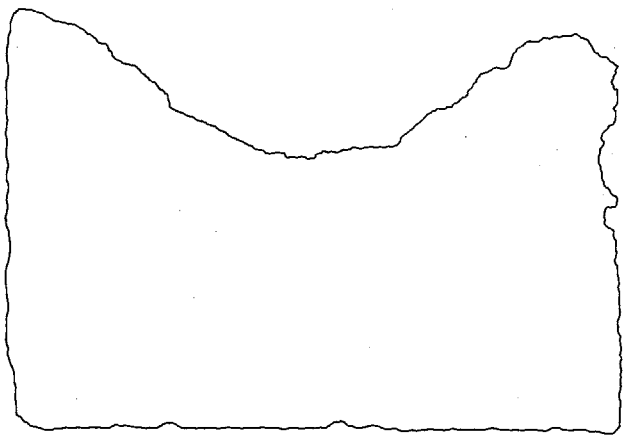
2土-5





3土-1

7土-1



7土-2

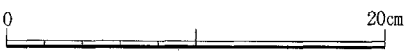


Fig.112　2号・3号・7号土坑出土遺物

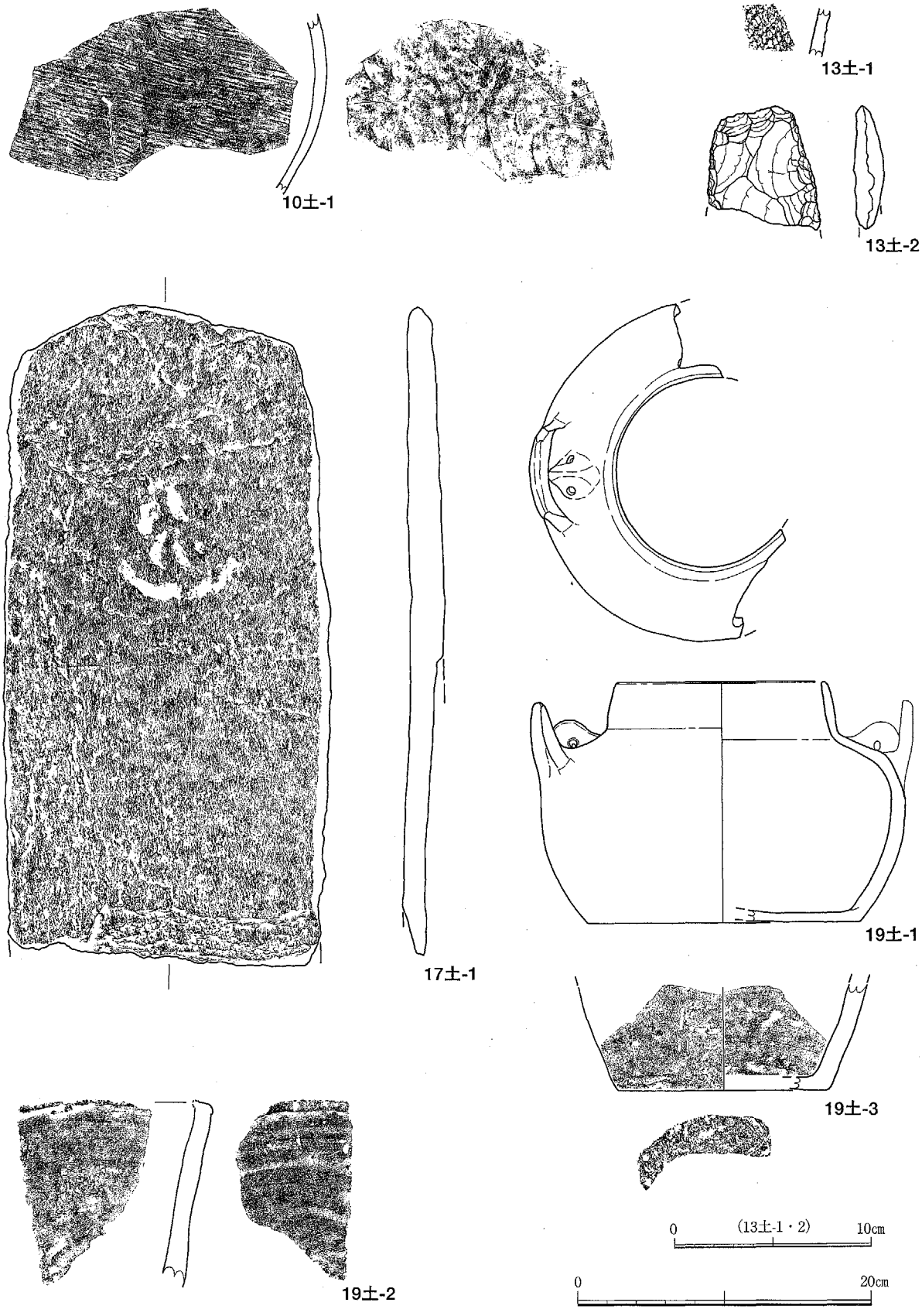


Fig.113　10号・13号・17号・19号土坑出土遺物

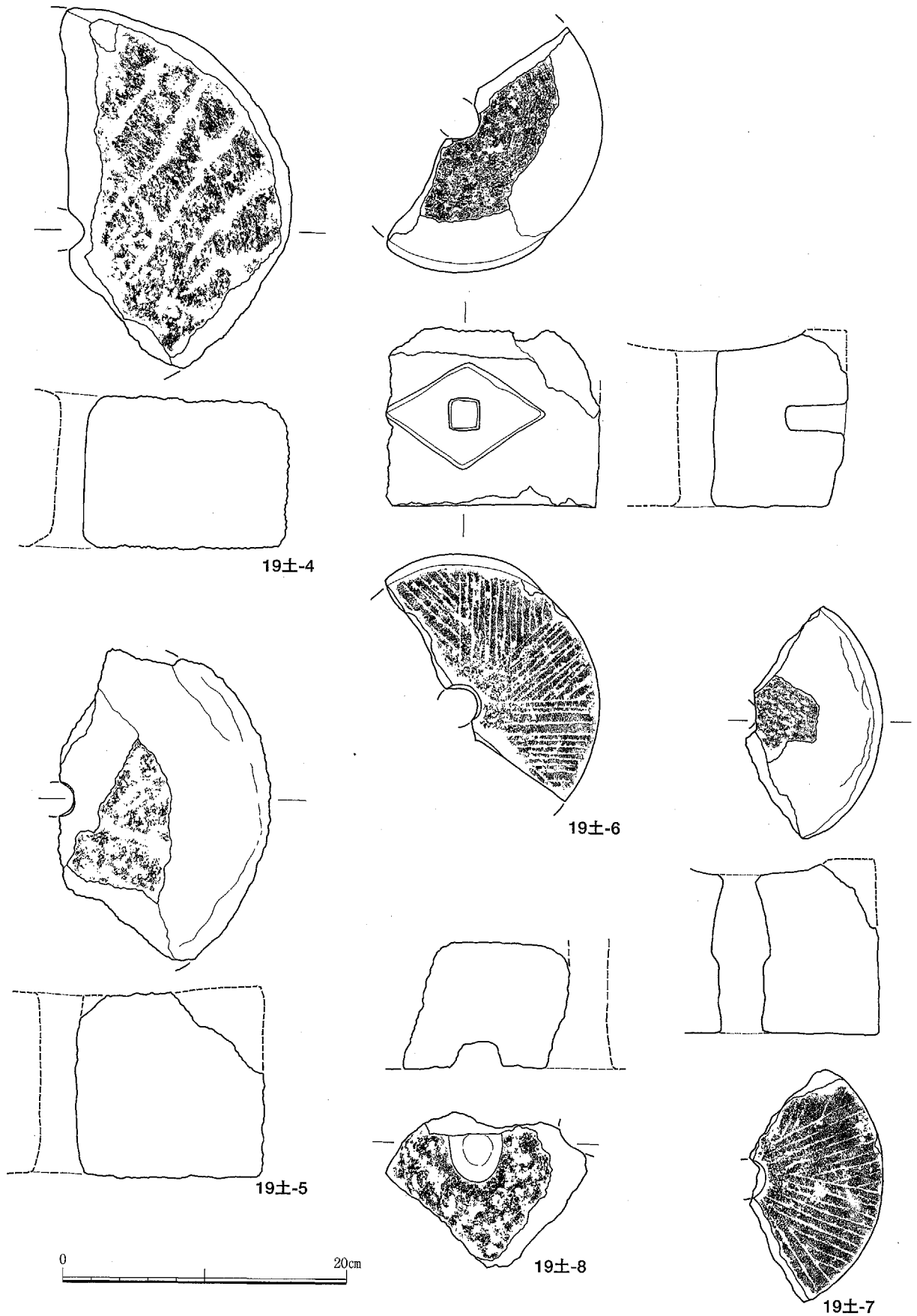


Fig.114　19号土坑出土遺物

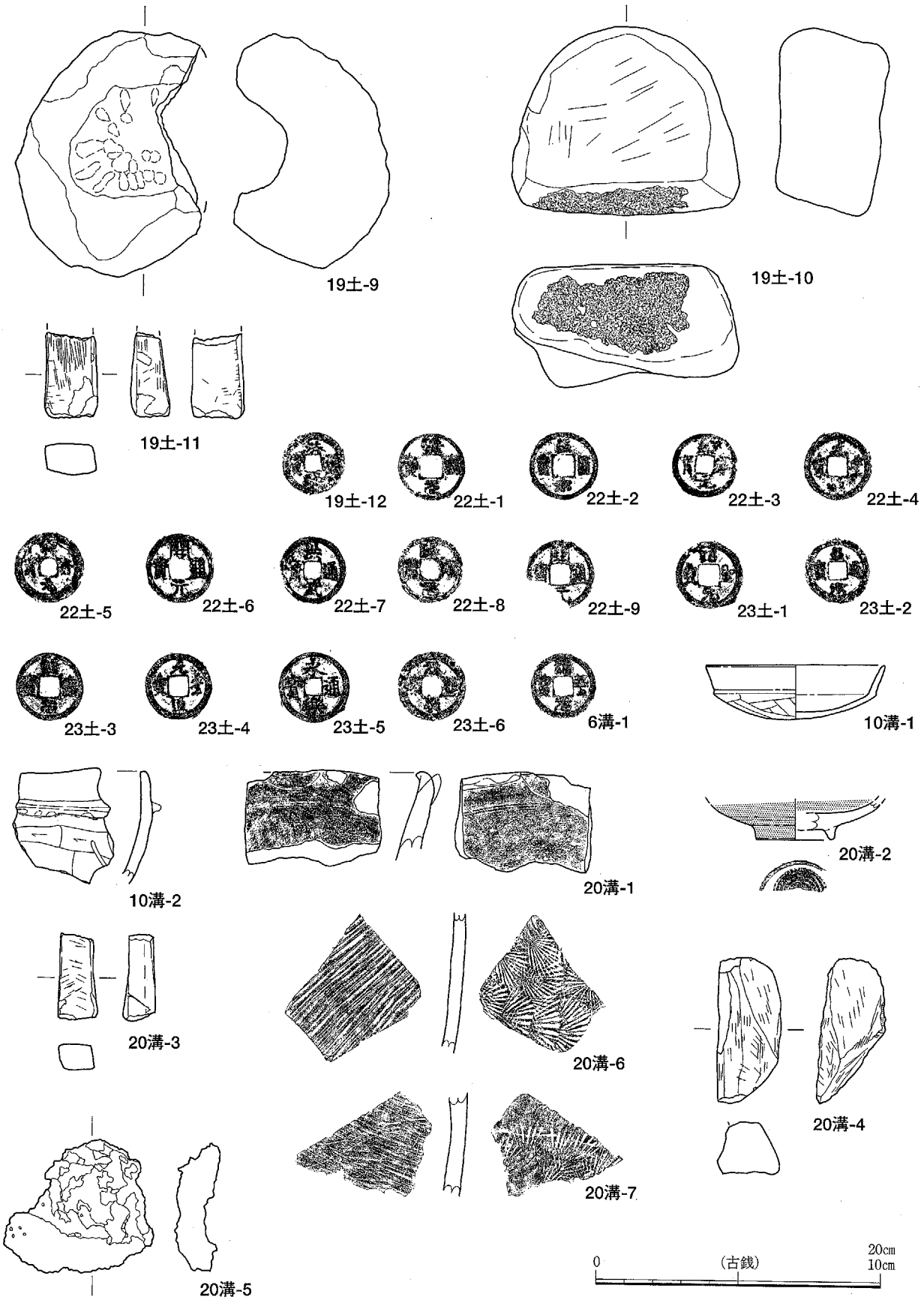


Fig.115　19号・22号・23号土坑、6号・10号・20号溝出土遺物

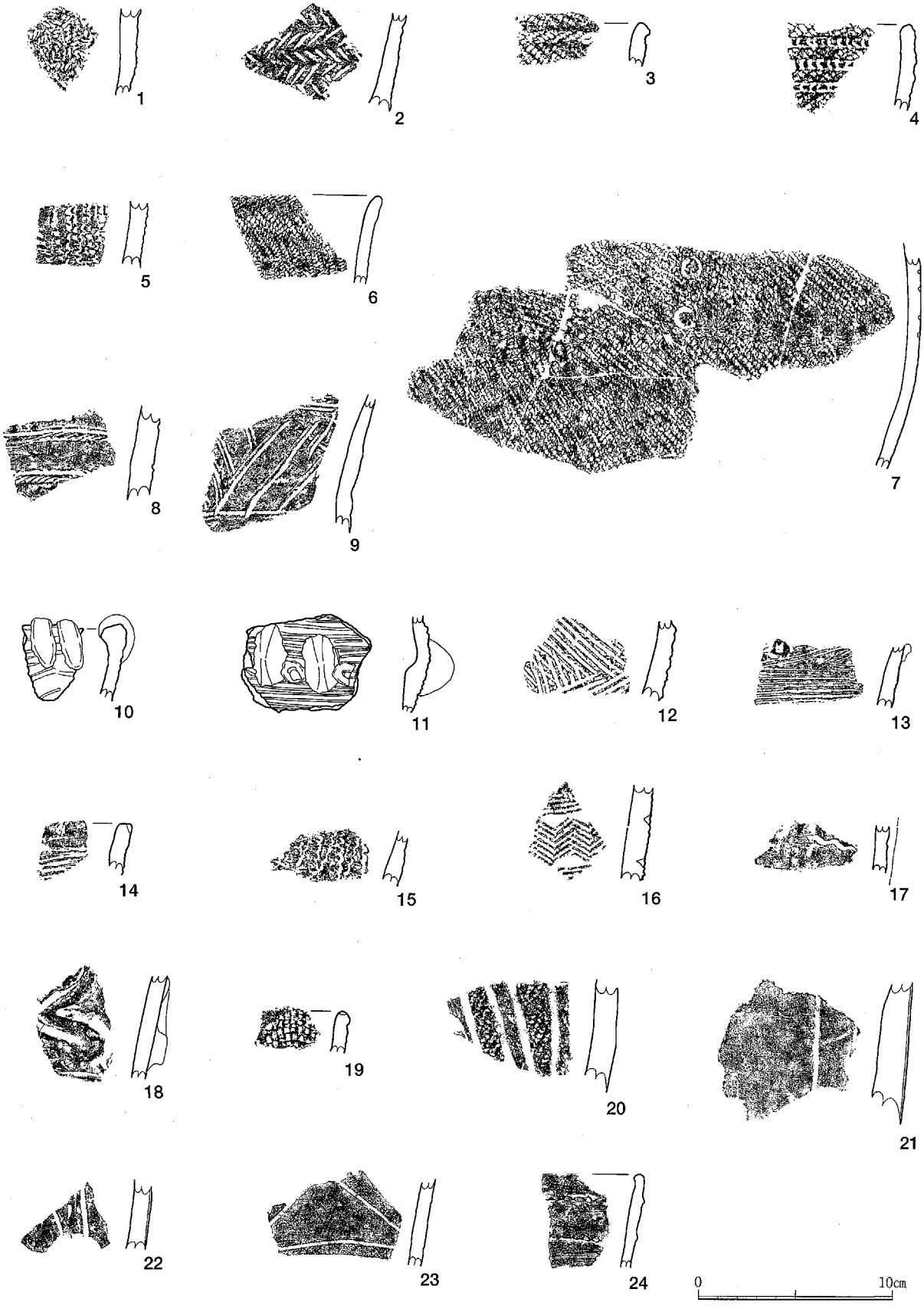


Fig.116　遺構外出土遺物①

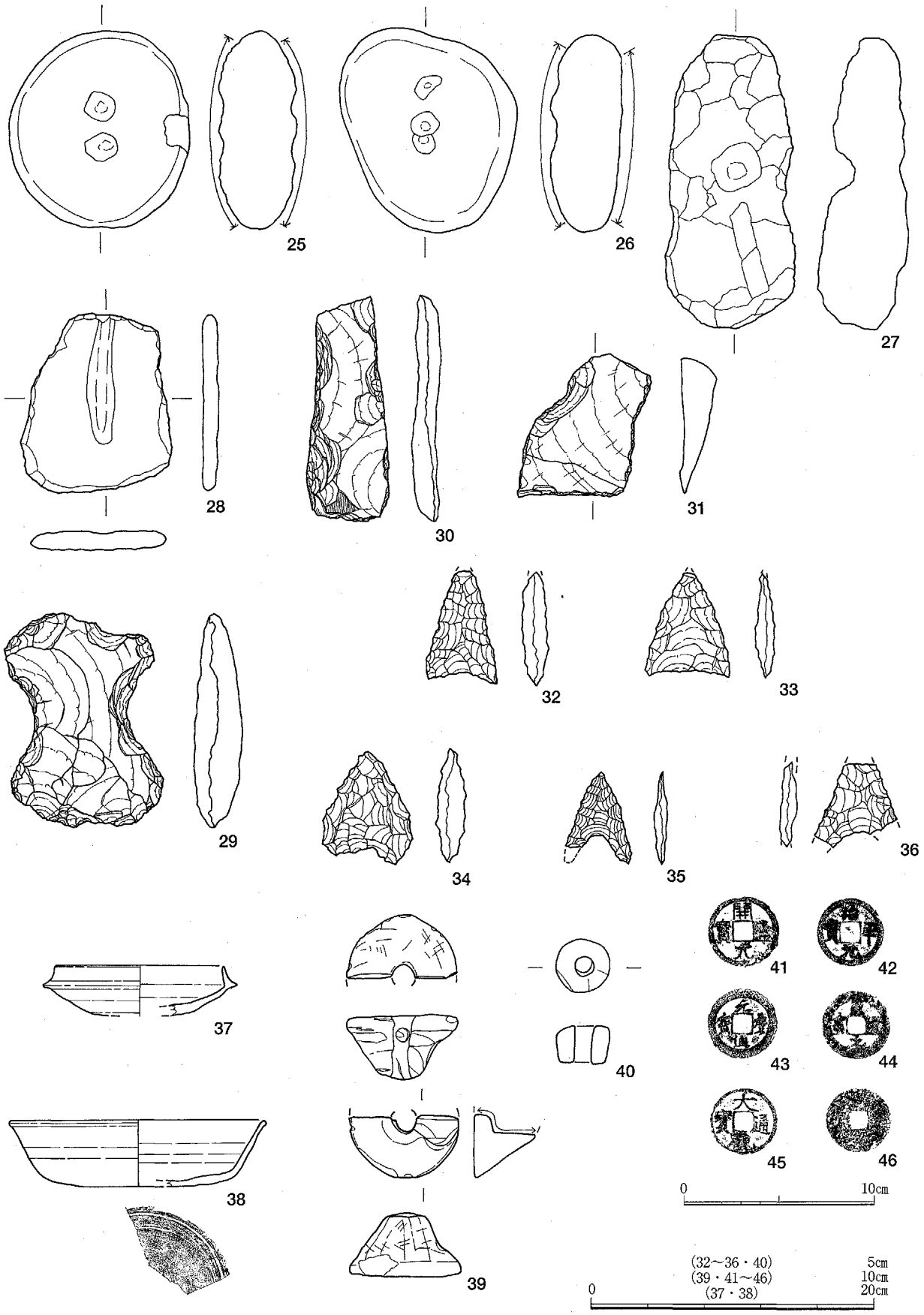


Fig.117　遺構外出土遺物②

五代木福Ⅰ遺跡遺物観察表

J－1号住居跡（Fig.96・97、PL.40・41）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	深　鉢	口径：15.1／1/2	緩やかな4単位の波状口縁。RL縄文後、口縁部・胴部に横位平行沈線。	にぶい褐	繊維・石英・白色粒	3·4·5·57·59
2	深　鉢	／胴部片	単節縄文を菱形状に施文。半截竹管状工具による変形爪形文・同心円文。	にぶい黄橙	繊維・石英・白色粒	41
3	深　鉢	底径：(14.0)／底部片	単節縄文を菱形状に施文。	にぶい橙	繊維・石英	39
4	深　鉢	／口縁部片	頂部尖る波状口縁。複節ＲＬＲ縄文。	にぶい褐	繊維・チャート	30
5	深　鉢	／口縁部片	無節Ｌ縄文。	にぶい橙	繊維・チャート	53
6	深　鉢	／上半部片	単節縄文を異方向から(菱形状に)施文。	赤褐	繊維・石英	21
7	深　鉢	／口縁部片	ＬＲ縄文。	にぶい赤褐	繊維・白色粒	－
8	深　鉢	／口縁部片	ＲＬ縄文。	にぶい黄橙	繊維・黒色鉱物	43
9	深　鉢	／口縁部片	単節縄文・変形爪形文。焼成前の穿孔あり。	にぶい黄橙	繊維・黒色鉱物	－
10	深　鉢	／胴部片	平行沈線・コンパス文。	明赤褐	繊維・石英	－
11	深　鉢	口径：23.2／上半部	ＲＬ縄文。／炉に使用。内面に二次被熱痕。	明赤褐	チャート・白色粒	56
12	深　鉢	／胴部片	ＲＬ縄文。	橙	片岩・チャート	33·37
13	深　鉢	／口縁部片	ＲＬ縄文。	明赤褐	片岩・チャート	－
14	深　鉢	／口縁部片	頂部丸みのある波状口縁。ＲＬ縄文。／補修孔あり。	明赤褐	チャート・角閃石	－
15	打製石斧	長さ：10.8cm・幅：7.7cm・厚さ：2.5cm、重さ：184.6ｇ。石材：頁岩。				13
16	Ｒ　Ｆ	長さ：5.8cm・幅：8.5cm・厚さ：2.1cm、重さ：107.7ｇ。石材：砂質頁岩。／調整のある剥片。				－
17	石　鏃	長さ：1.5cm・幅：1.1cm・厚さ：0.4cm、重さ：0.39ｇ。石材：チャート。				－

H－1号住居跡（Fig.98、PL.42）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器坏	口径：(12.1)／1/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	微砂粒・チャート	6

H－2号住居跡（Fig.98、PL.42）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器蓋	／摘み部	円板状の摘み。摘み部径2.8cm。	灰白 7.5Y7/1	片岩・チャート・黒色鉱物	－
2	須恵器蓋	口径：(16.0)／口縁部	ロクロ成・整形。口縁端部下方に折れる。	灰白 5Y8/1	チャート・白色粒・黒色鉱物	－

H－3号住居跡（Fig.98、PL.42）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器坏	器高：4.8・口径：(12.0)・底径：(5.5)／1/5	体部、内湾気味に立ち上がる。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 7.5YR7/6	石英・チャート・黒色鉱物	6
2	鉄製品	残長：3.7cm・幅：3.3cm、残重15.2g。／逆Ｕ字状の鉄製品。素材の鉄は0.4cm×0.5cm。				3
3	鉄製品	残長：5.0cm・幅：0.4cm・厚さ：0.5cm、残重4.2ｇ。／断面長方形。				－
4	鉄　滓	長さ：7.9cm・幅：7.0cm・厚さ：3.5cm、重さ：225.5ｇ。				5

H－4号住居跡（Fig.98、PL.42）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器坏	器高：4.3・口径：(12.2)・底径：(5.8)／1/5	ロクロ成・整形。口縁端部わずかに外反。底部、回転糸切り無調整。	灰白 2.5Y8/2	石英・白色粒・黒色鉱物	－

H－6号住居跡（Fig.98、PL.42）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	器高：36.3・口径：20.3・底径：4.6／完形	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／カマド左袖部に使用。	にぶい橙 7.5YR7/3	角閃石安山岩粒・石英・チャート	23
2	土師器甕	器高：42.6・口径：(19.5)・底径：5.5／4/5	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／外面一部に粘土付着。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・白色粒・チャート	17·カ
3	土師器甕	口径：16.4／1/3	外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・白色粒・チャート	1～6·カ他

H－7号住居跡（Fig.98、PL.42）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	器高：4.4・ 口径：(13.2)／1/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、黒色処理。	灰褐 7.5YR4/2	微砂粒・白色粒	5
2	薦編石	長さ：15.7cm・幅：7.0cm、重さ：842.7ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				1
3	薦編石	長さ：15.0cm・幅：7.3cm、重さ：786.7ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				2

H－8号住居跡（Fig.98、PL.42）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：12.0cm／1/6	小形甕。「コ」の字状口縁。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／外面に煤付着。	明赤褐 2.5YR5/6	角閃石・白色粒	カ
2	須恵器 椀	器高：5.7・口径：15.3・ 底径：7.2／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、高台貼り付け。	灰白 5Y7/1	石英・白色粒・黒色鉱物	－
3	須恵器 坏	器高：5.3・口径： (16.3)・底径：(8.4)／1/5	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。内面、黒色処理、下半・底部をミガキ。／酸化焔焼成。	浅黄 2.5Y7/3	角閃石・石英・白色粒	－
4	薦編石	4長さ：16.5cm・幅：6.4cm、重さ：632.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				1

H－9号住居跡（Fig.99、PL.43）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：21.1／1/3	胴部最大径推定23.2cm。外面、口縁部ナデ、胴部ハケ目。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	47・73他
2	土師器 甑	口径：(17.5)／1/5	頸部の括れ弱い。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	灰黄褐 10YR4/2	石英・白色粒・黒色鉱物	52·53·68
3	土師器 甕	口径：(15.7)／破片	小形甕。胴部最大径推定18.3cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	明褐 7.5YR5/6	石英・白色粒・黒色鉱物	43
4	土師器 高坏	底径：15.7／脚部	外面、脚部ヘラ削り、脚裾部ナデ。内面、脚部ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・白色粒	19
5	土師器 高坏	底径：15.4／脚部	外面、脚部ヘラ削り、脚裾部ナデ。内面、脚部木口状工具ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・白色粒	20
6	土師器 坏	器高：4.3・口径： 14.0／ほぼ完形	丸底。口縁部と底部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外器面、斑にハゲ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	146・151他
7	土師器 坏	器高：4.2・ 口径：15.0／1/2	丸底。口縁部と底部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外器面、斑にハゲ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	153·155他
8	土師器 坏	器高：4.0・ 口径：(11.8)／2/3	丸底。口縁部、内傾。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ、底部に放射状ミガキ。内外面、黒色処理。	黒褐 10YR3/2	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	125
9	土師器 坏	器高：4.7・ 口径：(11.9)2/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。口縁部、内傾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。内外面、黒色処理。	にぶい褐 7.5YR5/4	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	30
10	手捏土器	口径：9.7／1/2	外面、ヘラ削り。内面、粗雑なナデ、黒色処理。	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石安山岩粒	86
11	薦編石	長さ：16.2cm・幅：5.1cm、重さ：471.6ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				36
12	薦編石	長さ：13.7cm・幅：5.5cm、重さ：428.3ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。				57
13	薦編石	長さ：13.4cm・幅：6.6cm、重さ：509.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				56
14	薦編石	長さ：14.8cm・幅：6.2cm、重さ：575.5ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				35
15	薦編石	長さ：14.4cm・幅：6.6cm、重さ：513.6ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				32
16	薦編石	長さ：14.0cm・幅：7.4cm、重さ：624.9ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				37
17	薦編石	長さ：14.6cm・幅：7.2cm、重さ：649.8ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				31
18	薦編石	長さ：14.2cm・幅：5.9cm、重さ：681.1ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				3
19	薦編石	長さ：14.5cm・幅：6.8cm、重さ：830.7ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				23

H－10号住居跡（Fig.99、PL.44）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	口径：(12.0)／1/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/8	チャート・赤褐色粒	6
2	土師器 坏	器高：3.1・ 口径：8.9／3/4	丸底小形坏。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、底部ヘラナデ。内外面、黒色処理。	黄灰 2.5Y4/1	石英・白色粒・黒色鉱物	2
3	礫	長さ：17.2cm・幅：15.4cm・厚さ：5.7cm、重さ：2536.6ｇ。石材：頁岩。／両広面は非常に平滑。わずかに擦痕。砥石か。				7
4	薦編石	長さ：18.1cm・幅：7.1cm、重さ：869.0ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				3
5	薦編石	長さ：13.8cm・幅：6.8cm、重さ：769.9ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				8

H－11号住居跡（Fig.100、PL.44）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器 坏	器高：4.3・口径：14.4・ 底径：6.2／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。／還元不完全。	灰黄 2.5Y6/2	石英・チャート・ 白色粒	2～5
2	須恵器 坏	器高：3.4・口径：12.0・ 底径：5.0／1/2	ロクロ成・整形。体部、丸みを持つ。底部、回転糸切り無調整。外面体部に墨書、台形状囲いの中に「上」。／還元不完全。	にぶい黄 2.5Y6/3	石英・チャート・ 白色粒・黒色鉱物	1
3	須恵器 (椀)	口径：(15.0)／1/4	ロクロ成・整形。高台が剥落すると思われる。外面体部に墨書あり。	灰白 2.5Y7/1	角閃石・石英・白 色粒	18・カ
4	砥　石	残長：4.1cm・幅2.5cm・厚さ：1.5cm、残重：17.4ｇ。石材：流紋岩。				－

H－12号住居跡（Fig.100、PL.44）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：12.5／1/4	「コ」の字状口縁。胴部最大径13.8cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい赤褐 5YR5/4	石英・白色粒・黒 色鉱物	2·11· 14·15
2	須恵器 坏	器高：3.8・口径： (13.8)・底径：5.6／1/2	ロクロ成・整形。外面、体部下端ヘラ削り。底部、回転糸切り無調整。／燻し焼成。	灰 5Y5/1	石英・チャート・ 白色粒・黒色鉱物	1·3～6
3	刀　子	残長：18.2cm・刃部最大幅：1.5cm・茎部幅：0.9cm・刃部最大厚：0.6cm、残重：33.3ｇ。／両関。				10·23
4	刀　子	残長：4.3cm・幅：0.7cm・厚さ：0.3cm、残重：3.1ｇ。／茎部片。				22

H－13号住居跡（Fig.100、PL.44）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 (坏)	／底部小破片	内底部に墨書。	明赤褐 2.5YR5/6	石英・チャート・ 白色粒・黒色鉱物	－
2	須恵器 甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、同心円状当て具痕。	灰黄褐 10YR5/2	片岩・石英・チャ ート	4
3	須恵器 坏	器高：4.5・口径：13.7・ 底径：6.2／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。／器形歪む。	黄灰 2.5Y6/1	粗砂粒・チャート・ 白色粒・黒色鉱物	10
4	須恵器 坏	器高：4.5・口径： (13.6)・底径：6.0／1/2	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。／還元不完全。	にぶい黄 2.5Y6/3	砂礫・片岩・チャ ート・赤褐色粒	－
5	須恵器 皿	器高：2.8・口径： 14.0・底径：6.4／2/3	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、高台貼り付け。	黄灰 2.5Y5/1	片岩・チャート・ 赤褐色粒	5
6	刀　子	残長：12.4・刃部最大幅：1.1cm・茎部幅：0.8cm・刃部最大厚：0.5cm、残重：13.4ｇ。／背関。				2
7	刀　子	残長：11.7・刃部最大幅：1.4cm・刃部最大厚：0.5cm、残重：17.2ｇ。／背関。				8

H－14号住居跡（Fig.100、PL.45）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：26.2・口径： 19.8・底径：4.8／4/5	「コ」の字状口縁。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	橙 5YR6/6	片岩・石英・チャ ート・黒色鉱物	6·58· カ他
2	須恵器 坏	器高：4.4・口径： (13.2)・底径：(5.4)／1/3	ロクロ成・整形。口縁端部わずかに外反。底部、回転糸切り無調整。	灰白 10Y7/1	片岩・チャート・ 黒色鉱物	49·50

H－15号住居跡①（Fig.100・101、PL.45）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：18.0／1/4	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	明赤褐 5YR5/6	角閃石・石英・チ ャート・白色粒	2·14· 17～19
2	土師器 甕	／下半部	小形丸底甕と思われる。外面、胴部ヘラ削り。内面、胴部ヘラナデ、黒色処理。	灰黄 2.5Y6/2	角閃石・白色粒	16
3	土師器 坏	器高：4.2・口径： 13.7／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、底部ヘラナデ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・ 白色粒・黒色鉱物	34・カ
4	土師器 坏	器高：(4.2)・口 径：(12.8)／1/3	丸底。口縁部と底部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	チャート・白色 粒・黒色鉱物	1
5	薦編石	長さ：12.5cm・幅：5.9cm、重さ：619.1ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。				36
6	薦編石	長さ：13.1cm・幅：6.8cm、重さ：738.8ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。				43
7	薦編石	長さ：13.0cm・幅：5.7cm、重さ：377.5ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				37
8	薦編石	長さ：12.0cm・幅：8.2cm、重さ：724.9ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				28
9	薦編石	残長：12.9cm・幅：5.9cm、残重：624.3ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				38
10	薦編石	長さ：14.2cm・幅：5.4cm、重さ：517.4ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				40
11	薦編石	長さ：15.0cm・幅：6.4cm、重さ：685.1ｇ。石材：砂岩。／写真のみ掲載。				39

H－15号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／備考	注記
12	薦編石	長さ：11.6cm・幅：6.4cm、残重：383.5ｇ。石材：花崗岩。／写真のみ掲載。	42
13	薦編石	長さ：13.2cm・幅：4.9cm、残重：366.0ｇ。石材：チャート。／写真のみ掲載。	45
14	薦編石	長さ：15.1cm・幅：7.2cm、重さ：853.4ｇ。石材：礫岩。／写真のみ掲載。	41
15	薦編石	残長：11.5cm・幅：5.7cm、残重：359.7ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。	44

H－16号住居跡（Fig.101、PL.46）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	器高：3.9・ 口径：（13.5）／1/2	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄褐 10YR5/3	角閃石・石英・チャート・白色粒	貯
2	土師器 坏	口径：（14.0）／1/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、黒色処理。	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石・石英・白色粒	18
3	薦編石	長さ：18.0cm・幅：7.8cm、重さ：1115.0ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。				8
4	薦編石	長さ：14.0cm・幅：6.2cm、重さ：620.9ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				2
5	薦編石	長さ：15.5cm・幅：7.1cm、重さ：720.7ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				－
6	薦編石	長さ：15.3cm・幅：7.1cm、重さ：736.6ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				3
7	（鉄鏃）	復元残長：4.7cm・刃部幅：0.9cm・刃部厚：0.25cm、残重：4.9ｇ。／Ｌ字状に折れ曲がっているが長頸片刃鏃と思われる。				－

H－17号住居跡（Fig.101、PL.46）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／残存	色　調	胎　土	注記
1	土師器 鉢	器高：9.8・ 口径：（21.4）／1/3	丸底。口縁部、外反。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石・石英・白色粒・赤褐色粒	12・貯
2	土師器 鉢	口径：（17.7）／1/2	丸底と推定される。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り後ナデ。内面、ナデ。	にぶい赤褐 2.5YR4/4	角閃石・石英・白色粒	1～3・15・28
3	土師器 高坏	口径：（19.4）／坏部1/2	坏部の口縁部下に稜。外面、口縁部ナデ、坏底部ヘラ削り・下側ミガキ。内面、黒色処理、底部ミガキ。	明赤褐 2.5YR5/6	角閃石・石英・白色粒	－
4	土師器 坏	器高：4.2・ 口径：12.3／3/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、黒色処理、ミガキ。	灰褐 7.5YR4/2	角閃石・石英・白色粒	5・29
5	土師器 坏	器高：4.3・ 口径：13.4／3/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。内外面とも丁寧なナデ。	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒・黒色鉱物・赤褐色粒	19
6	土師器 坏	器高：5.2・ 口径：（14.5）／2/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、黒色処理、下半を粗雑なミガキ。	明赤褐 5YR5/6	角閃石・石英・白色粒	11
7	土師器 坏	器高：4.3・ 口径：12.7／2/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、黒色処理。	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒・黒色鉱物	－
8	土師器 坏	器高：4.2・ 口径：（11.3）／2/3	丸底。口縁部と体部との境は鋭利に屈曲し、口縁部内傾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、黒色処理。	にぶい赤褐 5YR5/4	石英・チャート・赤褐色粒	26
9	土師器 坏	器高：（3.8）・ 口径：（14.6）／1/3	丸底。有段口縁で底部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/8	白色粒・黒色鉱物・赤褐色粒	貯
10	土師器 坏	器高：4.1・ 口径：（11.2）／2/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/8	角閃石・石英・チャート・赤褐色粒	16
11	須恵器 甕	／胴部片	外面、擬格子目叩き。内面、同心円状当て具痕。	灰 5Y6/1	チャート・白色粒・黒色鉱物	－
12	刀　子	残長：4.2cm・最大幅：1.6cm・厚さ：0.2cm、残重：4.7ｇ。／径3㎜ほどの孔あり。				－

H－19号住居跡①（Fig.101、PL.46・47）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 椀	口径：（12.6）／上半部片	外面、口縁部ナデ、体部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石安山岩粒・赤褐色粒	22
2	土師器 坏	器高：3.5・ 口径：13.1／2/3	丸底。身浅い。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石・白色粒	9
3	土師器 坏	器高：2.8・口径：（14.0）・底径：（13.8）／1/3	平底で箱状の器形。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	褐灰 10YR4/1	角閃石・白色粒	－
4	土師器 坏	器高：4.1・ 口径：（12.4）1/2	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部木口状工具ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／焼成還元気味。	灰黄褐 10YR6/2	角閃石・白色粒・赤褐色粒	33・35
5	薦編石	長さ：15.5cm・幅：5.7cm、重さ：637.0ｇ。石材：チャート。／写真のみ掲載。				4
6	薦編石	長さ：11.4cm・幅：5.6cm、重さ：294.8ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				7
7	薦編石	長さ：13.9cm・幅：6.2cm、重さ：396.7ｇ。石材：砂岩。／写真のみ掲載。				11
8	薦編石	長さ：13.8cm・幅：7.2cm、重さ：613.3ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。				23

H－19号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／備考	注記
9	薦編石	長さ：14.4cm・幅：6.5cm、重さ：632.2ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	28
10	薦編石	長さ：13.9cm・幅：6.7cm、重さ：654.5ｇ。石材：チャート。／写真のみ掲載。	31
11	薦編石	長さ：13.9cm・幅：6.8cm、重さ：609.5ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	32
12	薦編石	長さ：16.4cm・幅：7.3cm、重さ：861.4ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	貯

H－20号住居跡（Fig.101、PL.47）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：12.4／上半部	「コ」の字状口縁。小形甕。胴部最大径13.7cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ナデ。／外面に煤付着。	橙 5YR6/6	石英・黒色鉱物・白色粒	1
2	(台石)	長さ：22.3cm・幅：15.8cm・厚さ：5.9cm、重さ：2540.8ｇ。石材：石英安山岩。／小凹み・擦痕あり。図右側面は平滑。				2
3	装飾品	長さ：2.6cm・幅：1.9cm・厚さ：0.7cm、重さ：6.1ｇ。石材：滑石。／穿孔あり。図右上にも穿孔痕。右側面に調整痕。有孔円板または勾玉等、石製模造品の失敗品か。重複するH－17号住居跡に帰属する可能性がある。				－

H－21号住居跡（Fig.102、PL.47）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：(20.1) ／上半部1/3	胴部、大きく膨らみ最大径推定27.9cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR6/2	角閃石安山岩粒・石英	4
2	土師器 甕	口径：15.4／上半部	頸部の括れ弱い。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／内外面に黒色物付着。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・白色粒	3･7･カ
3	土師器 甕	器高：21.4・口径： (15.2)・底径：5.4／5/6	外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／外面下半に粘土、内面下半に澱粉状物付着。	にぶい褐 7.5YR5/3	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	1・カ
4	土師器 高坏	口径：14.1／坏部4/5	坏底部は非常に厚い造り。口縁部下に稜。内外面ともナデ。	にぶい黄橙 10YR6/3	石英・白色粒・黒色鉱物	1
5	土師器 高坏	口径：14.6／坏部	坏底部は非常に厚い造り。外面、口縁部木口状工具ナデ、体部ヘラ削り後ナデ。内面、ナデ。孔は脚部装着痕と思われる。	にぶい黄橙 10YR6/4	石英・白色粒・黒色鉱物	9
6	土師器 高坏	底径：13.7／脚部	外面、ヘラ削り後ナデ、裾部ナデ。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石安山岩粒・石英	6
7	土師器 坏	器高：5.2・口径： 11.3／5/6	丸底。全体的に厚手。外面、口縁部木口状工具ナデ、体部・底部ナデ。内面、ナデ。	明赤褐 5YR5/6	角閃石安山岩粒・石英	5

H－22号住居跡①（Fig.102、PL.48）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：(20.7)／1/5	球胴甕。胴部最大径推定29.2cm。外面、口縁部ナデ、胴部ミガキ。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	明赤褐 5YR5/6	角閃石安山岩粒・石英・赤褐色粒	25･26･27
2	土師器 高坏	／脚部1/2	外面、ミガキ、裾部は横ナデ。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石安山岩粒・石英	35
3	土師器 坏	器高：4.8・口径： 13.0・底径：5.0／完形	平底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、下半に粗雑なミガキ。	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石・石英・白色粒	4
4	土師器 坏	器高：4.1・ 口径：(13.0)／3/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、放射状のミガキ。／燻し焼成気味。	灰褐 7.5YR4/2	角閃石・チャート・石英・白色粒	19･21
5	土師器 坏	器高：5.6・ 口径：(13.2)／3/4	丸底。口縁部下にわずかな稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、下半部ヘラナデ、黒色処理。	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石・石英・白色粒	6・7
6	土師器 坏	口径：(14.0)／1/3	丸底。有段口縁。口縁部下に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい赤褐 5YR4/4	石英・チャート・白色粒	11
7	土師器 坏	口径：(12.9)／1/3	丸底。有段口縁。口縁部下に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／燻し焼成気味。	にぶい黄褐 10YR5/3	石英・チャート・白色粒	カ
8	須恵器 高坏	／脚部片	長方形透かし三方と推定される。／図上復元。	黄灰 2.5Y5/1	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	36
9	薦編石	長さ：16.9cm・幅：7.4cm、重さ：1034.1ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。				1
10	薦編石	長さ：16.0cm・幅：6.8cm、重さ：590.9ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				2
11	薦編石	長さ：15.5cm・幅：7.6cm、重さ：859.6ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				15
12	薦編石	長さ：15.1cm・幅：5.1cm、重さ：579.5ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				3
13	薦編石	長さ：17.5cm・幅：7.4cm、重さ：788.9ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				14
14	薦編石	長さ：16.8cm・幅：6.5cm、重さ：865.6ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				23
15	薦編石	長さ：16.9cm・幅：6.7cm、重さ：923.4ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				18
16	薦編石	長さ：16.5cm・幅：7.1cm、重さ：960.5ｇ。石材：砂岩。／写真のみ掲載。				－
17	薦編石	長さ：14.8cm・幅：7.5cm、重さ：941.0ｇ。石材：黒色安山岩。／写真のみ掲載。				17

J－22号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／備考	注記
18	薦編石	長さ：13.5cm・幅：8.0cm、重さ：816.5ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	22
19	薦編石	長さ：19.7cm・幅：7.0cm、重さ：980.1ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	16
20	薦編石	長さ：13.8cm・幅：6.1cm、重さ：685.7ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	10
21	薦編石	長さ：16.6cm・幅：7.9cm、重さ：836.4ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	24
22	薦編石	長さ：16.1cm・幅：7.0cm、重さ：771.6ｇ。石材：チャート。／写真のみ掲載。	20
23	薦編石	長さ：17.1cm・幅：6.4cm、重さ：955.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	－
24	薦編石	長さ：19.6cm・幅：7.2cm、重さ：1293.8ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	32
25	薦編石	長さ：16.6cm・幅：5.8cm、重さ：612.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	28
26	薦編石	長さ：17.2cm・幅：7.6cm、重さ：1034.9ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	30
27	薦編石	長さ：14.9cm・幅：5.2cm、重さ：513.4ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。	－

J－23号住居跡（Fig.102、PL.49）

No.	器　種	計測値(cm)／備考	注記
1	白　玉	径：1.3cm×1.2cm・厚さ：0.8cm、重さ：1.9ｇ。石材：緑色岩類。	－

J－24号住居跡（Fig.103、PL.49）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	口径：20.0cm／3/4	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石安山岩粒・石英	93･カ他
2	土師器甕	口径：(17.0)／1/3	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 5YR6/4	角閃石安山岩粒・石英	48･65他
3	土師器甕	口径：19.2／上半部	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／外面に粘土付着。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石・石英・チャート・白色粒	72･カ他
4	土師器甑	底径：4.6／底部	外面、ヘラ削り。内面、ヘラナデ。孔径2.9cm。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	58･84他
5	土師器坏	器高：4.4・口径：12.0／完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、底部ヘラナデ。	橙 5YR6/8	微砂粒・石英・赤褐色粒	42
6	土師器坏	器高：3.8・口径：11.6／完形	丸底。口縁部外反し、体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 2.5YR6/8	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	43
7	土師器坏	器高：4.1・口径：12.8／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、底部ヘラナデ。	橙 2.5YR6/6	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	37･52･53
8	土師器坏	口径：13.1／2/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/8	微砂粒・赤褐色粒	貯
9	土師器坏	器高：5.3・口径：13.8／2/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒・黒色鉱物・赤褐色粒	43･54･57
10	土師器坏	口径：(12.6)／1/2	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 2.5YR6/6	石英・黒色鉱物・赤褐色粒	貯
11	須恵器短頸壺	器高：(5.0)・口径：(4.0)1/2	小形短頸壺。丸底。胴部最大径推定8.0cm。全体をナデ、内面底部に指頭圧痕。	灰 N5/	石英・白色粒・黒色鉱物	14
12	鉄　釘	残長：4.1cm・上部：0.50cm×0.45cm、残重：3.5ｇ。／断面方形。				－
13	砥　石	長さ：18.6cm・幅：8.0cm・最大厚：6.1cm、残重：1333.5ｇ。石材：頁岩。／図表面が平滑で、わずかな擦痕。				25

J－25号住居跡①（Fig.103・104、PL.50）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	口径：20.0cm／2/3	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部木口状工具強いナデ。／外面一部に粘土付着。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	26･42他
2	土師器甕	器高：(25.7)・口径：14.4／1/2	丸底。胴部最大径推定20.1cm。外面、口縁部ナデ、胴部横位ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／図上復元。	にぶい黄褐 10YR5/3	角閃石・石英・チャート・白色粒	5～7･13･14
3	土師器甕	口径：12.8／2/3	胴部中位付近に最大径16.6cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	橙 5YR6/8	角閃石・白色粒・赤褐色粒	15･45･カ他
4	土師器坏	器高：4.5・口径：11.1／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/6	チャート・赤褐色粒	12
5	台　石	長さ：21.4cm・幅：18.7cm・厚さ：6.2cm、重さ3640ｇ。石材：輝石安山岩。／両広面部分的に平滑。被熱痕あり。				3
6	薦編石	残長：7.4cm・幅：7.4cm、残重：351.0ｇ。石材：ヒン岩。／1/2欠損。写真のみ掲載。				10
7	薦編石	長さ：14.0cm・幅：6.5cm、重さ：815.9ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。				47
8	薦編石	長さ：12.2cm・幅：6.8cm、重さ：528.1ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。				1
9	薦編石	長さ：17.1cm・幅：7.3cm、重さ：863.0ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				4

H－25号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／備考	注記
10	薦編石	長さ：13.0cm・幅：6.5cm、重さ：574.7ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	44
11	薦編石	長さ：12.4cm・幅：5.9cm、重さ：457.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	－
12	薦編石	長さ：15.0cm・幅：6.5cm、重さ：687.4ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	48
13	薦編石	長さ：12.6cm・幅：5.6cm、残重：380.5ｇ。石材：輝石安山岩。／一部欠損。写真のみ掲載。	46
14	薦編石	長さ：12.3cm・幅：5.7cm、重さ：388.4ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。	50
15	薦編石	長さ：18.4cm・幅：8.9cm、重さ：1313.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	11
16	薦編石	長さ：13.0cm・幅：6.2cm、重さ：430.8ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	18
17	薦編石	長さ：15.4cm・幅：6.8cm、重さ：562.2ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。	43
18	薦編石	長さ：14.3cm・幅：6.5cm、重さ：509.2ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。	28

H－26号住居跡（Fig.104、PL.51）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	口径：20.8／1/5	「コ」の字状口縁。胴部最大径推定22.6cm　。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	橙 2.5YR6/6	角閃石・チャート・白色粒	2・3
2	土師器坏	口径：(11.0)／破片	口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／紛れ込み。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	2

H－27号住居跡（Fig.104・105、PL.51）

No.	器　種.	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	器高：35.8・口径：(19.7)・底径:7.8／3/4	胴部中位付近に最大径24.3cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/2	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	6･47他
2	土師器甕	口径：(20.2)／上半部	外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り後に丁寧なナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/2	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	19･53他
3	土師器甕	口径：(19.4)／1/3	外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	40
4	土師器甕	底径：(4.8)／底部	外面、胴部ヘラ削り、底部に木葉痕。内面、ナデ。	灰褐 7.5YR4/2	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	－
5	土師器甑	器高：11.1・口径：17.0・底径：3.5／4/5	頸部の括れ弱く、口縁部やや外反。外面、口縁部ナデ、胴部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、胴部、底部ヘラナデ。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	40
6	土師器坏	器高：4.6・口径：14.0 ／4/5	丸底。口縁部と体部との境にわずかな稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石・石英・白色粒	32･33･36
7	土師器坏	器高：4.5・口径：13.3／3/4	丸底。口縁部と体部との境にわずかな稜。外面、口縁部木口状工具ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石・石英・チャート・白色粒	22
8	土師器坏	口径：(11.8)／1/2	丸底。口縁部と体部との境にわずかな稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	灰黄 2.5Y7/2	角閃石・石英・白色粒	23･24
9	土師器坏	器高：4.5・口径：12.8／3/4	丸底。口縁部内傾し、体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	38

H－28号住居跡（Fig.105、PL.52）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	口径：(20.0)／上半部1/3	「コ」の字状口縁。胴部上位に最大径推定20.5cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	14･15
2	須恵器椀	器高：7.4・口径：(17.5)・底径：8.0／1/2	ロクロ成・整形。口縁端部わずかに外反。底部、回転糸切り後、高台貼り付け。	灰黄 2.5Y6/2	片岩・チャート・黒色鉱物	5
3	土　錘	長さ：3.8cm・最大径：2.2cm・孔径：0.4cm、残重：15.6ｇ。／上下端部一部欠損。色調：にぶい黄褐10YR5/3。				11
4	礫	長さ：16.1cm・幅：12.1cm・厚さ：4.7cm、重さ：1378.3ｇ。石材：輝石安山岩。／上面平滑でわずかに擦痕。砥石か。				3

H－29号住居跡①（Fig.105・106、PL.52・53）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	器高：37.1・口径：(20.2)・底径：3.7／2/3	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／内面下半の器面荒れる。	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石安山岩粒・石英・チャート	2･4･5･26
2	土師器甕	口径：21.7／底部欠損	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部強いヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	4･16･20他
3	土師器甕	口径：19.0／底部欠損	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石安山岩粒・石英・チャート	4･24
4	土師器甕	口径：18.6／1/3	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／外面部分的に粘土付着。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	33･34

H－29号住居跡②

No	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
5	土師器 甕	口径：19.4／1/2	胴部最大径28.5cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り後、下半部ミガキ。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／図上復元。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	6・31 他
6	土師器 甑	器高:32.3・口径：(25.4)・底径：9.4／5/6	無底式。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	赤 10YR5/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	13・24 他
7	土師器 甑	器高：13.0・口径：20.3・底径：4.8／5/6	孔径2.6cm。口縁部下に穿。胴部丸みを持つ。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	浅黄橙 10YR8/3	角閃石・石英・チャート・白色粒	1・4
8	耳　環	長さ：2.7cm・幅：2.9cm・厚さ：0.8cm×0.6cm、重さ：18.5ｇ。／銅製地に金箔（大半が剥離）。				3
9	紡錘車	上面径：3.3cm・下面径：2.7cm・高さ：1.8cm・孔径：0.6cm、残重：40.4ｇ。石材：滑石。／一部欠損。				29

H－30号住居跡（Fig.106、PL.53）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：(21.4)／上半部片	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・白色粒	12・13
2	土師器 鉢	口径：(12.1)／上半部片	外面、口縁部木口状工具ナデ、体部ヘラ削り。内面、ナデ、指頭圧痕。／燻し焼成気味。	黒褐 10YR3/1	角閃石安山岩粒	2
3	土師器 坏	器高：4.6・口径：14.0／5/6	丸底。有段口縁で体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／燻し焼成気味。	オリーブ黒 5Y3/1	角閃石・石英・白色粒	30・36
4	土師器 坏	器高：4.5・口径：13.5／3/4	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削りあるが摩滅。内面、ナデ。	橙 5YR7/8	チャート・黒色鉱物	20・34
5	土師器 坏	器高：3.9・口径：11.8／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/8	チャート・赤褐色粒	16・36
6	土師器 坏	器高：4.5・口径：12.3／5/6	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/8	チャート・赤褐色粒	1
7	須恵器 高坏	／脚部片	長方形透かし三方と推定される。／図上復元。	灰白 5Y7/1	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	－
8	薦編石	長さ：12.9cm・幅：7.2cm、重さ：556.4ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				－
9	薦編石	長さ：16.2cm・幅：8.1cm、重さ：713.6ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				40
10	薦編石	長さ：17.1cm・幅：8.5cm、重さ：924.5ｇ。石材：輝石安山岩。／被熱痕あり。写真のみ掲載。				7
11	薦編石	長さ：13.7cm・幅：5.1cm、重さ：411.4ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				22
12	薦編石	長さ：15.2cm・幅：6.0cm、重さ：582.6ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				23
13	薦編石	長さ：10.8cm・幅：5.3cm、重さ：380.7ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				32
14	薦編石	長さ：13.5cm・幅：8.2cm、重さ：939.3ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				26
15	薦編石	長さ：13.2cm・幅：7.1cm、重さ：607.4ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				8
16	薦編石	長さ：14.7cm・幅：6.1cm、重さ：517.9ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				37
17	薦編石	長さ：12.4cm・幅：7.5cm、重さ：708.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				21
18	薦編石	長さ：16.0cm・幅：7.5cm、重さ：815.6ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				38
19	薦編石	長さ：15.3cm・幅：7.3cm、重さ：597.5ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				4
20	薦編石	長さ：16.5cm・幅：6.0cm、重さ：610.2ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。				9

H－31号住居跡（Fig.107、PL.54）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 高坏	／脚部片	外面、ミガキ。内面、ナデ、黒色処理。	橙 5YR6/6	チャート・白色粒・黒色鉱物	－
2	土師器 坏	器高：(3.6)・口径：(12.0)／1/4	丸底。有段口縁で底部との境に稜。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/8	白色粒・黒色鉱物・赤褐色粒	－
3	砥　石	残長：3.9cm・幅：3.3cm・厚さ：2.4cm、残重：49.1ｇ。石材：流紋岩。／２広面を使用。				－
4	鉄　滓	長さ：13.3cm・幅：9.3cm・厚さ：4.1cm、重さ：383.4ｇ。				－
5	薦編石	長さ：13.9cm・幅：7.1cm、重さ：589.8ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				5
6	薦編石	長さ：15.0cm・幅：6.1cm、重さ：666.6ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				7
7	薦編石	長さ：14.0cm・幅：6.5cm、重さ：659.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				6
8	薦編石	長さ：13.1cm・幅：6.8cm、重さ：621.2ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				12
9	薦編石	長さ：12.4cm・幅：6.1cm、重さ：417.8ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				11
10	薦編石	長さ：15.8cm・幅：7.2cm、重さ：679.0ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				3
11	薦編石	長さ：12.2cm・幅：6.1cm、重さ：457.8ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				4

H－32号住居跡（Fig.107、PL.54）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	器高：(4.3)・ 口径：(14.4)／1/4	丸底。口縁部と体部との境にわずかな稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR6/4	チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	21
2	(刀子)	残長：4.2cm・幅：1.6cm・厚さ：0.2cm、残重：2.7ｇ。／刀子の刃部先端部と思われる。				－

H－33号住居跡　（Fig.107、PL.54）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 高坏	口径：(16.2)／坏部1/4	坏口縁部下に稜。外面、口縁部ナデ、坏底部ヘラ削り。内面、木口状工具ナデ。	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石安山岩粒・石英	－
2	土師器 高坏	／脚部	外面、ミガキ。内面、ナデ。	にぶい黄褐 10YR5/3	角閃石・石英・白色粒	－
3	土師器 坏	器高：3.9・ 口径：(11.6)／1/2	丸底。口縁部と体部との境にわずかな稜。器面の荒れ激しく整形不明瞭。	橙 7.5YR6/6	角閃石安山岩粒・石英	－
4	土師器 坏	口径：(11.6)／1/5	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄褐 10YR5/3	角閃石・石英・白色粒	－

H－34号住居跡　（Fig.107、PL.54）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：20.4・口径：16.2・底径：6.0／5/6	底部丸みを持つ。胴部上半・下半の接合に段。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ナデ。／内面に澱粉状物付着。	橙 7.5YR6/6	角閃石・石英・白色粒・赤褐色粒	1

H－36号住居跡　（Fig.107、PL.54）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	器高：4.6・ 口径：(13.0)／2/3	丸底。口縁部外反し、体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	微砂粒・赤褐色粒	19･38
2	土師器 坏	口径：(12.9)／2/3	丸底。口縁部と体部との境にわずかな稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・白色粒	28
3	手捏土器	器高：5.1・口径：9.1・底径：4.0／3/4	外面、口縁部ナデ、体部ヘラ削り後、ナデ。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR6/3	角閃石・石英・白色粒	24･26
4	土師器 椀	器高：8.0・口径：13.7・底径：5.6／2/3	体部内湾して立ち上がる。外面、口縁部ナデ、体部横位ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・白色粒・赤褐色粒	20･22･23･25
5	(土製品)	推定径：9.4cm。／円板状の土製品。あるいは粗製土器の脚部か。表裏面に指紋の残る指頭圧痕。色調：にぶい黄橙10YR6/3。胎土：角閃石・石英・白色粒・赤褐色粒				－
6	鉄製品	断面形は長方形で、幅：0.8cm・厚さ：0.5cm。残重：2.4ｇ。／円弧状の不明鉄製品。				カ

H－37号住居跡　（Fig.107、PL.54）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	器高：4.9・ 口径：(13.2)／1/2	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	明赤褐 2.5YR5/6	石英・黒色鉱物・白色粒	－
2	須恵器 坏	口径：(12.1)／破片	全体に薄手の造りで、口縁部内傾し、端部は面をなす。	灰白 5Ｙ7／	石英・黒色鉱物・白色粒	－
3	鉄製品	残長：3.5・幅：2.4cm・厚さ：0.7cm、残重：11.4ｇ。／不明鉄製品。				－
4	薦編石	長さ：14.5cm・幅：7.3cm、重さ：658.3ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				－
5	薦編石	長さ：15.5cm・幅：5.8cm、重さ：530.8ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。				－
6	薦編石	長さ：12.8cm・幅：4.4cm、重さ：220.0ｇ。石材：チャート。／写真のみ掲載。				－
7	薦編石	長さ：15.1cm・幅：7.9cm、重さ：889.3ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。				－

H－39号住居跡①（Fig.107、PL.55）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
No.	土師器 鉢	器高：(11.5)・口径：10.8・底径：(8.0)／1/2	外面、口縁部木口状工具ナデ、胴部ヘラナデで下端は指ナデ。内面、口縁部木口状工具ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	貯
2	加工礫	長さ：10.6cm・幅：7.0cm・厚さ：5.0cm、重さ：191.3ｇ。石材：角閃石安山岩。／隅の丸いＬ字状に丁寧に削られている。				6
3	薦編石	長さ：11.8cm・幅：5.7cm、重さ：390.0ｇ。石材：角閃石安山岩。／写真のみ掲載。				13
4	薦編石	長さ：14.8cm・幅：5.9cm、重さ：514.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				16
5	薦編石	長さ：17.7cm・幅：6.7cm、重さ：1086.3ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。				15
6	薦編石	長さ：17.2cm・幅：6.0cm、重さ：701.2ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。				18
7	薦編石	長さ：16.8cm・幅：6.4cm、重さ：749.9ｇ。石材：石英安山岩。／被熱痕あり。写真のみ掲載。				19

H－39号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／備考	注記
8	鷹編石	長さ：16.8cm・幅：6.6cm、重さ：690.4ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	9
9	鷹編石	長さ：13.2cm・幅：6.5cm、重さ：684.8ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	3
10	鷹編石	長さ：15.7cm・幅：7.3cm、重さ：831.0ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	4
11	鷹編石	長さ：16.4cm・幅：7.0cm、重さ：741.4ｇ。石材：砂岩。／写真のみ掲載。	2

H－41号住居跡（Fig.108、PL.55）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：21.3 ／口縁～胴上位1/2	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	明赤褐 5YR5/6	片岩・チャート・赤褐色粒	4·5·7·12
2	土師器 坏	器高：4.3・ 口径：13.3　4/5	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／外面に粘土付着。	にぶい橙 7.5YR6/4	微砂粒・チャート・黒色鉱物	6
3	土師器 坏	器高：3.6・ 口径：11.7　4/5	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り、体部上側に指頭圧痕。内面、ナデ。	にぶい褐 7.5YR5/3	微砂粒・チャート・黒色鉱物	11
4	礫	長さ：20.0cm・幅：9.0cm、重さ：1072.2ｇ。石材：安山岩。／広面平滑。砥石か。写真のみ掲載。				2

H－42号住居跡（Fig.108、PL.55）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器 椀	器高：6.1・口径： (16.0)・底径：(9.4)／1/3	ロクロ成・整形。底部、回転ヘラ削り後、厚い高台貼り付け。	灰黄 2.5Y6/2	チャート・白色粒・黒色鉱物	2
2	紡錘車	上面径：3.8cm・下面径：3.1cm・高さ：1.5cm・孔径：0.7cm、残重：34.3ｇ。石材：紅簾片岩。／一部欠損。				

H－43号住居跡（Fig.108、PL.55）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	器高：5.9・ 口径：(18.5)／2/3	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 7.5YR6/6	チャート・白色粒・黒色鉱物	1・4
2	土師器 坏	器高：3.4・口径： 11.7／ほぼ完形	丸底。口縁部短く内傾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り後ナデ。内面、ナデ。	明赤褐 5YR5/6	石英・白色粒・黒色鉱物	1
3	土師器 坏	器高：3.3・口径： 10.4／ほぼ完形	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	5
4	須恵器 蓋	器高：3.5・ 口径：(9.6)／1/2	ロクロ成・整形。口縁部外傾し、天井部との境に稜。／紛れ込み遺物か。	黄灰 2.5Y5/1	白色粒	18
5	鉄製品	残長：3.5・残存最大幅：1.2cm・最大厚：0.4cm、残重：6.9ｇ。／刃部確認できないが刀子か。				－

H－44号住居跡（Fig.108、PL.56）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：20.6／上半部	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・チャート・白色粒	7
2	土師器 高坏	／坏底部～脚上部	坏部下端に稜を持つ。外面、坏底部ミガキ、脚部ナデ。内面、坏底部ミガキ、脚部指ナデ。／H－50号住居跡の遺物か。	橙 7.5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	－
3	土師器 坏	器高：3.9・ 口径：12.4／完形	丸底気味。型起こし。外面、口縁部ナデ、体部弱いナデ(ヒビあり)、底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外面に黒色物付着。	にぶい橙 5YR6/4	石英・白色粒・黒色鉱物	2
4	須恵器 (平瓶)	／破片	小形の平瓶と思われる破片。肩部鋭利で、沈線２条が巡る。外面、胴部は手持ちヘラ削り。	灰黄 2.5Y6/2	白色粒・黒色鉱物	－
5	砥　石	長さ：17.8cm・幅：7.2cm・厚さ：5.6cm、重さ：1171.1ｇ。石材：石英安山岩。／使用面１面。平滑で擦痕あり。				6
6	砥　石	残長：4.5cm・幅：2.8cm・最大厚：2.8cm、残重：59.4ｇ。石材：流紋岩。／４広面を使用。全体に黒色物付着。				－
7	火打金	長さ：2.0cm・残幅：3.5cm・厚さ：0.25cm、残重：8.8ｇ。／錆のため不鮮明であるが把手部の中心よりずれた位置に穿孔か。				－

H－45号住居跡（Fig.108、PL.56）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器 椀	器高：5.6・口径：12.0・ 底径：7.1／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、高い高台貼り付け。／燻し焼成。	灰黄褐 10YR4/2	石英・白色粒・黒色鉱物	13·14
2	須恵器 椀	器高：6.9・口径： (15.5)・底径：9.2／2/3	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、高い高台貼り付け。／酸化焔焼成。	橙 7.5YR7/6	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	16
3	須恵器 椀	口径：15.0／3/4	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後に高台貼り付けるが欠損。／未還元焔焼成。外面に粘土付着。	灰白 2.5Y8/2	角閃石・石英・白色粒・赤褐色粒	3～5・カ

H－46号住居跡（Fig.109、PL.56）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：22.2／上半部1/2	「コ」の字状口縁。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	10・カ他
2	土師器 坏	口径：(12.0)・ 底径：(8.0)／1/5	型起こし。外面、口縁部ナデ、体部指頭圧痕(ヒビあり)、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	雲母・チャート・黒色鉱物	－
3	須恵器 坏	器高：2.8・口径：12.5・ 底径：7.9／ほぼ完形	ロクロ右回転。底部、回転糸切り後、中央部を残して回転ヘラ削り。／H－47号住居跡の遺物か。	灰 5Y5/1	白色粒・黒色鉱物	23
4	須恵器 坏	器高：3.5・口径： (14.0)・底径：7.2／1/2	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り、無調整。	灰白 5Y7/1	チャート・白色粒・黒色粒	7
5	須恵器 坏	器高：3.5・口径： (11.2)・底径：(5.0)／1/3	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り、無調整。	黄灰 2.5Y6/1	石英・チャート・黒色鉱物	27
6	鉄製品	残長：5.0cm・残幅：1.1cm・厚さ：0.4cm、残重：4.3ｇ。／刃部認められず、左右対称に近い。火打金か。				13
7	鉄　滓	長さ：6.3cm・幅：3.7cm・厚さ：2.6cm、重さ：68.1ｇ。				3

H－47号住居跡（Fig.109、PL.56）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：(26.4)／口縁部片	口縁部外反。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	チャート・黒色鉱物・白色粒	5
2	土師器 甕	口径：(12.0)／口縁部片	外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい黄橙 10YR7/4	石英・チャート・黒色鉱物・白色粒	－
3	土師器 坏	口径：(16.6)／1/5	口縁部短く内傾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	チャート・黒色鉱物	8
4	土師器 坏	口径：(14.0)／1/2	丸底。有段口縁で体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。全体的に雑な造り。	灰黄褐 10YR5/2	微砂粒・角閃石・白色粒	－
5	土師器 坏	器高：3.8・ 口径：(12.0)／3/4	丸底。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、黒色処理、放射状ミガキ。	にぶい黄橙 10YR6/3	微砂粒・黒色鉱物・赤褐色粒	31
6	土師器 坏	器高：3.5・口径： 12.4／ほぼ完形	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外面に黒色物付着。	にぶい赤褐 5YR5/4	微砂粒・黒色鉱物・白色粒	15
7	土師器 坏	器高：4.0・口径： 12.6／ほぼ完形	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	黒色鉱物・白色粒	16
8	土師器 坏	器高：3.3・ 口径：10.8／4/5	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／外面、燻し焼成気味。	褐灰 10YR4/1	チャート・黒色鉱物・白色粒	18
9	鉄製品	残長：3.2cm・幅：2.9cm・厚さ：0.3cm、残重：9.8ｇ。／鎌か。				28
10	薦編石	長さ：13.4cm・幅：5.9cm、重さ：458.0ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				9
11	薦編石	長さ：12.4cm・幅：4.4cm、重さ：326.3ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				32
12	薦編石	長さ：11.5cm・幅：5.8cm、重さ：376.1ｇ。石材：チャート。／写真のみ掲載。				24
13	薦編石	長さ：11.0cm・幅：4.8cm、重さ：285.4ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。				20

H－48号住居跡①（Fig.109・110、PL.57）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	口径：23.4／上半部1/3	胴部膨らみ最大径推定31.6cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	明赤褐 2.5YR5/6	片岩・チャート・黒色鉱物	49
2	土師器 甕	口径：(23.0) ／上半部1/5	胴部最大径推定21.6cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい赤褐 5YR5/4	雲母・チャート・黒色鉱物	79・80
3	土師器 小形壺	器高：7.5・口径： 8.6／ほぼ完形	胴部横に張り、最大径10.3cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石・石英・チャート	50
4	土師器 坏	口径：(18.0)／1/3	丸底。口縁部短くやや内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・白色粒	8
5	土師器 坏	器高：3.6・ 口径：12.8／5/6	丸底。口縁部短く直立気味～やや外傾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート	46～48
6	土師器 坏	器高：3.5・口径： 12.8／口縁部一部欠損	丸底。口縁部短くやや内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。内面底部に墨書「大井」。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・チャート	8・12
7	土師器 坏	器高：3.7・ 口径：12.0／4/5	型起こし。丸底。口縁部短くやや内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。内面底部に墨書(不明)あり。	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石・石英・チャート	11・12
8	土師器 (坏)	／底部小片	外面、底部ヘラ削り。内面、底部に墨書「大井」か。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・チャート・赤褐色粒	－
9	土師器 (坏)	／底部小片	外面、底部ヘラ削り。内面、底部に墨書「大(井)」か。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・チャート・白色粒	33

H－48号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
10	土師器(坏)	／底部小片	外面、底部ヘラ削り。内面、底部に墨書(不明)あり。	にぶい赤褐 5YR5/4	チャート・黒色鉱物・白色粒	カ
11	土師器(坏)	／底部小片	外面、底部ヘラ削り。内面、底部に墨書(不明)あり。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・チャート・白色粒	－
12	須恵器(甕)	／(肩部片)	外面、カキ目、灰かぶり。内面、同心円状当て具痕。	黄灰 2.5Y5/1	石英・白色粒	－

13	土　玉	長さ：1.03cm・最大径：1.12cm×1.11cm・孔径：0.27cm、重さ：1.26ｇ。／色調：オリーブ黒5Y3/2。	54
14	臼　玉	径：1.3cm×1.1cm・厚さ：0.6cm・孔径：0.25cm、重さ：1.35ｇ。石材：石英片岩。	51
15	臼　玉	径：1.1cm×1.1cm・厚さ：0.6cm・孔径：0.27cm、重さ：1.30ｇ。石材：滑石。	59
16	臼　玉	径：1.0cm×－・厚さ：0.4cm・孔径：0.27cm、残重：0.39ｇ。石材：滑石。／欠損品。	78
17	臼　玉	径：1.1cm×1.1cm・厚さ：0.7cm・孔径：0.27cm、重さ：1.45ｇ。石材：石英片岩。	－
18	臼　玉	径：1.4cm×1.3cm・厚さ：0.8cm・孔径：0.27cm、重さ：2.58ｇ。石材：石英片岩。	－
19	銅　鈴	長さ：3.6cm・鐶部の径：2.4cm・紐の長さ：0.85cm・孔径：0.2cm、残重：4.3ｇ。／銅地の厚さは0.4㎜前後。半球形を重ね合わせ、中央部に鐶。上部に紐を取り付けている。中には丸が融着している。	68
20	鉄製品	残長：9.1cm・幅：1.4cm・厚さ：0.3cm、残重：27.1ｇ。／工具か。	1
21	薦編石	長さ：17.2cm・幅：5.8cm、重さ：699.9ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	14
22	薦編石	長さ：15.1cm・幅：5.5cm、重さ：572.1ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。	32
23	薦編石	長さ：14.1cm・幅：6.5cm、重さ：590.8ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	41
24	薦編石	長さ：12.8cm・幅：6.0cm、重さ：494.2ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	22
25	薦編石	長さ：14.2cm・幅：7.4cm、重さ：668.0ｇ。石材：チャート。／写真のみ掲載。	23
26	薦編石	長さ：12.5cm・幅：5.3cm、重さ：391.5ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	16
27	薦編石	長さ：14.9cm・幅：5.8cm、重さ：538.2ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	17
28	薦編石	長さ：13.2cm・幅：6.4cm、重さ：567.3ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。	15
29	薦編石	長さ：12.7cm・幅：6.3cm、重さ：502.0ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	27
30	薦編石	長さ：15.9cm・幅：5.1cm、重さ：460.3ｇ。石材：頁岩。／写真のみ掲載。	21

H－49号住居跡（Fig.110、PL.58）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器甕	口径：(20.0)／口縁部1/3	「コ」の字状口縁。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 5YR6/4	チャート・白色粒・黒色鉱物	5・6
2	須恵器椀	器高：5.4・口径：(15.0)・底径：(7.0)／2/3	外面、口縁部ナデ、体部削り後ナデ。底部、高台貼り付け後、木口状工具によるナデ。内面、ヘラナデ。／燻し焼成。	暗灰黄 2.5Y5/2	石英・チャート・黒色鉱物・白色粒	12

H－50号住居跡（Fig.111、PL.58）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器坏	器高：4.4・口径：(13.6)／1/3	丸底。口縁部と体部との境に弱い稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／燻し焼成気味。	黒褐 2.5Y3/2	石英・白色粒・黒色鉱物	4
2	土師器坏	口径：(12.0)／1/3	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	石英・チャート・黒色鉱物・赤褐色粒	9
3	須恵器甕	口径：(19.2)／口縁～肩部片	外面、口頸部中位に緩い波状文、肩部平行叩き後に横位条線。内面、口頸部ナデ・ヘラ線刻、肩部同心円状当て具痕。	灰 N4/	粗砂粒・石英・白色粒	6

H－52号住居跡①（Fig.111、PL.58）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器坏	器高：3.6・口径：12.2／ほぼ完形	型起こし。器形やや歪む。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、木口状工具ナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	石英・黒色鉱物	27～29
2	土師器坏	器高：3.0・口径：12.4・底径：11.5／5/6	丸底気味の平底。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい赤褐 5YR5/4	微砂粒・黒色鉱物	38
3	土師器坏	器高：3.6・口径：12.0・底径：8.0／2/3	丸底気味。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ、口縁部・体部に右上がりのミガキ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・白色粒	37･39
4	土師器坏	器高：3.3・口径：12.2／5/6	型起こし。丸底。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外面に粘土付着。	にぶい赤褐 5YR5/4	角閃石・石英・白色粒	31･32･50
5	土師器坏	器高：3.3・口径：12.2／ほぼ完形	型起こし。丸底。外面、口縁部ナデ、底部ヘラ削り。内面、木口状工具ナデ。	にぶい赤褐 5YR4/3	石英・黒色鉱物	3・17～19
6	須恵器甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、同心円状当て具痕。／大甕と思われる。	灰 5Y6/1	石英・チャート・黒色鉱物・白色粒	34･35

H－52号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
7	須恵器 蓋	器高：3.6・ 口径：13.4／完形	摘み部径2.5cm。口縁端部短く下方に折れる。天井部、回転ヘラ削り。	灰白 5Y8/1	砂礫・チャート・ 黒色鉱物	1･2
8	須恵器 坏	器高：3.7・口径： 12.2・底径：6.6／5/6	ロクロ成・整形。底部、ヘラ起こし。	灰白 5Y7/1	微砂粒・黒色鉱物	45･46
9	須恵器 坏	器高：4.6・口径：14.0・ 底径：6.5／ほぼ完形	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り。	灰オリーブ 5Y6/2	砂礫・チャート	44
10	土　錘	長さ：5.0cm・最大径：1.2cm・口径：0.2cm、重さ：4.26ｇ。／色調：にぶい黄橙10YR7/3。				－

H－53号住居跡（Fig.111、PL.58）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 坏	口径：(10.8)／1/6	丸底と思われる。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外面に黒色物付着。	にぶい赤褐 5YR5/4	チャート・黒色鉱物・白色粒	－

2号土坑（Fig.112、PL.59）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	軟質陶器 鉢	／口縁部片	片口。卸目なし。口唇部内側にやや突出する。／還元焔焼成で須恵質。	灰 N6/	石英・チャート・ 白色粒・黒色粒	73
2	軟質陶器 (鉢)	底径：11.2／底部片	底部、回転糸切り無調整。／還元焔焼成で須恵質。	灰 5Y5/1	チャート・白色粒・黒色粒	5
3	軟質陶器 鉢	／口縁部片	内面、器面荒れる。口唇部内側に突出するようであるが欠損。／還元焔焼成で須恵質。	灰 5Y5/1	角閃石・石英・チャート・白色粒	67
4	青　磁 碗	／口縁部片	外面に直線文。／厚く施釉。磁胎の色調：灰白5Y7/1。同安窯系。	オリーブ灰 10Y6/2	堅緻	－
5	瓦　塔	／屋蓋部片	幅1.1cm前後・深さ0.3cm前後の半截竹管状工具押し引きにより丸瓦・瓦継ぎ目を表現。／還元焔焼成。	灰 5Y6/1	チャート・白色粒	54

3号土坑（Fig.112、PL.59）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	軟質陶器 鉢	／口縁部片	片口。卸目なし。口唇部内側にやや突出する。／還元やや不完全。	オリーブ黒 5Y3/2	チャート・白色粒・黒色粒	－

7号土坑（Fig.112、PL.59）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	灰釉陶器 瓶	底径：(9.9)／下半部片	ロクロ成・整形。底部に断面台形のしっかりとした高台を貼り付ける。外面に釉垂れがみられる。内面底部に自然釉。	灰 5Y6/1	長石・黒色粒	－
2	五輪塔	平面は方形で長さ32.4cm×32.2cm、厚さ22.2cm、重さ：約２５kg。石材安山岩。／上面は21～23cmほどの範囲を擂鉢状に7.5cmほど掘り窪めており、工具痕がみられる。側面に刻字は認められない。				2

10号土坑（Fig.113、PL.59）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器 甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、無文の当て具痕。	灰オリーブ 5Y6/2	石英・チャート・ 白色粒	－

13号土坑（Fig.113、PL.41）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色　調	胎土	注記
1	縄文土器	／胴部片	ＬＲ縄文。	褐	片岩・チャート	－
2	打製石斧	残長：6.3cm・幅：5.8cm・厚さ：1.5cm、残重：59.1ｇ。石材：頁岩。／下半部欠損。				－

17号土坑（Fig.113、PL.59）

No.	器　種	計測値(cm)／備考	注記
1	板　碑	残長：45.1cm・幅：22.5cm・厚さ：3.1cm、残重：4470ｇ。石材：絹雲母片岩。／凡字不鮮明。	－

19号土坑①（Fig.113～115、PL.60・61）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	軟質陶器 釜形土器	器高：16.4・口径： 14.1・底径：(18.4)／1/2	茶釜。平底。胴部最大径24.8cm。把手部は２か所と想定され、板状の「火よけ」の内側に穿孔のある把手。／還元焔焼成。	褐灰 10YR6/1	片岩・角閃石・チャート・石英	7･13･ 25他

19号土坑②

No.	器種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色調	胎土	注記
2	軟質陶器 鉢	／口縁部片	卸目なし。口唇部、内外にやや突出。／還元焔焼成で須恵質。	灰 5Y5/1	チャート・白色粒・黒色粒	15
3	焼締陶器 (甕)	底径：(14.4)／底部片	胴部は直線的に立ち上がる。	暗赤褐 5YR3/2	石英・長石・黒色粒	19
4	石臼	高さ：10.7cm・上面径：(30.0cm)・芯棒孔径：(2.7cm)、残重：5320ｇ。石材：粗粒安山岩。／下臼。1/4残存。6分割目か。				－
5	石臼	高さ：13.3cm・上面径：(30.0cm)・芯棒孔径：(2.8cm)、残重：4280ｇ。石材：粗粒安山岩。／下臼。1/4残存。副溝不明瞭。				－
6	石臼	残高：12.2cm・下面径：(20.0cm)・供給口径：(2.8cm)・挽き手穴径：2.0cm・挽き手穴深さ：4.2cm、残重：3250ｇ。石材：粗粒安山岩。／茶臼上臼。1/3残存。8分割目。挽き手穴は方形で菱形文中央部に位置。				17
7	石臼	残高：12.0cm・下面径：(19.4cm)・供給口径：(2.8cm)、残重：1740ｇ。石材：粗粒安山岩。／茶臼上臼。1/5残存。6分割目。				－
8	石臼	残高：9.0cm・芯棒受け径：3.5cm・芯棒受け深さ：1.8cm、残重：1410ｇ。石材：粗粒安山岩。／上臼。供給口あるが径不明。				－
9	(石鉢)	高さ：10.9cm・長軸幅：17.3cm・孔径：7.8cm前後・孔の深さ：3.6cm。残重：2410ｇ。石材：粗粒安山岩。／工具痕・被熱痕。				2
10	礫	長さ：13.3cm・幅：15.9cm・厚さ：7.9cm、重さ：2230ｇ。石材：安山岩。／上面平滑で擦痕、砥石か。赤褐色物(鉄分)付着。				－
11	砥石	残長：6.0cm・幅：3.7cm・中央部厚：2.1cm、残重：83.8ｇ。石材：流紋岩。／4面を使用。被熱痕あり。				－
12	古銭	径：2.3cm・方孔：0.5cm。／「洪武通宝」。明。初鋳1368年。				23

22号土坑（Fig.115、PL.61）

No.	器種	計測値(cm)／備考	注記
1	古銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「熙寧元宝」(篆書)。北宋。初鋳1068年。	1
2	古銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「皇宋通宝」(真書) か。北宋。初鋳1039年。	2
3	古銭	径：2.3cm・方孔：0.6cm。／「熙寧元宝」(真書)。北宋。初鋳1068年。	3
4	古銭	径：2.4cm・方孔：0.6cm。／「元豊通宝」(真書)。北宋。初鋳1078年。	4
5	古銭	径：2.5cm・方孔：0.6cm。／「祥符元宝」。北宋。初鋳1368年。	5
6	古銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「開元通宝」。唐。初鋳621年。	6
7	古銭	径：2.3cm・方孔：0.6cm。／「洪武通宝」。明。初鋳1368年。23号土坑に帰属する可能性あり。	－
8	古銭	径：2.4cm・方孔：0.6cm。／「治平元宝」(篆書)。北宋。初鋳1368年。23号土坑に帰属する可能性あり。	－
9	古銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「開元通宝」。唐。初鋳621年。一部欠損。23号土坑に帰属する可能性あり。	－

23号土坑（Fig.115、PL.61）

No.	器種	計測値(cm)／備考	注記
1	古銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「紹聖元宝」(真書)。北宋。初鋳1368年。	1
2	古銭	径：2.3cm・方孔：0.6cm。／「皇宋通宝」(真書)。北宋。初鋳1039年。鋳写鐚銭か。	2
3	古銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「熙寧元宝」(篆書)。北宋。初鋳1068年。	3
4	古銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「元豊通宝」(真書)。北宋。初鋳1078年。	4
5	古銭	径：2.5cm・方孔：0.6cm。／「永楽通宝」。明。初鋳1408年。	5
6	古銭	径：2.4cm・方孔：0.6cm。／不明。	6

6号溝（Fig.115、PL.61）

No.	器種	計測値(cm)／備考	注記
1	古銭	径：2.3cm・方孔：0.7cm。／「治平元宝」(篆書)。北宋。初鋳1368年。	－

10号溝（Fig.115、PL.62）

No.	器種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色調	胎土	注記
1	土師器 坏	器高：3.8・口径：12.7／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	微砂粒・白色粒・黒色鉱物	－
2	羽釜	／口縁片	鍔は雑な造り。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ナデ。	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石・石英・白色粒	－

20号溝①（Fig.115、PL.62）

No.	器種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色調	胎土	注記
1	軟質陶器 鉢	／口縁部片	卸目なし。口唇部、内側にやや突出。／還元焔焼成で須恵質。	灰黄 2.5Y6/2	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	－
2	陶器 椀	底径：(5.6)／底部片	外底部を除き灰釉。／陶胎の色調：黄灰2.5Y5/1。	オリーブ灰 2.5GY6/1	石英・白色粒・黒色鉱物	－
3	砥石	長さ：6.1cm・幅：2.8cm・厚さ：1.8cm、重さ：51.3ｇ。石材：流紋岩。／4面を使用。				－
4	砥石	長さ：10.1cm・幅：4.5cm・厚さ：3.7cm、重さ：204.0ｇ。石材：流紋岩。／平坦部分の多面使用。被熱痕あり。				－
5	鉄滓	長さ：9.4cm・幅：10.6cm・厚さ：3.2cm、重さ：320.4ｇ。				－

20号溝②

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
6	須恵器 甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、放射状当て具痕。	灰褐 7.5YR5/2	チャート・白色粒・黒色鉱物	－
7	須恵器 甕	／胴部片	外面、平行叩き。内面、放射状当て具痕。	にぶい赤褐 5YR5/3	チャート・白色粒・黒色鉱物	－

遺構外（Fig.116・117、PL.62・63）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色　調	胎土／注記
1	縄文土器	／胴部片	撚糸側面圧痕文。	明赤褐	繊維・ﾁｬｰﾄ／H27
2	縄文土器	／胴部片	矢羽根状に短沈線。	にぶい褐	繊維・ﾁｬｰﾄ／H30
3	縄文土器	／口縁部片	ＲＬ縄文。口唇部・口縁部下にも縄文施文。	灰黄褐	長石・石英／H24
4	縄文土器	／口縁部片	ＬＲ縄文後、横位に半截竹管状工具による変形爪形文。	にぶい黄橙	繊維・白色粒／－
5	縄文土器	／胴部片	貝殻腹縁文。	にぶい黄橙	石英・ﾁｬｰﾄ／H24
6	縄文土器	／口縁部片	ＲＬ細縄文。	赤褐	ﾁｬｰﾄ・黒色鉱物／－
7	縄文土器	／胴部片	ＲＬ縄文、円形竹管文。	にぶい橙	ﾁｬｰﾄ・黒色鉱物／H12
8	縄文土器	／胴部片	沈線上側に斜位の刻み目・小刺突。	にぶい赤褐	角閃石・石英／X60Y236G
9	縄文土器	／胴部片	横位・斜位の平行沈線。	にぶい黄橙	角閃石・白色粒／W10
10	縄文土器	／口縁部片	集合沈線後、口唇部から口縁部にかけての貼付文。	にぶい褐	石英・ﾁｬｰﾄ／H37
11	縄文土器	／胴部片	集合沈線後、耳状突起・刺突のある円形貼付文。	にぶい黄橙	石英・ﾁｬｰﾄ／H37
12	縄文土器	／胴部片	集合沈線。	にぶい黄橙	粗砂粒・ﾁｬｰﾄ／－
13	縄文土器	／胴部片	集合沈線後、刺突のある円形貼付文。	にぶい黄橙	角閃石・ﾁｬｰﾄ／H24
14	縄文土器	／口縁部片	集合沈線。口縁部に凹凸文。	にぶい橙	角閃石・ﾁｬｰﾄ／H24
15	縄文土器	／胴部片	波状貝殻文。	灰黄褐	石英・ﾁｬｰﾄ／H23
16	縄文土器	／胴部片	横位・鋸歯状の平行沈線、三角形印刻文。	にぶい赤褐	石英・黒色鉱物／－
17	縄文土器	／胴部片	縦位隆線と緩やかな波状沈線。	にぶい橙	雲母・石英／H22
18	縄文土器	／胴部片	蛇行する隆線と浅い沈線。	にぶい褐	雲母・石英／－
19	縄文土器	／胴部片	貝殻背圧痕文。口唇部に刻み。	にぶい黄橙	石英・ﾁｬｰﾄ／－
20	縄文土器	／胴部片	ＬＲ縄文後、沈線懸垂文。	橙	角閃石・石英／H1
21	縄文土器	／胴部片	地文はなく、沈線施文。	にぶい黄橙	角閃石・石英／H20
22	縄文土器	／胴部片	沈線区画内に刺突。	にぶい黄橙	角閃石・石英／X36Y276G
23	縄文土器	／胴部片	縄文後、沈線、縄文磨り消し。	にぶい赤褐	角閃石・石英／H50
24	縄文土器	／口縁部片	押圧のある隆帯２条。内面、口縁部に沈線巡る。	暗黄灰	白色粒・黒色鉱物／－

25	磨　石	長さ：10.4cm・幅：9.5cm・厚さ：4.0cm、重さ：559.4ｇ。石材：輝石安山岩。／凹石→磨石。		／H45-17
26	磨　石	長さ：10.8cm・幅：9.2cm・厚さ：3.8cm、重さ：514.8ｇ。石材：輝石安山岩。／凹石→磨石。		／X45Y276G
27	凹　石	長さ：15.5cm・幅：6.8cm・厚さ：4.7cm、重さ：624.6ｇ。石材：石英安山岩／剥離多数あり。		／H9-7
28	(砥　石)	長さ：9.5cm・幅：8.0cm・厚さ：0.9cm、重さ：136.2ｇ。石材：緑泥片岩。／中央部に浅い溝。		／X60Y235G
29	打製石斧	長さ：11.2cm・幅：8.5cm・厚さ：2.5cm、重さ：232.2ｇ。石材：頁岩。		／X60Y235G
30	打製石斧	長さ：11.9cm・幅：4.3cm・厚さ：1.5cm、重さ：81.1ｇ。石材：頁岩。／部分的に研磨。		／H24
31	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	長さ：7.6cm・幅：7.0cm・厚さ：2.3cm、重さ：92.4ｇ。石材：頁岩。		／H11
32	石　鏃	残長：2.0cm・幅：1.3cm・厚さ：0.5cm、残重：0.90ｇ。石材：鉄石英。		／X60Y228G
33	石　鏃	残長：1.8cm・幅：1.5cm・厚さ：0.4cm、残重：0.78ｇ。石材：頁岩。		／H46
34	石　鏃	長さ：2.0cm・幅：1.6cm・厚さ：0.55cm、重さ：1.61ｇ。石材：チャート。		／W8
35	石　鏃	長さ：1.6cm・残幅：1.2cm・厚さ：0.2cm、残重：0.24ｇ。石材：黒曜石。		／H17
36	石　鏃	残長：1.5cm・残幅：1.5cm・厚さ：0.3cm、残重：0.53ｇ。石材：珪質頁岩。		／H37

37	須恵器 坏	口径：(11.8)／1/5	受部は水平方向へ伸び、口縁部は内傾。底部、ヘラ削り。	灰褐 7.5YR4/2	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物／X60Y237G
38	須恵器 坏	器高：(4.5)・口径：(18.0)・底径：(13.5)／1/4	ロクロ成・整形。口縁端部わずかに外反。底部、回転ヘラ削り。	灰白 5Y7/1	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物／X54Y228G

39	紡錘車	上面径：(3.9cm)・下面径：(1.5cm)・高さ：2.2cm・孔径：(0.8cm)、残重：19.1ｇ。石材：滑石。／1/2残存。欠損面を研磨している。別用途に再利用を試みたものか。	／－
40	臼　玉	径：1.0cm×0.9cm・厚さ：0.7cm・孔径：0.3cm、重さ：1.09ｇ。石材：滑石。	／X60Y232
41	古　銭	径：2.5cm・方孔：0.7cm。／「開元通宝」。唐。初鋳621年。	／X57Y246G
42	古　銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「治平元宝」(真書)。北宋。初鋳1064年。	／A区
43	古　銭	径：2.5cm・方孔：0.7cm。／「元豊通宝」(真書)。北宋。初鋳1078年。	／－
44	古　銭	径：2.4cm・方孔：0.6cm。／「至道元宝」(行書)。北宋。初鋳995年。	／C区
45	古　銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「大観通宝」(真書)。北宋。初鋳1107年。	／C区
46	古　銭	径：2.3cm・方孔：0.6cm。／不明。	／C区

第３章　五代伊勢宮Ⅰ遺跡

Ⅰ　遺跡の概要

検出された遺構は、住居跡６軒（古墳時代後期２軒、奈良・平安時代４軒）、土坑２基、溝１条、ピット132基である。

古墳時代後期のＨ－１号住居跡は、残存状態が良好で、カマドは両袖端部に長胴甕を倒立配置し、２個体の長胴甕を連結して懸架させている。また、カマド右脇から土師器甕の底部を打ち欠いて甑に転用させたと思われる遺物が出土している。Ｈ－５号住居跡からは、鷹編石が並べられた状態で集中出土している。

奈良・平安時代の住居跡（Ｈ－２号・３号・４号・６号住居跡）は、出土遺物から８世紀代と想定されるが、Ｈ－６号住居跡は出土遺物が少なく明確な時期判断ができなかった。

１号土坑は井戸と思われる。

１号溝は区画溝と考えられ、出土遺物から近世の構築と考えられる。

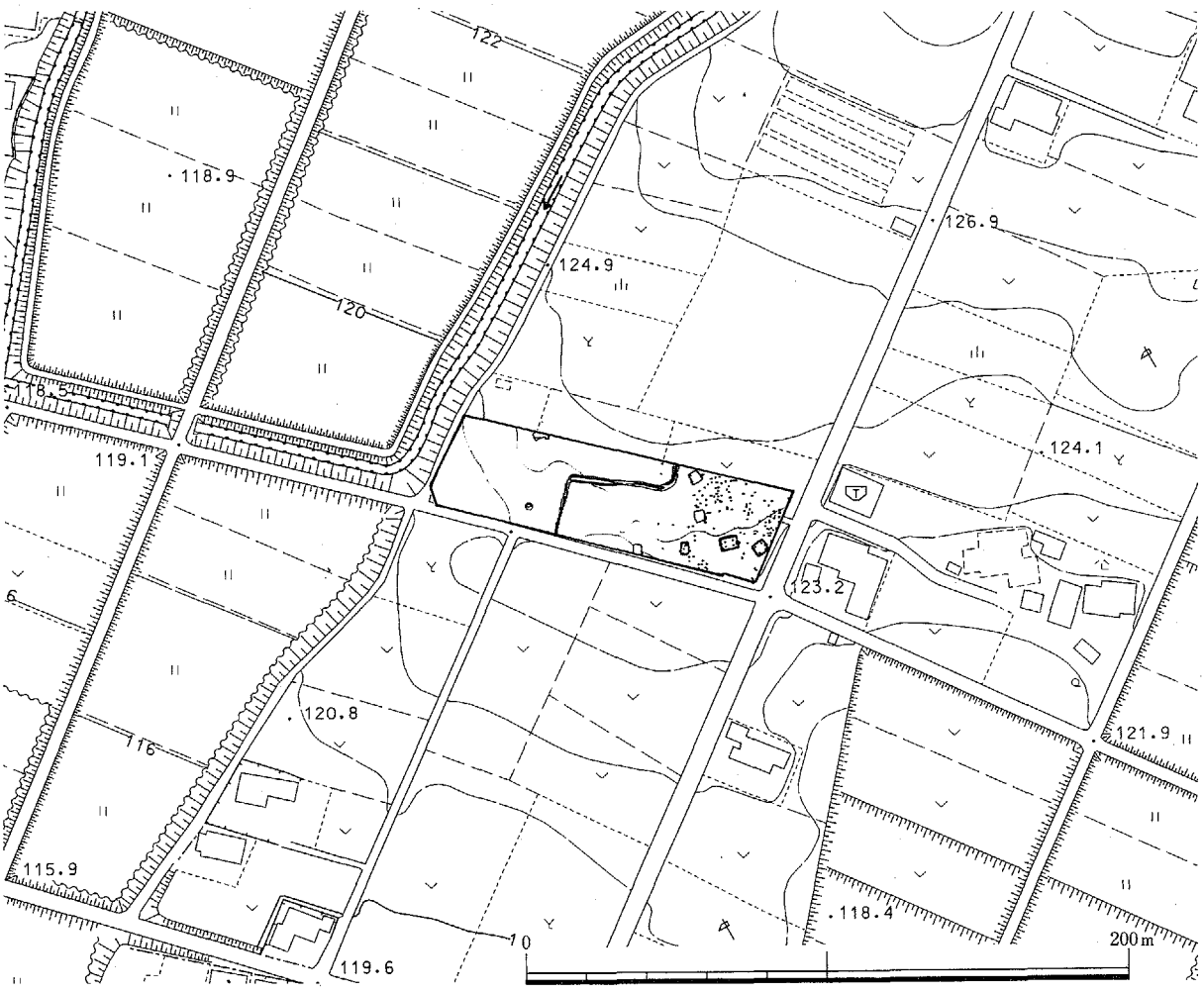


Fig.118　調査区位置図（前橋市現況図28）

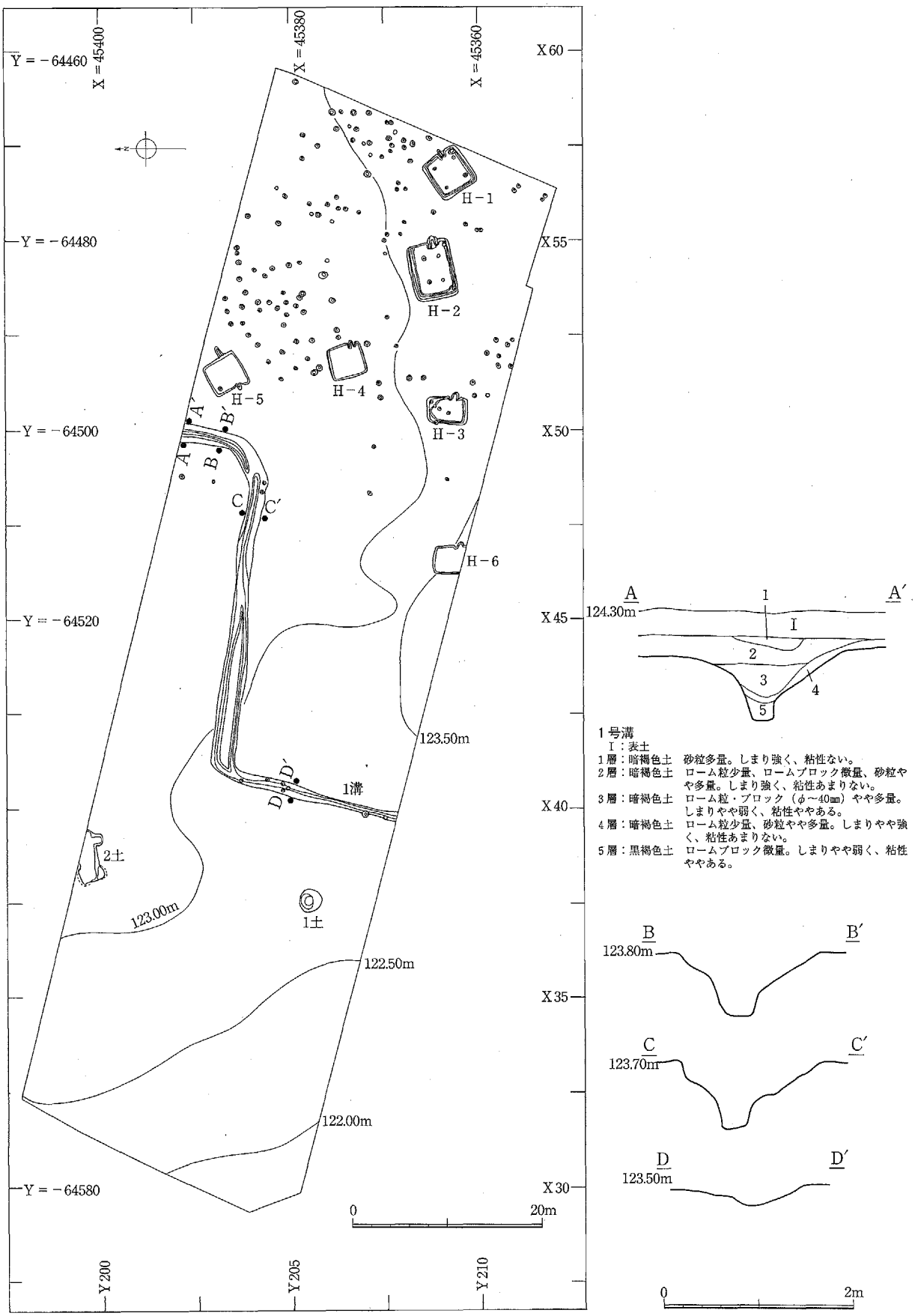


Fig.119　五代伊勢宮Ⅰ遺跡全体図、1号溝土層図・エレベーション図

Ⅱ　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（遺構：Fig.120・121、PL.65／遺物：Fig.128・129、PL.68）

位置：Ｘ56Ｙ208グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：方形。**規模**：4.30m×4.16m。**床面積**：16.8㎡。**主軸方位**：Ｎ－55°－Ｅ。**残存深度**：72cm。**床面の状態**：全体的に平坦で硬くしまっていた。**壁周溝**：カマド及び貯蔵穴部分を除いて全周する。**柱穴**：主柱穴はpit－１～４の４基。規模は、pit－１が径40cm・深さ48cm、pit－２が径40cm・深さ50cm、pit－３が径44cm・深さ50cm、pit－４が径43cm・深さ45cmである。**カマド**：北東壁中央やや南東寄りに位置。粘土及び粘質土を主体に構築されていた。両袖端部に土師器甕（3･4）を逆位に配し、長胴甕２個体（1･2）を連結して懸架材としている。いずれの甕にも粘土の付着が顕著に認められた。焚き口幅35cm前後、燃焼部幅30cm前後、煙道部は壁外に30cmほど突出し、焚き口～煙道部の長さは約1.20mである。燃焼部やや左寄りに支脚と想定される石が粘土で固定されていたが、規模的に掛け口は１か所の可能性が高く、２か所と想定した場合は縦位配置と考えられる。７層に灰の堆積が確認されている。**貯蔵穴**：カマド向かって右側の南東隅部に位置。平面形態は不整楕円形で、規模は85cm×57cm・深さ40cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定されるが、３層にローム粒・ロームブロックを多量に含む黄褐色土があり、同層堆積の起因については明確に判断できなかった。**遺物出土状態**：先述のカマド構築材（1～4）のほかは、カマド左右脇からの出土が大半で、その他の箇所では皆無に近い状態であった。カマド右脇からは土師器鉢（7）の上に土師器甑（6）が重なって出土しており、使用時の状態を示しているものと思われる。また、これらに近接して土師器坏（9）が正位で出土している。**時期**：古墳時代後期（６世紀中葉）。

遺物：土師器甕５点・甑１点・鉢１点・坏４点以上を確認している。甑（6）は甕底部を打ち欠いて転用したものと思われる。完形に近い状態の遺物が多かった。掲載遺物、９点。

Ｈ－２号住居跡（遺構：Fig.122・123、PL.66／遺物：Fig.129、PL.69）

位置：Ｘ54Ｙ208グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：縦長長方形。**規模**：5.60m×4.30m。**床面積**：20.5㎡。**主軸方位**：Ｎ－77°－Ｅ。**残存深度**：71cm。**床面の状態**：全体的にほぼ平坦。顕著な硬化面は認められなかった。**壁周溝**：東側を除いて検出されている。深さは5cm前後であるが、各隅部は深く掘られており、特に南西隅部ではピット状になっている。**柱穴**：主柱穴はpit－１～４の４基。規模は、pit－１が径40cm・深さ34cm、pit－２が径35cm・深さ53cm、pit－３が径24cm・深さ46cm、pit－４が径29cm・深さ27cm。対角の位置関係にあるpit－１と４、pit－２と３の深さが近似する状態にある。**カマド**：東壁中央やや南寄りに位置。粘土及び粘質土で構築。上面は粘土が覆っていた。煙道部は壁外に50cmほど突出。６層が灰層で、厚く広範囲に堆積していた。**貯蔵穴**：カマド向かって右側に位置。平面形態は楕円形で、規模は47cm×40cm・深さ48cm。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：pit－２と４の間から臼玉（7）が出土しているほかは、南東部に集中する状態にあった。南壁際の中央東寄りの位置で土師器坏２点（3･4）が正位に並んだ状態で出土している。**時期**：８世紀前半。

遺物：土師器甕２点以上・盤２点・坏６点以上、須恵器片、臼玉１点を確認している。掲載遺物、７点。

Ｈ－３号住居跡（遺構：Fig.124、PL.66／遺物：Fig.129、PL.69）

位置：Ｘ50Ｙ209グリッド。**検出状態**：良好。西壁をpit－43に切られている。**平面形態**：横長長方形。**規模**：

2.41m×3.91m。**床面積**：9.0㎡。**主軸方位**：N－92°－E。**残存深度**：42cm。**床面の状態**：北側は浅い掘り方があり、ロームブロック等を含む暗褐色土を充填して床面を構築。4層も貼り床の可能性がある。**壁周溝**：北側は明確に把握できなかったもののカマド部分を除き全周するものと想定される。**柱穴**：4基のピットを検出しているが、規模や位置関係から主柱穴とは想定しがたい。規模は、pit－1が径24cm・深さ25cm、pit－2が径31cm・深さ39cm、pit－3が径25cm・深さ18cm、pit－4が径24cm・深さ38cmである。**カマド**：東壁中央南寄りに位置。粘質土を主体に構築していたものと想定される。煙道部は壁外に50cmほど突出。燃焼部のやや左寄りに支脚に使用されたと思われる石が据えられていた。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：全体的に出土遺物は少なく、散在的な分布状態であった。**時期**：8世紀後半。

遺物：土師器甕片・坏片、須恵器甕片・坏1点、砥石2点を確認している。砥石（4）の穿孔は特異なもので、潜り穴状の孔が2か所ある。掲載遺物、4点。

H－4号住居跡（遺構：Fig.123、PL.66／遺物：Fig.130、PL.69・70）

位置：X51Y206グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：やや横長の長方形。**規模**：3.17m×3.50m。**床面積**：10.5㎡。**主軸方位**：N－72°－E。**残存深度**：39cm。**床面の状態**：ほぼ平坦であるが、南東隅部が5cmほど窪む。顕著な硬化面は認められなかった。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁南寄りに偏在。粘質土を主体に構築されていたものと想定される。カマド手前に被熱痕のある長さ約50cmの石があり、懸架材と思われる。焚き口幅は40cm前後。煙道部は壁外に40cmほど突出する。4～6層に灰の厚い堆積が確認されている。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：南東隅部及び南西隅部からの出土が多かった。また、北西隅部からも薦編石がまとまって出土している。**時期**：8世紀前半。

遺物：土師器甕2点以上・盤3点以上・坏5点以上、須恵器甕片、薦編石9点を確認。掲載遺物、13点。

H－5号住居跡（遺構：Fig.125、PL.67／遺物：Fig.130、PL.70・71）

位置：X51Y203グリッド。**検出状態**：良好。床面には炭化材が多く検出されており、火災を受けているものと想定される。**平面形態**：方形。**規模**：3.35m×3.55m。**床面積**：12.1㎡。**主軸方位**：N－61°－E。**残存深度**：37cm。**床面の状態**：概ね平坦な状態で、顕著な硬化面は確認されなかった。**壁周溝**：土層観察では西側にわずかな凹みが認められるが、壁周溝は検出されなかった。**柱穴**：西側隅に径30cm・深さ13cmのピットがあるが、柱穴とは想定しがたい。**カマド**：東側（北東側）から西側（南西側）へと造り替えが行われている。東側カマドはやや南東寄りに偏在して位置。水平方向に長く延びる煙道部を確認できたのみで、壁外115cmほどの位置で立ち上がっている。西側カマドもやや南東寄りに偏在する。両袖部内側に扁平な石を配し、粘土及び粘質土で構築されていた。焚き口幅は35cm前後。煙道部は壁外に35cmほど突出する。6層に少量の灰が検出されているが、灰の純層は確認されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：薦編石の出土が多く、北西壁付近と北東壁付近の2か所に集中する。特に北東壁付近は並べられた状態（PL.67）にあった。西側カマド向かって右脇からは台付甕（1）が床面からやや浮いた状態で出土している。**時期**：古墳時代後期（6世紀末葉～7世紀初頭）。

遺物：土師器甕1点・台付甕2点以上・鉢1点以上・坏5点以上、薦編石20点を確認している。薦編石は被熱痕の認められるものが多い。掲載遺物、26点。

H－6号住居跡（遺構：Fig.121、PL.67）

位置：X46Y209グリッド。南側は調査区外。**検出状態**：カマド向かって右側は攪乱を受けている。**平面形態**：全容は不明であるが横長長方形と推定される。**規模**：2.80m×－。**床面積**：不明。**主軸方位**：N－90°－E。**残存深度**：44cm。**床面の状態**：概ね平坦な状態で、顕著な硬化面は確認されなかった。**壁周溝**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**カマド**：東壁に位置。やや南寄りと推定される。残存する左袖部は粘質土と石で構築されていた。煙道部は壁外に40cmほど突出。灰の堆積は確認されなかった。**貯蔵穴**：不明。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：疎らな分布状態であった。**時期**：奈良・平安時代と思われるが不明。

遺物：土師器坏片、須恵器坏片を確認している。いずれも小破片のため図化しなかった。掲載遺物、0点。

Ⅲ　土坑・井戸・ピット

1号土坑（遺構：Fig.126、PL.67）

位置：X37Y205グリッド。**検出状態**：良好。**平面形態**：円形。**規模**：上面は2.48m×2.40mで、下方に向かって窄まっている。**残存深度**：200cm以上。湧水は顕著ではなかったが、安全対策上から完掘できなかった。**遺構埋没状態**：5層以下にはローム質の土が埋没していた。**遺物出土状態**：埋没土中からわずかに出土している程度であった。**備考**：本土坑は素掘の井戸と想定される。**時期**：近世。

遺物：土師器片、須恵器片、近世陶磁器片（肥前系染付碗片）を確認しているが小破片のため図化しなかった。なお、遺構外出土遺物で扱う砥石（34）は本土坑から出土したものである。掲載遺物、0点。

2号土坑（遺構：Fig.126、PL.67）

位置：X38Y199グリッド。北側は調査区外。**検出状態**：良好。**平面形態**：東西方向に長い長方形で、南側に張り出し部（出入り口部）が2か所ある。**規模**：中軸線上で推定5.45m×2.00m。南側の張り出し部長は0.90m。**長軸方位**：N－78°－E。**残存深度**：98cm。**遺構埋没状態**：人為埋没の可能性が高い。**遺物出土状態**：遺構の時期を示す遺物は出土していない。**備考**：調査時には出入り口施設を有することから地下式坑の可能性も想定したが、五代木福Ⅰ遺跡で検出された地下式坑とは形態的に相違が大きく、性格不明としておく。**時期**：埋没土の状態から中・近世と思われるが不明。

遺物：土師器片・須恵器片等をわずかに確認している。掲載遺物、0点。

ピット（Fig.127、Tab.5）

ピットは132基が検出されている。大半が1号溝以東に分布していた。掘立柱建物跡の柱穴と想定されるものも散見されたが、建物構成を把握することができなかった。埋没土は概ねFAを含む黒～黒褐色土で、時期的には古墳時代～平安時代と推定されるが、明確な時期は不明である。

なお、1号溝を境に表土下の地質に若干の差異があり、旧地形（現況より高かったものと推定される）が改変された可能性も考えられる。

Tab.5　ピット一覧表

番号	グリッド	規模(cm)	深さ(cm)
1	X59Y204	58×56	21
2	X58Y205	65×60	12
3	X58Y206	33×32	29
4	X57Y206	45×45	27
5	X57Y205	50×49	25
6	X57Y205	35×33	38
7	X57Y205	31×31	27
8	X58Y206	55×49	16
9	X58Y206	73×43	44
10	X57Y206	26×26	14
11	X57Y206	55×35	24
12	X57Y206	43×43	19
13	X57Y206	28×27	13
14	X57Y206	58×36	36
15	X57Y206	33×30	12
16	X57Y207	37×32	31
17	X57Y207	34×28	24
18	X57Y208	54×43	39
19	X57Y207	40×32	39
20	X57Y207	30×25	25
21	X57Y208	40×30	47
22	X57Y208	40×36	29
23	X57Y207	36×32	29
24	X57Y207	44×41	21
25	X57Y207	30×25	26
26	X58Y207	38×35	27
27	X58Y207	23×22	18
28	X56Y207	31×29	11
29	X56Y207	25×24	11
30	X56Y207	32×31	11
31	X56Y206	73×59	27
32	X55Y206	36×36	33
33	X55Y206	39×34	23
34	X55Y207	47×43	31
35	X54Y207	45×33	26
36	X54Y207	30×27	21
37	X55Y207	23×22	14
38	X55Y207	31×30	20
39	X55Y208	42×36	18
40	X55Y209	22×20	19
41	X55Y209	26×22	28
42	X55Y209	33×26	12
43	X50Y208	39×39	56
44	X52Y210	48×46	23
45	X52Y210	41×39	25
46	X52Y210	50×42	17
47	X51Y210	41×41	33
48	X51Y210	44×40	22
49	X51Y210	37×30	20
50	X51Y210	40×39	58
51	X51Y209	46×43	42
52	X50Y209	42×40	33
53	X50Y210	33×23	30
54	X56Y211	40×23	51
55	X56Y211	30×25	43
56	X56Y210	27×19	37
57	X56Y210	22×20	28
58	X52Y207	30×28	17
59	X52Y207	32×28	23
60	X51Y207	47×46	25
61	X50Y207	51×47	23
62	X51Y208	50×48	35
63	X51Y208	43×43	52
64	X52Y206	65×64	21
65	X52Y206	53×51	22
66	X52Y206	48×42	32
67	X52Y205	55×42	29
68	X51Y205	63×60	24
69	X51Y204	49×39	36
70	X51Y204	38×38	32
71	X51Y205	45×41	35
72	X51Y205	50×47	37
73	X51Y205	83×66	79
74	X52Y205	53×48	52
75	X51Y204	52×40	31
76	X53Y205	57×57	23
77	X53Y205	65×61	36
78	X53Y205	51×48	31
79	X53Y205	50×42	69
80	X52Y204	41×40	12
81	X52Y204	45×40	40
82	X53Y204	47×42	25
83	X53Y204	43×40	27
84	X53Y204	48×48	79
85	X53Y204	44×41	38
86	X53Y204	41×38	71
87	X53Y204	49×43	20
88	X52Y204	44×41	19
89	X55Y203	45×36	28
90	X55Y204	52×50	39
91	X56Y204	31×29	27
92	X56Y204	44×35	32
93	X55Y205	32×30	14
94	X55Y205	31×30	26
95	X55Y205	61×59	23
96	X55Y205	39×38	27
97	X55Y205	36×31	29
98	X55Y206	37×34	33
99	X56Y206	44×41	33
100	X53Y206	45×42	78
101	X54Y205	87×79	43
102	X54Y205	49×45	81
103	X54Y205	30×30	23
104	X54Y204	51×45	27
105	X54Y204	53×47	37
106	X54Y203	41×39	46
107	X54Y203	38×34	16
108	X54Y203	46×40	38
109	X53Y203	46×44	35
110	X54Y203	43×43	34
111	X53Y204	53×49	36
112	X53Y203	42×42	31
113	X53Y203	43×38	23
114	X53Y203	41×38	37
115	X53Y203	37×37	19
116	X52Y203	41×33	32
117	X52Y203	47×35	31
118	X52Y203	39×36	27
119	X48Y207	36×32	22
120	X48Y209	36×36	21
121	X49Y207	32×30	10
122	X48Y202	36×34	19
123	X48Y202	26×23	30
124	X48Y204	78×32	87
125	X48Y204	32×25	75
126	X40Y203	28×26	18
127	X40Y204	34×30	36
128	X40Y204	26×22	35
129	X40Y204	33×26	40
130	X40Y204	30×26	24
131	X39Y206	70×56	43
132	X39Y207	40×30	40

Ⅳ　溝

1号溝（遺構：Fig.119、PL.64・67）

位置：X39Y207グリッド～X49Y202グリッド。北側及び南側は調査区外。**検出状態**：北側は明確に遺構の状態を確認できたが、南側に向かうにしたがい徐々に浅くなり調査区南端ではようやく範囲を把握できる程度

の残存状態であった。検出範囲の総延長は約60mである。**走向方向**：北から南に向かいX48Y203グリッド付近で西方向へと緩やかに屈曲。X45Y203グリッドで2条に分岐し、X41Y203グリッドで再び南方向へ屈曲し1条になっている。底面の標高は、北端部が123.04m、西方向への屈曲部（X48Y203グリッド）が122.94m、分岐点（X44Y203グリッド）が123.41m、南方向への屈曲部（X41Y203グリッド）が123.22m、南端部が123.08mである。**断面形態**：底面が細くなる漏斗状であるが、先述したように南側は浅くなり逆台形～皿状となっている。**規模**：上端幅は0.60m～2.10m、下端幅0.15m～0.30m。**残存深度**：北端部で77㎝。**遺構埋没状態**：北端部付近の埋没状態は2・3層が西方向から、4層が東方向から埋没しているものと想定される。2層及び4層には砂粒の含有がやや多く認められた。**遺物出土状態**：埋没土中から少量の近世陶磁器が出土している。**備考**：埋没土に砂粒の含有が認められたものの、遺構の形態や走向状態等から用水路とは想定しがたい。本溝以西では1号・2号土坑が検出されているが、本溝との関連性については明確ではない。また、「伊勢宮」の小字名や近接地に残る小字「江戸屋敷」との関連性についても現時点では判断しがたい。ここでは何らかの区画溝であるという可能性を示すに留めたい。**時期**：近世。
遺物：近世陶磁器(肥前系染付碗等）片を少量確認している。掲載遺物、0点。

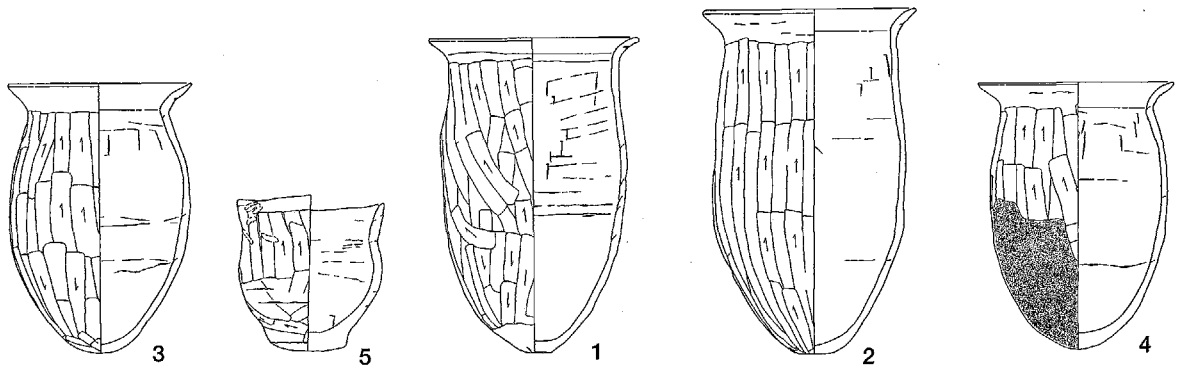
V　遺構外出土遺物　(Fig.131・132、PL.71・72)

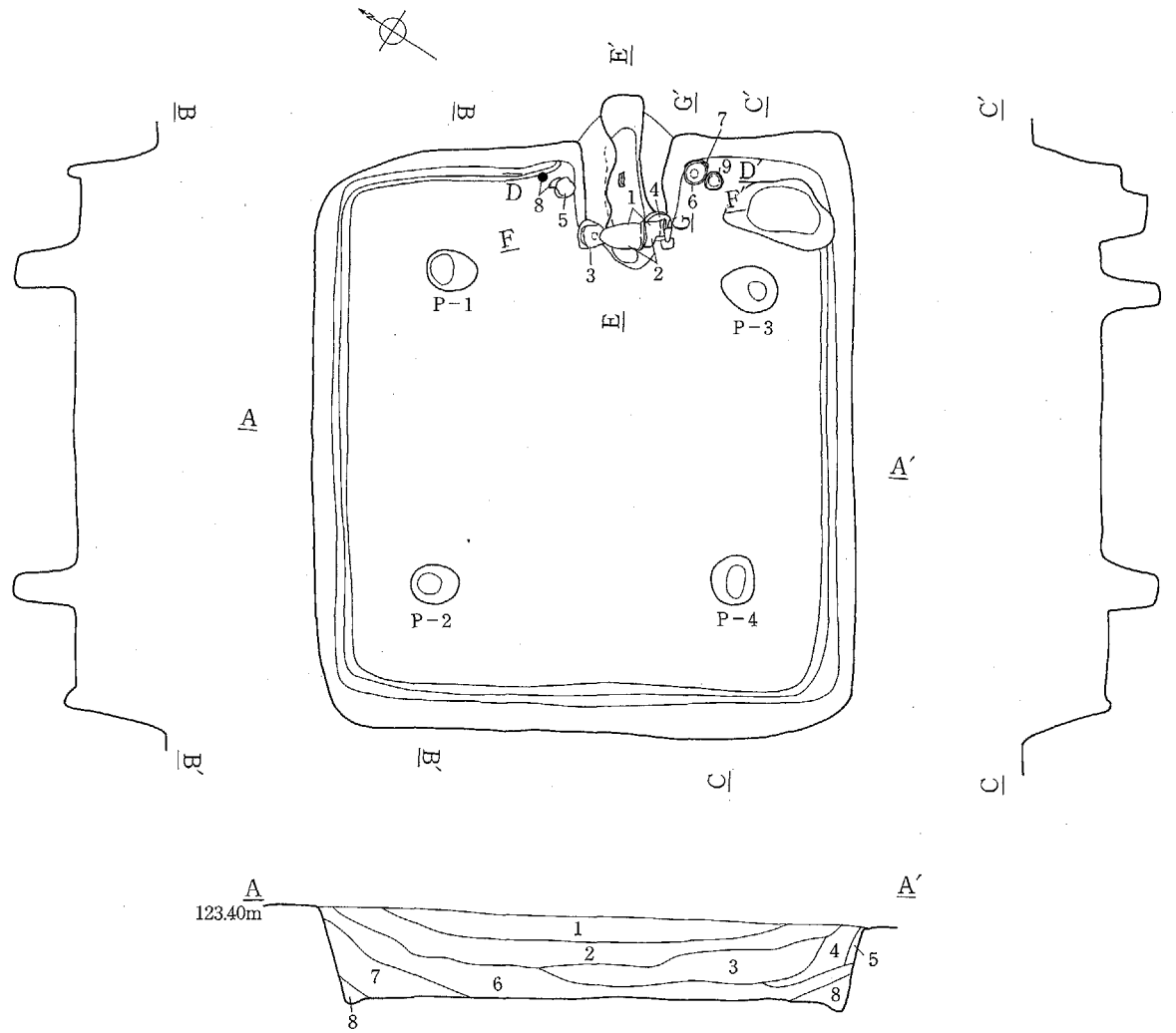
ここでは、遺構外及び古墳時代以降の遺構から出土した縄文土器・石器類、遺構外から出土した古墳時代以降の遺物を概括する。縄文時代の遺物は1号溝以西にも散見されたが、出土量は1号溝以東が多い。なお、縄文土器片の出土量の多さが目立つものの、本遺跡では当該期の遺構は検出されていない。

縄文土器片は、前期黒浜式83点・諸磯a式57点・諸磯b式19点・十三菩提式3点、中期初頭～中葉（阿玉台式土器が中心）37点・中期後半457点、不明176点、土製円板1点を確認している。中期後半の土器が圧倒的に多く、中でも加曽利E2式土器が多かった。

石器類は、磨石・凹石7点（輝石安山岩2・安山岩5）、打製石斧12点（頁岩10・砂質頁岩1・ヒン岩1）、残核2点（頁岩1・黒色安山岩1）、敲石1点（絹雲母片岩1）、調整のある剥片36点（頁岩30・黒色安山岩2・砂岩1・輝石安山岩1・安山岩2）、剥片 133点（頁岩89・黒色安山岩6・砂質頁岩9・チャート1・鉄石英1・珪岩1・黒曜石1・ヒン岩1・絹雲母片岩1・輝石安山岩7・安山岩16）、礫40点（内33点は被熱痕のある輝石安山岩）を確認している。掲載遺物、土器類25点、石器類8点。

また、遺構外から土師器・須恵器片や砥石、中・近世陶磁器、古銭等が出土している。砥石（34）は1号土坑に伴う可能性がある。掲載遺物、3点。





1層：黒色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA少量、しまりやや強く、粘性ややある。
3層：黄褐色土　ローム粒・ブロック（φ～80㎜）やや多量。粘質土。炭化粒微量、黒色土ブロック微量。しまり強い。
4層：黒色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：黄褐色土　ローム。壁の崩落土。しまりやや強い。
6層：黒褐色土　ローム粒・ブロック（φ～80㎜）少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。
8層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまりやや弱く、粘性や

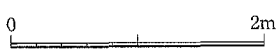
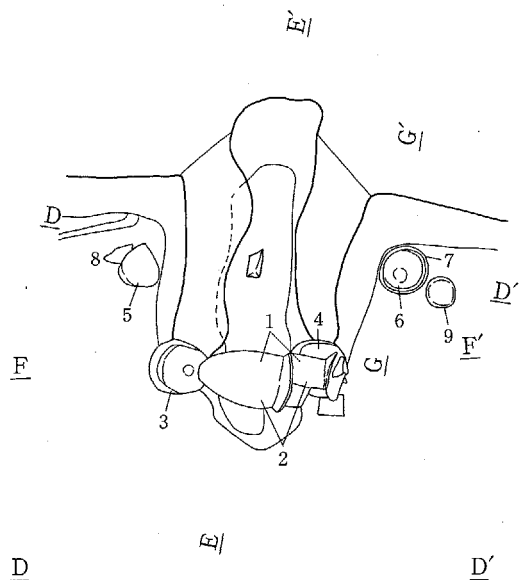
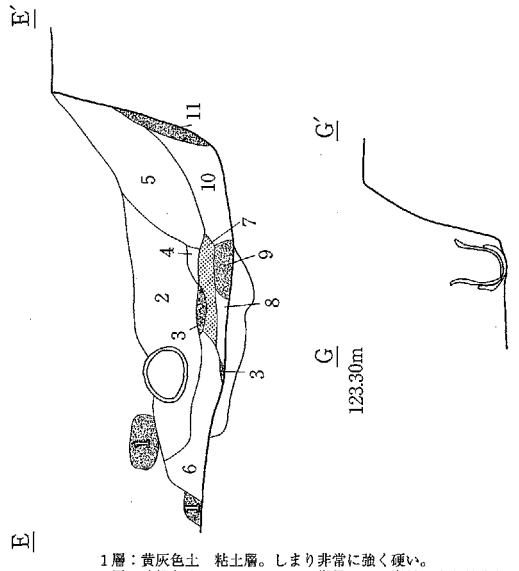


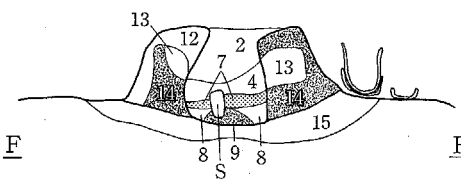
Fig.120　H－1号住居跡①

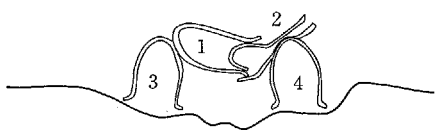


D
123.30m

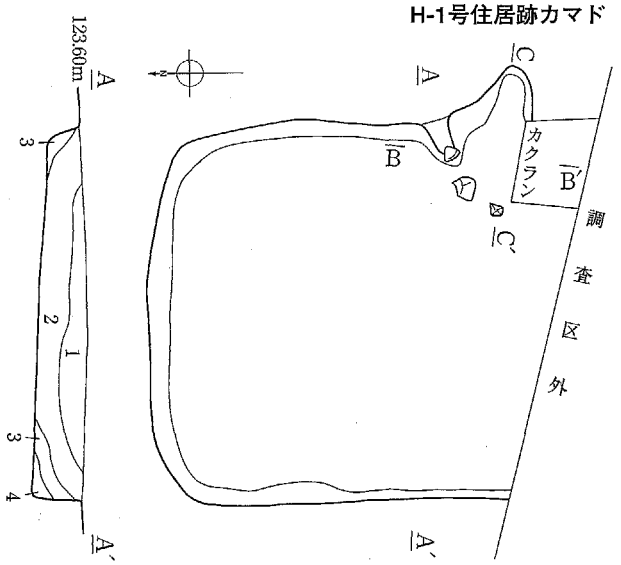


1層：黄灰色土　粘土層。しまり非常に強く硬い。
2層：暗褐色土　ロームブロック微量、ＦＡ微量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
3層：赤褐色土　焼土層。しまりやや強い。
4層：暗褐色土　炭化粒微量、焼土粒微量、粘土少量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：灰褐色土　ローム粒少量、ＦＡ微量、焼土粒微量、粘土やや多量。しまりやや強く、粘性がある。
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～10㎜）少量。しまり強く、粘性がある。
7層：黒褐色土　灰層。焼土粒微量。しまり弱い。
8層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
9層：黄灰色土　粘土層。しまり強い。
10層：黒褐色土　ロームブロック微量、焼土粒微量、粘土微量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
11層：黄灰色土　粘土層。しまり強い。
12層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、ＦＡ微量、炭化粒微量、焼土粒微量、粘土微量。しまり強く、粘性がある。
13層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、炭化粒少量、焼土粒少量、粘土少量。しまり強く、粘性がある。
14層：黄灰色土　粘土層。ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまり非常に強く硬い。
15層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）少量、ＦＡ微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。

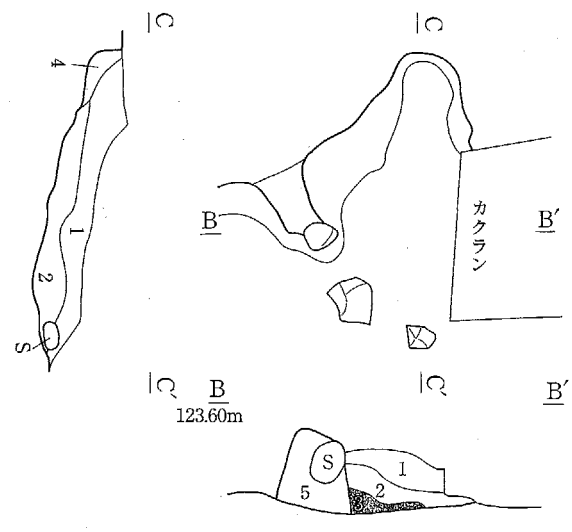




H-1号住居跡カマド



1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒やや多量、ロームブロック（φ～20㎜）少量。しまりやや強く、粘性がある。

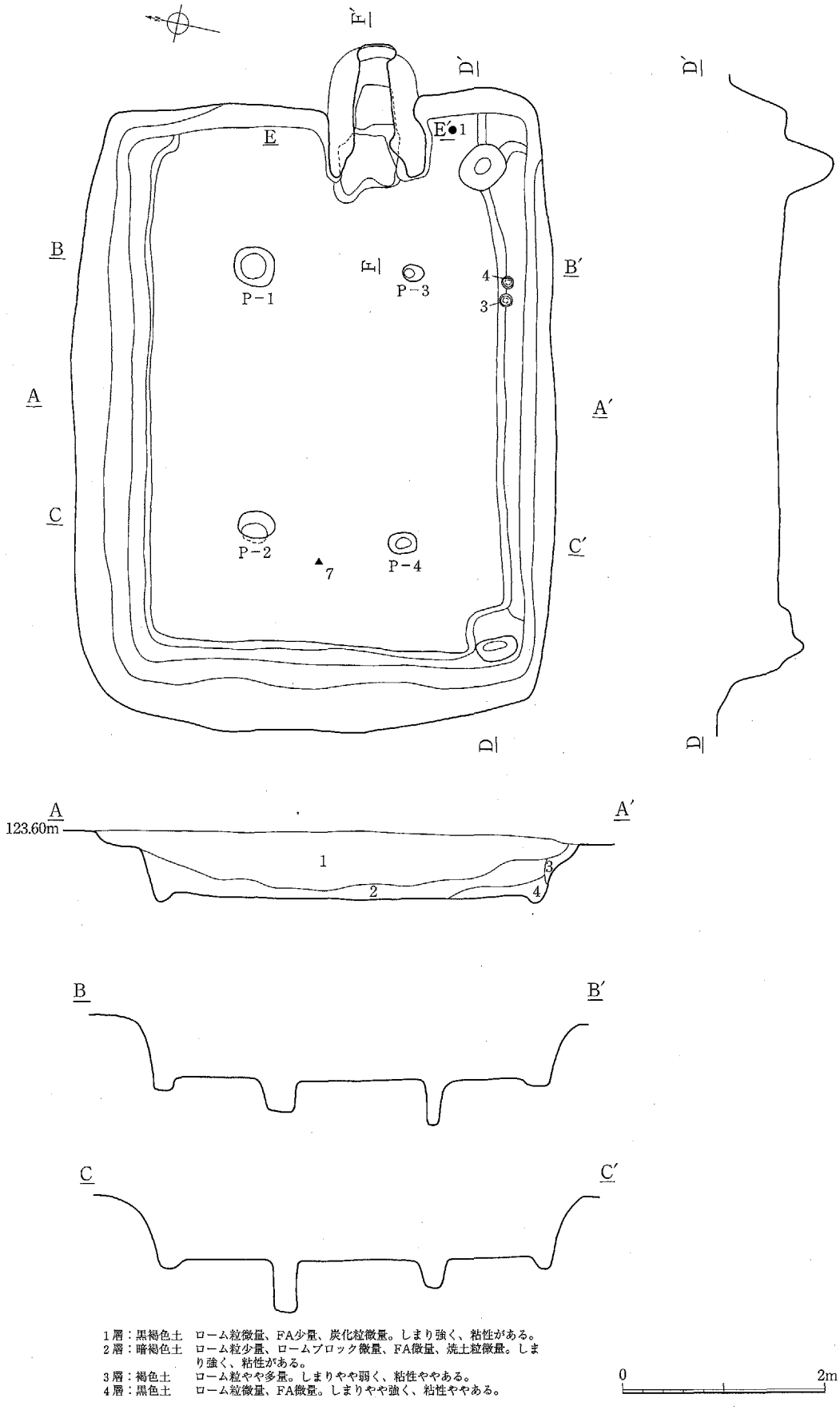


1層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：赤褐色土　焼土層。しまり弱い。
4層：暗褐色土　ローム粒やや多量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：褐色土　ローム粒多量、FA微量、焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。

H-6号住居跡

1m（カマド図）
0　2m

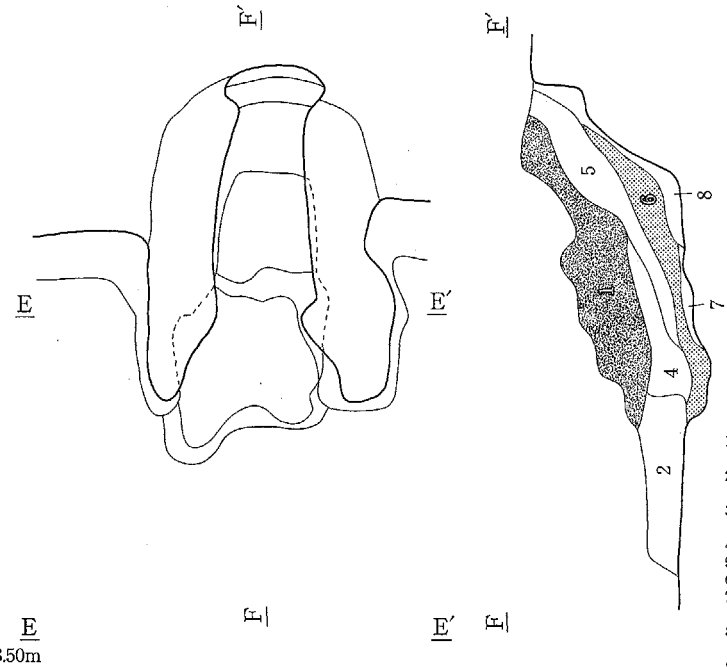
Fig.121　H－1号住居跡②・H－6号住居跡



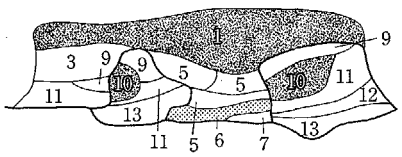
1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA少量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：褐色土　ローム粒やや多量。しまりやや弱く、粘性ややある。
4層：黒色土　ローム粒微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。

0　2m

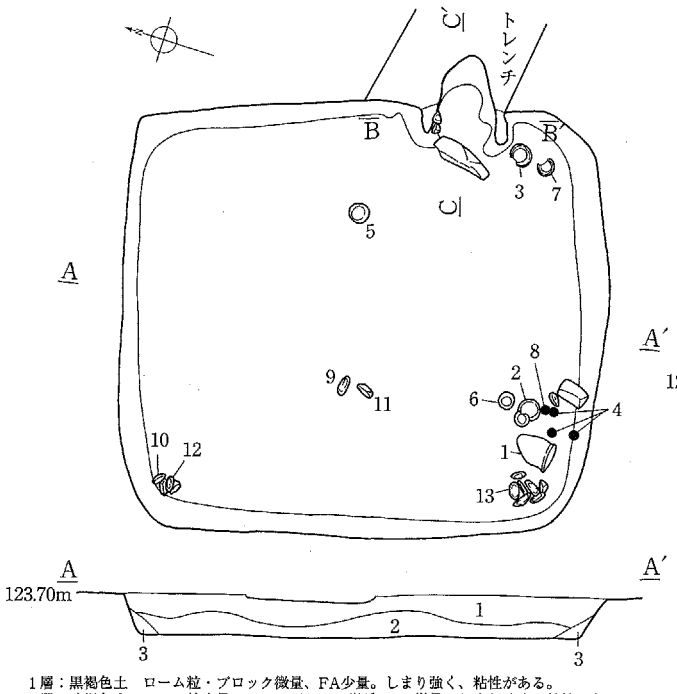
Fig.122　H－2号住居跡①



1層：褐色土　粘土層。ローム粒微量、FA微量、焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、FA少量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　FA微量、焼土粒微量、粘土少量。しまりやや強く、粘性がある。
4層：褐色土　FA微量、焼土粒微量、粘土多量。しまり強い。
5層：赤褐色土　焼土多量、粘土やや多量。しまりやや弱い。
6層：黒灰色土　灰層。焼土粒微量。しまり弱い。
7層：橙褐色土　焼土やや多量、灰少量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
8層：暗褐色土　ローム粒少量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
9層：褐色土　焼土微量、粘土多量。しまり強い。
10層：褐色土　粘土層。FA微量、焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。
11層：暗褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
12層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量。しまり強く、粘性がある。
13層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～40㎜）少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。



H-2号住居跡カマド

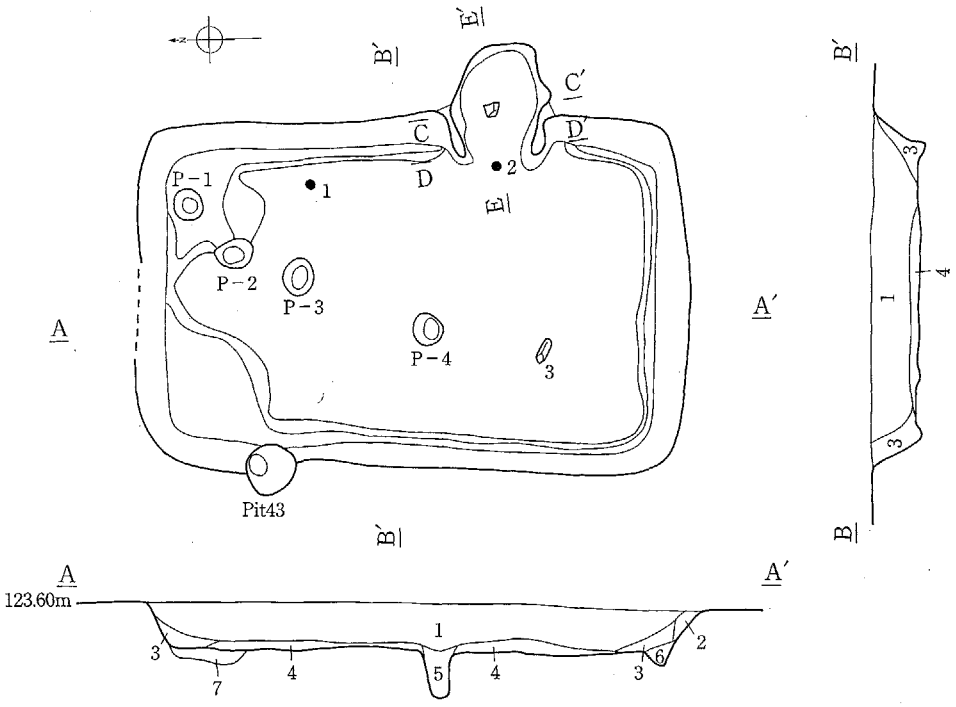


1層：黒褐色土　ローム粒・ブロック微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
3層：黒褐色土　ローム粒少量。しまりやや強く、粘性ややある。

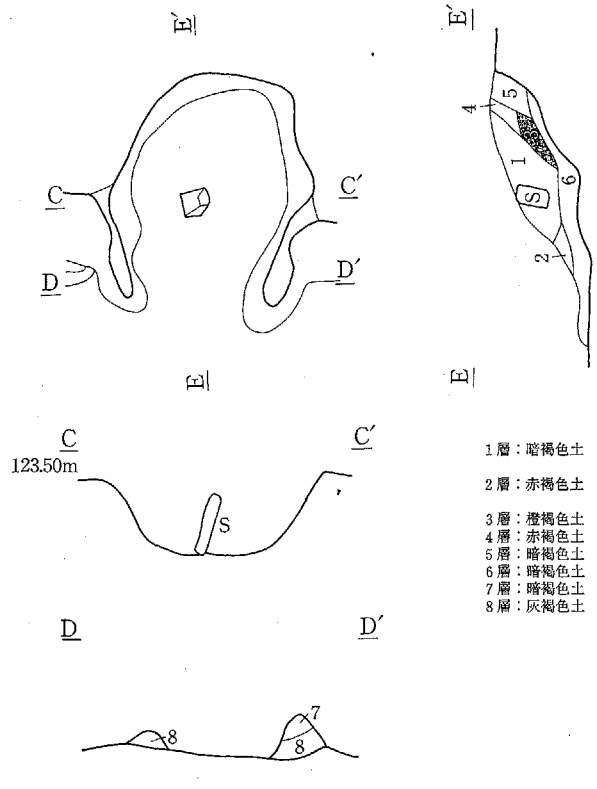
H-4号住居跡

1層：黒褐色土　ロームブロック微量、FA微量、炭化粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
3層：赤褐色土　焼土層。しまり強い。
4層：灰褐色土　ローム粒微量、灰多量。しまりやや弱い。
5層：黄灰色土　灰層。焼土粒微量。しまり弱い。
6層：灰褐色土　灰層。焼土粒微量。しまり弱い。
7層：暗褐色土　ローム粒やや多量。しまりやや強く、粘性がある。
8層：黒褐色土　ローム粒微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性あまりない。
9層：明黄褐色土　ローム粒多量、FA微量、焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。
10層：褐色土　ローム粒微量。しまり非常に強く硬い。
11層：褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。
12層：暗褐色土　ローム粒微量。しまりやや強く、粘性ややある。

Fig.123　H－2号住居跡②・H－4号住居跡



1層：黒褐色土　ローム粒微量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：黒褐色土　ローム粒微量、FA微量。しまりやや強く、粘性ややある。
4層：暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
5層：黒褐色土　ローム粒微量。しまりやや強く、粘性がある。
6層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～20㎜）少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
7層：暗褐色土　ローム粒・ブロック（φ～30㎜）少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。掘り方充填土。



1層：暗褐色土　ローム粒微量、FA微量、炭化粒微量、焼土少量。しまり強く、粘性がある。
2層：赤褐色土　ローム粒微量、焼土やや多量。しまりやや強く、粘性ややある。
3層：橙褐色土　焼土層。しまりやや強い。
4層：赤褐色土　FA微量、焼土少量。しまりやや強く、粘性がある。
5層：暗褐色土　ローム粒微量、焼土少量。しまりやや弱く、粘性ややある。
6層：暗褐色土　ローム粒少量、焼土微量。しまり強く、粘性がある。
7層：暗褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量。しまり非常に強く硬い。
8層：灰褐色土　ローム粒微量、焼土粒微量。しまり強く、粘性がある。

1m（カマド図）
0　2m

Fig.124　H－3号住居跡

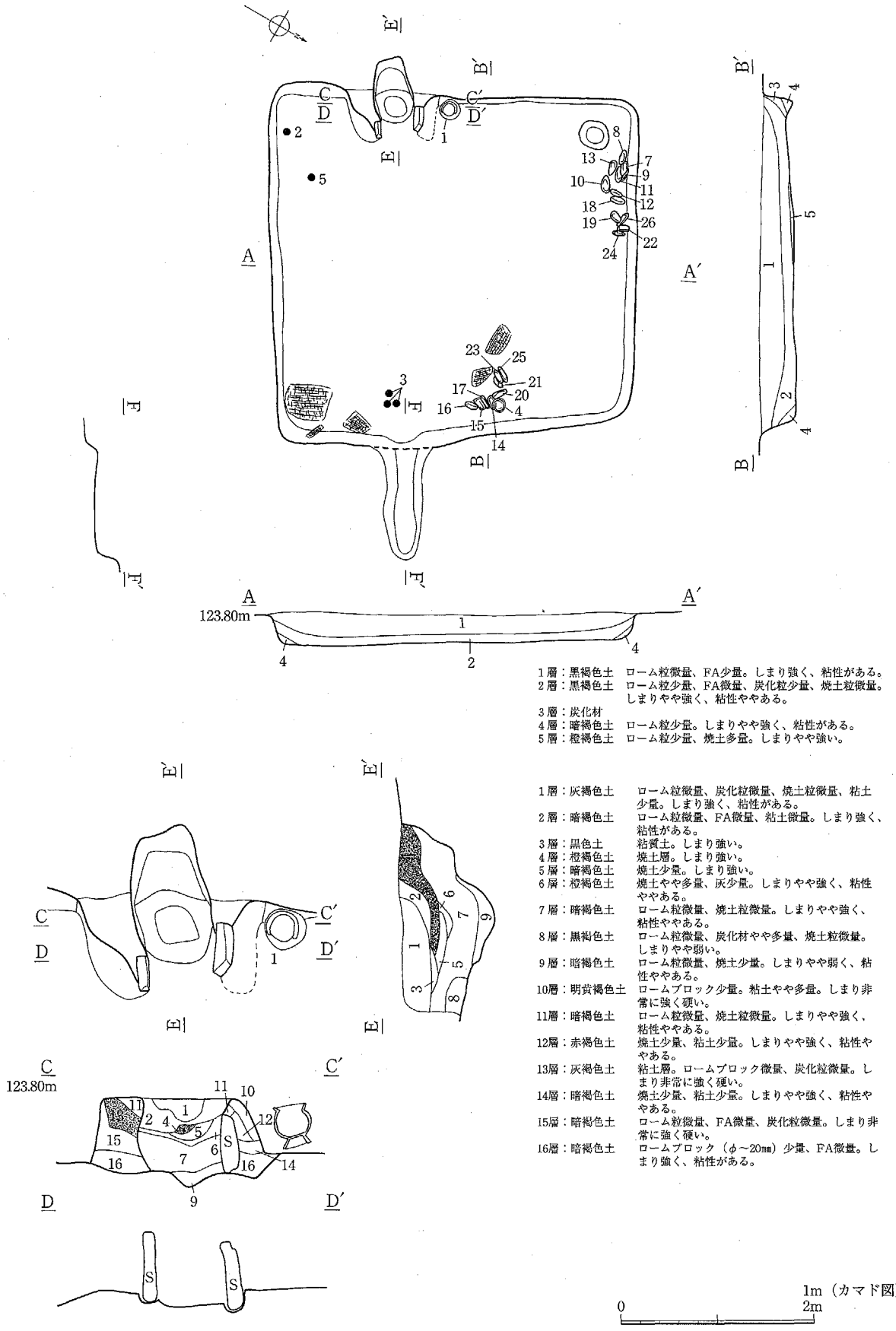
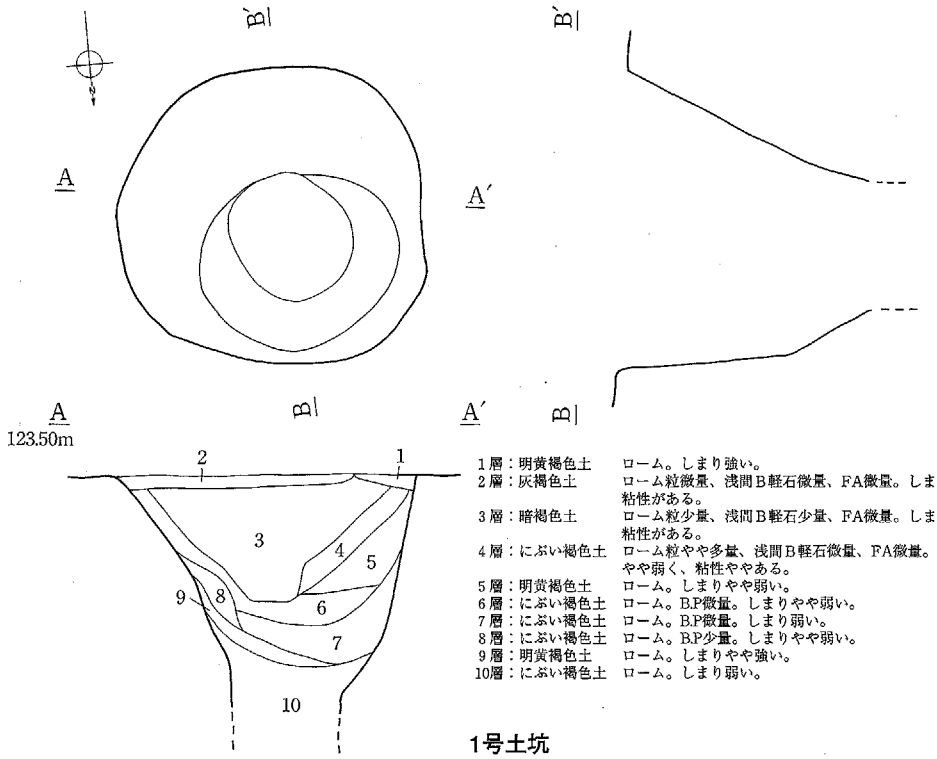
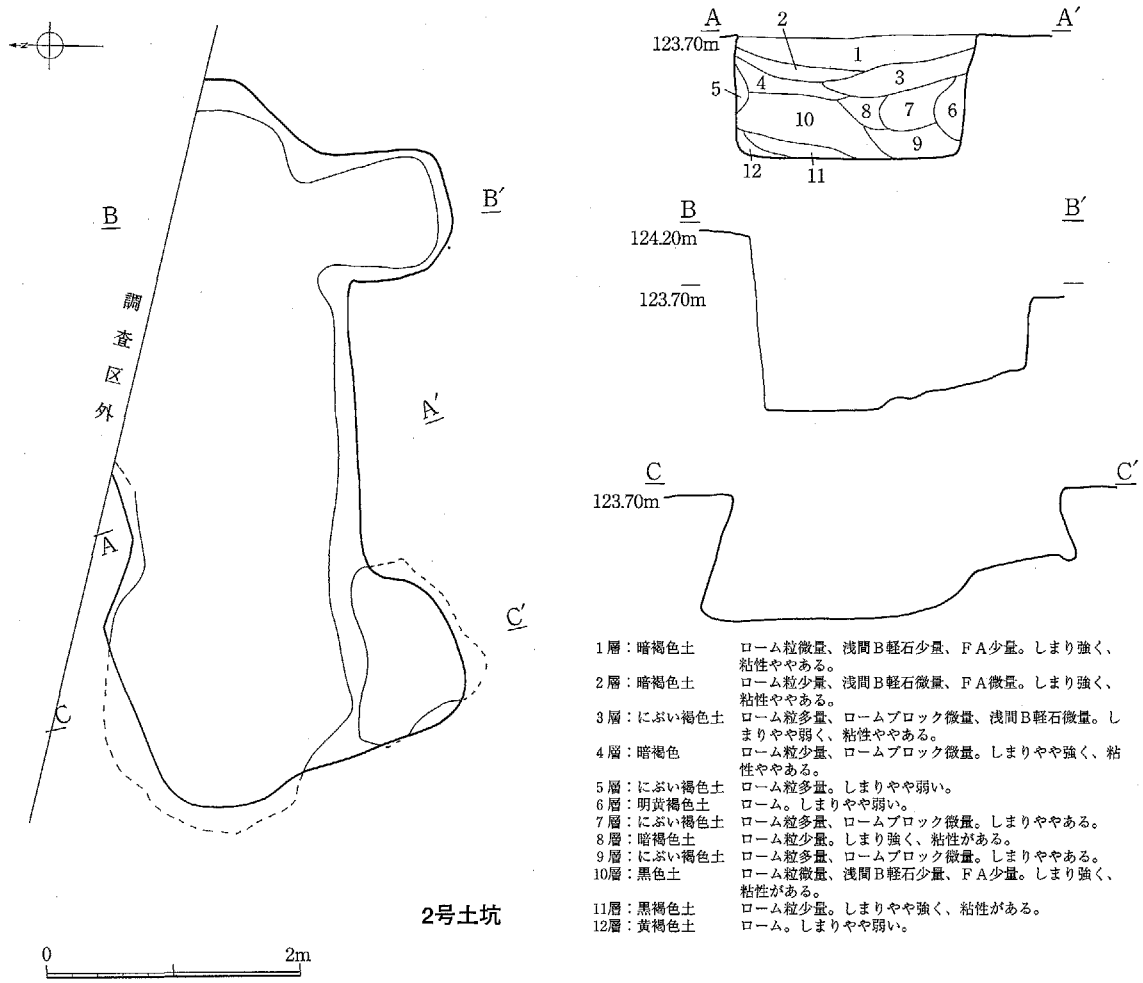


Fig.125　H－5号住居跡



1層：明黄褐色土　ローム。しまり強い。
2層：灰褐色土　ローム粒微量、浅間B軽石微量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
3層：暗褐色土　ローム粒少量、浅間B軽石少量、FA微量。しまり強く、粘性がある。
4層：にぶい褐色土　ローム粒やや多量、浅間B軽石微量、FA微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
5層：明黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
6層：にぶい褐色土　ローム。B.P微量。しまりやや弱い。
7層：にぶい褐色土　ローム。B.P微量。しまり弱い。
8層：にぶい褐色土　ローム。B.P少量。しまりやや弱い。
9層：明黄褐色土　ローム。しまりやや強い。
10層：にぶい褐色土　ローム。しまり弱い。

1号土坑



1層：暗褐色土　ローム粒微量、浅間B軽石少量、FA少量。しまり強く、粘性ややある。
2層：暗褐色土　ローム粒少量、浅間B軽石微量、FA微量。しまり強く、粘性ややある。
3層：にぶい褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量、浅間B軽石微量。しまりやや弱く、粘性ややある。
4層：暗褐色　ローム粒少量、ロームブロック微量。しまりやや強く、粘性ややある。
5層：にぶい褐色土　ローム粒多量。しまりやや弱い。
6層：明黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。
7層：にぶい褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量。しまりややある。
8層：暗褐色土　ローム粒少量。しまり強く、粘性がある。
9層：にぶい褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量。しまりややある。
10層：黒色土　ローム粒微量、浅間B軽石少量、FA少量。しまり強く、粘性がある。
11層：黒褐色土　ローム粒少量。しまりやや強く、粘性がある。
12層：黄褐色土　ローム。しまりやや弱い。

2号土坑

Fig.126　土坑

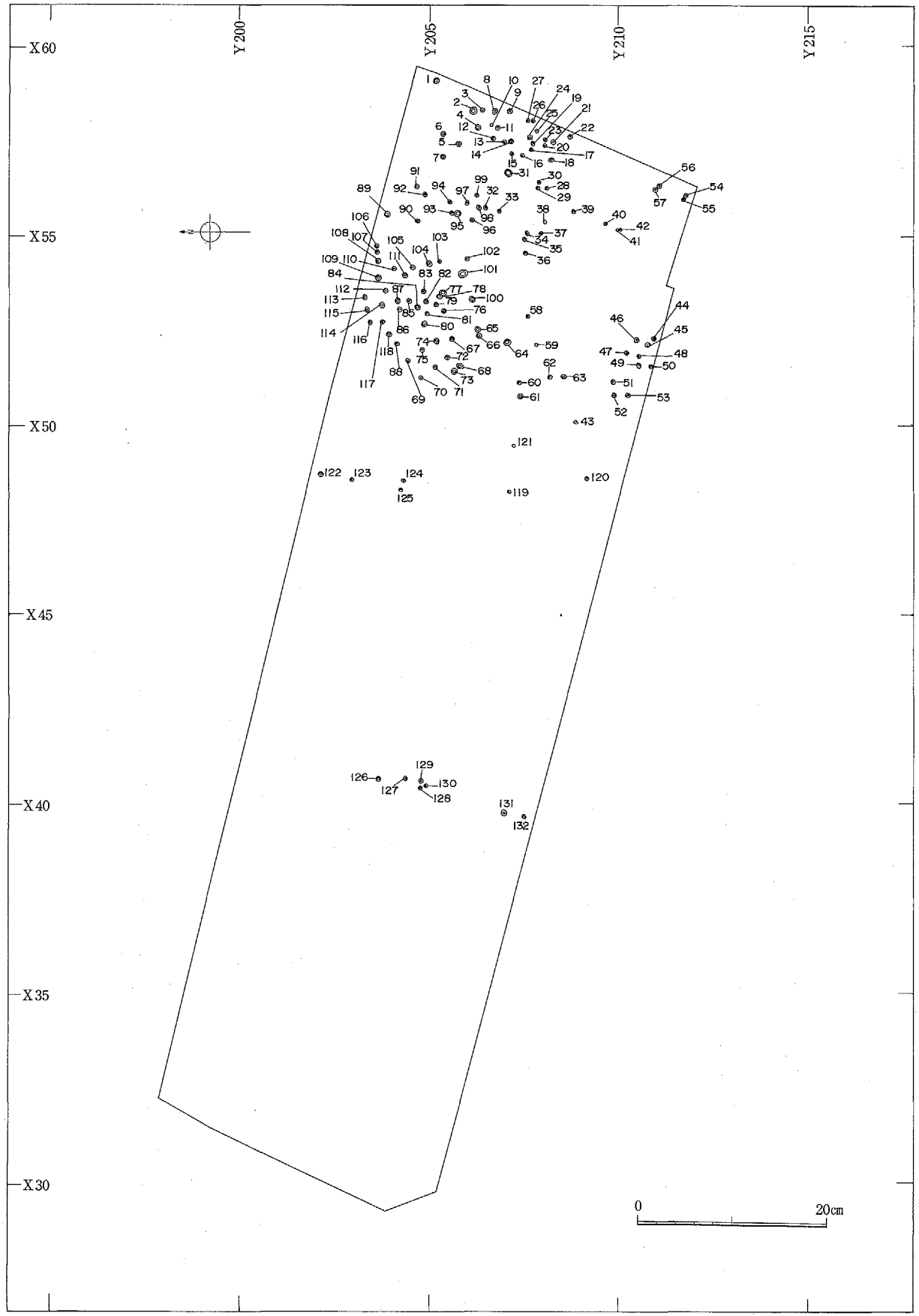
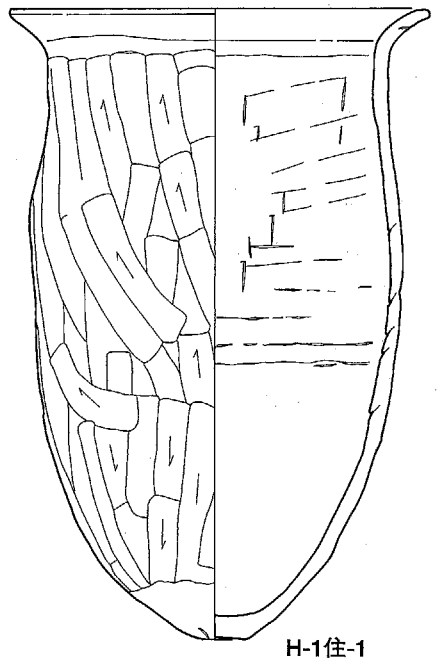
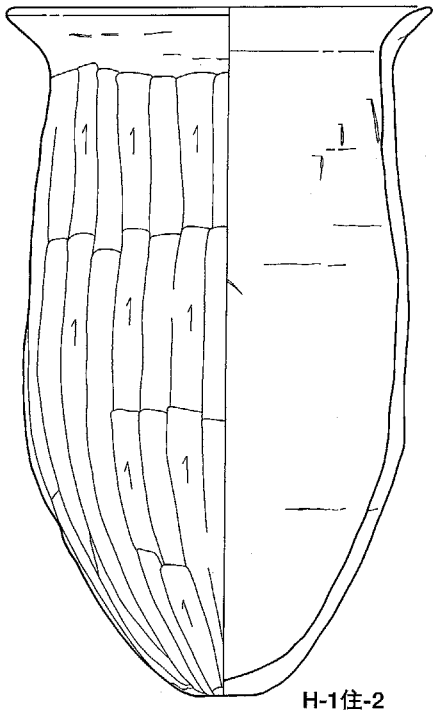


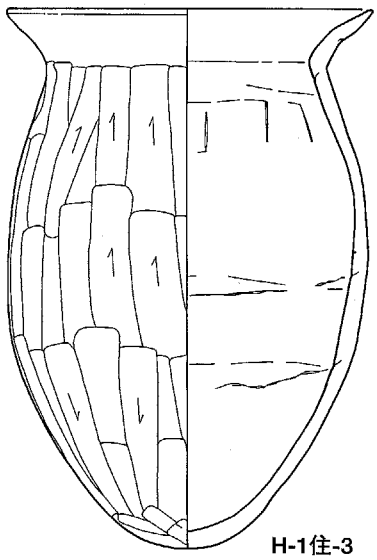
Fig.127　ピット位置図



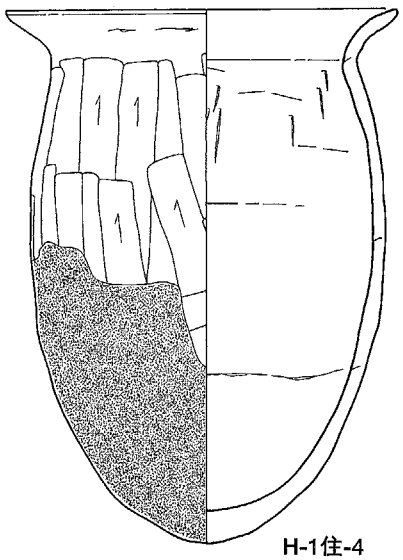
H-1住-1



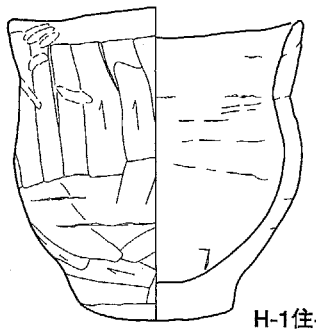
H-1住-2



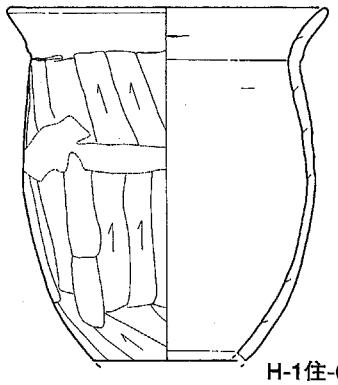
H-1住-3



H-1住-4



H-1住-5



H-1住-6

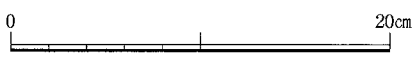


Fig.128　H－1号住居跡出土遺物

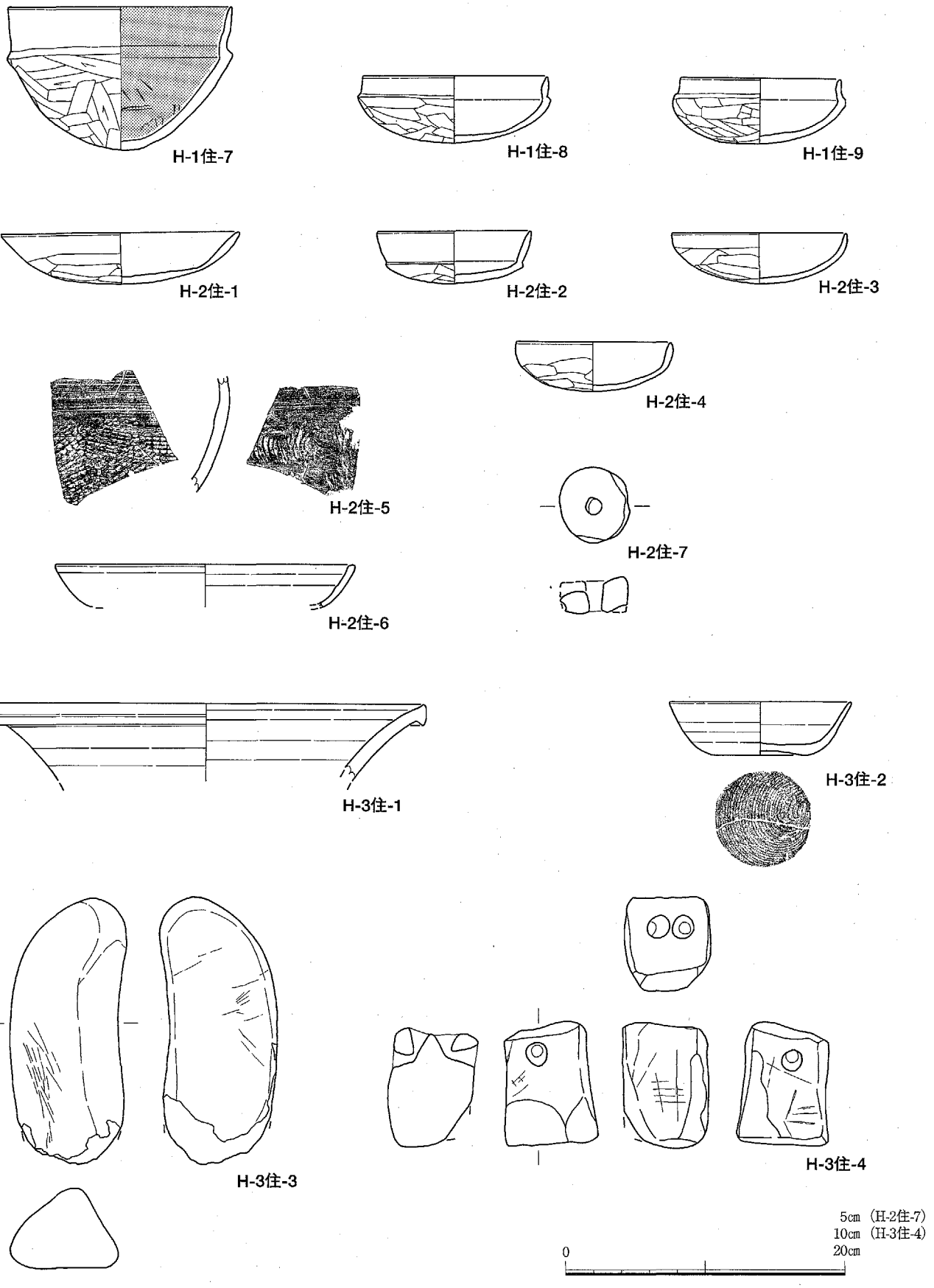


Fig.129　H－1号・H－2号・H－3号住居跡出土遺物

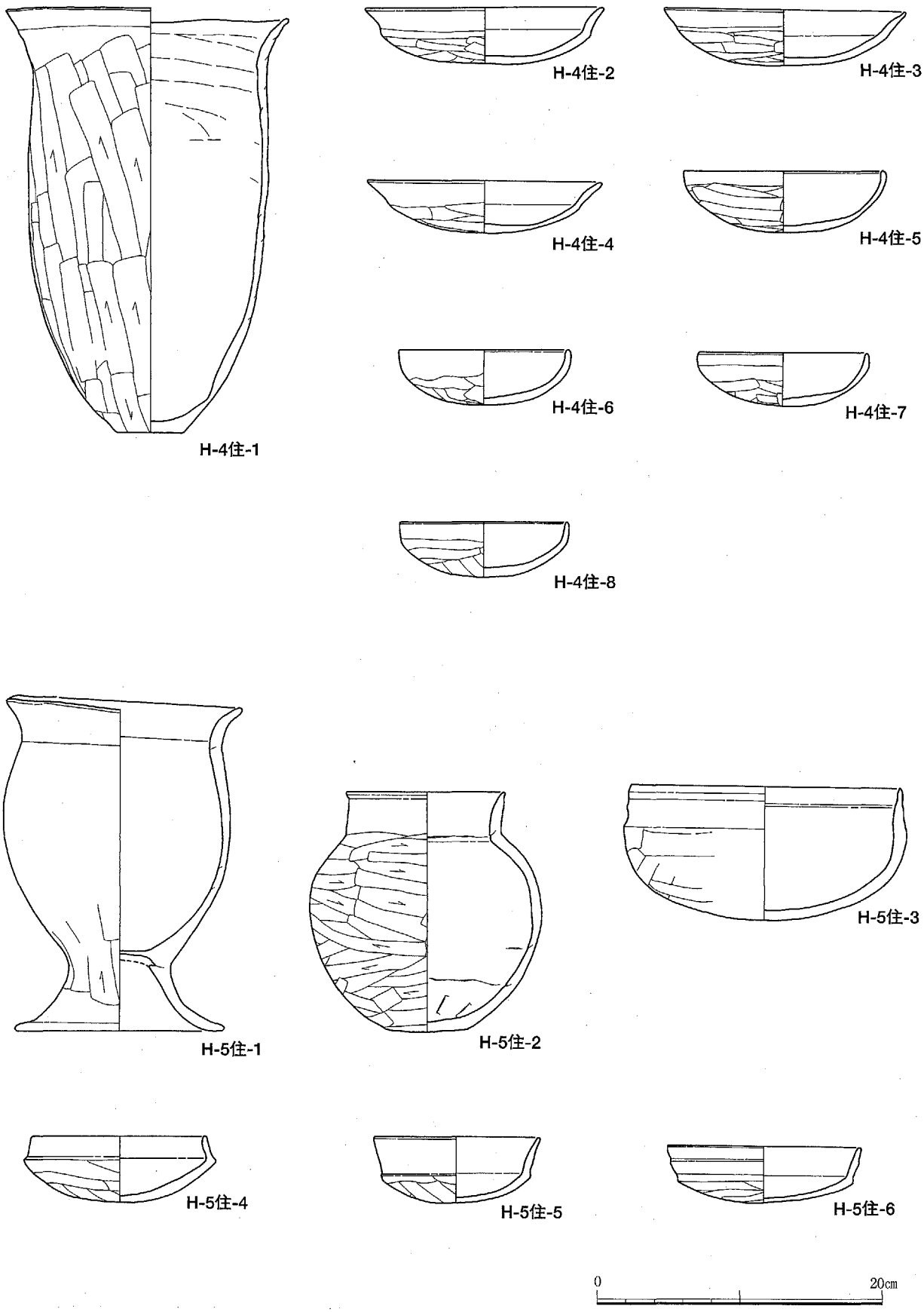


Fig.130　H－4号・H－5号住居跡出土遺物

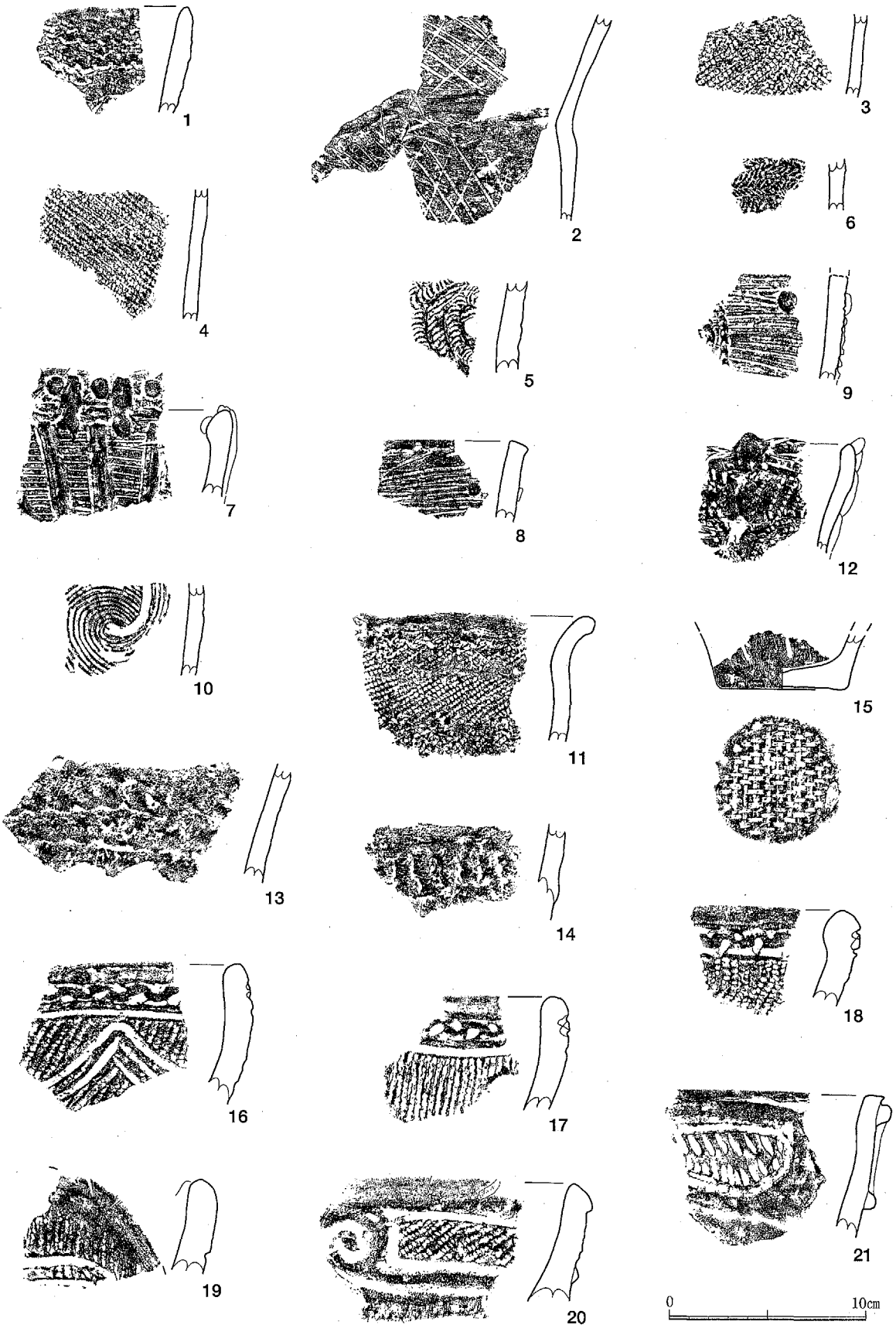


Fig.131　遺構外出土遺物①

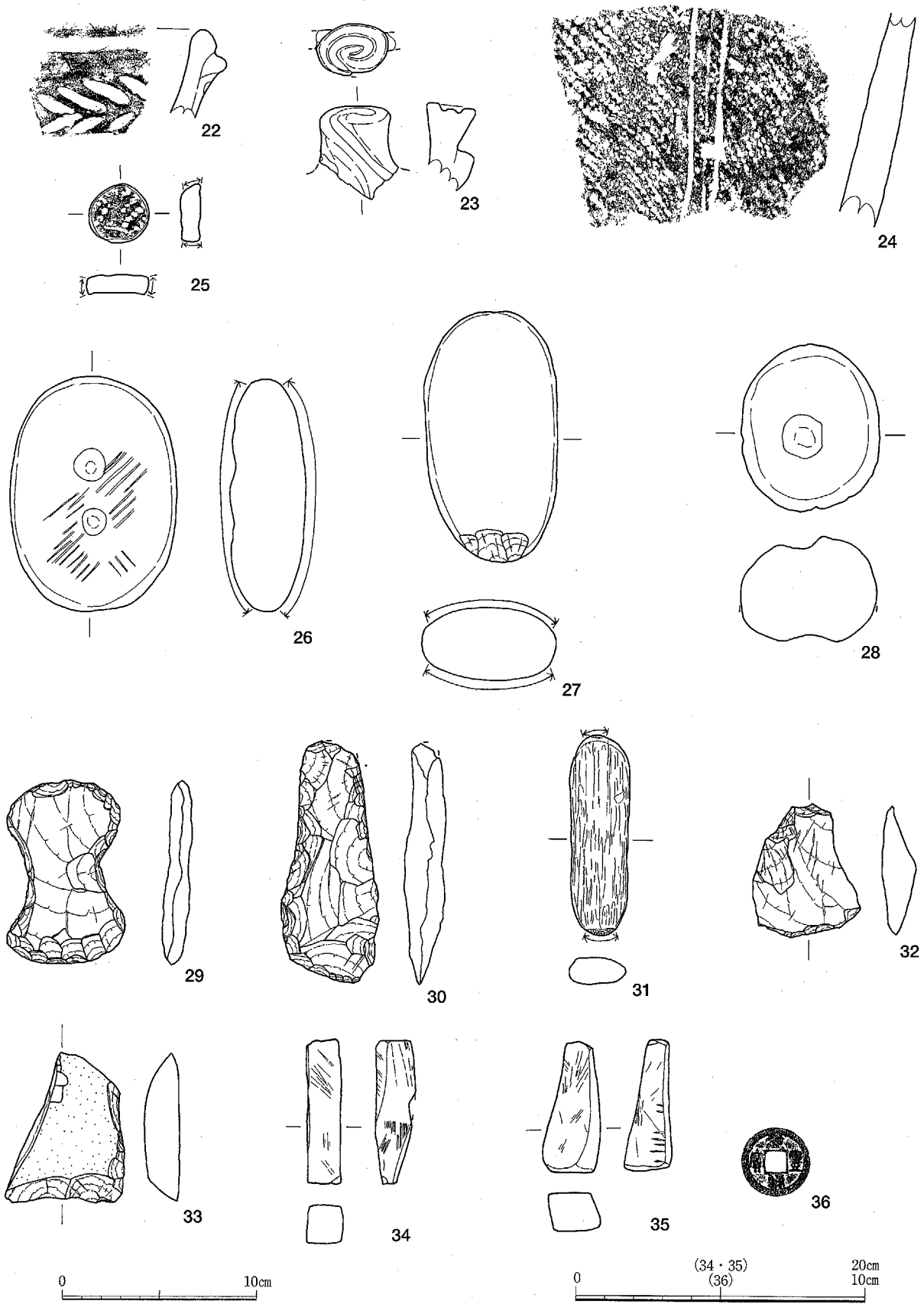


Fig.132　遺構外出土遺物②

五代伊勢宮Ⅰ遺跡遺物観察表

H－1号住居跡（Fig.128・129、PL.68）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：33.2・口径：22.2・底径：2.5／ほぼ完形	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／カマド懸架材。全体に粘土付着。	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石・石英・白色粒・チャート	2
2	土師器 甕	器高：36.6・口径：22.5・底径：3.5／5/6	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／カマド懸架材。全体に粘土付着。	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石・石英・白色粒・チャート	3
3	土師器 甕	器高：28.6・口径：19.4／ほぼ完形	丸底。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／カマド左袖。下半部に粘土付着。	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石・石英・白色粒・チャート	9
4	土師器 甕	器高：28.1・口径：20.8／ほぼ完形	丸底。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／カマド右袖。下半部粘土付着著しい。	橙 7.5YR6/6	角閃石・石英・白色粒・チャート	10・カ
5	土師器 甕	器高：16.4・口径：15.6・底径：8.0／完形	底部丸みを持つ。胴部最大径15.2cm。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石安山岩粒・石英・チャート	4
6	土師器 (甑)	器高：18.6・口径・17.0・底径：8.1／ほぼ完形	甕の底部を打ち欠いて甑に転用。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り、胴部中位付近に帯状のハゲ。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。／カマド右脇から鉢（7）上に重なって出土。	にぶい褐 7.5YR5/4	粗砂粒・チャート・黒色鉱物	7
7	土師器 鉢	器高：10.4・口径：16.1／完形	丸底でやや尖り気味。口縁部下に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ、黒色処理。／上に転用甑（6）が重なって出土。	灰黄褐 10YR5/2	角閃石・石英・白色粒	8
8	土師器 坏	器高：4.8・口径：13.4／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／燻し焼成気味。	にぶい橙 7.5YR6/4	微砂粒・白色粒・黒色粒	1・5
9	土師器 坏	器高：4.7・口径：11.6／完形	丸底。口縁部と体部との境に面を持つ稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外面黒色物付着。	橙 5YR6/6	微砂粒・白色粒・黒色粒	6

H－2号住居跡（Fig.129、PL.69）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 盤	器高：3.9・口径：17.1／1/2	丸底。口縁部大きく開く。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／内外面黒色物付着。	にぶい橙 7.5YR6/4	石英・白色粒・黒色鉱物	4
2	土師器 坏	器高：3.7・口径：11.0／1/2	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／紛れ込み遺物か。	橙 5YR6/6	黒色鉱物・赤褐色粒	－
3	土師器 坏	器高：3.7・口径：12.6／完形	丸底。口縁部短く立ち上がる。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	明赤褐 5YR5/6	角閃石・石英・白色粒	6
4	土師器 坏	器高：3.7・口径：11.2／完形	丸底。口縁部やや内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り後、体部を一部ナデ。内面、ナデ。	にぶい橙 5YR6/4	石英・チャート・白色粒・黒色鉱物	7
5	須恵器 (甕)	／胴部片	外面、破片上半回転ナデ、下半格子目叩き。内面、破片上半回転ナデ、下半同心円状当て具痕後ナデ。	灰 N5/	チャート・黒色鉱物	－
6	須恵器 (盤)	口径：(21.5)／口縁部片	ロクロ成・整形。内面のロクロ目強い。	灰 5Y6/	石英・白色粒・黒色鉱物	－
7	臼　玉	径：1.35cm×1.25cm・厚さ：0.6cm・孔径：0.3cm、残重：1.60ｇ。石材：滑石。／1/3ほどを欠損。				15

H－3号住居跡（Fig.129、PL.69）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	須恵器 甕	口径：(31.2)／口縁部片	口縁端部下方に延びる。内外面ともナデ。／内面に灰かぶり。	灰 N4/	チャート・黒色鉱物	5
2	須恵器 坏	器高：3.8・口径：13.0・底径：7.2／5/6	ロクロ成・整形。底部、回転糸切り無調整。	灰黄 2.5Y6/2	片岩・石英・チャート・黒色鉱物	1
3	砥　石	残長：19.2cm・幅：8.2cm・厚さ：5.8cm、残重：1497.9ｇ。石材：ヒン岩。／2面を使用。				6
4	砥　石	残長：4.5cm・幅：3.4cm・厚さ：3.3cm、残重：64.8ｇ。石材：流紋岩。／4面を使用。上面から側面への潜り穴状の孔2か所。				－

H－4号住居跡①（Fig.130、PL.69・70）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 甕	器高：29.6・口径：19.8・底径：5.0／ほぼ完形	長胴甕。外面、口縁部ナデ、胴部ヘラ削り。内面、強いヘラナデ。	にぶい黄褐 10YR5/3	粗砂粒・角閃石安山岩粒・石英	31
2	土師器 盤	器高：4.0・口径：16.8／完形	丸底。口縁部外反して大きく開く。外面、口縁部ナデ、体部・底部・ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石安山岩粒・石英	21
3	土師器 盤	器高：4.1・口径：16.9／ほぼ完形	丸底。口縁部外反して大きく開く。外面、口縁部ナデ、体部・底部・ヘラ削り。内面、ナデ。／外面に煤付着。	明赤褐 5YR5/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	10

H－4号住居跡②

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
4	土師器 盤	器高：3.7・ 口径：16.5／2/3	丸底。口縁部外反して大きく開く。外面、口縁部ナデ、体部・底部・ヘラ削り。内面、ナデ。	明赤褐 5YR5/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	23～ 25･27
5	土師器 坏	器高：4.4・ 口径：14.1／完形	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	明赤褐 2.5YR5/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	8
6	土師器 坏	器高：3.9・ 口径：12.0／完形	丸底。口縁部内湾。外面、口縁部・体部上半ナデ、以下ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR6/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	19
7	土師器 坏	器高：3.8・ 口径：12.1／4/5	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部・体部上半ナデ、以下ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 2.5YR6/8	角閃石・石英・チャート・白色粒	11
8	土師器 坏	器高：3.9・ 口径：11.9／5/6	丸底。口縁部短く内湾。外面、口縁部・体部上半ナデ、以下ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 7.5YR6/6	微砂粒・角閃石・石英	28

9	薦編石	長さ：13.0・幅：5.3cm、重さ：515.9ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	6
10	薦編石	長さ：11.3・幅：4.6cm、重さ：341.4ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。	1
11	薦編石	長さ：13.5・幅：5.2cm、重さ：382.9ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	7
12	薦編石	長さ：11.4・幅：5.7cm、重さ：300.6ｇ。石材：輝石安山岩。／写真のみ掲載。	2
13	薦編石	長さ：13.3・幅：7.0cm、重さ：747.2ｇ。石材：石英安山岩。／写真のみ掲載。	12

H－5号住居跡（Fig.130、PL.70・71）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	成・整形の特徴／備考	色　調	胎　土	注記
1	土師器 台付甕	器高：23.4・口径： 16.5・底径：14.7／5/6	脚部外反して開く。内外面とも器面荒れ、脆い。外面、脚部裾はナデ、胴部はヘラ削りと思われる。	にぶい黄褐 10YR5/3	角閃石安山岩粒・石英	31
2	土師器 甕	器高：16.8・口径： 11.2・底径：6.2／完形	底部丸みを持つ。胴部最大径16.3cm。外面、口縁部ナデ、胴部・底部ヘラ削り。内面、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	にぶい橙 7.5YR6/4	チャート・赤褐色粒	1
3	土師器 鉢	器高：9.4・ 口径：(19.0)／1/3	丸底。口縁部下にわずかな稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 7.5YR6/6	チャート・赤褐色粒	6～8
4	土師器 坏	器高：4.7・ 口径：12.3／5/6	丸底。口縁部内傾し、体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。／燻し焼成気味。	褐灰 10YR4/1	角閃石・石英・チャート・白色粒	13
5	土師器 坏	器高：4.6・口径： 11.7／ほぼ完形	丸底。口縁部と体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 5YR7/8	チャート・赤褐色粒	4
6	土師器 坏	器高：4.0・ 口径：13.6／1/2	丸底。有段口縁で体部との境に稜。外面、口縁部ナデ、体部・底部ヘラ削り。内面、ナデ。	橙 7.5YR7/6	角閃石・石英・チャート・白色粒	－

7	薦編石	長さ：16.0・幅：5.8cm、重さ：565.4ｇ。石材：輝石安山岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	29
8	薦編石	長さ：14.3・幅：6.4cm、重さ：536.3ｇ。石材：石英安山岩。／被熱痕あり。写真のみ掲載。	30
9	薦編石	長さ：15.6・幅：7.0cm、重さ：713.9ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。	28
10	薦編石	長さ：16.2・幅：8.0cm、残重：1070.6ｇ。石材：ヒン岩。／一部欠損。被熱痕あり。写真のみ掲載。	25
11	薦編石	長さ：15.7・幅：8.5cm、重さ：886.0ｇ。石材：ヒン岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	27
12	薦編石	長さ：12.4・幅：8.8cm、重さ：875.4ｇ。石材：輝石安山岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	24
13	薦編石	長さ：13.8・幅：6.6cm、重さ：647.9ｇ。石材：安山岩。／写真のみ掲載。	26
14	薦編石	長さ：14.4・幅：8.0cm、残重：707.3ｇ。石材：石英安山岩。／一部欠損。被熱痕あり。写真のみ掲載。	12
15	薦編石	長さ：15.2・幅：6.5cm、残重：679.4ｇ。石材：輝石安山岩。／一部欠損。被熱痕あり。写真のみ掲載。	10
16	薦編石	長さ：14.6・幅：6.5cm、残重：623.8ｇ。石材：輝石安山岩。／一部欠損。被熱痕あり。写真のみ掲載。	9
17	薦編石	長さ：14.9・幅：6.8cm、残重：802.8ｇ。石材：輝石安山岩。／一部欠損。被熱痕有り。写真のみ掲載。	11
18	薦編石	長さ：13.6・幅：6.3cm、重さ：602.1ｇ。石材：石英安山岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	23
19	薦編石	長さ：16.3・幅：7.5cm、重さ：727.2ｇ。石材：ヒン岩。／写真のみ掲載。	22
20	薦編石	長さ：16.6・幅：5.5cm、重さ：794.6ｇ。石材：石英安山岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	14
21	薦編石	長さ：15.0・幅：5.2cm、残重：372.5ｇ。石材：ヒン岩。／一部欠損。写真のみ掲載。	15
22	薦編石	長さ：15.0・幅：6.5cm、重さ：678.7ｇ。石材：ヒン岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	20
23	薦編石	長さ：14.8・幅：6.3cm、重さ：605.2ｇ。石材：輝石安山岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	16
24	薦編石	長さ：13.4・幅：6.0cm、重さ：547.4ｇ。石材：ヒン岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	19
25	薦編石	長さ：16.1・幅：7.0cm、重さ：682.8ｇ。石材：輝石安山岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	17
26	薦編石	長さ：15.2・幅：7.2cm、重さ：675.2ｇ。石材：安山岩。／被熱痕有り。写真のみ掲載。	21

遺構外①（Fig.131・132、PL.71・72）

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色調	胎土／注記
1	縄文土器	／口縁部片	縄文後、コンパス文。	灰褐	繊維・石英／W1
2	縄文土器	／胴部片	格子目状に沈線。	明赤褐	繊維・片岩／X30Y202G
3	縄文土器	／胴部片	単節縄文を（菱形状に）施文。	橙	繊維・石英／H2
4	縄文土器	／胴部片	ＲＬ縄文。	明赤褐	片岩・チャート／－

遺構外②

No.	器　種	計測値(cm)／残存	器形・文様等の特徴／備考	色　調	胎土／注記
5	縄文土器	／胴部片	縄文後、変形爪形文。	にぶい黄橙	角閃石・石英／－
6	縄文土器	／胴部片	縄文後、低い浮線文に斜位の刻み目。	明赤褐	角閃石・チャート／H2
7	縄文土器	／口縁部片	横位集合沈線後、縦位紐状の貼付文。口唇部と内面口縁部に貼付文。	灰黄褐	角閃石・石英／X30Y202G
8	縄文土器	／口縁部片	横位集合沈線後、円形貼付文。	橙	角閃石・チャート／D2
9	縄文土器	／胴部片	横位集合沈線後、結節浮線文・円形貼付文。	にぶい黄橙	角閃石・石英／X39Y199G
10	縄文土器	／胴部片	半截竹管状工具による集合沈線を渦巻き状に施文。	明黄褐	角閃石・チャート／W1
11	縄文土器	／口縁部片	口縁部外反。結節のあるＬＲ縄文。／赤色塗彩痕。	明黄褐	粗砂粒・石英／－
12	縄文土器	／口縁部片	Ｙ字状・Ｘ字状・逆Ｕ字状の貼付文。半截竹管状工具による連続刺突・短沈線。	橙	角閃石・チャート／－
13	縄文土器	／胴部片	外面に輪積み痕残し、ヒダ状。	橙	雲母・チャート／－
14	縄文土器	／胴部片	外面ヒダ状。	にぶい褐	雲母・チャート／X31Y200G
15	縄文土器	底径：6.7／底部片	底部に網代痕。	明赤褐	雲母・チャート／X30Y202G
16	縄文土器	／口縁部片	口縁部波状文上下に交互刺突文。横位沈線下に縄文・沈線。	明黄褐	角閃石・石英／－
17	縄文土器	／口縁部片	口縁部波状文上下に交互刺突文。横位沈線下に縄文。	浅黄	角閃石・白色粒／D1
18	縄文土器	／口縁部片	口縁部波状文上下に交互刺突文。胴部縄文。	橙	角閃石・チャート／－
19	縄文土器	／口縁部片	波状口縁。縄文後、沈線。	浅黄	角閃石・石英／－
20	縄文土器	／口縁部片	渦巻き文。口縁部隆線区画内にＬＲ縄文。	にぶい黄橙	石英・黒色鉱物／－
21	縄文土器	／口縁部片	口唇部平坦。口縁部隆線区画内に短沈線。	暗灰黄	角閃石・白色粒／－
22	縄文土器	／口縁部片	口縁部隆帯下に矢羽根状に太い短沈線。	にぶい黄橙	角閃石・白色粒／－
23	縄文土器	／突起部片	頂部は渦巻き状。	浅黄	角閃石・石英／－
24	縄文土器	／胴部片	ＲＬ縄文後、沈線懸垂文。	明黄褐	角閃石・石英／D2
25	土製円板	径：3.1cm×3.0cm・厚さ：0.9cm。／縄文施文土器再利用。		にぶい黄橙	角閃石・石英／W1
26	磨　石	長さ：12.0cm・幅：8.7cm・厚さ：3.9cm、重さ：645.7ｇ。石材：輝石安山岩。／凹石→磨石。新しい擦痕。			／W1
27	磨　石	長さ：12.9cm・幅：6.9cm・厚さ：3.8cm、重さ：526.6ｇ。石材：黒色安山岩。			／D1
28	凹　石	長さ：8.6cm・幅：7.2cm・厚さ：5.4cm、重さ：347.8ｇ。石材：輝石安山岩。			／H5
29	打製石斧	長さ：9.5cm・幅：6.2cm・厚さ：1.6cm、重さ：95.4ｇ。石材：砂質頁岩。			／D2
30	打製石斧	残長：12.4cm・幅：5.1cm・厚さ：2.2cm、残重：129.4ｇ。石材：頁岩。			／H1
31	敲　石	長さ：10.4cm・幅：3.1cm・厚さ：0.9cm、重さ：73.9ｇ。石材：絹雲母片岩。／上下端部に敲打痕。			／D2
32	Ｒ　Ｆ	長さ：6.8cm・幅：5.6cm・厚さ：2.1cm、重さ：102.9ｇ石材：頁岩。／調整のある剥片。			／D1
33	Ｒ　Ｆ	長さ：7.8cm・幅：6.2cm・厚さ：1.8cm、重さ：54.0ｇ。石材：頁岩。／調整のある剥片。			／X50Y206G
34	砥　石	長さ：9.9cm・幅：2.4cm・厚さ：2.8cm、残重：99.2ｇ。石材：流紋岩。／３面使用。図右側面に鋸目。１号土坑に伴う可能性がある。			／D1
35	砥　石	長さ：9.0cm・幅：4.1cm・厚さ：3.4cm、重さ：117.7ｇ。石材：流紋岩。／３面使用。図右側面に鋸目。			／－
36	古　銭	径：2.4cm・方孔：0.7cm。／「元豊通宝」(真書)。北宋。初鋳1078年。			／－

第４章　調査のまとめ

今回調査を実施したのは五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡の３遺跡である。３遺跡は同一の台地上に近接して位置しており、本章では３遺跡を総合して各時代ごとに若干の補足説明を行い、調査のまとめとしたい。

なお、今回の調査では縄文時代、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近・現代の遺構・遺物が検出されているが、旧石器時代、弥生時代及び古墳時代前・中期に関わる遺構・遺物は検出されていない。

縄文時代

検出された遺構は、五代竹花遺跡Ｊ－１号・２号住居跡、五代木福Ⅰ遺跡Ｊ－１号住居跡及び13号土坑である。五代木福Ⅰ遺跡のＪ－１号住居跡は前期黒浜式～諸磯ａ式期に比定されるものでＣ区において検出されたが、他に当該期の遺構は検出されていない。地山と埋没土との識別が困難であることから、見落としている可能性は否定できないものの、調査区内において当該期遺物はそれほど多くはなく、大規模な集落が展開していたとは想定しがたい。

一方、五代竹花遺跡においては、中期後半の住居跡２軒が調査区西側において検出されている。比較的遺構検出は容易な状態であったが、Ｊ－２号住居跡の東側及び南側には当該期の遺構の分布はみられなかった。五代伊勢宮Ⅰ遺跡では遺構は検出されなかったものの、中期後半を中心とする遺物が遺構外から多く出土している。このような遺構・遺物の分布状態から勘案して、五代竹花遺跡の西方及び五代伊勢宮Ⅰの北方に、中期後半を中心とする集落跡が存在する可能性が高い。しかしながら、五代竹花遺跡のＪ－１号・２号住居跡がやや離れて位置していることから推測して、それほどの遺構の密集性はないものと考えられる。

古墳時代

３遺跡合わせて40軒の竪穴住居跡が検出されている（Tab.６）。概ね６世紀後半代を中心とする集落跡であるが、幾つかの単位に分かれるようである。五代木福Ⅰ遺跡ではＡ区南端～Ｄ区にかけて当該期の遺構が分布しており、Ｃ区の大形住居跡であるＨ－９号住居跡を中心とした集落が構成されていたようである。これらの住居跡は、ほぼ主軸方位が一致している。

カマドは、東壁に付設されるものが大半であったが、五代木福Ⅰ遺跡Ｈ－９号住居跡のように当初から北壁に付設されたものもみられた。また、五代木福Ⅰ遺跡Ｈ－７号・17号・19号・27号・36号・50号住居跡及び五代伊勢宮Ⅰ遺跡Ｈ－５号住居跡ではカマドの造り替えが行われていた。カマドの残存状態から同時存在したものではなく、東側から西側もしくは東側から北側へとカマド付設位置を変更している。カマド造り替えに併せて貯蔵穴も移動している住居跡も散見された。各カマドは粘土及び粘質土で構築され、袖部や懸架材に土師器甕もしくは石を使用しているものがある。なお、五代竹花遺跡Ｈ－４号住居跡及び五代木福Ⅰ遺跡Ｈ－21号・38号住居跡のカマド袖部は地山のローム掘り残しである。煙道部は急傾斜で立ち上がるものと水平方向に長く延びるものとが認められた。

主柱穴が検出されたものは推定も含めて３遺跡で17軒にすぎず全体の半数以下である。いずれも主柱穴は４基で、例外はあるものの基本的には床面積20㎡以上のやや規模の大きい住居跡において検出されている。

出土遺物は、土師器がほとんどで須恵器は極めて少ない状態にあった。また、各住居跡からは鷹編石の出

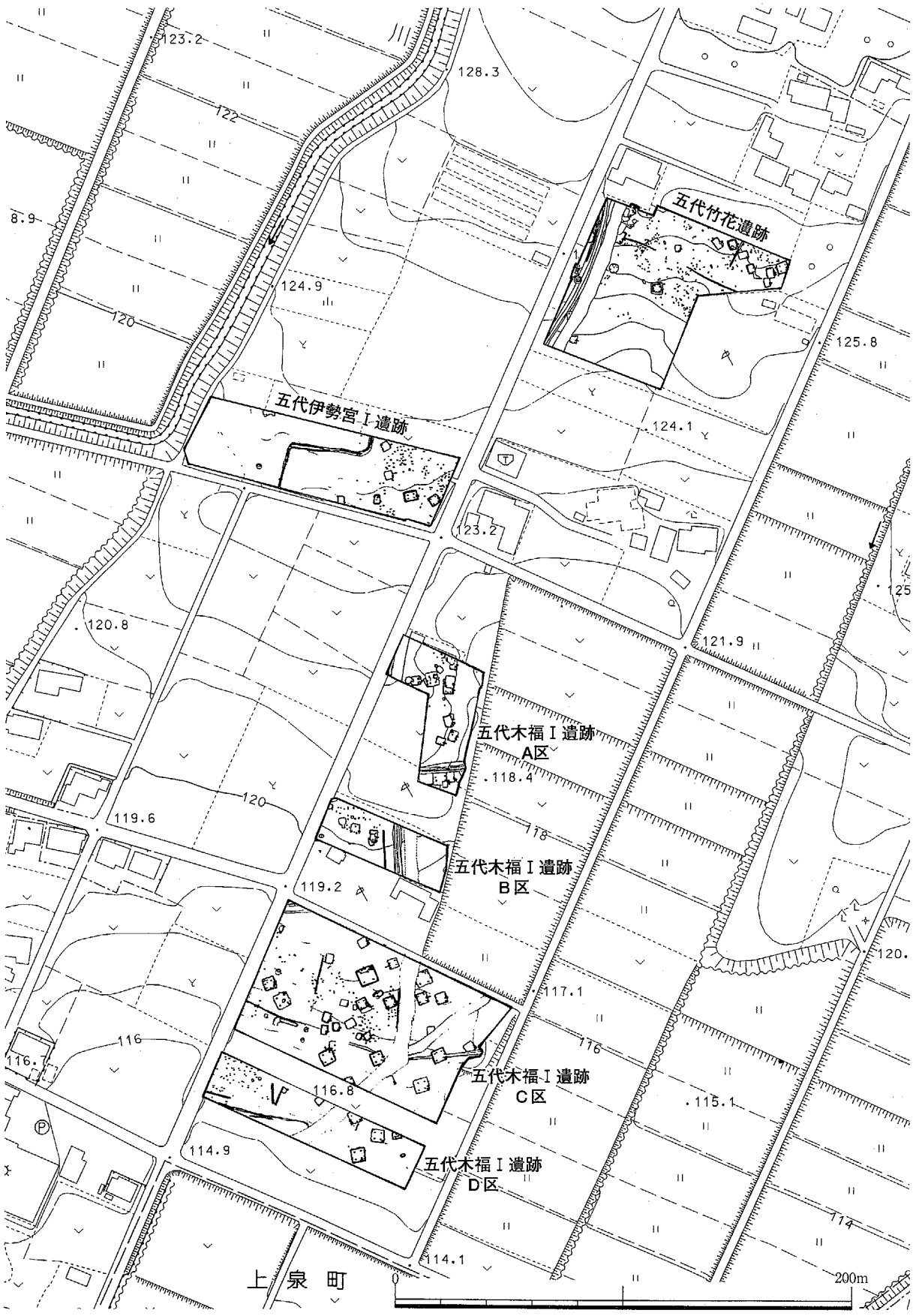


Fig.133　調査区位置図

Tab. 6　古墳時代住居跡一覧表

遺跡名	遺構番号	規模(m)	面積	掘り方	主柱穴	カマド			おもな出土遺物			時期
						構築材	煙道部	造り替え	土師器	須恵器	その他	
竹　花	H－1	－×5.35	不明	－	－	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏	甕片	鉄鏃	6C後
竹　花	H－2	4.75×4.65	21.4㎡	有	4	粘土・甕	段差	－	甕・高坏・坏	甕片・坏、他		6C後
竹　花	H－3	4.80×4.78	21.6㎡	－	4	粘質土・甕	急傾斜	－	甕・鍋・鉢・坏		臼玉・土玉	～7C初
竹　花	H－4	3.05×3.03	不明	－	－	地山残し	水平	－	甕・甑・坏	小片	切石	6C後
竹　花	H－8	不明	不明	－	(4)	－	－	－	甕・坏	甕片	臼玉・土玉	6C後
竹　花	(H－9)	不明	不明	－	－	粘質土	急傾斜	－	甕・甑・坏			6C後
竹　花	H－16	不明	不明	－	－	－	－	－	甕・坏	坏		6C後
木　福	H－1	1.70×－	不明	有	－	－	－	－	甕・坏			6C後
木　福	H－6	5.20×5.40	27.6㎡	有	4	粘土・甕・石	急傾斜	－	甕・高坏・坏			6C後
木　福	H－7	6.20×5.95	36.8㎡	有	4	－	急傾斜	東→北	甕・椀・坏	瓶片・坏	鷹編石	6C後
木　福	H－9	7.50×7.85	59.0㎡	有	4	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・甑・鉢、他	甕片・蓋片	鷹編石	～6C後
木　福	H－10	3.95×3.60	14.0㎡	－	－	粘質土	水平	－	甕・坏		鷹編石	7C前
木　福	H－15	4.25×4.20	17.7㎡	有	4	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏		鷹編石	～7C初
木　福	H－16	4.05×4.05	16.0㎡	－	－	粘土・甕	水平	－	甕・坏		鷹編石	6C後
木　福	H－17	5.85×6.00	35.2㎡	－	4	粘土・粘質土	水平	東→北	甕・鉢・坏	甕片	刀子・鷹編石	6C中
木　福	H－18	不明	不明	－	－	－	－	－	甕・坏			－
木　福	H－19	6.30×6.05	不明	有	4	粘土・粘質土	(水平)	東西北	甕・椀・坏		鷹編石	6C後
木　福	H－21	3.00×3.00	9.1㎡	－	－	地山残し	水平	－	甕・高坏・坏			6C後
木　福	H－22	5.20×5.40	不明	－	4	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・高坏・坏	高坏・坏	鷹編石	6C後
木　福	H－23	不明	不明	－	－	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏		臼玉	－
木　福	H－24	6.15×5.70	34.0㎡	－	4	粘土・石	－	－	甕・坏		鷹編石	6C後
木　福	H－25	5.85×5.50	31.5㎡	－	4	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏		鷹編石	6C後
木　福	H－27	4.40×4.65	20.2㎡	－	－	粘土	(水平)	東→西	甕・甑・鉢・坏		鷹編石	6C後
木　福	H－29	4.15×4.15	不明	－	－	粘土・甕	－	－	甕・甑・坏		耳環・紡錘車	～7C初
木　福	H－30	4.95×4.70	22.9㎡	－	4	粘質土	急傾斜	－	甕・鉢・坏、他	高坏	鷹編石	6C後
木　福	H－31	4.65×4.70	21.7㎡	－	4	粘土・粘質土	水平	－	甕・高坏・坏	甕片	砥石・鷹編石	6C後
木　福	H－32	4.55×－	不明	－	－	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏		鉄製品	6C後
木　福	H－33	3.45×1.95	6.1㎡	有	－	－	－	－	甕・高坏・坏			6C後
木　福	H－34	3.75×3.15	11.3㎡	－	－	粘土・粘質土	(水平)	－	甕・坏			－
木　福	H－35	2.00×1.75	3.0㎡	－	－	－	－	－	甕・坏	甕片	鷹編石	－
木　福	H－36	5.00×5.05	不明	－	－	ローム・粘土	－	東→西	甕・椀・坏	破片	土製品	6C後
木　福	H－37	5.60×5.50	29.9㎡	－	4	－	－	－	甕・坏	甕片・坏	鷹編石	6C中
木　福	H－38	4.15×2.90	11.2㎡	－	－	地山残し	－	－	甕			－
木　福	H－39	6.00×6.10	36.2㎡	－	4	右袖地山残し	－	－	甕・鉢・坏	坏	鷹編石	6C後
木　福	H－40	不明	不明	－	－	－	－	－	破片			－
木　福	H－47	4.35×4.90	不明	－	－	粘土・粘質土	－	－	甕・坏	甕片	鷹編石	7C前
木　福	H－50	7.15×－	不明	－	－	－	－	(東→北)	甕・坏	甕片	砥石	6C後
木　福	H－51	不明	不明	－	－	－	－	－	破片			－
伊勢宮	H－1	4.30×4.16	16.8㎡	－	4	粘土・甕	急傾斜	－	甕・甑・鉢・坏			6C中
伊勢宮	H－5	3.35×3.55	12.1㎡	－	－	粘土・石	水平→急	東→西	台付甕、他		鷹編石	～7C初

Tab.7　奈良・平安時代住居跡一覧表

遺跡名	遺構番号	規模(m)	面積	備考	カマド			おもな出土遺物			時期
					構築材	煙道部	造り替え	土師器	須恵器	その他	
竹　花	H－5	3.40×3.95	11.7㎡	棚状施設	－	急傾斜	－	甕・坏	甕片・蓋・坏		～9C後
竹　花	H－6	不明	不明		粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏、他	蓋・椀・坏	鉄製品・鉄滓	8C後
竹　花	H－7	2.72×4.04	10.8㎡	南側にカマド	粘質土	急傾斜	－	甕・坏	壺・坏		9C中
竹　花	H－10	2.50×3.65	8.2㎡		粘土・粘質土	緩傾斜	－	甕・坏	甕片・蓋・坏	砥石	8C後
竹　花	H－11	3.10×4.25	12.8㎡		粘質土・石	緩傾斜	－	甕・坏	坏・椀	灰釉陶器	9C後
竹　花	H－12	2.26×2.72	5.7㎡		粘土・石	急傾斜	－	甕・坏	蓋・椀・坏	鉄鏃・刀子	9C中
竹　花	H－13	2.50×4.55	11.2㎡	棚／墨書土器	－	緩傾斜	－	甕・坏	甕片・蓋・坏	紡錘車・鉄滓	9C前
竹　花	H－14	2.80×3.90	不明		粘質土	－	－	甕・坏	瓶片・坏	砥石	8C後
竹　花	H－15	－×2.70	不明		－	－	－	甕・坏	椀・坏		9C中
木　福	H－2	3.40×－	不明		－	－	－	破片	蓋・坏	刀子	～9C前
木　福	H－3	3.75×4.05	14.4㎡		－	－	－	坏	椀	鉄製品・鉄滓	10C前
木　福	H－4	－×2.95	不明		－	－	－	甕片・坏片	坏		9C後
木　福	H－5	1.80×－	不明		－	－	－	甕片・坏片	坏片		－
木　福	H－8	3.20×3.85	12.0㎡		粘土・粘質土	緩傾斜	－	甕・台付甕	甕片・椀・坏	鷹編石	9C後
木　福	H－11	3.10×2.80	8.5㎡	墨書土器出土	粘土・粘質土	緩傾斜	－	甕	椀・坏	砥石	9C後
木　福	H－12	3.00×4.25	12.4㎡		粘土・粘質土	緩傾斜	東→東	甕・台付甕	椀・坏	刀子	9C後
木　福	H－13	2.75×3.75	9.7㎡		粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏片	甕片・坏・皿	刀子	9C後
木　福	H－14	3.35×2.80	8.9㎡		粘土	緩傾斜	－	甕	坏	鷹編石	9C後
木　福	H－20	－×3.85	不明		－	－	－	甕	甕片・坏片	灰釉陶器片	9C後
木　福	H－26	3.10×－	不明		－	－	－	甕			9C後
木　福	H－28	1.80×2.70	4.7㎡		粘土・粘質土	急傾斜	－	甕	甕片・椀	土錘	9C後
木　福	H－41	3.95×3.65	14.6㎡		粘土・粘質土	－	－	甕	鉢・坏	砥石	7C後
木　福	H－42	不明	不明		－	－	－	甕片	椀・坏片	紡錘車	8C後
木　福	H－43	3.70×3.05	11.6㎡	出入り口施設	粘土・粘質土	緩傾斜	－	甕片・坏	甕片・蓋	鉄製品	8C前
木　福	H－44	3.35×4.20	14.4㎡		粘土・粘質土	緩傾斜	－	甕・高坏・坏	瓶片・椀・坏	砥石・火打金	8C前
木　福	H－45	3.15×4.65	14.8㎡		粘土・石	－	－	甕片・坏片	甕片・椀・坏	鷹編石	10C前
木　福	H－46	3.75×5.05	18.5㎡	床面の造り替え	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・坏	甕片・坏	鉄製品	9C後
木　福	H－48	3.25×4.40	15.7㎡	墨書土器出土	粘土・ローム	緩傾斜	－	甕・壺・坏	甕片・坏片	銅鈴・臼玉	8C前
木　福	H－49	1.85×2.55	4.5㎡		ローム・粘質土	急傾斜	－	甕・台付甕	甕片・椀・坏		9C後
木　福	H－52	5.15×5.75	29.6㎡		粘土・粘質土	－	－	甕・坏	甕片・蓋・坏	土錘	8C後
木　福	H－53	不明	不明		－	－	－	甕片・坏	甕片・坏片		－
木　福	H－54	1.75×2.75	5.1㎡		－	－	－	甕片・坏片			－
伊勢宮	H－2	5.60×4.30	20.5㎡	主柱穴4基	粘土・粘質土	急傾斜	－	甕・盤・坏	破片	臼玉	8C前
伊勢宮	H－3	2.41×3.91	9.0㎡	特異な砥石	粘質土	緩傾斜	－	甕片・坏片	甕片・坏	砥石	8C後
伊勢宮	H－4	3.17×3.50	10.5㎡		粘質土・石	急傾斜	－	甕・盤・坏	甕片	鷹編石	8C前
伊勢宮	H－6	2.80×－	不明		粘質土・石	緩傾斜	－	坏片	坏片		－

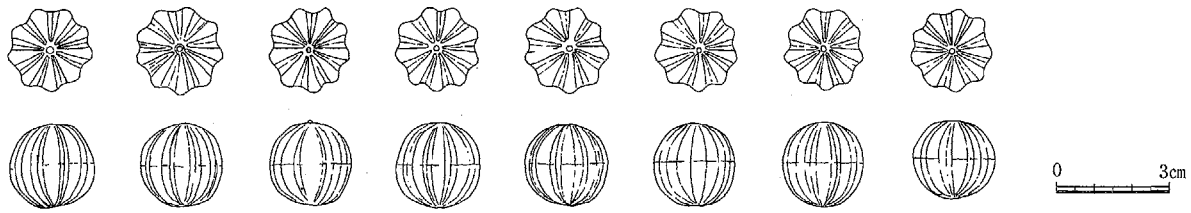


Fig.134　藤ノ木古墳出土銀製鍍金梔子形空玉　（文献１より転載）

土が多くみられ、五代木福Ⅰ遺跡Ｈ－15号住居跡や五代伊勢宮Ⅰ遺跡Ｈ－５号住居跡などでは薦編石が並べられた状態で集中出土していた。

五代竹花遺跡Ｈ－8号住居跡からは総計43点の土製玉類（土玉）が出土している。同住居跡は残存状態が悪かったが、これらの遺物はカマド向かって左側の地点に集中していた。攪乱等により散逸しているものもあると思われるが、検出された土玉の総延長は55.7㎝である。土玉は、ほぼ球形のもの34点、側面に切れ込み（凹線）のある蜜柑玉状のもの（14･15）２点、中央部が膨れる土錘状のもの５点、円筒状のもの２点がある。色調は黒褐色基調のものが多いが、側面に切れ込みのある２点は、にぶい黄褐色及び褐灰色であり、表面は丁寧に研磨されていた。この２点は群馬県内において類例が見出せなかったものの、外見上は銀製鍍金梔子形空玉と呼称されるものに類似している。全国的に著名な奈良県・藤ノ木古墳（文献1）では、54点の銀製鍍金梔子形空玉（Fig.134）が出土している。稜が８のもの（八割玉）と９のもの（九割玉）がある。径は双方とも2.1㎝前後で、本遺跡出土の２点はその半分程度の大きさである。推定の域をでないが、側面に切れ込みのある土玉２点は、この銀製鍍金梔子形空玉を模したものと推定しておきたい。また、土錘状の土玉は水晶製切子玉を模した可能性も考えられよう。

奈良・平安時代

３遺跡合わせて36軒の竪穴住居跡が検出されている（Tab.７）。今回は７世紀後半代は広義の意味で本時期に含めたが、時期別にみると、五代竹花遺跡と伊勢宮Ⅰ遺跡から五代木福Ⅰ遺跡Ａ区に掛けての範囲に８世紀代の住居跡が、五代竹花遺跡と五代木福Ⅰ遺跡Ｃ区に９世紀後半代の住居跡が多い傾向が認められる。

五代竹花遺跡Ｈ－5号・13号住居跡には棚状の施設がみられた。墨書土器は、五代竹花遺跡Ｈ－13号住居跡及び五代木福Ⅰ遺跡Ｈ－11号・48号住居跡から出土している。この内、五代木福Ⅰ遺跡Ｈ－48号住居跡からは銅鈴も出土している。

中・近世

五代木福Ⅰ遺跡では、良好な遺存状態の地下式坑４基（3号･6号･19号･20号土坑）が検出されている。前橋市内では、西大室遺跡群の昭和56年の発掘調査で地下式坑６基が検出され、明徳４年（1393年）銘の板碑・北宋銭・青磁碗が人骨とともに出土しており（文献2）、地下式坑が墓である可能性を示す顕著な例といえる。

また、道や区画の可能性のある溝の評価については、残念ながら今後に残された課題と言わざるを得ない。

【文献】

1）前園実知雄・卜部行弘他　1995『斑鳩　藤ノ木古墳』第二次・三次調査報告書，奈良県立橿原考古学研究所・斑鳩町教育委員会

2）前原　豊　1989　「赤城山麓の墓あと」『よみがえる中世』５，平凡社

付章　自然科学分析

五代木福Ⅰ遺跡・五代竹花遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された五代木福Ⅰ遺跡および五代竹花遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ分析や屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、五代木福Ⅰ遺跡20号土坑西側壁面および五代竹花遺跡１号溝の２地点である。

2．土層層序

（１）五代木福Ⅰ遺跡20号土坑西側壁面

五代木福Ⅰ遺跡20号土坑西側壁面では、下位より若干赤みがかった褐色土（層厚20cm以上）、成層したテフラ層（層厚34cm）、しまった褐色土（層厚17cm）、褐色土（層厚７cm）、橙褐色軽石混じり褐色土（層厚５cm，軽石の最大径８mm）、褐色土（層厚14cm）、わずかに灰色がかった褐色土（層厚20cm）、灰色石質岩片混じり暗灰褐色土（層厚18cm，石質岩片の最大径13mm）、灰色石質岩片混じりでやや色調が暗い灰褐色土（層厚23cm，石質岩片の最大径14mm）、褐色土（層厚16cm）、橙色軽石層（層厚５cm，軽石の最大径４mm）が認められる（図１）。

これらのうち成層したテフラ層は、下位より風化が進んだ黄白色軽石層（層厚４cm）、風化が進んだ褐色粗粒火山灰層（層厚２cm）、風化が進んだ黄白色軽石層（層厚７cm）、黄色軽石層（層厚16cm，軽石の最大径52mm，石質岩片の最大径16mm）、緑灰色粗粒火山灰層（層厚５cm）から構成される。このテフラ層は、その層相から、約4.1～4.4万年前[*1]に榛名火山から噴出した榛名八崎軽石（Hr－HP，新井，1962，鈴木，1976，大島，1986）に同定される。

その上位の褐色土中に含まれる橙褐色軽石については、周辺においても認められてはいるものの、正式な名称はつけられていない。岩相から給源は浅間火山と考えられるが、詳細についてはまだ不明なことから、ここでは仮に五代テフラ（Gd）と呼ぶことにしたい。

暗灰褐色土や比較的色調が暗い灰褐色土中に含まれる灰色石質岩片についても、詳細については不明である。層位から、約3.1～3.2万年前に赤城火山から噴出した赤城鹿沼テフラ（Ag－K，新井，1962，鈴木，1976，町田・新井，1992）や、約2.5～３万年前に榛名火山から噴出した榛名箱田テフラ（Hr－HA，早田，1996）に

由来する可能性が考えられる。

最上位の橙色軽石層については、層位や層相などから約1.9～2.4万年前[*1]に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As－BP Group，新井，1962，早田，1996，未公表資料）の中・上部に同定される可能性が高い。したがって、そのすぐ下位の褐色土中に約2.4～2.5万年前[*1]に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰（AT，町田・新井，1976，1992，松本ほか，1987，池田ほか，1995）の層位があると推定される。

（2）五代竹花遺跡1号溝

道路の可能性が考えられている五代竹花遺跡1号溝の覆土は、下位より亜円礫を含む灰色土（層厚11cm，礫の最大径37mm）、亜円礫混じり黄灰色砂層（層厚4cm，礫の最大径13mm）、暗灰色土（層厚4cm）、黄灰色砂層（層厚0.4cm）、暗灰色土（層厚4cm）、灰色砂層（層厚3cm）、暗灰色砂層（層厚3cm）、白色砂層（層厚2cm）、灰色砂層（層厚12cm）、砂混じり褐色土（層厚5cm）、褐色砂質土（層厚18cm）からなる（図2）。

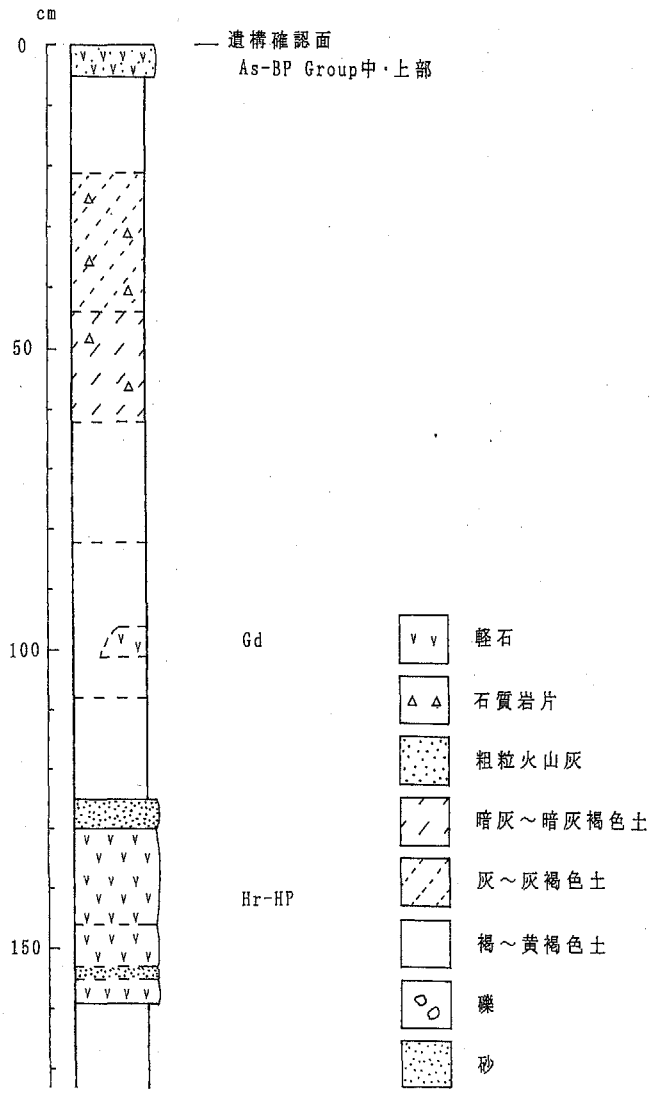


図1　五代木福Ⅰ遺跡20号土坑西側壁面の土層柱状図

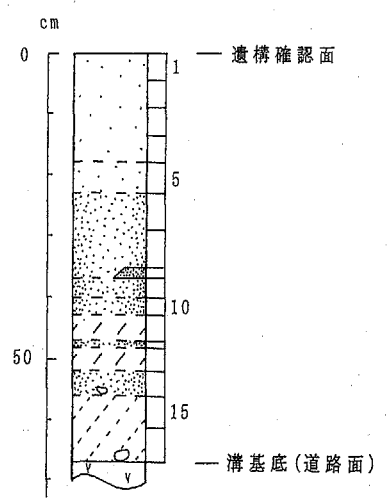


図2　五代竹花遺跡1号溝覆土の土層柱状図
（数次はテフラ分析の試料番号）

3．テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

五代竹花遺跡1号溝の層位と年代に関する資料を得るために、基本的に5㎝ごとに設定された試料のうち12点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

1）試料10ｇを秤量。

2）超音波洗浄により泥分を除去。

3）80°Cで恒温乾燥。

4）実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

（2）分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。五代竹花遺跡1号溝覆土断面から採取された試料には、比較的よく発泡した淡褐色軽石（最大径3.8㎜）が多くあるいは比較的多く含まれている。軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料10、試料8、試料2をのぞくいずれの試料にも、さほど発泡の良くない白色軽石（最大径3.2㎜）が少量ずつ含まれている。この軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

4．屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

五代竹花遺跡1号溝の層位を求めるために、覆土最下位の試料16と軽石が比較的多く含まれている試料13のテフラ粒子について、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）により、テフラ粒子の屈折率測定を行った。

（2）測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。試料16に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.525－1.531である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれており、ほかに角閃石がごく少量認められる。斜方輝石（γ）の屈折率は、1.707－1.710である。また試料13に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.525－1.532である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が多く含まれており、ほかに角閃石がごく少量認められる。斜方輝石（γ）の屈折率は、1.707－1.710である。

5．考察

五代竹花遺跡1号溝におけるテフラ検出分析により検出された軽石のうち、淡褐色軽石については、その岩相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As－B，荒牧，1968，新井，1979）に由来すると考えられる。実際に屈折率測定を行った覆土最下部の試料16や試料13についても、火山ガラスや斜方輝石の屈折率から、多くのAs－Bに由来するテフラ粒子の混入が認められる。これらのことから、1号溝を埋めた堆積物が構築後に除去されていないかぎり、1号溝の層位はAs－Bより上位にある可能性が高いと考えられる。なお分析により検出されたもう一方の白色軽石については、その岩相やテフラの分布と本遺跡の位置関係などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr－FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）に由来する可能性が高いと思われる。

表1　五代竹花遺跡1号溝におけるテフラ検出分析結果

試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
2	＋＋＋	淡褐	2.9
4	＋＋＋	淡褐＞白	3.7,2.0
5	＋＋	淡褐＞白	3.6,2.1
6	＋＋＋	淡褐＞白	3.5,2.8
8	＋＋	淡褐	2.6
9	＋＋	淡褐＞白	2.9,2.0
10	＋＋＋	淡褐	3.5
11	＋＋＋	淡褐＞白	3.8,1.8
12	＋＋＋	淡褐＞白	3.1,1.3
13	＋＋＋	淡褐＞白	2.2,3.1
14	＋＋	淡褐＞白	2.3,3.2
15	＋＋	淡褐＞白	1.6,1.8
16	＋＋	淡褐＞白	1.7,1.8

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，＋：少ない，－：認められない．最大径の単位は，㎜．

表2　五代竹花遺跡1号溝における屈折率測定結果

試料	火山ガラス（n）	重鉱物	斜方輝石（γ）
13	1.525－1.532	opx>cpx,(ho)	1.707－1.710
16	1.525－1.531	opx>cpx,(ho)	1.707－1.710

屈折率の測定は，温度一定型測定法（新井，1972，1993）による．opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石．()は，量が少ないことを示す．

6．まとめ

五代木福Ⅰ遺跡および五代竹花遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より榛名八崎軽石（Hr－HP，約4.1～4.4万年前*1）、五代テフラ（Gd）、赤城鹿沼テフラ（Ag－K，約3.1～3.2万年前）あるいは榛名箱田テフラ（Hr－HA，約2.5～3万年前）、浅間板鼻褐色軽石群（As－BP Group，約1.9～2.4万年前*1）の中・上部、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr－FA，6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As－B，1108年）などのテフラ層やテフラ粒子を検出することができた。五代竹花Ⅰ遺跡において検出された1号溝の層位については、As－Bより上位にある可能性が指摘された。

＊1　放射性炭素（^{14}C）年代．

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1－79.

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p.254－269.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.53, p.41－52.

新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法－研究対象別分析法」，p.138－148.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.45，65p.

池田晃子・奥野　充・中村俊夫・小林哲夫（1995）南九州，姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器 ^{14}C年代．第四紀研究，34，p.377－379.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－．科学，46，p.339－347.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗（1987）姶良Tn火山灰（AT）の ^{14}C年代．第四紀研究，26，p.79－83.

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦（1984）浅間火山，黒班～前掛期のテフラ層序．日本第四紀学会講演要旨集，no.14，p.69－70.

大島　治（1986）榛名火山．日本の地質「関東地方」地質編集委員会編「関東地方」，p.222－224.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井　神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103－119.

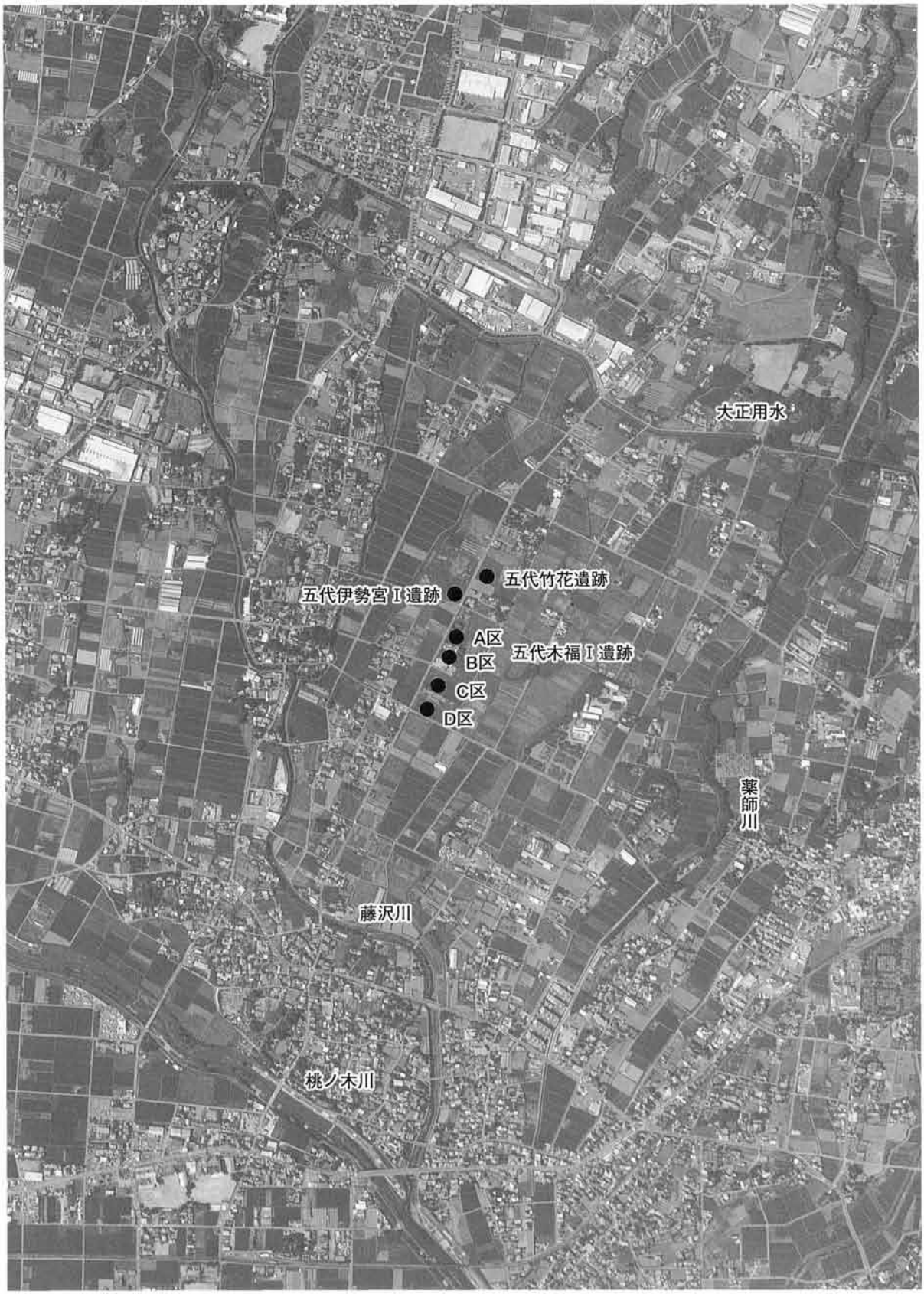
早田　勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297－312.

早田　勉（1990）群馬県の自然と風土．群馬県史通史編，1，p.37－129.

早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，7，p.256－267.

鈴木正男（1976）過去を探る科学．講談社，234p.

写　真　図　版



遺跡の位置と周辺の地形（国土地理院発行、平成11年７月撮影、S≒１：15,000）

五代竹花遺跡

遺跡遠景（北方に赤城山を望む）

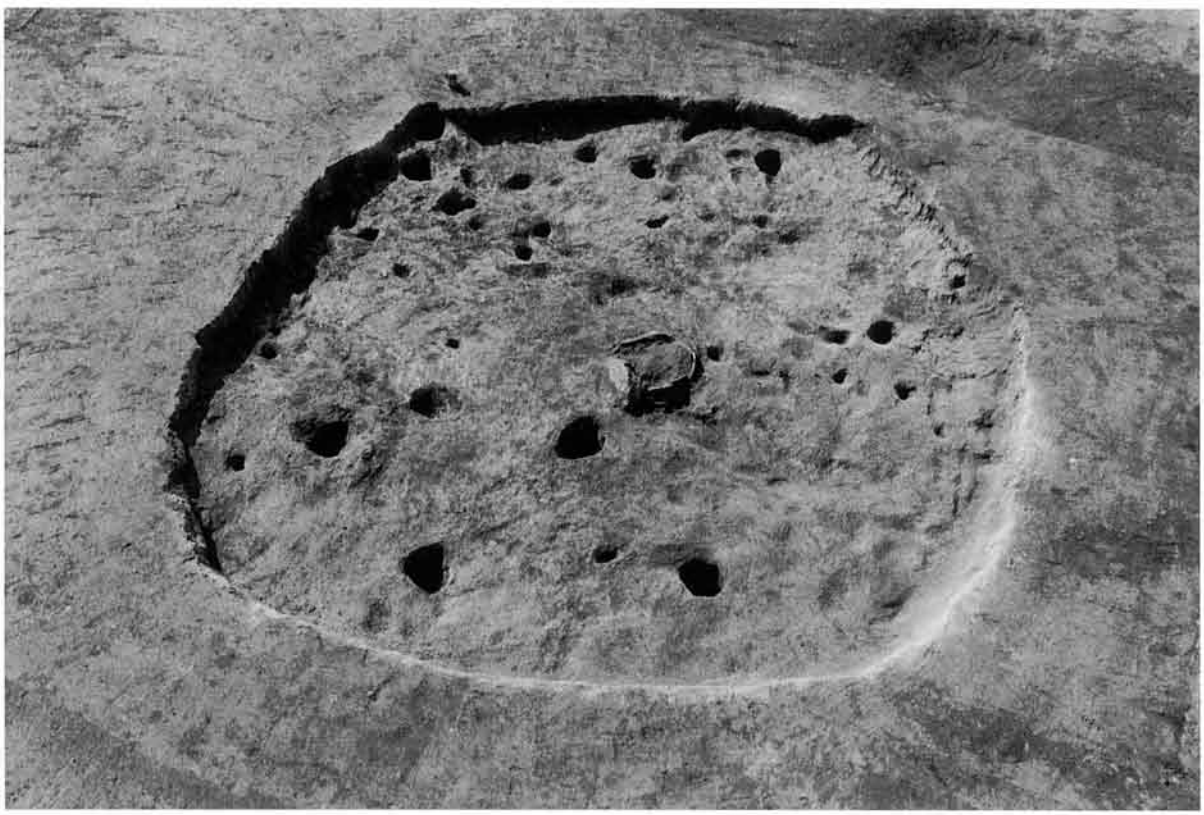
遺跡全景（上が北）

J－１号住居跡全景（東→）

J－１号住居跡埋設土器（南西→）

J－２号住居跡遺物出土状態（西→）

J－２号住居跡炉跡（北→）



J－２号住居跡全景（北→）

H－１号住居跡全景（西→）

H－１号住居跡カマド内遺物出土状態（西→）

H－２号住居跡全景（西→）

H－２号住居跡掘り方全景（西→）

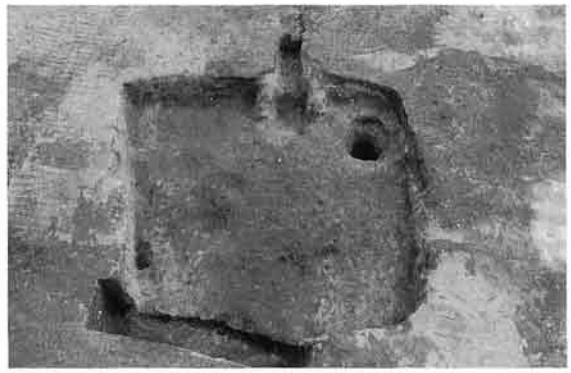
H－２号住居跡カマド（西→）

H－２号住居跡カマド袖断ち割り状態（西→）

H－３号住居跡遺物出土状態（西→）

H－３号住居跡全景（西→）

H－4号住居跡遺物出土状態近景（北西→）



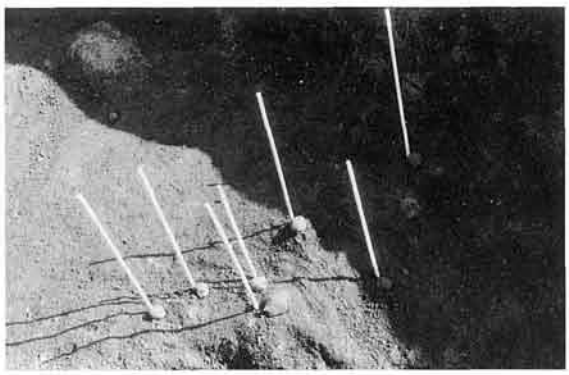
H－4号住居跡全景（西→）

H－5号住居跡全景（西→）

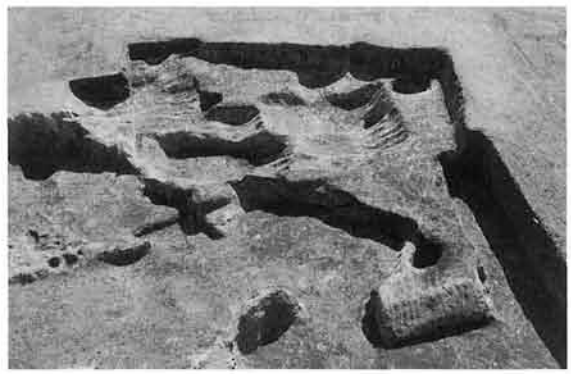
H－5号住居跡棚状施設（北西→）

H－6号住居跡全景（西→）

H－7号住居跡全景（北→）

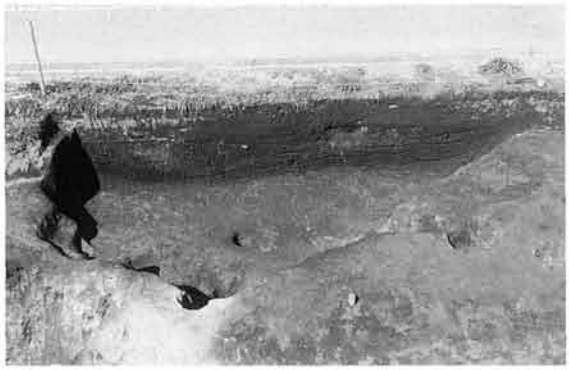


H－8号住居跡土玉出土状態（西→）



H－8号住居跡全景（西→）

五代竹花遺跡



H－９号住居跡全景（南東→）

H－10号住居跡全景（西→）

H－11号住居跡全景（西→）

H－12号住居跡全景（西→）

H－13号住居跡土層（西→）

H－13号住居跡全景（西→）

H－14号住居跡全景（西→）

H－15号住居跡全景（西→）

五代竹花遺跡

H－16号住居跡全景（西→）

1号土坑（西→）

3号土坑土層（南→）

3号土坑（東→）

5号土坑（東→）

1号溝土層（北→）

調査状況（西→）

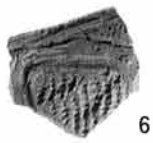
調査状況（南西→）

J－１号住居跡出土遺物

J－２号住居跡出土遺物①

3

5


6

4

7

8

9

10

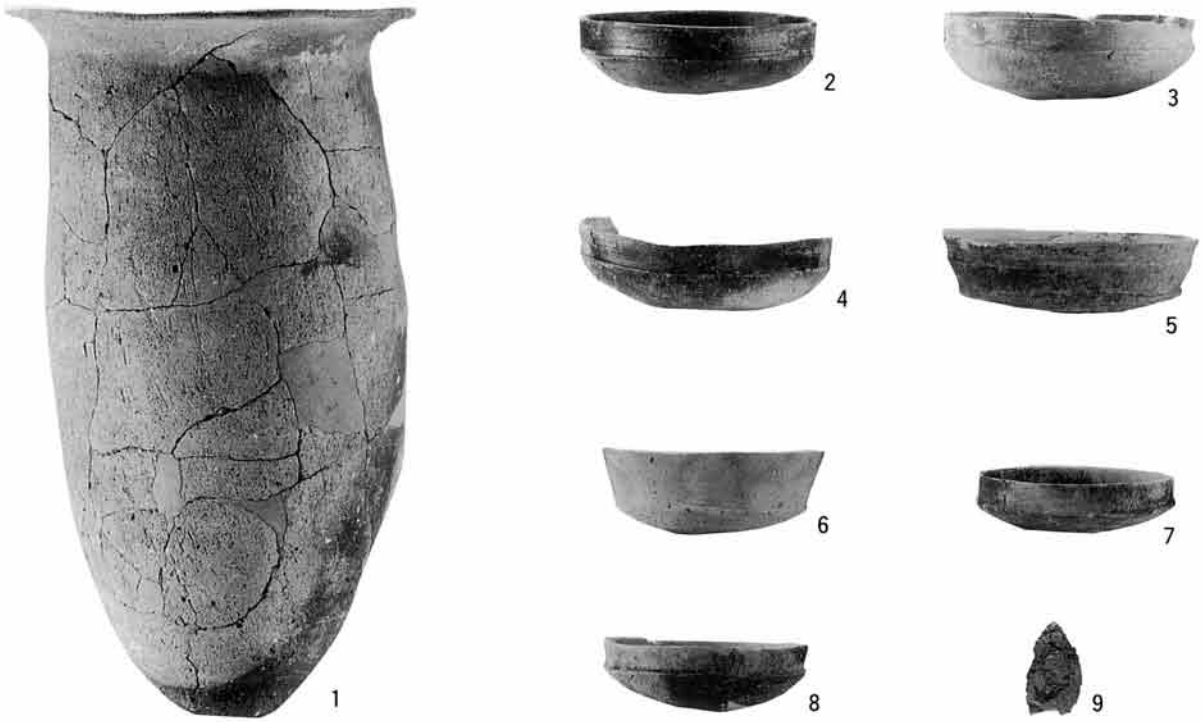
11

12

13

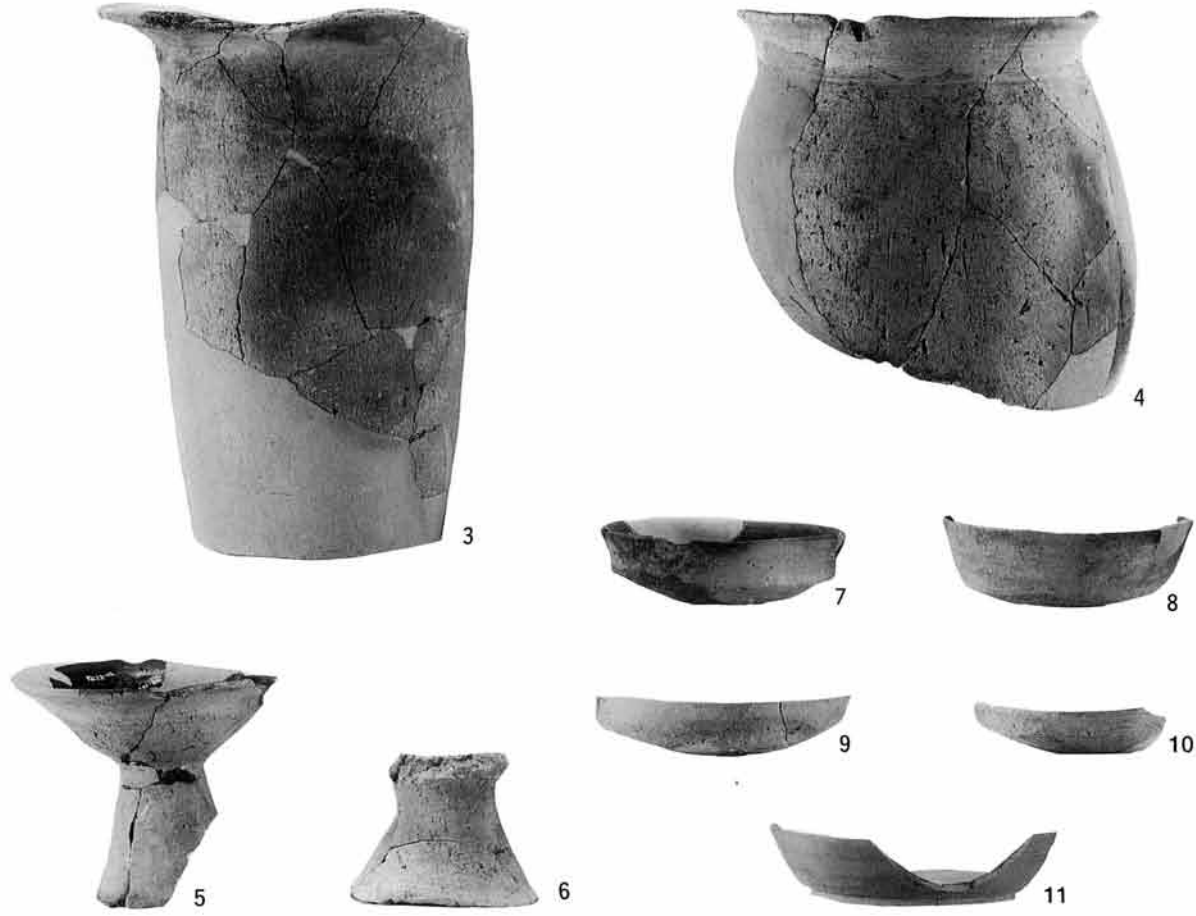
14

J— 2 号住居跡出土遺物②



H－１号住居跡出土遺物

H－２号住居跡出土遺物①



H－２号住居跡出土遺物②

H－３号住居跡出土遺物①

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

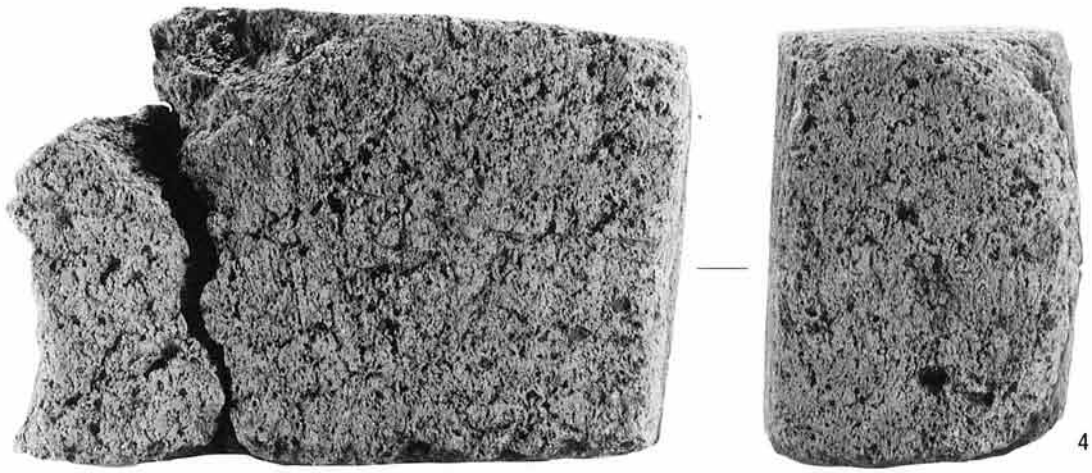
15

16

17

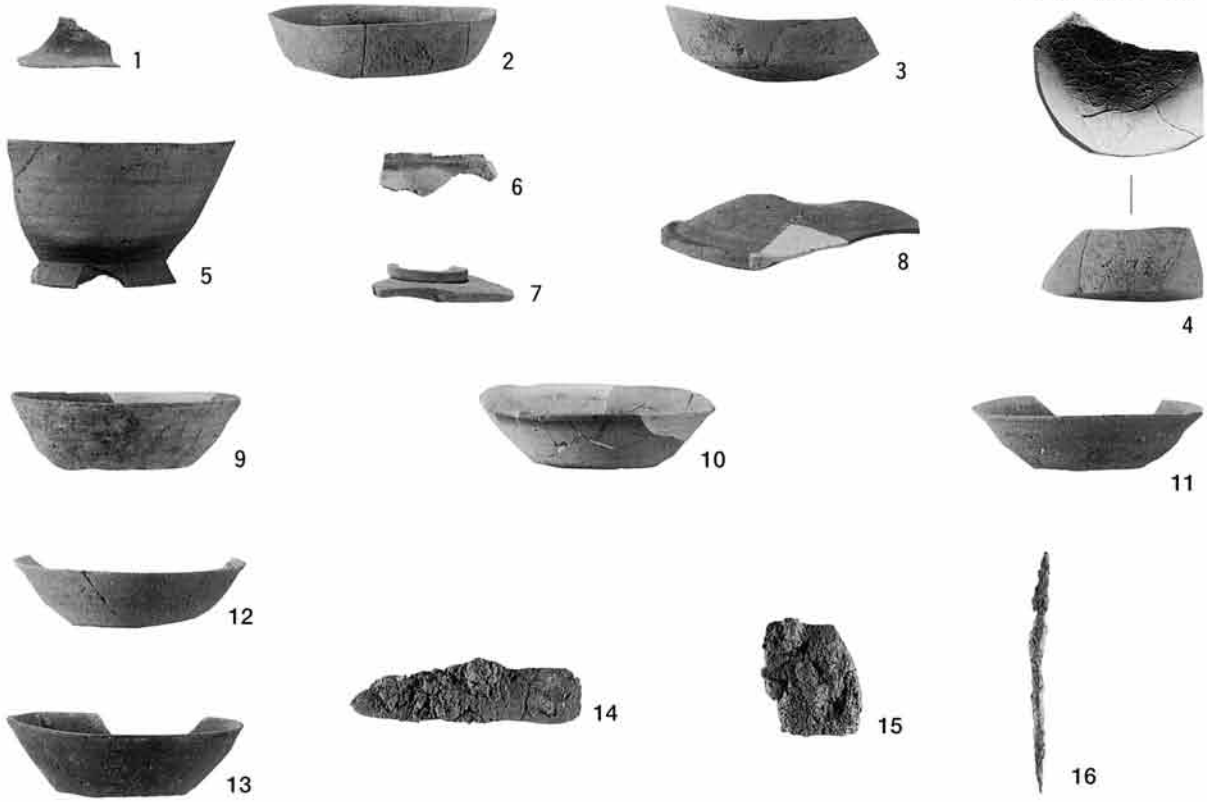
18

H一 3 号住居跡出土遺物②



H— 4 号住居跡出土遺物

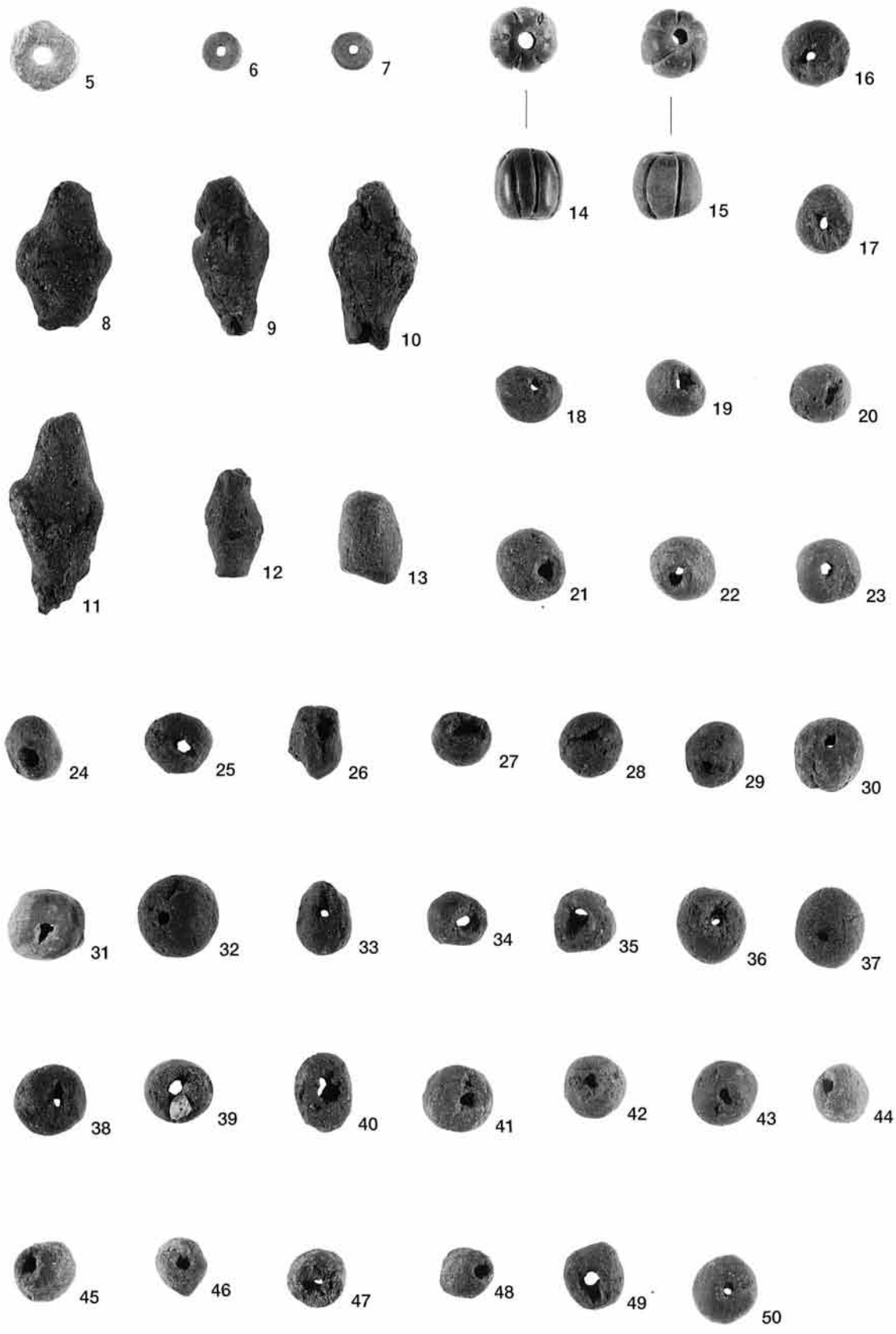
H— 5 号住居跡出土遺物



H— 6 号住居跡出土遺物

H— 7 号住居跡出土遺物

H— 8 号住居跡出土遺物①



H－8号住居跡出土遺物②

51

52

H－8号住居跡出土遺物③

1

3

4

9

2

5

7

10

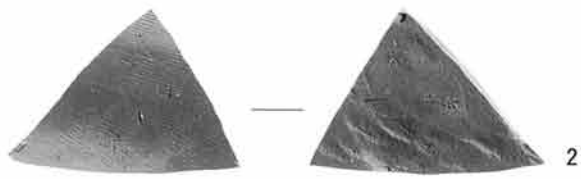
6

8

11

H－9号住居跡出土遺物

1


2

3

H－10号住居跡出土遺物

1

2

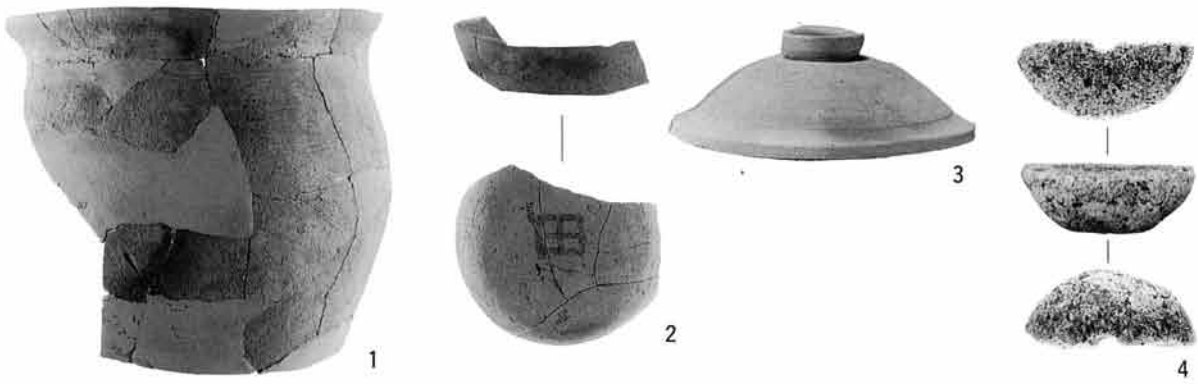
3

4

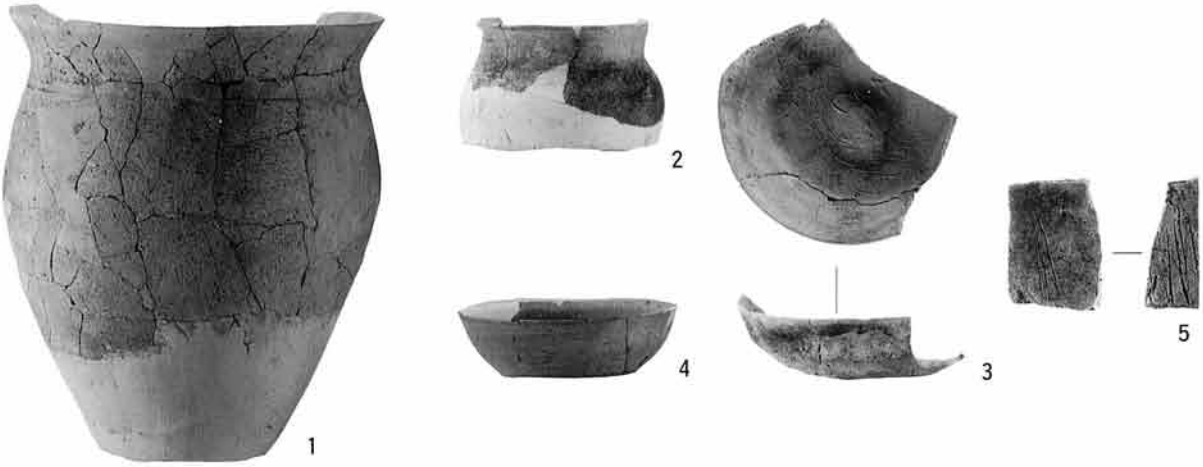
5

H－11号住居跡出土遺物

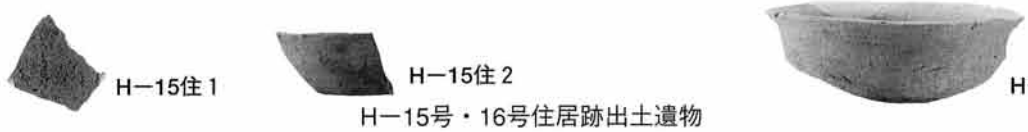
H－12号住居跡出土遺物



H－13号住居跡出土遺物

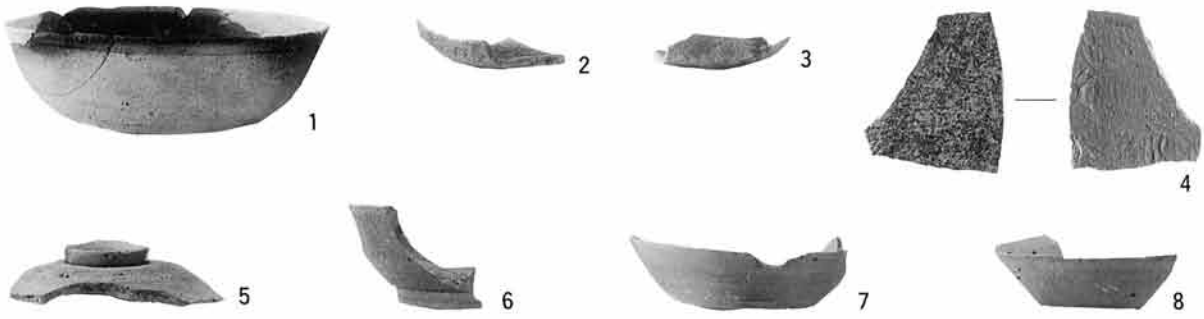


H－14号住居跡出土遺物



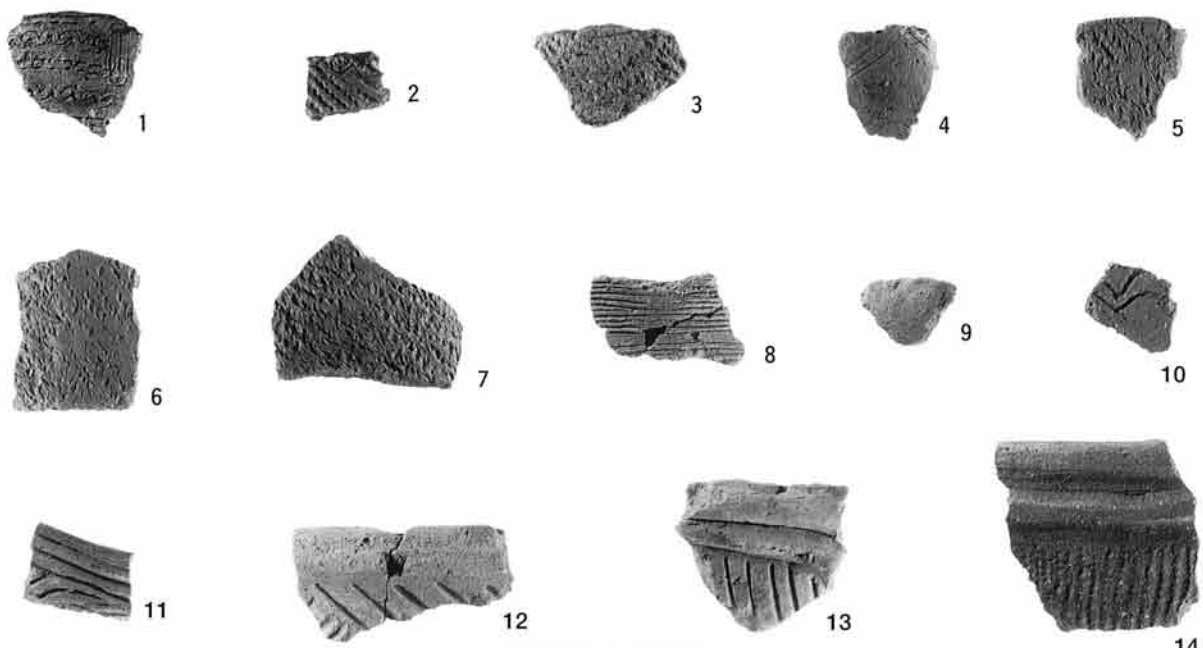
H－15号・16号住居跡出土遺物

2号土坑出土遺物



3号土坑出土遺物

1号溝出土遺物



遺構外出土遺物①

15

17

18

19

16

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

遺構外出土遺物②

五代木福Ⅰ遺跡

遺跡遠景（南→）

A区全景（上が東）

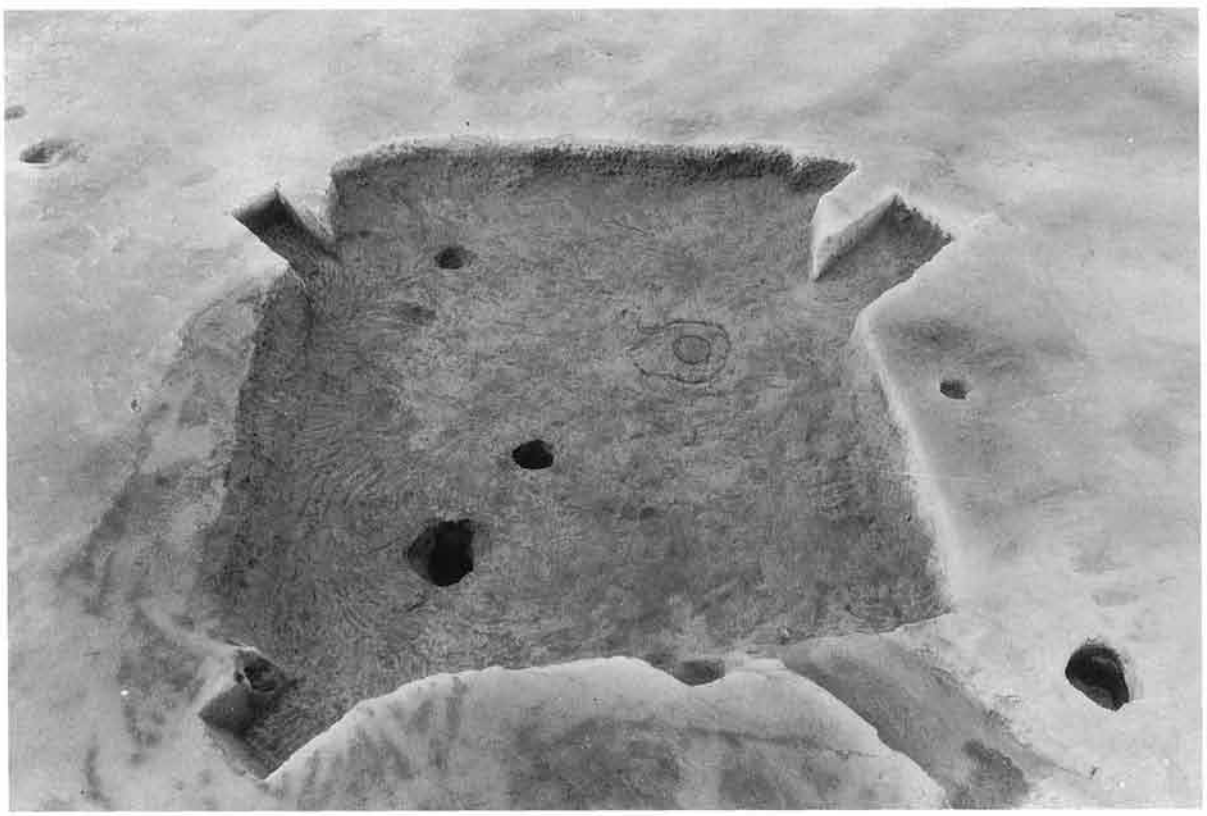
B・C・D区全景（上が北）

J－１号住居跡調査状況（北→）

J－１号住居跡埋設土器①（南→）

J－１号住居跡埋設土器②（東→）

13号土坑（北→）



J－１号住居跡全景（東→）

H－1号住居跡全景（東→）

H－2号・5号・4号住居跡全景（西→）

H－3号住居跡全景（西→）

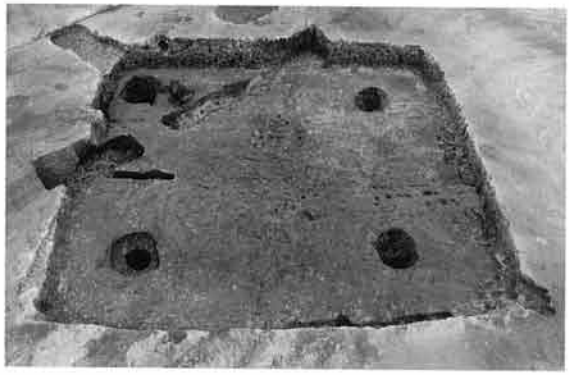
H－3号住居跡カマド（西→）

H－6号住居跡全景（西→）

H－6号住居跡掘り方全景（西→）

H－6号住居跡カマド（西→）

H－6号住居跡カマド左袖部（南東→）

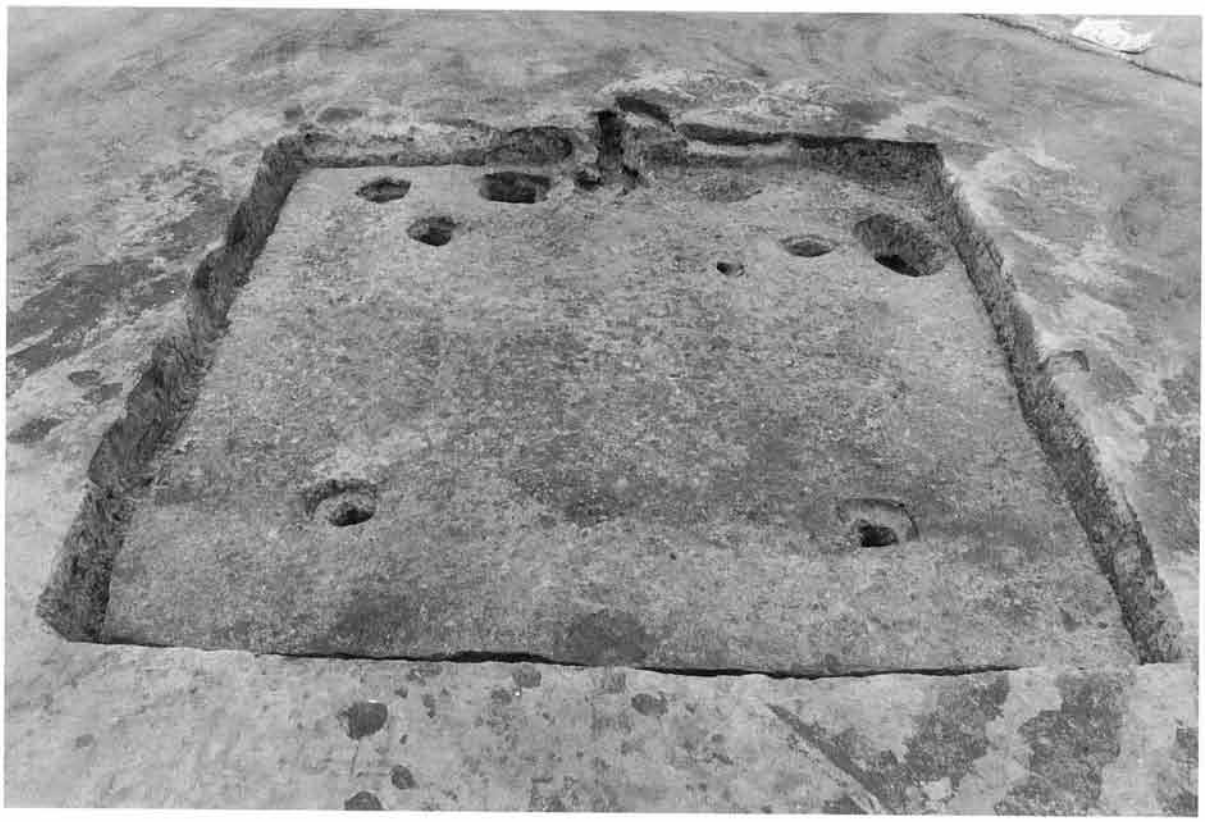


H—7号住居跡全景（西→）

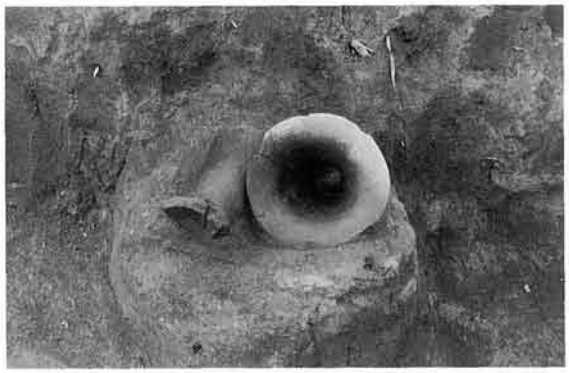
H— 7 号住居跡掘り方全景（西→）

H— 7 号住居跡北側カマド掘り方（南→）

H— 8 号住居跡全景（西→）



H— 9 号住居跡全景（南→）



H－９号住居跡遺物出土状態近景（南→）

H－９号住居跡カマド（南→）

H－９号住居跡床下土坑遺物出土状態（西→）

H－９号住居跡掘り方全景（南→）

H－10号住居跡全景（西→）

H－10号住居跡カマド（西→）

H－11号住居跡全景（西→）

H－12号住居跡全景（西→）

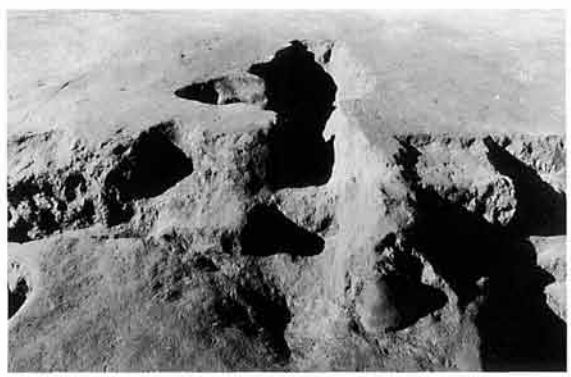
H－13号住居跡全景（西→）

H－14号住居跡全景（西→）

H－15号住居跡全景（西→）

H－15号住居跡掘り方全景（西→）

H－16号住居跡全景（東→）



H－16号住居跡カマド（東→）

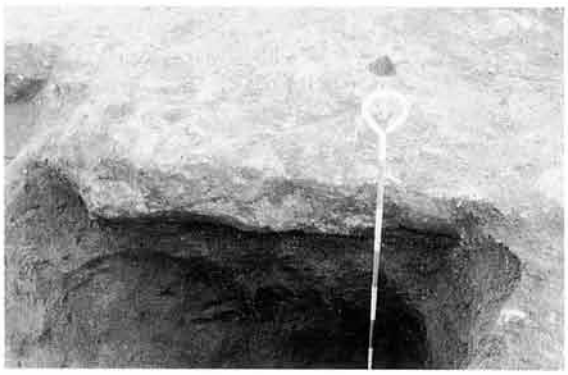
H－17号住居跡全景（南→）

H－17号住居跡北側カマド煙道部（南→）

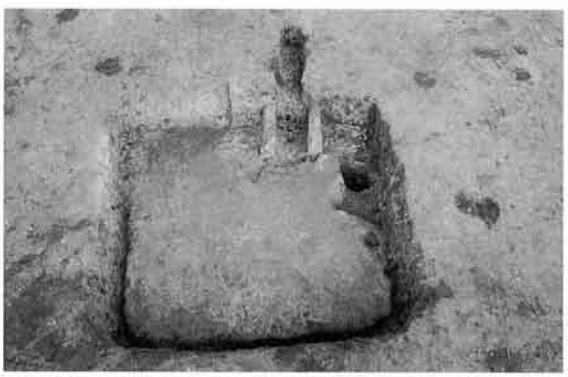
H−18号住居跡全景（北→）

H−19号住居跡全景（南→）

H−20号住居跡全景（西→）



H−20号住居跡貼り床（西→）



H−21号住居跡全景（西→）

H−21号住居跡カマド土層（南西→）

H−21号住居跡カマド（西→）

H−21号住居跡カマド袖断ち割り状態（南→）

H−22号住居跡全景（西→）

H−22号住居跡カマド（西→）

H−23号住居跡全景（西→）

H−23号住居跡カマド（西→）

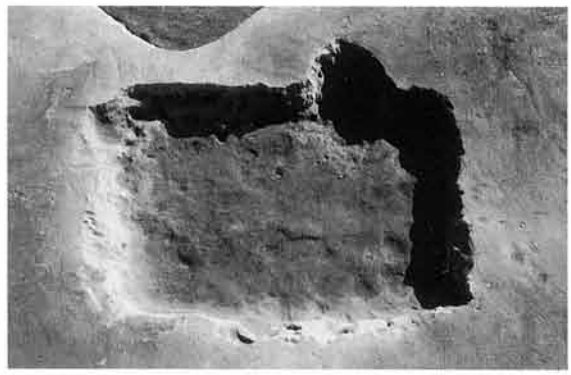
H−24号住居跡全景（西→）

H−24号住居跡カマド（西→）

H−25号住居跡全景（西→）

H−26号住居跡全景（西→）

H−27号住居跡全景（東→）



H−28号住居跡全景（西→）

H−29号住居跡遺物出土状態近景（南→）

H−29号住居跡全景（西→）

H−30号住居跡全景（西→）

H−30号住居跡カマド（西→）

H−31号住居跡炭化材・焼土検出状態（西→）

H−31号住居跡全景（西→）

H－32号住居跡全景（西→）

H－33号住居跡全景（東→）

H－34号住居跡全景（西→）

H－35号住居跡全景（南西→）

H－36号住居跡全景（東→）

H－36号住居跡西側貯蔵穴粘土塊出土状態（西→）

H－36号住居跡カマド（東→）

H－36号住居跡カマド袖断ち割り状態（東→）

H−37号住居跡全景（西→）

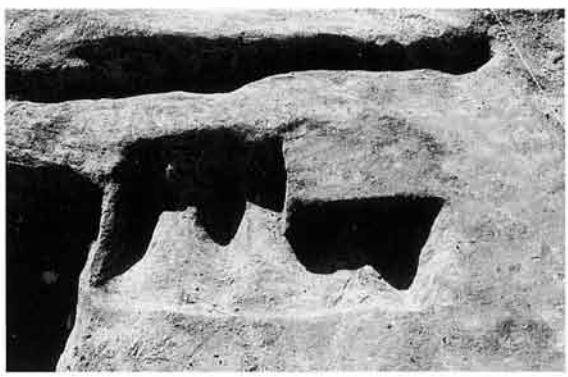
H−38号住居跡・15号土坑土層（西→）

H−38号住居跡全景（西→）

15号土坑（西→）

H−39号住居跡全景（西→）

H−39号住居跡カマド（西→）



H−39号住居跡内施設検出状態（北→）

H−39号住居跡内施設（北→）

H－40号住居跡全景（西→）

H－41号住居跡全景（西→）

H－42号住居跡全景（西→）

H－43号住居跡全景（西→）

H－43号住居跡出入り口部（北→）

H－43号住居跡カマド（西→）

H－44号住居跡全景（西→）

H－44号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（北→）

H−45号住居跡炭化材検出状態（南→）

H−45号住居跡全景（西→）

H−46号住居跡全景（西→）

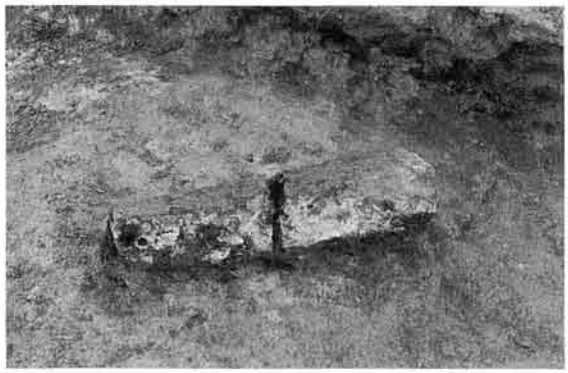
H−47号住居跡全景（西→）

H−48号住居跡全景（西→）

H−48号住居跡銅鈴出土状態（東→）

H−48号・49号住居跡重複状態（西→）

H−49号住居跡全景（西→）

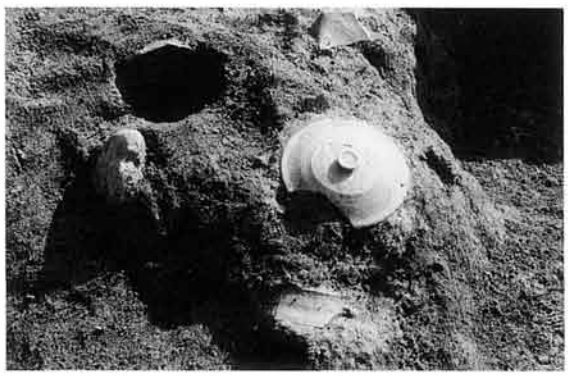


H−50号住居跡柱状粘土出土状態（東→）

H−50号住居跡全景（西→）

H−51号住居跡カマド端部（西→）

H−52号・53号住居跡全景（西→）



H−52号住居跡遺物出土状態近景①（北東→）

H−52号住居跡遺物出土状態近景②（北→）

H−52号住居跡掘り方全景（西→）

H−54号住居跡全景（西→）

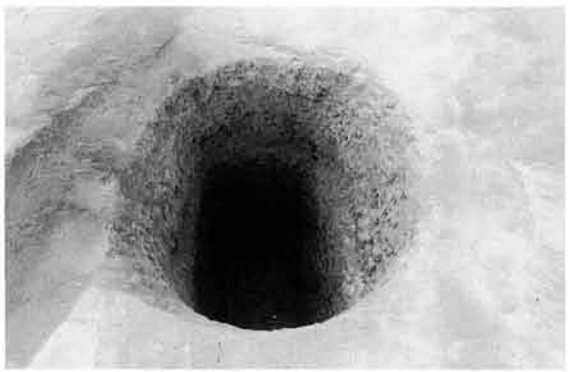
1号土坑（北→）

9号土坑（北→）

10号土坑（東→）

11号土坑（南→）

12号土坑（西→）



16号土坑（東→）

18号土坑（北→）

21号土坑（南→）

2号土坑遺物出土状態（西→）

2号土坑（西→）

3号土坑土層（東→）

3号土坑（北→）

5号土坑（南→）

6号土坑土層（東→）

6号土坑（北→）

6号土坑（東→）

7号土坑遺物出土状態（東→）

7号土坑（西→）

8号土坑（北西→）

14号土坑（北東→）

17号土坑（東→）

22号土坑古銭出土状態（東→）

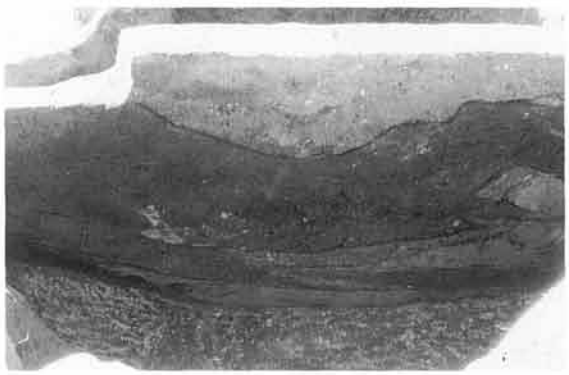
22号土坑人骨出土状態（西→）

23号土坑人骨出土状態（東→）

19号土坑（北→）

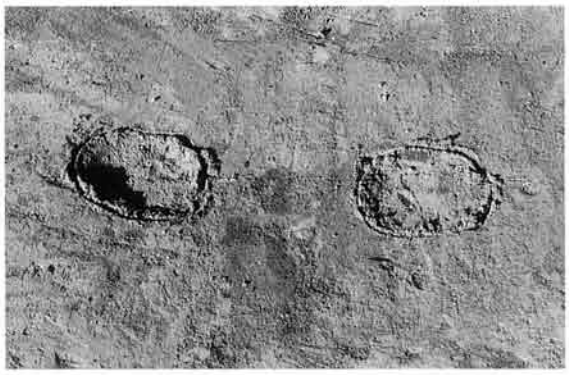
19号土坑遺物出土状態近景（西→）

19号土坑出入り口部（南→）

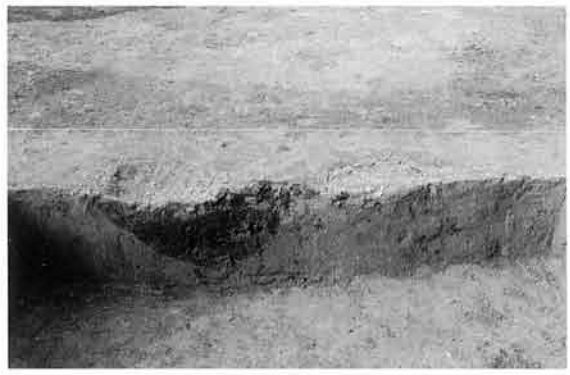


20号土坑土層（北→）

20号土坑（西→）



1号・2号砂鉄ピット検出状態（東→）



1号・2号砂鉄ピット断面（東→）

2号溝（北→）

4号溝（東→）

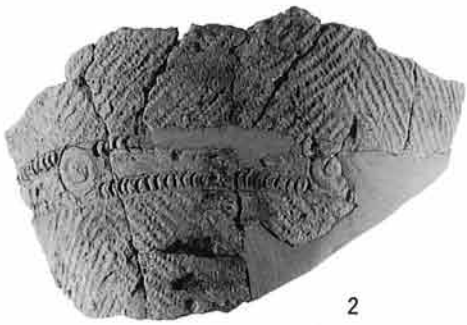
20号溝（北→）

C区基本土層（北→）

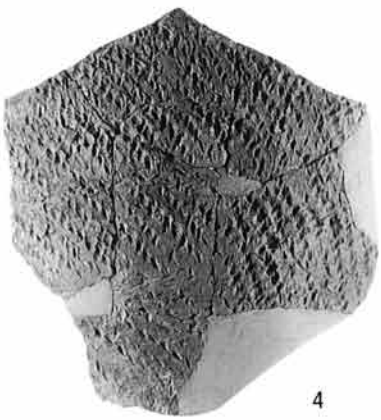
調査状況

調査状況

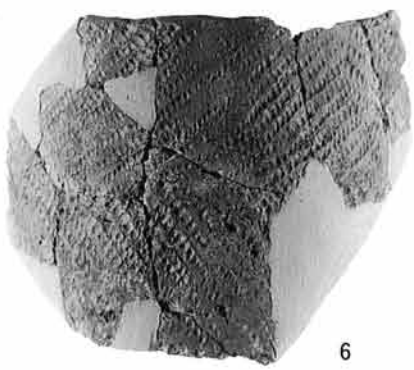
1


2

3


4

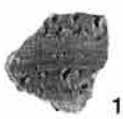
5


6

7

8

9

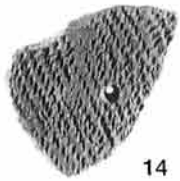

10

J－1号住居跡出土遺物①

11

12

13


14

15

16

17

J－1号住居跡出土遺物②

1

2

13号土坑出土遺物

H－1住1

H－2住1

H－2住2

H－3住1

H－3住2

H－3住3

H－3住4

H－4住1

H－1号・2号・3号・4号住居跡出土遺物

1

2

3

H－6号住居跡出土遺物

H－7住1

H－7住2

H－7住3

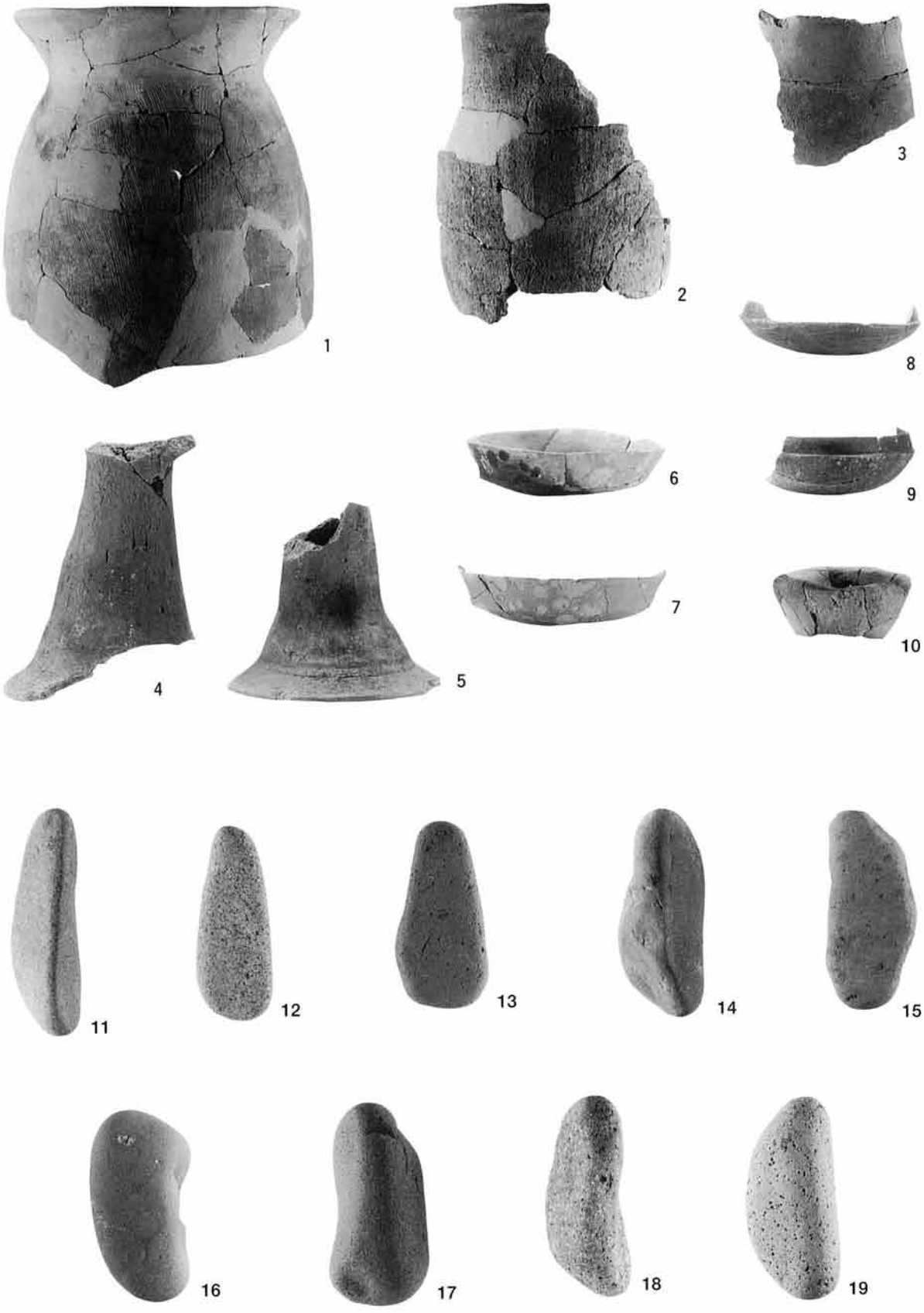
H－8住1

H－8住2

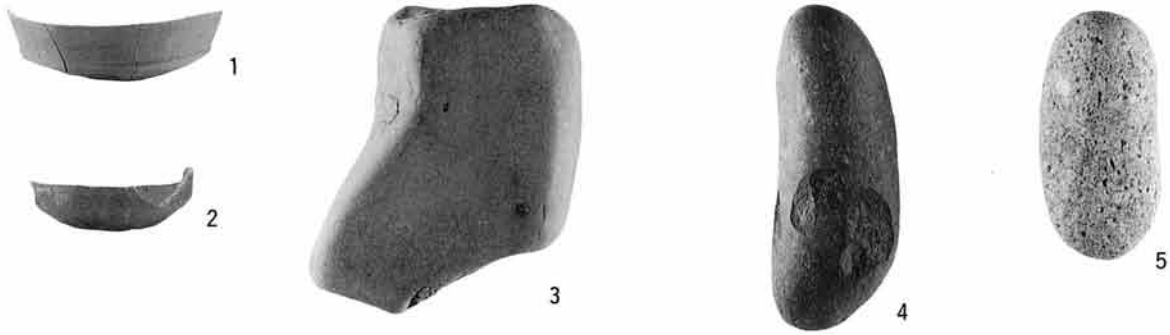
H－8住3

H－8住4

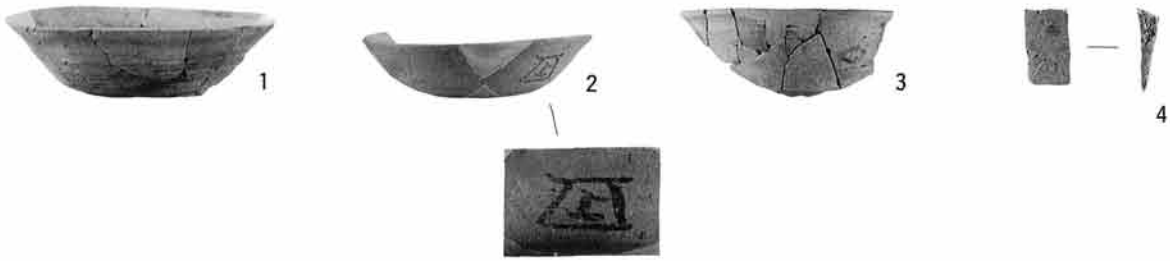
H－7号・8号住居跡出土遺物



H－9号住居跡出土遺物

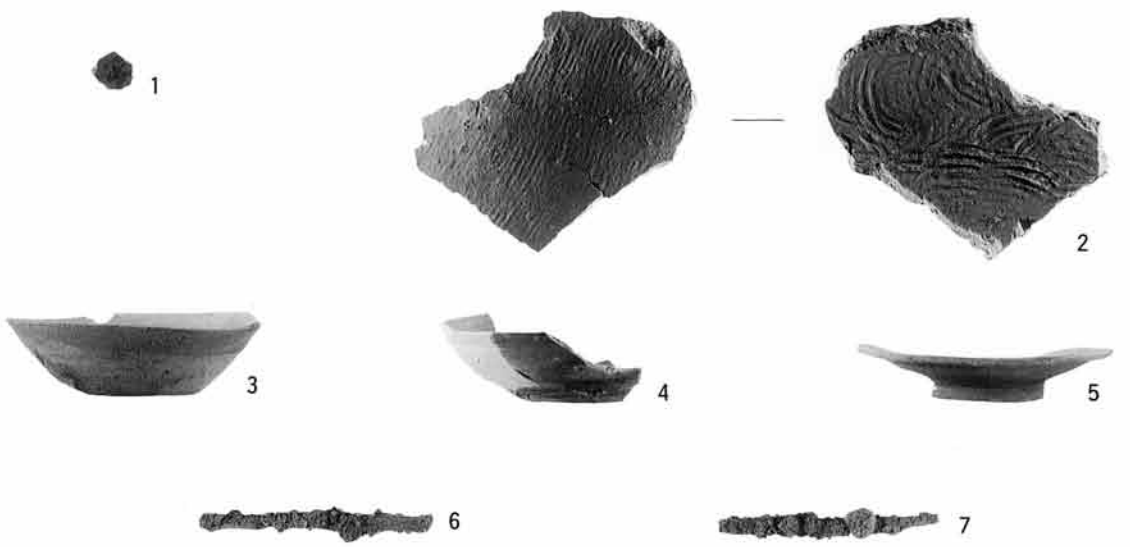


H－10号住居跡出土遺物



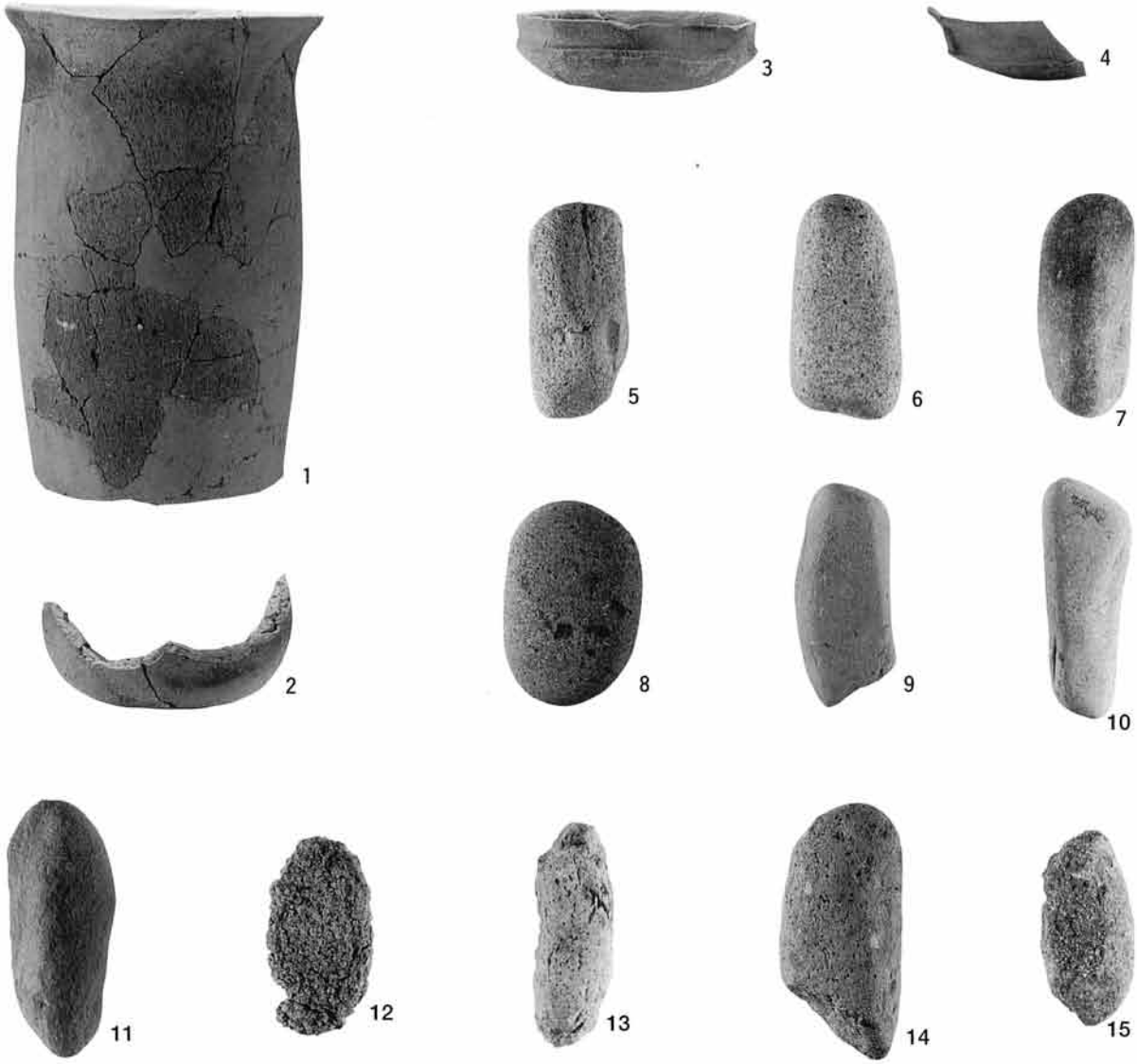
H－11号住居跡出土遺物

H－12号住居跡出土遺物

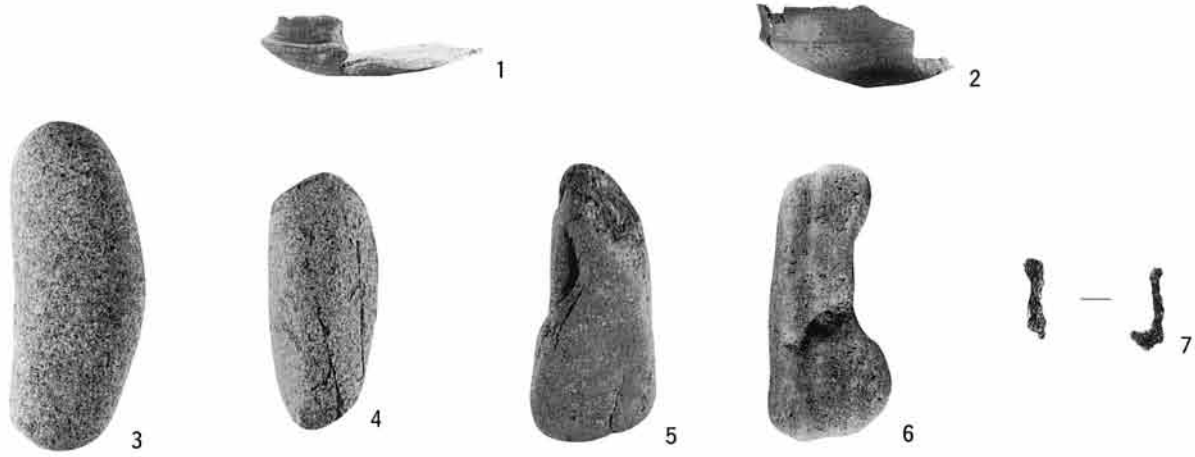


H－13号住居跡出土遺物

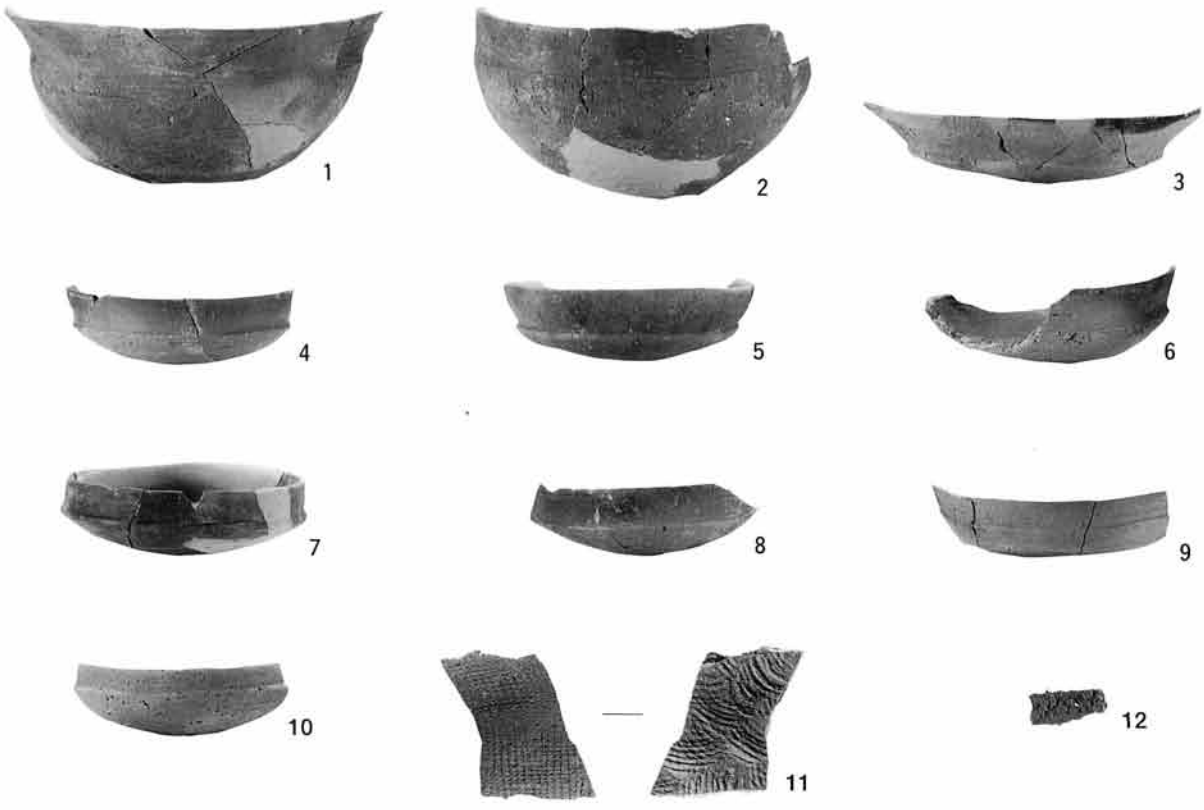
H－14号住居跡出土遺物



H－15号住居跡出土遺物

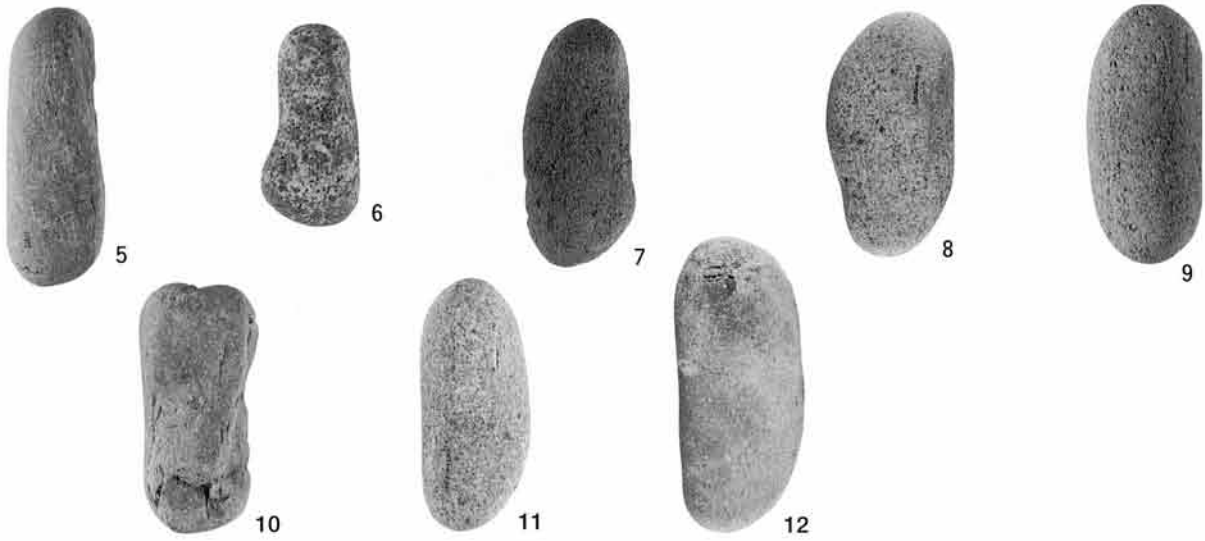


H－16号住居跡出土遺物

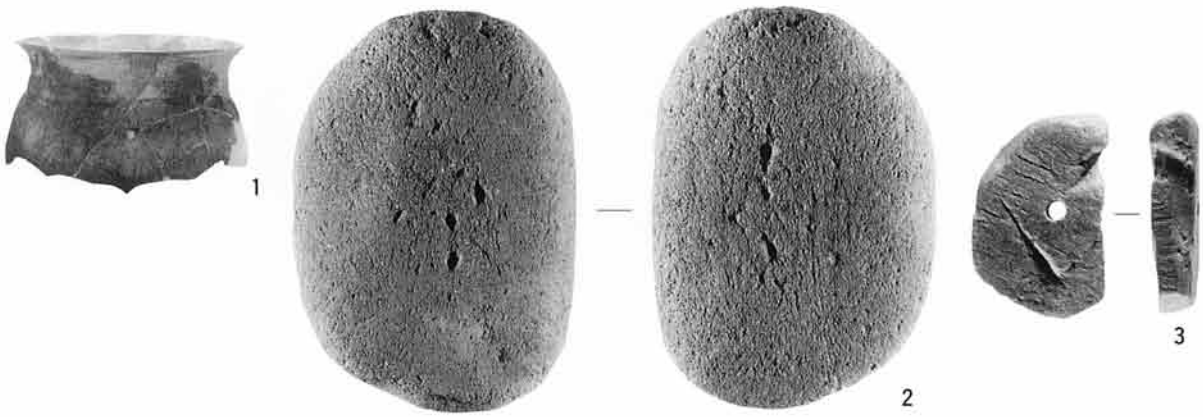


H－17号住居跡出土遺物

H－19号住居跡出土遺物①



H－19号住居跡出土遺物②



H－20号住居跡出土遺物

H－21号住居跡出土遺物

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

H—22号住居跡出土遺物

1

H−23号住居跡出土遺物

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

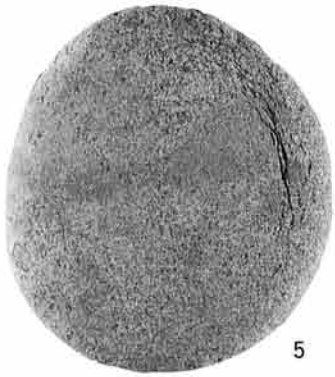
H−24号住居跡出土遺物

1

2

3

4


5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

H—25号住居跡出土遺物

1

2

H－26号住居跡出土遺物

1

2

4

6

3

5

7

8

9

H－27号住居跡出土遺物

1

2

3

4

H－28号住居跡出土遺物

1

2

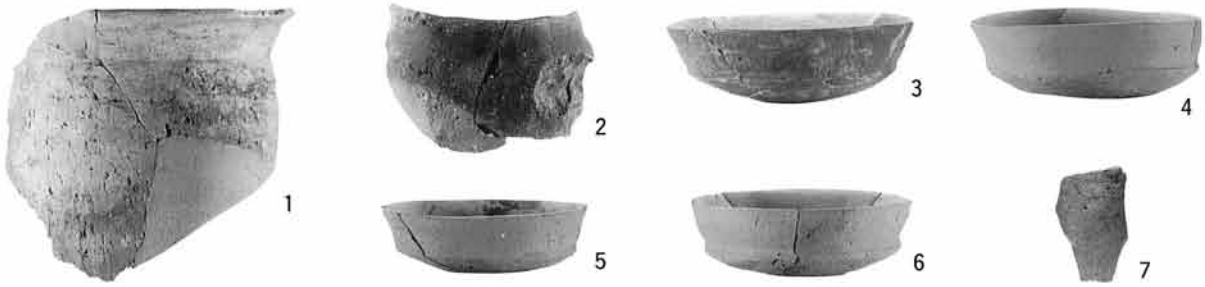
3

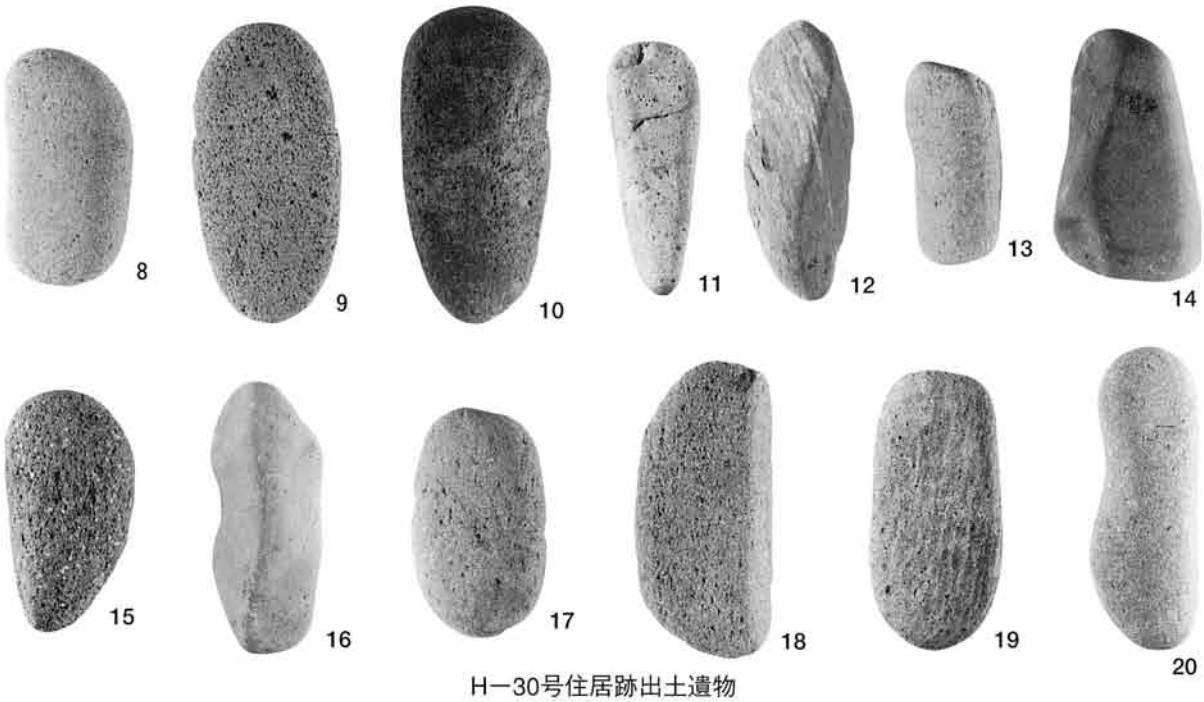
4

5

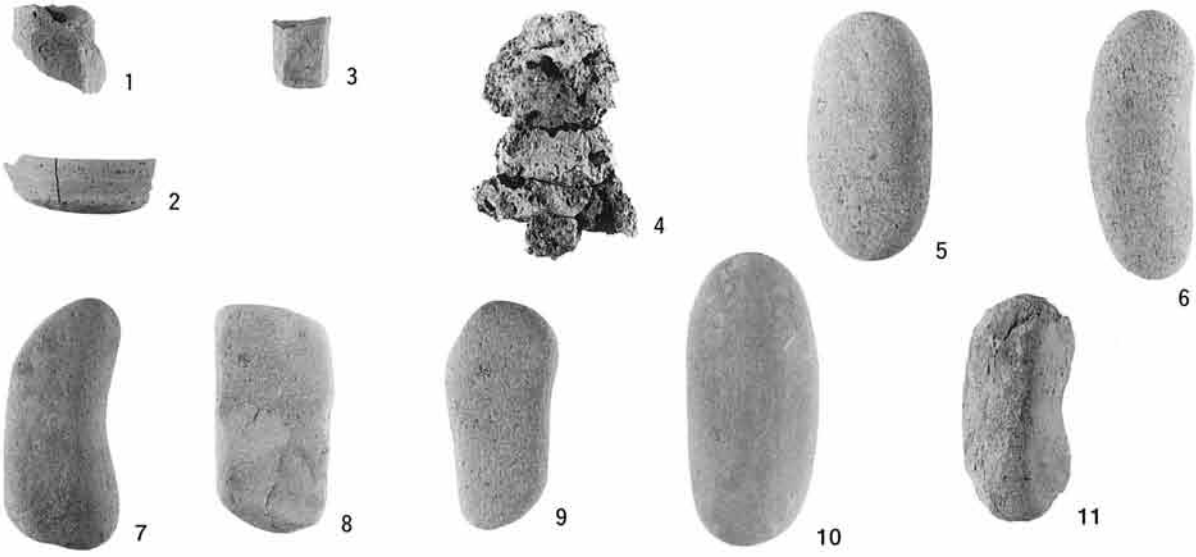
H－29号住居跡出土遺物①

H−29号住居跡出土遺物②





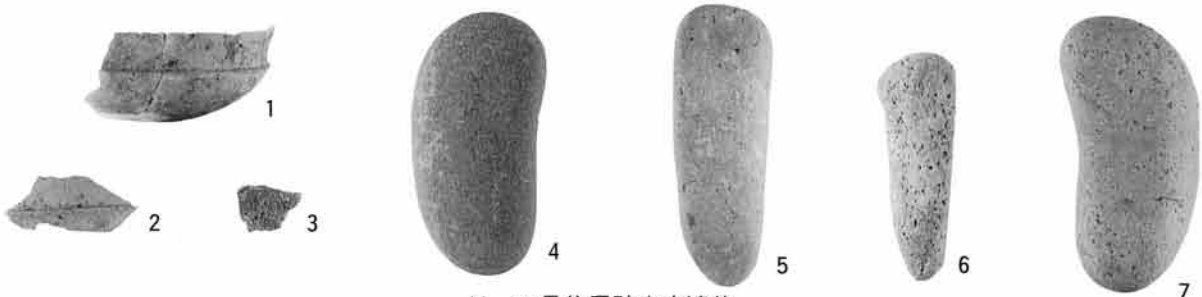
H−30号住居跡出土遺物



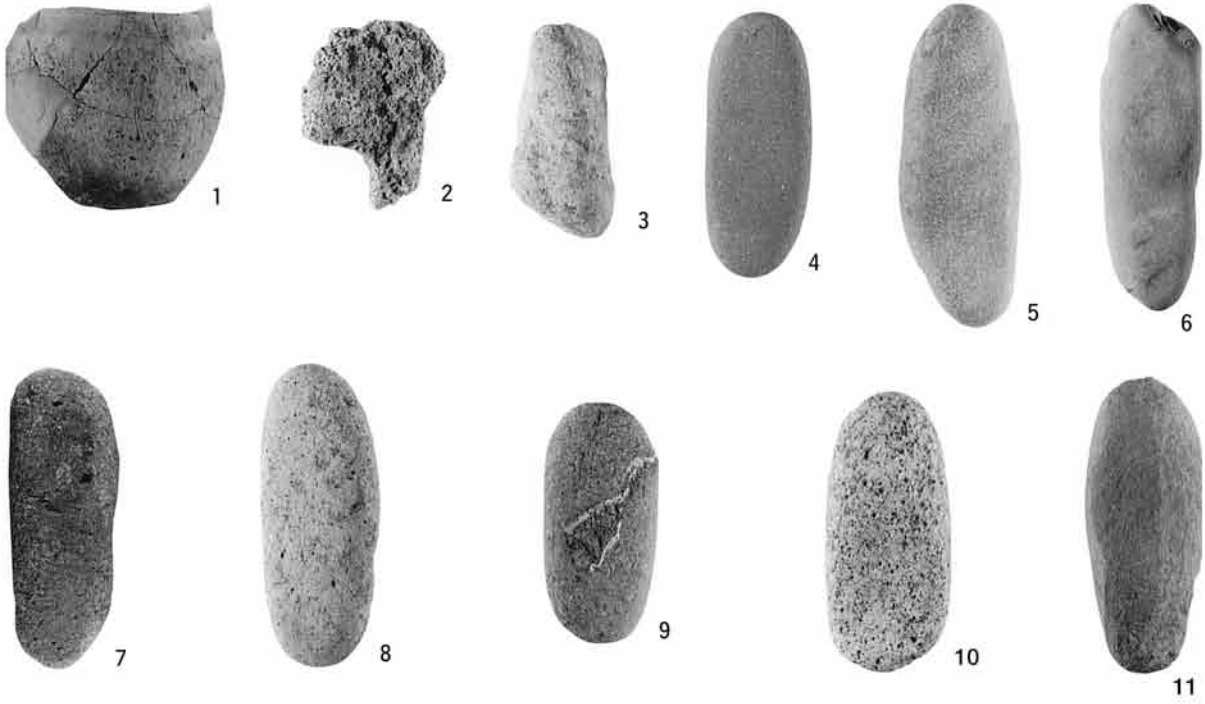
H−31号住居跡出土遺物

H−32号・33号・34号住居跡出土遺物

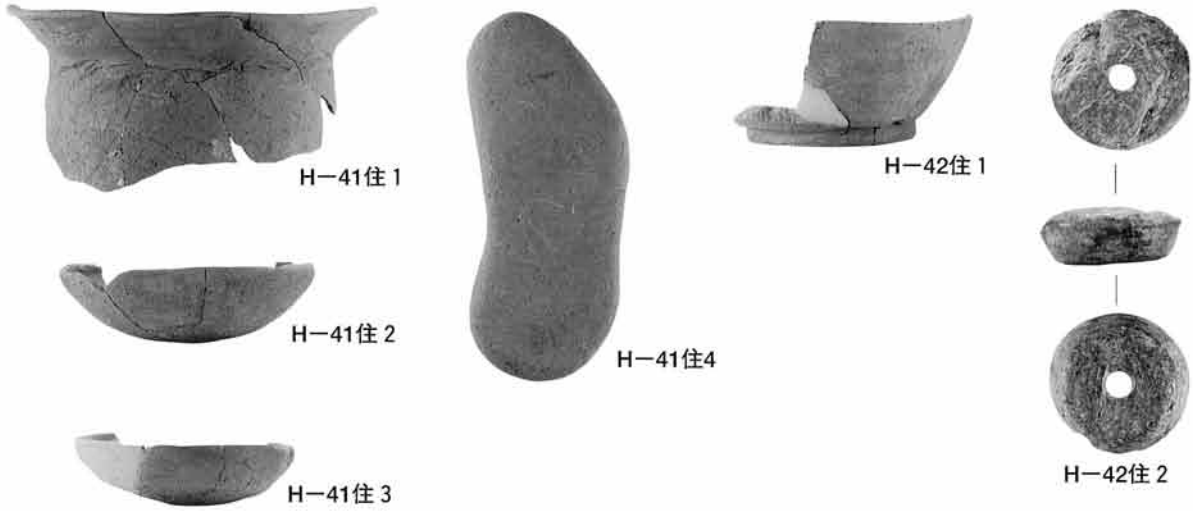
H−36号住居跡出土遺物



H−37号住居跡出土遺物



H−39号住居跡出土遺物

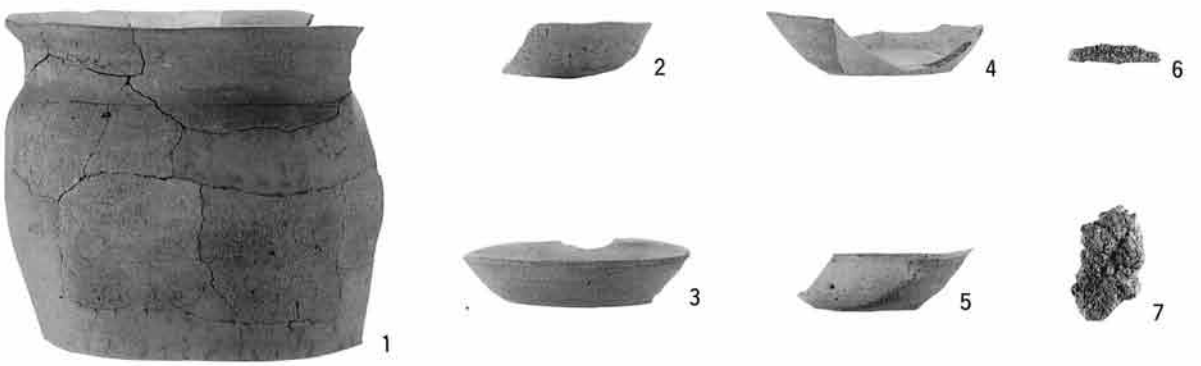


H−41号・42号住居跡出土遺物

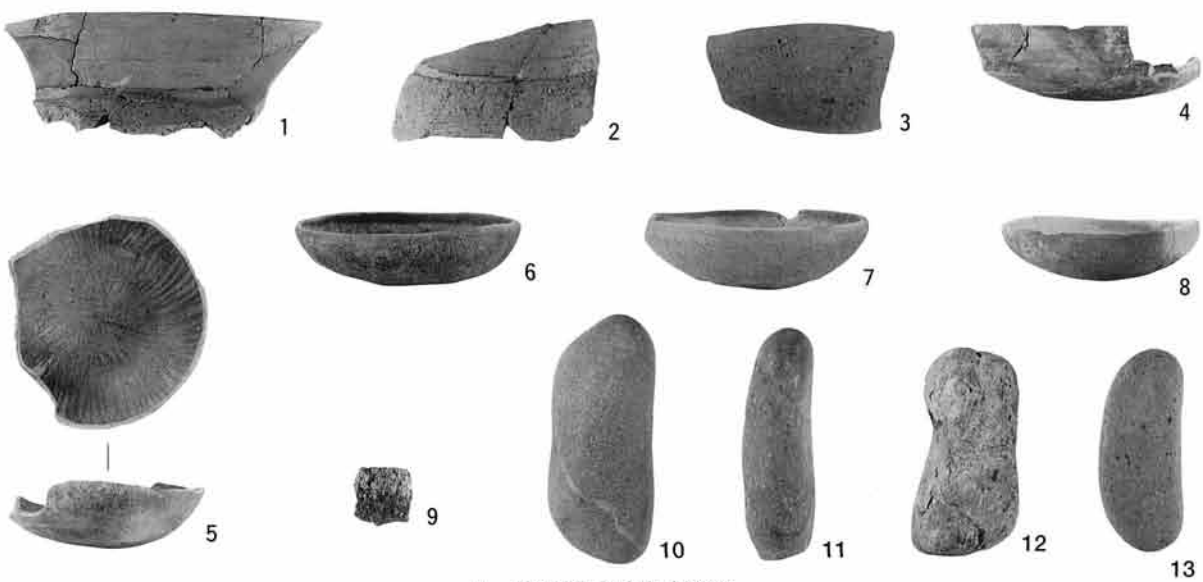
H−43号住居跡出土遺物

H—44号住居跡出土遺物

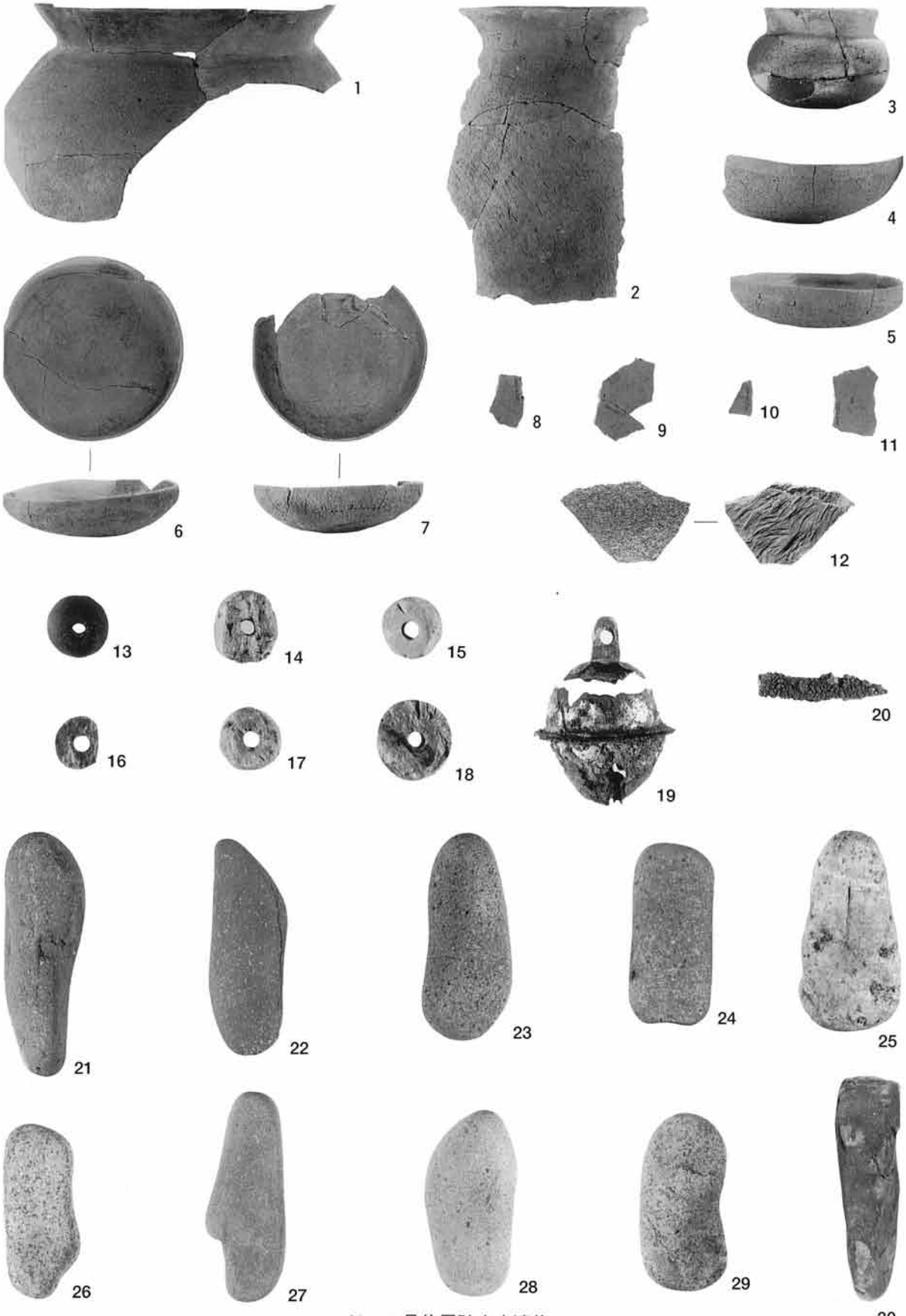
H—45号住居跡出土遺物



H—46号住居跡出土遺物

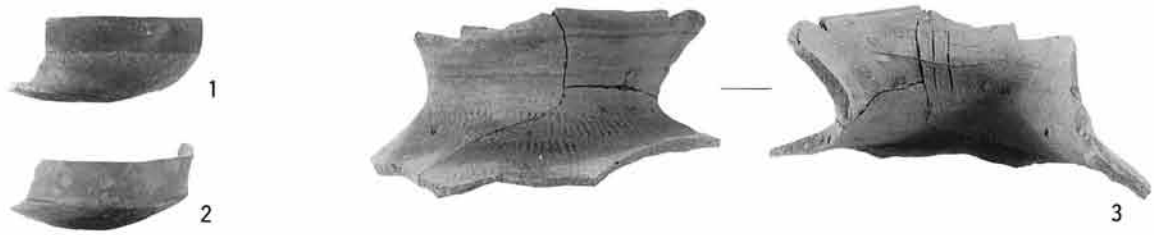


H—47号住居跡出土遺物

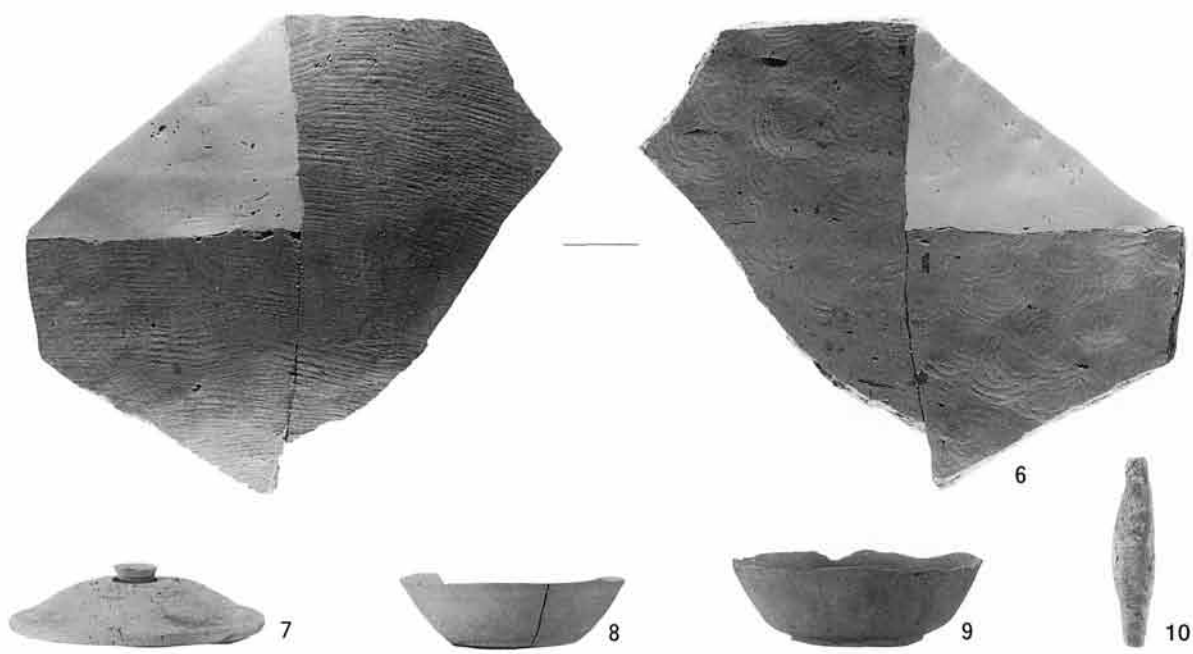


H－48号住居跡出土遺物

H−49号住居跡出土遺物



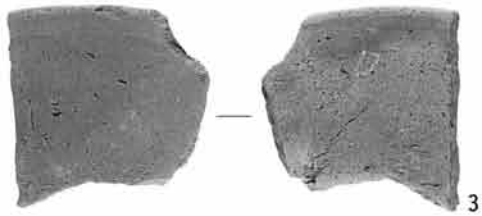
H−50号住居跡出土遺物



H−52号住居跡出土遺物

H−53号住居跡出土遺物

1


3

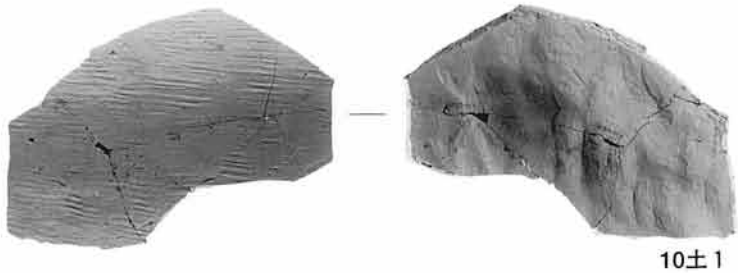
2

4

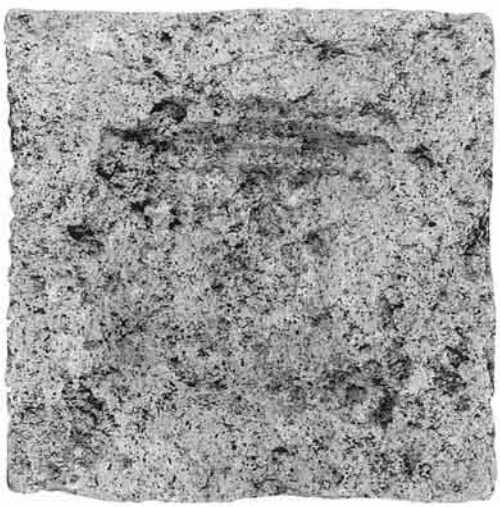
5

2号土坑出土遺物

3土1

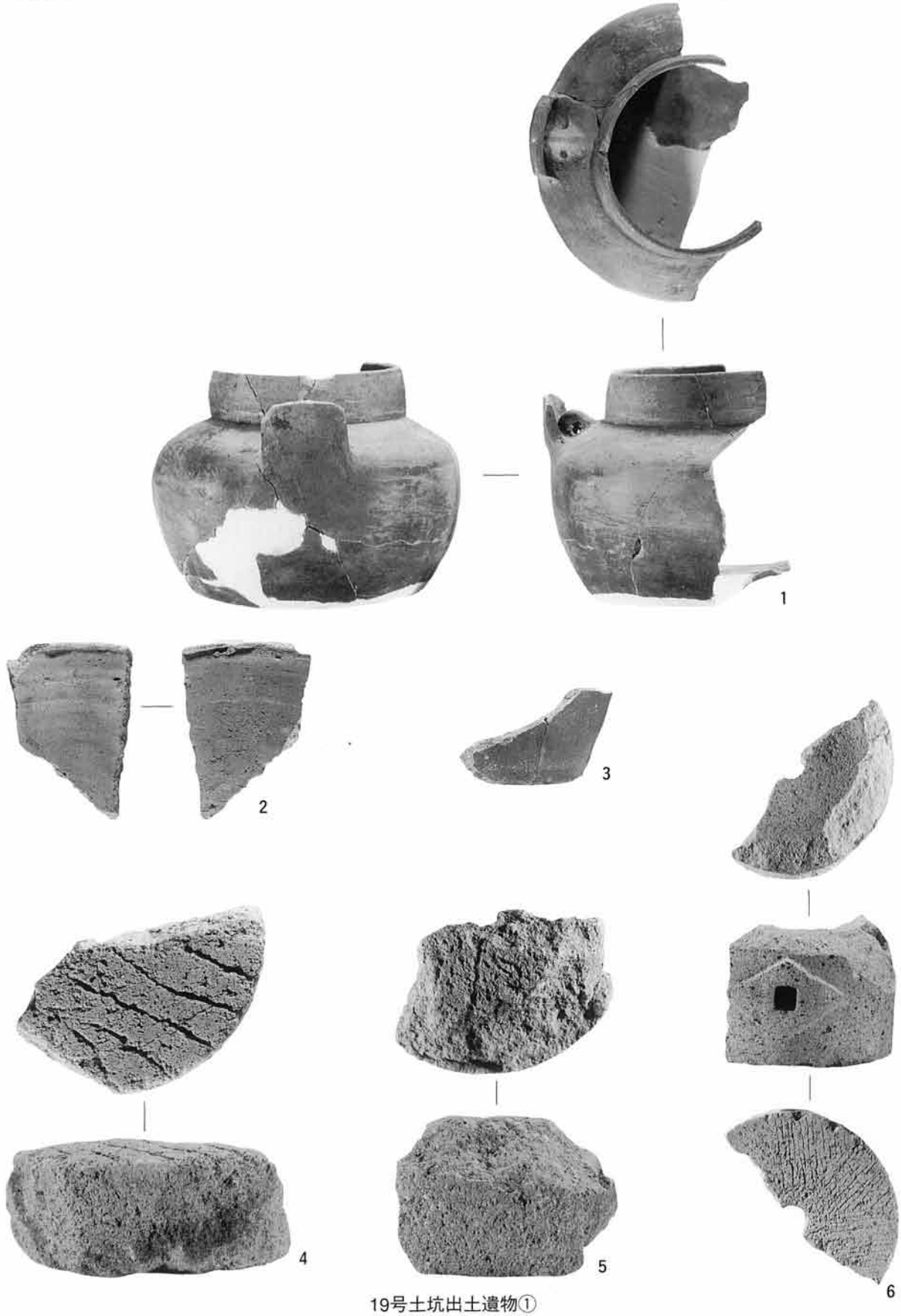

10土1

7土1

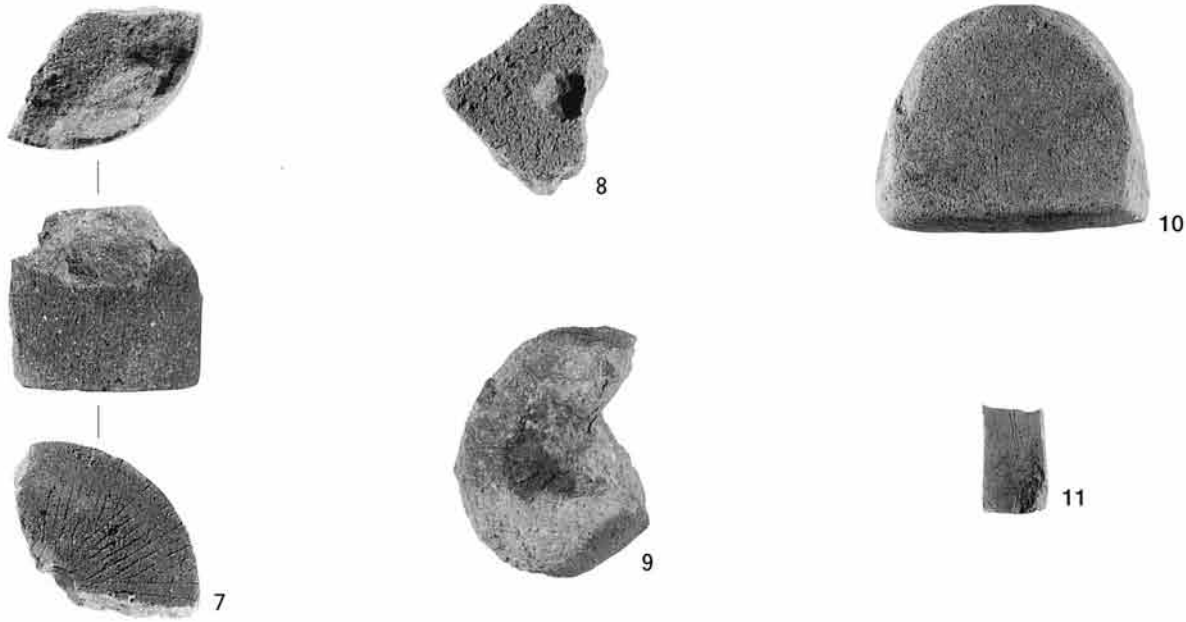

7土2

17土1

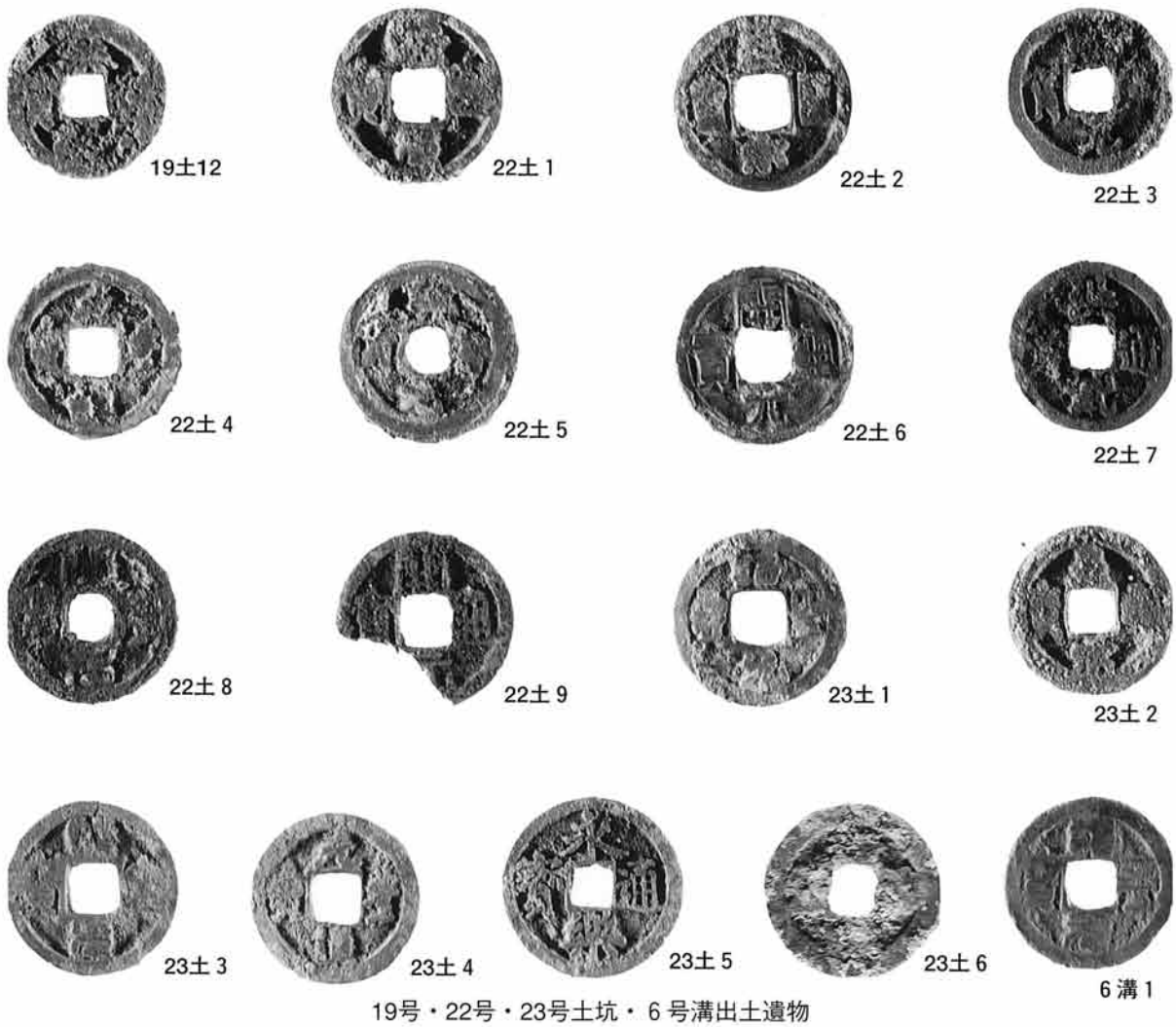
3号・7号・10号・17号土坑出土遺物



19号土坑出土遺物①

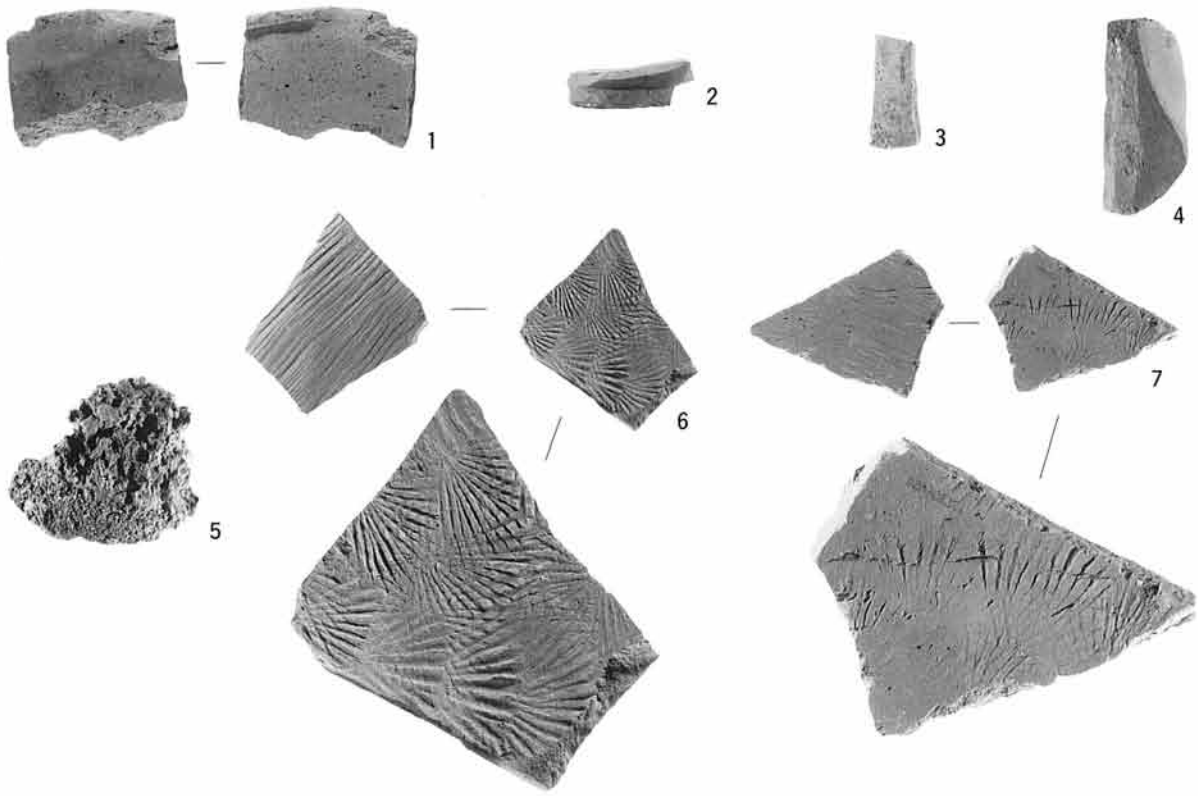


19号土坑出土遺物②

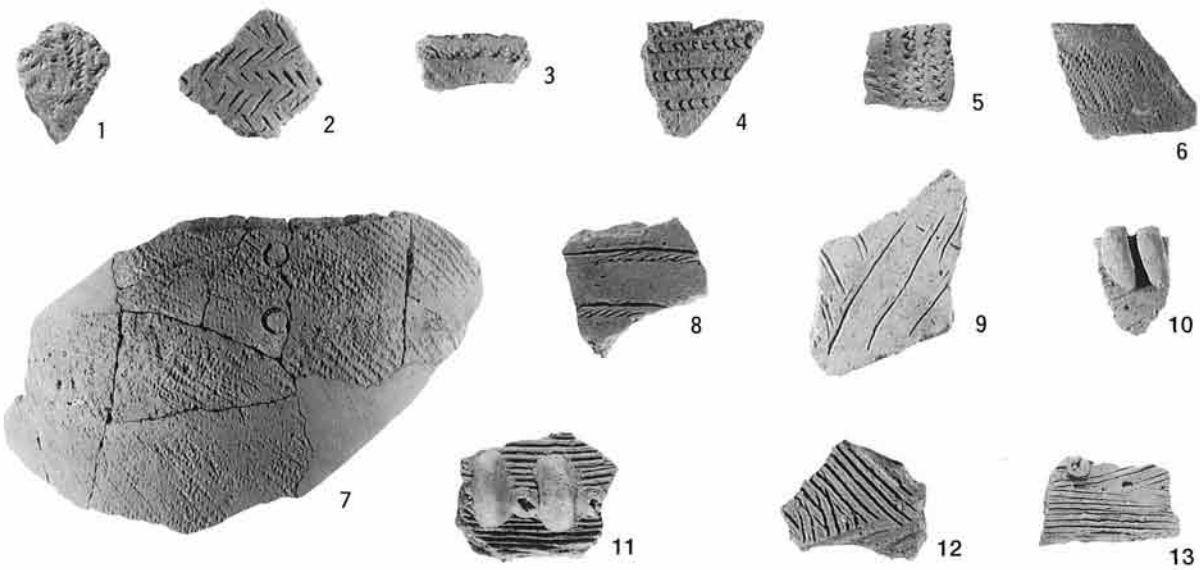


19号・22号・23号土坑・6号溝出土遺物

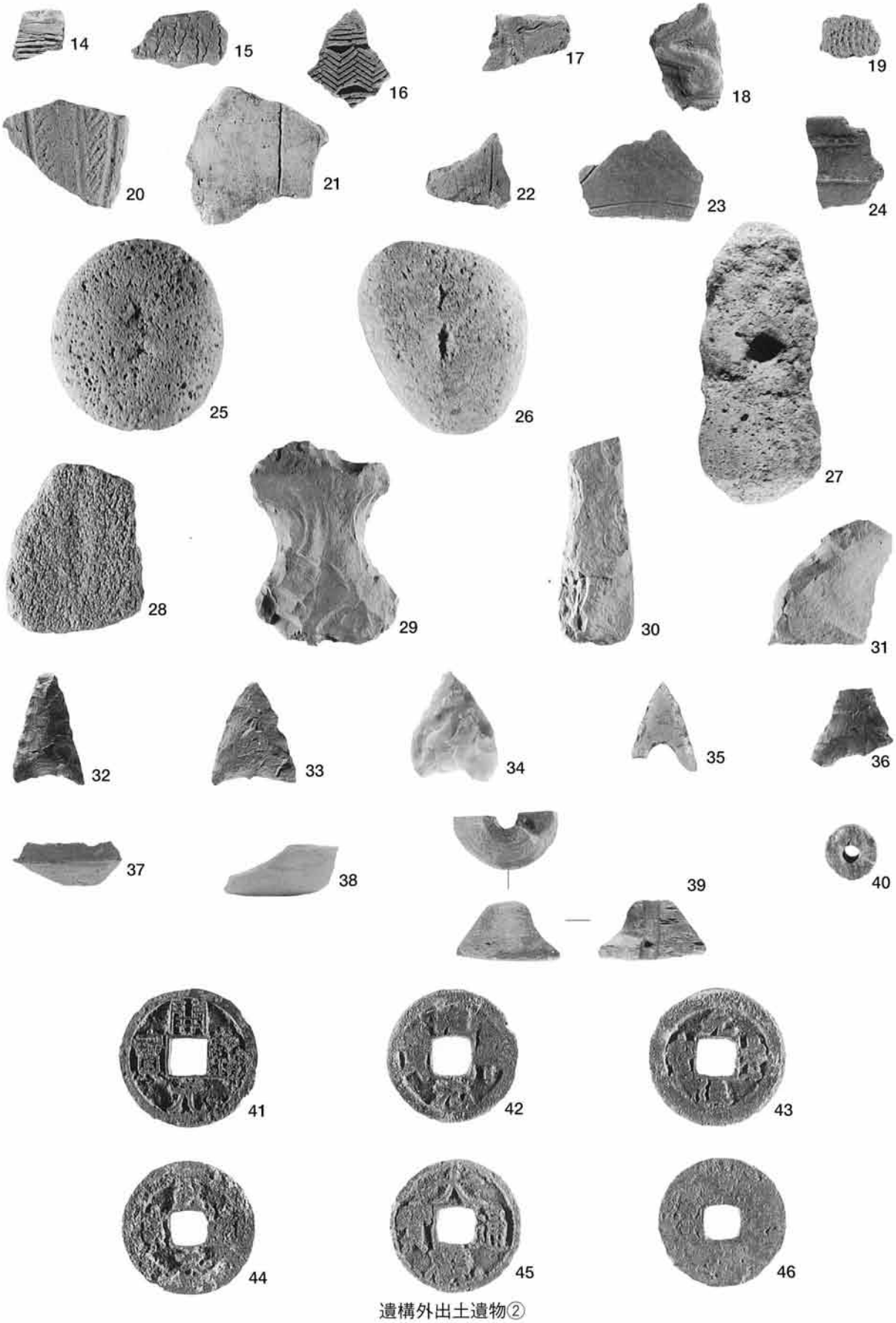
10号溝出土遺物



20号溝出土遺物



遺構外出土遺物①


14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46

遺構外出土遺物②

遺跡遠景（西→）

遺跡全景（上が北）

H－１号住居跡全景（南西→）

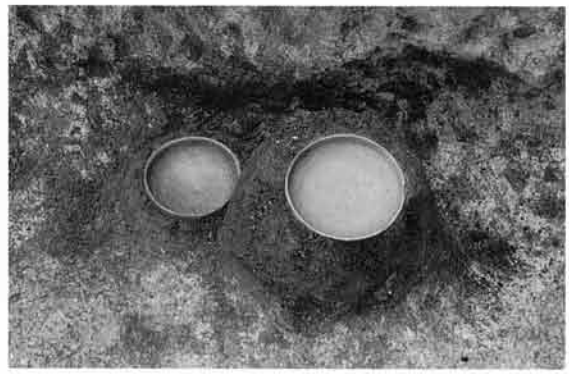
H－１号住居跡カマド遺物出土状態（南西→）

H－１号住居跡遺物出土状態近景（南→）

H－１号住居跡カマド（南西→）

H－１号住居跡カマド袖構築状態（南→）

H－２号住居跡全景（西→）



H－２号住居跡遺物出土状態近景（北→）

H－３号住居跡全景（西→）

H－３号住居跡カマド（西→）

H－４号住居跡遺物出土状態全景（西→）

H－４号住居跡全景（西→）

H－４号住居跡カマド（西→）

H－４号住居跡カマド袖断ち割り状態（西→）

H－5号住居跡遺物出土状態近景（南西→）

H－5号住居跡全景（北東→）

H－5号住居跡カマド（北東→）

H－6号住居跡全景（西→）

1号土坑土層（北→）

1号土坑（東→）

2号土坑（西→）

1号溝北側（南→）

1

2

3

4

5

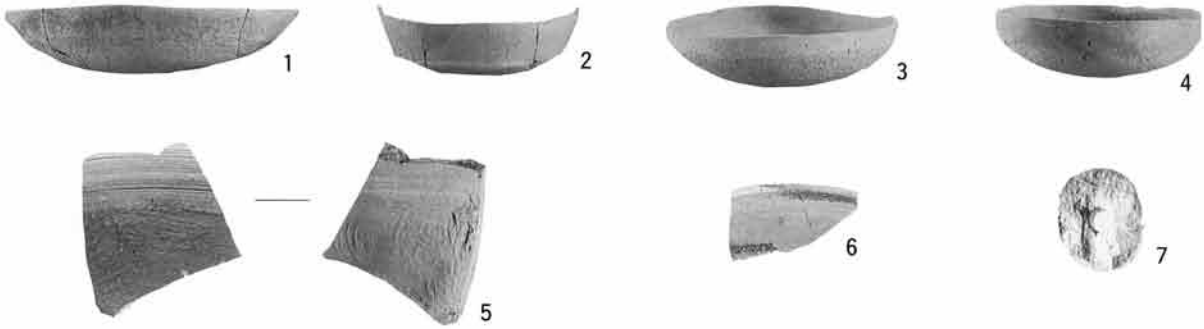
6

7

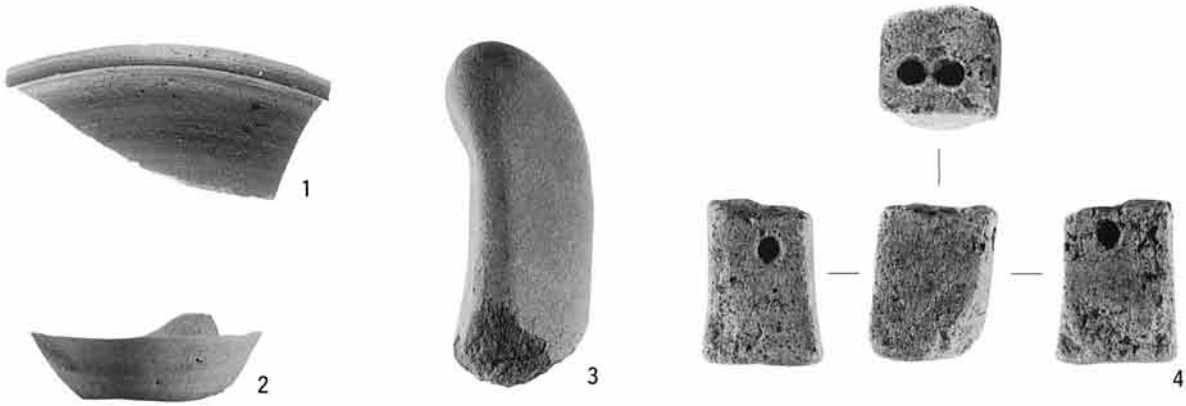
8

9

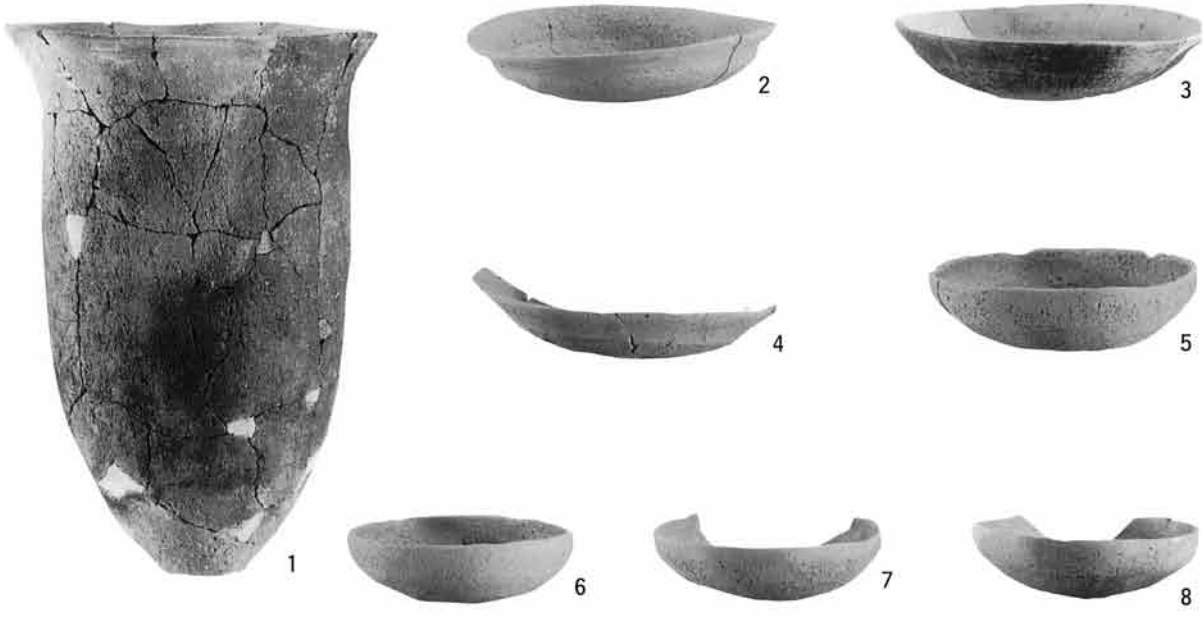
H－１号住居跡出土遺物



H— 2 号住居跡出土遺物



H— 3 号住居跡出土遺物

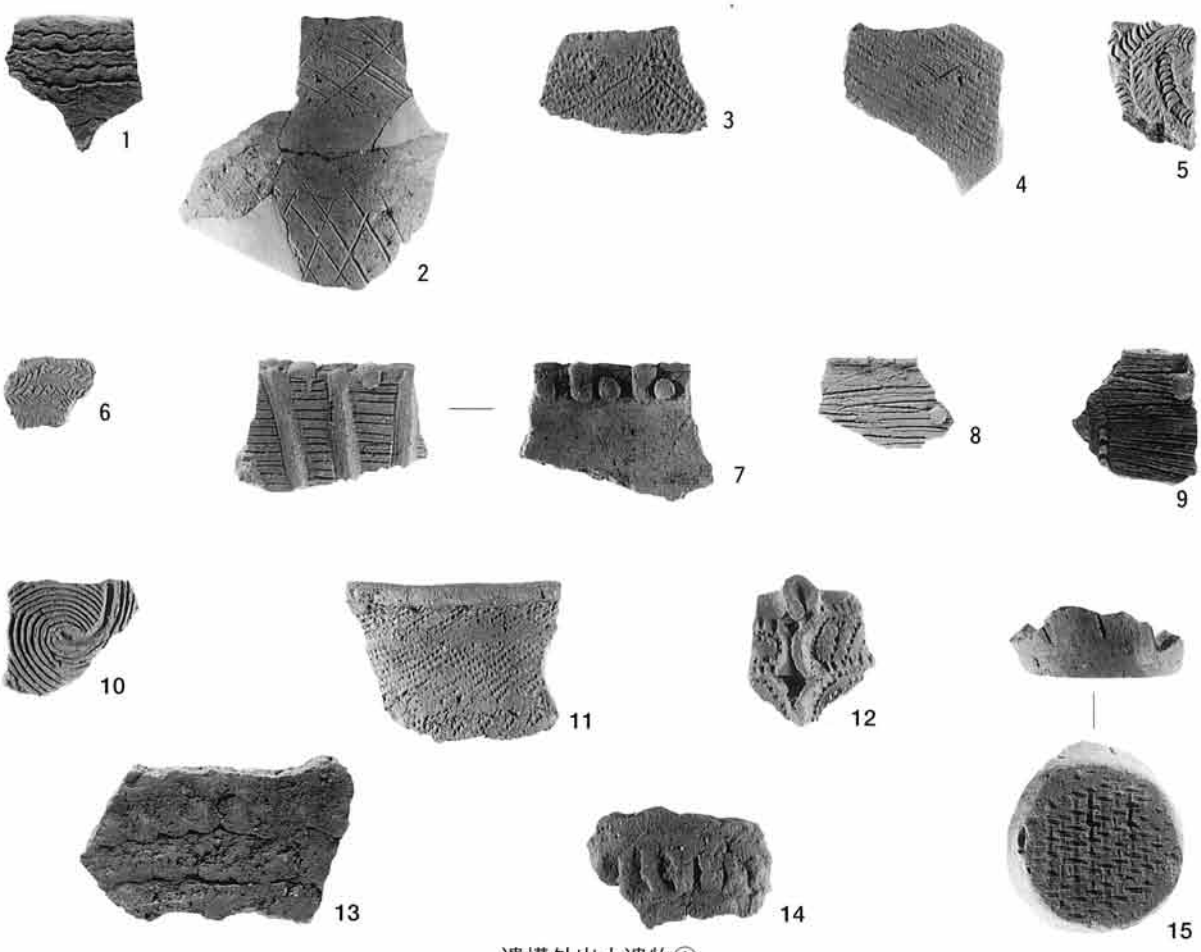


H— 4 号住居跡出土遺物①

H－4号住居跡出土遺物②

H－5号住居跡出土遺物①

H－5号住居跡出土遺物②



遺構外出土遺物①

16

17

18

19

20

21

23

24

25

22

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

遺構外出土遺物②

調査資料の取扱いについて

項　目		内　容
遺物	水洗い	出土遺物すべてについて行った。
	注記	微細片及び鉄製品を除くすべての出土遺物を対象に行った。注記にはインクジェットプリンターを使用し、遺跡コード－（地区）－遺構略号－遺構番号－遺物番号の順に記した。なお、微細片は収納ビニール袋に鉄製品は収納ケースに遺跡名・出土地点等を明記してある。
	注記略号	五代竹花遺跡……12C22 五代木福Ⅰ遺跡……12C23 五代伊勢宮Ⅰ遺跡…12C26 縄文時代住居跡……J　古墳時代、奈良・平安時代住居跡……H 土坑……D　ピット……P　溝……W　カマド……カ　グリッド……G
	接合・復元	可能な限り行った。接合にはセメダインCを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂（バイサム）を用いた。
	掲載遺物の選別	各遺構・グリッドごとに、種別・数量を記録した上で、掲載遺物を選別した。本報告書では、形態が把握できる遺物については極力掲載してある。
	実測	報告書掲載遺物についてのみ行った。実測図は基本的に1/1縮尺で作成した。また、必要に応じて拓本図を作成した。
	写真撮影	報告書掲載遺物についてのみ行い、白黒6×7判フイルムに記録した。
遺構	図面	各遺構ごとに検討を加え、一部修正を施した後に報告書使用のものについてトレース・版組を行った。また、必要に応じて遺物水平分布図・垂直分布図を作成した。
保管資料	出土遺物	報告書に使用した遺物と不使用の遺物等に分け、さらに各遺構ごとに分けて遺物収納箱もしくは専用段ボール箱に収納した。遺物収納の際には、各遺物をミナパックで梱包するなどの保護対策を講じてある。また、各遺物収納箱の小口には、遺跡名・遺構名・遺物番号（報告書掲載番号）・報告書使用の有無等を明記した。専用段ボール箱外面には収納遺物の写真を貼付してある。
	図面	遺構・遺物実測図面は、それぞれ各遺構ごとに整理し、図面ケースに収納した。
	遺構写真	白黒35㎜、白黒・カラー6×6判（空撮）、カラーリバーサル35㎜の3種類、計12冊があり、それぞれのアルバムに整理してある。各写真脇には撮影内容を明記してある。
	遺物写真	白黒6×7判、計13冊がある。各写真脇には、遺構名・遺物番号を明記してある。
	台帳	遺構図面・写真、遺物図面・写真台帳を作成してある。
	発掘調査日誌	発掘調査時の調査内容・所見等を記録してある。

抄　録

フ リ ガ ナ	ゴダイタケハナイセキ　ゴダイキフクイチイセキ　ゴダイイセミヤイチイセキ
書　　名	五代竹花遺跡　五代木福Ⅰ遺跡　五代伊勢宮Ⅰ遺跡
副 書 名	五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	齊木一敏・長井正欣・(株) 古環境研究所
編 集 機 関	山武考古学研究所　／〒286-0045　千葉県成田市並木町221番地　☎0476-24-0536
発 行 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団　／〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2　☎027-231-9531
発 行 年 月 日	西暦2001年３月16日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
五代竹花遺跡（ゴダイタケハナイセキ）	群馬県前橋市五代町（グンマケンマエバシシゴダイマチ）	10201	12C22	36°24′27″	139°06′56″	20000901 20010316	4,880㎡	五代南部工業団地及び住宅団地造成事業
五代木福Ⅰ遺跡（ゴダイキフクイチイセキ）	群馬県前橋市五代町（グンマケンマエバシシゴダイマチ）	10201	12C23	36°24′21″	139°06′52″		11,785㎡	
五代伊勢宮Ⅰ遺跡（ゴダイイセミヤイチイセキ）	群馬県前橋市五代町（グンマケンマエバシシゴダイマチ）	10201	12C26	36°24′24″	139°06′50″		3,800㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五代竹花遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中・近世	住居跡　18軒 土坑　6基 溝　4条 ピット　254基	縄文土器・石器・土師器・須恵器・墨書土器・紡錘車・鉄製品・土玉・臼玉・鉄製品・砥石・鷹編石・陶磁器	H－８号住居跡から土製小玉多量出土。
五代木福Ⅰ遺跡	集落跡 墓域	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中・近世	住居跡　55軒 土坑　23基 溝　22条 ピット　220基 砂鉄ピット　3基	縄文土器・石器・土師器・須恵器・墨書土器・灰釉陶器・瓦塔・紡錘車・土玉・臼玉・銅鈴・鉄製品・砥石・鷹編石・陶磁器・釜形土器・石臼・板碑・人骨・古銭	縄文時代前期の住居跡１軒検出。 古墳時代後期住居跡のカマドは地山を掘り残しているものがある。
五代伊勢宮Ⅰ遺跡	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代 中・近世	住居跡　6軒 土坑　2基 溝　1条 ピット　132基	縄文土器・石器・土師器・須恵器・管玉・鉄製品・鷹編石・陶磁器	H－１号住居跡のカマド焚き口部は土師器甕を組んで構築。

五代竹花遺跡
五代木福Ⅰ遺跡
五代伊勢宮Ⅰ遺跡

五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷　2001年3月9日
発行　2001年3月16日

編集　山武考古学研究所
発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL　027－231－9531
印刷　㈱文化総合企画
TEL　0476－93－0593